

法学入門(法学科1年)

Introduction to Law

日本法を学びはじめるみなさんへ

荻村 慎一郎 (OGIMURA SHINICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX006
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科1年次のみ		

授業の目標 / Course Objectives

法学諸分野の基本について、日本に加えて地球規模の視点もふまえながら学びます。

Students will learn the fundamentals of various fields of law from a global scale perspective in addition to Japan.

授業の内容 / Course Contents

基礎法学(法哲学, 法社会学, 法史学, 比較法学など)の方法論に依りつつ, 実定法学(憲法, 民法, 刑法など)の初歩を系統的に学ぶことを通じて, 履修者が自らの今後の発展的な学修のための適切な見通しを得ることをめざします。また, 専門諸科目の導入科目であることから, 普段の学修への取り組み方や試験に対する準備と心構えについても, 適宜助言する予定です。

前半は, 刑事事件を素材として, 法の制定から執行までの一連の過程を伝統的かつ実践的な仕方学修するとともに, 法学固有の思考方法の長所と短所についても検討を試みます。

後半は, 大学での学び, すなわち法的専門知識, 一般教養, 外国語能力を統合的に活用する方法を鍛えていきます。ここでは, 自動車産業に関する国内外の報道の分析が主題となります。

なお, この授業で扱う実定法系科目は以下のとおりです。

憲法, 行政法, 経済法, 刑法, 刑事訴訟法, 会社法, 労働法, 知的財産法, 商法, 民法, 民事訴訟法, 民事執行・保全法, 国際私法, 国際法, 国際経済法, 英米法, 外国法。

21 世紀は, 一流ガイドとシェルパ(経路準備兼荷上げ係)の助けを借りることで, 誰もがエベレストの山頂に立つことができる時代です。本授業では, 履修者のみなさんに, 文科系学問最高峰の高みにとにかく一度登ってもらい, 山頂からの眺望と天空のさらなる高さを体験して頂くことを目標とします(ちなみに, 担当教員の役割はシェルパとなります)。

Students shall aspire to attain the appropriate insight into their own developing studies going forward by systematically learning the elements of Positive Law (Constitution, Civil Law, Criminal Law) while relying on the methodology of Basic Law (Philosophy of Law, Sociology of Law, legal history, Comparative Legal Studies).

Moreover, because this is an introductory course for various specialized disciplines, students will receive proper counseling about how to undertake their regular studies and the preparation and mental attitude required for tests.

During the first half, students will also attempt to consider the strengths and weaknesses of the legal way of thinking while learning about the sequential process from the enactment to the execution of a law in a traditional and practical manner using criminal cases as source material.

In the second half, students will develop methods for applying the specialized legal knowledge, general education, foreign language proficiency, and other university studies in an integrated manner. The main subject here will be the analysis of foreign and domestic news reports about the global automotive industry.

Furthermore, the Positive Law related disciplines which will be addressed in this class are as follows.

Constitutional Law, Administrative Law, Economic Law, Criminal Law, Criminal Procedure Law, Corporate Law, Labor

Law, Intellectual Property Law, Commercial Law, Civil Law, Civil Procedure Law, Civil Execution Law and Civil Provisional Remedies Law, Conflict of Laws, International Law, International Economic Law, Anglo-American Law, Foreign Law.

The 21st century is an era in which anyone can stand at the peak of Mount Everest with the aid of a first-rate guide and sherpa (route preparation and equipment porters). The goal of this class is to have all students stand on the highest peak of liberal arts studies at least once and experience the view from the summit and the further height of the sky (in other words, the role of the faculty in charge is to act as the sherpa).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:授業の展望:法と法学について
- 【2】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ①:事実に接する①
- 【3】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ②:事実に接する②
- 【4】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ③:法的思考のかたちについて①
- 【5】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ④:他人の声を聴く①
- 【6】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑤:他人の声を聴く②
- 【7】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑥:法的思考のかたちについて②
- 【8】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑦:主体的に判断する①
- 【9】:裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑧:主体的に判断する②
- 【10】:中間のまとめ:法的思考とその表現方法について(学期末試験に向けて①)
- 【11】:実例を通して法学の活かし方を学ぶ①:国内法(日本)の視点から
- 【12】:実例を通して法学の活かし方を学ぶ②:外国法(米国, 中国, 欧州諸国)の視点から
- 【13】:実例を通して法学の活かし方を学ぶ③:国際法(国家間の次元)の視点から
- 【14】:全体のまとめ:法的視点とその認識方法について(学期末試験に向けて②)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教材で指示される復習・予習課題に毎回取り組みましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業への参加と取り組み:14% 授業内小テスト:6%

授業内小テストについては1回程度実施する予定です。

テキスト / Textbooks

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に〈第2版〉』弘文堂 2017 9784335313264
オリジナル教材を毎回配布します。

参考文献 / Readings

白石忠志『法律文章読本』弘文堂 2024 9784335359927
田高寛貴, 原田昌和, 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&リポート ― 法学部の学び方 第2版』有斐閣 2019 9784641126114
早川吉尚『法学入門』有斐閣 2016 9784641150324
安念潤司, 小山剛, 青井未帆, 宋戸常寿, 山本龍彦『論点日本国憲法:憲法を学ぶための基礎知識[第2版]』東京法令出版 2014 9784809063077

その他 / Others

履修に関してお困りの事がある場合は, どうかご遠慮なくご相談ください。

法学入門(その他)

Introduction to Law

早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX007
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標 / Course Objectives

これから法学を学ぼうとする初学者に、できるだけ専門用語を用いずに、法学における基本的な思考方法を修得させる。
This course helps beginning students who are about to study law master the fundamentals of legal thinking while avoiding the use of specialized terms as much as possible.

授業の内容 / Course Contents

「法学」とは何でしょうか? 「法学」を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか? 本講義は、法学部に新しく入学した皆さんとともに、この問題を考えることを第一の目的とするものです。また、そのためにも、これからの4年間を通じてどのような内容の講義が法学部専門科目として展開されることになるのか、国際ビジネス法学科、政治学科に所属する学生を主なターゲットとして、各学科の特徴や基本コンセプトの紹介も交えながら、その全貌の大まかな理解を手助けすることも目指されます。またさらに、法律系専門科目の受講の前提となる必要最小限の法的知識を提供するとともに、やはり前提となる法的思考力・法的コミュニケーション能力の基礎を形成することも目標とされます。

What is "law?" What is the significance of studying "law?" The primary objective of the lectures is to think about these problems together with other newly entered students in the College of Law and Politics. Moreover, in order to achieve that objective, this course primarily targets students belonging to the Department of International Business Law and the Department of Politics with the goal of helping them achieve a general understanding of the full scope of lectures which will be available over the next four years as specialized subjects within the College of Law and Politics while blending in the characteristics of each field of study and introducing basic concepts. In addition, this course after all also aims to build a foundation for the prerequisite legal ability to think critically and legal communication skills while providing the absolute minimum level of legal knowledge required to take specialized law-related subjects.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 法学を学ぶ意味はどこにあるのか?
- 【2】: 法学とは何か?
- 【3】: 法とは何か?
- 【4】: 法解釈とは何か?
- 【5】: 法学の分野にはどのようなものがあるのか?
- 【6】: 法はどのように適用されるのか?
- 【7】: 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう①
- 【8】: 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう②
- 【9】: 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう③
- 【10】: 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう④
- 【11】: 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう⑤
- 【12】: 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう⑥

- 【13】:法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう⑦
- 【14】:総 括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教員と学生の間での質疑・応答を交えながら講義を進めます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

早川吉尚『法学入門』有斐閣 2016 9784641150324

その他, 講義の度に資料を配布します。なお, 六法は必ず用意してください。

参考文献 / Readings

道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門』(有斐閣)

政治学入門(法学科1年)

Introduction to Political Science

～「デモクラシー」について考える～

一ノ瀬 佳也 (ICHINOSE YOSHIYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX008
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科1年次のみ		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、政治学の基礎的な用語と概念を学ぶことによって、権力や社会構造を理解できるようになることを目標とする。

The main objective of this lecture is that students are able to understand ‘Power’ and ‘Social structures’ by learning some basic terminologies and concepts of Political Science.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、これから「政治学」を学ぶ学生が受講する入門編として位置づけられる。そのため、「政治」に関する基本的な概念や用語から学ぶことになる。

こうした政治の基礎的な概念や用語を学びながらも、それらが具体的な制度にどのように反映されているのかを明らかにしていく。加えて、主権者として持つ公共性についても議論していく。

本講義のスケジュールは受講生の理解に合わせて調節されることになる。また、講師は、受講生の意見になるべく耳を傾けるように努力する。

This lecture is regarded as an introduction for students who will study “Political Science” from now on. So, students will learn from some basic concepts and terminologies in “political Science”.

And students will be able to understand how these concepts and terminologies are reflected in specific systems in our state. Furthermore, we will discuss with publicness that individuals hold as sovereign in Democracy.

The schedule of this lecture will be adjusted according to student’s efforts. Lecturer will make effort to hear student’s opinions as much as possible.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:政治学とは何か
- 【3】:近代国家と統治機構
- 【4】:権力と支配
- 【5】:政治的リーダーシップとエリート論
- 【6】:政治意識と公共性
- 【7】:議会主義の発展
- 【8】:デモクラシーと平等主義の理論
- 【9】:前半のまとめ
- 【10】:政治システム論と政党システム論
- 【11】:国際関係と国民国家
- 【12】:日本の政治一明治維新から WW II まで

【13】:日本の政治ーWWⅡから80年代まで

【14】:後半のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業の内容に関連する小テストを数回行う。(学生の理解度を確認するものであるため、成績評価には直接関係ありません。)

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の講義において指示された箇所を予習してきてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

特には指定しない。毎回のレジュメにおいて、関連文献を紹介する。

参考文献 / Readings

高島通敏『政治学の道案内』講談社学術文庫 2012 9784062921107
荻部直・宇野重規・中本義彦編『政治学をつかむ』有斐閣 2011 9784641177154
川出良枝、谷口将紀『政治学』(2版) 東京大学出版会 2022 9784130322355
佐々木毅『政治学講義』(2版) 東京大学出版会 2012 9784130322225
宇野重規『民主主義とは何か』講談社現代新書 2020 9784065212950
阿部齊『政治学入門』岩波書店 1996 9784000260015
川崎修・杉田敦『現代政治理論』有斐閣アルマ 2023 9784641222205

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

入門編の授業なので、予め特別に専門知識を求めるわけではないが、新聞等を読むことで、世界や国内でおきている事柄や事件に積極的に関心を持つことが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に関する連絡や資料の配布、小テストについては、授業支援システムである「Canvas LMS」を用いて行われる。そのため、このシステムにアクセスし、その内容を確認できる機器を持つことが必要となる。

政治学入門(その他)

Introduction to Political Science

主権者であるということ

鈴木 絢女(SUZUKI AYAME)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX009
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標 / Course Objectives

1. 政治、国家、政府、民主主義、権力、自由などの基本概念を理解する
2. 政治現象を説明・理解するためのレンズを理解し、自分なりに現象を説明することができる
3. 政治の当事者であることを認識する
4. 民主主義の歴史的展開を理解し、自由と参加を拡大する方途を考える

By the end of the semester, students are expected to:

- 1) understand the basic concepts such as politics, state, government, democracy, power and freedom;
- 2) be equipped with paradigms of political science;
- 3) recognize themselves as stakeholders in politics;
- 4) trace the historical trajectory of democracy and envision themselves as agents for a greater participation and freedom.

授業の内容 / Course Contents

2-3 回の授業では、古代以降の民主主義の歴史を学びます。今日私たちが享受している参加や自由が、どのような闘争のなかで勝ち取られてきたのか、また、そのような闘争の帰結として作られた現代の民主主義がどのような課題に直面しているのかを理解します。さらに、履修者の皆さんには、民主主義は理想的な統治形態なのか、それはなぜかを考えてもらおうとともに、主権者としての役割をあらためて認識してもらいたいと思います。

4-10 回は、「政治」「権力」「国家」「戦略的相互作用」などの政治学の基本概念や、政治現象を説明・理解するためのレンズを学びます。また、国家がなぜ必要なのかを原理的に考えたうえで、歴史的に観察できる多様な国家について学びます。そのうえで、国家が国民の福祉のために働くには、どのような仕組みが必要かを考えます。具体的には、選挙、政府、政権、政策過程について学びます。11 回の授業では、各国・地域で異なる政治文化や価値に焦点を当て、このような意識の違いが、政治的な行動やひいては政治体制にどのような影響を与えるのかを学びます。

12-13 回は、国際政治学の入り口となります。国内社会と国際社会の違いは何か、そもそも国際「社会」は存在するのか、また、そのような社会のアクターやルールは一体どのようなものを学びます。

最終回では、「民主主義は理想的な統治形態なのか、それはなぜか」という問いに、あらためて答えてもらいます。

授業は講義形式で提供されますが、授業中にアンケートや課題文の読解、オンライン学習ツールを用いたディスカッションを行うことで、できるだけ双方向のコミュニケーションを実現したいと思います。

The classes will be provided in a lecture format, but surveys and discussions through online learning system will be employed during the classes to make the lecture more interactive.

In this course, we trace the history of democracy and understand how people have struggled to win popular participation and freedom that we enjoy today. We also discuss the challenges facing the modern democracies. In these

classes, students will be posed the following questions: is democracy the best form of government, and if so, why? From sessions 4 to 10, we will learn about the basic concepts of political science such as 'politics', 'power', 'state', and 'strategic interaction', as well as lenses for explaining and understanding political phenomena. We will also think about why states are necessary and learn about the diverse forms of states that can be observed historically. Then, we will consider what mechanisms are necessary for states to work for the enhancement of citizens' welfare. Specifically, we will learn about elections, governments, administrations, and the policy process. In session 11, we will focus on different political cultures and values in various countries and regions, and learn how such differences affect political actions and, consequently, political systems.

Sessions 12 and 13 will serve as an introduction to international politics. We will explore what distinguishes domestic societies from international societies; and whether there is an international 'society' at all.

In the final session, we will once again consider the question, 'Is democracy an ideal form of government, and why?'"

授業計画 / Course Schedule

【1】:「イントロダクション:政治学の対象はなにか?」

半期の授業の鳥瞰図を示しながら、授業のねらいや進め方、目標、成績評価の仕方などを履修者と共有します。また、「民主主義は理想的な政治システムなのか、それともそれ以外のシステムの方が国民の厚生が高くなるのか」といった問題について、アンケートを行います。半期の授業が終わった時に、あらためて同じアンケートをとり、半年間で意見や考え方がどう変わったのかを確かめたいと思います。

【2】:「民主主義の歴史的な展開を辿る(1):参加と自由はどう獲得されてきたのか」

権利の章典や人権宣言、ドイツ共和国憲法、国連憲章など、民主主義の展開にとって重要な文書(和訳)を読みながら、古代から現代にいたる自由民主主義の生成と変容過程をたどります。

【3】:「民主主義の歴史的な展開を辿る(2):現代民主主義の課題は何か?」

普通選挙と基本的自由が規範となった現代でも、民主主義システムへの修正要求は続いています。今日の民主主義をめぐる闘争のフロンティアについて、事例研究をつづじて考えます。

【4】:「権力とは何か?:基本的なレンズを学ぶ」

「政治」や「権力」の定義について学びます。そのうえで、様々な政治現象を分析するためのツールを紹介します。

【5】:「戦略的相互作用とは何か?: 合理的なアクターの行動とその帰結を説明する」

合理的なアクターの相互作用として政治を見る見方を学びます。

【6】:「国家(1):なぜ国家が必要なのか?」

なぜ国家が必要なのか、国家は他の組織とどう違うのか、歴史的に国家がどのように作られてきたのかを学びます。

【7】:「国家(2):国家は何を提供するか?」

国家はその資源と強制力を使って、経済開発や分配・再分配など、さまざまな役割を果たしてきました。この回では、開発志向国家や福祉国家など、歴史的に観察される国家について学びます。

【8】:「選挙、政府、政権(1):自らの代表の選び方」

国家を動かす政府や政権、そして政府を構成するための選挙について学びます。

【9】:「選挙、政府、政権(2):国家を自らの福祉のために働かせる」

国家が国民の福祉のために働くようにするには、どのような仕組みが必要なのかを考えます。

【10】:「政策過程」

政策が作られる過程を分析するツールを紹介します。

【11】:「政治文化、価値」

文化や価値観は、政治的なアクターの利益や行動に影響します。この回では、世論調査の結果などを見ながら、政治文化や価値が国家のあり方に与える影響について考えます。

【12】:「国際政治(1):国内社会と国際社会の違い」

国際社会には、強制力を持つ「世界政府」はありません。国際社会の特徴を学ぶことで、国際政治と国内政治の違いを理解します。

【13】:「国際政治(2):国際政治学のパラダイムを学ぶ」

国際政治を分析する基本的なツールを紹介しながら、21世紀の国際政治の課題について考えます。

【14】:「まとめ:主権者であるということ」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Canvas LMS のアンケート・小テスト機能やディスカッション機能を用いて、授業前・授業中に履修者からのインプットを求

めます。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示された課題への回答。

課題は、第1回、3回、9回、13回の授業時に指示する予定です。変更がある場合は Canvas LMS を通じて事前に周知します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業中のアンケート回答:10% 課題:20%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは指定しません。講義で参考文献を紹介します。

参考文献 / Readings

砂原庸介・稗田健志・多湖淳 『政治学の第一歩(新版)』 有斐閣ストゥディア 2020 9784641150782

飯田健・松林哲也・大村華子 『政治行動論：有権者は政治を変えられるのか』 有斐閣ストゥディア 2015
9784641150294

宇野重規 『民主主義とは何か』 講談社新書 2020 9784065212950

民法概論(9月入学者向け)

Overview of Civil Law

藤澤 治奈 (FUJISAWA HARUNA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX010
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	下記の日時の午前 0 時に動画を配信。 同日の午後 17 時に、Zoom による質問・相談タイムを設ける。 第 1 回:9 月 23 日 第 2 回:9 月 25 日 第 3 回:9 月 30 日 第 4 回:10 月 2 日 第 5 回:10 月 7 日 第 6 回:10 月 9 日 第 7 回:10 月 14 日 第 8 回:10 月 16 日 第 9 回:10 月 21 日 第 10 回:10 月 23 日 第 11 回:10 月 28 日 第 12 回:10 月 30 日 第 13 回:11 月 11 日 第 14 回:11 月 13 日 第 15 回:11 月 18 日 第 16 回:11 月 20 日 第 17 回:11 月 27 日 第 18 回:12 月 2 日 第 19 回:12 月 4 日 第 20 回:12 月 9 日 第 21 回:12 月 11 日 第 22 回:12 月 16 日 第 23 回:12 月 18 日 第 24 回:12 月 23 日 第 25 回:1 月 8 日 第 26 回:1 月 13 日 第 27 回:1 月 15 日 第 28 回:1 月 20 日
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2025 年度 9 月入学の国際ビジネス法学科グローバルコース 1 年次生のみ。 「民法概論」と「民法(1)」は 2025 年度から同一科目に準ずる科目となるため、単位を修得できる科目はどちらか一方のみとなる。2024 年度末までに一方の科目の単位を修得している		

場合、2025 年度以降はもう一方の科目を履修することはできないので注意すること。

授業の目標 / Course Objectives

民法について基礎的な理解を得ることを目標とします。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of Japanese civil law.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、政治学科および国際ビジネス法学科(2022 年度以降入学者)向けの授業です。民法全体について、基礎的な講義を行います。ただし、家族法(親族・相続)については、扱いません。

この授業を履修した者は、この授業の内容をふまえて、商法、民事訴訟法、労働法、経済法、知的財産法等の発展的な科目を履修することができます。資格試験対策等の理由から、さらに詳しく民法を学びたい者は、2 年次以降に、民法(2)、民法(3)、民法(4)、金融取引法 1 を履修しましょう。なお、この授業を履修した者が、民法(1)を履修することはできませんので、注意して下さい。

This course is intended for students admitted to the Department of Politics or the Department of International Business Law in or after the academic year 2022. The classes will consist of fundamental lectures about civil law in general, except that family law (i.e., relatives and inheritance) will not be covered.

Students who have taken this course will be able to take more advanced courses in law, such as courses in commercial law, civil procedure law, labor law, economic law, and intellectual property law, based on what they have learned from this course. Students who wish to learn more details about civil law in order to prepare for qualifying or certification exams are encouraged to take Civil Law (2), Civil Law (3), Civil Law (4), and Law of Financial Transactions 1, in their second and subsequent years. Please note that students who have taken this course may not take Civil Law (1).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 民法総則(1)
- 【3】: 民法総則(2)
- 【4】: 民法総則(3)
- 【5】: 民法総則(4)
- 【6】: 民法総則(5)
- 【7】: 民法総則(6)
- 【8】: 民法総則(7)
- 【9】: 民法総則(8)
- 【10】: 民法総則(9)
- 【11】: 民法総則(10)
- 【12】: 物権(1)
- 【13】: 物権(2)
- 【14】: 物権(3)
- 【15】: 契約(1)
- 【16】: 契約(2)
- 【17】: 契約(3)
- 【18】: 契約(4)
- 【19】: 契約(5)
- 【20】: 契約(6)
- 【21】: 契約(7)
- 【22】: 契約(8)
- 【23】: 不法行為(1)
- 【24】: 不法行為(2)
- 【25】: 債権回収(1)
- 【26】: 債権回収(2)
- 【27】: まとめ(1)
- 【28】: まとめ(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、予習範囲を指示するので、教科書の該当部分を読んでから授業に臨んでください(毎回約 2 時間)。また、小テストに備えて、各授業後に復習をしてください(毎回約 2 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト(1 回につき 10%～15%で複数回実施):100%

テキスト / Textbooks

道垣内弘人 『リーガルベシス民法入門〔第 5 版〕』 日本経済新聞社 2024 9784296118397

道垣内弘人 『プレップ法学を学ぶ前に〔第 2 版〕』 弘文堂 2017 9784335313264

授業には六法を持参してください。

参考文献 / Readings

原田昌和・寺川永・吉永一行 『民法総則〔第 2 版〕(日評ベーシック・シリーズ)』 日本評論社 2022 9784535806948

山本敬三・香川崇・竹中悟人・山城一真 『有斐閣ストゥディア民法 1 総則』 有斐閣 2021 9784641150089

上記以外にも授業中、適宜指示します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業にて使用する資料は Canvas LMS を通じて配布します。また、授業の動画を視聴するために、動画を再生することができるインターネット環境および機器が必要です。

その他 / Others

<授業形態>

パワーポイントを使用した講義形式の授業です。

<フィードバック>

小テストのフィードバックを CanvasLMS を通じて行います。

注意事項

2025 年度9月入学の国際ビジネス法学科グローバルコース1年次生のみ

注意事項(検索結果画面)

2025 年度9月入学の国際ビジネス法学科グローバルコース1年次生のみ

民法(1) (3 学科 2 年以上)

Civil Law (1)

民法総則、物権

原田 昌和(HARADA MASAKAZU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX014
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法1) 3 学科 2 年次以上。 休学していた学生で、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。法曹コースへの出願資格は履修要項を参照すること。 「民法概論」と「民法(1)」は2025 年度から同一科目に準ずる科目となるため、単位を修得できる科目はどちらか一方のみとなる。2024 年度末までに一方の科目の単位を修得している場合、2025 年度以降はもう一方の科目を履修することはできないので注意すること。		

授業の目標 / Course Objectives

民法総則、物権(担保物権を除く)について基本的な理解を得る。

The objective of this course is to obtain a basic understanding of the general provisions and property law (excluding security law) of the Civil Code.

授業の内容 / Course Contents

民法第一編の定める「民法総則」および第二編の定める「物権」(担保物権を除く)を扱う。とくに民法総則には、民法全体に関わる基本的なルールが抽象的に定められているため、当該条文がどのような場面で使われるのかが非常に分かりにくい。そこで本講義では、民法(2)以降で学習する事柄についての解説も必要に応じて行い、「使える知識」の修得を目指す。講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、ケースを多用し、答案の書き方についての説明も交えながら、解説する。

The course will cover the general provisions in Part I and the law of property (excluding the law of security) in Part II of the Civil Code. Although there are a large number of issues that need to be explained, the class will not necessarily cover all of them because of the limited class time. However, summaries and PowerPoint will be used to explain, keeping in mind the importance of a clear picture.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:序説(債権と物権の違いなど)
- 【2】:意思表示, 法律行為, 契約の成立、心裡留保
- 【3】:通謀虚偽表示、94 条 2 項類推適用
- 【4】:錯誤、詐欺、強迫
- 【5】:代理 1
- 【6】:代理 2
- 【7】:代理 3
- 【8】:無権代理、表見代理 1
- 【9】:表見代理 2
- 【10】:権利能力、未成年、成年後見制度 1

- 【11】:成年後見制度 2
- 【12】:法人
- 【13】:権利能力なき社団
- 【14】:物、契約の解釈
- 【15】:法律行為の有効要件、条件、期限
- 【16】:時効総説
- 【17】:消滅時効 1
- 【18】:消滅時効 2
- 【19】:取得時効 1
- 【20】:取得時効 2
- 【21】:民法の基本原則
- 【22】:不動産の物権変動 1
- 【23】:不動産の物権変動 2
- 【24】:動産の物権変動
- 【25】:即時取得
- 【26】:物権的請求権
- 【27】:占有権
- 【28】:共有、用益物権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の学習に関しては教科書を用いた予習、教科書及びレジュメを用いた復習を行うこと。図書館で、他の教科書などを参考にすることも推奨される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内での小テスト:20%

テキスト / Textbooks

原田昌和・寺川永・吉永一行『民法総則(第2版)』日本評論社 2022 9784535806948

原田昌和・秋山靖浩・山口敬介『民法①総則 判例 30!(第2版)』有斐閣 2025

参考文献 / Readings

その他 / Others

レジュメは事前に Canvas LMS 上に掲載するので各人で準備すること。授業では、受講生に条文を読んでもらうことがあるため、必ず六法を持参すること。カードリーダーで出席を取るので学生証を忘れないこと。

注意事項

(旧科目名:民法1)

休学していた学生で、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。法曹コースへの出願資格は履修要項を参照すること。

注意事項(検索結果画面)

(旧科目名:民法1)

休学していた学生で、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。法曹コースへの出願資格は履修要項を参照すること。

憲法(1)(法学科1年)

Constitutional Law (1)

現代人権論の諸相

原田 一明 (HARADA KAZUAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX015
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科1年次のみ		

授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法が定める権利保障規定の意味と内容について、基本的な憲法判例に留意しつつ、理解することを目標とする。

The objective of this course is to understand the meaning and content of the provisions established by Japanese Constitutional Law which guarantees rights while considering fundamental constitutional precedents.

授業の内容 / Course Contents

講義では、個別的権利の解説から始め、人権総論などの抽象的な論点については、理解が進んでから講義する。また、本年度はテキストは用いず、毎回、事前に Canvas LMS にアップしたレジュメに沿って授業を行う。

The lectures will start from an explanation of individual rights and proceed with the lecture on general human rights and other abstract arguments once an understanding has been achieved. Moreover, a textbook will not be used during this academic year, and instead the classes will be conducted according to an outline uploaded in advance to Canvas LMS.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 思想・良心の自由
- 【3】: 信仰の自由と政教分離
- 【4】: 表現の自由(1)
- 【5】: 表現の自由(2): わいせつ表現規制
- 【6】: 表現の自由(3): 名誉の保護と表現の自由・営利的言論
- 【7】: 表現の自由(4): 内容中立規制
- 【8】: 表現の自由(5): 報道・取材の自由と放送の自由
- 【9】: 集会の自由
- 【10】: 結社の自由
- 【11】: 職業の自由と営業の自由
- 【12】: 財産権の保障(1): 憲法 29 条1項・2項
- 【13】: 財産権の保障(2): 公用収用・正当な補償
- 【14】: 居住・移転の自由
- 【15】: 家族生活の保護
- 【16】: 通信の秘密
- 【17】: 生存権
- 【18】: 教育を受ける権利
- 【19】: 労働基本権(+公務員の政治活動の自由)

- 【20】: 人身の自由: 憲法的刑事手続
- 【21】: 新しい人権 (包括的基本権)
- 【22】: 法の下での平等(1)
- 【23】: 法の下での平等 (2)
- 【24】: 人権の享有主体 (1): 天皇皇族・未成年者
- 【25】: 人権の享有主体 (2): 外国人・法人
- 【26】: 人権の保障範囲: 私人相互間の法的関係
- 【27】: 「公共の福祉」論
- 【28】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド (パワーポイント等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

初回の講義後、適宜次週の講義に向けての課題を指示するので事前に予習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

芦部信喜 (高橋和之補訂) 『憲法 第 8 版』岩波書店 2023 年 9784000616072

憲法(1)(その他)

Constitutional Law (1)
人権論の現代的解釈

玉蟲 由樹(TAMAMUSHI YUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX016
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標 / Course Objectives

憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明できるとともに、人権問題に関する実践的な議論ができる能力を養成することを目標とします。18 歳選挙権が実現した今日、目の前の政治課題の問題と自由・権利との関係を理解し正しい政治判断をするために、人権保障の現代的内容を修得します。憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるための知識と技能の修得を目指します。

In this lecture, the goal is to understand the nature of constitutional rights, explain the fundamental human rights stipulated in the Constitution of Japan, and develop the ability to engage in practical discussions on human rights issues. With the implementation of voting rights for 18-year-olds, it is essential to acquire knowledge of contemporary human rights protections to understand the relationship between current political issues and freedoms and rights, enabling sound political judgment. This course aims to provide an overview of the systems established by the Constitution and laws, explain major legal theories and precedents, and equip students with the knowledge and skills necessary to evaluate these from a legal perspective.

授業の内容 / Course Contents

憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。憲法を学修するにあたり、この講義では、主に国民が憲法上保障されている権利(基本的人権)をテーマとします。日本国憲法は一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目して現在の日本国憲法の姿を示していきます。

The Constitution of Japan is Japan's supreme law, defining the structure and functions of government as well as the framework for the protection of rights. In studying the Constitution, this lecture will primarily focus on the rights guaranteed to the people under constitutional law (fundamental human rights). Although the Constitution of Japan has never been amended, its interpretation has dynamically evolved over time. This lecture will examine these changes and present the current state of the Japanese Constitution.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 憲法とは何か

憲法という法が、どのような特徴をもち、何を目的として制定される法であるのかを概説する。

【2】: 基本的人権の歴史

基本的人権の歴史的展開について、人権思想、権利内容の変遷を中心に論じる。

【3】: 基本的人権の主体

基本的人権の主体ないし人的保護領域に関する議論を、国民、外国人、法人を例としながら論じる。

【4】: 基本的人権の制限と正当化

基本的人権の制限とその正当化にかかわる議論を、公共の福祉論、比較衡量論、二重の基準論、比例原則審査論など

を紹介しながら論じる。

【5】: 思想・良心の自由 (1) 思想・良心の自由の保護領域

日本国憲法 19 条が保障する思想・良心の自由の意義および保護領域に関する議論を紹介する。

【6】: 思想・良心の自由 (2) 思想・良心の自由と行為強制

一連の君が代・日の丸裁判で新たに議論されるようになった「望まぬ行為の強制」と思想・良心の自由への間接的制約の問題を論じる。

【7】: 信教の自由と政教分離原則 (1) 信教の自由

日本国憲法 20 条が保障する信教の自由の意義や保護領域、制約事例について、主要判例の展開も含めて論じる。

【8】: 信教の自由と政教分離原則 (2) 政教分離原則

日本国憲法 20 条および 89 条が定める政教分離原則について、意義および内容を論じるとともに政教分離原則違反が問題とされた事例を紹介する。

【9】: 学問の自由

日本国憲法 23 条が定める学問の自由および大学の自治について概観する。

【10】: 表現の自由 (1) 表現の自由の保護領域

日本国憲法 21 条が定める表現の自由の意義と保護領域について、古典的表現の自由から知る権利を含めた現代的な表現の自由への展開を含めて論じる。

【11】: 表現の自由 (2) 表現の自由の制約と正当化

表現の自由に対する多様な制約類型を整理し、それぞれについての正当化論証を、主要判例の展開も含めて論じる。

【12】: 集会・結社の自由

日本国憲法 21 条が保障する集会・結社の自由について、保護領域、制約の正当化を中心に、主要判例の展開も含めて論じる。

【13】: 職業の自由 (1) 職業の自由の保護領域

日本国憲法 22 条が保障する職業の自由について、その意義と保護領域を概観する。

【14】: 職業の自由 (2) 職業の自由の制約と正当化

制約態様や規制目的による正当化論証の切り分け論も踏まえて、職業の自由に対する制約事例を、主要判例の展開も含めて論じる。

【15】: 財産権 (1) 財産権の保護領域と立法者による内容形成

日本国憲法 29 条が保障する財産権について、保護領域と立法者による内容形成との関係性を中心に論じる。

【16】: 財産権 (2) 財産権制約と正当化

財産権に対する制約類型(公用収用を含む)を踏まえて、それぞれの類型における違憲審査のあり方を論じる。

【17】: 身体の自由 (1) 適正手続保障

日本国憲法 31 条が定める刑事手続に関する原則規定の解釈のあり方を論じる。

【18】: 身体の自由 (2) 身体の自由各論

日本国憲法 33 条以下で定められた具体的な刑事手続に関する権利保障を概観する。

【19】: 参政権 (1) 選挙権の意義と射程

日本国憲法 15 条が保障する選挙権を中心に、政治参加のための権利保障について概観する。

【20】: 参政権 (2) 議員定数不均衡

選挙の正当性・有効性を阻害する原因となる議員定数の不均衡という問題について、判例の展開も含めて論じる。

【21】: 受益権・国務請求権

請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権について、その制度依存的な特徴を含めて論じる。

【22】: 生存権 (1) 生存権の法的性格

日本国憲法 25 条が定める生存権について、その法的性格をめぐる議論を紹介し、生存権保障の特殊性を論じる。

【23】: 生存権 (2) 生存権訴訟の行方

堀木・朝日の両訴訟をはじめとして、近年の老齢加算廃止違憲訴訟などの展開を踏まえて、生存権訴訟の可能性について論じる。

【24】: 教育を受ける権利・労働三権

教育を受ける権利と労働三権について、具体的な事例を含めて論じる。

【25】: 個人の尊重・幸福追求権 (1) 幸福追求権の保護領域

日本国憲法 13 条が定める個人の尊重と幸福追求権について、その意義および保護領域に関する議論を論じる。

【26】: 個人の尊重・幸福追求権 (2) 新しい人権

日本国憲法には明文で保障されていない権利をどのように承認するかについての議論を、前回講義で説明した幸福追求権の保護領域との関係で論じる。

【27】: 法の下での平等 (1) 平等概念

絶対的/相対的平等、形式的/実質的平等といった平等概念と、日本国憲法 14 条後段列举事由の解釈について論じる。

【28】: 法の下での平等 (2) 平等原則と違憲審査

前回講義で説明した 14 条後段列举事由の解釈を踏まえて，平等原則違反が問題となった具体的事例を挙げながら，平等原則違反に関する違憲審査のあり方を論じる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義後に確認項目および次週の講義のための予習項目を指示するので，各自でそれらの項目を自習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

武居一正(編著)『基礎からわかる憲法(第3版)』嵯峨野書院 2020 9784782306024

参考文献 / Readings

渋谷秀樹(編著)『憲法判例集(第12版)』有斐閣 2022 9784641091610

憲法(2) (法曹コース)

Constitutional Law (2)

原田 一明 (HARADA KAZUAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX017
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

憲法学の体系のうち、講学上の「統治機構論」に該当する領域について、正確な理解を得る。判例・学説の蓄積を資源として、自ら問題を把握し、説得力ある議論を展開する能力を涵養することが、期待される。

The objective of this course is to achieve an accurate understanding of the area concerning “governmental mechanisms” within the system of Constitutional Law. Students are expected to understand problems on their own and cultivate the ability to develop persuasive arguments using the accumulated judicial precedents and theories as resources.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法が定める統治機構の全体設計への視点が疎かにならないよう意を用いつつ、個々の裁判例、学説間の対立が、いかなる具体的な問題について議論を重ねてきたか、丁寧に講述する。具体的な解釈論と関連性を有する範囲で、抽象度の高い理論的な問題にも立ち入るが、両者の間の連関は常に意識して講義を進める。適宜、比較法的な指摘も織り交ぜていきたいと考えている。

The classes will lecture about how individual court precedents and the debates between opposing theories have been discussing any specific problems while taking care not to neglect a perspective of the overall design of government institutions established by Japanese Constitutional Law. The classes will also cover highly abstract theoretical problems within a scope of specific interpretation and relevance but proceed while always keeping in mind the linkages between the two. Comparative law will also be interwoven to highlight certain aspects when appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入(1): 主権・権力分立
- 【2】: 導入(2): デモクラシー
- 【3】: 国会(1): 選挙制度
- 【4】: 国会(2): 二院制
- 【5】: 国会(3): 国会議員
- 【6】: 議会による行政統制
- 【7】: 議院内閣制
- 【8】: 内閣制度・独立行政委員会
- 【9】: 安全保障
- 【10】: 司法(1): 裁判官制度と司法権の独立
- 【11】: 司法(2): 違憲審査制
- 【12】: 地方自治
- 【13】: 財政
- 【14】: 憲法改正問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

初回講義後、次回に向けての予習範囲を毎回指示するので、事前に予習すること。

その他、授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

笹田栄司・原田一明ほか 『トピックからはじめる統治制度』(第3版) 有斐閣 2025 9784641228818

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義形式が中心となる。

資料の配布のために Canvas LMS を使用する。

憲法(2) (法学科2年)

Constitutional Law (2)

原田 一明 (HARADA KAZUAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX018
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科2年次のみ		

授業の目標 / Course Objectives

憲法学の体系のうち、講学上の「統治機構論」に該当する領域について、正確な理解を得る。判例・学説の蓄積を資源として、自ら問題を把握し、説得力ある議論を展開する能力を涵養することが、期待される。

The objective of this course is to achieve an accurate understanding of the area concerning “governmental mechanisms” within the system of Constitutional Law. Students are expected to understand problems on their own and cultivate the ability to develop persuasive arguments using the accumulated judicial precedents and theories as resources.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法が定める統治機構の全体設計への視点が疎かにならないよう意を用いつつ、個々の裁判例、学説間の対立が、いかなる具体的な問題について議論を重ねてきたか、丁寧に講述する。具体的な解釈論と関連性を有する範囲で、抽象度の高い理論的な問題にも立ち入るが、両者の間の連関は常に意識して講義を進める。適宜、比較法的な指摘も織り交ぜていきたいと考えている。

The classes will lecture about how individual court precedents and the debates between opposing theories have been discussing any specific problems while taking care not to neglect a perspective of the overall design of government institutions established by Japanese Constitutional Law. The classes will also cover highly abstract theoretical problems within a scope of specific interpretation and relevance but proceed while always keeping in mind the linkages between the two. Comparative law will also be interwoven to highlight certain aspects when appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入(1): 主権・権力分立
- 【2】: 導入(2): デモクラシー
- 【3】: 国会(1): 選挙制度
- 【4】: 国会(2): 二院制
- 【5】: 国会(3): 国会議員
- 【6】: 議会による行政統制
- 【7】: 議院内閣制
- 【8】: 内閣制度・独立行政委員会
- 【9】: 安全保障
- 【10】: 司法(1): 裁判官制度と司法権の独立
- 【11】: 司法(2): 違憲審査制
- 【12】: 地方自治
- 【13】: 財政
- 【14】: 憲法改正問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

初回講義後、次回に向けての予習範囲を毎回指示するので、事前に予習すること。

その他、授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

笹田栄司・原田一明ほか『トピックからはじめる統治制度』(第3版) 有斐閣 2025 9784641228818

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義形式が中心となる。

資料の配布のために Canvas LMS を使用する。

憲法(2)(その他)

Constitutional Law (2)

総論・統治機構

大石 和彦(OOISHI KAZUHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX019
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科3年次以上, 国際ビジネス法学科2年次以上,政治学科2年次以上		

授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法のうち、いわゆる「三権」を中心とする部分につき理解する。

To understand the parts of the Japanese Constitution covering the so-called “Three Powers.”

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法のうち、いわゆる「三権」を中心とする部分につき、歴史的背景や判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

In this course a general lecture will be given the parts of the Japanese Constitution covering the so-called “Three Powers” while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:「憲法」とは何か？
- 【2】:近代立憲主義
- 【3】:国会(1):議員
- 【4】:国会(2):両院制
- 【5】:国会(3):国会の権限
- 【6】:国会(4):会期・その他
- 【7】:これまでの補遺またはまとめ
- 【8】:内閣(1):議院内閣制
- 【9】:内閣(2):内閣の構成
- 【10】:内閣(3):内閣の権限・その他
- 【11】:裁判所(1):裁判所の構成・審級制
- 【12】:裁判所(2):裁判所の権限
- 【13】:その他の論点
- 【14】:全体の補遺またはまとめ(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

折に触れ、下掲テキスト及び参考文献の対応箇所を読むと、さらに学習効果が高まるであろう。予習しなくても理解できるよう授業を行うので、予習よりは復習に注力いただきたいが、まずは何といたっても授業に集中いただき、ノートをとっていただくことが肝要である。憲法は、それぞれの国の社会を動かす基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

Canvas LMS の本科目 ページに順次掲載する担当教員 自作教材により授業進行するため、市販のテキストを購入することは必須ではない。

参考文献 / Readings

芦部信喜・高橋和之補訂『憲法(第8版)』岩波書店 2023 9784000616072

渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法2 統治(第8版)』(有斐閣アルマ) 有斐閣 2022 9784641221888

渡辺康行・宋戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』日本評論社 2020 9784535524798

立教大学図書館には憲法関係の蔵書が豊富にあるので、そうした書籍にも触れていただくと、より学習効果が高まるであろう。それらを利用できる資格と時間がある今、それらを利用しないというのは、実にもったいないことである。そのうち当代我が国における代表的な憲法テキストで、国家試験受験者に最も読まれてきたものが上掲1、より読みやすいが内容的に水準が高いものとしては2、人権と統治の2巻に分かれた書物で2より詳細なものとしては3がある。

なお、法律書は最新版を用いることが肝要である。上掲はいずれもシラバス執筆時点での最新版をあげたが、今後最新版が出た場合は授業席上注意喚起する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

「国」と呼ばれるものへの関心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回教室に持参するまでの必要はないが、ネット検索できる端末を利用できる環境にあることが望ましい。

民法概論

Overview of Civil Law

藤澤 治奈 (FUJISAWA HARUNA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX020
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2022 年度以降入学の国際ビジネス法学科全学年、政治学科生全学年。 国際ビジネス法学科・政治学科 1 年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。 「民法概論」と「民法(1)」は 2025 年度から同一科目に準ずる科目となるため、単位を修得できる科目はどちらか一方のみとなる。2024 年度末までに一方の科目の単位を修得している場合、2025 年度以降はもう一方の科目を履修することはできないので注意すること。		

授業の目標 / Course Objectives

民法について基礎的な理解を得ることを目標とします。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of Japanese civil law.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、政治学科および国際ビジネス法学科(2022 年度以降入学者)向けの授業です。民法全体について、基礎的な講義を行います。ただし、家族法(親族・相続)については、扱いません。

この授業を履修した者は、この授業の内容をふまえて、商法、民事訴訟法、労働法、経済法、知的財産法等の発展的な科目を履修することができます。資格試験対策等の理由から、さらに詳しく民法を学びたい者は、2 年次以降に、民法(2)、民法(3)、民法(4)、金融取引法 1 を履修しましょう。なお、この授業を履修した者が、民法(1)を履修することはできませんので、注意して下さい。

This course is intended for students admitted to the Department of Politics or the Department of International Business Law in or after the academic year 2022. The classes will consist of fundamental lectures about civil law in general, except that family law (i.e., relatives and inheritance) will not be covered.

Students who have taken this course will be able to take more advanced courses in law, such as courses in commercial law, civil procedure law, labor law, economic law, and intellectual property law, based on what they have learned from this course. Students who wish to learn more details about civil law in order to prepare for qualifying or certification exams are encouraged to take Civil Law (2), Civil Law (3), Civil Law (4), and Law of Financial Transactions 1, in their second and subsequent years. Please note that students who have taken this course may not take Civil Law (1).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 民法総則(1)
- 【3】: 民法総則(2)
- 【4】: 民法総則(3)
- 【5】: 民法総則(4)
- 【6】: 民法総則(5)
- 【7】: 民法総則(6)
- 【8】: 民法総則(7)

- 【9】: 民法総則(8)
- 【10】: 民法総則(9)
- 【11】: 民法総則(10)
- 【12】: 物権(1)
- 【13】: 物権(2)
- 【14】: 物権(3)
- 【15】: 契約(1)
- 【16】: 契約(2)
- 【17】: 契約(3)
- 【18】: 契約(4)
- 【19】: 契約(5)
- 【20】: 契約(6)
- 【21】: 契約(7)
- 【22】: 契約(8)
- 【23】: 不法行為(1)
- 【24】: 不法行為(2)
- 【25】: 債権回収(1)
- 【26】: 債権回収(2)
- 【27】: まとめ(1)
- 【28】: まとめ(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、予習範囲を指示するので、教科書の該当部分を読んでから授業に臨んでください(毎回約2時間)。また、小テストに備えて、各授業後に復習をしてください(毎回約2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト((1回につき10%~15%で複数回実施)):100%

テキスト / Textbooks

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門[第5版]』日本経済新聞社 2024 9784296118397

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に[第2版]』弘文堂 2017 9784335313264

授業には六法を持参してください。

参考文献 / Readings

原田昌和・寺川永・吉永一行『民法総則[第2版](日評ベーシック・シリーズ)』日本評論社 2022 9784535806948

山本敬三・香川崇・竹中悟人・山城一真『有斐閣ストゥディア民法1総則』有斐閣 2021 9784641150089

上記以外にも授業中、適宜指示します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業で使用する資料は、Canvas LMS を通じて配布します。

その他 / Others

<授業形態>

パワーポイントを使用した講義形式の授業です。

<フィードバック>

小テストのフィードバックを CanvasLMS を通じて行います。

注意事項

2022年度以降入学の国際ビジネス法学科全学年、政治学科生全学年。

国際ビジネス法学科・政治学科1年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。

注意事項(検索結果画面)

2022年度以降入学の国際ビジネス法学科全学年、政治学科生全学年。

国際ビジネス法学科・政治学科1年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。

民法(1) (3 学科 1 年)

Civil Law (1)
民法総則、物権

原田 昌和(HARADA MASAKAZU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX021
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法 1) 3 学科 1 年次。 国際ビジネス法学科・政治学科 1 年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。 「民法概論」と「民法(1)」は 2025 年度から同一科目に準ずる科目となるため、単位を修得できる科目はどちらか一方のみとなる。2024 年度末までに一方の科目の単位を修得している場合、2025 年度以降はもう一方の科目を履修することはできないので注意すること。		

授業の目標 / Course Objectives

民法総則、物権(担保物権を除く)について基本的な理解を得る。

The objective of this course is to obtain a basic understanding of the general provisions and property law (excluding security law) of the Civil Code.

授業の内容 / Course Contents

民法第一編の定める「民法総則」および第二編の定める「物権」(担保物権を除く)を扱う。とくに民法総則には、民法全体に関わる基本的なルールが抽象的に定められているため、当該条文がどのような場面で使われるのかが非常に分かりにくい。そこで本講義では、民法(2)以降で学習する事柄についての解説も必要に応じて行い、「使える知識」の修得を目指す。講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、ケースを多用し、答案の書き方についての説明も交えながら、解説する。

The course will cover the general provisions in Part I and the law of property (excluding the law of security) in Part II of the Civil Code. Although there are a large number of issues that need to be explained, the class will not necessarily cover all of them because of the limited class time. However, summaries and PowerPoint will be used to explain, keeping in mind the importance of a clear picture.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:序説(債権と物権の違いなど)
- 【2】:意思表示, 法律行為, 契約の成立、心裡留保
- 【3】:通謀虚偽表示、94 条 2 項類推適用
- 【4】:錯誤、詐欺、強迫
- 【5】:代理 1
- 【6】:代理 2
- 【7】:代理 3
- 【8】:無権代理、表見代理 1
- 【9】:表見代理 2
- 【10】:権利能力、未成年、成年後見制度 1

- 【11】:成年後見制度 2
- 【12】:法人
- 【13】:権利能力なき社団
- 【14】:物、契約の解釈
- 【15】:法律行為の有効要件、条件、期限
- 【16】:時効総説
- 【17】:消滅時効 1
- 【18】:消滅時効 2
- 【19】:取得時効 1
- 【20】:取得時効 2
- 【21】:民法の基本原則
- 【22】:不動産の物権変動 1
- 【23】:不動産の物権変動 2
- 【24】:動産の物権変動
- 【25】:即時取得
- 【26】:物権的請求権
- 【27】:占有権
- 【28】:共有、用益物権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の学習に関しては教科書を用いた予習、教科書及びレジュメを用いた復習を行うこと。図書館で、他の教科書などを参考にすることも推奨される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

原田昌和・寺川永・吉永一行『民法総則(第2版)』日本評論社 2022 9784535806948

原田昌和・秋山靖浩・山口敬介『民法①総則 判例 30!(第2版)』有斐閣 2025

参考文献 / Readings

その他 / Others

レジュメは事前に Canvas LMS 上に掲載するので各人で準備すること。授業では、受講生に条文を読んでもらうことがあるため、必ず六法を持参すること。

注意事項

(旧科目名:民法1)

国際ビジネス法学科・政治学科1年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。

注意事項(検索結果画面)

(旧科目名:民法1)

国際ビジネス法学科・政治学科1年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること。

民法(2)

Civil Law (2)

債権総論・契約法の解説

野澤 正充 (NOZAWA MASAMICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX023
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法3)		

授業の目標 / Course Objectives

債権総論・契約法について、基本的な理解を得る。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of the general theory of claims and Contract Law.

授業の内容 / Course Contents

民法典の第三編「債権」のうち、事務管理・不当利得・不法行為を除いた部分、いわゆる債権総論(ただし、多数当事者の債権関係、弁済による代位、相殺を除く)と契約法の分野を扱う。解説すべき事柄が極めて多い一方で、講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、レジュメを用いて、具体的なイメージを大切にしながら解説したい。なお、講義内容は、2020年4月1日施行の改正民法に基づいて行う。

The classes will cover the so-called general theory of claims (however not including claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, set-offs and obligee's subrogation right,) and the field of Contract Law within the "Claims" section in Part III of the Civil Code with the exception of negotiorum gestio (management of Business), torts, and unjust enrichment. While there are a great number of matters which should be explained, the class will not necessarily touch on all issues, because the lecture time is limited. However, summaries will be used to explain while keeping in mind the importance of a clear picture. Furthermore, the lectures will be conducted based on the revised Civil Code which will be enforced from April 1, 2020.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 債権の意義、契約の成立
- 【2】: 特定物債権と種類債権
- 【3】: 金銭債権, 利息債権, 弁済一債権の任意的実現1
- 【4】: 弁済一債権の任意的実現2
- 【5】: 受領遅滞
- 【6】: 債権の強制的実現
- 【7】: 債務不履行1
- 【8】: 債務不履行2
- 【9】: 損害賠償1
- 【10】: 損害賠償2
- 【11】: 契約法序説一契約自由の原則
- 【12】: 契約の成立
- 【13】: 契約の効力
- 【14】: 契約の解除1

- 【15】: 契約の解除2
- 【16】: 売買1
- 【17】: 売買2
- 【18】: 売買3
- 【19】: 消費貸借
- 【20】: 貸貸借1
- 【21】: 貸貸借2
- 【22】: 貸貸借3
- 【23】: 請負, 委任
- 【24】: 債務者の責任財産の保全－債権者代位権
- 【25】: 詐害行為取消権
- 【26】: 債権譲渡1
- 【27】: 債権譲渡2
- 【28】: 債務引受, 契約上の地位の移転

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (ﾊﾟﾜｰﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

民法1・民法(1)を履修済みか、もしくは民法(1)を並行して履修中であることが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% レポート・コメントペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

野澤正充 『セカンドステージ債権法Ⅱ・債権総論(第4版)』 日本評論社 2024 9784535527928

野澤正充 『セカンドステージ債権法Ⅰ・契約法(第4版)』 日本評論社 2024 9784535527911

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義レジュメは、授業で配布する。

民法(2) (法曹コース)

Civil Law (2)

債権総論・契約法の解説

野澤 正充 (NOZAWA MASAMICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX025
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法3)		

授業の目標 / Course Objectives

債権総論・契約法について、基本的な理解を得る。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of the general theory of claims and Contract Law.

授業の内容 / Course Contents

民法典の第三編「債権」のうち、事務管理・不当利得・不法行為を除いた部分、いわゆる債権総論(ただし、多数当事者の債権関係、弁済による代位、相殺を除く)と契約法の分野を扱う。解説すべき事柄が極めて多い一方で、講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、レジュメを用いて、具体的なイメージを大切にしながら解説したい。なお、講義内容は、2020年4月1日施行の改正民法に基づいて行う。

The classes will cover the so-called general theory of claims (however not including claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, set-offs and obligee's subrogation right,) and the field of Contract Law within the "Claims" section in Part III of the Civil Code with the exception of negotiorum gestio (management of Business), torts, and unjust enrichment. While there are a great number of matters which should be explained, the class will not necessarily touch on all issues, because the lecture time is limited. However, summaries will be used to explain while keeping in mind the importance of a clear picture. Furthermore, the lectures will be conducted based on the revised Civil Code which will be enforced from April 1, 2020.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 債権の意義、契約の成立
- 【2】: 特定物債権と種類債権
- 【3】: 金銭債権, 利息債権, 弁済一債権の任意的実現1
- 【4】: 弁済一債権の任意的実現2
- 【5】: 受領遅滞
- 【6】: 債権の強制的実現
- 【7】: 債務不履行1
- 【8】: 債務不履行2
- 【9】: 損害賠償1
- 【10】: 損害賠償2
- 【11】: 契約法序説一契約自由の原則
- 【12】: 契約の成立
- 【13】: 契約の効力
- 【14】: 契約の解除1

- 【15】:契約の解除2
- 【16】:売買1
- 【17】:売買2
- 【18】:売買3
- 【19】:消費貸借
- 【20】:貸貸借1
- 【21】:貸貸借2
- 【22】:貸貸借3
- 【23】:請負, 委任
- 【24】:債務者の責任財産の保全－債権者代位権
- 【25】:詐害行為取消権
- 【26】:債権譲渡1
- 【27】:債権譲渡2
- 【28】:債務引受, 契約上の地位の移転

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

民法1・民法(1)を履修済みか、もしくは民法(1)を並行して履修中であることが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%
平常点割合 :20% レポート・コメントペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

野澤正充 『セカンドステージ債権法Ⅱ・債権総論(第4版)』 日本評論社 2024 9784535527928
野澤正充 『セカンドステージ債権法Ⅰ・契約法(第4版)』 日本評論社 2024 9784535527911

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義レジュメは、授業で配布する。

民法(3)

Civil Law (3)

事務管理・不当利得・不法行為

野澤 正充(NOZAWA MASAMICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX027
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法 4)		

授業の目標 / Course Objectives

事務管理・不当利得・不法行為について専門的理解を得る。

The objective of this class is to achieve a specialized understanding of torts, negotiorum gestio (management of business), and unjust Enrichment.

授業の内容 / Course Contents

民法典の第三編「債権」のうち、不法行為・事務管理・不当利得に関する部分を扱う。不法行為の領域は、条文数が少ないこともあり、判例による法形成や学説による理論的進展が著しい分野である。講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、判例を多く用いて解説する予定である。

This class will cover torts, negotiorum gestio (management of Business), and unjust enrichment in the “Claims” section of Part III of the Civil Code. While there are not many provisions in the area of torts, it is a field noted for development of law by judicial precedent and theoretical progress due to theories. Because the lecture time is limited, we will not necessarily be able to touch on every issue, the presentation will be illustrated with many case examples.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 不法行為の基礎
- 【2】: 故意・過失
- 【3】: 権利侵害・違法性1
- 【4】: 権利侵害・違法性2
- 【5】: 損害の発生
- 【6】: 因果関係
- 【7】: 不法行為の成立を阻却する事由(正当防衛など)
- 【8】: 不法行為の効果
- 【9】: 責任無能力者の監督者の責任
- 【10】: 使用者責任
- 【11】: 共同不法行為
- 【12】: 不当利得1
- 【13】: 不当利得2
- 【14】: 事務管理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書をよく読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% レポート、リサーチペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

野澤正充 『セカンドステージ債権法Ⅲ事務管理・不当利得・不法行為(第4版)』 日本評論社 2024 9784535527904

参考文献 / Readings

その他 / Others

レジュメは、Canvas LMS にアップする。

民法(3) (法曹コース)

Civil Law (3)

事務管理・不当利得・不法行為

野澤 正充 (NOZAWA MASAMICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX028
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	L PX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法 4)		

授業の目標 / Course Objectives

事務管理・不当利得・不法行為について専門的理解を得る。

The objective of this class is to achieve a specialized understanding of torts, negotiorum gestio (management of business), and unjust Enrichment.

授業の内容 / Course Contents

民法典の第三編「債権」のうち、不法行為・事務管理・不当利得に関する部分を扱う。不法行為の領域は、条文数が少ないこともあり、判例による法形成や学説による理論的進展が著しい分野である。講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、判例を多く用いて解説する予定である。

This class will cover torts, negotiorum gestio (management of Business), and unjust enrichment in the “Claims” section of Part III of the Civil Code. While there are not many provisions in the area of torts, it is a field noted for development of law by judicial precedent and theoretical progress due to theories. Because the lecture time is limited, we will not necessarily be able to touch on every issue, the presentation will be illustrated with many case examples.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 不法行為の基礎
- 【2】: 故意・過失
- 【3】: 権利侵害・違法性1
- 【4】: 権利侵害・違法性2
- 【5】: 損害の発生
- 【6】: 因果関係
- 【7】: 不法行為の成立を阻却する事由(正当防衛など)
- 【8】: 不法行為の効果
- 【9】: 責任無能力者の監督者の責任
- 【10】: 使用者責任
- 【11】: 共同不法行為
- 【12】: 不当利得1
- 【13】: 不当利得2
- 【14】: 事務管理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書をよく読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% レポート、リサーチペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

野澤正充 『セカンドステージ債権法Ⅲ事務管理・不当利得・不法行為(第4版)』 日本評論社 2024 9784535527904

参考文献 / Readings

その他 / Others

レジュメは、Canvas LMS にアップする。

民法(4)

Civil Law (4)

親族・相続法

山口 敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX029
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法 5)		

授業の目標 / Course Objectives

親族法・相続法の考え方を理解することを目標とします。

The aim of this course is to help students to understand the concepts of family law and inheritance law

授業の内容 / Course Contents

親族法および相続法について専門的な講義を行います。これらの分野においては、さまざまな現代的課題があります。例えば、増加する離婚と離婚後の親子関係、非婚姻カップルの増加、性的少数者の権利、生殖補助医療の発展などです。このような状況において、法の基礎的な考え方を理解した上で、現代的な問題についても検討します。

This course deals with the concepts and principles of family law and inheritance law. In these areas, there are a lot of contemporary problems such as increased divorce, parent-child relationship after divorce, increase in couples outside marriage, rights of LGBT, development of medically assisted procreation.

This course deals with not only basic knowledge of these areas but also contemporary problems.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入:親族・相続法とは
- 【2】: 夫婦の法律関係・その 1
- 【3】: 夫婦の法律関係・その 2
- 【4】: 夫婦とその子の関係・その 1
- 【5】: 夫婦とその子の関係・その 2
- 【6】: 婚姻の成立
- 【7】: 夫婦とその親の関係・その 1
- 【8】: 夫婦とその親の関係・その 2
- 【9】: 婚姻の解消
- 【10】: 離婚後・再婚後の親子関係
- 【11】: 婚姻外の親子関係
- 【12】: 養子縁組による親子関係
- 【13】: 生殖補助医療による親子関係
- 【14】: 非婚カップルの法律関係
- 【15】: 同居集団の法律関係
- 【16】: 親族法まとめ
- 【17】: 相続法導入
- 【18】: 相続財産

- 【19】:相続人
- 【20】:遺産分割
- 【21】:遺言・その 1
- 【22】:遺言・その 2
- 【23】:遺留分
- 【24】:特別受益
- 【25】:寄与分
- 【26】:遺産共有
- 【27】:第三者との関係
- 【28】:相続法まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

復習は重要です。毎回、復習範囲としていくつかの教科書の該当箇所を具体的に指定します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 複数回の小テスト:20%

テキスト / Textbooks

青竹美佳他『判例 30！5 親族・相続』有斐閣 2017 9784641137844

参考文献 / Readings

特定の教科書は指定しませんが、講義開始時に主な教科書を紹介します。

講義には、六法及び上記判例教材を持参することが不可欠です。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法総則・物権法についての基本的な知識を習得していることがのぞましいです。

民法(4) (法曹コース)

Civil Law (4)
親族・相続法

山口 敬介 (YAMAGUCHI KEISUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX030
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:民法 5)		

授業の目標 / Course Objectives

親族法・相続法の考え方を理解することを目標とします。

The aim of this course is to help students to understand the concepts of family law and inheritance law

授業の内容 / Course Contents

親族法および相続法について専門的な講義を行います。これらの分野においては、さまざまな現代的課題があります。例えば、増加する離婚と離婚後の親子関係、非婚姻カップルの増加、性的少数者の権利、生殖補助医療の発展などです。このような状況において、法の基礎的な考え方を理解した上で、現代的な問題についても検討します。

This course deals with the concepts and principles of family law and inheritance law. In these areas, there are a lot of contemporary problems such as increased divorce, parent-child relationship after divorce, increase in couples outside marriage, rights of LGBT, development of medically assisted procreation.

This course deals with not only basic knowledge of these areas but also contemporary problems.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入: 親族・相続法とは
- 【2】: 夫婦の法律関係・その 1
- 【3】: 夫婦の法律関係・その 2
- 【4】: 夫婦とその子の関係・その 1
- 【5】: 夫婦とその子の関係・その 2
- 【6】: 婚姻の成立
- 【7】: 夫婦とその親の関係・その 1
- 【8】: 夫婦とその親の関係・その 2
- 【9】: 婚姻の解消
- 【10】: 離婚後・再婚後の親子関係
- 【11】: 婚姻外の親子関係
- 【12】: 養子縁組による親子関係
- 【13】: 生殖補助医療による親子関係
- 【14】: 非婚カップルの法律関係
- 【15】: 同居集団の法律関係
- 【16】: 親族法まとめ
- 【17】: 相続法導入
- 【18】: 相続財産

- 【19】:相続人
- 【20】:遺産分割
- 【21】:遺言・その 1
- 【22】:遺言・その 2
- 【23】:遺留分
- 【24】:特別受益
- 【25】:寄与分
- 【26】:遺産共有
- 【27】:第三者との関係
- 【28】:相続法まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

復習は重要です。毎回、復習範囲としていくつかの教科書の該当箇所を具体的に指定します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 複数回の小テスト:20%

テキスト / Textbooks

青竹美佳他『判例 30！5 親族・相続』有斐閣 2017 9784641137844

参考文献 / Readings

特定の教科書は指定しませんが、講義開始時に主な教科書を紹介します。

講義には、六法及び上記判例教材を持参することが不可欠です。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法総則・物権法についての基本的な知識を習得していることがのぞましいです。

刑法(2) (法曹コース)

Criminal Law (2)

小林 憲太郎 (KOBAYASHI KENTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX032
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

刑法全体についての大まかなものの見方を学びつつ、刑法各論における個別の犯罪成立要件やその背後にある発想などを理解できるようになること。

In this course the participants learn the outline of the criminal law in general and the types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、刑法全体についての大まかな見取り図を示すとともに、刑法各論における個別の犯罪について、体系的に、かつ具体的に学ぶことができるような授業を行う。例えば、殺人罪といった犯罪一つをとっても、「人」とは何か、堕胎罪で保護されている「胎児」は「人」ではないのか、といった非常に難しい問題が潜んでいる。こういった様々な問題について、判例をベースに検討を加えていく。

In this course the outline of the criminal law in general will be showed, which is important to understand what kind of conditions must be fulfilled for the punishment. After that the participants will learn various types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:刑法全体の大まかな枠組み(1)
- 【2】:刑法全体の大まかな枠組み(2)
- 【3】:刑法各論総説・生命に対する罪(1)
- 【4】:生命に対する罪(2)
- 【5】:身体に対する罪(1)
- 【6】:身体に対する罪(2)
- 【7】:自由に対する罪(1)
- 【8】:自由に対する罪(2)
- 【9】:住居に対する罪
- 【10】:名誉に対する罪
- 【11】:業務に対する罪
- 【12】:財産犯総説
- 【13】:窃盗罪
- 【14】:強盗罪(1)
- 【15】:強盗罪(2)(恐喝罪を含む)
- 【16】:詐欺罪(1)
- 【17】:詐欺罪(2)
- 【18】:横領罪

- 【19】: 背任罪
- 【20】: 盗品等関与罪・器物損壊罪
- 【21】: 放火罪を中心とした公共危険罪
- 【22】: 文書偽造罪(1)
- 【23】: 文書偽造罪(2)
- 【24】: 死体等に対する罪
- 【25】: 公務執行妨害罪
- 【26】: 司法に対する罪
- 【27】: 収賄罪
- 【28】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、多くの判例・裁判例を扱うため、講義において適宜、予習すべき範囲を指定する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

小林憲太郎『刑法各論』新世社 2024 4883843912
最新判例を数多く扱うため、最新判例が掲載されている判例集を購入しておくことが望ましい(授業で紹介する)。購入しない場合には、おのおの判例についてDBを利用し参照できるようにしておくこと。

参考文献 / Readings

その他 / Others

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

刑法(2) (法学科2年)

Criminal Law (2)

小林 憲太郎 (KOBAYASHI KENTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX033
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科2年次のみ		

授業の目標 / Course Objectives

刑法全体についての大まかなものの見方を学びつつ、刑法各論における個別の犯罪成立要件やその背後にある発想などを理解できるようになること。

In this course the participants learn the outline of the criminal law in general and the types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、刑法全体についての大まかな見取り図を示すとともに、刑法各論における個別の犯罪について、体系的に、かつ具体的に学ぶことができるような授業を行う。例えば、殺人罪といった犯罪一つをとっても、「人」とは何か、堕胎罪で保護されている「胎児」は「人」ではないのか、といった非常に難しい問題が潜んでいる。こういった様々な問題について、判例をベースに検討を加えていく。

In this course the outline of the criminal law in general will be showed, which is important to understand what kind of conditions must be fulfilled for the punishment. After that the participants will learn various types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:刑法全体の大まかな枠組み(1)
- 【2】:刑法全体の大まかな枠組み(2)
- 【3】:刑法各論総説・生命に対する罪(1)
- 【4】:生命に対する罪(2)
- 【5】:身体に対する罪(1)
- 【6】:身体に対する罪(2)
- 【7】:自由に対する罪(1)
- 【8】:自由に対する罪(2)
- 【9】:住居に対する罪
- 【10】:名誉に対する罪
- 【11】:業務に対する罪
- 【12】:財産犯総説
- 【13】:窃盗罪
- 【14】:強盗罪(1)
- 【15】:強盗罪(2)(恐喝罪を含む)
- 【16】:詐欺罪(1)
- 【17】:詐欺罪(2)
- 【18】:横領罪

- 【19】: 背任罪
- 【20】: 盗品等関与罪・器物損壊罪
- 【21】: 放火罪を中心とした公共危険罪
- 【22】: 文書偽造罪(1)
- 【23】: 文書偽造罪(2)
- 【24】: 死体等に対する罪
- 【25】: 公務執行妨害罪
- 【26】: 司法に対する罪
- 【27】: 収賄罪
- 【28】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、多くの判例・裁判例を扱うため、講義において適宜、予習すべき範囲を指定する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

小林憲太郎『刑法各論』新世社 2024 4883843912
最新判例を数多く扱うため、最新判例が掲載されている判例集を購入しておくことが望ましい(授業で紹介する)。購入しない場合には、おのおのの判例についてDBを利用し参照できるようにしておくこと。

参考文献 / Readings

その他 / Others

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

刑法(2) (その他)

Criminal Law (2)

小林 憲太郎 (KOBAYASHI KENTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX034
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科3年次以上, 国際ビジネス法学科2年次以上, 政治学科2年次以上		

授業の目標 / Course Objectives

刑法全体についての大まかなものの見方を学びつつ、刑法各論における個別の犯罪成立要件やその背後にある発想などを理解できるようになること。

In this course the participants learn the outline of the criminal law in general and the types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、刑法全体についての大まかな見取り図を示すとともに、刑法各論における個別の犯罪について、体系的に、かつ具体的に学ぶことができるような授業を行う。例えば、殺人罪といった犯罪一つをとっても、「人」とは何か、堕胎罪で保護されている「胎児」は「人」ではないのか、といった非常に難しい問題が潜んでいる。こういった様々な問題について、判例をベースに検討を加えていく。

In this course the outline of the criminal law in general will be showed, which is important to understand what kind of conditions must be fulfilled for the punishment. After that the participants will learn various types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 刑法全体の大まかな枠組み(1)
- 【2】: 刑法全体の大まかな枠組み(2)
- 【3】: 刑法各論総説・生命に対する罪(1)
- 【4】: 生命に対する罪(2)
- 【5】: 身体に対する罪(1)
- 【6】: 身体に対する罪(2)
- 【7】: 自由に対する罪(1)
- 【8】: 自由に対する罪(2)
- 【9】: 住居に対する罪
- 【10】: 名誉に対する罪
- 【11】: 業務に対する罪
- 【12】: 財産犯総説
- 【13】: 窃盗罪
- 【14】: 強盗罪(1)
- 【15】: 強盗罪(2) (恐喝罪を含む)
- 【16】: 詐欺罪(1)
- 【17】: 詐欺罪(2)
- 【18】: 横領罪

- 【19】: 背任罪
- 【20】: 盗品等関与罪・器物損壊罪
- 【21】: 放火罪を中心とした公共危険罪
- 【22】: 文書偽造罪(1)
- 【23】: 文書偽造罪(2)
- 【24】: 死体等に対する罪
- 【25】: 公務執行妨害罪
- 【26】: 司法に対する罪
- 【27】: 収賄罪
- 【28】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、多くの判例・裁判例を扱うため、講義において適宜、予習すべき範囲を指定する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

小林憲太郎『刑法各論』新世社 2024 4883843912
最新判例を数多く扱うため、最新判例が掲載されている判例集を購入しておくことが望ましい(授業で紹介する)。購入しない場合には、おのおのの判例についてDBを利用し参照できるようにしておくこと。

参考文献 / Readings

その他 / Others

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

刑法(1) (法学科1年)

Criminal Law (1)

深町 晋也 (FUKAMACHI SHINYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX035
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科1年次のみ		

授業の目標 / Course Objectives

犯罪の成立に共通して問題となる要件を巡る議論(刑法総論)を学びつつ、我々の社会においてどのような事象が犯罪として処罰されるのかを理解できるようになること。

While learning about the arguments surrounding the common requirements for the commission of crimes (criminal law general part), students should be able to understand what events are punishable as crimes in our society.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、刑法総論に関する基本的な議論を学ぶことで、どのような事象が「犯罪」として処罰されるのかを理解することを内容としています。例えば、犯罪が成立するか否かの「枠」の問題(構成要件)、その事象が「悪い」こと(違法性)だとして「非難」されるべきなのか(責任)といったことを扱います。例えば、「人を殺す」という行為が殺人罪となるためには、どのような要件が備わっていなければならないのでしょうか。

また、人を殺すのに失敗した場合や、複数人で人を殺した場合にはどうなるのでしょうか。そのような発展的な問題としての未遂犯や共犯といった議論も扱います。

The aim of this lecture is to understand what events are punishable as ‘crimes’ by studying basic discussions on the general part of criminal law. For example, it deals with the ‘frame’ of crimes(‘actus reus’), and whether the act is ‘harmful’ and ‘blameful’. For example, what elements must be in place for the act of ‘killing someone’ to be a homicide offence?

And what happens if a person fails to kill someone or if more than one person kills someone? Discussions of such developmental issues will be also dealt with.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:刑法全体の大まかな枠組み(1)
- 【2】:刑法全体の大まかな枠組み(2)
- 【3】:刑法全体の大まかな枠組み(3)
- 【4】:因果関係(1)
- 【5】:因果関係(2)
- 【6】:不作為犯(1)
- 【7】:不作為犯(2)
- 【8】:違法論と違法性阻却の一般原理
- 【9】:違法性阻却(1)
- 【10】:違法性阻却(2)
- 【11】:違法性阻却(3)
- 【12】:故意(1)
- 【13】:故意(2)

- 【14】:故意と違法性の意識
- 【15】:過失(1)
- 【16】:過失(2)
- 【17】:責任論(1)
- 【18】:責任論(2)
- 【19】:未遂犯
- 【20】:中止犯
- 【21】:共犯論の概観
- 【22】:共同正犯(1)
- 【23】:共同正犯(2)
- 【24】:狭義の共犯(1)
- 【25】:狭義の共犯(2)
- 【26】:共犯論の特殊問題
- 【27】:罪数論
- 【28】:全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された判例教材及び事前に配布するレジюмеに基づいて、具体的な予習及び復習の範囲を指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 最終レポート割合::0%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

山口厚ほか 判例刑法総論 第8版 有斐閣 2023 9784641139619

参考文献 / Readings

深町晋也 家族と刑法 有斐閣 2021

大塚裕史ほか 基本刑法1 総論[第3版] 日本評論社 2019

その他 / Others

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

刑法(1)(その他)

Criminal Law (1)

深町 晋也 (FUKAMACHI SHINYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX036
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年,政治学科全学年		

授業の目標 / Course Objectives

犯罪の成立に共通して問題となる要件を巡る議論(刑法総論)を学びつつ、我々の社会においてどのような事象が犯罪として処罰されるのかを理解できるようになること。

While learning about the arguments surrounding the common requirements for the commission of crimes (criminal law general part), students should be able to understand what events are punishable as crimes in our society.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、刑法総論に関する基本的な議論を学ぶことで、どのような事象が「犯罪」として処罰されるのかを理解することを内容としています。例えば、犯罪が成立するか否かの「枠」の問題(構成要件)、その事象が「悪い」こと(違法性)だとして「非難」されるべきなのか(責任)といったことを扱います。例えば、「人を殺す」という行為が殺人罪となるためには、どのような要件が備わっていなければならないのでしょうか。

また、人を殺すのに失敗した場合や、複数人で人を殺した場合にはどうなるのでしょうか。そのような発展的な問題としての未遂犯や共犯といった議論も扱います。

The aim of this lecture is to understand what events are punishable as ‘crimes’ by studying basic discussions on the general part of criminal law. For example, it deals with the ‘frame’ of crimes(‘actus reus’), and whether the act is ‘harmful’ and ‘blameful’. For example, what elements must be in place for the act of ‘killing someone’ to be a homicide offence?

And what happens if a person fails to kill someone or if more than one person kills someone? Discussions of such developmental issues will be also dealt with.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:刑法全体の大まかな枠組み(1)
- 【2】:刑法全体の大まかな枠組み(2)
- 【3】:刑法全体の大まかな枠組み(3)
- 【4】:因果関係(1)
- 【5】:因果関係(2)
- 【6】:不作為犯(1)
- 【7】:不作為犯(2)
- 【8】:違法論と違法性阻却の一般原理
- 【9】:違法性阻却(1)
- 【10】:違法性阻却(2)
- 【11】:違法性阻却(3)
- 【12】:故意(1)
- 【13】:故意(2)

- 【14】:故意と違法性の意識
- 【15】:過失(1)
- 【16】:過失(2)
- 【17】:責任論(1)
- 【18】:責任論(2)
- 【19】:未遂犯
- 【20】:中止犯
- 【21】:共犯論の概観
- 【22】:共同正犯(1)
- 【23】:共同正犯(2)
- 【24】:狭義の共犯(1)
- 【25】:狭義の共犯(2)
- 【26】:共犯論の特殊問題
- 【27】:罪数論
- 【28】:全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された判例教材及び事前に配布するレジюмеに基づいて、具体的な予習及び復習の範囲を指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 最終レポート割合::0%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

山口厚ほか 判例刑法総論 第8版 有斐閣 2023 9784641139619

参考文献 / Readings

深町晋也 家族と刑法 有斐閣 2021

大塚裕史ほか 基本刑法1 総論[第3版] 日本評論社 2019

その他 / Others

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

商法(1)

Commercial Law (1)

会社法

高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX041
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、わが国の会社法、とりわけ株式会社法の概要、及びその実務における運用等について、理解を深めることを目標とする。

The purposes of this course are to (1) help students deepen their understanding of Japan's Companies Act and, in particular, (2) to provide an overview of the Stock Corporation Act along with its application in business practice.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、会社法、とりわけ株式会社法のうち、株式、機関、設立、計算を対象とする。わが国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連の領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムがわが国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。本講義では、株式会社をめぐる関係者の利害得失をしっかりと見極められる目を養ってもらうことを目的として、以上の多面的な検討を授業内で行っていきたいと考えている。

This course aims to cover the Companies Act, particularly the Stock Company Act (especially on Equity, Corporate Governance, Dividends and Distributions, and Formation Procedures). Japanese economic fluctuations and globalization have also exerted a significant impact on areas related to the Companies Act. When thinking about what types of systems are compatible with Japan's legal frameworks for corporate organizations, first, they must be evaluated from various perspectives, for instance: "How do you recognize the present situation of corporations that are currently developing businesses?" "How do you construct theories that support the corresponding legal frameworks?" This course focuses on multifaceted examination of the issues described above to develop students' ability to discern accurately gains and losses of relevant persons with respect to corporations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 会社法総論
- 【2】: 株式会社法総論
- 【3】: 株式①
- 【4】: 株式②
- 【5】: 株式③
- 【6】: 株式④
- 【7】: 株式会社の機関①: 株主総会①
- 【8】: 株式会社の機関②: 株主総会②
- 【9】: 株式会社の機関③: 株主総会③
- 【10】: 株式会社の機関④: 取締役・取締役会①

- 【11】:株式会社の機関⑤:取締役・取締役会②
- 【12】:株式会社の機関⑥:取締役・取締役会③
- 【13】:株式会社の機関⑦:取締役・取締役会④
- 【14】:株式会社の機関⑧:取締役・取締役会⑤
- 【15】:株式会社の機関⑨:監査・監督機関①
- 【16】:株式会社の機関⑩:監査・監督機関②
- 【17】:株式会社の機関⑪:委員会型機関①
- 【18】:株式会社の機関⑫:委員会型機関②
- 【19】:株式会社の会計①:計算書類①
- 【20】:株式会社の会計②:計算書類②
- 【21】:株式会社の会計③:分配①
- 【22】:株式会社の会計④:分配②
- 【23】:株式会社の設立手続①
- 【24】:株式会社の設立手続②
- 【25】:株式会社の設立手続③
- 【26】:持分会社①
- 【27】:持分会社②
- 【28】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメだけでなく、自ら教科書等を読み、理解を深めることが必要となる。また、経済ニュースも適宜取り上げる予定なので、新聞等を読むようにしてほしい。

単元のまとまりごとに CanvasLMS 上で小テスト(4回を予定・選択式)を行う。小テストの結果は下記の割合で成績評価に組み入れるので、忘れずに受験すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小テスト:20%

授業内課題、質問の提出などの授業内貢献によって、上記の評価とは外付けで加点することがある。

テキスト / Textbooks

伊藤靖史ほか『会社法 第6版(LEGAL QUEST)』有斐閣 2025 9784641179608

高橋美加ほか『会社法[第4版]』弘文堂 2025 9784335359828

神作裕之ほか『会社法判例百選[第4版]』有斐閣 2021 9784641115545

1と2については、書店で内容を確認し、分かりやすいと思ったほうを選べばよい。また、新しい版が出版された場合には、新しい版を利用する。

参考文献 / Readings

授業初回に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内課題は Google Form などを利用するため、wifi に接続可能な PC・タブレット・スマートフォンを持参することが望ましい。またシラバス等は CanvasLMS に掲載する。紙媒体での配布はしないので必要に応じて自分で印刷等準備すること。

その他 / Others

最新版の六法を準備すること。

商法(2)

Commercial Law (2)

企業金融・企業再編・会社法総則／Corporate Finance・M&A・General Rules of Commercial Law

河村 賢治 (KAWAMURA KENJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX042
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、我が国の会社法とりわけ株式会社法のうち、資金調達と組織再編および会社法総則の内容について、その基本的な知識を修得し、理解を深めることを目標とする。

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge and deepen understanding of the contents of financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、我が国の会社法、特に株式会社法から資金調達、組織再編、および会社法総則を扱う。我が国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連法領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムが我が国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。

本講義では、基本的な条文知識および重要判例の理解を通じ、以上のような多面的な観点から株式会社をめぐる関係者の利害得失を見極められる目を養うことを目的とする。

This lecture deals with financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan.

Changes in the Japanese economy and globalization have had a major impact on the legal areas related to the Companies Act.

What is important in considering what kind of corporate law system is suitable for Japan is how to recognize the actual situation of the corporations that are actually developing business and how to build a theory that supports legal discipline.

In this lecture, through understanding the basic legal provisions and important precedents, we would like to cultivate an eye to identify the interests of the parties concerned with the corporation from the above-mentioned multifaceted perspectives.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 会社法総論

＊本授業は六法(条文)や判例をフル活用する。会社法の条文が手元にないと授業についていけなくなる。筆記試験の内容も会社法の条文操作や判例を踏まえた規範定立などが正確にできないと解答することは困難なものとなる。

【2】: 株式会社の資金調達①: 直接金融と間接金融(特に株式発行と銀行借入について)

【3】: 株式会社の資金調達②: 募集株式の発行

【4】: 株式会社の資金調達③: 募集株式の発行

【5】: 株式会社の資金調達④: 募集株式の発行

【6】: 株式会社の資金調達⑤: 新株予約権

- 【7】:株式会社の資金調達⑥:新株予約権・社債
 【8】:株式会社の組織再編①:M&A 総論
 【9】:株式会社の組織再編②:合併
 【10】:株式会社の組織再編③:会社分割
 【11】:株式会社の組織再編④:株式交換・株式移転・株式交付
 【12】:株式会社の組織再編⑤:キャッシュアウト、その他
 【13】:会社法総則①
 【14】:会社法総則②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

時事的な問題も扱うので報道等も確認すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

* 本授業は六法(条文)や判例をフル活用する。会社法の条文が手元にないと授業についていけなくなる。筆記試験の内容も会社法の条文操作や判例を踏まえた規範定立などが正確にできないと解答することは困難なものとなる。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

高橋美加ほか『会社法(第3版)』弘文堂 2020

伊藤靖史ほか『会社法(第5版)』有斐閣 2021

神作裕之ほか『会社法判例百選(第4版)』有斐閣 2021

授業までに改訂があった場合は最新版を指定する。これらは予習・復習用の参考文献であり、必ず購入する必要はない。また「会社法」はどちらか1冊でよい。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

商法(1)を履修し、内容をよく復習した上で受講することを推奨する。

商法(3)

Commercial Law (3)

商取引法

高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX043
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、どのような点にわが国の商取引の特徴があり、そこでどのような法律問題が生じているのか等について理解し、考察する力を涵養することを目標とする。

The purposes of this course are for students to understand (1) where unique features of Japanese commercial transactions lie; (2) what types of legal issues occur; and (3) to cultivate the ability to think.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、広い意味での商法(Business Law)のうち、狭い意味での商法(Commercial Code)を主に対象とする。具体的な法文としては、商法・会社法に規定された総則規定、商法に規定された商行為規定、そして民法に規定された契約に関する規定などがある。本講義では、これらの条文を取り上げるとともに、判例や契約実務なども素材として、説明を加えていくこととしたい。

This course mainly focuses on Commercial Code in the narrow sense of Business Law in the broad sense. This course aims to cover specific legal texts including general provisions defined in the Commercial Code and the Companies Act, the commercial transaction regulations defined in the Commercial Code, and the provisions concerning contracts defined in the Civil Code. This course uses not only these provisions but also cases from judicial precedents and contract practices in actual companies as materials to provide explanations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 商法総論、商人・商行為
- 【2】: 商人・商行為
- 【3】: 商業帳簿、商業登記
- 【4】: 商業登記、商号
- 【5】: 商号、営業・営業譲渡
- 【6】: 営業・営業譲渡、商業使用人、代理商
- 【7】: 商業使用人、代理商、商行為法総論
- 【8】: 商事売買
- 【9】: 交互計算、匿名組合、仲立営業
- 【10】: 仲立営業、問屋営業
- 【11】: 問屋営業、運送営業・運送取扱営業
- 【12】: 運送営業・運送取扱営業、場屋営業
- 【13】: 場屋営業、倉庫営業

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメだけでなく、自ら教科書等を読み、理解を深めることが必要となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 授業内課題:10%

テキスト / Textbooks

北村雅史ほか『商法総則・商行為法〔第2版〕』法律文化社 2022 9784589042019

神作裕之・藤田友敬編『商法判例百選』有斐閣 2019 9784641115439

初回に説明する。

参考文献 / Readings

清水真希子他『商法総則・商行為法の現在』有斐閣 2024 9784641233263

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法(1)～(3)、または民法概論をひとつおり勉強していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメ等を CanvasLMS 上で配付する。紙媒体での配布はしないので、必要に応じて自分で印刷等すること。

商法(4)

Commercial Law (4)

松井 秀征(MATSUI HIDEYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX044
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、保険契約を規律する法の基本的な考え方、およびその特殊性を理解させることを目標とする。

The aim of this course is for students to develop an understanding of the basic ideas and distinctive features of laws that regulate insurance contracts.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、主として保険契約法を体系的に説明するとともに、必要に応じて保険監督法についても解説を加える。具体的には、保険法に規定された保険契約法の規定を中心として説明し、適宜、保険業法に規定された保険監督法の規定にも触れながら、講義を行うことになる。

保険制度は、現代社会において多様なリスクにさらされている個人、あるいは企業にとって、必要不可欠なものである。だが、当該制度自体は極めて技術性が高く、また複雑な仕組みを有しており、その理解に困難な点が少なくない。そこで本講義においては、伝統的な保険契約の形態である損害保険契約、および生命保険契約を中心に、その基本的な制度枠組みについて平易に説明することを考えている。また、時間が許せば、比較的新しい契約形態である傷害保険契約、および疾病保険契約についても触れることとする。

This course mainly provides a systematic explanation of insurance contract law and also covers insurance regulatory law as necessary. More specifically, this course focuses on explaining the provisions of insurance contract law provided in the Insurance Act while touching on the provisions of insurance regulatory law provided in the Insurance Business Act, as necessary.

The insurance system is essential for individuals and companies that are exposed to various kinds of risks in modern society. However, the system is difficult to understand owing to its extremely technical nature and complex structure. Therefore, the intention of this course is to explain the basic institutional framework of property insurance contracts and life insurance contracts, which are traditional forms of insurance contracts, in a readily understandable way. If time permits, students are also expected to touch on accident insurance contracts and sickness insurance contracts, which are relatively new forms of insurance contracts.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 保険法総論
- 【2】: 損害保険契約①: 損害保険契約の内容①
- 【3】: 損害保険契約②: 損害保険契約の内容②
- 【4】: 損害保険契約③: 損害保険契約の成立①
- 【5】: 損害保険契約④: 損害保険契約の成立②

- 【6】: 損害保険契約⑤: 損害保険関係の変動
 【7】: 損害保険契約⑥: 損害保険事故の発生①
 【8】: 損害保険契約⑦: 損害保険事故の発生②
 【9】: 生命保険契約①: 生命保険契約の内容①
 【10】: 生命保険契約②: 生命保険契約の内容②
 【11】: 生命保険契約③: 生命保険契約の成立
 【12】: 生命保険契約④: 生命保険関係の変動
 【13】: 生命保険契約⑤: 生命保険事故の発生
 【14】: 傷害疾病保険契約

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ソクラテック・メソッド／ケース・メソッド

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業に対応する教科書の該当箇所を事前に読んでおくとともに(各回1時間程度)、資料中の設問について、テキスト等を手掛かりに自分なりの解答を作成し、復習することが望ましい(各回2時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

なお、授業中の発言について、筆記試験の点数に加味する。

テキスト / Textbooks

山下友信ほか『保険法〔第4版〕』有斐閣 2019

参考文献 / Readings

山下友信＝洲崎博史『保険法判例百選』有斐閣 2010

授業内で適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

民法に関する一通りの知識があることが望ましい。

商法(1)(法曹コース)

Commercial Law (1)

会社法

高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX045
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、わが国の会社法、とりわけ株式会社法の概要、及びその実務における運用等について、理解を深めることを目標とする。

The purposes of this course are to (1) help students deepen their understanding of Japan's Companies Act and, in particular, (2) to provide an overview of the Stock Corporation Act along with its application in business practice.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、会社法、とりわけ株式会社法のうち、株式、機関、設立、計算を対象とする。わが国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連の領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムがわが国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。本講義では、株式会社をめぐる関係者の利害得失をしっかりと見極められる目を養ってもらうことを目的として、以上の多面的な検討を授業内で行っていきたいと考えている。

This course aims to cover the Companies Act, particularly the Stock Company Act (especially on Equity, Corporate Governance, Dividends and Distributions, and Formation Procedures). Japanese economic fluctuations and globalization have also exerted a significant impact on areas related to the Companies Act. When thinking about what types of systems are compatible with Japan's legal frameworks for corporate organizations, first, they must be evaluated from various perspectives, for instance: "How do you recognize the present situation of corporations that are currently developing businesses?" "How do you construct theories that support the corresponding legal frameworks?" This course focuses on multifaceted examination of the issues described above to develop students' ability to discern accurately gains and losses of relevant persons with respect to corporations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 会社法総論
- 【2】: 株式会社法総論
- 【3】: 株式①
- 【4】: 株式②
- 【5】: 株式③
- 【6】: 株式④
- 【7】: 株式会社の機関①: 株主総会①
- 【8】: 株式会社の機関②: 株主総会②
- 【9】: 株式会社の機関③: 株主総会③
- 【10】: 株式会社の機関④: 取締役・取締役会①

- 【11】:株式会社の機関⑤:取締役・取締役会②
 【12】:株式会社の機関⑥:取締役・取締役会③
 【13】:株式会社の機関⑦:取締役・取締役会④
 【14】:株式会社の機関⑧:取締役・取締役会⑤
 【15】:株式会社の機関⑨:監査・監督機関①
 【16】:株式会社の機関⑩:監査・監督機関②
 【17】:株式会社の機関⑪:委員会型機関①
 【18】:株式会社の機関⑫:委員会型機関②
 【19】:株式会社の会計①:計算書類①
 【20】:株式会社の会計②:計算書類②
 【21】:株式会社の会計③:分配①
 【22】:株式会社の会計④:分配②
 【23】:株式会社の設立手続①
 【24】:株式会社の設立手続②
 【25】:株式会社の設立手続③
 【26】:持分会社①
 【27】:持分会社②
 【28】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

レジュメだけでなく、自ら教科書等を読み、理解を深めることが必要となる。また、経済ニュースも適宜取り上げる予定なので、新聞等を読むようにしてほしい。

単元のまとまりごとに CanvasLMS 上で小テスト(4回を予定・選択式)を行う。小テストの結果は下記の割合で成績評価に組み入れるので、忘れずに受験すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小テスト:20%

授業内課題、質問の提出などの授業内貢献によって、上記の評価とは外付けで加点することがある。

テキスト / Textbooks

伊藤靖史ほか『会社法 第6版(LEGAL QUEST)』有斐閣 2025 9784641179608

高橋美加ほか『会社法[第4版]』弘文堂 2025 9784335359828

神作裕之ほか『会社法判例百選[第4版]』有斐閣 2021 9784641115545

1と2については、書店で内容を確認し、分かりやすいと思ったほうを選べばよい。また、新しい版が出版された場合には、新しい版を利用する。

参考文献 / Readings

授業初回に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内課題は Google Form などを利用するため、wifi に接続可能な PC・タブレット・スマートフォンを持参することが望ましい。またシラバス等は CanvasLMS に掲載する。紙媒体での配布はしないので必要に応じて自分で印刷等準備すること。

その他 / Others

最新版の六法を準備すること。

商法(2)(法曹コース)

Commercial Law (2)

企業金融・企業再編・会社法総則／Corporate Finance・M&A・General Rules of Commercial Law

河村 賢治(KAWAMURA KENJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX046
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、我が国の会社法とりわけ株式会社法のうち、資金調達と組織再編および会社法総則の内容について、その基本的な知識を修得し、理解を深めることを目標とする。

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge and deepen understanding of the contents of financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、我が国の会社法、特に株式会社法から資金調達、組織再編、および会社法総則を扱う。我が国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連法領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムが我が国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。

本講義では、基本的な条文知識および重要判例の理解を通じ、以上のような多面的な観点から株式会社をめぐる関係者の利害得失を見極められる目を養うことを目的とする。

This lecture deals with financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan.

Changes in the Japanese economy and globalization have had a major impact on the legal areas related to the Companies Act.

What is important in considering what kind of corporate law system is suitable for Japan is how to recognize the actual situation of the corporations that are actually developing business and how to build a theory that supports legal discipline.

In this lecture, through understanding the basic legal provisions and important precedents, we would like to cultivate an eye to identify the interests of the parties concerned with the corporation from the above-mentioned multifaceted perspectives.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 会社法総論

＊本授業は六法(条文)や判例をフル活用する。会社法の条文が手元にないと授業についていけなくなる。筆記試験の内容も会社法の条文操作や判例を踏まえた規範定立などが正確にできないと解答することは困難なものとなる。

【2】: 株式会社の資金調達①: 直接金融と間接金融(特に株式発行と銀行借入について)

【3】: 株式会社の資金調達②: 募集株式の発行

【4】: 株式会社の資金調達③: 募集株式の発行

【5】: 株式会社の資金調達④: 募集株式の発行

【6】: 株式会社の資金調達⑤: 新株予約権

- 【7】:株式会社の資金調達⑥:新株予約権・社債
 【8】:株式会社の組織再編①:M&A 総論
 【9】:株式会社の組織再編②:合併
 【10】:株式会社の組織再編③:会社分割
 【11】:株式会社の組織再編④:株式交換・株式移転・株式交付
 【12】:株式会社の組織再編⑤:キャッシュアウト、その他
 【13】:会社法総則①
 【14】:会社法総則②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

時事的な問題も扱うので報道等も確認すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

* 本授業は六法(条文)や判例をフル活用する。会社法の条文が手元にないと授業についていけなくなる。筆記試験の内容も会社法の条文操作や判例を踏まえた規範定立などが正確にできないと解答することは困難なものとなる。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

高橋美加ほか『会社法(第3版)』弘文堂 2020

伊藤靖史ほか『会社法(第5版)』有斐閣 2021

神作裕之ほか『会社法判例百選(第4版)』有斐閣 2021

授業までに改訂があった場合は最新版を指定する。これらは予習・復習用の参考文献であり、必ず購入する必要はない。また「会社法」はどちらか1冊でよい。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

商法(1)を履修し、内容をよく復習した上で受講することを推奨する。

民事訴訟法(1)

Civil Procedure (1)

民事訴訟法(判決手続)の概説

内海 博俊(UCHIUMI HIROTOSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX053
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

民事手続法・制度の根幹をなす狭義の民事訴訟法(判決手続)についての基礎的理解を確立し、民事訴訟によって紛争が解決されていく流れを理解したうえで、その過程で生じ得る諸問題に対して、条文および基本的な道具概念の正確な理解を出発点とした論理的なアプローチによって合理的な回答を導けるようになること。

The purposes of this course are (1) to establish a fundamental understanding of civil procedure that constitutes the basis of the law and the civil judiciary system; (2) after understanding the process by which a dispute is resolved through civil litigation, to be able to provide rational answers to various problems that occur during the process by using a logical approach based on accurate understanding of provisions and essential concepts.

授業の内容 / Course Contents

概ね教科書に記述されている順序に沿って、民事訴訟法(判決手続)について解説する。授業は原則として講義形式で行われるが、実定法の理解は、授業で聞いたその時になんとなく理解できたというのでは不十分であり、現実には生じる問題を、学びとったルールの体系を適用して解決することができるだけの、言ってみれば「使用に耐える」レベルの理解が求められる。そのようなレベルに到達するには、能動的な学習態度が必要不可欠である。

なお本科目では、判決手続のうち、上訴・再審および複雑訴訟に関する部分の詳細は扱われない予定である。

This course aims to, for the most part, explain the Code of Civil Procedure according to the textbook's sequence. Generally, the course follows a lecture format. However, vaguely understanding the topics in law classes is not enough. Instead, students need to achieve, as much as possible, a "usable" level of understanding that applies the system of learned rules to resolve actually occurring problems. Students' active learning attitude is essential for reaching this level.

Notice: Topics related to appellate procedure, retrial, and complex litigations are excluded from this course.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・民事訴訟とは何か①
- 【2】:民事訴訟とは何か②
- 【3】:訴訟手続の開始①
- 【4】:訴訟手続の開始②
- 【5】:裁判所
- 【6】:当事者①
- 【7】:当事者②
- 【8】:当事者③
- 【9】:審理の原則①
- 【10】:審理の原則②

- 【11】: 審理の準備
- 【12】: 事案の解明①
- 【13】: 事案の解明②
- 【14】: 事案の解明③
- 【15】: 事案の解明④
- 【16】: 訴訟要件①
- 【17】: 訴訟要件②
- 【18】: 判決①
- 【19】: 判決②
- 【20】: 判決③
- 【21】: 判決④
- 【22】: 判決⑤
- 【23】: 判決⑥
- 【24】: 当事者の意思による終了①
- 【25】: 当事者の意思による終了②
- 【26】: 補論①
- 【27】: 補論②
- 【28】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

教室の状況(画面・装置の配置)等により、スライド(又はレジュメ)は Canvas LMS を用いた配布のみとする(教室での画面への掲示はしない)可能性がある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

民事訴訟(判決手続)では、紛争の当事者間に民法等の実体法が認めている権利・義務が存在するのかが争われ、裁判所によってこれに対する一定の結論が示される。ゆえに、そこで起こっていることの意味を理解するうえでは、実体法の基礎的事項に関する理解が不可欠となるため、実体法、とくに民法のうちいわゆる財産法の分野については、本講義の開講前、あるいは本講義と並行して学習することが推奨される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

三木浩一ほか『リーガルクエスト民事訴訟法(第4版)』有斐閣 2023 9784641179561

高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選(第6版)』有斐閣 2023

テキストのほかに、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の(近年は改正が多いのでとくに注意)六法を毎回用意する(アプリ等でも構わないが、期末試験で使用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献 / Readings

初回授業等において指定する。

その他 / Others

講義資料は LMS(Canvas LMS を予定)を通じて電子的に配布される。紙による配布は行わない。

民事訴訟法(2)

Civil Procedure (2)

民事訴訟法(複雑訴訟及び上訴・再審)の概説

林 紘司(HAYASHI KOJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX054
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

民事訴訟の複雑訴訟及び上訴・再審についての基本的な事項を理解すること。

To establish basic understanding of the following topics of civil procedure: complex litigations, appellate procedure, and action for retrials.

授業の内容 / Course Contents

民事訴訟法(1)で得られた知見を前提として、本講義の前半(複雑訴訟)では、判決手続が、複数の請求を併せて審理判断することになるため、あるいは、一人の原告と一人の被告以外の者が関与することになるために複雑化する現象、及びその複雑化した判決手続がどのように規律されるかについて解説する。後半(上訴・再審)では、第一審における敗訴当事者が上級裁判所によるその見直しを求める場合に行われる上訴手続、また、確定した判決の取消しを求めてする再審の訴えに関する手続について解説する。なお、講義の前半では、昨年度の民事訴訟法(1)における学習範囲の復習も実施する。

This course, based on the knowledge acquired through Civil Procedure(1), introduces, firstly, complex litigations, which includes actions with multiple claims and/or actions in which third parties—other than one plaintiff and one defendant—involved. Then, we move on to processes of appeals against judgement of lower courts and action for retrials of concluded cases. Additionally, review of last year's Civil Procedure (1) will also be conducted.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・民事訴訟法(1)の復習
- 【2】:複雑訴訟の概観・複数請求訴訟(客観的併合)
- 【3】:複数請求訴訟の周辺(訴えの変更・反訴・中間確認の訴え・重複訴訟)
- 【4】:多数当事者訴訟の概観・通常共同訴訟と周辺
- 【5】:必要的共同訴訟と周辺
- 【6】:補助参加・共同訴訟的補助参加・訴訟告知
- 【7】:独立当事者参加
- 【8】:当事者の変更(訴訟承継・任意的当事者変更)
- 【9】:複雑訴訟の補論・まとめ
- 【10】:上訴総論・控訴①
- 【11】:控訴②
- 【12】:上告
- 【13】:抗告・再審
- 【14】:補論・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

民事訴訟法(1)の内容を丹念に復習しておくこと。

事前に配布される講義資料に従い、十分な予習・復習をして臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

三木浩一ほか『リーガルクエスト民事訴訟法(第4版)』有斐閣 2023 9784641179561

高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選(第6版)』有斐閣 2023 9784641115651

※テキストのほかに、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の(近年は改正が多いのでとくに注意)六法を毎回用意すること(アプリ等でも構わないが、筆記試験で利用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献 / Readings

初回授業等において適宜指示する。

その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、予習・復習のための講義資料(レジュメ)は Canvas LMS を通じて電子的に配布する(紙による配布は行わない)。

民事訴訟法(1) (法曹コース)

Civil Procedure (1)

民事訴訟法(判決手続)の概説

内海 博俊(UCHIUMI HIROTOSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX055
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

民事手続法・制度の根幹をなす狭義の民事訴訟法(判決手続)についての基礎的理解を確立し、民事訴訟によって紛争が解決されていく流れを理解したうえで、その過程で生じ得る諸問題に対して、条文および基本的な道具概念の正確な理解を出発点とした論理的なアプローチによって合理的な回答を導けるようになること。

The purposes of this course are (1) to establish a fundamental understanding of civil procedure that constitutes the basis of the law and the civil judiciary system; (2) after understanding the process by which a dispute is resolved through civil litigation, to be able to provide rational answers to various problems that occur during the process by using a logical approach based on accurate understanding of provisions and essential concepts.

授業の内容 / Course Contents

概ね教科書に記述されている順序に沿って、民事訴訟法(判決手続)について解説する。授業は原則として講義形式で行われるが、実定法の理解は、授業で聞いたその時になんとなく理解できたというのでは不十分であり、現実には生じる問題を、学びとったルールの体系を適用して解決することができるだけの、言ってみれば「使用に耐える」レベルの理解が求められる。そのようなレベルに到達するには、能動的な学習態度が必要不可欠である。

なお本科目では、判決手続のうち、上訴・再審および複雑訴訟に関する部分の詳細は扱われない予定である。

This course aims to, for the most part, explain the Code of Civil Procedure according to the textbook's sequence. Generally, the course follows a lecture format. However, vaguely understanding the topics in law classes is not enough. Instead, students need to achieve, as much as possible, a "usable" level of understanding that applies the system of learned rules to resolve actually occurring problems. Students' active learning attitude is essential for reaching this level.

Notice: Topics related to appellate procedure, retrial, and complex litigations are excluded from this course.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・民事訴訟とは何か①
- 【2】:民事訴訟とは何か②
- 【3】:訴訟手続の開始①
- 【4】:訴訟手続の開始②
- 【5】:裁判所
- 【6】:当事者①
- 【7】:当事者②
- 【8】:当事者③
- 【9】:審理の原則①
- 【10】:審理の原則②

- 【11】: 審理の準備
- 【12】: 事案の解明①
- 【13】: 事案の解明②
- 【14】: 事案の解明③
- 【15】: 事案の解明④
- 【16】: 訴訟要件①
- 【17】: 訴訟要件②
- 【18】: 判決①
- 【19】: 判決②
- 【20】: 判決③
- 【21】: 判決④
- 【22】: 判決⑤
- 【23】: 判決⑥
- 【24】: 当事者の意思による終了①
- 【25】: 当事者の意思による終了②
- 【26】: 補論①
- 【27】: 補論②
- 【28】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

教室の状況(画面・装置の配置)等により、スライド(又はレジュメ)は Canvas LMS を用いた配布のみとする(教室での画面への掲示はしない)可能性がある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

民事訴訟(判決手続)では、紛争の当事者間に民法等の実体法が認めている権利・義務が存在するのかが争われ、裁判所によってこれに対する一定の結論が示される。ゆえに、そこで起こっていることの意味を理解するうえでは、実体法の基礎的事項に関する理解が不可欠となるため、実体法、とくに民法のうちいわゆる財産法の分野については、本講義の開講前、あるいは本講義と並行して学習することが推奨される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

三木浩一ほか『リーガルクエスト民事訴訟法(第4版)』有斐閣 2023 9784641179561

高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選(第6版)』有斐閣 2023

テキストのほかに、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の(近年は改正が多いのでとくに注意)六法を毎回用意する(アプリ等でも構わないが、期末試験で使用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献 / Readings

初回授業等において指定する。

その他 / Others

講義資料は LMS(Canvas LMS を予定)を通じて電子的に配布される。紙による配布は行わない。

民事訴訟法(2) (法曹コース)

Civil Procedure (2)

民事訴訟法(複雑訴訟及び上訴・再審)の概説

林 紘司(HAYASHI KOJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX056
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

民事訴訟の複雑訴訟及び上訴・再審についての基本的な事項を理解すること。

To establish basic understanding of the following topics of civil procedure: complex litigations, appellate procedure, and action for retrials.

授業の内容 / Course Contents

民事訴訟法(1)で得られた知見を前提として、本講義の前半(複雑訴訟)では、判決手続が、複数の請求を併せて審理判断することになるため、あるいは、一人の原告と一人の被告以外の者が関与することになるために複雑化する現象、及びその複雑化した判決手続がどのように規律されるかについて解説する。後半(上訴・再審)では、第一審における敗訴当事者が上級裁判所によるその見直しを求める場合に行われる上訴手続、また、確定した判決の取消しを求めてする再審の訴えに関する手続について解説する。なお、講義の前半では、昨年度の民事訴訟法(1)における学習範囲の復習も実施する。

This course, based on the knowledge acquired through Civil Procedure(1), introduces, firstly, complex litigations, which includes actions with multiple claims and/or actions in which third parties—other than one plaintiff and one defendant—involved. Then, we move on to processes of appeals against judgement of lower courts and action for retrials of concluded cases. Additionally, review of last year's Civil Procedure (1) will also be conducted.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・民事訴訟法(1)の復習
- 【2】:複雑訴訟の概観・複数請求訴訟(客観的併合)
- 【3】:複数請求訴訟の周辺(訴えの変更・反訴・中間確認の訴え・重複訴訟)
- 【4】:多数当事者訴訟の概観・通常共同訴訟と周辺
- 【5】:必要的共同訴訟と周辺
- 【6】:補助参加・共同訴訟的補助参加・訴訟告知
- 【7】:独立当事者参加
- 【8】:当事者の変更(訴訟承継・任意的当事者変更)
- 【9】:複雑訴訟の補論・まとめ
- 【10】:上訴総論・控訴①
- 【11】:控訴②
- 【12】:上告
- 【13】:抗告・再審
- 【14】:補論・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

民事訴訟法(1)の内容を丹念に復習しておくこと。

事前に配布される講義資料に従い、十分な予習・復習をして臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

三木浩一ほか『リーガルクエスト民事訴訟法(第4版)』有斐閣 2023 9784641179561

高田裕成ほか『民事訴訟法判例百選(第6版)』有斐閣 2023 9784641115651

※テキストのほかに、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の(近年は改正が多いのでとくに注意)六法を毎回用意すること(アプリ等でも構わないが、筆記試験で利用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献 / Readings

初回授業等において適宜指示する。

その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、予習・復習のための講義資料(レジュメ)は Canvas LMS を通じて電子的に配布する(紙による配布は行わない)。

倒産法

Bankruptcy Law

貝瀬 幸雄 (KAISE YUKIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX058
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

倒産法は債務者の再出発を可能とする。本講義ではそのようなヒューマニスティックな制度である倒産手続の概要を修得する。倒産法は手続法と実体法を総合する法分野であって、諸君が民法で学んだ知識を立体化する楽しみもある領域なのである。

Bankruptcy law enables debtors to make a fresh start. In this course, students will study an overview of such a humanistic system. Bankruptcy law is a field of law which synthesizes procedural law and substantive law, and it is also an area which solidifies the knowledge you have learned in civil law in an enjoyable way.

授業の内容 / Course Contents

倒産手続の申し立てと開始、倒産債権・財団債権・共益債権、管財人の地位、双務契約の処理、倒産債務者財産の管理と換価、再生・再建計画、倒産手続の進行と終了、消費者倒産の諸問題、国際倒産処理について講述する予定である。いずれのテーマについても、破産手続に限定せず、民事再生法・会社更生法の内容も横断的に解説する。

This course will explain the opening of insolvency procedures, bankruptcy claims/estate claims/common basic claims, position of administrators, executory contracts, rehabilitation and reorganization plans, the progress and closure of insolvency proceedings, various problems of consumer insolvency, and international insolvency law. The topics will not be limited to bankruptcy proceedings, but also explain the details of the Civil Rehabilitation Act and Corporate Reorganization Act in an interdisciplinary manner.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 倒産法総論
- 【2】: 倒産手続の申し立てと保全処分
- 【3】: 倒産管理機構
- 【4】: 倒産債権の処理
- 【5】: 倒産債務者の契約関係の規律
- 【6】: 否認権(1)
- 【7】: 否認権(2)
- 【8】: 担保権
- 【9】: 相殺権・取戻権
- 【10】: 倒産債務者財産の管理と換価
- 【11】: 再生計画・更生計画
- 【12】: 倒産手続の進行と終了
- 【13】: 消費者倒産
- 【14】: 国際倒産

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予めテキストの該当箇所を精読しておくこと。講義で言及した判例は『倒産判例百選』で確認しておくように。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

山本和彦『倒産処理法入門 第6版』有斐閣 9784641233256

松下淳一他『倒産判例百選 第6版』有斐閣 9784641115521

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法を学習しておくこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

民事執行・保全法

Civil Execution Law and Civil Provisional Remedies Law

岡成 玄太 (OKANARI GENTA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX059
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

私法上の権利の強制的な実現の手続である民事執行手続、また、暫定的な実現の手続である民事保全手続について、基本的な知識を身につけること。

This course aims to provide students with essential knowledge of civil execution procedures and provisional remedies.

授業の内容 / Course Contents

我が国の民事執行法、民事保全法について、その基本構造及び関連する基本的な判例・学説を説明する。

The course will explain the structure of the Civil Execution Act and the Civil Provisional Remedies Act, along with key related case law and theories.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 民事執行総論
- 【2】: 強制執行の開始、債務名義
- 【3】: 執行文、執行の対象
- 【4】: 執行における救済、執行の停止・取消等
- 【5】: 金銭債権の実現(1)
- 【6】: 金銭債権の実現(2)
- 【7】: 金銭債権の実現(3)
- 【8】: 金銭債権の実現(4)
- 【9】: 非金銭債権の実現(1)
- 【10】: 非金銭債権の実現(2)
- 【11】: 担保権の実行(1)
- 【12】: 担保権の実行(2)
- 【13】: 民事保全の諸類型
- 【14】: 民事保全の手続

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習:教科書の該当部分を熟読した上で講義に臨むことが望ましい。

事後学習:レジュメ・ノートをもとに、講義内容を振り返ること。疑問が生じた場合、教科書等を参照し、なお解消しなければ、教員に質問すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

上原敏夫ほか『民事執行・保全判例百選〔第3版〕』有斐閣 2020 9784641115477

中西正ほか『民事執行・保全法〔第2版〕』有斐閣 2021 9784641179479

別途レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

講義の中で指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

参加者が民法(特に債権総論、担保物権法)及び民事訴訟法に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を進める。

刑事訴訟法

Criminal Procedure

川島 享祐(KAWASHIMA KYOSUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX060
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

刑事手続を規律する原理やルールを理解する。

The objective of this course is to understand the principles and rules which govern the criminal procedure.

授業の内容 / Course Contents

ある人が犯罪を行ったとしても、その人が直ちに処罰されるわけではない。通常、警察官がその犯罪を捜査し、検察官が犯人と疑われる者を起訴し、裁判所がその者を有罪としたときに初めて、犯罪の犯人は処罰されることになる。

この授業では、このような手続を規律する刑事訴訟法を取り扱う。具体的には、まず、捜査から公判に至るまでの手続の通常の流れを概観し、そのうえで、その過程で生じる法的問題点を判例がどのように解決しているのかを分析する。

Even if someone commits a crime, he/she will not be necessarily punished for it. He/she will be punished, only if the police investigate it, the prosecutor indicts him/her as an accused, and the court convicts him/her.

This course examines the law of criminal procedure which rules these processes. At first, we will overview the usual course of criminal procedure from investigation to trial, and then analyze how the case law settles the legal issues that arise in the course of these processes.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 第1部 捜査

捜査手続の全体像

【2】: 強制捜査と任意捜査①

【3】: 強制捜査と任意捜査②

【4】: 捜査の端緒——行政警察活動に対する法的規律等

【5】: 供述を収集・保全する手続

【6】: 被疑者・被告人の身体を拘束する手続①

【7】: 被疑者・被告人の身体を拘束する手続②

【8】: 被疑者・被告人の身体を拘束する手続③

【9】: 被疑者の防御／弁護人の援助を受ける権利

【10】: 証拠となる物を収集・保全する手続①——令状による捜索・差押え①

【11】: 証拠となる物を収集・保全する手続②——令状による捜索・差押え②

【12】: 証拠となる物を収集・保全する手続③——逮捕に伴う無令状の捜索・差押え、領置

【13】: 対象の状態等を認識し証拠として保全する手続／会話・通信の傍受／GPS 捜査

【14】: 第2部 証拠

公判手続・証拠法の全体像

【15】: 証拠の関連性／人の性格の立証／裁判員制度と証拠法

【16】: 刑事手続における専門的知見の利用——鑑定、体液の採取、科学的証拠

- 【17】:物を証拠として使用する場合の法的規律——違法収集証拠排除法則
- 【18】:被告人以外の者の供述を証拠とする場合の法的規律①——伝聞法則
- 【19】:被告人以外の者の供述を証拠とする場合の法的規律②——伝聞例外①
- 【20】:被告人以外の者の供述を証拠とする場合の法的規律③——伝聞例外②
- 【21】:被告人の供述を証拠とする場合の法的規律——自白法則, 補強法則
- 【22】:第3部 公訴の提起と裁判
検察官による公訴の提起
- 【23】:公判前整理手続に関する諸問題
- 【24】:審判対象論／検察官の訴因設定権限／訴因の明示・特定
- 【25】:訴因の変更①
- 【26】:訴因の変更②
- 【27】:裁判
- 【28】:第4部 上訴・非常救済手続
控訴／上告／再審

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にレジュメを配布するので, 授業前に目を通すとともに, 授業で扱う予定の判例を読んでおくこと。
 授業ではレジュメ(あるいは自らのノート)にメモをとることになるので, 授業後には, そのメモを頼りに, 教科書や参考文献を参照しながら復習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
 平常点割合

テキスト / Textbooks

大澤裕＝川出敏裕編 『刑事訴訟法判例百選(第 11 版)』 有斐閣 2024 9784641115675

参考文献 / Readings

寺崎嘉博ほか 『刑事訴訟法(第 7 版)』 有斐閣 2024 9784641222366
 酒巻匡 『刑事訴訟法(第 3 版)』 有斐閣 2024 9784641139688
 宇藤崇ほか 『リーガルクエスト刑事訴訟法(第 3 版)』 有斐閣 2024 9784641179592
 川出敏裕 『判例講座 刑事訴訟法(捜査・証拠篇)(第 2 版)』 立花書房 2021 9784803724967
 川出敏裕 『判例講座 刑事訴訟法(公訴提起・公判・裁判篇)』 立花書房 2018 9784803724882
 池田公博＝笹倉宏紀 『刑事訴訟法』 有斐閣 2022 9784641150911
 初回の授業で, 教科書の選び方などについて説明する。
 授業の内容の理解や発展的な学習に有益な参考文献については, 適宜授業中に紹介する。

その他 / Others

刑事手続というのは, 刑罰法令(＝刑法)を適用実現するためのものであるから(刑事訴訟法 1 条参照), 刑法(総論及び各論)の授業を既に履修済み, あるいは少なくとも履修中でないと, 本講義の内容の理解が難しい可能性がある。

刑事訴訟法(法曹コース)

Criminal Procedure

川島 享祐(KAWASHIMA KYOSUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX061
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

刑事手続を規律する原理やルールを理解する。

The objective of this course is to understand the principles and rules which govern the criminal procedure.

授業の内容 / Course Contents

ある人が犯罪を行ったとしても、その人が直ちに処罰されるわけではない。通常、警察官がその犯罪を捜査し、検察官が犯人と疑われる者を起訴し、裁判所がその者を有罪としたときに初めて、犯罪の犯人は処罰されることになる。

この授業では、このような手続を規律する刑事訴訟法を取り扱う。具体的には、まず、捜査から公判に至るまでの手続の通常の流れを概観し、そのうえで、その過程で生じる法的問題点を判例がどのように解決しているのかを分析する。

Even if someone commits a crime, he/she will not be necessarily punished for it. He/she will be punished, only if the police investigate it, the prosecutor indicts him/her as an accused, and the court convicts him/her.

This course examines the law of criminal procedure which rules these processes. At first, we will overview the usual course of criminal procedure from investigation to trial, and then analyze how the case law settles the legal issues that arise in the course of these processes.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 第1部 捜査

捜査手続の全体像

【2】: 強制捜査と任意捜査①

【3】: 強制捜査と任意捜査②

【4】: 捜査の端緒——行政警察活動に対する法的規律等

【5】: 供述を収集・保全する手続

【6】: 被疑者・被告人の身体を拘束する手続①

【7】: 被疑者・被告人の身体を拘束する手続②

【8】: 被疑者・被告人の身体を拘束する手続③

【9】: 被疑者の防御／弁護人の援助を受ける権利

【10】: 証拠となる物を収集・保全する手続①——令状による捜索・差押え①

【11】: 証拠となる物を収集・保全する手続②——令状による捜索・差押え②

【12】: 証拠となる物を収集・保全する手続③——逮捕に伴う無令状の捜索・差押え、領置

【13】: 対象の状態等を認識し証拠として保全する手続／会話・通信の傍受／GPS 捜査

【14】: 第2部 証拠

公判手続・証拠法の全体像

【15】: 証拠の関連性／人の性格の立証／裁判員制度と証拠法

【16】: 刑事手続における専門的知見の利用——鑑定、体液の採取、科学的証拠

- 【17】:物を証拠として使用する場合の法的規律——違法収集証拠排除法則
- 【18】:被告人以外の者の供述を証拠とする場合の法的規律①——伝聞法則
- 【19】:被告人以外の者の供述を証拠とする場合の法的規律②——伝聞例外①
- 【20】:被告人以外の者の供述を証拠とする場合の法的規律③——伝聞例外②
- 【21】:被告人の供述を証拠とする場合の法的規律——自白法則, 補強法則
- 【22】:第3部 公訴の提起と裁判
検察官による公訴の提起
- 【23】:公判前整理手続に関する諸問題
- 【24】:審判対象論／検察官の訴因設定権限／訴因の明示・特定
- 【25】:訴因の変更①
- 【26】:訴因の変更②
- 【27】:裁判
- 【28】:第4部 上訴・非常救済手続
控訴／上告／再審

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にレジュメを配布するので, 授業前に目を通すとともに, 授業で扱う予定の判例を読んでおくこと。
 授業ではレジュメ(あるいは自らのノート)にメモをとることになるので, 授業後には, そのメモを頼りに, 教科書や参考文献を参照しながら復習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
 平常点割合

テキスト / Textbooks

大澤裕＝川出敏裕編 『刑事訴訟法判例百選(第 11 版)』 有斐閣 2024 9784641115675

参考文献 / Readings

寺崎嘉博ほか 『刑事訴訟法(第 7 版)』 有斐閣 2024 9784641222366
 酒巻匡 『刑事訴訟法(第 3 版)』 有斐閣 2024 9784641139688
 宇藤崇ほか 『リーガルクエスト刑事訴訟法(第 3 版)』 有斐閣 2024 9784641179592
 川出敏裕 『判例講座 刑事訴訟法(捜査・証拠篇)(第 2 版)』 立花書房 2021 9784803724967
 川出敏裕 『判例講座 刑事訴訟法(公訴提起・公判・裁判篇)』 立花書房 2018 9784803724882
 池田公博＝笹倉宏紀 『刑事訴訟法』 有斐閣 2022 9784641150911
 初回の授業で, 教科書の選び方などについて説明する。
 授業の内容の理解や発展的な学習に有益な参考文献については, 適宜授業中に紹介する。

その他 / Others

刑事手続というのは, 刑罰法令(＝刑法)を適用実現するためのものであるから(刑事訴訟法 1 条参照), 刑法(総論及び各論)の授業を既に履修済み, あるいは少なくとも履修中でないと, 本講義の内容の理解が難しい可能性がある。

行政法1

Administrative Law 1
行政法入門・行政法総論

神橋 一彦 (KANBASHI KAZUHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX071
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

行政は、立法、司法と並んで、国家作用の1つであるが、行政法はこの行政に関する法的規律(ルール)を扱う分野である。国家の作用については、憲法が、権力分立と基本的人権の保障を基礎に基本的な事項を定めているが、行政法は、この憲法や「法律による行政の原理」(法治主義)に基づいて、国や地方公共団体などが行う行政活動のあり方について具体的に定めるものである。したがって、憲法(とりわけ憲法訴訟)を理解するためには、行政法の知識が必要不可欠である。また、他方で行政は、租税、労働・社会保障、環境保護、経済規制、知的財産保護などの個別分野にも関わるものであるから、これらにかかわる法分野を学ぶ前提としても、行政法の知識は必要である。その意味で行政法は、いわゆる六法とともに基本的な法分野として位置づけられている(いわゆる七法)。

この授業は、行政法の入門も含め、「授業の内容」に示された事項につき、行政法の基本的な考え方を理解することを基本的な目標とし、公務員や法曹、さらには企業法務などを目指す学生にとっても、それぞれの目標を達成するための確固とした基礎を形成する。

Administration is one government function which stands side-by-side with legislation and the administration of justice, but Administrative Law is the area which covers the legal framework (rules) concerning administration. With regard to government functions, the Constitution establishes fundamental matters based on the separation of powers and the guarantee of basic human rights, but Administrative Law specifically establishes the ideal form of administrative activities carried out by the nation and local public organizations based on the Constitution and "legally based administrative principles" (rule of law). Therefore, knowledge of Administrative Law is essential to understand the Constitution (especially constitutional litigation). Moreover, because on the other hand administration is also involved in individual areas such as taxation, labor and social insurance, environmental protection, economic regulation, and the protection of intellectual property, knowledge of Administrative Law is required for legal fields involved in these activities as well. In that sense, Administrative Law is positioned as a fundamental field of law together with the so-called six major legal codes (referred to as the seven major legal codes).

With regard to the items indicated in the "class content", the fundamental objective of this course, including the introduction to Administrative Law, is to understand the fundamental way of thinking of Administrative Law to form a solid foundation for students aiming to become public servants, judicial officers, and corporate law personnel, etc. to achieve each of their goals.

授業の内容 / Course Contents

行政法のうち、この行政法1では、行政法の基本原理と行政活動に対する法的規律の仕組みについて扱う。なお、2026 年度春学期開講予定の行政法2は、この行政法1を受けて、違法な行政活動などに対する国民の権利救済について定める行政救済法を扱う。

具体的には、(1)憲法と行政法との関係や、行政法の基本原理である「法律による行政の原理」など、行政法の基本的

な枠組みについて説明する。その上で、(2)行政行為、行政立法、行政指導、行政契約、行政計画、行政強制などの「行政活動の行為形式」とその法的規律について概観する。

行政法1の分野は、個別の事項(論点・制度など)が他の事項と有機的に関連していることが多いので、講義にあたってもそのような事項相互の関連にも言及する。したがって、受講に当たっても、授業の最初から最後まで聴いてはじめて、最終的に全体がわかるという内容であることに留意して欲しい。

Within Administrative Law, this Administrative Law 1 course covers the basic principles of Administrative Law and the legal framework for administrative activities. Furthermore, the Administrative Law 2 course scheduled to be held during the spring semester of the 2026 academic year will continue on from Administrative Law 1 and cover the Administrative Remedy Act which establishes remedies for the violations of the people's rights with regards to illegal administrative activities.

Specifically, this course will explain (1) the basic framework of Administrative Law including the relationship between the Constitution and Administrative Law and the "principle of administration by law" which is the fundamental principle of Administrative Law. In addition, it will survey (2) administrative acts, administrative legislation, administrative guidance, administrative contracts, administrative planning, administrative compulsion, and other "action types of administrative activities."

The field of Administrative Law 1 has many individual matters (arguments, systems, etc.) which organically relate to other matters, so the lectures will also refer to the mutual relationships between such matters. Therefore, please note that when it comes to attending class, the content is such that you will ultimately understand the entire discussion if you listen from the beginning to the end.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 1. 行政・行政法・行政法学(1)
- 【2】: 1. 行政・行政法・行政法学(2)
- 【3】: 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(1)
- 【4】: 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(2)
- 【5】: 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(3)
- 【6】: 3. 行政法の一般原理(その2)
ーその他の諸原理・原則(1)
- 【7】: 3. 行政法の一般原理(その2)
ーその他の諸原理・原則(2)
- 【8】: 4. 行政法関係の基本構造(1)
- 【9】: 4. 行政法関係の基本構造(2)
- 【10】: 5. 行政法総論(行政作用法)の基本的視角
- 【11】: 6. 行政立法(1)
- 【12】: 6. 行政立法(2)
- 【13】: 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(1)
- 【14】: 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(2)
- 【15】: 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(3)
- 【16】: 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(1)
- 【17】: 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(2)
- 【18】: 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(3)
- 【19】: 9. 行政行為(その3)ー行政手続(1)
- 【20】: 9. 行政行為(その3)ー行政手続(2)
- 【21】: 10. 行政強制・行政上の義務の履行確保
- 【22】: 11. 行政指導(1)
- 【23】: 12. 行政指導(2)
- 【24】: 12. 行政契約
- 【25】: 13. 行政計画
- 【26】: 14. 行政調査

【27】:15. 情報公開・個人情報保護・公文書管理

【28】:16. 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定する次の授業内容について、指示された教材に目を通して頂くこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

基本的にはレジュメにそって授業を行うが、内容的な確認、補充は参考文献(稲葉馨ほか『行政法 第5版 (LEGAL QUEST)』など)で行うこと。また、行政法の学習には判例の理解が必須であるので、宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ 第8版』を参照すること。

参考文献 / Readings

塩野宏(著)『行政法Ⅰ 行政法総論(第6版補訂版)』有斐閣 2023 9784641228634

宇賀克也(著)『行政法概説Ⅰ 行政法総論(第8版)』有斐閣 2023 9784641228535

大橋 洋一(著)『行政法1 現代行政過程論(第5版)』有斐閣 2023 9784641228498

稲葉 馨(著), 人見 剛(著), 村上 裕章(著), 前田 雅子(著)『行政法 第5版 (LEGAL QUEST)』有斐閣 2023 9784641179554

藤田宙靖(著)『[新版]行政法総論 上』青林書院 2020 9784417017844

斎藤誠＝山本隆司(編集)『行政判例百選Ⅰ 第8版(別冊ジュリスト 235)』有斐閣 2022 9784641115606

神橋一彦(著)『行政救済法(第3版)』信山社 2023 9784797280364

参考文献の詳細については、授業の冒頭で説明する。

その他 / Others

関連科目としては、憲法(憲法(1), 憲法(2))があげられる。法曹を志望する学生は、行政法1(行政法総論)および行政法2(行政救済法)の範囲を学習する必要があるため、その点留意すること。

行政法2

Administrative Law 2

行政救済法(行政争訟法・国家補償法)

松戸 浩(MATSUDO HIROSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX072
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

行政法1で学んだ行政法総論の知識を前提に、行政活動に対する国民の権利救済(行政争訟・国家補償)について学ぶ。行政訴訟制度、行政不服審査制度、国家賠償制度などの知識は、法曹・法律家にとって必要不可欠であるのみならず、公務員にとっても、とりわけ近年、行政不服審査制度(行政内部での紛争処理)の拡充などもあり、格段に重要性が増している。本講義では、このような状況に鑑み、行政救済法の現状と基礎的な事項について、理解を深めることを目的とする。また憲法で扱う憲法訴訟の深い理解には、行政法2の内容の理解が必須である。

Based on knowledge of the General Law of Administrative Law learned in Administrative Law 1, this course aims to teach students about the rights of citizens for remedy of administrative activities. Knowledge of the administrative litigation system and other remedial systems is not only indispensable for lawyers but also for public officers. The purpose of this course is to deepen students' understanding of the current situation and basic matters of Administrative Remedial Law. In addition, for students' deep understanding of judicial review within the Constitution, they must understand the contents of Administrative Law 2.

授業の内容 / Course Contents

行政法1で学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われなければならない。しかし現実の行政活動においては、行政活動が違法に行われることがあり、その際の国民の権利救済の方途が重要な問題となる。また、それは法律による行政の原理を実効あらしめるためにも必要なことである。この講義では、わが国の行政救済制度を構成する行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、(適法行為に起因する損失に関する)損失補償について概観する。行政法は、それぞれの部分が一話読み切りのものではなく、行政法1・2を通して最初から最後までを勉強して全体が理解できるものである。

As students learned in Administrative Law 1, administrative activities must be conducted in accordance with the law, based on legal principles of administrative administration. However, in actuality, administrative activities are sometimes performed illegally, so how to remedy people's rights at that time is an important issue. Making the administrative principles of the law effective is also necessary. Thus, this course aims to provide an overview of administrative remedial systems in Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 序論
- 【2】: 行政訴訟法概説・行政事件訴訟法の訴訟類型
- 【3】: 取消訴訟 1
- 【4】: 取消訴訟 2
- 【5】: 無効確認訴訟
- 【6】: 不作為の違法確認訴訟

- 【7】:義務付け訴訟・差止訴訟
- 【8】:無名抗告訴訟
- 【9】:当事者訴訟・民衆訴訟
- 【10】:機関訴訟・訴訟要件一不服申立前置
- 【11】:訴訟要件一被告適格・管轄・出訴期間・教示
- 【12】:原告適格 1
- 【13】:原告適格 2
- 【14】:執行停止 1
- 【15】:執行停止 2
- 【16】:訴えの審理
- 【17】:違法性の判断基準時
- 【18】:判決 1
- 【19】:判決 2
- 【20】:狭義の行政争訟法概説
- 【21】:行政上の不服申立て 1
- 【22】:行政上の不服申立て 2・その他の行政争訟
- 【23】:国家補償法概説・公権力の行使に基づく損害の賠償責任 1
- 【24】:公権力の行使に基づく損害の賠償責任 2
- 【25】:公権力の行使に基づく損害の賠償責任 3
- 【26】:公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 1
- 【27】:公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 2
- 【28】:損失補償

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の前に、授業で取り扱う内容につき下記の教科書の該当部分を読んでおく授業の理解に資するであろう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

稲葉他『リーガルクエスト行政法』有斐閣 2023 9784641179554

宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅱ(第8版)』有斐閣 2022 9784641115613

百選は毎回授業で参照するので持参されたい。

参考文献 / Readings

教科書以外の参考文献は適宜授業中に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

行政法1を履修済であることが望ましい。

行政法1(法曹コース)

Administrative Law 1
行政法入門・行政法総論

神橋 一彦(KANBASHI KAZUHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX073
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

行政は、立法、司法と並んで、国家作用の1つであるが、行政法はこの行政に関する法的規律(ルール)を扱う分野である。国家の作用については、憲法が、権力分立と基本的人権の保障を基礎に基本的な事項を定めているが、行政法は、この憲法や「法律による行政の原理」(法治主義)に基づいて、国や地方公共団体などが行う行政活動のあり方について具体的に定めるものである。したがって、憲法(とりわけ憲法訴訟)を理解するためには、行政法の知識が必要不可欠である。また、他方で行政は、租税、労働・社会保障、環境保護、経済規制、知的財産保護などの個別分野にも関わるものであるから、これらにかかわる法分野を学ぶ前提としても、行政法の知識は必要である。その意味で行政法は、いわゆる六法とともに基本的な法分野として位置づけられている(いわゆる七法)。

この授業は、行政法の入門も含め、「授業の内容」に示された事項につき、行政法の基本的な考え方を理解することを基本的な目標とし、公務員や法曹、さらには企業法務などを目指す学生にとっても、それぞれの目標を達成するための確固とした基礎を形成する。

Administration is one government function which stands side-by-side with legislation and the administration of justice, but Administrative Law is the area which covers the legal framework (rules) concerning administration. With regard to government functions, the Constitution establishes fundamental matters based on the separation of powers and the guarantee of basic human rights, but Administrative Law specifically establishes the ideal form of administrative activities carried out by the nation and local public organizations based on the Constitution and "legally based administrative principles" (rule of law). Therefore, knowledge of Administrative Law is essential to understand the Constitution (especially constitutional litigation). Moreover, because on the other hand administration is also involved in individual areas such as taxation, labor and social insurance, environmental protection, economic regulation, and the protection of intellectual property, knowledge of Administrative Law is required for legal fields involved in these activities as well. In that sense, Administrative Law is positioned as a fundamental field of law together with the so-called six major legal codes (referred to as the seven major legal codes).

With regard to the items indicated in the "class content", the fundamental objective of this course, including the introduction to Administrative Law, is to understand the fundamental way of thinking of Administrative Law to form a solid foundation for students aiming to become public servants, judicial officers, and corporate law personnel, etc. to achieve each of their goals.

授業の内容 / Course Contents

行政法のうち、この行政法1では、行政法の基本原理と行政活動に対する法的規律の仕組みについて扱う。なお、2026年度春学期開講予定の行政法2は、この行政法1を受けて、違法な行政活動などに対する国民の権利救済について定める行政救済法を扱う。

具体的には、(1)憲法と行政法との関係や、行政法の基本原理である「法律による行政の原理」など、行政法の基本的

な枠組みについて説明する。その上で、(2)行政行為、行政立法、行政指導、行政契約、行政計画、行政強制などの「行政活動の行為形式」とその法的規律について概観する。

行政法1の分野は、個別の事項(論点・制度など)が他の事項と有機的に関連していることが多いので、講義にあたってもそのような事項相互の関連にも言及する。したがって、受講に当たっても、授業の最初から最後まで聴いてはじめて、最終的に全体がわかるという内容であることに留意して欲しい。

Within Administrative Law, this Administrative Law 1 course covers the basic principles of Administrative Law and the legal framework for administrative activities. Furthermore, the Administrative Law 2 course scheduled to be held during the spring semester of the 2026 academic year will continue on from Administrative Law 1 and cover the Administrative Remedy Act which establishes remedies for the violations of the people's rights with regards to illegal administrative activities.

Specifically, this course will explain (1) the basic framework of Administrative Law including the relationship between the Constitution and Administrative Law and the "principle of administration by law" which is the fundamental principle of Administrative Law. In addition, it will survey (2) administrative acts, administrative legislation, administrative guidance, administrative contracts, administrative planning, administrative compulsion, and other "action types of administrative activities."

The field of Administrative Law 1 has many individual matters (arguments, systems, etc.) which organically relate to other matters, so the lectures will also refer to the mutual relationships between such matters. Therefore, please note that when it comes to attending class, the content is such that you will ultimately understand the entire discussion if you listen from the beginning to the end.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 1. 行政・行政法・行政法学(1)
- 【2】: 1. 行政・行政法・行政法学(2)
- 【3】: 2. 行政法の一般原理(その1)
－法治主義(1)
- 【4】: 2. 行政法の一般原理(その1)
－法治主義(2)
- 【5】: 2. 行政法の一般原理(その1)
－法治主義(3)
- 【6】: 3. 行政法の一般原理(その2)
－その他の諸原理・原則(1)
- 【7】: 3. 行政法の一般原理(その2)
－その他の諸原理・原則(2)
- 【8】: 4. 行政法関係の基本構造(1)
- 【9】: 4. 行政法関係の基本構造(2)
- 【10】: 5. 行政法総論(行政作用法)の基本的視角
- 【11】: 6. 行政立法(1)
- 【12】: 6. 行政立法(2)
- 【13】: 7. 行政行為(その1)
－概念・分類・効力など(1)
- 【14】: 7. 行政行為(その1)
－概念・分類・効力など(2)
- 【15】: 7. 行政行為(その1)
－概念・分類・効力など(3)
- 【16】: 8. 行政行為(その2)－行政裁量(1)
- 【17】: 8. 行政行為(その2)－行政裁量(2)
- 【18】: 8. 行政行為(その2)－行政裁量(3)
- 【19】: 9. 行政行為(その3)－行政手続(1)
- 【20】: 9. 行政行為(その3)－行政手続(2)
- 【21】: 10. 行政強制・行政上の義務の履行確保
- 【22】: 11. 行政指導(1)
- 【23】: 12. 行政指導(2)
- 【24】: 12. 行政契約
- 【25】: 13. 行政計画
- 【26】: 14. 行政調査

【27】:15. 情報公開・個人情報保護・公文書管理

【28】:16. 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定する次の授業内容について、指示された教材に目を通して頂くこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

基本的にはレジュメにそって授業を行うが、内容的な確認、補充は参考文献(稲葉馨ほか『行政法 第5版 (LEGAL QUEST)』など)で行うこと。また、行政法の学習には判例の理解が必須であるので、宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ 第8版』を参照すること。

参考文献 / Readings

塩野宏(著)『行政法Ⅰ 行政法総論(第6版補訂版)』有斐閣 2023 9784641228634

宇賀克也(著)『行政法概説Ⅰ 行政法総論(第8版)』有斐閣 2023 9784641228535

大橋 洋一(著)『行政法1 現代行政過程論(第5版)』有斐閣 2023 9784641228498

稲葉 馨(著), 人見 剛(著), 村上 裕章(著), 前田 雅子(著)『行政法 第5版 (LEGAL QUEST)』有斐閣 2023 9784641179554

藤田宙靖(著)『[新版]行政法総論 上』青林書院 2020 9784417017844

斎藤誠＝山本隆司(編集)『行政判例百選Ⅰ 第8版(別冊ジュリスト 235)』有斐閣 2022 9784641115606

神橋一彦(著)『行政救済法(第3版)』信山社 2023 9784797280364

参考文献の詳細については、授業の冒頭で説明する。

その他 / Others

関連科目としては、憲法(憲法(1), 憲法(2))があげられる。法曹を志望する学生は、行政法1(行政法総論)および行政法2(行政救済法)の範囲を学習する必要があるため、その点留意すること。

行政法2(法曹コース)

Administrative Law 2

行政救済法(行政争訟法・国家補償法)

松戸 浩(MATSUDO HIROSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX074
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

行政法1で学んだ行政法総論の知識を前提に、行政活動に対する国民の権利救済(行政争訟・国家補償)について学ぶ。行政訴訟制度、行政不服審査制度、国家賠償制度などの知識は、法曹・法律家にとって必要不可欠であるのみならず、公務員にとっても、とりわけ近年、行政不服審査制度(行政内部での紛争処理)の拡充などもあり、格段に重要性が増している。本講義では、このような状況に鑑み、行政救済法の現状と基礎的な事項について、理解を深めることを目的とする。また憲法で扱う憲法訴訟の深い理解には、行政法2の内容の理解が必須である。

Based on knowledge of the General Law of Administrative Law learned in Administrative Law 1, this course aims to teach students about the rights of citizens for remedy of administrative activities. Knowledge of the administrative litigation system and other remedial systems is not only indispensable for lawyers but also for public officers. The purpose of this course is to deepen students' understanding of the current situation and basic matters of Administrative Remedial Law. In addition, for students' deep understanding of judicial review within the Constitution, they must understand the contents of Administrative Law 2.

授業の内容 / Course Contents

行政法1で学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われなければならない。しかし現実の行政活動においては、行政活動が違法に行われることがあり、その際の国民の権利救済の方途が重要な問題となる。また、それは法律による行政の原理を実効あらしめるためにも必要なことである。この講義では、わが国の行政救済制度を構成する行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、(適法行為に起因する損失に関する)損失補償について概観する。行政法は、それぞれの部分が一話読み切りのものではなく、行政法1・2を通して最初から最後までを勉強して全体が理解できるものである。

As students learned in Administrative Law 1, administrative activities must be conducted in accordance with the law, based on legal principles of administrative administration. However, in actuality, administrative activities are sometimes performed illegally, so how to remedy people's rights at that time is an important issue. Making the administrative principles of the law effective is also necessary. Thus, this course aims to provide an overview of administrative remedial systems in Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:序論
- 【2】:行政訴訟法概説・行政事件訴訟法の訴訟類型
- 【3】:取消訴訟 1
- 【4】:取消訴訟 2
- 【5】:無効確認訴訟
- 【6】:不作為の違法確認訴訟

- 【7】:義務付け訴訟・差止訴訟
- 【8】:無名抗告訴訟
- 【9】:当事者訴訟・民衆訴訟
- 【10】:機関訴訟・訴訟要件一不服申立前置
- 【11】:訴訟要件一被告適格・管轄・出訴期間・教示
- 【12】:原告適格 1
- 【13】:原告適格 2
- 【14】:執行停止 1
- 【15】:執行停止 2
- 【16】:訴えの審理
- 【17】:違法性の判断基準時
- 【18】:判決 1
- 【19】:判決 2
- 【20】:狭義の行政争訟法概説
- 【21】:行政上の不服申立て 1
- 【22】:行政上の不服申立て 2・その他の行政争訟
- 【23】:国家補償法概説・公権力の行使に基づく損害の賠償責任 1
- 【24】:公権力の行使に基づく損害の賠償責任 2
- 【25】:公権力の行使に基づく損害の賠償責任 3
- 【26】:公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 1
- 【27】:公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 2
- 【28】:損失補償

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の前に、授業で取り扱う内容につき下記の教科書の該当部分を読んでおく授業の理解に資するであろう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

稲葉他『リーガルクエスト行政法』有斐閣 2023 9784641179554

宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選Ⅱ(第8版)』有斐閣 2022 9784641115613

百選は毎回授業で参照するので持参されたい。

参考文献 / Readings

教科書以外の参考文献は適宜授業中に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

行政法1を履修済であることが望ましい。

金融取引法1

Law of Financial Transactions 1

藤澤 治奈 (FUJISAWA HARUNA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX075
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、金銭債権の履行を確保するための方法について、専門的な理解を得ることを目標とします。

The objective of this course is to achieve a specialized understanding of the systems about the securement of the fulfillment of monetary claims.

授業の内容 / Course Contents

民法第2編「物権」のうち、いわゆる担保物権法(第2編第7-10章)と、債権総論(第3編第1章)のうち多数当事者の債権債務、弁済による代位、相殺の部分について講義を行います。

これらのルールは、おおむね、金銭債権の履行確保手段に関わる制度です。例えば、銀行が企業に事業資金を貸し付けるとき、銀行は自らの貸金債権の回収を確実なものにするためにどのような手段をとらるか。このような場面に関わるルールを学びます。そして、これらのルールは、私たちの経済生活で不可欠な金融取引に密接に関連しています。

This course deals with the basic concepts and principles of Law of Securities (Part II, Chapter VII-X of the Civil Code) and claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, and set-offs in the general theory of claims (Part III, Chapter I of the Civil Code).

These rules which are to secure the fulfillment of monetary claims are related to financial transactions which are essential for our everyday life.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 金融と担保
- 【2】: 担保物権の種類
- 【3】: 抵当権①
- 【4】: 抵当権②
- 【5】: 抵当権③
- 【6】: 抵当権④
- 【7】: 抵当権⑤
- 【8】: 非典型担保①
- 【9】: 非典型担保②
- 【10】: 質権・留置権・先取特権
- 【11】: 保証①
- 【12】: 保証②・弁済による代位
- 【13】: 多数当事者の債権債務
- 【14】: 相殺

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習:教科書の指定した頁を読んてくること(毎回約 2 時間)

復習:授業中に出題した設例に対して独力で解答できるよう練習すること(毎回約 2 時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

水津太郎・鳥山泰志・藤澤治奈 『民法②物権 判例 30 ! [第 2 版]』 有斐閣 2023 9784641233133

鳥山泰志・藤澤治奈 『民法3 担保物権』(有斐閣ストゥディア) 有斐閣 2021 9784641150867

授業では六法を使用します。

参考文献 / Readings

栗田昌裕・坂口甲・下村信江・吉永一行 『民法 4 債権総論[第 2 版]』(有斐閣ストゥディア) 有斐閣 2024

石田剛・荻野奈緒・齋藤由起 『債権総論[第 2 版]』(日評ベーシックシリーズ) 日本評論社 2023 9784535806993

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法(1)および民法(2)(又は民法概論)の内容はおおむね理解していることを前提に講義を進めます。これらの科目を履修していない方が、この授業の単位を取得することは困難ですので、注意してください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業で使用する資料は、Canvas LMS を通じて配布します。

金融取引法2

Law of Financial Transactions 2

支払決済法

河村 賢治 (KAWAMURA KENJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX076
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、物やサービスの取引において行われる支払ないし決済に関わる法について、基本的な理解を深めることを目標とする。

The aim is for students to deepen their understanding in the basics of laws pertaining to payments or settlements made in transactions involving goods or services.

授業の内容 / Course Contents

物やサービスに関する取引について、通常これは有償で行われ、支払という行為、ないし決済という債権債務関係を消滅させる行為が伴うことになる。われわれの日常の取引であれば、現金による支払・決済がなされることも少なくないが、商取引の世界では、さまざまなリスク等にかんがみて、むしろ現金によってそれが行われることはまれである。

本講義では、われわれの現実世界で用いられる多様な支払方法・決済方法を機能的に理解するとともに、これを規律する法的仕組みについて扱うこととしたい。

Transactions related to goods or services generally involve a fee, entailing a payment or settlement by which a credit-debt relationship is terminated. We often use cash to make payments or settlements in our daily transactions. However, due to various risks, etc., it is rare for payments or settlements to be made in cash in the world of commercial transactions.

In this course, students will develop an understanding of the diverse payment methods and settlement methods used in our world from a functional perspective and learn about the legal mechanisms that regulate such methods.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、決済システム①
- 【2】: 決済システム②、手形・小切手①
- 【3】: 手形・小切手②
- 【4】: 手形・小切手③、電子記録債権①
- 【5】: 電子記録債権②、銀行振込等①
- 【6】: 銀行振込等②、デビットカード
- 【7】: クレジットカード①
- 【8】: クレジットカード②
- 【9】: プリペイド①
- 【10】: プリペイド②、QRコード決済①
- 【11】: QRコード決済②、ステーブルコイン①
- 【12】: ステーブルコイン②、暗号資産①

【13】:暗号資産②

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

動きの激しい分野であるため、関連する経済ニュースを読んでおくとよい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

初回に紹介する。

参考文献 / Readings

金融取引法1(法曹コース)

Law of Financial Transactions 1

藤澤 治奈 (FUJISAWA HARUNA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX077
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、金銭債権の履行を確保するための方法について、専門的な理解を得ることを目標とします。

The objective of this course is to achieve a specialized understanding of the systems about the securement of the fulfillment of monetary claims.

授業の内容 / Course Contents

民法第2編「物権」のうち、いわゆる担保物権法(第2編第7-10章)と、債権総論(第3編第1章)のうち多数当事者の債権債務、弁済による代位、相殺の部分について講義を行います。

これらのルールは、おおむね、金銭債権の履行確保手段に関わる制度です。例えば、銀行が企業に事業資金を貸し付けるとき、銀行は自らの貸金債権の回収を確実なものにするためにどのような手段をとりうるか。このような場面に関わるルールを学びます。そして、これらのルールは、私たちの経済生活で不可欠な金融取引に密接に関連しています。

This course deals with the basic concepts and principles of Law of Securities (Part II, Chapter VII-X of the Civil Code) and claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, and set-offs in the general theory of claims (Part III, Chapter I of the Civil Code).

These rules which are to secure the fulfillment of monetary claims are related to financial transactions which are essential for our everyday life.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 金融と担保
- 【2】: 担保物権の種類
- 【3】: 抵当権①
- 【4】: 抵当権②
- 【5】: 抵当権③
- 【6】: 抵当権④
- 【7】: 抵当権⑤
- 【8】: 非典型担保①
- 【9】: 非典型担保②
- 【10】: 質権・留置権・先取特権
- 【11】: 保証①
- 【12】: 保証②・弁済による代位
- 【13】: 多数当事者の債権債務
- 【14】: 相殺

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習:教科書の指定した頁を読むこと(毎回約 2 時間)

復習:授業中に出题した設例に対して独力で解答できるよう練習すること(毎回約 2 時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

水津太郎・鳥山泰志・藤澤治奈 『民法②物権 判例 30 ! [第 2 版]』 有斐閣 2023 9784641233133

鳥山泰志・藤澤治奈 『民法3 担保物権』(有斐閣ストゥディア) 有斐閣 2021 9784641150867

授業では六法を使用します。

参考文献 / Readings

栗田昌裕・坂口甲・下村信江・吉永一行 『民法 4 債権総論[第 2 版]』(有斐閣ストゥディア) 有斐閣 2024

石田剛・荻野奈緒・齋藤由起 『債権総論[第 2 版]』(日評ベーシックシリーズ) 日本評論社 2023 9784535806993

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法(1)および民法(2)(又は民法概論)の内容はおおむね理解していることを前提に講義を進めます。これらの科目を履修していない方が、この授業の単位を取得することは困難ですので、注意してください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業で使用する資料は、Canvas LMS を通じて配布します。

労働法

Labor Law

島村 暁代 (SHIMAMURA AKIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX080
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

わが国の労働法の体系を理解し、基礎的な知識を習得するとともに、日本の雇用社会の現在と将来について考えるきっかけを与えることである。

The objectives of this course are to understand the structure of Labor Law and learn the basic knowledge as well as to give a chance to think of your own opinion about the current and the future of the employment society in Japan.

授業の内容 / Course Contents

労働法とは「労働」を規律する法の総称である。その分類にはいくつかの方法があるが、契約関係に着目すると、ひとりひとりの労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係法」と、労働者の集団(労働組合)と使用者との関係を規律する「集団的労使関係法」との2つに大別される。本講義では、まず労働法の体系や法源に関する概要を説明した上で労働の現場で直面するであろう問題を切り口に個別的労働関係法を解説する。その後、集団的労使関係法を扱う。必要に応じて、契約関係の外側にある労働市場の入口・出口に関する規制や紛争解決の実効性確保のための仕組みについても取り上げる。

Labor Law is the generic name for the laws which regulate "labor." There are several ways to classify labor laws, but they can be largely divided into two groups. Focusing on contractual relationships, there are the "Acts Pertaining to Individual Labor Relations", which regulate the relationship between individual laborers and the employer, and the "Acts Pertaining to Collective Labor Relations", which regulate the relationship between a group of laborers (labor union) and the employer. The lectures will first explain the structure of Labor Law and the legal source of the grand design before going on to describe the Acts Pertaining to Individual Labor Relations on problems which are likely to be directly confronted in the workplace. After that, we will explain the Acts Pertaining to Collective Labor Relations. While combining these two pillars, this course will cover the regulations concerning the entrances and exits of the labor market which exist outside of contractual relationships and the mechanisms for ensuring the effectiveness of dispute resolutions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 労働契約と労働法の法源
- 【3】: 労働法における当事者(労基法)
- 【4】: 労働法における当事者(労組法)
- 【5】: 労働契約上の権利義務
- 【6】: 労働憲章・雇用平等
- 【7】: 雇用関係の成立(募集、内定)
- 【8】: 雇用関係の成立(採用、試用)

- 【9】:雇用関係の存続(昇進・昇格、降格)
- 【10】:雇用関係の存続(配転、出向、転籍、休職)
- 【11】:雇用関係の終了(解雇)
- 【12】:雇用関係の終了(辞職、合意解約等)
- 【13】:非正規労働者の問題(有期)
- 【14】:非正規労働者の問題(パート・派遣等)
- 【15】:労働者の安全・健康の確保
- 【16】:賃金(賃金請求権)
- 【17】:賃金(賃金に対する法規制, 賞与, 退職金等)
- 【18】:労働時間(労働時間, 休憩, 休日に関する原則)
- 【19】:労働時間(原則以外の仕組み)
- 【20】:休暇(年休)
- 【21】:休暇・休業(産休・育休・介休等)
- 【22】:労働条件の変更(合意変更、就業規則の変更)
- 【23】:労働条件の変更(労働協約の変更)
- 【24】:労働組合・団体交渉
- 【25】:労働協約・団体行動
- 【26】:不当労働行為
- 【27】:労働紛争処理システム
- 【28】:企業組織の変動等

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・理解度等に応じて授業の進行を調整する。
- ・六法等, 法令集を持参すること(『労働関係法規集』(労働政策研究・研修機構)も有益である)。
- ・民法の基礎的知識があることが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%
平常点割合 :40% 小テスト:40% 最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

水町勇一郎『労働法(第10版)』有斐閣 2024
森戸英幸『プレップ労働法(第6版)』弘文堂 2023
講義中に指示する。

参考文献 / Readings

村中孝史・荒木尚志編『労働法判例百選(第10版)』有斐閣 2022
講義中に指示する。

社会保障法

Social Security Law

島村 暁代 (SHIMAMURA AKIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX090
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会保障法が守備範囲とする領域は非常に膨大であり、内容も複雑であるが、その全体像をつかむことによって、社会保障法に関するおおまかな見取り図を自分の頭で描くことができるようにする。また、日本の社会保障制度についての基本的な仕組みと、法的紛争についての知識を得た上で、社会保障法に関連して存在する各種の課題について、どこが問題であるかを把握できるようにすることを目的とする。

The fields of the Social Security Law are very wide and the contexts are very complicated. The objectives of this course is to grasp an overall picture of the Social Security System in Japan as well as to acquire the fundamental structure of the systems and juridical knowledge about conflicts.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、人のライフステージにあわせて関係すると思われる社会保障制度を講義していく。その点で制度ごとに社会保障制度を概観するオーソドックスな手法とは異なる。こうした講義を通じて社会保障法についての基本的な理解を深めるとともに、それぞれの制度の重要性や機能を確認する。それぞれの場面において関連する裁判例や制度改革の議論にも適宜触れる。

This lecture will give a lecture on the social security system related to people's life stages. In this respect, it is not an orthodox institutional theory. Each discussion will structure the class so that students will be able to acquire a fundamental understanding of the Social Security systems while emphasizing the significance and function of the Social Security system in particular. At that time, we will also touch on related judicial decisions and arguments about systemic reforms when appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 大学生
- 【3】: 就職
- 【4】: 就職後の健康とケガ・病気
- 【5】: キャリアの展開
- 【6】: 結婚・妊娠・出産
- 【7】: 子育て
- 【8】: 離婚・死別
- 【9】: 中高年の介護事情とがん
- 【10】: 高齢者(1)
- 【11】: 高齢者(2)
- 【12】: 生活に困窮する場合(1)
- 【13】: 生活に困窮する場合(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

上記はシラバス執筆時の予定であり、受講生の希望等から変更する場合がある。
履修者は、初回授業までに Canvas LMS にログインして詳細を確認すること。レジュメ, 資料等は Canvas LMS で配布するので印刷するかタブレット等で授業中参照できるようにすること。
履修登録確定前は以下の「Google ドライブ」で配布する。
https://drive.google.com/drive/folders/12tkHu3iicD_kj8GmqP-Mu0OjsJvSa2S4

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

憲法、行政法、民法、労働法を履修済みか、並行して履修することが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%
平常点割合 :40% 小テスト:40%

テキスト / Textbooks

島村暁代『プレップ社会保障法』弘文堂 2021

参考文献 / Readings

岩村正彦編『社会保障法判例百選(第5版)』有斐閣 2016
黒田有志弥『ストゥディア社会保障法』有斐閣 2024

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメ等は Canvas LMS を通じて配布するため、PC 等の電子端末機器

Introduction to Legal Studies A

Introduction to Legal Studies A

Introduction to Law: Foundations, History and Branches

リベイロ, D. (RIBEIRO DILTON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX091
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(Introduction to Legal Studies 1))		

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students with a fundamental understanding of legal studies. The course will introduce students to the history of law, different legal approaches, divisions of law, and how to analyze legal issues from different perspectives. The discussions will cover theoretical problems, doctrinal approaches, historical developments, and social issues. By understanding the principles of legal thinking, students will develop critical and logical thinking skills relevant not only to their academic life but beyond the university as well.

This course begins by exploring the history of law and its evolution, offering students a contextual framework to understand how society has shaped legal systems over time. After, the course explains the meaning of the rule of law and the differences between civil law and common law. The course then delves into the main areas of law, such as contracts, criminal law, and other key fields, ensuring that students gain a broad perspective on the divisions of law and their practical significance.

A central component of the course is to familiarize students with the meaning of law and different legal approaches, including theoretical frameworks, doctrinal analysis, and practical applications. By encouraging the analysis of legal problems from multiple perspectives, the course encourages an environment where students can appreciate both the practical and theoretical approaches to law.

Through this exploration, students will develop critical thinking skills indispensable for solving legal issues. These skills are important not only to enhance academic capabilities but also to prepare students for real-world challenges beyond the university.

In summary, this course aims to help students:

- Have a general introduction to law, including an overview of the main legal areas.
- Gain basic legal knowledge of legal studies, including the history, principles, and divisions of law.
- Develop the ability to analyze issues from a legal perspective
- Enhance critical and logical thinking skills.

授業の内容 / Course Contents

This introductory course provides students with a comprehensive understanding of fundamental legal concepts and principles. Through the exploration of legal history, the rule of law, and the distinctions between civil and common law systems, students will gain insight into the evolution and structure of legal systems worldwide, with a focus on common law. The course will delve into the various branches of law, including contracts, torts, criminal law, property law, constitutional law, and administrative law, offering students a broad overview of the diverse areas of legal practice and jurisprudence. The course will also engage debates on thorny legal issues and question the foundations and sources of legal systems worldwide. Students will have the opportunity to think from the origins of our more basic institutions and

legal reasoning in history to the current debates on different legal areas. Finally, students will delve into the role of courts and lawyers in Japan and throughout the world.

By the end of the course, students will have developed a solid foundation in legal theory and practice, enabling them to critically analyze legal issues, understand the role of law in society, and appreciate the complexities of legal systems worldwide.

The course is an introductory course, and no prior legal background is required. The course will also seek to accommodate students whose English is not their first language. Everyone is welcome to join and participate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Week 1: Introduction & Where Does Law Come From?
- 【2】:Week 2: Where Does the Law Come From? - Part 2
- 【3】:Week 3: Where Does the Law Come From? - Part 3
- 【4】:Week 4: The Rule of Law & Legal Systems
- 【5】:Week 5: Statutory Interpretation & Stare Decisis - Part 1
- 【6】:Week 6: Statutory Interpretation & Stare Decisis - Part 2
- 【7】:Week 7: Law and its Branches (Contracts)
- 【8】:Week 8: Law and its Branches (Torts & Defamation)
- 【9】:Week 9: Law and its Branches (Criminal Law)
- 【10】:Week 10: Law and its Branches (Constitutional Law & Administrative Law)
- 【11】:Week 11: Courts and Lawyers (Common Law) - Part 1
- 【12】:Week 12: Courts and Lawyers (Common Law & Civil Law) - Part 2
- 【13】:Week 13: Courts and Lawyers in Japan
- 【14】:Week 14: Introduction to Natural Law & Legal Positivism

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend about 110 minutes per week on required and optional readings, assignments, and others.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class Participation:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided online (on Canvas LMS).

However, there is a recommended reading: Wacks, Raymond. Law: A Very Short Introduction. Oxford University Press, 2015.

参考文献 / Readings

Wacks, Raymond A Very Short Introduction Oxford University Press 2015

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

This course is open to everyone. As it is an introductory course, no prior legal knowledge is necessary. First-year students, upper-year students, and exchange students are all encouraged to join. The instructor is committed to accommodating and supporting students who may feel unsure about their English language skills.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Introduction to Legal Studies B

Introduction to Legal Studies B
Comparative Constitutional Law

白水 隆(SHIROUZU TAKASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX092
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(Introduction to Legal Studies 2))		

授業の目標 / Course Objectives

This course will explore Japanese constitutional law by comparing it to others, with a strong focus on North America.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to provide students with a broad understanding of Japanese constitutional law through an examination of North American constitutional law.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Brief lecture on Japanese constitutional law
- 【3】:Brief lecture on U.S. constitutional law
- 【4】:Brief lecture on Canadian constitutional law
- 【5】:Topic 1: Structure of Government
- 【6】:Topic 2: Judicial review
- 【7】:Topic 3: Freedom of religion
- 【8】:Topic 4: Freedom of expression (part 1)
- 【9】:Freedom of expression (part 2)
- 【10】:Topic 5: Equality Rights (part 1)
- 【11】:Equality Rights (part 2)
- 【12】:Topic 6: Autonomy
- 【13】:Wrap up
- 【14】:In-Class test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

This course involves reading court cases as well as discussions. Preparation before class is required.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class quiz (3~4times):60% In-Class test:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

Depending on the number of participants, the in-class exam may be replaced with a report. Details will be explained during the first class.

Contract A

Contract A

For a better understanding of our society, training your logical thinking skills and value judgment

田岡 絵理子 (TAOKA ERIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX093
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(Contract))		

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to provide students with basic knowledge of Japanese contract law. The course has three primary objectives.

The first one is to understand our civil life from the legal lense. Since people cannot live without making contracts (e.g., riding in the train, buying sandwiches at a convenience store, and getting a cell phone), contract law is the closest law to our society. Therefore, through learning contract law (i.e., the ways it operates and solves disputes), students can also learn the ways our society operates.

The second one is to train students' value judgment. Almost every contract law-related dispute involves multiple parties' competing interests, each one of which deserves to be carefully analyzed and considered. Academics' discussions also provide competing opinions and various approaches to solve disputes. Through case studies, the students can train the way of balancing competing interests and constantly test their own value judgment. The last objective is to train logical thinking skills. Contract law is the law of logic. Through learning the ways of interpreting contract law, students can train their logical thinking skills.

授業の内容 / Course Contents

The lectures will be provided with PowerPoint. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

Writing assignments will also be given. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late assignment may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course
- 【2】:Characteristics of Japanese contract law: meaning of civil law, the Civil Code, and the General principles of civil law
- 【3】:The concept of contract: What do you mean by "contracts"? (1)
- 【4】:Remedies in Contracts (1): How does the law enforce contracts? What does it mean by "enforcing the contract"?
- 【5】:Remedies in Contracts (2): Ways of providing remedies for contractual default
- Understanding different approaches to provide the remedies
- 【6】:Remedies in Contracts (3)
- 【7】:Remedies in Contracts (4)
- 【8】:The concept of contract, revisited
- 【9】:Liquidated damages
- 【10】:Consumer contracts and freedom of contract (1)
- 【11】:Consumer contracts and freedom of contract (2)
- 【12】:Approaches to various types of contracts (1)
- 【13】:Approaches to various types of contracts (2)
- 【14】:Reviewing the sessions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester. I would recommend an A4-sized binder to keep track of the materials as they will likely exceed 350 pages.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in the classroom discussion (including presentation):40% Homework assignment:20% 最終レポート割合::40%

The final report will take a form of take home exam. The question will be notified a certain number of hours prior to the due date/time of the submission of the report. The exact number of hours (or the exact duration) from the notification of the question and before the submission of the report will be notified at the end of the course. (The duration is generally within 24 hours.)

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Hiroshi Oda Japanese Law Oxford University Press 2021 9780198869474

Gerald Port Mcalinn Comparative Law: Law and the Legal Process in Japan Carolina Academic Press 2003 0890894647

Curtis Milhaupt, Mark Ramseyer and Mark Weat The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary Foundation Press 2006 1609300297

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Contract B

Contract B

For a better understanding of our society, training your logical thinking skills and value judgment

田岡 絵理子 (TAOKA ERIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX094
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(Contract))		

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to provide students with basic knowledge of Japanese contract law. As the purposes of the course are shared with Contract A, this course also has three primary objectives.

The first one is to understand our civil life from the legal lense. Since people cannot live without making contracts (e.g., riding in the train, buying sandwiches at a convenience store, and getting a cell phone), contract law is the closest law to our society. Therefore, through learning contract law (i.e., the ways it operates and solves disputes), students can also learn the ways our society operates.

The second one is to train students' value judgment. Almost every contract law-related dispute involves multiple parties' competing interests, each one of which deserves to be carefully analyzed and considered. Academics' discussions also provide competing opinions and various approaches to solve disputes. Through case studies, the students can train the way of balancing competing interests and constantly test their own value judgment. The last objective is to train logical thinking skills. Contract law is the law of logic. Through learning the ways of interpreting contract law, students can train their logical thinking skills.

授業の内容 / Course Contents

The lectures will be provided with PowerPoint. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

Writing assignments will also be given. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late assignment may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course
 【2】:Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws
 【3】:Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(2): The meanings of default rules
 【4】:Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(3): The meanings of default rules
 【5】:Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(3): The meanings of default rules
 【6】:Good faith and its roles in Japanese contract law (1)
 【7】:Good faith and its roles in Japanese contract law (2)
 【8】:Public policy in contract law
 【9】:Law of fraud (1)
 【10】:Law of fraud (2)
 【11】:Law of mistake (1)
 【12】:Law of mistake (2)
 【13】:Law of mistake (3): comparative studies
 【14】:Reviewing the sessions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in the classroom discussion (including presentation):40% Homework assignment:20% 最終レポート割合::40%

The final report will take a form of take home exam. The question will be notified some time prior to the due date/time of the submission of the report. The exact duration from the notification of the question and before the submission of the report will be notified at the end of the course. (The duration is generally within 24 hours.)

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Hiroshi Oda Japanese Law Oxford University Press 2021 9780198869474

Gerald Port Mcalinn Comparative Law: Law and the Legal Process in Japan Carolina Academic Press 2003 0890894647

Curtis Milhaupt, Mark Ramseyer and Mark Weat The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary Foundation Press 2006 1609300297

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Negotiation Basics

Negotiation Basics

アシュリー (ASHLEY GREGORY M.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX095
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Enjoyable and comfortable interactive discussions and participatory mock negotiations and negotiation role-plays; reflections on our activities and your own performance/improvement; "Socratic Method" when appropriate.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	グローバルコースの学生優先		

授業の目標 / Course Objectives

Our main objectives are (i) to become familiar with negotiation principles, strategies, and styles in various contexts and (ii) to discover more about ourselves as individual, unique negotiators while growing significantly in confidence. A supplementary objective is to become capable of effectively adapting to factors – for example, cross-cultural differences and global/societal trends – that may impact negotiations.

授業の内容 / Course Contents

As a future professional in whatever career field(s) you choose to enter, you will likely negotiate much more frequently than you may now expect. Negotiations may take place between you and your boss/leader, between you and your colleagues, between you and clients/customers, between you and various outside stakeholders (e.g., a judge/jury or shareholders), and in countless other contexts.

Negotiation is a voluntary and extremely beneficial process of problem-solving. It involves back-and-forth communication to reach an agreement when you and the other side have certain shared interests and certain conflicting interests.

This course is designed to provide you with ways to analyze and prepare for negotiations. Throughout the semester, you will have plenty of *enjoyable and comfortable* (do not worry or stress!) opportunities to participate in partially scripted mock negotiations, unscripted and exciting negotiation role-plays, and reflection/debriefing sessions during which we will discover key learnings to carry forward as we improve and gain confidence together.

[As hinted at above, mock negotiations and negotiation role-plays are the primary and most interesting/enjoyable activities for this class, and thus your willingness to participate as best you can will be highly valued. However, this does not mean that the students who talk the most or who are most aggressive/confident in our negotiation practices will automatically receive the best evaluations; doing your best and contributing to the course in ways that make you the most comfortable (e.g., via conversations or supplementary email communication with the lecturer) will be very much appreciated by the lecturer.]

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction: Key Negotiation Concepts; How to Express Agreement, Disagreement, and Possible Compromises; plus Video and Discussion - “Getting to Yes Across Cultures” (Harvard Business Review) on INSEAD Prof. Erin Meyer’s Cross-Cultural Communication Theory
- 【2】:Assessment of Real-World Negotiations; Taking Inspiration and Lessons from Famous Negotiations from History and in Recent News (e.g., Ukraine-Russia; Rana Plaza; Gandhi; Nelson Mandela)
- 【3】:Brainstorming to Create Our Own Interesting/Motivating Negotiation Scenarios/Hypotheticals and First Practices (Partially Scripted Mock Negotiations and Unscripted Role Plays)
- 【4】:Distributive Negotiation (1): Introduction, Examples from the Real World, and Role-Plays
- 【5】:Distributive Negotiation (2): Additional/Leftover Role-Plays; plus Reflection/Debriefing Session
- 【6】:Integrative Negotiation (1): Introduction, Examples from the Real World, and Role-Plays
- 【7】:Integrative Negotiation (2): Additional/Leftover Role-Plays; plus Reflection/Debriefing Session
- 【8】:Negotiation Style Analysis: Understanding Your Own Style(s) and Practicing Adjusting to Various Styles on the “Other Side of the Table”
- 【9】:Business and/or Legal Negotiation (1): Introduction, Examples from the Real World (e.g., M&A Negotiations), and Role-Plays
- 【10】:Business and/or Legal Negotiation (2): Additional/Leftover Role-Plays; plus Reflection/Debriefing Session
- 【11】:Considering How Negotiations Are Influenced by Differences: Culture, Customs, Gender, Race, Religion, Language, Etc.
- 【12】:Multiple Party Negotiation: Introduction, Examples from the Real World (e.g., UN Convention on the Rights of the Child), and Role-Plays; plus Reflection/Debriefing Session
- 【13】:Integrative Negotiation and Distributive Negotiation: *Revisited* with New Higher-Level Partially Scripted Mock Practices and Unscripted Role-Plays
- 【14】:Update on Real-World Negotiations in the News; Key Takeaways from Our Course; Discussion of Future Negotiation Influences (e.g., Artificial Intelligence and the Metaverse)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Partially scripted mock negotiations. Unscripted negotiation role-plays. Reflection/debriefing sessions during which we will comfortably and openly discuss our performances and key learning points.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

This is an interactive seminar that will involve weekly readings and, for certain class sessions, a degree of preparation for mock negotiations and/or negotiation role-plays.

Mock negotiations and negotiation role-plays are the primary and most interesting/enjoyable activities for this class, and thus your willingness to participate as best you can will be highly valued. However, this does not mean that the students who talk the most or who are most aggressive/confident in our negotiation practices will automatically receive the best evaluations; doing your best and contributing to the course in ways that make you the most comfortable (e.g., via conversations or supplementary email communication with the lecturer) will be very much appreciated by the lecturer.

From time to time, you will be asked to write and submit short reflection sheets/papers as personal assessments of your own performances and learnings. There will also be two to three short written exercises in which you will be asked to share your opinions on real-world negotiations in the news.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance + Participation/Best Effort:40% Assessments of Historic and Modern Negotiations:25% Midterm Test:25% Reflection/Self-Assessment Sheets:10%

テキスト / Textbooks

Your professor will provide copies of reading materials.

参考文献 / Readings

Roger Fisher, William Ury Getting to Yes: Negotiating an Agreement Without Giving In Penguin Books 2011
 Harvard Business Review Negotiation (Harvard Business Essentials) Harvard Business Review Press 2003
 9781591391111

Richard Thaler, Cass Sunstein Nudge Penguin Books 2009 9780143115267

The above are simply for reference and/or further studies should you be interested. Your professor will provide copies of short excerpts from certain reading materials.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Legal Presentation

Legal Presentation

白水 隆 (SHIROUZU TAKASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX097
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program Course Code Registration for after 2nd year students of the Global Program		

授業の目標 / Course Objectives

This course provides students with the basics of legal presentation, legal research, and legal discussion.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to allow students to present various topics such as, but not limited to, court decisions, academic papers, and news articles in Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Lecture on legal research and preparation of PowerPoint slides
- 【3】:Lecture on reading court decisions and academic papers
- 【4】:Group presentation (part 1)
- 【5】:Group presentation (part 2)
- 【6】:Group presentation (part 3)
- 【7】:Group discussion (part 1)
- 【8】:Group discussion (part 2)
- 【9】:Group discussion (part 3)
- 【10】:Individual presentation (part 1)
- 【11】:Individual presentation (part 2)
- 【12】:Individual presentation (part 3)
- 【13】:Individual presentation (part 4)
- 【14】:Wrap up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for both group and individual presentations and group discussions. Active class participation is expected.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Student Presentation:70% In-Class-Performance:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Legal Presentation

Legal Presentation

リベイロ, D. (RIBEIRO DILTON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX098
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program Course Code Registration for after 2nd year students of the Global Program		

授業の目標 / Course Objectives

The course aims to help students develop analytical and presentation skills by exploring a variety of legal issues and expressing their opinions on a wide range of topics. It is more than just a class for improving English speaking skills. This course's primary objective is to help students understand complex issues and assist them in learning how to evaluate current points of interest from a legal perspective, as well as present their research. This course is designed to enhance students' legal research and presentation abilities.

Students will learn to extract critical legal information, assess its relevance, and present their findings in a structured and persuasive way. The course emphasizes critical thinking and analysis, fostering different perspectives and approaches to a legal issue. In addition to developing analytical skills, the course focuses on nurturing presentation abilities within a legal context. Students will learn how to effectively communicate legal arguments, present research findings, and engage with audiences professionally.

The course also emphasizes the integration of legal research and public speaking. Students will explore how to identify and evaluate credible legal sources, synthesize information, and incorporate this research into their presentations. By the end of the course, students will have a strong foundation in legal research, analysis, and presentation, preparing them for further academic pursuits or careers in the legal field.

In summary, this course will help students foster:

- Analytical Skills: students will analyze different legal issues, extract essential information, and evaluate topics from a legal perspective.
- Presentation Skills: students will learn to communicate legal arguments effectively, organize content for clarity, and practice professional presentations.
- Legal Research: students will gain expertise in identifying legal sources, synthesizing information, and integrating research into compelling presentations.

授業の内容 / Course Contents

In the initial weeks of the course, students will learn the basics of legal research and presentation organization. They will become familiar with conducting legal research, organizing presentations, and presenting in public. Once the introductory phase is complete, the students will give group presentations. The group size may vary depending on the

number of students in the class, but the goal is to have three or four groups. Ideally, each group will present a different perspective on a specific topic. Additionally, depending on class size, one group may take on the role of discussant, and these roles will alternate throughout the course.

During the presentation phase, the instructor will pose a question that allows for opposing perspectives based on the law. Each group will be assigned a specific perspective to research, organize, and present in class. If a discussant group is formed, it will prepare questions related to the week's assigned topic in advance. Each member of the discussant group will ask one question to the other groups and engage in discussions about the topics presented.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Week 1: Class Introduction & Introduction to Legal Presentation

【2】:Week 2: Introduction to Legal Research (Part 1)

【3】:Week 3: Introduction to Legal Research (Part 2)

【4】:Week 4: Legal Presentation (How To)

【5】:Week 5: How to Deliver a Legal Presentation and Tips for Improvement

【6】:Week 6: Preparation for Presentation Session (1)

Proposed Topic: Should Hate Speech Be Protected Under Freedom of Expression?

【7】:Week 7: Presentation Session (1)

Proposed Topic: Should Hate Speech Be Protected Under Freedom of Expression?

【8】:Week 8: Preparation for Presentation Session (2)

Proposed Topic: Is the Death Penalty Legal and a Desirable Form of Punishment?

【9】:Week 9: Presentation Session (2)

Proposed Topic: Is the Death Penalty Legal and Desirable Form of Punishment?

【10】:Week 10: Preparation for Presentation Session (3)

Proposed Topic: Does Affirmative Action Violate the Equality Before the Law Principle?

【11】:Week 11: Presentation Session (4)

Proposed Topic: Does Affirmative Action Violate the Equality Before the Law Principle?

【12】:Week 12: Preparation for Presentation Session (5)

Proposed Topic: Should Social Media Platforms Be Liable for Harmful Content Posted by Users?

【13】:Week 13: Presentation Session (6)

Proposed Topic: Should Social Media Platforms Be Liable for Harmful Content Posted by Users?

【14】:Week 14: "How to Talk Like a Lawyer" & Presentation Feedback

Proposed Topic: Should Non-Citizens Have the Same Rights as Citizens Under the Constitution?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend about 130 minutes per week on required and optional readings, assignments, and other learning activities.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class Participation:30% In-Class Presentations:70%

テキスト / Textbooks

Materials will be available online (or distributed in class).

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students should be curious and enjoy learning about various topics, both from different perspectives and through group and individual activities.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should have access to a computer, tablet, or smartphone to conduct in-class research and presentation.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Legal Writing

Legal Writing

Developing Logical Thinking and Writing Skills

アシュリー (ASHLEY GREGORY M.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX099
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Enjoyable and comfortable interactive discussion; "Socratic Method"
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program Course Code Registration for after 2nd year students of the Global Program		

授業の目標 / Course Objectives

Our main objective is to improve your abilities (i) to evaluate legal and non-legal issues logically and confidently and (ii) to express your thoughts clearly and persuasively.

A secondary objective is to understand legal, business, and social trends influencing legal writing and other forms of expression (e.g., debate or oral argument) in English today.

授業の内容 / Course Contents

Our course will begin with assessments of both legal and non-legal writing to discover how to express ourselves in clearer and more persuasive ways. We will then apply our learnings to develop our logical thinking about issues with a particular focus on creating strong legal/logical syllogisms and "attacking" weak legal/logical syllogisms.

In-class practices will allow us to read about interesting topics, create understandable summaries, write logical and persuasive opinions, and improve our written products via discussions with a partner, in small groups, and/or as a whole class.

Depending on the progress of the course, we may also expand our studies to include comparisons of writing from various legal fields as well as considerations of legal, business, and social trends influencing communication today.

[Please note that In-class Participation/Effort does not mean that students who speak the most or who always lead discussions will be evaluated more favorably. Rather, a willingness to learn and engage in activities to the best of one's abilities – in class-wide settings, in small groups, and/or even via interactions with the lecturer himself (in person or by email) – along with improvement over the entire course will be highly regarded.]

授業計画 / Course Schedule

【1】:Orientation/Introduction: Logic and the Law; What is the Legal Syllogism?

【2】:The "Plain English" Movement: Examples of Poor, Acceptable, and Excellent Writing (Legal and Non-Legal) (1)

【3】:The "Plain English" Movement: Examples of Poor, Acceptable, and Excellent Writing (Legal and Non-Legal) (2)

【4】:Logical Reasoning and the Legal Syllogism (1)

- 【5】:Logical Reasoning and the Legal Syllogism (2)
- 【6】:Thinking and Writing about Legal Issues and Cases: IRAC (Issue, Rule, Application, Conclusion) (1)
- 【7】:Thinking and Writing about Legal Issues and Cases: IRAC (Issue, Rule, Application, Conclusion) (2)
- 【8】:Introduction of Issue-Identification Writing Project; Summarizing Factual Scenarios and Identifying Legal Issues
- 【9】:Revisiting Logical Reasoning and the Legal Syllogism: Assessing and Attacking Case Precedents from Around the World (1)
- 【10】:Revisiting Logical Reasoning and the Legal Syllogism: Assessing and Attacking Case Precedents from Around the World (2)
- 【11】:Assessing Writing Samples from Various Legal Fields: Civil Litigation, Corporate Law, Criminal Law, Contract Law, Etc. (1)
- 【12】:Assessing Writing Samples from Various Legal Fields: Civil Litigation, Corporate Law, Criminal Law, Contract Law, Etc. (2)
- 【13】:Focus on Advocacy: Plaintiff-side Briefs
- 【14】:Focus on Advocacy: Defendant-Side Briefs; plus Trends Affecting Legal Writing and Communication: Political Correctness, Gender and Salutations, Etc.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド* (パワポ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Your professor will provide reading materials based on the progress and/or theme of each class. Students are asked to (i) read and think about the materials and (ii) prepare for class/group discussion before each session.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-class Participation/Effort:20% Writing Exercises (7 times):50% IRAC (Issue, Rule, Application, Conclusion) Writing Project:30%

テキスト / Textbooks

Your professor will provide copies of reading materials.

参考文献 / Readings

Ruggero Aldisert, Stephen Clowney, Jeremy Peterson Logic for Law Students: How to Think Like a Lawyer University of Pittsburgh Law Review 2007

The above is simply for reference and/or further studies should you be interested. Your professor will provide copies of short excerpts from certain reading materials.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Legal Writing

Legal Writing

to improve logical writing and thinking skills

田岡 絵理子 (TAOKA ERIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX100
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program Course Code Registration for after 2nd year students of the Global Program		

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to train logical writing skills in English

授業の内容 / Course Contents

The lectures will be provided with PowerPoint.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class.

There will be writing assignments every week. Students are required to complete the assignments before each session. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late submission may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

To help provide the requisite motivation to stay current on the class, students may be called on in class. Active participation in class is expected from everyone. Please note that not only writing assignments but also class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course
- 【2】:understanding logical writing through legal studies (1)
- 【3】:understanding logical writing through legal studies (2)
- 【4】:Training logical writing using legal syllogism
- 【5】:Training logical writing using legal syllogism
- 【6】:Training logical writing using legal syllogism
- 【7】:Training logical writing using legal syllogism
- 【8】:Briefing cases
- 【9】:Briefing cases

- 【10】:Briefing cases
 【11】:Briefing cases
 【12】:Briefing cases
 【13】:Briefing cases
 【14】:Reviewing the sessions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% writing assignments:70% participation in class:30%

A writing assignment is given every week.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Anglo-American Law A

Anglo-American Law A

アシュリー (ASHLEY GREGORY M.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Enjoyable and comfortable interactive discussions; "Socratic Method" to explore real-world case studies; small group discussions to evaluate principles and cases.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2001
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Our main objectives are (i) to become familiar with common law traditions and systems, (ii) to understand the differences between common law and civil law, and (iii) to gain knowledge of significant cases across the English and American constitutional, tort, contract, property, corporate, and criminal law landscapes.

A supplementary objective is to improve our legal reasoning skills by evaluating and either supporting or opposing a range of Anglo-American court decisions.

授業の内容 / Course Contents

This course will allow us to explore the foundations and development of common law systems, with particular focus on the legal traditions of England and the United States. We will examine how judge-made law, statutory interpretation, and the doctrine of precedent have shaped modern Anglo-American legal systems. Through analysis of landmark cases across multiple jurisdictions, students will come to understand how common law principles differ from civil law approaches, particularly in areas such as constitutional rights, private law (contracts, torts, and property), criminal law, and business regulation.

This course emphasizes active engagement with case law through the Socratic Method and case briefing exercises. Students will develop their analytical skills by examining how courts reason through complex legal issues, identifying key holdings, and evaluating the broader implications of major decisions. We will also explore how common law systems have influenced legal development in other jurisdictions, including former British colonies and mixed legal systems.

[Please note that In-class Participation/Effort does not mean that students who speak the most or who always lead discussions will be evaluated more favorably. Rather, a willingness to learn and engage in activities to the best of one's abilities - in class-wide settings, in small groups, and/or even via interactions with the lecturer himself (in person or by email) - along with improvement over the entire course will be highly regarded.]

授業計画 / Course Schedule

[1]: Introduction: What is Anglo-American Law?; Common Law versus Civil Law Systems; English Law Foundations; American Federalism and State Power Considerations

[2]: A Deeper Look at Common Law: From England to the US and British Colonies; Adversarial Legal Philosophy; Stare Decisis (Precedent)

[3]: Common Law Traditions and Structures: Trial Courts, Appellate Courts, Supreme/Highest Courts; Judicial Review

and Separation of Powers in Marbury v. Madison (US)

【4】:Constitutional Law (1): The Foundational Case of Entick v. Carrington (ENG) and Unreasonable Search and Seizure Principles Influencing US Fourth Amendment

【5】:Constitutional Law (2): The Cases of Loving v. Virginia (US), Korematsu v. US (US), and Heart of Atlanta Motel v. US (US); Changes from Plessy v. Ferguson (US) to Brown v. Board of Education (US)

【6】:Tort Law (1): Introduction to Tort Law Principles; Intentional Torts versus Negligence; The Cases of Rylands v. Fletcher (ENG) and Palsgraf v. Long Island Railroad Co. (US)

【7】:Tort Law (2): The Cases of Donoghue v. Stevenson (ENG) and MacPherson v. Buick Motor Co. (US)

【8】:Contract Law (1): Formation via Offer, Acceptance, and Consideration; Damages for Breach of Contract

【9】:Contract Law (2): Key Differences from Civil Law Contracts; The Cases of Carlill v. Carbolic Smoke Ball Co. (ENG) and Hawkins v. McGee (US)

【10】:Property Law (1): Basic Concepts of Property Rights; Real Property versus Personal Property; The Cases of Pierson v. Post (US) and International News Service v. Associated Press (US)

【11】:Property Law (2): The Cases of Bernstein v Skyviews (ENG) and Kelo v. City of New London (US); Eminent Domain

【12】:Corporate Law: The Cases of Salomon v. Salomon (ENG), Dodge v. Ford Motor Co. (US), and Citizens United (US); Corporate Personhood; Corporate Veil

【13】:Criminal Law: The Cases of R v. Cunningham (ENG) and Miranda v. Arizona (US); Mens Rea

【14】:Anglo-American/Common Law's Global Spread and Modern Influence; Mixed Systems (Common Law + Civil Law)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Your professor will provide reading materials based on the progress and/or theme of each class. Students are asked to (i) read and think about the materials and (ii) prepare for class/group discussion before each session.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Test:25% Assessments of Cases:20% In-class Participation/Effort:20% 最終テスト割合::35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

University of California Berkeley Law School The Common Law and Civil Law Traditions – The Robbins Collection
UC Berkeley 2022

Toni M. Fine An Introduction to the Anglo-American Legal System West Publishing Co. 2007 0314366628

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Anglo-American Law B

Anglo-American Law B

ヘスタ, M. (HESTER MASON COE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX102
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2001
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

As this course builds on Anglo-American Law A, the course objectives are generally the same, but students are expected to build-on and enhance the skills they previously learned; namely:

- ・Possess proficiency in working with and comprehending legal precedents within a Common Law system (specifically U.S. Constitutional Law) by displaying the ability to critically assess arguments based on the robustness of evidence and reasoning.
- ・Exhibit fundamental legal analysis skills, which involves close attention to details, use of correct legal terminology, and the application of case law and principles to assess hypothetical and real-life scenarios.

授業の内容 / Course Contents

The professor will give lectures on different core concepts that have been developed through the Common Law legal system, with particular emphasis on decisions made by the U.S. Supreme Court. The social context surrounding the cases will be examined in addition to the legal theories at play.

Paired with lectures is the expectation of in-class discussion and debate of the subject matter. Students should come to class prepared to actively participate in class discussion and exercises. Attending class and participating in class are not the same thing. I reserve the right to raise or lower a student's grade based on class participation or lack thereof; this includes any occasion on which a student is unprepared for class. I may also use a "on call" system where students are tasked with answering reading assignment questions.

授業計画 / Course Schedule

[1]:Lecture: Federalism, Governmental Powers, and Constitutional Interpretation – *McCulloch v. Maryland*, 17 U.S. (4 Wheat.) 316 (1819).

[2]:Lecture: Federalism (Commandeering), Governmental Powers, and Constitutional Interpretation – *Printz v. United States*, 521 U.S. 898 (1997).

[3]:Lecture: Gov't Powers and Issues of Discrimination – *Korematsu v. United States*, 323 U.S. 214 (1944).

[4]:Lecture: Gov't Powers and Issues of Discrimination – *Trump v. Hawaii*, No. 17-965, 585 U.S. 667 (2018).

[5]:Lecture: The Commerce Clause and Discrimination – *Heart of Atlanta Motel, Inc. v. United States*, 379 U.S. 241 (1964).

[6]:Lecture: The Commerce Clause and Discrimination – *Kelo v. City of New London*, 545 U.S. 469 (2005).

[7]:Midterm

Lecture: The Commerce Clause – *Wickard v. Filburn*, 317 U.S. 111 (1942).

[8]:Lecture: Criminal and Privacy – *Mapp v. Ohio*, 367 U.S. 643 (1961).

[9]:Lecture: Presumption of Innocence and Burden of Proof – *Woolmington v DPP* [1935] AC 462 and *Coffin v. United States*, 156 U.S. 432 (1895).

【10】:Lecture: 14th Amendment and Disparate Impact – Yick Wo v. Hopkins, 118 U.S. 356.

【11】:Lecture: The Right to Bear Arms – United States v. Miller, 307 US 174 (1939) and District of Columbia v. Heller, 554 U.S. 570 (2008).

【12】:Lecture: The Right to Bear Arms – New York State Rifle & Pistol Association, Inc. v. Bruen, 597 U.S. 1 (2022).

【13】:Lecture: Dobbs v. Jackson Women’s Health Organization, 597 U.S. 215 (2022).

【14】:Final Class: Final Test/Examination (during class via Canvas LMS)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

In the class, students will be actively asked questions, so a proactive attitude is expected. Discussion and debate of the topics presented in class will be commonplace. It may take the form of individual or group presentations.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Homework assignments will regularly include the reading of cases and may also require students to watch videos online. All the necessary links and/or materials will be provided to you. A minimum of at least 3 hours of reading cases, per week, is likely (and depends largely on one’s own reading speed).

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Class Participation:25% Midterm Test:25% Canvas LMS Quizzes:25%

最終テスト割合:25%

テキスト / Textbooks

There are no required textbooks. Reading materials will be provided to you in digital form.

参考文献 / Readings

Students will be provided cases and/or other materials in the form of PDF’s via Canvas LMS.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students are required to bring their own PCs to class as “Canvas LMS” will be used to distribute materials and submit assignments during class.

その他 / Others

The law, and therefore this course, inevitably deals with topics of a sensitive nature. Topics such as race, sexuality, freedom of speech, bodily autonomy, religion, life and death, are the types of topics that all societies grapple with. In your study of the law you will encounter some topics that are innately difficult to discuss. The number one rule for this class is that you do your utmost to be respectful and generous to others. The topics themselves and the phrasing/vocabulary used to discuss them may be difficult at times. I ask that everyone stay open-minded and willing to listen to others. Intentionally harmful, demeaning, derogatory, or other behavior will not be tolerated.

Dispute Resolution

Dispute Resolution

How to create contracts that utilize appropriate business schemes and negotiate contracts to avoid disputes in order to lead global corporate business to success.

石川 文夫 (ISHIKAWA FUMIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX103
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	グローバルコースの学生優先 (旧科目名:法学特講 Dispute Resolution)		

授業の目標 / Course Objectives

Nowadays, all companies are conducting global business. In this lecture, we will first understand basic matters such as the role of legal and intellectual property departments in companies, the importance of contracts and contract negotiations, and their roles (non-disclosure agreements, intellectual property license agreements, etc.), and then avoid disputes. Students will acquire practical knowledge in a wide range of areas, including how to effectively negotiate contracts and how to respond in the event of a dispute.

授業の内容 / Course Contents

- ① Regarding collaboration between companies (licenses, joint development, outsourcing, JV, M&A)
- ② Understanding of global business schemes and legal issues that exist in business
- ③ Read specific business cases and consider the optimal collaboration scheme to achieve business objectives.
- ④ Contract negotiations such as license contract negotiations, understanding of contracts, and practice of specific contract negotiations
- ⑤ How to resolve disputes in the event of a violation of a contract between companies.
- ⑥ In addition, actual business cases that have occurred will be brought up in a timely manner and utilized in lectures.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Overview of contracts and contract negotiations
- 【2】: Explanation of the role of intellectual property (rights) in business and collaboration schemes
- 【3】: Role and importance of Non-Disclosure Agreement
- 【4】: Types of collaboration schemes necessary for companies to develop their business and examples of their contracts (license agreements, joint development agreements, outsourcing agreements, joint venture agreements, M&A-related agreements)
- 【5】: While reading specific business cases, participants select the appropriate collaboration scheme and exchange opinions with participating members.
- 【6】: While reading specific business cases, select the appropriate collaboration and plan a scheme.
- 【7】: While reading specific business cases, select the appropriate collaboration and plan a scheme.
- 【8】: While reading specific business cases, select the appropriate collaboration and plan a scheme.
- 【9】: While reading specific business cases, select the appropriate collaboration and plan a scheme.
- 【10】: While reading specific business cases, select the appropriate collaboration and plan a scheme.

【11】:Procedures for resolving disputes with other parties regarding defaults, that occur in the course of conducting business

【12】:We will take up business cases (including press and virtual) and role-play contract negotiations.

【13】:Exchange opinions with guests on key points in contract negotiations online.

【14】:We will summarize the contents of this lecture.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

Off-campus training and fieldwork will be conducted only with the participation of those who wish to participate and who have been scheduled for each event.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

You will be notified of the next schedule for each lecture, so please prepare in advance.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 講義内での発言等:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

Website related to the business that the lecturer represents: <https://gbks.jp/>

Labor Law

Labor Law

Basics of labor law and the Japanese model of employment

亀田 康次 (KAMEDA KOJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX104
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2401
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、(1)日本の労働法の基本的な知識を英語で習得すること、(2)「日本型」雇用の特徴を理解すること(必要に応じて諸外国との比較も行います)、(3)雇用に関する問題を英語で議論するスキルを身につけること、です。

The objectives of this course are (1) to obtain basic knowledge of Japanese labor law in English, (2) to understand the unique characteristics of "Japanese model" of employment (comparing with foreign countries as necessary), and (3) to develop skills of discussing employment-related issues in English.

授業の内容 / Course Contents

学生の皆さんは、遅かれ早かれ「働く」ことを経験します。既に学生アルバイトを始めている人もいるでしょう。労働法は、採用、就労、給与の受取り、異動、退職など、雇用されている間に経験するすべてのことに関係しています。本授業では、労働法の役割を扱い、その基本的な考え方と原則を理解できるようにします。

また、日本の雇用制度の特徴についても取り上げます。日本の雇用制度の基本的な特徴の一つは「長期雇用慣行」と呼ばれるものです。本授業では、必要に応じて諸外国と比較しながら、日本の制度の特徴を理解していきます。

本授業では、日本の労働法の基本的なトピックを扱います。「働く」ことは私たちが生きていく上で必要不可欠なことです。労働法の知識は、将来どのような仕事をするにしても役に立つでしょう。また、英語で学ぶことで、(1)将来の職業経験に関する英語のボキャブラリーを身につけ、(2)雇用に関する問題を英語で議論する能力を高めることができます。

この授業は、英語で行われます。グローバル・コース以外の学生の受講も歓迎します。

Students will experience "working" sooner or later. Some of them may have started a student part-time job. Labor law is related to all the experience they may have while being employed – recruitment, working, receiving salary, transfer, leaving the company and so on. This course will deal with the role of labor law and help students understand its basic concepts and principles.

This course will also deal with unique characteristics of the Japanese employment system. One of the basic features of the system is called "long-term employment practice". This course will help students understand what makes the Japanese system so unique, by comparing with foreign countries as necessary.

This course will cover basic topics of labor law. Since "work" will be an essential aspect of our life, the knowledge of labor law will be useful no matter what students do in the future. Learning it in English will help students (1) develop their English vocabulary related to work experience in the future and (2) enhance their skills of discussing employment-related issues in English.

This class will be conducted in English.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction

- 【2】:Role of labor law and Scope of labor law protection
- 【3】:Commencement of employment
- 【4】:Termination of employment
- 【5】:Transfer of employees
- 【6】:Wages
- 【7】:Work Rules (1)
- 【8】:Work Rules (2)
- 【9】:Working hours
- 【10】:Fixed-term employment
- 【11】:Labor union
- 【12】:Equal treatment
- 【13】:Recent changes in labor law and the Japanese model
- 【14】:Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be expected to take 1 or 2 hours per week to prepare for class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加 (Class Participation):30% 小テスト (Short Test):30% 最終レポート割合::40%

Lecture slides will include questions to discuss in the classroom. Participation in the discussion and posting comments on Canvas LMS will be evaluated as Class Participation.

テキスト / Textbooks

Lecturer will provide slides and reading materials.

参考文献 / Readings

Takashi Araki Labor and Employment Law in Japan The Japan Institute of Labor 2002 4538710180

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

This class will be conducted in English. Basic English skills are necessary to understand lectures or discussions and to write a final report. However, advanced English skills are not necessary as the lecturer will try to explain as easily as possible.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

In each class, students may be asked to post comments on Canvas LMS. Students can use smartphones to do so, but bringing laptops to the classroom might be more convenient.

Property

Property

マシャド Y. (MACHADO Y. DANIEL)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX105
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to introduce students to the basics of Japanese property law from a comparative perspective.

授業の内容 / Course Contents

We begin the course with an introduction to the nature of property and property rights. Then we explore the different ways of acquiring, transferring and exercising property rights. Japanese property law will be the basis for most of our discussions with some comparisons to the laws of the United States and England. We use the Socratic Method to investigate real and hypothetical cases so students will be asked questions every class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation
- 【2】:What is property?
- 【3】:What is the principle of numerus clausus?
- 【4】:How is property transferred? 1 Intention and registration
- 【5】:How is property transferred? 2 Registration system
- 【6】:How is property transferred? 3 False records
- 【7】:How is property transferred? 4 Third party
- 【8】:How is property transferred? 5 Delivery of movable property
- 【9】:How to acquire property by taking possession of it? 1 Unowned property and acquisitive prescription
- 【10】:How to acquire property by taking possession of it? 2 Immediate acquisition
- 【11】:What is co-ownership?
- 【12】:What is unit ownership?
- 【13】:How does inheritance work?
- 【14】:Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Preparation should take around one hour depending on your English reading skills.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加 (Attendance and Participation):30% 課題 (Assignments):30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

All materials will be made available in advance or distributed in class.

参考文献 / Readings

Matsuo, Hiroshi Property and Trust Law in Japan Wolters Kluwer 2021 9789403534756

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

International Business Law A

International Business Law A
Understanding International Business Transactions

アレン, A. (ALLEN ANDREW)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX106
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(International Business Law))		

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students should acquire a basic understanding of the international legal frameworks regulating international commercial law on a global basis.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will learn about international commercial law, practices that govern the dynamics of business transactions, and the benefits corporations hope to gain from international trade and investment.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Orientation and Introduction
- 【2】:Introduction to International Business Law
- 【3】:International Sales of Goods
- 【4】:International Carriage of Goods and Insurance
- 【5】:Letters of Credit and International Payments
- 【6】:Letters of Intent
- 【7】:Midterm Quiz / Technology Transfer
- 【8】:Foreign Direct Investment
- 【9】:Joint Ventures / Cross-border M&A
- 【10】:Licensing
- 【11】:Anti-trust / Competition Laws
- 【12】:Anti-bribery Laws
- 【13】:Corporate Social Responsibility; Dispute Settlement and the Role of Lawyers
- 【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class. Any information in the

readings may be included on the quizzes and the final test.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes:20% Midterm Quiz:30% Participation:20% Final Test:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Ralph H. Folsom/ Michael P. Van Alstine/Michael D. Ramsey International Business Transactions in a Nutshell West Academic Publishing 2020 9781684675166

The above textbook is recommended reading but not necessary for this course.

Reading pack to be provided.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

Participation: Class attendance, participation, and preparation are expected. If you are unable to attend class, please contact me by email before absences occur, or as soon as possible after class starts if you have an unexpected emergency. Unauthorized absences will be considered in calculating a student's class participation score. Please note that all students must attend at least 2/3 of the lectures in order to earn credit for this course.

Quizzes: Students will take quizzes that will cover information discussed throughout this course. Please note that the lowest score will automatically be dropped and the remaining scores will be averaged. Please note that this calculation does not include the midterm quiz.

Final test: The final test will be held during the time of the final class and will cover material discussed during the entire course. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the quizzes, (c) attended all of the classes, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each class, then they should be prepared for the final test.

Guest Lectures: If scheduled, students are strongly encouraged to attend guest lectures. Any information presented during guest lectures may be included on quizzes and/or the final test.

Syllabus: The syllabus represents current plans and objectives for each week, but as we go through the semester, the plans may need to be changed to maximize the class learning opportunity. Such changes, if necessary, will be clearly conveyed to the class.

International Business Law B

International Business Law B
From Theory to Practice

アレン, A (ALLEN ANDREW)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX107
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(International Business Law))		

授業の目標 / Course Objectives

The main objective of this course is to expose students to the academic and practical aspects of many different practice areas of law typically seen in cross-border transactions. By the end of the course, students should have basic knowledge of the issues that may arise in corporate law transactions, as well as how to resolve these issues.

授業の内容 / Course Contents

This course will focus on corporate law matters typically seen in cross-border transactions. Depending on availability, there may be guest lectures from legal practitioners working in Japan to further expose students to how they help clients achieve their business objectives on cross-border transactions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Introduction
- 【2】:Business Entities and Structures
- 【3】:Corporate Governance (US)
- 【4】:Commercial Transactions
- 【5】:Regulatory Issues (Employment Law, Environmental)
- 【6】:Midterm; other Regulatory Issues (CFIUS, Antitrust)
- 【7】:Mergers & Acquisitions
- 【8】:Real Estate Transactions
- 【9】:Capital Markets Transactions
- 【10】:Technology Transactions
- 【11】:Litigation and Dispute Resolution
- 【12】:Professional Responsibility
- 【13】:Course Review
- 【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class and come to class ready to ask questions and share their opinions. Any information in the readings may be included on the quizzes and the final test.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes:20% Midterm Quiz:20% Participation:20% Final Test:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading pack to be provided.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Students do not need to have taken International Business Law A to register for this course.

Study abroad students will be considered for this course on a case-by-case basis.

その他 / Others

Participation: Class attendance, participation, and preparation are expected. If you are unable to attend class, please contact me by email before absences occur, or as soon as possible after class starts if you have an unexpected emergency. Unauthorized absences will be considered in calculating a student's class participation score. Please note that all students must attend at least 2/3 of the lectures in order to earn credit for this course.

Quizzes: Students will take quizzes that cover information discussed throughout this course. The lowest score will automatically be dropped and the remaining scores will be averaged. Please note that this calculation does not include the midterm quiz.

Guest Lectures: If scheduled, students are strongly encouraged to attend guest lectures. Any information presented during guest lectures may be included on quizzes and/or the final test.

Final test: The final test will be held during the time of the final class and will cover material discussed during the entire course. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the quizzes, (c) attended all of the classes, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each class, then they should be prepared for the final test.

Syllabus: The syllabus represents current plans and objectives for each week, but as we go through the semester, the plans may need to be changed to maximize the class learning opportunity. Such changes, if necessary, will be clearly conveyed to the class.

Civil Procedure

Civil Procedure

アシュリー (ASHLEY GREGORY M.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX108
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Enjoyable and comfortable interactive discussions and role-plays (e.g., plaintiff-side or defendant-side attorneys strategizing on civil procedure); "Socratic Method" to explore real-world case studies.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特講(Civil Procedure))		

授業の目標 / Course Objectives

Our main objectives are (i) to become familiar with basic civil litigation and civil procedure topics across multiple countries (e.g., Japan, the US, India, Germany) and (ii) to obtain valuable procedural lessons from assessments of historic/influential civil lawsuits.

A supplementary objective is to raise our awareness of modern/ongoing civil litigation trends – namely, the types of claims being filed in today's world (e.g., climate litigation and breach of privacy claims) and plaintiffs' procedural strategies.

授業の内容 / Course Contents

Throughout this course, we will explore the process of civil litigation, from the initiation of a lawsuit to its resolution through dismissal, judgment, or appeal. Civil litigation involves resolving disputes in court through a series of structured phases, including pretrial, trial, and post-trial activities, all governed by procedural rules and evidence standards. Via explorations of the legal frameworks of jurisdictions such as Japan, the United States, India, and Germany, this class will introduce foundational concepts of civil procedure, emphasizing their practical application and comparative aspects. Students will gain insights into the mechanisms that (hopefully) ensure fairness, efficiency, and justice in civil disputes.

[Please note that In-class Participation/Effort does not mean that students who speak the most or who always lead discussions will be evaluated more favorably. Rather, a willingness to learn and engage in activities to the best of one's abilities – in class-wide settings, in small groups, and/or even via interactions with the lecturer himself (in person or by email) – along with improvement over the entire course will be highly regarded.]

授業計画 / Course Schedule

[1]: Introduction to Civil Procedure (1): What is Civil Litigation? What are the Differences Between Civil and Criminal Cases?

[2]: Introduction to Civil Procedure (2): Initial Lessons from Examining Famous/Historic Civil Cases; plus Trends in Modern Civil Litigation (e.g., Climate Litigation, Privacy and Data Protection Litigation, AI Copyright Litigation)

[3]: The Players: Courts; Parties (Plaintiffs and Defendants); Judges; Juries; Amicus Curiae ("Friends of the Court")

[4]: Fundamental Principles Governing Trial Processes: Fairness and Impartiality

- 【5】:Filing a Civil Lawsuit: Components of a Civil Complaint; Standing to Bring a Civil Lawsuit; First Look at Jurisdiction and Venue Issues
- 【6】:A Deeper Exploration of Jurisdiction and Venue: The Case of International Shoe Co. v. Washington, 326 U.S. 310 (1945)
- 【7】:Responding to a Civil Lawsuit: Components of a Response; Potential Defense Strategies
- 【8】:Discovery and Evidence Issues: Examining US Federal Rules of Civil Procedure Rule 26; Hearsay
- 【9】:Class Actions: Mass Tort Litigation Examples; The Case of Ford Motor Co. v. Montana Eighth Judicial District Court, 592 U.S. 351 (2021)
- 【10】:Jury Trial Considerations: Cross-border Comparisons of Jury Trial Systems; Juror Impartiality (US v. Bear Runner)
- 【11】:Civil Trial Procedures: Opening Statements; Witness Examinations; Cultural Aspects of Courtroom Behavior/Etiquette
- 【12】:Judgment Considerations (1): Reasoning/Rationale Behind Judgments; Enforcement; Consequences
- 【13】:Judgment Considerations (2): Standards of Review (e.g., Strict Scrutiny)
- 【14】:International Business Disputes: Choice of Law Issues; Enforcement of Foreign Judgments; plus Civil Litigation Settlement Negotiations: Settlement Negotiation Role Play Exercises

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワーポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用	☐	校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定	☐				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Your professor will provide reading materials based on the progress and/or theme of each class. Students are asked to (i) read and think about the materials and (ii) prepare for class/group discussion before each session.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Test:25% Assessments of Historic and Modern Civil Trials:20% In-class Participation/Effort:20% 最終テスト割合::35%

テキスト / Textbooks

Your professor will provide copies of reading materials.

参考文献 / Readings

Joseph Glannon Civil Procedure: Examples & Explanations Aspen Publishing 2023

The above is simply for reference and/or further studies should you be interested. Your professor will provide copies of short excerpts from certain reading materials.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Moot Court

Moot Court

クッション (CUSHION NICHOLAS J.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX109
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(Moot Court))		

授業の目標 / Course Objectives

Students will learn and practice English vocabulary and expressions used in the legal field in a very fun and interesting way. (This class is for students who have experience communicating with others in English)

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will have the opportunity to role-play in a weekly moot court (模擬裁判). Students may choose original or famous court cases in the area of criminal or civil law.

Prior to each class, students will use a template provided by the instructor to prepare a moot court case. Students will assign roles to the other students and then conduct a moot court session. The instructor will provide guidance during the moot court session.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Class introduction including demonstration of typical class assignment
- 【2】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【3】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【4】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【5】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【6】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【7】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【8】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【9】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【10】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【11】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【12】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【13】:Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
- 【14】:Final project presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Presenter(s) will prepare a moot court session with a format explained by the instructor.

Presenter(s) will prepare copies of the presentation for all students in the class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% Class participation:59%

テキスト / Textbooks

A reading may be distributed in each class

参考文献 / Readings

経済法1

Economic Law 1

田平 恵 (TAHIRA MEGUMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

独占禁止法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying the Antimonopoly Act.

授業の内容 / Course Contents

独占禁止法の規制のうち、市場支配力の形成・維持・強化が問題となる類型を中心に解説する。

独占禁止法の目的、基礎概念について説明したのち、企業結合規制、不当な取引制限の規制、私的独占の規制、事業者団体の規制の順に、解説する。

The classes will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on patterns of market power creation, maintenance, and strengthening which become problematic.

After explaining the purpose and basic concept of the Antimonopoly Act, we will cover cartel regulations, regulations concerning restrictions on unfair transactions, private monopoly regulations, and trade association regulations in that order.

授業計画 / Course Schedule

【1】:序論(1)独占禁止法の全体像(1)

【2】:序論(2)独占禁止法の全体像(2)

【3】:序論(3)独占禁止法の目的・基礎概念

不当な取引制限の規制(1)規制の概要

【4】:不当な取引制限の規制(2)行為要件

【5】:不当な取引制限の規制(3)反競争効果要件

【6】:不当な取引制限の規制(4)エンフォースメント

事業者団体の規制

【7】:私的独占規制(1)規制の概要、排除型私的独占①

【8】:私的独占規制(2)排除型私的独占②、支配型私的独占、反競争効果要件

【9】:企業結合規制(1)企業結合規制の概要

【10】:企業結合規制(2)一般集中の規制、結合関係の認定、一定の取引分野の画定

【11】:企業結合規制(3)競争の実質的制限①意義、②水平型企業結合

【12】:企業結合規制(4)競争の実質的制限③垂直型・混合型企業結合、問題解消措置

【13】:企業結合規制(5)事前届出制度、デジタルプラットフォームと企業結合

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣『条文から学ぶ独占禁止法(第3版)』有斐閣 2024 9784641243743

参考文献 / Readings

川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法(第5版)』有斐閣 2020 9784641221413

金井貴嗣ほか編『経済法判例・審決百選(第3版)』有斐閣 2024 9784641115682

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

独占禁止法を学習する際には、憲法や民法や刑法など基本的な実定法科目の学修を通じて獲得される法的思考力を有することが有益である。したがって、1年次配当の実定法科目のいくつかを履修済みであるか、又は並行して学習することが望ましい。

経済法2

Economic Law 2

長尾 愛女(NAGAO EME)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX112
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

独占禁止法と景品表示法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法と景品表示法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act and the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying these two acts.

授業の内容 / Course Contents

独占禁止法の規制のうち、不公正な取引方法の規制を中心に解説する。

不公正な取引方法の総論として「公正競争阻害性」概念について解説したのち、各論的な行為類型である再販売価格の拘束、不当廉売、優越的地位の濫用といった様々な行為類型を取り上げる。関連する規制として景品表示法の規制も取り上げる予定である。

なお、独占禁止法と景品表示法を学習する際には、民法など他の実定法科目の知識を有することが有益となるので、少なくとも1年次配当の実定法科目のいくつかを履修済みであるか、又は並行して学習することが望ましい。

This course will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on unfair trade practices.

As a general introduction to unfair trade practices, the classes will explain the concept of "inhibition of fair competition" before covering various theoretical behavior patterns such as resale price restrictions, dumping, and the abuse of a dominant bargaining position. The course is also scheduled to cover regulations in the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations as a related set of regulations.

It is desirable to study other legal fields such as civil law in pararell, since the Antimonopoly Act is based on knowledge of them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 不公正な取引方法の規制の全体像
- 【2】: 不公正な取引方法総論: 公正競争阻害性
- 【3】: 不公正な取引方法各論: 再販売価格の拘束
- 【4】: 不公正な取引方法各論: 排他条件付取引
- 【5】: 不公正な取引方法各論: 拘束条件付取引
- 【6】: 不公正な取引方法各論: 不当廉売
- 【7】: 不公正な取引方法各論: 取引拒絶規制
- 【8】: 不公正な取引方法各論: 差別対価等
- 【9】: 不公正な取引方法各論: 取引強制(抱き合わせ販売)、不当な顧客誘引
- 【10】: 景品表示法の規制(1) 不当表示規制
- 【11】: 景品表示法の規制(2) 景品規制、景品表示法のエンフォースメント

- 【12】: 不公正な取引方法各論: 優越的地位の濫用
【13】: 不公正な取引方法各論: 優越的地位の濫用等の事例
【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

原則として、授業支援システム上で配布する講義レジュメに沿って講義を行う予定である。事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣 『条文から学ぶ独占禁止法(第3版)』 有斐閣 2024 9784641243743
消費者庁「事例でわかる景品表示法」
https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/fair_labeling/pdf/fair_labeling_160801_0001.pdf

参考文献 / Readings

川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子 『ベーシック経済法(第5版)』 有斐閣 2020 9784641221413
川濱昇ほか編 『経済法判例・審決百選(第3版)』 有斐閣 2024 9784641115682
岸井大太郎・大槻文俊・中川晶比兒・川島富士雄・稗貫俊文 『経済法: 独占禁止法と競争政策(第9版補訂)』 有斐閣 2022 9784641221840
井田良ほか 『法を学ぶ人のための文章作法(第2版)』 有斐閣 2019 9784641126121
テキスト及び参考文献のうち、手続き規定等の改正を反映していない箇所は、より出版年が新しい文献を参照すること。

その他 / Others

講義レジュメを授業支援システム上で配布するので、事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

Corporate Law A

Corporate Law A
Corporate Governance

山下 徹哉 (YAMASHITA TETSUYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX113
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特講(Corporate Law))グローバルコースの学生優先		

授業の目標 / Course Objectives

The objectives of this course are:

- to develop students' ability to explain their knowledge of law in English;
- for students to learn basic knowledge of corporations and corporate law, especially corporate governance; and
- for students to understand the relationship between law and society.

授業の内容 / Course Contents

This course will provide an introduction to Japanese corporations and corporate law. Because corporations play an important role in Japanese society and economy, it is needed for students studying law and business to understand the basic knowledge of legal rules on corporations.

This course will be divided into two parts: the former part treats fundamental concepts on corporations and corporate law; and the latter part treats basic knowledge of Japanese legal rules about corporate governance.

The instructor will provide concise handouts and reading materials for each class. Students are expected to read them before the class. Besides, students are strongly encouraged to ask questions and participate in discussions during the class.

*The instructor will give a paper explaining more detailed course contents and schedule in the first week of class. Some topics for learning and/or their order may be different than the topics listed in the course schedule in this syllabus.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Guidance; Introduction to Corporate Law (1): What is Corporation?
- 【2】:Introduction to Corporate Law (2): Basic Features of Corporate Law
- 【3】:Introduction to Corporate Law (3): Basic Governance Structure
- 【4】:Discussion on the Basics of Corporate Law/ Corporate Governance
- 【5】:Basic Legal Features of Corporations
- 【6】:Shareholders Meeting (1): What is Shareholders Meeting?
- 【7】:Shareholders Meeting (2): Defects in Shareholder Resolutions
- 【8】:Directors (1): Directors, Board of Directors, and Representative Directors
- 【9】:Directors (2): Duties of Directors; Conflicts of Interests between Directors and Corporation
- 【10】:Company Auditors and Accounting Auditors
- 【11】:Liability of Organ Members
- 【12】:Institutional Setting for Japanese Corporations: Japanese-style Corporate Governance & Recent Reforms of Corporate Governance

【13】:New Types of Governance Structure: Companies with Committees

【14】:Course Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Students will need to actively participate in discussions and will be encouraged to ask questions in every class.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Before/after attending each class, students are expected to read the handouts and materials for each class. In addition, students will be assigned to submit reaction papers for each class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:40% Reaction Papers:30% In-class Quizzes:30%

Feedback on Reaction Papers and Quizzes will be given in the classroom or on Canvas LMS.

テキスト / Textbooks

Concise handouts and reading materials are distributed before each class.

参考文献 / Readings

Ichiro Kawamoto, Yasuhiro Kawaguchi, and Takayuki Kihira Corporations and Partnerships in Japan (2nd ed.) Kluwer Law Intl 2016 9789041168542

Curtis J. Milhaupt, J. Mark Ramseryer, and Mark D. West The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary (2nd ed.) Foundation Press 2012 9781609300296

The instructor will give detailed explanations about the readings mentioned above in the first class and may give information about further readings in each class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Corporate Law B

Corporate Law B
Understanding Corporate Law

アレン, A. (ALLEN ANDREW)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX114
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特講(Corporate Law))		

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students should have a basic understanding of the practical and theoretical aspects of laws that govern corporations in the United States.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will receive an overview of the laws generally governing corporations in the United States, including the relationship among managers and shareholders in the business enterprise.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Introduction and Corporate Formation
- 【2】:The Corporation
- 【3】:The Law of Agency
- 【4】:The Board of Directors
- 【5】:The Shareholders
- 【6】:Midterm Quiz
- 【7】:Why Companies Exist
- 【8】:Director and Shareholder Liabilities
- 【9】:Securities Regulation
- 【10】:Corporate Social Responsibility
- 【11】:Mergers & Acquisitions
- 【12】:Comparative Law
- 【13】:Executive Compensation
- 【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class. Any information in the

readings may be included on the quizzes and the final test.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes:20% Midterm Quiz:30% Class Participation:20% Final Test:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading pack to be provided.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

Participation: Class attendance, participation, and preparation are expected. If you are unable to attend class, please contact me by email before absences occur, or as soon as possible after class starts if you have an unexpected emergency. Unauthorized absences will be considered in calculating a student's class participation score. Please note that all students must attend at least 2/3 of the lectures in order to earn credit for this course.

Quizzes: Students will take quizzes that cover information discussed throughout this course. The lowest score will automatically be dropped and the remaining scores will be averaged. Please note that this calculation does not include the midterm quiz.

Final test: The final test will be held during the time of the final class, and will cover material discussed during the entire semester. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the quizzes, (c) attended all of the classes, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each class, then they should be prepared for the final test.

Syllabus: The syllabus represents current plans and objectives for each week, but as we go through the semester, the plans may need to be changed to maximize the class learning opportunity. Such changes, if necessary, will be clearly conveyed to the class.

Intellectual Property Law

Intellectual Property Law
Intellectual Property Law

竹中 俊子 (TAKENAKA TOSHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX115
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face to face
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3501
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、特許法、意匠法、著作権法、商標法、不正競争防止法、地理的表示法等の知的財産法の保護対象を学び、これらの保護対象の保護の日米欧の違いを理解することで、学生がグローバル市場における知的財産法曹実務家となる基礎知識を養う。各知的財産権の対象に保護を与える理由と政策目的を理解し、議論することで論理的思考を育てる。

This course is designed to prepare students who will practice intellectual property (IP) law in the global marketplace by learning about the subject matter of various IP laws, including patent law, industrial design law, copyright law, trademark law, unfair competition law, and geographical indication law, and understanding the differences between Japan, the U.S., and Europe in the protection of these subject matters.

授業の内容 / Course Contents

最初に、学生は主な知的財産権に関する条約と、これらの条約に基づく義務が、欧州連合(EU)および米国(US)の国内法でどのように履行されているかを学ぶ。次に、EUと米国の知的財産制度の法体系を比較検討し、日本、米国、欧州における特許法、植物品種および種子保護法、商標法、意匠特許法、不正競争防止法、著作権法、地理的表示保護法による保護の範囲と権利の基本的な概念を理解し、これらの権利をどのように組み合わせればグローバルな市場で製品やサービスを保護できるかを検討する。各講義では、学生は少人数のグループに分かれ、知的財産を保護するための戦略や政策について議論し、創造性と英語でのコミュニケーション能力を養う。

First, students will study the main intellectual property treaties and how the obligations under these treaties are implemented in the national laws of the European Union and the United States (US). Second, students will study and compare the legal systems of the EU and US IP systems to understand the basic concepts of the scope of protection and rights covered by patent law, plant variety and seed protection law, trademark law, design patent law, unfair competition law, copyright law and geographical indication law in Japan, the US and Europe, and to consider how these rights can be combined to protect products and services in the global marketplace. In each lecture, students are divided into small groups and discuss strategies and policies for protecting intellectual property, thereby developing their creativity and English communication skills.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction: IP-Related International Agreements

1. Paris Convention
2. Berne Convention
3. TRIPS

【2】:EU IP System

1. Overview – Sources of Law

2. EUIPO and EPO
3. EU and National Court System
- 【3】:US IP System**
 1. Overview: Sources of Law
 2. USPTO, Copyright Office
 3. U.S. court system
- 【4】:Patents: Procurement**
 1. Justification for Exclusive Rights
 2. First-to-File v. First-to-Invent
 3. Conditions of Patentability
- 【5】:Patents: Exclusive Rights**
 1. Scope of Protection: Acts of Infringement
 2. Exceptions to Exclusive Rights
 3. Enforcement
- 【6】:Industrial Design**
 1. Justification for Exclusive Rights
 2. Difference from patents
 3. Registered v. Unregistered designs
 4. Conditions for Registration
- 【7】:Trademarks—Procurement**
 1. Justification for Exclusive Rights
 2. First-to-File v. First-to-Use
 3. Registered v. Unregistered trademarks
 4. Conditions for Registration
- 【8】:Trademarks: Exclusive Rights**
 1. Scope of Protection: Acts of Infringement
 2. Exceptions to Exclusive Rights
 3. Enforcement
- 【9】:Unfair Competition**
 1. Justification for protection
 2. Trademark Dilution and Other Acts of unfair competition
 3. Trade Secrets
- 【10】:Geographical Indications**
 1. Justification for Protection
 2. EU approach v. US Approach
 3. Conditions for Registration
- 【11】:Copyright: Procurement**
 1. Justification for Exclusive Right
 2. Automatic protection v. Registration
 3. Conditions for Protection
- 【12】:Copyright: Enforcement**
 1. Scope of Exclusive Right: Infringement
 2. Exceptions to Infringement: Fair Use
 3. Copyright in Digital Age
- 【13】:Review and Discussions: IP Strategy**
 1. Pros and cons of different types of IP Protection
 2. Generative AI and IP System
 3. Sustainability and IP System
- 【14】:Special Lecture – Visit to IP High Court**

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

知財高裁訪問

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read assigned articles and online course materials so that they can engage in class discussions.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Discussions and Presentations:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Online book only: WIPO, IP Handbook (https://bae2008.files.wordpress.com/2015/02/wipo_pub_489.pdf)

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

International Business Law C

International Business Law C

EX116 International Business Law C

白石 和泰／花本 浩一郎 (SHIRAISHI KAZUYASU/ HANAMOTO KOICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX116
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面) Face-to-face (all classes face-to-face)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:Competition Law)		

授業の目標 / Course Objectives

主に日本の独占禁止法関係法令、個人情報保護法関係法令、経済安全保障関係法令等の基本的な構造・内容を学んでいただきます。また、契約検討にあたっての留意点など、ビジネスでの上記法令の適用場面などを踏まえた解説も行う予定であり、実務的な視点も養っていただきます。この講義で取り上げる独占禁止法関係法令については、「競争」について分かりやすく説明するとともに、日常生活と切り離せないスマートフォンや GAFAM などのプラットフォームも素材として取り上げます。また、個人情報保護法関係法令は、特に B to C ビジネスにおいては、個人情報を含むデータの利活用が広く行われており、これらの法令の理解は必須のものとなっています。さらに、経済安全保障関係法令は、昨今の緊迫した国際情勢の下では、企業のリスクマネジメントが一層重要かつ難しいものとなっており、これらの法令の理解は必須のものとなっています。

In this course, you will learn about the basic structure and content of Japanese laws and regulations related to antimonopoly, protection of personal information, and security of economic transactions. We will also explain these laws in light of their practical applications in business, including the points to consider when reviewing contracts, and have you develop a practical perspective. The Antimonopoly Act-related laws and regulations covered in this course will help to explain what “competition” is, and we will also take up topics regarding smartphones and platformers like GAFAM that are indispensable in our daily lives. In addition, understanding the laws and regulations related to the protection of personal information is becoming increasingly important especially in B to C businesses, because data including personal information is widely used. Furthermore, under the current tense international situation, risk management for companies is becoming more important and difficult, and it is essential to understand economic security-related laws and regulations.

授業の内容 / Course Contents

独占禁止法については、その基本的な概念や重要な論点について、事例も用いて分かりやすく講義をします。独占禁止法以外の独占禁止法関連法令としては、不当景品類及び不当表示防止法等を取り上げて解説します。また、長年米国ワシントン大学において特許法を教えてきた竹中俊子先生とのジョイント講義を行う予定であり、一見関係ないとも思える、特許法と独占禁止法との関係について講義します。

個人情報保護法関係法令、経済安全保障関係法令についても、その基本的な概念や重要な論点について、事例も用いて分かりやすく講義をします。

いずれの講義回においても、折に触れ、実際の弁護士業務においてよく問題となる論点や事例をご紹介します。

本講義においては、上記の法令について広い視点で学びながら、その基礎を身に付け、実務的な感覚も養うことができます。

We will be lecturing on the basic concepts and important issues of the Antimonopoly Act by using examples to make it easy to understand.

We will also cover other Antimonopoly Act-related laws, such as the Act against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations.

We also plan to hold a joint lecture with Professor Toshiko Takenaka, who has been teaching patent law at the University of Washington in the US for many years. We will give a lecture on the relationship between patent law and the Antimonopoly Act, which may seem unrelated at first glance.

We will also give lectures that will make it easy to understand the basic concepts and important issues of the Act on the Protection of Personal Information and the economic security-related laws and regulations by using examples.

In each class, we will introduce issues and examples that often arise in actual legal practice.

In this course, you will learn about the above laws and regulations from a broad perspective, as well as acquire basic skills and develop a practical sense in such regard.

授業計画 / Course Schedule

【1】:第1回 本講座のガイダンス、日本の独禁法の歴史・目的・体系(米国や欧州との比較を交えて)

Class 1: Guidance for this Course, History of the Antimonopoly Act (with comparisons to the U.S. and Europe)

【2】:第2回 不当な取引制限(カルテル) 1

Class 2: Unfair Restraint of Trade (Cartels) 1

【3】:第3回 不当な取引制限(カルテル) 2

Class 3: Unfair Restraint of Trade (Cartels) 2

【4】:第4回 私的独占・不公正な取引方法 1

Class 4: Private Monopolization and Unfair Trade Practices 1

【5】:第5回 私的独占・不公正な取引方法 2

Class 5: Private Monopolization and Unfair Trade Practices 2

【6】:第6回 独占禁止法関係法令(景表法など消費者法)

Class 6: Related Laws and Regulations (Consumer Laws such as the Unjustifiable Premiums Act)

【7】:第7回 企業結合・業務提携

Class 7: Business Combinations and Business Alliances

【8】:第8回 競争法と特許法の交錯(竹中俊子先生とのジョイント講義を予定)

Class 8: Intersection of Competition Laws and Patent Laws (scheduled joint lecture with Prof. Toshiko Takenaka)

【9】:第9回 個人情報保護法関係法令 1

Class 9: Laws and Regulations related to the Protection of Personal Information 1

【10】:第10回 個人情報保護法関係法令 2

Class 10: Laws and Regulations related to the Protection of Personal Information 2

【11】:第11回 経済安全保障関係法令 1

Class 11: Economic Security-Related Laws and Regulations 1

【12】:第12回 経済安全保障関係法令 2

Class 12: Economic Security-Related Laws and Regulations 2

【13】:第13回 契約検討にあたっての実務上の留意点

Class 13: Practical Considerations in Contract Review

【14】:第14回 まとめ

Class 14: Roundup

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

上記はシラバス執筆時の予定であり、内容や予定が変更となる可能性があります。履修許可者は、初回授業までに「Canvas LMS」にログインして詳細を確認してください。

The above is the schedule at the time of writing this syllabus, but the contents and schedule are subject to change. Students who have been approved for the course should log in to the "Canvas LMS" before the first class to confirm details.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本講義では復習を重視します。

Reviewing the materials covered after each class is very important for this course.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 平常の授業態度(出席の有無を含む) Attitude in class during this course (including attendance):40%

テキスト / Textbooks

このコースでは、各授業のレジメが講師より提供されます。

In this course, a resume will be provided for each class by lecturer.

参考文献 / Readings

適宜授業中に必要に応じて紹介します。

Will be introduced in class as appropriate and necessary.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

インターネット接続が可能なノートパソコン

Laptop with internet access

その他 / Others

レジメを Canvas LMS 上に掲載する予定です。

Handouts will be posted on Canvas LMS.

Cross-Border Litigation

Cross-Border Litigation

英語により国際民事手続法を受講する

早川 吉尚 (HAYAKAWA YOSHIHISA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX117
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(International Civil Procedure))		

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化の進む現代における私人・私企業間の国際的な紛争の解決方法の基本構造を英語による講義を通じて修得させる。

Learn present dispute resolution systems for cross-border commercial disputes in Japan and other countries.

授業の内容 / Course Contents

日本企業と外国企業の間で紛争が生じたとき、どの国の裁判所で解決されるのでしょうか。外国企業を相手に訴訟を行う場合、どういった点に配慮する必要があるのでしょうか。外国で判決が下された場合に、それは我が国にどのような影響をもたらすのでしょうか。

国際民事手続法とは、各国ごとに法制度が異なるという現在の国際社会の状況の下、国際的な民事紛争をどのように解決するかを規律する法です。国際化がますます進展する現代において、その重要性は拡大の一途をたどっています。講義では、我が国の国際民事手続法の基本構造をできる限り丁寧に説明することで、ときに難解ともいわれるこの法をわかりやすく解説することを心掛けます。

なお、本講義はすべて英語により行われます。英語による講義のヒヤリング能力の向上に意欲的な学生の参加を待っています。

Main focus will be placed on transnational litigation, international commercial arbitration and cross-border bankruptcy.

Combination of lecture and class discussion. Participants are encouraged to actively participate in class discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: Jurisdiction①
- 【3】: Jurisdiction②
- 【4】: Jurisdiction③
- 【5】: Jurisdiction④
- 【6】: Service Abroad①
- 【7】: Service Abroad②
- 【8】: Taking of Evidence Abroad①
- 【9】: Taking of Evidence Abroad②
- 【10】: Foreign Governing Law①
- 【11】: Foreign Governing Law②
- 【12】: Recognition and Enforcement of Foreign Judgments①
- 【13】: Recognition and Enforcement of Foreign Judgments②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

If you have any question, please send an-email to haya@rikkyo.ac.jp.

講義内容に関する個別の質問に関しては、電子メールによって出来る限りお答えしたいと思っています。

haya@rikkyo.ac.jp までお気軽に送信してください。

なお、日本語による「国際民事手続法」も別に展開されていますので、あわせて受講すると、より理解が深まります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義中の発言:40% 中間テスト (Mid-term Test):30% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

Related documents will be distributed in the class room.

講義の中で資料その他を配布します。

参考文献 / Readings

Kanzaki, Hayakawa and Motonaga, "Private International Law" (Yuhikaku)

日本語の副読本として神前・早川・元永『国際私法(有斐閣アルマ)』(有斐閣)をお勧めします。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

The same subject is provided by another professor in Japanese language. Please consider taking the class as well for your better understanding.

別教員による日本語による「国際民事手続法」も開講されています。授業内容のよりよい理解のために、あわせて履修することも可能ですので、ご検討ください。

Fiduciary Law

Fiduciary Law

to have a basic understanding of trust asset management schemes and related modern social issues

田岡 絵理子 (TAOKA ERIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX118
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to provide students with basic knowledge of Japanese trust law. The course has three primary objectives.

The first one is to understand the basic structure and rules of trust. An increasing number of trusts has been formulated in our Japanese modern society. We will learn the cause of the increase, social needs for trusts, issues involving trust schemes, and rules to address the issues. Therefore, through learning contract law (i.e., the ways it operates and solves disputes), students can also learn the ways our society operates.

The second one is to train students' value judgment. Disputes involving trusts present multiple parties' competing interests, each one of which deserves to be carefully analyzed and considered. Academics' discussions also provide competing opinions and various approaches to solve disputes. Through case studies, the students can train the ways of balancing competing interests and constantly test their own value judgment. The last objective is to train logical thinking skills through learning logical justification for rules and courts' decisions.

授業の内容 / Course Contents

The lectures will be provided with PowerPoint. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

Writing assignments will also be given. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late assignment may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction to the course

- 【2】:Characteristics of Japanese trust law: general structure of trust, policy goals of trust law, roles of trusts and trust law in the Japanese society
- 【3】:Historical development of trust and trust law
- 【4】:Functions of trust and manners to create trusts, differences between trust and similar asset management methods
- 【5】:Trustee's authority (1)
- 【6】:Trustee's authority (2)
- 【7】:Trustee's duties (1)
- 【8】:Trustee's duties (2)
- 【9】:Trustee's duties (3)
- 【10】:Settlor's interests and rights (1)
- 【11】:Settlor's interests and rights (2)
- 【12】:Beneficiary's interests and rights (1)
- 【13】:Beneficiary's interests and rights (2)
- 【14】:Reviewing the sessions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in the classroom discussion (including presentation):40% Homework assignment:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Financial Law

Financial Law

Comparative Analysis and Emerging Issues of financial systems

信森 毅博(NOBUMORI TAKEHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX119
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・社会人生活を送るために必要な金融システム・主体の基本的な考え方を理解する。
- ・特に、NISA や暗号資産など金融に関する新たな動きについて、議論する。
- ・特定の実定法に捉われず、関係する経済学・会計学を意識した学際的なものとする。

1)To understand the basic concept of legal structure regarding the financial systems and their differences among jurisdictions and 2) to discuss new developments in the systems.

授業の内容 / Course Contents

- ①金融システムにおける主体・ルールの特徴を理解する。
- ②金融取引を規律するルールの目的と内容を議論する。
- ③参加学生が興味を有する新たな金融システムの課題を理解する。

1) Share their understanding of the characteristics and differences of rules concerning participating students' jurisdictions.

2) Discuss new financial issues of interest to the participating students.

Students are requested to briefly summarize the situation in your country concerning the discussion of the next topic.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction: Overview of financial markets and legal entities; why are financial markets necessary?
- 【2】:Position of banks in the financial system: why are banks regulated?
- 【3】:What kind of functions do banks provide?
- 【4】:What is a payment system: Why are crypto assets attracting attention?
- 【5】:What do central banks do? Why do they exist separately from governments?
- 【6】:What do regulators do; why do they take different forms in different countries?
- 【7】:What is the Great Recession after the Lehman failure?
- 【8】:Basel regulations. Why are international regulations necessary?
- 【9】:What is the Too big To fail problem?
- 【10】:What roles do other financial institutions play?
- 【11】:What other regulations exist in the financial markets?
- 【12】:Why are anti-money laundering measures necessary?
- 【13】:New issues; culture and climate change. Why do financial institutions expect it?
- 【14】:Summary: What role should financial institutions play?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Participants are expected to be active in making presentations and making comments based on their own country's financial system. (Themes will be sometimes assigned in consultation with the lecturers)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% reports and comments at each class (5%×14 classes):70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

John Armour Principles of Financial Regulation Oxford University Press 9780198786481

Purchase of the textbook is not mandatory. The instructor will provide additional reading materials.

参考文献 / Readings

The instructor will provide reading materials.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Torts

Torts

マシャド Y. (MACHADO Y. DANIEL)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX120
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(Tort Law))		

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to introduce students to the basics of legal reasoning with a focus on the Japanese law of torts.

授業の内容 / Course Contents

Tort law is the body of rules that determine when and how a person must compensate another for a financial or emotional damage. This course will explore the basic structure of the Japanese law of torts from a comparative perspective. Most classes are interactive and students are expected to prepare and participate in every class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation
- 【2】:What is a tort?
- 【3】:What are rights or legally protected interests?
- 【4】:What is negligence?
- 【5】:What is causation?
- 【6】:What is damage(s)?
- 【7】:Who is or can be a tort victim?
- 【8】:What defenses are there against a tort claim? 1
- 【9】:What defenses are there against a tort claim? 2
- 【10】:What if there are multiple tortfeasors?
- 【11】:When is a person liable for the acts of another?
- 【12】:When is a person liable for damage caused by a thing?
- 【13】:What is defamation?
- 【14】:Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be given book chapters and materials to read before every class. Preparation should take around one hour depending on your English reading skills.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加 (Attendance and Participation):30% 課題 (Assignments):30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

All materials discussed in class will be made available in advance or distributed in class.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

英米法1

Anglo American Law 1

山口 哲史 (YAMAGUCHI SATOSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX121
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面で授業を進める。授業の進み具合等により、内容や順序の変更の可能性がある。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

英米法と英米公法の基本的な特徴を理解できるようになる。

The aim of this course is to help students acquire Anglo-American Law (public law).

The goals of this course are to understand basics of Anglo-American Law (public law).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Details will be announced later.

授業の内容 / Course Contents

英米法の特徴(判例法主義、先例拘束性の法理、陪審制、救済方法など(イギリス法の歴史))、イギリス公法(司法、国会主権と法の支配、市民的自由、イギリス法とヨーロッパ法(欧州人権条約・EU 法)など)、アメリカ法の歴史、アメリカ公法(連邦制、司法、違憲審査制など)の特徴の基本を扱います。

Students will learn following characteristics of Anglo-American Law.

(1)case law system, doctrine of precedent

(2)English Public Law (courts, sovereignty of parliament and rule of law, civil liberties and relationship between english law and european convention on human rights and EU law)

(3)American Public Law (federalism, courts, judicial review).

授業計画 / Course Schedule

【1】: 英米法とは何か

【2】: 英米法の諸特徴1ー歴史的継続性、判例法主義、先例拘束性の法理、陪審制、救済方法など

【3】: 英米法の諸特徴2ー歴史的継続性、判例法主義、先例拘束性の法理、陪審制、救済方法など

【4】: 英米法の諸特徴3ー歴史的継続性、判例法主義、先例拘束性の法理、陪審制、救済方法など

【5】: イギリス公法ーイギリス憲法(国会主権と法の支配) 1

【6】: イギリス公法ーイギリス憲法(国会主権と法の支配) 2

【7】: イギリス公法ー市民的自由、イギリスとヨーロッパ(欧州人権条約・EU 法)ー1

【8】: イギリス公法ー市民的自由、イギリスとヨーロッパ(欧州人権条約・EU 法)ー2

【9】: イギリス公法ー市民的自由、イギリスとヨーロッパ(欧州人権条約・EU 法)ー3

【10】: アメリカ法の歴史

【11】: アメリカ公法ー連邦制

【12】: アメリカ公法ー司法

【13】: アメリカ公法ー違憲審査制

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

配布資料のある場合、Canvas LMS を通じて配布します。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習各2時間

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

田中英夫『英米法総論(上)』東京大学出版会 1980 9784130350518

田中英夫『英米法総論(下)』東京大学出版会 1980 9784130350525

戒能通弘・竹村和也『イギリス法入門: 歴史、社会、法思想から見る』法律文化社 2018 9784589039231

松井 茂記『アメリカ憲法入門[第9版] 外国法入門双書』有斐閣 2023 9784641048331

岩田太ほか『基礎から学べるアメリカ法』弘文堂 2020 9784335358104

その他 / Others

私語や授業妨害に相当する行為を禁止する。そのような行為に対して退室を求める場合がある。

英米法2

Anglo American Law 2

秋元 奈穂子(AKIMOTO NAOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX122
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アメリカにおける法のうち、契約法と不法行為法の原理・ルールを判例及び具体的な契約条項を通じて理解する。契約法及び不法行為法は州判例法の最も重要な二領域であり、それぞれの学習はアメリカの法制度と社会との深い理解にも結びつくとともに、日本法との比較を通じて日本法の理解にも資するはずである。

This course aims at students' understanding of basic principles and rules of contracts and torts through the analysis of cases and actual contractual provisions. Contracts and torts are the most important areas of law in state common laws and to learn them will lead deep understanding of legal system and society in the US as well as understanding of Japanese law through comparative analysis.

授業の内容 / Course Contents

講義前半では契約法を扱う。アメリカ契約法における基本的な原則について実際の判例や契約書の条項を通して学ぶ。その際、契約法と具体的な当事者間の取り決めである契約との違いに留意する。

講義後半では不法行為法を扱う。アメリカ不法行為法における基本的な原則について、実際の判例を通して学ぶ。契約法及び不法行為法は、アメリカを含む英米法体系諸国における、判例法(コモン・ロー)の中心であり、その発展形態も原則も日本とは大きく異なる。具体的な判例の検討を通じて、各法における基本的な原則が、どのような社会的背景のもとにどのような法目的を達成するために生成・確立したかを学生それぞれが考え理解することが目標である。

The first half of the course will focus on contracts. Students will learn the basic principles and rules of contracts through the analysis of representative cases and actual contractual provisions. We will consider the difference between “contract law” which is a substantive law and individual “contract” which is a lawmaking of private parties and how and when parties may depart from the default rule of “contract law” in their own “contract.”

The latter half of the course will focus on torts. The course will have discussions on the representative cases and students will learn the basic principles and features of torts. The lecturer plans to have comparative analysis between Japanese law in order to illuminate the feature of tort law in the US.

授業計画 / Course Schedule

【1】:(1) はじめに 判例法主義 法源など

(2) 契約法と具体的な契約の違い、契約交渉

【2】:契約法(1)

申込と承諾 Offer and Acceptance

【3】:契約法(2)

約因 Consideration

【4】:契約法(3)

契約締結上の瑕疵

(強迫 duress、不当威圧 undue influence、不実表示 misrepresentation、非良心性 unconscionability)

【5】: 契約法 (4)

強制可能性 enforceability、契約書の機能(i) statute of fraud

【6】: 契約法 (5)

契約書の機能(ii) パロール・エヴィデンス・ルール Parole evidence rule

【7】: 契約法 (6)

履行 Performance

【8】: 契約法 (7)

保証 Warranty、契約違反と救済 Breach of contract & remedy

【9】: 不法行為法 (1)

不法行為法概観

注意義務 Duty of care

【10】: 不法行為法 (2)

注意義務に関する特別のルール

注意義務違反

【11】: 不法行為法 (3)

事実的因果関係 cause in fact

法的因果関係 proximate cause

【12】: 不法行為法 (4)

因果関係(続き)

損害 actual damage

【13】: 不法行為法 (5)

損害賠償 damages

【14】: 不法行為法 (6)

不法行為に対する抗弁 defenses

(被害者側の過失 contributory/ comparative negligence)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回、前回までの授業の復習と共に、指定された文献(教科書の該当ページ又はその他教員が指定する文献)に目を通して授業にのぞむこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト(契約法):20% 小テスト(不法行為法):20%

テキスト / Textbooks

樋口範雄『アメリカ契約法 第三版』弘文堂 2022

樋口範雄『アメリカ不法行為法 第二版』弘文堂 2014

参考文献 / Readings

Advanced Legal Writing A

Advanced Legal Writing A

ヘスタ, M. (HESTER MASON COE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX123
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	グローバルコースの学生優先		

授業の目標 / Course Objectives

The goals of this course are to ensure that students are familiar with the IRAC legal organizational style and how to write using deduction to persuade their readers as a practicing Common Law lawyer would. Additionally, citation formatting, in accordance with standard Blue Book/American courtroom style will be included where pertinent.

授業の内容 / Course Contents

In this course students will learn about Stare Decisis and writing styles ordinarily implemented by lawyers across the globe, with a special focus on the American legal writing style. By necessity, this course will cover the differing strengths of precedents, statutes, and how to properly reference precedents. Class time will mostly take the form of: 1. lectures, 2. writing time, and 3. practice exercises.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Lecture: Stare Decisis / Value of Precedents and an Overview of U.S. Legal System
- 【2】:Lecture: Reading and analyzing case law
- 【3】:Lecture: Understanding Legal Documents, Types of legal documents (memos, briefs, etc.)
- 【4】:Lecture: Bluebook Citation and Referencing
- 【5】:Lecture: IRAC and Signposts
- 【6】:Practice: IRAC and Conciseness
- 【7】:Lecture/Practice: Writing Objective Memoranda
- 【8】:Lecture/Practice: Writing Objective Memoranda
- 【9】:Lecture/Practice: Writing Client Letters
- 【10】:Lecture/Practice: Writing Client Letters
- 【11】:Lecture/Practice: Contract Writing
- 【12】:Lecture/Practice: Contract Writing
- 【13】:Lecture/Practice: Writing Objective Briefs and Individual Consultations
- 【14】:Lecture/Practice: Writing Objective Briefs Individual Consultations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

In addition to lectures, writing assignments, and readings, some cooperative work will be practiced in class such as peer reviews and group citation exercises.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

The professor will provide you with examples of different types and qualities of writings that students should read and analyze outside of class time. A minimum of at least 3 hours of reading samples and polishing your own works, is likely (and depends largely on one's own reading speed).

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Citation Exercises:30% Writing Exercises/Assignments:40% Attendance and Class Participation:30% 最終レポート割合::0%

テキスト / Textbooks

The professor will provide copies of reading materials.

参考文献 / Readings

The professor will provide copies of reading materials.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students are required to bring the PC's to class and be able to access Canvas LMS.

その他 / Others

The law, and therefore this course, inevitably deals with topics of a sensitive nature. Topics such as race, sexuality, freedom of speech, bodily autonomy, religion, life and death, are the types of topics that all societies grapple with. In your study of the law you will encounter some topics that are innately difficult to discuss. The number one rule for this class is that you do your utmost to be respectful and generous to others. The topics themselves and the phrasing/vocabulary used to discuss them may be difficult at times. I ask that everyone stay open-minded and willing to listen to others. Intentionally harmful, demeaning, derogatory, or other behavior will not be tolerated.

Advanced Legal Writing B

Advanced Legal Writing B
How to Write Like a Lawyer

リベイロ, D. (RIBEIRO DILTON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX124
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	グローバルコースの学生優先		

授業の目標 / Course Objectives

Writing is a form of art that comes with its own challenges. Legal writing can be particularly challenging, as it presents unique difficulties. Students and legal professionals must write in a fluid, clear, and objective way while navigating complex and often obscure legal language. Additionally, legal writing follows a specific argumentative style that is unique to the field and can vary based on whether one is writing from a common law or civil law perspective.

The main objectives of this course are threefold. First, the course will assist students in familiarizing themselves with academic legal writing. Second, support students in engaging with argumentative writing in a professional legal context. Finally, the course will provide guidance on how to avoid logical fallacies for clearer and more effective writing.

In summary, this course aims to help students:

- Better understand how to write academically and technically in English.
- Gain a deeper understanding of professional and argumentative legal English.
- Develop skills to construct better arguments and avoid logical mistakes.

Everyone is welcome to join the course! Students do not need to be advanced English speakers or have extensive knowledge of law. Everyone is encouraged to learn at their own pace, and the instructor will adjust the class style and pace to accommodate the students' needs.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to develop students' ability to write clearly, effectively, and persuasively within a legal framework. It is divided into four key sections, each addressing a specific aspect of legal writing.

The first section focuses on a review of essential grammar and writing techniques tailored to legal contexts. Students will focus on clarity, precision, and conciseness in legal writing, with particular emphasis on identifying and avoiding common mistakes. This section will equip students with practical skills to enhance their writing abilities.

The second part of the course focuses on academic writing within the field of law. Students will learn how to write well-structured academic essays and solve problem questions, both of which are critical components of legal education. Emphasis will be placed on developing coherent arguments, organizing research findings, properly citing sources using legal citation standards, and responding effectively to research or problem questions. This section aims to prepare students for scholarly work and enhance their analytical and argumentative writing skills.

The third section focuses on professional legal writing, particularly drafting argumentative documents for international legal settings. Students will focus on writing a complaint/a legal document in defense of a client before international courts. This section highlights the application of international law rules while fostering practical skills that bridge the gap between academic learning and professional practice.

The course's final section addresses the identification and avoidance of logical fallacies when writing or making

arguments in general. Students will develop the ability to recognize flawed arguments, construct logical and persuasive arguments, and refine their reasoning skills. This section emphasizes writing that is clear, concise, logical, and persuasive.

By the end of the course, students will have developed advanced legal writing skills applicable to academic, professional, and argumentative contexts. They will be well-equipped to produce polished legal documents, engage critically with legal issues, and communicate effectively within a globalized legal environment.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Week 1

Topic: Course Introduction & English for Lawyers

【2】:Week 2

Topic: English for Lawyers (Part 2)

【3】:Week 3

Topic: How to Write a Legal Essay

【4】:Week 4

Topic: How to Write a Legal Essay (Part 2)

【5】:Week 5

Topic: How to Write a Legal Essay (Part 3)

【6】:Week 6

Topic: How to Answer Problem Questions

【7】:Week 7

Topic: How to Answer Problem Questions (Part 2)

【8】:Week 8

Topic: How to Answer Problem Questions (Part 3)

【9】:Week 9

Topic: How to Write Like a Lawyer (International Law)

【10】:Week 10

Topic: How to Write Like a Lawyer (International Law)

【11】:Week 11

Topic: How to Write Like a Lawyer (International Law)

【12】:Week 12

Topic: Making Strong Arguments – How to Avoid Logical Fallacies (Part 1)

【13】:Week 13

Topic: Making Strong Arguments – How to Avoid Logical Fallacies (Part 2)

【14】:Week 14

Topic: Making Strong Arguments – How to Avoid Logical Fallacies (Part 3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Individual and Group Writing Exercises.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend about 110 min. per week for required and optional readings, assignments, and other learning activities.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class Participation:40% In-Class Writing 1:20% In-Class Writing 2:20% In-Class Writing 3:20%

テキスト / Textbooks

All materials will be provided online (on Canvas LMS).

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Everyone is welcome to join the course! Students do not need to be advanced English speakers or have extensive

knowledge of law. Everyone is encouraged to learn at their own pace, and the instructor will adjust the class style and pace to accommodate the students' needs.

In this course, all students need is curiosity and an interest in global issues, as well as a willingness to improve their English skills. If students feel uncertain about their English language abilities, the instructor will provide the necessary assistance and support.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should have access to a computer, tablet, or smartphone to conduct in-class research and writing.

外国法(中国法)

Legal Systems(Chinas)
法から見た現代中国の姿
権威主義体制と法
中国法と台湾法

鈴木 賢(SUZUKI KEN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX126
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	基本的に対面で実施する。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アメリカと並ぶ世界の大国となった中国の法について概観し、法的側面から中国を理解することを目標とする。もうひとつの華人社会の法である台湾法との対比から中国法を相対化し、西欧法とは著しく異なる法に触れることで、西欧近代法に対する理解を深めさせたい。

The goal of this course is to provide an overview of Chinese law, which has become a world power on par with the United States, and to understand China from a legal perspective. By contrasting Chinese law with Taiwanese law, which is the law of another Chinese society, the course aims to deepen students' understanding of modern Western law by exposing them to Chinese law, which is significantly different from Western law.

授業の内容 / Course Contents

基本的には教科書に沿ってパワーポイントによる補充説明を加えながら進める。事前に教科書の該当箇所、参考文献を読んでくるとより理解しやすいであろう。授業では単に制度の外形だけでなく、その政治的、社会的背景にも言及し、法を多角的に捉えるように心がける。

Basically, the course aims to add a supplementary explanation using PowerPoint along with the textbook. However, the explanation is easier to understand if students read the textbook's relevant section in advance. The course aims not only to outline the system but also its political and social backgrounds, and it encourages attempts to understand the law from multiple angles.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:近代までの法史(帝制、清末、民国)
- 【2】:台湾法とは何か?
- 【3】:台湾における同性婚法の形成とその後
- 【4】:中華人民共和国法 第1期(1949-1977)ソ連法からの学説継授期
- 【5】:中華人民共和国法 第2期(1978-1991)ソ連法からの法典継授期
- 【6】:中華人民共和国法 第3期(1992-2017)大陸法への回帰と法のグローバル期
- 【7】:中華人民共和国法 第4期(2018-)習近平集権体制期
- 【8】:憲法1 基本原理
- 【9】:憲法2 統治機構
- 【10】:憲法3 基本的権利・義務
- 【11】:憲法4 合憲性審査制度と法源
- 【12】:民法1 民法典の構造

【13】:民法2 家族法の特徴

【14】:権威主義体制と法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

リアクションパーパーによる質問とそれへの応答

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読んでくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションパーパー:30%

テキスト / Textbooks

高見澤・鈴木ほか『現代中国法入門第9版』有斐閣 2022 9784641048324

必ず第9版を用意して下さい。

参考文献 / Readings

高見澤・鈴木『要説 中国法』東京大学出版会 2017 9784130311908

中村睦男ほか『世界の人権保障』三省堂 2017 978438532193

初宿正典ほか『新解説 世界憲法集第6版』三省堂 2025

世界憲法集は2025年春に新版が出る予定。中国憲法の部分は大幅な改訂をしていることに留意してください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

憲法や民法などの基本科目への習熟と法をとりまく政治や社会への関心。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

配付される資料をダウンロードし、プリントないし保存するための機器。

その他 / Others

授業担当者の既発表論文などは以下のHPからアクセス可能です。随時参照してください。

<https://suzuki-asian-law.notion.site/10f312d3c9498036aba8e46d9f46cdd4>

外国法(フランス法)

Legal Systems(France)

法学を通して見る, 異なる文化, 異なる社会, 異なるシステム

荻村 慎一郎 (OGIMURA SHINICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX127
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法学を用いてフランスという異社会を理解する過程を通じて、実社会での未知なる課題解決のための法学の役割について考えます。

The objective of this course is to think about the role of law in solving unknown problems in the real world through the process of using law to understand how French society differs.

授業の内容 / Course Contents

一見何の関連もない次の2つの事例に共通するのは、いずれもフランス系の法制度が深く関わっている、という点です。

①中東で父親を捜すカナダ人女性は、何がきっかけでそのようにしているのだろうか。

②世界一の多国籍水道事業会社は、収益の安定性に目をつけ、日本のある自治体での水道事業に参入しようと計画している。この企業はどのようにしてビジネスモデルを構築してきたのか。また、公営水道が主流の日本において、成功の目算があるのだろうか。

技術の発展により地球が狭くなった分だけ、日常の些細な社会関係ですらますます複雑化し、なおかつ、重層化しています。自分たちとは異なる存在に触れ、これを理解しようとする場合に、どのような点に注意し、どのような姿勢で臨めばよいのでしょうか。その際、法学はどのような役割を担えるのでしょうか。

本講義は、フランスを素材として、これらの問題に取り組みます。

授業では、実定法学、基礎法学、政治学の知見を総動員しながら、多元的な接近法によりつつ、大きく3つに分けて、フランス社会とそれを支えている法制度の関係について探究していきます。

まず、既に学んだ日本法の知識を起点に、これらと対照することでフランス法の特徴を把握します。

次いで、多国間のなかで比較しながら、フランス法の個性についてさらに検討を加えます。

最後に、これまでの段階を踏まえたうえで、国際社会や欧州社会が抱える各国共通の諸課題への対応を通して、フランスにおける社会と法の関係性を深く分析し、また、冒頭の事例に対する考察を行います。

入念に組み上げられた立教大学法学部のカリキュラムを着実に学修した先には、どのような総合的視野がひらけているのでしょうか。学士課程のまとめを兼ねて、受講者諸君にその眺望を体感して頂ければ、と考えています。

At first glance, the following two cases seem to be unrelated, but they are both tied together by their deep impact on the French legal system.

(1) A Canadian woman is searching for her father in the Middle East, but what led her to this search?

(2) The world's leading multinational water utility company is focused on earnings stability and is planning on entering the water utility business in a certain Japanese municipality. How did this company construct their business model?

Moreover, what is the estimate of their success in Japan where public water utilities are common?

Just as the world is getting smaller due to technological progress, trivial social relationships in our daily lives are getting more complicated and multilayered. When coming into contact and trying to understand people who live a

different existence than us, what points should we pay attention to and with what attitude should we approach the situation? What kind of role can law play in that case?

The lectures will use France as source material to address these types of problems.

The classes will be largely divided into three areas and rely on a pluralistic approach to explore French society and its relationship with the supporting legal system while mobilizing the students' knowledge of Positive Law, Basic Law, And Political Science.

First, the knowledge of Japanese law which students have already studied will be used as a starting point to compare and understand the characteristics of French law.

Next, we will examine the unique characteristics of French law while comparing it with multiple nations.

Finally, after proceeding through the previous steps, we will deeply analyze the relationship between society and the law in France and consider the cases mentioned at the beginning through the response to various issues commonly faced by international society and European society.

What kind of comprehensive perspective can be developed after persistently studying the carefully constructed Rikkyo University College of Law and Politics curriculum? It is hoped that the students who enroll in this class will be able to experience the view from such a perspective before concluding their baccalaureate undergraduate degree.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業の展望: ヨーロッパ, フランスおよびフランス語圏における法, 社会, 国家の像
- 【2】: 日本法と対照する①: 民法(家族法)と国際私法
- 【3】: 日本法と対照する②: 商法と民法(財産法)
- 【4】: 日本法と対照する③: 労働法と社会保障法
- 【5】: 日本法と対照する④: 会社法と知的財産法
- 【6】: 日本法と対照する⑤: 行政法と経済法
- 【7】: 中間のまとめ①: フランスの国制について①
- 【8】: 中間のまとめ②: フランスの国制について②
- 【9】: 中間のまとめ③: フランスの国制について③
- 【10】: 中間のまとめ④: フランスの国制について④
- 【11】: 多国間で比較する①
- 【12】: 多国間で比較する②
- 【13】: 多国間で比較する③
- 【14】: 全体のまとめ: フランス法を通して見る国際社会, 現代的課題に対する総合的アプローチの重要性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教材で指示される復習・予習課題に毎回取り組みましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 80%

平常点割合 : 20% 授業への参加と取り組み: 14% 授業内小テスト: 6%

テキスト / Textbooks

オリジナル教材を毎回配布します。

参考文献 / Readings

滝沢正『フランス法 第5版』三省堂 2018 9784385323039

その他 / Others

受講にあたってフランス語力は問いません。

履修に関してお困りの事がある場合は, どうかご遠慮なくご相談ください。

また, 就職活動(インターンシップから内定後の活動まで), その他の事情による欠席については配慮します。

国際法1

International Law 1
国際法の基本枠組

岩月 直樹 (IWATSUKI NAOKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX141
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際関係を規律対象とする国際法について、その基本的な概念や論理を理解し、国内法とは異なる特徴と内容を有するものであることを理解する。

The essential purpose of this course is to help students understand the basic concepts and doctrines underlying public international law, capturing characteristic features of international law and its difference with domestic laws.

授業の内容 / Course Contents

最新の国際判決を紹介するなどしつつ重要事項について教科書の記述を解説・補足して、受講者の理解を深める。また、日々のニュースを取り上げて、それらに国際法がどのように関わっているかを解説することで、国際法が日々の生活にも関係していることを実感してもらう。

The classes will be conducted through comments on the materials provided beforehand by the author about principles, rules, jurisprudence and on-going international issues reported in news media for the purposes of giving actual image about how public international law operates in our world.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 国際関係と国際法
- 【2】: 国際法の法源
- 【3】: 国際関係における国際法の定立
- 【4】: 国内法を通じた国際法の適用・実施: 国際法と国内法の関係
- 【5】: 国際関係における国際法の適用・実施: 国家責任と国際紛争処理1
- 【6】: 国際関係における国際法の適用・実施: 国家責任と国際紛争処理2
- 【7】: 国際法における法主体としての国家
- 【8】: 国家領域の取得と喪失・国境の画定
- 【9】: 国際組織の法主体性
- 【10】: 個人・企業の国際法上の法的地位
- 【11】: 国家による管轄権の行使とその調整1: 国家管轄権の域外適用
- 【12】: 国家による管轄権の行使とその調整2: 外国国家に対する裁判権免除
- 【13】: 在外国家機関の特権および免除
- 【14】: 小括
- 【15】: 海洋法1: 海域の伝統的な区分と現代的展開
- 【16】: 海洋法2: 交通路としての海域利用と沿岸国による規制権限の調整(1)
- 【17】: 海洋法3: 交通路としての海域利用と沿岸国による規制権限の調整(2)
- 【18】: 海洋法4: 海域における天然資源の開発利用とその規制

- 【19】:海洋法5:海域の開発利用をめぐる紛争とその処理
 【20】:航空宇宙法1:領空の法的地位と国際航空体制
 【21】:航空宇宙法3:宇宙空間の平和的利用
 【22】:航空宇宙法4:宇宙開発に伴う損害賠償責任の分担
 【23】:国際化地域と国際法1:国際河川と国際運河
 【24】:国際化地域と国際法2:南極
 【25】:国際化地域と国際法3:北極
 【26】:国際法の歴史と現在
 【27】:国際法の基本原則
 【28】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS に予習用レジュメとPPT 資料を掲示し、講義で扱う範囲に対応する教科書の該当箇所などを指示する。受講者は、あらかじめ該当箇所およびPPT 資料に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 各回用小テスト(25 点満点)の平均点を、20 点を限度として考慮する。:20%

テキスト / Textbooks

岩沢雄司『国際法 [第2版]』東京大学出版会 2023 9784130323987

森川幸一・兼原敦子・酒井啓亘・西村弓(編)『国際法判例百選[第3版]』有斐閣 2021 9784641115552

植木俊哉・中谷和弘(編集代表)『国際条約集 2025』有斐閣 2025 9784641001626

上記の教科書は極めて詳細で情報量が多い。むしろ情報量が絞られたものが自身に適していると考えられる場合には、下記でも構わない。

- ・浅田正彦(編)『国際法【第5版】』(2022 年)
- ・柳原正治(他編)『プラクティス国際法講義[第4版]』(2022 年)

予習用レジュメには、上記3つの教科書いずれについても、各授業での参照箇所を示す。

参考文献 / Readings

森川幸一(他)『国際法で世界がわかる——ニュースを読み解く 32 講』岩波書店 2016 9784000229555

森肇志・岩月直樹(編)『サブテキスト国際法』日本評論社 2020 9784535524729

その他、適宜配布および指示する。

国際法2

International Law 2

国際秩序の維持に関わる国際制度

岩月 直樹 (IWATSUKI NAOKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX142
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際社会の安定化を図るために基本的重要性を有する法的仕組みを理解する。

The essential purpose of this course is to help students understand the fundamental structure of legal regimes of principal fields of public international law necessary for securing stability of international society.

授業の内容 / Course Contents

国際法の基本的枠組みを扱う国際法1を既に履修済みである、あるいは並行して履修していることを前提として、条約の法的効力、個人と国際法、国際違法行為に基づく責任、国際環境保護、国際紛争の処理方式、国際安全保障、武力紛争の法的規律について、その基本原則・制度的枠組みを説明する。

Supposing that the students have basic understanding of public international law, detailed explanation and comments will be given regarding the law of treaties, the law of State responsibility, the law relating to individuals, international environmental law, the law concerning peaceful settlement of international disputes, legal regulations concerning armed conflicts.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入: 基本事項の確認と国際法2の概要説明
- 【2】: 条約の法的効力(1): 条約の締結と無効・取消原因
- 【3】: 条約の法的効力(2): 条約の適用と終了・運用停止原因
- 【4】: 条約の法的効力(3): 多数国間条約をめぐる諸問題
- 【5】: 個人と国際法(1): 外国人の保護をめぐる国際法の展開
- 【6】: 個人と国際法(2): 難民の保護をめぐる国際法の展開
- 【7】: 個人と国際法(3): 国際人権保障の展開
- 【8】: 個人と国際法(4): 国際人権保障の実施手続・制度
- 【9】: 個人と国際法(5): 個人による国際性を有する犯罪への対応
- 【10】: 国際責任(1): 国際責任の意義と役割
- 【11】: 国際責任(2): 国家責任の発生要件
- 【12】: 国際責任(3): 国家責任の内容と追及
- 【13】: 国際責任(4): 国際組織の国際責任
- 【14】: 国際責任(5): 違法行為責任以外の国際責任
- 【15】: 国際環境保護(1): 国際環境保護の歴史的展開
- 【16】: 国際環境保護(2): 国際環境保護における基本原則
- 【17】: 国際環境保護(3): 国際環境保護における実体的・手続的義務
- 【18】: 国際環境保護(4): 国際環境保護条約の実施手続

- 【19】:国際紛争の処理方式(1):国際紛争処理の基本原則
 【20】:国際紛争の処理方式(2):対抗措置の利用可能性
 【21】:国際紛争の処理方式(3):国際裁判による紛争処理
 【22】:国際安全保障(1):個別的自衛権・集団的自衛権・集団的安全保障
 【23】:国際安全保障(2):国際連合憲章に基づく集団的安全保障
 【24】:国際安全保障(3):国連平和維持活動の展開
 【25】:国際安全保障(4):国連安全保障理事会をめぐる諸問題
 【26】:武力紛争の法的規律(1):武力紛争法・人道法の歴史的展開
 【27】:武力紛争の法的規律(2):武力紛争における基本原則
 【28】:武力紛争の法的規律(3):国際刑事裁判

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に予習用レジュメを Canvas LMS にアップするので、レジュメに記載された教科書の該当範囲を事前に通読しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小テスト:20%

テキスト / Textbooks

岩沢雄司『国際法[第2版]』東京大学出版会 2023 9784130323987

森川幸一(他)『国際法判例百選[第3版]』有斐閣 2021 9784641115552

植木俊哉・中谷和弘(編集代表)『国際条約集 2025』有斐閣 2022 9784641001626

上記の教科書は極めて詳細で情報量が多い。むしろ情報量が絞られたものが自身に適していると考えられる場合には、下記でも構わない。

- ・浅田正彦(編)『国際法【第5版】』(2022 年)
- ・柳原正治(他編)『プラクティス国際法講義[第4版]』(2022 年)

予習用レジュメには、上記3つの教科書いずれについても、各授業での参照箇所を示す。

参考文献 / Readings

森川幸一(他)『国際法で世界がわかる——ニュースを読み解くための 32 講』岩波書店 2016 9784000229555

森肇志・岩月直樹(編)『サブテキスト国際法』日本評論社 2020 9784535524729

その他、適宜、配布あるいは指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

国際法1を履修していることは必須ではないが、未修の場合には国際法の法源、国家管轄権、基本原則について独習するか、並行して国際法1も履修することが望ましい。

国際私法(1)

Conflict of Laws (1)

早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX150
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化が進展する現代における私人・私企業間の国際的な法の適用関係の総論の基本構造を修得させる。

The purpose of this course is for students to learn the basic structure of general rules of how international laws are applied to private individuals and companies in this era of advancing globalization.

授業の内容 / Course Contents

日本人と外国人が婚姻する場合、何法に従えばよいのでしょうか。日本企業と外国企業が契約を締結する場合、何法に従えばよいのでしょうか。

国際私法とは、各国ごとに法制度が異なるという現在の国際社会の状況の下、このような国際的な法律関係をいかなる法(準拠法)で規律するかを定める法であり、抵触法とも呼ばれるものです。国際化がますます進展する現代において、その重要性は拡大の一途をたどっています。

講義では、我が国の国際私法の総論の基本構造をできる限り丁寧に説明することで、ときに難解ともいわれるこの法をわかりやすく解説することを心掛けます。

When a Japanese person and a foreigner marry, what law should be observed? When a Japanese company and a foreign company sign a contract, what law should be observed?

In our current international society where each country has a different legal system, international private law, also called Conflict of Laws, establishes which system of law (governing law) should regulate such international legal relationships. The importance of this area of law continues to expand as internationalization advances.

This course aims to make every effort to explain this often confusing area of law in an easy-to-understand manner by carefully describing, to the extent possible, the basic structure of general rules of Japan's Conflict of Laws.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 序論①
- 【2】: 序論②
- 【3】: 序論③
- 【4】: 総則の基本構造
- 【5】: 性質決定①
- 【6】: 性質決定②
- 【7】: 性質決定③
- 【8】: 連結点の確定①
- 【9】: 連結点の確定②
- 【10】: 連結点の確定③
- 【11】: 準拠法の特定①
- 【12】: 準拠法の特定②

【13】: 公序審査①

【14】: 公序審査②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容に関する個別の質問に関しては、電子メールによって出来る限りお答えしたいと思っています。

haya@rikkyo.ac.jp までお気軽に送信して下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

神前禎・早川吉尚・元永和彦 『国際私法』(有斐閣アルマ) 有斐閣 2019 9784641221314

参考文献 / Readings

国際私法(2)

Conflict of Laws (2)

早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX151
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化が進展する現代における私人・私企業間の国際的な法の適用関係の各論の基本構造を修得させる。

The purpose of this course is for students to learn the basic structure of particular issues of how international laws are applied to private individuals and companies in this era of advancing globalization.

授業の内容 / Course Contents

日本人と外国人が婚姻する場合、何法に従えばよいのでしょうか。日本企業と外国企業が契約を締結する場合、何法に従えばよいのでしょうか。

国際私法とは、各国ごとに法制度が異なるという現在の国際社会の状況の下、このような国際的な法律関係をいかなる法(準拠法)で規律するかを定める法であり、抵触法とも呼ばれるものです。国際化がますます進展する現代において、その重要性は拡大の一途をたどっています。

講義では、我が国の国際私法の各論の基本構造をできる限り丁寧に説明することで、ときに難解ともいわれるこの法をわかりやすく解説することを心掛けます。

When a Japanese person and a foreigner marry, what law should be observed? When a Japanese company and a foreign company sign a contract, what law should be observed?

In our current international society where each country has a different legal system, international private law, also called Conflict of Laws, establishes which system of law (governing law) should regulate such international legal relationships. The importance of this area of law continues to expand as internationalization advances.

This course aims to make every effort to explain this often confusing area of law in an easy-to-understand manner by carefully describing, to the extent possible, the basic structure of particular issues of Japan's Conflict of Laws.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 各則の基本構造
- 【2】: 主体の準拠法①
- 【3】: 主体の準拠法②
- 【4】: 主体間の関係の準拠法①
- 【5】: 主体間の関係の準拠法②
- 【6】: 主体間の関係の準拠法③
- 【7】: 主体間の関係の準拠法④
- 【8】: 主体間の関係の準拠法⑤
- 【9】: 主体間の関係の準拠法⑥
- 【10】: 主体間の関係の準拠法⑦
- 【11】: 主体間の関係の準拠法⑧
- 【12】: 客体との関係の準拠法①

【13】:客体との関係の準拠法②

【14】:総 括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容に関する個別の質問に関しては、電子メールによって出来る限りお答えしたいと思っています。

haya@rikkyo.ac.jp までお気軽に送信して下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

神前禎・早川吉尚・元永和彦 『国際私法』(有斐閣アルマ) 有斐閣 2019 9784641221314

参考文献 / Readings

法制史(西洋法制史)

Legal History (Europe)

Property とは何か、Trust はどのように生まれたか

松本 英実(MATSUMOTO EMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX172
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

実定法と歴史を切り離すことができないコモン・ローを理解する。コモン・ローのコアにある科目(Property)を取り上げ、コアにある概念を、日本語を経由することなく、つまり日本法の概念を経ずに理解することを目指す。英国の第一級の研究者による最新の教科書によって、コモン・ローの実定法と歴史を同時に学ぶ。

Focusing on the core subject of the Common law (Property), whose substantive law cannot be separated from its history, the aim is to understand the core concepts without going through Japanese, that is, without using the concepts of Japanese law. Learn both the substantive law and history of the Common law simultaneously through the latest textbooks by top British scholars.

授業の内容 / Course Contents

街を歩いていると〇〇エステートという会社名を目にする。xxホールディングスもおなじみのもの。大学教授の職はデニュアと言われたりする。ビルのテナント、コピー機のリース...これらのカタカナ言葉はすべてコモン・ローの法概念である。なぜカタカナなのか?なぜ日本語に訳さないのか?ではPropertyは何と訳すか?財産?所有(権)?これらのコモン・ローの法概念は訳せない、訳せば色々な無理が出てくる。

本授業では、コモン・ローの法概念を日本語を経由することなく、つまり日本法の概念を経ずに理解することを目標とする、全く新しいコンセプトに基づく教科書(日本語)を用いる。考察対象とするのは、コモン・ローのセンターにある Law of Property。コモン・ローの法形成を、Property, Equity, Trusts を中心として、特に土地をめぐる問題を通して考察する。tenure, estate, holding, lease, equity といった概念が、なぜカタカナのまま日本社会に入ってきているのか、コモン・ローの華と言われる Trust がどのように誕生したかを、その根幹から理解する。

Focusing on Property, Equity, and Trusts, this lecture examines the formation of the Common law, particularly through issues related to land. It aims to understand how the trusts, often referred to as the jewel of the Common law, were devised and developed. The goal is to comprehend the various concepts of Common law, such as tenure, estate, holdings, lease, etc., without translation, without going through Japanese legal terminology, which is civilian. The course textbook, all the chapters of which were written by the top English scholars of each area of law and then put into Japanese, is totally new in its style of translation, leaving all the important legal terms in English.

授業計画 / Course Schedule

【1】:コモン・ローは私たちにとって何を意味するか。法の世界地図の中に、コモン・ローの動きと、日本で日本法を学んでいる私を位置づける。

【2】:西洋法の起源は二つしかない。ローマ法とコモン・ロー。法学を生み出す原動力としての writ ないしは action とはどのようなものか。

【3】:Property への導入:real property と personal property の区別、tenure と estate

【4】:feudalism と tenure

- 【5】:Seisin
- 【6】:注目！Milsom 説「統一王権によって法が統一される」？そのメカニズムは？
- 【7】:Real action: real property の real は real action の real
- 【8】:estate の論理: 二つの志向:hereditability と alienability
- 【9】:fee simple
- 【10】:fee tail、判例法上の怪物とその阻止
- 【11】:estate の論理:reversion と remainder、strict settlement
- 【12】:use (ユース)
- 【13】:trust (信託)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書の該当ページを、参照先も含め、精読する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

John Baker, 葛西康德編 『コモン・ロー入門』 東京大学出版会 2025 9784130312134

参考文献 / Readings

法制史(日本法制史)

Legal History (Japan)

近代日本法の成立と法思想の展開

坂井 大輔(SAKAI DAISUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX174
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近代日本法の成立過程を西洋法継受の側面から理解することにより、今日の日本法の在りかたについて歴史的な観点から説明できるようになること。

The objective of this course is to be able to explain the current state of Japanese law from a historical perspective by understanding the process to establish modern Japanese law from the aspect of the reception of the Western law.

授業の内容 / Course Contents

近代日本法(特に憲法・民法・刑法)の成立過程およびそのもとで展開した法思想、法と政治との関係などについて講義する。

The lectures cover the process to establish modern Japanese law (particularly Constitutional Law, Civil Law, and Criminal Law), the legal thoughts, and the relationship between law and politics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 明治維新
- 【2】: 大日本帝国憲法の制定
- 【3】: 憲法学の誕生
- 【4】: 穂積八束の憲法学
- 【5】: 上杉・美濃部論争
- 【6】: 上杉慎吉の憲法学
- 【7】: ヨーロッパにおける民法典の成立
- 【8】: 歴史法学派とドイツ民法典の編纂
- 【9】: 近代日本の民法典編纂(1)ボアソナード
- 【10】: 近代日本の民法典編纂(2)民法典論争・断行派
- 【11】: 近代日本の民法典編纂(3)民法典論争・延期派
- 【12】: 民法学の展開
- 【13】: 刑法典編纂史
- 【14】: 刑法学の展開

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定



授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回提示する関連文献に目を通す。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編 『概説日本法制史〔第2版〕』 弘文堂 2023 9784335359545

大野達司・森元拓・吉永圭 『近代法思想史入門 ――日本と西洋の交わりから読む』 法律文化社 2016
9784589037664

法哲学

Philosophy of Law
Contemporary Theories of Law

米村 幸太郎 (YONEMURA KOTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX180
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法哲学における基本的な理論的立場を学習し、それにそって社会の問題を考えることを目的とする。

This course aims to learn the basic theories in Philosophy of Law, and apply them to our social problems.

授業の内容 / Course Contents

法哲学は、法の根底にある価値や法の概念それ自体について哲学的な検討を行う学問の領域です。この授業では、特に正義論と呼ばれる領域について学びます。わたしたちは通常、法というのは正義の実現を目指すものなのだと想定しています。現実にはしばしばそれに失敗しているとしても、です。ですが、そもそも正義とはなんなのでしょう？法哲学者はこの面白いけれど捉えどころのない疑問について、長年に渡って議論してきています。結果、彼らは正義についてのたくさんの理論的立場を生み出しました。この講義ではそのいくつか(たとえば功利主義、リベラリズム、リバタリアニズム等々)を学習します。さらに、それらの理論に即して、いくつかの社会的問題(たとえば喫煙規制、臓器市場、グローバルな貧困等々)を考えたいと思います。哲学に関する特別な前提知識は必要ではありませんので、安心してください。

Philosophy of Law is an academic discipline which philosophically examines the underlying values of law and the concept of law itself. The primary scope of this course is an area called "Theory of Justice", in particular. We ordinary assume that law aims to achieve justice, though actual laws often fail to do that. However, what is justice in the first place?

Legal philosophers have been arguing about this intriguing but elusive question for years. As a result, they propose lots of theories of justice. I want you to learn some of them, such as utilitarianism, liberalism, libertarianism and so on.

Moreover, I try to apply them to some social issues, such as smoking regulation, organ markets, global poverty and so on. Though you might think that you need a special knowledge of philosophy, there are no particular prerequisites for this course. Feel safe!

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 正義とは何かにもっとも答えなどない？—相対主義とメタ倫理学1
- 【3】: 正義とは何かにもっとも答えなどない？—相対主義とメタ倫理学2
- 【4】: 幸福がすべて？—功利主義1
- 【5】: 幸福がすべて？—功利主義2
- 【6】: 幸福がすべて？—功利主義3
- 【7】: 公正としての正義1
- 【8】: 公正としての正義2
- 【9】: もっと自由であるべきなのか？—リバタリアニズム1
- 【10】: もっと自由であるべきなのか？—リバタリアニズム2
- 【11】: 平等主義1

- 【12】:平等主義2
- 【13】:平等主義3
- 【14】:平等主義4
- 【15】:コミュニタリアニズム1
- 【16】:コミュニタリアニズム2
- 【17】:コミュニタリアニズム3
- 【18】:多文化主義1
- 【19】:多文化主義2
- 【20】:幸福と自由:パターナリズムをめぐって1
- 【21】:幸福と自由:パターナリズムをめぐって2
- 【22】:グローバルな正義をめぐって1
- 【23】:グローバルな正義をめぐって2
- 【24】:グローバルな正義をめぐって3
- 【25】:2 種類の正しさ?～正統性と正当性1
- 【26】:2 種類の正しさ?～正統性と正当性2
- 【27】:2 種類の正しさ?～正統性と正当性3
- 【28】:2 種類の正しさ?～正統性と正当性4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特段の予習は必要ないが、毎回の内容は復習することが望ましい。詳細は初回のイントロダクションで説明します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小テスト:30%

小テストを複数回実施し、成績評価に含める。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

学内の Wifi に接続されたスマートフォン・タブレット・PC のいずれかを持参することが望ましい。

法社会学1

Sociology of Law 1

佐伯 昌彦(SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX191
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

実社会の中で法律がどのように作動しているのか、あるいはしていないのかという点について基本的な知識および視点を獲得する。そして、そのような観点から、どのような法律や法制度が望ましいかを考える能力を涵養することを目指す。

This course aims at acquiring the basic knowledge and points of view on the actual function of laws. In addition to that, it aims at cultivating the ability to envisage the ways to make laws and legal systems better.

授業の内容 / Course Contents

法律の内容が実社会の中でどのように実現しているのか、あるいは実現していないのか、そのような実現／非実現は、どのような要因によって規定されているのか、という点を中心に扱う。そのような司法過程の現実を踏まえながら、法律が社会の中で果たしている役割や、その限界について論じていく。

Laws are not always realized in real-world conditions. Given this simple fact, the questions such as whether laws are realized or not and what factors are related to this actual function of laws emerge. This course will focus on these topics. Based on socio-legal studies on these topics, the roles and limitations of laws will be discussed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 司法制度概観: 歴史的経緯と日本の司法制度の特徴(1)
- 【2】: 司法制度概観: 歴史的経緯と日本の司法制度の特徴(2)
- 【3】: 司法制度概観: 歴史的経緯と日本の司法制度の特徴(3)
- 【4】: 司法制度概観: 歴史的経緯と日本の司法制度の特徴(4)
- 【5】: 民事司法過程論(1) 概論
- 【6】: 民事司法過程論(2) 紛争
- 【7】: 民事司法過程論(3) 紛争解決
- 【8】: 民事司法過程論(4) 弁護士へのアクセス(1)
- 【9】: 民事司法過程論(5) 弁護士へのアクセス(2)
- 【10】: 民事司法過程論(6) 訴訟利用
- 【11】: 民事司法過程論(7) 裁判経験
- 【12】: 刑事司法過程論(1) ディヴァージョン(1)
- 【13】: 刑事司法過程論(2) ディヴァージョン(2)
- 【14】: 刑事司法過程論(3) 刑事裁判／刑事弁護

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義を通してトピックと関連する基本的な文献を紹介する。事後学習として関心のある内容について、それらの文献を参考にしながら学習を進めることを推奨する(概ね1回の講義当たり1時間程度)。また、教科書として指定するものではないが、参考文献中の村山眞維・濱野亮(2019)『法社会学(第3版)』有斐閣は、本講義の内容を学習するうえで参考となる基本書である。授業の進行にあわせて、事前学習あるいは事後学習としてこの教科書を読み進めることも推奨する(概ね1回の講義あたり40分程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

教科書は指定しないが、「参考文献」のうち、村山眞維・濱野亮(2019)『法社会学(第3版)』有斐閣は教科書に準ずる参考文献として挙げておく。また、講義の中で、特定のトピックと関連の深い基本的な文献を適宜紹介していく。

参考文献 / Readings

村山眞維・濱野亮『法社会学(第3版)』有斐閣 2019 9784641221246

佐藤岩夫・阿部昌樹編『スタンダード法社会学』北大路書房 2022 9784762831843

法社会学2

Sociology of Law 2

佐伯 昌彦(SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX192
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法の役割について社会科学的に分析する視点, および社会科学の知見を法の運用や政策に活用する視点について学ぶ。これらの学習を通して, 政策的な問題を考えるために必要な社会科学的な調査を構想する能力の涵養を目指す。

This course aims at acquiring the perspectives to analyze the roles of laws using the methods of social sciences and utilize the findings from social sciences to practice laws and policy-making. In addition, it aims at cultivating the ability to imagine the social scientific approach to solve problems on laws.

授業の内容 / Course Contents

実社会における法の機能について社会科学的な観点からなされる分析を紹介するとともに, 社会科学を法の運用や政策形成において活用する方向性およびその際の課題についても紹介する。

This course will lecture on the social scientific analyses on the roles of laws. Also, it will teach about how to utilize social scientific findings for the practice of laws and policy-making and some considerations on this utilization.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 法社会学の方法論(イントロダクション)
- 【2】: 社会秩序と法(1) 社会秩序の形成(1)
- 【3】: 社会秩序と法(2) 社会秩序の形成(2)
- 【4】: 社会秩序と法(3) 社会秩序の形成(3)
- 【5】: 社会秩序と法(4) 道徳(1)
- 【6】: 社会秩序と法(5) 道徳(2)
- 【7】: 社会秩序と法(6) 秩序の生成・展開
- 【8】: 社会秩序と法(7) 多様な秩序の関係(1)
- 【9】: 社会秩序と法(8) 多様な秩序の関係(2)
- 【10】: 法の機能(1) サンクション
- 【11】: 法の機能(2) ナッジ／正統性／法の表出効果(1)
- 【12】: 法の機能(3) ナッジ／正統性／法の表出効果(2)
- 【13】: 法の機能(4) 法の効果検証(1)
- 【14】: 法の機能(5) 法の効果検証(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義を通してトピックと関連する基本的な文献を紹介する。事後学習として関心のある内容について、それらの文献を参考にしながら学習を進めることを推奨する(1回あたり平均して1時間30分ほど)。なお、事前学習として、事前にレジュメの該当部分を一読しておくことも推奨する(1回あたり平均して15分ほど)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

和田仁孝・阿部昌樹・太田勝造編『法と社会へのアプローチ』日本評論社 2004

飯田高『法と社会科学をつなぐ』有斐閣 2016 9784641125803

現代政治理論

Modern Political Theories

川崎 修 (KAWASAKI OSAMU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治認識の枠組みを学び、政治的な価値や理念を理解する。

The objectives of this course are to learn a framework for political awareness and to understand political values and principles.

授業の内容 / Course Contents

現代政治理論の主要なトピックについての、基本的な理論、理論家、論争などの知識を習得する。

基本的には、指定した教科書を軸にして、講義を行う。その際には、授業出席者が教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくことが望ましい。授業では必要だと思われる部分について、教科書を補足したり、詳しく説明するという形で講義を行うが、項目によっては教科書から離れることもある。

なお、この講義で扱うのは規範理論にややシフトした政治理論であり、政治についての実証的研究に関する重要テーマについては、「政治過程論1・2」が主として担当している。

In this course, students will acquire knowledge about fundamental theories, theoreticians, and disputes concerning the primary topics in Modern Political Theories.

Fundamentally, the lectures will revolve around the assigned textbook. In this regard, students attending class are advised to read the corresponding section in the textbook in advance. Supplementary explanations will be provided in class for sections of the textbook which are thought to require it with lectures providing detailed explanations, but the lecture may deviate from the textbook depending on the topic.

Furthermore, the political theory covered in the lectures is slightly skewed toward normative theory, and the "theory of political process1・2" plays the primary role in important topics concerning empirical research about politics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 政治(1)
- 【3】: 政治(2)
- 【4】: 政治(3)
- 【5】: 権力(1)
- 【6】: 権力(2)
- 【7】: 権力(3)
- 【8】: 権力(4)
- 【9】: 権力(5)
- 【10】: デモクラシー(1)
- 【11】: デモクラシー(2)
- 【12】: デモクラシー(3)

- 【13】: デモクラシー (4)
- 【14】: デモクラシー (5)
- 【15】: リベラリズム (1)
- 【16】: リベラリズム (2)
- 【17】: リベラリズム (3)
- 【18】: リベラリズム (4)
- 【19】: リベラリズム (5)
- 【20】: 自由 (1)
- 【21】: 自由 (2)
- 【22】: 平等 (1)
- 【23】: 平等 (2)
- 【24】: 平等 (3)
- 【25】: 公共性 (1)
- 【26】: 公共性 (2)
- 【27】: 公共性 (3)
- 【28】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業出席者は教科書の該当部分をあらかじめ読んでいることが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

川崎修・杉田敦編『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣 2023 9784641222205

参考文献 / Readings

今村仁司・三島憲一・川崎修編『岩波 社会思想事典』岩波書店 2008 9784000803120

佐々木毅『政治学講義 第二版』東京大学出版会 2012 9784130322225

日本政治論

Japanese Politics

現代日本の政治や外交の生き生きとした姿を学ぼう

薬師寺 克行(YAKUSHIJI KATSUYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は戦後の日本政治、日本外交のうち、特に激動の激しかった 1989 年以降から今日までを詳しく学ぶことを目標とします。この四半世紀余り、日本政治は「自民党単独政権」→「非自民連立政権」→「自公連立政権」→「民主党政権」→「自公連立政権」と目まぐるしく移り変わりました。この間の動きを「生きた教材」として、克明に分析し構造的に理解することを目的とします。

The objective of this course is to learn in detail about postwar Japanese politics and Japanese foreign policy, particularly the turbulent period since 1989. Over a little more than a quarter of a century, Japanese politics has rapidly transitioned from the “one-party government of the Liberal Democratic Party” to the “non-LDP coalition government”, “LDP government”, “Democratic Party government”, and the “LDP government.” Recent trends will be used as “living course materials” to carefully analyze and structurally understand these changes.

授業の内容 / Course Contents

この授業は講義形式です。日本政治・外交の動きを政権ごとに、あるいはテーマごとに紹介していきます。中心は 90 年代以降ですが、戦後から 80 年代までの自民党単独政権時代についても紹介します。

1993 年に自民党単独政権が終わり連立政権時代に入って以降、政権は短期間でめまぐるしく交代する時代が続きました。この間、政治の中心に登場し、消えていった政党や政治家は数えきれません。各政党や政治家たちが何を目指し、どのような権力闘争を行ったのか。表に出ていない人間模様も含め、できるだけ生き生きと紹介したいと思います。また冷戦崩壊など国際社会の変動を反映し日本政治も日本社会も激変しました。社会保障政策をはじめとする内政、さらには外交、安全保障政策を含め主要政策の変貌に加え、政策決定システムも構造的に分析します。

この授業では毎回、冒頭の数分間、直近の大きな時事問題について学生に質問したり解説をしますので、日々のニュースに触れるようにしてください。

また毎年、秋に政治家の方をゲストに招きし、お話をいただいています。2014 年は福田康夫元首相、2015 年は民主党の細野豪志政調会長、2016 年は自民党の石破茂元幹事長、2017 年は公明党の太田昭宏元代表、2018 年は野田聖子・元総務大臣、2019 年度は斎藤健元農水大臣、2023 年度は国民民主党の玉木雄一郎代表、2024 年度は公明党の高木陽介氏に来ていただきました。

The classes will consist of a lecture format. Trends in Japanese politics and foreign policy will be introduced according to each administration or topic. The focus will be on the 1990s and subsequent years, but the one-party government of the Liberal Democratic Party from the postwar until the 1980s will also be introduced.

After the one-party government of the Liberal Democratic Party ended in 1993 and the country entered the coalition government era, Japan has continued to experience an era of short-lived governments that rapidly alternate. During this time period, a countless number of political parties and politicians appeared and disappeared from the political center. What were the goals of each of the political parties and politicians and what kinds of power struggles did they

engage in? The classes will introduce Japanese politics in a lively manner as possible, including the behind-the-scenes human relationships. Moreover, the discussions will reflect changes in international society such as the end of the Cold War and the sudden changes in Japanese politics and society. In addition to the changes in major policies starting with social security policy in internal affairs and then foreign diplomacy and national security policy, we will also structurally analyze the policy decision-making system.

During the first few minutes of each class, students will be asked about recent major topics, so be sure to pay attention to the daily news.

In addition, politicians are invited as guests to speak every year during the fall. Past guests include Former Prime Minister of Japan Yasuo Fukuda in 2014, Chairman of the Policy Affairs Research Council Goshi Hosono from the Democratic Party of Japan in 2015, Former Secretary-General of the Liberal Democratic Party Shigeru Ishiba in 2016, Former Representative of the Komeito Party Akihiro Ota in 2017, Former Minister of Internal Affairs and Communications Seiko Noda in 2018, Former Minister of Agriculture Ken Saito in 2019, Representative of National Democratic Party Yuuichiro Tamaki in 2023 and Diet member Koumeito Party Yousuke Takagi in 2024.

授業計画 / Course Schedule

- [1]:オリエンテーション「世界の動乱の時代の始まり」
- [2]:日本の再軍備を嫌った吉田内閣と「55年体制」のスタート
- [3]:学生がこぞってデモに参加した安保闘争―岸内閣と日米安保改定
- [4]:利益誘導政治を確立した田中角栄首相と派閥全盛時代
- [5]:リクルート事件―自民党は腐敗によって自滅していった
- [6]:冷戦終焉、バブル経済崩壊、天皇崩御―歴史を変える出来事が集中した1989年
- [7]:不発に終わった政治改革の試み(海部、宮沢政権)
- [8]:新しい政治の動き―自民党分裂と新党ブーム(日本新党、新生党、新党さきがけ)
- [9]:非自民連立政権の誕生と迷走―細川連立政権誕生
- [10]:自壊した非自民連立政権(細川、羽田政権)
- [11]:実現した政治改革と小選挙区制導入の意味
- [12]:小沢一郎という政治家
- [13]:権力維持にこだわる自民党のしたたかさ(村山政権)
- [14]:古い体質を脱皮できなかった自民党(橋本、小渕、森政権)
- [15]:自民党政権を延命させた小泉首相と新自由主義的構造改革
- [16]:高い内閣支持率を維持した小泉首相の政治手法
- [17]:新進党の崩壊と民主党の躍進
- [18]:民主党のマニフェスト作成と統治システム改革への挑戦
- [19]:ポスト小泉時代の自民党政権の失敗と挫折(安倍、福田、麻生政権)
- [20]:躍進する民主党と政権交代の実現
- [21]:普天間飛行場問題でつまずき自滅した鳩山政権
- [22]:民主党のマニフェストと現実政治とのギャップ
- [23]:民主党政権の挫折と自民党政権の復活(菅、野田政権)
- [24]:変貌する日本の外交・安全保障政策1
- [25]:変貌する日本の外交・安全保障政策2
- [26]:長期政権となった安倍政権の功罪
- [27]:コロナに翻弄された菅政権と、不祥事に見舞われた岸田政権、そして石破政権
- [28]:総括―四半世紀で激変した日本政治

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は指定した教科書をあらかじめ読んで、概要を頭に入れたうえで出席してください。また、日常的に新聞やテレビニュースに接して直近の政治の動きを踏まえたうえで出席することを求めます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%
平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%
リアクションペーパーなどの提出を複数回、求めます。

テキスト / Textbooks

葉師寺克行 『現代日本政治史』 有斐閣 2014 9784641149090

参考文献 / Readings

葉師寺克行 『公明党』 中公新書 2016

葉師寺克行 『村山富市回顧録』 岩波現代文庫 2018

五百旗頭真編 『戦後日本外交史』 有斐閣アルマ 2014

比較政治理論

Theories of Comparative Politics

福祉国家の形成と変容

(The Development and Transformation of the Welfare State)

新川 敏光 (SHINKAWA TOSHIMITSU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX211
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3700
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

福祉国家がどのように構築され、発展・変容を遂げ、ポスト福祉国家といわれる時代に突入したのかを理論的歴史的に理解する。

This course aims to understand the politics of welfare state development and transformation.

授業の内容 / Course Contents

近代国民国家・政治体制・経済体制、各々の概念とその連関を明らかにしたうえで、19世紀、20世紀、そして今日にいたるまでの各々の変化を福祉国家という観点から系統的に論じる。講義では理論的検討のあとに具体的事例について紹介するが、対象となる国は主にイギリス、フランス、ドイツ、アメリカである。

This course provides basic concepts and analytical tools necessary for the comparison of modern nation-states, political and economic

regimes in advanced countries, including Britain, France, Germany, and the United States.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 方法論的覚書: 比較という方法と理念型
- 【2】: 権力と支配
- 【3】: 近代国家モデル
- 【4】: 近代政治体制: 自由主義と民主主義
- 【5】: 近代経済体制: 資本主義
- 【6】: 福祉国家モデル
- 【7】: 大衆民主主義と階級政治: 対立から和解へ
- 【8】: 福祉国家に至る道: 救貧法思想から社会権へ
- 【9】: 福祉国家発展の政治
- 【10】: 20世紀型資本主義: フォーディズム、ケインズ主義、埋め込まれた自由主義
- 【11】: 福祉国家の危機と揺らぎ: 脱フォーディズム、ネオ・リベラリズム、グローバル化
- 【12】: 福祉縮減(見直し)の政治
- 【13】: 福祉国家の黄昏: 格差拡大、ナショナリズム、ポピュリズム
- 【14】: 共同民主主義と多元性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にアップロードされた教材に目を通しておくこと。また授業後にはノートを整理し、質問事項については次回講義までにまとめておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

新川敏光 『政治学:概念・理論・歴史』 ミネルヴァ 2022 9784623094547

参考文献 / Readings

新川敏光 『福祉国家変革の理路』 ミネルヴァ書房 2014

新川敏光他 『政治学』 有斐閣 2017

新川敏光編 『国民再統合の政治』 ナカニシヤ 2017

アメリカ政治論

American Political and Diplomatic History

アメリカの政治と外交

佐々木 卓也 (SASAKI TAKUYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX218
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2700
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アメリカの政治と外交に関する基本的知識の習得をめざす。

The objective of this course is to acquire an essential knowledge about American politics and foreign policy.

授業の内容 / Course Contents

アメリカは 21 世紀に入ってもなお、政治、経済、軍事、文化など多くの分野で大きな影響力を振るっている。この国といかに向き合うのか、日本にとって非常に重要な課題である。「アメリカ第一主義」を奉ずる政権が退陣し、第二期トランプ政権が発足するなか、安易で皮相なアメリカ論に流されることなく、適切なアメリカ理解を得る必要は明らかである。

今年の講義では、アメリカの政治と外交の歴史について、後者に主なポイントを置きながら、時系列的に考察する。とくに外交の基層部分をなす理念、思想を意識することで、アメリカ外交の特質と特性、そしてその変容に考察したい。

第一回の講義時に、全体に関する参考文献リストを配布し、文献案内を行う。授業では新しいテーマに入るたびに、授業の概要と参考文献を記したレジュメを配布する。また、アメリカに対する出席者の関心を喚起するために、毎回の講義の冒頭に、アメリカの政治、外交、社会、経済などに関する最新の新聞記事をコピー配布し、簡単な説明を加える。英文資料、映像教材も大いに使用する。

なお今年度は春学期二コマ連続開講である。

While we enter the third decade of the 21st century, the United States is still predominant in the international political, military and cultural field. Maintaining the good working relationship with the US remains a challenge for Japan. An appropriate understanding of the US is needed without being carried away by simple and superficial knowledge of this nation This year's lectures will sequentially discuss American politics and foreign policy with a focus on the latter. In particular, this course aims to clarify the characteristics and qualities that underlie the conduct of foreign policy.

In the first lecture, a list of reference literature for the entire course will be distributed and a bibliography will be provided. As we start new topics in class, a summary which provides a class overview and the reference literature will be distributed. In addition, a copy of the latest newspaper articles concerning American politics, foreign policy, society, economy will be provided at the outset of each lecture along with some explanation, so that the attendees might become more interested in the US. The English materials and visual aids will be also used.

Please note that the class will consist of two continuous time blocks in the spring semester.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:はじめに(第二次トランプ政権の発足)
- 【2】:バイデン政権の「中産階級のための」外交
- 【3】:トランプ政権の「アメリカ第一主義」
- 【4】:アメリカの政治理念と統治機構

- 【5】:アメリカの外交的伝統
- 【6】:孤立主義の変容
- 【7】:ウィルソン外交と第一世界大戦
- 【8】:1920年代外交の独自性と世界恐慌の到来
- 【9】:第二次世界大戦と大同盟外交
- 【10】:第二次世界大戦の終結と冷戦の起源
- 【11】:封じ込め政策の実施と展開
- 【12】:朝鮮戦争と封じ込め政策の転換
- 【13】:対日講和と戦後日米関係の形成
- 【14】:大量報復戦略と冷戦の常態化
- 【15】:冷戦の変容—1950年代後半
- 【16】:冷戦のグローバル化と第三世界
- 【17】:ケネディ政権の柔軟反応戦略とベルリン・キューバ危機
- 【18】:ヴェトナム戦争の蹉跌
- 【19】:デタント外交の実施と進展
- 【20】:デタントの崩壊と新冷戦の時代
- 【21】:冷戦終結への道程
- 【22】:冷戦終結外交—ベルリンの壁の崩壊・東欧革命・ソ連の解体
- 【23】:湾岸戦争と新世界秩序構想
- 【24】:ポスト冷戦とクリントン外交
- 【25】:G・W・ブッシュ政権と9/11
- 【26】:G・W・ブッシュ外交の帰結
- 【27】:オバマ政権の外交—「世界の警察官」の終わり
- 【28】:統括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業では、新しいテーマに入るたびに、Canvas LMS にレジュメ、参考文献、映像資料などを掲示する。テキストの講読をはじめ、十分な予習と準備の上、出席して欲しい。また Canvas LMS には適宜、講義に関する情報をアップするので、注意されたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

佐々木卓也編 『戦後アメリカ外交史』第三版 有斐閣 2017 9784641220805

参考文献 / Readings

有賀貞 『ヒストリカルガイド・アメリカ』改訂新版 山川出版社 2012 4634649500

久保文明ほか 『アメリカ政治』第三版 有斐閣 2017 9784641124035

佐々木卓也編 『ハンドブック アメリカ外交史』ミネルヴァ書房 2011 9784623054800

西崎文子 『アメリカ外交史』東京大学出版会 2022

滝田賢治 『国際政治史講義』有信堂 2022

有賀貞 『現代国際関係史』東京大学出版会 2019

青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編 『現代アメリカ政治外交史』ミネルヴァ書房 2020

初回の授業時に、本講義全体にかかわる参考文献を紹介し、簡単な解説を加える。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

アメリカ、国際関係に関する時事的・学術的関心を持つこと。

アジア政治論

Asian Politics

第一部 アジア政治の基礎概念

第二部 中国の台頭

第三部 中国とどう付き合うか(香港の事例を中心に)

倉田 徹(KURATA TORU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX220
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2700
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アジア政治の基本的な概念を踏まえて、中国の台頭を冷静に理解し、それへの対応について考えること。

The objectives of this course are to understand the rise of China in a dispassionate manner and think about how to respond based on the fundamental concepts of Asian politics.

The objectives of this course are to understand the rise of China in a dispassionate manner and think about how to respond based on the fundamental concepts of Asian politics.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、まずアジア政治を理解するための概念について、政治学的な角度から説明し、続いて中国の台頭という現象を分析します。そして、それに対する周辺の反応の事例研究を行います。事例としては、中国の台頭を最前線で受け止めている、香港を中心に扱います。

アジアは多様性を含む地域であり、各国の政治体制・経済状況・文化や価値観も大いに異なっています。各国間の相互関係も複雑さを含んでいます。その状況を冷静に読み解くには、政治学の知識が必要です。第一部では、アジア全体を理解するための政治学的な理論を検討します。

中国の台頭は、現在アジア政治の最大の関心事と言っても過言ではないでしょう。日本でも、中国の反日感情や、安全保障上の脅威が大いに懸念され、中国に対する感情的な反発も強まっていますが、他方で対中経済関係は大いに発展し、日本にとっての中国の重要性は増大しています。中国を正しく理解するため、アジア政治の理論を応用して考えるのが第二部の内容です。

このような矛盾する状況のなかで、日本は中国とどうつきあうかを考えなければなりません。この問題に答えるためには、日本や中国を含むアジアの政治がどのような特徴を持っているのかを、正確に理解することが必要となります。また、この問題は、日本だけでなく、中国の周辺に位置するアジア諸国にとって共通の問題となっています。中国の周辺諸国が中国の台頭にどう応じているかを考えることは、日本にとっても大いに参考となるでしょう。第三部では、香港を事例としてこれを考えます。

The lectures will first start with an explanation from a political science angle of the concepts needed to understand Asian politics and continue by analyzing the phenomenon which is the rise of China. Next, we will conduct case studies of the peripheral responses to that phenomenon. The case studies will center on Hong Kong which stands at the forefront of the rise of China.

Asia is a diverse region, and each country has a significantly different political system, economic situation, culture, and values. The relationships between each of the countries are also complicated. Knowledge of Political Science is needed to calmly decipher that situation. During the first section, we will examine Political Science theories to understand Asia

as a whole.

It is no exaggeration to say that the rise of China is currently the greatest matter of concern within Asian politics. In Japan, there are significant concerns regarding anti-Japanese sentiment in China and threats to national security. An emotional backlash against China is strengthening, but on the other hand the economic relationship with China is significantly expanding, and the importance of China to Japan is increasing. The second section will focus on applying and thinking about theories of Asian politics in order to properly understand China.

In this contradictory situation, Japan must think about how to get along with China. To answer this question, it is necessary to accurately understand the characteristics of politics in Asia including Japan and China. Moreover, this problem not only affects Japan but is common to various Asian countries which are located around China. Thinking about the way in which the surrounding countries are responding to the rise of China will likely prove useful for Japan as well. The third section will examine a case study about Hong Kong.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: アジアとは何か
- 【3】: 第一部 アジア政治の基礎概念
植民地化とナショナリズム①
- 【4】: 植民地化とナショナリズム②
- 【5】: 近代化と経済発展①
- 【6】: 近代化と経済発展②
- 【7】: 民主化①
- 【8】: 民主化②
- 【9】: 冷戦①
- 【10】: 冷戦②
- 【11】: 第二部 中国の台頭
帝国から国民国家へ①
- 【12】: 帝国から国民国家へ②
- 【13】: 中国の経済発展①
- 【14】: 中国の経済発展②
- 【15】: 中国は民主化するか①
- 【16】: 中国は民主化するか②
- 【17】: 中国を取り巻く国際関係①
- 【18】: 中国を取り巻く国際関係②
- 【19】: 第三部 中国とどう付き合うか(香港の事例)
香港「一国二制度」の仕組み①
- 【20】: 香港「一国二制度」の仕組み②
- 【21】: 中国人か、香港人か①
- 【22】: 中国人か、香港人か②
- 【23】: 中国との経済融合①
- 【24】: 中国との経済融合②
- 【25】: 民主化をめぐる論争①
- 【26】: 民主化をめぐる論争②
- 【27】: 「新冷戦」と香港危機①
- 【28】: 「新冷戦」と香港危機②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

中国を中心としたアジアの政治情勢についての報道に常に注目しておくこと、また、参考文献を読んでおくこと(各回 2 時間)。授業内容を踏まえた上で、報道から得た情報をもとにした小レポートを 3 回課す(関心のある新聞記事を見つけ、その内容を要約した上で、自身の分析を書く形式のレポート)ので、授業内容を報道記事などと照らし合わせてよく復習すること(各回 2 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小レポート(3回):30%

テキスト / Textbooks

教科書に代えて資料を配付する。出席者にのみ紙媒体で配付する。電子媒体での配付は行わない。

参考文献 / Readings

岩崎育夫『アジア政治とは何か - 開発・民主化・民主主義再考』中公叢書 2009 9784120040863

片山 裕(編集), 大西 裕(編集)『アジアの政治経済・入門』有斐閣 2010 9784641183865

倉田 徹・倉田 明子編『香港危機の深層』東京外国語大学出版会 2019 9784904575796

倉田 徹・張 彥啓『香港: 中国と向き合う自由都市』岩波新書 2015 9784004315780

東大社研現代中国研究拠点編『コロナ後の東アジア: 変動の力学』東京大学出版会 2020 9784130333009

川島 真・小嶋 華津子編『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房 2020 9784623086719

倉田 徹『香港政治危機』東京大学出版会 2021 9784130331104

その他 / Others

本講義の授業中(休憩時間除く)は、携帯電話の使用を一切禁止する。紙媒体の資料を配付し、その内容を解説する講義形態であるため、携帯電話は受講に必要がなく、むしろ注意力を散漫にさせ、理解の妨げとなると考えられるためである。万一緊急連絡等の必要が生じて携帯電話を使用する際には退室すること。

写真撮影も不許可とする。講義のスライドの内容はレジュメに反映させるため、画面を撮影する必要はない。講義の内容を聞きながら、自ら必要なメモやノートをとって、自身の脳で理解するという方法を習得するための鍛錬の場として本講義を活用することを求める。

日本政治史

Political History of Japan

グローバル・ヒストリーとナショナル・ヒストリーのあいだ

松浦 正孝(MATSUURA MASATAKA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX221
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2800
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現在日本を取り巻いている国際環境はどこから来たのか? 「日本人」として現代を理解するために必要な日本の政治史・外交史の鳥瞰図を理解する。また、具体的な歴史過程の中で、多様な歴史観があることを学ぶ。

Where did the international environment currently surrounding Japan come from? The objective of this course is to understand a bird's-eye view of the political and foreign policy history of Japan which is necessary to understand the contemporary world as a "Japanese person." Moreover, students will learn that there are multiple historical views within a specific historical process.

授業の内容 / Course Contents

近代以前からの日本が、「アジア」や「西洋」との間に如何なる対外関係を構築していったのかを、「大日本帝国」の形成と崩壊の歴史として、また戦後日本外交への展開として探る。「西洋」と日本、「アジア」と日本の関係が、授業の軸となる。概ね下記の授業計画に沿って講義を行う予定であるが、現在起こっている問題を意識し、受講生の反応を見ながら講義を行うので、授業の進行に多少の濃淡やスピードの変化が生まれることを理解されたい。

The classes will explore what kinds of foreign relations Japan built with "Asia" and the "West" from before modern times as part of the history of the formation and destruction of the "Empire of Japan" and how that developed into Japan's postwar foreign policy. The classes will revolve around Japan's relationship with the "West" and Japan's relationship with "Asia." The lectures are scheduled to follow the aforementioned syllabus, but the lectures will be presented based on an awareness of problems which are currently happening while observing the response of the students, so please understand that there may be some changes in intensity and speed of the class pacing.

授業計画 / Course Schedule

【1】:00 はじめに グローバル・ヒストリーとナショナル・ヒストリー

【2】:第一章 「日本型華夷秩序」の形成

01 東アジア秩序の中の「日本」

【3】:02 「将軍権力」の確立

【4】:03 日本型華夷秩序の成立

【5】:04 「徳川による平和」

【6】:第二章 「西洋の衝撃」から「帝国」建設へ

05 「西洋の衝撃」

【7】:06 「尊王攘夷」運動から倒幕・維新へ

- 【8】:07 明治維新とは何だったのか(1)
 【9】:08 明治維新とは何だったのか(2)
 【10】:09 明治維新政府による外交再編(1)
 【11】:10 明治維新政府による外交再編(2)
 【12】:第三章 日本の「西洋型帝国化」とアジア
 11 日清戦争への道
 【13】:12 日清戦争後の「文明」と台湾植民地
 【14】:13 日露戦争への道
 【15】:14 日露戦争と朝鮮植民地化
 【16】:15 日露戦争の意味
 【17】:16 第一次世界大戦と国際環境の変化
 【18】:17 政党政治と植民地政策の転換
 【19】:第四章 アジア主義の台頭と「帝国」原理の変質
 18 満州事変への道
 【20】:19 「帝国」への対抗としての満州事変
 【21】:20 満州事変後の帝国再編
 【22】:21 満州事変後の国体変化
 【23】:22 日中戦争の勃発
 【24】:23 日中戦争収拾の試みと反英運動
 【25】:24 「大東亜戦争」再考(1)
 【26】:25 「大東亜戦争」再考(2)
 【27】:第五章 「戦後日本」の形成
 26 敗戦から講和へ
 【28】:27 復興・高度成長から現代へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS を使用する予定。学生は質問やコメントを提出することができ、それに適宜教員が応答する。
 授業で紹介された文献や映画を積極的に利用して学習することが期待される。
 高校の日本史・世界史の知識を持つことが望ましいが、必要条件でも十分条件でもない。現実の政治・外交、歴史や政治学に興味を持つ学生を歓迎する。試験前にレジメを集めただけで単位を取るのは困難だが、毎回授業に出て話を理解しようとし、考える習慣をつければ、何とかできるようにしたい。一貫してきちんと授業に参加する者の数は少ないため、彼らのほとんどは「S または A」を取る。「C や D」はきちんと授業に出ていなかった者がほとんどである。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :45%
 平常点割合 :55% 中間レポート:20% リアクション・メール:35%
 平常点のうち「リアクション・メール」についての 35%は、授業内容に対して受講生から提出される質問・コメントへの評価である。詳しくは初回の授業で説明する。

テキスト / Textbooks

テキストとして使うものは、ない。授業の中で、下記の参考文献を含め、参考文献を紹介する。

参考文献 / Readings

松浦正孝 『「大東亜戦争」はなぜ起きたのか』 名古屋大学出版会 2010 9784815809522
 坂野潤治 『日本近代史』 筑摩書房 2012 9784480066428
 三谷太一郎 『日本の近代とは何であったか』 岩波書店 2017 9784004316503
 北岡伸一 『日本政治史 外交と権力』 有斐閣 2017 9784641149199
 川島真・服部龍二 『東アジア国際政治史』 名古屋大学出版会 2007 9784815805616

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

高校における「日本史」「世界史」の基本的な知識は持ち合わせて欲しいが、授業を理解し必要に応じて自分で調べたり考えたりすることができれば履修することは可能である。不安な場合は、適宜、高校の「日本史」教科書などを参照すれば良い。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレットなど、オンライン授業に参加できる機器。

その他 / Others

集中力保持のため、授業の途中で休憩を入れる予定。

パワーポイントを利用するほか、適宜映像資料なども利用したい。

オンライン授業は、授業後 1 週間程度は録画で視聴できるようにする予定である。

また、提出物や「お知らせ」などは、Canvas LMS を利用する。

ヨーロッパ政治論

European Politics

ヨーロッパの歴史と現在から学ぶ政治の多様な可能性

小川 有美(OGAWA ARIYOSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX222
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2700
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

比較政治のアプローチを学びながら、ヨーロッパの大国・中小国の政治の個性的な発展、および国民国家を超える欧州統合の挑戦を理解し考察する。

The objective of this course is to understand the academic approaches of comparative politics with focuses on the diverse paths of political development in large and small states in Europe, as well as the contemporary challenges of the European integration beyond the nation state.

授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパは、国民国家・民主主義・福祉国家の発展と危機のようにダイナミックな政治発展を経験し、現在はEUの深化・拡大、移民・難民との共生、ポピュリズム、新しい政治の現れのような諸課題に直面している。この授業では比較政治の理論を紹介しつつ、民主主義に向かう歴史から今日にいたるヨーロッパ政治のたえざる変化を、多様なテーマと事例を通じて解説していく。

Europe has experienced dynamic political development, including the construction and crisis of nation-states, democracies, and welfare states, and is currently facing challenges such as the deepening and enlargement of the European Union, coexistence with immigrants and refugees, populism, and new politics. This lecture will introduce the theories of comparative politics and explain the changes of European politics from the history of democratization to the present transformation through a variety of themes and cases.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: はじめに: ヨーロッパとは何か
- 【2】: ナショナリズムの多様性
- 【3】: 国家の多様性
- 【4】: イギリスの政治発展
- 【5】: フランスの政治発展
- 【6】: ドイツの政治発展
- 【7】: オランダ・西中欧の政治発展
- 【8】: スウェーデン・北欧の政治発展
- 【9】: イタリア・南欧の政治発展
- 【10】: 民主体制の危機
- 【11】: ジェンダーとデモクラシー
- 【12】: ファシズム
- 【13】: 国際政治経済
- 【14】: 福祉国家の発展と再編

- 【15】:ヨーロッパの政党システム
- 【16】:現代イギリスの政治
- 【17】:現代フランスの政治
- 【18】:現代ドイツの政治
- 【19】:現代オランダ・西中欧の政治
- 【20】:現代スウェーデン・北欧の政治
- 【21】:現代イタリア・南欧の政治
- 【22】:現代東中欧の政治
- 【23】:人の移動とポピュリズム
- 【24】:EUの政治1
- 【25】:EUの政治2
- 【26】:EUの政治3
- 【27】:新しい政治と社会運動
- 【28】:おわりに:グローバル世界の中のヨーロッパ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布教材やテキストのほか、新聞(紙版・オンライン版を問わない)の国際記事に目を通し、世界とヨーロッパの政治の情報に日頃からふれておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

配布するレジュメを主なテキストとする。授業回によっては参考教材、自習用テキストを配布する。

参考文献 / Readings

粕谷祐子・近藤正基・溝口修平編『比較政治学』ミネルヴァ書房 2014 9784623071449

網谷龍介・伊藤武・成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー〔改訂第2版〕』ナカニシヤ出版 2014 9784779508059

遠藤乾『欧州複合危機:苦悶するEU、揺れる世界』中央公論新社 2016 9784121024053

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメ、参考教材、自習用テキスト等は「Canvas LMS」で配布する。履修登録確定前は以下の「Googleドライブ」から入手すること。<https://drive.google.com/drive/folders/1sSuASBRPhuCMugjVCzaU4C9dXr9edsfg?usp=sharing>

その他 / Others

最新の研究の進展、政治状況によりシラバスの一部入れ替えがありうる。授業中に私語、健康上の理由以外の途中入退室をしないこと、不明な点は気軽に質問すること、いい授業を共につくるための「契約」です。

日本政治思想史(1)

History of Japanese Political Thought(1)

思想家の政策論:19-20 世紀

松田 宏一郎 (MATSUDA KOICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX231
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2800
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近世後期から昭和初期にかけて、思想家が著した政治論・政策論の内、重要な著作を取り上げて内容を紹介し、その思想的な特徴と時代背景を考察する。

This lecture introduces the contents of some of the most important works on political theory and policy proposals written by thinkers from the early modern to early Showa periods and examines the characteristics of their ideas and their historical background.

授業の内容 / Course Contents

近世においては、儒学、国学、懷徳堂学派、水戸学などの思想家の著した政治論、政策提言、また明治以降においては出版物として一般にも読まれた政治論の内、重要な著作を選択し、その内容を紹介し、背景となる制度、社会的状況、知識人の反応などを分析する。またそれぞれの著作に現れた政治思想が現代政治を考えるとときにいかなる示唆を与えるのかについても考察する。

From the early modern period, political theories and policy proposals written by thinkers of various schools, including Confucianism, Kokugaku ("National Learning"), Kaitokudo school, and Mito school will be selected. From the Meiji to Showa periods, political works that were read by general readers and that were strongly influenced by Western thought will be selected. First, the content of these works will be introduced, and then the background institutions, social conditions, and reactions of intellectuals will be analyzed. This lecture will also examine what these political ideas may suggest for contemporary politics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業の目標と概説、主要参考文献の紹介
- 【2】: 太宰春台『経済録』1729 年
- 【3】: 本居宣長『玉くしげ』1786 年・『秘本玉くしげ』1787 年
- 【4】: 中井竹山『草茅危言』1789 年
- 【5】: 海保青陵『稽古談』1813 年
- 【6】: 会沢正志斎『新論』1825 年
- 【7】: 加藤弘之『真政大意』・『国体新論』1875 年
- 【8】: 福澤諭吉『文明論之概略』1875 年・『民情一新』1879 年
- 【9】: 徳富蘇峰『将来之日本』1886 年
- 【10】: 中江兆民『三酔人経綸問答』1887 年
- 【11】: 北一輝『國體論及び純正社會主義』1906 年
- 【12】: 吉野作造「憲政の本義を説いてその有終の美を済すの途を論ず」1916 年ほか
- 【13】: 長谷川如是閑『日本ファシズム批判』1932 年

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を授業内で紹介する。予習・復習としてそれに目を通しておくこと。講義で用いる資料については、講義の前に「Canvas LMS」を通じて入手できるよう通知するので、各自ノートパソコン、タブレットなどに取り込んで目を通しておくこと。授業にノートパソコン、タブレットを持ち込んで参照しながら受講するのが望ましい。また「Canvas LMS」を通じて質問・コメントを提出できるよう、課題設定をする。指示に従ってそれを提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

荻部直『日本思想史の名著 30』筑摩書房 2018 4480071598

渡辺浩『日本政治思想史』東京大学出版会 2010 4130331000

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

歴史への関心があり、日本語の古い文体を読むことにも挑戦する意欲があること。ただし、漢文や古典的文体などは詳しく解説するので心配はいらない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義では、事前に Canvas LMS を通じてダウンロード可能な史料などを読みながら解説する。紙の配布はしない。そのためノート PC やタブレットなどを用意して受講することが望ましい。

日本政治思想史(2)

History of Japanese Political Thought(2)

第二次世界大戦後の日本の政治思想における注目すべき論点を学ぶ
(Key Issues in Japanese Political Thought: after World War II)

松田 宏一郎 (MATSUDA KOICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX232
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2800
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

第一に、第二次大戦後の日本の知識人による思想的論争の具体的な内容を知ること。第二に、政治思想および思想家研究のためのより一般的な研究手法を学ぶこと。

The course aims to (1) provide students with specific knowledge of the key issues debated among intellectuals in the post-World War II period and (2) equip them with general research methods in the field of political thought and intellectual history.

授業の内容 / Course Contents

政治体制、社会構造、近代化、民主主義についての戦後日本の思想家によるさまざまな議論を分析し、その政治的背景、知的環境について学ぶ。また現代政治の諸問題を考察するために、過去の思想の研究がどのように役立つのかを考える。

This course analyses various debates by post-war Japanese thinkers on the political system, social structure, modernization and democracy, and studies their political background and intellectual environment. It will also consider how the study of past thought can be useful in examining contemporary political issues.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義の概要と目的 参考文献の紹介
- 【2】: 戦時体制指導者の精神構造(1)
- 【3】: 戦時体制指導者の精神構造(2)
- 【4】: 戦時体制指導者の精神構造(3)
- 【5】: 思想作品としての日本国憲法(1)
- 【6】: 思想作品としての日本国憲法(2)
- 【7】: 国家と社会の「近代化」という問題(1)
- 【8】: 国家と社会の「近代化」という問題(2)
- 【9】: 知識人と大衆化社会(1)
- 【10】: 知識人と大衆化社会(2)
- 【11】: 知識人と大衆化社会(3)
- 【12】: 政治意識と家族・ジェンダー(1)
- 【13】: 政治意識と家族・ジェンダー(2)
- 【14】: 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を授業内で紹介する。予習・復習としてそれに目を通しておくこと。講義で用いる資料については、講義の前に Canvas LMS を通じて入手できるよう通知するので、各自ノートパソコン、タブレットなどに取り込んで目を通しておくこと。授業にノートパソコン、タブレットを持ち込んで参照しながら受講するのが望ましい。また「Canvas LMS」を通じて質問・コメントを提出できるよう、課題設定をする。指示に従ってそれを提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポート:30%

テキスト / Textbooks

読むべき参考文献は講義資料および Canvas LMS を通じて指示、配布する

参考文献 / Readings

丸山眞男『超国家主義の論理と心理 他八篇』岩波書店 2015 9784003810439

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を通じて講義資料がダウンロードできるよう通知するので、各自で目を通しておくこと。講義にノートパソコン、タブレットを持ち込んで参照しながら受講するのが望ましい。紙の資料の配布はしない。

欧州政治思想史

History of European Political Thought

面 一也 (OMOTE KAZUYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX233
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2800
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. ヨーロッパの代表的な政治思想を理解する。
2. 過去の政治思想と今日の政治社会の関わりについて洞察する。
3. 政治的諸課題に対する批判的な考察力を身につける。
1. Students will understand representative European political thoughts.
2. Students will gain insight into the relationship between past political thoughts and today's political society.
3. Students will acquire the ability to think critically about political issues.

授業の内容 / Course Contents

政治思想は、たんに政治学の一分野であるだけでなく、その各分野を支える基盤でもあり、政治学の中枢に位置する。過去の諸思想は、今日の政治社会のルーツになっていることもあれば、時代を超えた普遍的な問いを投げかけていることもある。過去に盲目な者は、現在と未来にも盲目になる。本講義では、ヨーロッパの代表的な政治思想を概観しつつ（原典を読み解きつつ、また関連思想も取り上げつつ）、政治は何のためにあるべきか、正義はどのようなものであるべきか、今日の政治が抱える課題はどのようなものであり、またどのように克服すべきか、等々の問題をめぐり考察を行なう。

Political thought is not only a field of political science, but it is also the foundation that supports each of these fields and lies at the heart of political science. The thoughts of the past may be the roots in today's political society, or they may pose timeless and universal questions. Those who are blind to the past are also blind to the present and the future. In this course, we will review representative European political thoughts (reading original texts and related thoughts) and discuss the issues such as what politics should be for, what justice should be like, what the issues facing today's politics are, and how they should be overcome, and so on.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:今年度と春学期のイントロダクション
- 【2】:プラトン1 ソクラテスの死の意味:政治哲学の起源
- 【3】:プラトン2 最善国家:善のアイデアと哲人王支配
- 【4】:プラトン3 現実国家:民主政治から最悪の僭主政治へ
- 【5】:プラトン4 『国家』と『法律』:政治と宗教の関係
- 【6】:アリストテレス1 学問体系の整序:諸学の王としての政治学
- 【7】:アリストテレス2 人間観:最高善としての幸福、政治的動物(ゾーン・ポリティコン)
- 【8】:アリストテレス3 国家の本質:善く生きるための共同体
- 【9】:アリストテレス4 プラトン批判と理想国家の再定式
- 【10】:アウグスティヌス1 神の国と地の国:理性に対する信仰の優位
- 【11】:トマス・アクィナス1 スコラ哲学と徳の政治:信仰に対する理性の相対的自立
- 【12】:ニッコロ・マキアヴェッリ1 近代政治への端緒

- 【13】:マキアヴェッリ2 現実国家:『君主論』または僭主論
 【14】:マキアヴェッリ3 理想国家:古代ローマ共和政への憧れ
 【15】:秋学期のイントロダクション
 【16】:トマス・ホッブズ1 近代政治哲学の確立:アリストテレス＝トマスの世界観の破壊
 【17】:ホッブズ2 自然状態:「善＝快楽、悪＝苦痛」から戦争状態へ
 【18】:ホッブズ3 社会状態:死の恐怖による絶対主義国家
 【19】:ジョン・ロック1 近代経済秩序の基礎:「善＝快楽、悪＝苦痛」から労働価値説へ
 【20】:ロック2 近代政治秩序の基礎:代議制国家の創設と革命
 【21】:ジャン＝ジャック・ルソー1 『学問芸術論』と『人間不平等起源論』:文明社会への批判
 【22】:ルソー2 『社会契約論』:直接民主主義と善い僭主
 【23】:ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ ヘーゲル1 主人と奴隷の弁証法から相互承認へ
 【24】:ヘーゲル2 人倫的自由:家族と市民社会
 【25】:ヘーゲル3 人倫的自由:立憲君主制国家
 【26】:フリードリヒ・ニーチェ1 キリスト教道徳批判
 【27】:ニーチェ2 近代デモクラシー批判:人類の畜群化・未人化
 【28】:ニーチェ3 大いなる政治

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

とくに予習を課す予定はない。ただし、復習は次回授業の重要な土台になるため、予習の意味を兼ねて、次回授業までに復習を済ませること。復習の際には、ノートや資料を見返ししながら、授業の全体的な流れをまず把握して、総論から各論の確認へ向かうとよい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクション・ペーパー (春学期に3回、秋学期に2回を予定):50%

テキスト / Textbooks

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

参考文献 / Readings

藤原保信『西洋政治理論史(上・下)』新評論 2005年 4794806736

藤原保信、飯島昇蔵編著『西洋政治思想史(Ⅰ・Ⅱ)』新評論 1995年 4794802714

杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局 2014年 4588625276

参考文献を購入するかどうかの判断は、第1回授業時の説明まで待つこと。

国際政治

International Politics

国際秩序の変容？

鈴木 絢女／早丸 一真(SUZUKI AYAME/ HAYAMARU KAZUMASA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX240
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- 1、国際社会の成り立ちを理解し、その特徴を述べることができる
- 2、今日の国際社会が直面する課題を認識し、理解する
- 3、国際政治学の基本的なパラダイムを理解する
- 4、パラダイムを用いて、国際政治のさまざまな現象を説明することができる

By the end of the semester, students are expected to:

- 1) understand the characteristics of the international society;
- 2) recognize the challenges facing the international society today;
- 3) understand the paradigms of international politics;
- 4) explain the events of interantional politics based on the paradigms.

授業の内容 / Course Contents

この授業は主に三つの内容からなります。

まず、国際関係史を振り返りながら、主権国家システムがどのように作られたのかを学ぶとともに、国際社会の特徴を理解します。そのうえで、国際秩序は変容しつつあるのか、また、変わるとしたらどのような秩序が作られうるのかという問いを共有します。

第二に、国際政治学のパラダイムを紹介します。これによって、国際政治のさまざまな現象を説明・理解するためのツールを身につけます。

第三に、21 世紀の国際政治の諸課題について、事例と理論を紹介します。

授業は講義形式で進めますが、授業中に Canvas LMS の小テストやディスカッション機能を利用することで、双方向コミュニケーションを実現します。

This course consists of three parts.

The first part traces the history of international relations, and learn how the sovereign state system was created. This will enable the students to understand the characteristics of international society. We will then address a question whether the international order is changing and, if it so, how.

In the second part, basic paradigms of international politics will be introduced. This will equip students with tools to explain and understand various phenomena in international politics.

Building on this, the third part will introduce case studies and theories on the contemporary challenges in the 21st century.

The classes will be conducted in a lecture format, but Canvas LMS's quiz and discussion features will be occasionally used to make the course more interactive.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 国際秩序への挑戦は起きているのか? (鈴木)
 【2】: 主権国家システムの成り立ち(1): 中世秩序の崩壊と近代のはじまり(鈴木)
 【3】: 主権国家システムの成り立ち(2): ヨーロッパの主権国家システム(鈴木)
 【4】: 主権国家システムの成り立ち(3): ナショナリズムの時代(鈴木)
 【5】: 主権国家システムの成り立ち(4): 主権国家システムの拡大(鈴木)
 【6】: 主権国家システムの成り立ち(5): 二つの世界大戦(鈴木)
 【7】: 第二次世界大戦後の世界(1): 米ソ冷戦と新しい国家群(鈴木)
 【8】: 第二次世界大戦後の世界(2): ポスト冷戦期から「米中新冷戦?」へ(鈴木)
 【9】: 国際政治のパラダイム: リアリズム/リベラリズム/コンストラクティヴィズム(鈴木)
 【10】: 安全保障(1)(鈴木)
 【11】: 安全保障(2)(鈴木)
 【12】: 国際政治経済をどう見るか: 国際貿易と気候変動を事例に(鈴木)
 【13】: 中間テスト(鈴木)
 【14】: 中間テストの解説(鈴木)
 【15】: イントロダクション: 主権国家システムの内と外(早丸)
 【16】: 外交を行うための制度(早丸)
 【17】: 対外政策決定(1)(早丸)
 【18】: 対外政策決定(2)(早丸)
 【19】: 主権国家システム以前の東アジア(1)
 【20】: 主権国家システム以前の東アジア(2)
 【21】: アジアから見たグローバリゼーション(早丸)
 【22】: 西洋の秩序とアジアの秩序の邂逅(1)(早丸)
 【23】: 西洋の秩序とアジアの秩序の邂逅(2)(早丸)
 【24】: 国境をめぐる東アジアの争覇(早丸)
 【25】: 台湾の一五〇年(早丸)
 【26】: 米中対立のゆくえ(早丸)
 【27】: アジアの国民感情(早丸)
 【28】: まとめ: 国際秩序の向こう側(早丸)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Canvas LMS のアンケート・小テスト機能等を用いて、授業中・授業後に履修者からのインプットを求めます。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業後に提出する課題がある場合は、授業中に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 45%

平常点割合 : 55% 中間テスト: 25% 授業内・授業後課題: 30%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

山影進 『国際関係論講義』 東京大学出版会 2012 9784130322171

ジョセフ・S. ナイ・ジュニア デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争: 理論と歴史』 有斐閣 2017 4641149178

中西寛・石田淳・田所昌幸 『国際政治学』 有斐閣 2013 4641053782

小川浩之・板橋拓巳・青野利彦 『国際政治史』 有斐閣ストゥディア 2018 9784641150522

その他 / Others

授業計画の変更にあたっては、事前に履修生に相談・周知する。

比較政治1

Comparative Politics 1

現代朝鮮半島の政治・国際関係の展開

木宮 正史 (KIMIYA TADASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX241
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3700
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日本にとって歴史的にも地政学的にも重要な比重を占める朝鮮(半島):南北朝鮮(南北韓:大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国)に関して、その現代(主として 1945 年以降)における政治および国際関係の展開に関して理解を深める。それを通して、日本を含む東アジア、さらには世界に関する構造的な理解に取り組む。

Korea, or the Korean Peninsula consisting of South Korea (ROK: The Republic of Korea) and North Korea (DPRK: The Democratic People's Republic of Korea) is regarded as very important for Japan in terms of its history and geopolitics. We can develop our understanding of Korea's contemporary history (mainly 1945 afterwards) in terms of its political development and international relations and then we can develop our structural understanding of the East Asia or the world including Japan.

授業の内容 / Course Contents

第2次大戦後、朝鮮は日本の植民地から「解放」されたが、冷戦の制約によって南北に分断され、朝鮮戦争を経て、グローバルな冷戦が終焉したにもかかわらず、現在でも南北分断が続く。韓国は、1960 年代までは、北朝鮮に対する体制の劣勢を余儀なくされたが、冷戦の制約をむしろ機会として利用することにより、経済発展、政治的民主化、外交競争優位を達成するなど、北朝鮮に対する体制優位を確実なものとした。しかし、その後、北朝鮮は韓国との体制競争における優位よりも自体制の生存を優先目標として設定し、核ミサイル開発と韓国を迂回する外交に邁進する。その中で朝鮮半島をめぐる緊張は、冷戦期よりもむしろ激化する様相を示す。また、韓国政治も、保守と進歩リベラルとの与野党政権交代などを通して民主主義を堅固化したとは言え、3 回の大統領弾劾訴追を経験するなど、政治的制度化が順調に進むとは言い難い状況である。こうした変容を帰結させた政治ダイナミズム、さらに国際関係のダイナミズムについて、その歴史的展開を中心に考察する。

Korea was liberated from the Japanese colonial rule after the WWII, but was divided into North and South Korea and at last the Korean War broke out. Korean division has been continued despite the fact that the global cold war ended. Although South Korea was inferior to North Korea in terms of its regime's performance until the 1960s, afterwards South Korea succeeded in the achievement of its regime's superiority over North Korea by achieving economic development, political democracy, and diplomatic superiority. North Korea, however, has regarded its regime's survival as more important than the regime's competition against South Korea, and then has promoted its nuclear and missile development and its diplomacy bypassing South Korea. As the result, the international political tensions have been aggravated. South Korean politics, even though its democracy has been consolidated by experiencing the several power transition between the conservatives and the liberals, were suffered from the three presidential impeachments and it is hard to say the Korean political institutionalization has been promoted smoothly. We think about the political and international dynamism which has concluded these transformations by inquiring into its historical development.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 第1回／オリエンテーション(本講義の目的と概要)

本講義の目的と概要、具体的な授業方法について説明する。さらに、南北朝鮮の現在の状況について概観する。

【2】: 第2回／南北分断体制の成立と朝鮮戦争

朝鮮半島における南北分断体制がいかに成立したのか、そして朝鮮戦争(1950～1953)に関して、ビデオなどを利用して理解を深める。

【3】: 第3回／1950年代の南北朝鮮

朝鮮戦争の停戦以後の南北朝鮮の政治経済外交に関して、比較しながら説明する。

【4】: 第4回／1960年代の南北朝鮮

1960年代初頭の韓国の政治変動(4月革命・5・16軍事クーデター)を中心に、韓国の朴正熙政権前半期の政治的動態と同時期の北朝鮮政治の展開について説明する。

【5】: 第5回／日韓国交正常化交渉

1965年の日韓国交正常化に至る過程をビデオなどを利用して説明するとともに、それが、それ以後の日韓関係、さらには、日朝関係にどのような意味を持ったのかを明らかにする。

【6】: 第6回／1970年代韓国維新体制下の内政と外交

1970年代韓国の政治変動を、1972年の維新体制の成立とその後の展開、そして1979年朴正熙大統領の死に伴う維新体制の終焉を通して明らかにする。さらに、いったんは終焉を迎えた維新体制が、民主化の挫折を契機として1980年に再び権威主義体制へ回帰する過程を明らかにする。さらに1970年代初頭の米中和解は、朝鮮半島を取り巻く状況に大きな変化をもたらしたが、それが南北それぞれの政治体制、経済発展戦略、外交、南北関係、日韓関係、米韓関係、中朝関係、日朝関係などにどのような帰結をもたらしたのかを多角的に明らかにする。そして、東アジア冷戦の変容が朝鮮半島冷戦に及ぼした影響とその限界について理解を深める。

【7】: 第7回／韓国における民主主義体制への移行と韓国の北方外交の展開

1980年代の権威主義体制が、1987年6月民主化抗争を契機として民主主義体制へ移行する過程を、民主化の比較政治学を念頭に置きながら明らかにする。また、同時期、韓国は、北朝鮮に対する体制優位を背景に、それまで北朝鮮を支持してきた中国やソ連、その他東欧社会主義諸国との関係改善を、北方外交という名の下に指向する。その北方外交の展開についても考察する。

【8】: 第8回／民主化以後の韓国政治の展開①

1990年代以降、民主化後の韓国政治の展開を、大統領選挙および国会議員選挙に焦点を当て、地域割拠的政党システムと保守一進歩リベラルの対立図式という観点から考察する。

【9】: 第9回／民主化以後の韓国政治の展開②

2016年以降の朴槿恵大統領の弾劾・罷免と文在寅進歩リベラル政権の登場、そして尹錫悦保守政権への政権交代、さらに、尹錫悦大統領の弾劾訴追と職務停止、その後の韓国政治の展開を含む、韓国政治の現状について考察を加える。

【10】: 第10回／冷戦の終焉と朝鮮半島: 韓国の北方外交、第1次核危機、第1次南北首脳会談、第2次核危機、6者協議、第2次南北首脳会談

1990年代グローバルな冷戦の終焉は朝鮮半島冷戦の終焉を帰結せず、むしろ、北朝鮮の核開発を契機として新たな緊張が高まることになる。朝鮮半島をめぐる国際政治を南北関係の展開とそれを取り巻く国際政治の展開の双方から明らかにする。

【11】: 第11回／21世紀の国際政治と朝鮮半島:

2008年以後、米国におけるオバマ政権の登場、韓国における保守の李明博・朴槿恵政権の登場、北朝鮮における金正恩体制の登場以後、一方で、それまで蓄積されてきた南北の協力事業が中断するだけでなく、南北間の軍事的な挑発が具体的な形で現れるなど、南北間の緊張は高まる。さらに、2017年トランプと金正恩との間で緊張が高まったが、翌18年には平昌オリンピックを契機に、2月の北朝鮮のオリンピック参加、4月板門店南北首脳会談、6月米朝シンガポール首脳会談、9月平壤南北首脳会談と北朝鮮の非核化と朝鮮半島平和体制をめぐる交渉は進展を示した。しかし、2019年2月の米朝ハノイ会談の決裂を契機にこのプロセスは停滞、後退を余儀なくされている。この過程について考察する。

【12】: 第12回／朝鮮半島をめぐる国際政治の現在

北朝鮮は、冷戦期のような中朝口の連帯を自ら誇示しながら、核ミサイル開発に邁進する状況が続く。この背景には、ロシア・ウクライナ戦争の長期化、米中対立の激化、韓国の政権交代に伴う韓国外交の変化、などのさまざまな要因が働いている。こうした朝鮮半島を取り巻く国際関係の現状について考察する。

【13】: 第13回／日韓国交正常化以後の日韓関係の展開と日韓関係の現在

1965年の日韓国交正常化以後約60年を経過した日韓関係の、非対称・相互補完関係から、対称・相互競争関係へとという構造変容を、それを取り巻く東アジアのパワーシフトの中で考察する。

【14】: 第14回／授業のまとめ

授業の理解度を確認することも含めて、授業全体に関する総括を行う。

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

事前に、授業内容を理解するために重要だと考えられる映像資料を、各自教員のグーグルドライブなどにアクセスして見もらう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト指定範囲を熟読しておくこと。また、授業に関するレポートを3回出すので、それに回答すること。こうした各回の予習、復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内のレポート3回:50%

テキスト / Textbooks

木宮正史『日韓関係史』岩波書店 2021 9784004318866

なお、その他の教科書、木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版、絶版、に関してはPDFファイルで授業前に配布する。

参考文献 / Readings

授業の参考文献リストについては、初回授業の時に電子ファイルで配布する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

対象となる朝鮮半島、韓国、北朝鮮などに関する知的関心と、それを理解するための政治学や国際関係論などに関する基本的な理解(但し、これは必須ではなく、授業の中でも相当程度説明する。)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC および ダウンロードした映像を見ることができるソフトウェア

比較政治2

Comparative Politics 2

比較の中のロシア(ソ連)政治

油本 真理 (ABURAMOTO MARI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX242
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン 発話を伴う授業を学内で受講 する場合は 8201(池袋キャンパ ス)、N851(新座キャンパス)の 利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3700
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、ロシア(ソ連)における様々な政治現象を比較政治学の理論を参照しながら分析することを目標とする。その際に、単にロシアの事例を理論枠組みに当てはめるだけでなく、ソ連と現代ロシアの通時的な比較をすることにより、実態に即した多面的な理解を目指す。

The aim of this course is to analyse various political phenomena in Russia (the Soviet Union) with reference to theories of comparative politics. In doing so, we will not only apply the Russian case to the theoretical framework, but also make diachronic comparisons between the Soviet Union and contemporary Russia, aiming at a multifaceted understanding that is in line with the actual situation.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、現代ロシアのみならず、ソ連時代も対象とする。まず、19 世紀後半からロシア革命、ソ連時代を経て現代に至るまでの政治史を概観する。その後の講義はテーマ別に実施する。具体的には、各回の最初に比較政治学の理論枠組みを紹介したうえで、ソ連および現代ロシアの各時期における政治現象を比較・考察する。

This lecture will cover not only contemporary Russia, but also the Soviet era. It will begin with a review of political history from the second half of the 19th century, through the Russian Revolution and the Soviet era, to the present day. Subsequent lectures will be thematically organised. Specifically, the theoretical framework of comparative politics will be introduced at the beginning of each session, followed by a comparison and discussion of political phenomena in the Soviet Union and contemporary Russia.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 政治史①(帝政末期からソ連建国まで)
- 【3】: 政治史②(スターリン期からソ連崩壊まで)
- 【4】: 政治史③(現代ロシア)
- 【5】: 政治制度
- 【6】: 政党
- 【7】: 選挙
- 【8】: アカウンタビリティ
- 【9】: 国家と経済

- 【10】:政治と福祉
- 【11】:政教関係
- 【12】:政軍関係
- 【13】:連邦制
- 【14】:ナショナリズム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

リアクションペーパーで寄せられた質問やコメントは適宜授業内で紹介する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分が関心を持ったテーマについて調べる。最近のロシアに関するニュースに目を配る。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

リアクションペーパーは Google フォーム経由で提出すること(学期中に 5 回程度)。

テキスト / Textbooks

油本真理・溝口修平『地域研究のファーストステップ 現代ロシア政治』法律文化社 2023 9784589042798

参考文献 / Readings

松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀(全5巻)』岩波書店 2017
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社 2004

環境政治

Environmental Politics

尾内 隆之 (ONAI TAKAYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX251
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境問題をめぐる政治に規範的考察と実証的考察との両面からアプローチし、その特質を理解する。

The objective of this course is to approach the politics of environmental issues with using both normative and empirical methods to understand its characteristics.

授業の内容 / Course Contents

環境対策は長らく、経済成長を妨げる厄介なものと思われてきたが、いまや経済と環境の両立が各国で政策課題となっている。環境対策の必要性そのものを否定することは今日では考えにくい、そうであればこそ、環境をどこまで守り、その費用をだれが、どれだけ負担するかが政治の大きな争点となる。

いまや「地球沸騰時代」と表現される気候変動への対策は、言うまでもなく、環境政治の争点のうちの代表例である。国連の交渉の場となれば、各国のリーダーが口々に危機への取り組みを訴え、交渉の成果をアピールするが、具体策についての合意は常に先送りされており、単なる言葉遊びに過ぎないとも批判される。各地での戦争や紛争が環境対策に影響を落とす一方で、気候変動による環境変化によって移民や難民が生まれるなど、環境問題と政治の関係は複雑さを増している。環境政治をとらえることは、現代政治の理解にも不可欠なのである。

本講義では環境政治について、利害関係はもちろん、環境思想や政策アイデアの展開も重視して考察する。環境問題をめぐる新しい政治アクターの登場や市民の行動、科学の影響力の増大など、環境政治のプロセスを具体的に見ていく。

なお、個別の環境問題について自然科学的なメカニズムを詳説する時間はない。受講者は環境問題の現状への関心を高く持ち、報道やインターネット等を活用して積極的に情報を得よう心がけてほしい。

Environmental measures have long been seen as a burden which interferes with economic growth, but balancing economy and environment is important policy agenda in every country today. It is difficult to deny the necessity of environmental measures, but for that very reason the questions below are significant political issues usually. How much is the cost of enough protection measures? Who should pay for it?

For instance, climate change which is now described as 'global boiling' has long been the most contentious issues in environmental politics. At the negotiations in the UN climate conference, the leaders of all countries are always talking about their enthusiasm to tackle the crisis and appealing the upcoming success of their compacts and pledges. But effective agreement on concrete measures and funding policy for it is always postponed, then they are criticized as doing mere wordplay. Worse than that, the relationship between environmental issues and politics becomes much more complex than before, as wars and conflicts in various regions are casting a shadow over environmental measures, while environmental changes caused by climate change put vulnerable people at huge risks nowadays. Environmental politics must be one of the essential parts to understand contemporary politics.

The lectures will focus on the impact of interests for environmental politics, the development of environmental thought and policy ideas with respect to environmental measures. We examine the process of politics including the emergence of

new political actors, actions by grassroots movements, and the rising status of science.
Please note that we won't have enough time to check the details of the scientific mechanisms of each environmental problems in the class. So, students must be interested in the current condition of environmental problem and get a lot of information via news media.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:「パンデミック」「戦争」と「気候危機」
 【2】:環境はどう「問題」化してきたか
 (1) 汚染・破壊・浪費
 【3】:(2) 越境と収奪
 【4】:(3) 地球化とリスク化
 【5】:日本の環境政治史
 (1) 四大公害の時代 ～水俣病を中心に
 【6】:(2) 生活公害から地球環境問題へ
 【7】:環境政策のさまざまな手法
 【8】:「気候崩壊」時代の環境政治
 (1) 気候変動の科学と政治
 【9】:(2) 気候変動対策の国際合意
 【10】:(3)「気候正義」「公正な移行」
 【11】:環境の政治思想・社会思想
 【12】:だれが、どう環境政治を動かすのか
 (1) 政党政治と環境問題:緑の党を中心に
 【13】:(2) 環境問題と市民活動の現在地
 【14】:「人新世」における環境政治へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

まず環境省『環境・循環型社会・生物多様性白書』に目を通してみよう(環境省ウェブサイトで閲覧可)。また、講義では随時、時事的な話題・事例を取り上げるので、ウェブや新聞の環境関連記事などで最新のニュースをチェックすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%
 平常点割合 :20% 毎回のリアクションコメントやアンケート:20%

テキスト / Textbooks

テキストは用いず講義資料を随時配布する。川崎修・杉田敦編『現代政治理論 新版補訂版』(有斐閣アルマ、2023 年) 第 10 章「環境と政治」が、担当教員による概説になっているので一読してほしい。

参考文献 / Readings

デレク・ウォール 『緑の政治ガイドブック』 筑摩書房 2012 9784480066473
 ジョン・ドライゼク 『地球の政治学: 環境をめぐる諸言説』 風行社 2007 4938662906

その他 / Others

資料配布や連絡、リアクションペーパー提出等は基本的に Canvas LMS で行うが、Google Forms 等も併用する。詳細は開講後に適宜説明する。

地方自治

Local Government
地方自治の制度と現在

稲垣 浩 (INAGAKI HIROSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX261
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は三つある。まず、日本の地方自治制度を題材にして、地方自治の基本的な制度構造とその背景となる歴史や概念について習得すること。次に、これらの習得した知見をもとに、現状の地方自治の諸課題について分析し、将来的な地方自治の姿について考えることができるようになること。さらに、それを他者に対して説得的に語るようになることである。

The goals of this class are the following three. First, students should learn about the basic structure of local government and the history and concepts behind it, using Japan's local government system as a subject. Next, students will be able to analyze the current issues of local autonomy and think about the future of local autonomy based on the knowledge they have acquired. Ultimately, the goal is for students to be able to explain them persuasively to others.

授業の内容 / Course Contents

日本における地方自治の基礎的な制度は、明治時代以来今日まで安定的に推移してきたが、その制度の下で展開される政策や政治的な状況は様々に変化してきた。特に、1990年代以降、市町村合併や税財政改革など不況に伴う行政の合理化がすすめられる一方で、多様な主体が公共サービスを担うガバナンスなど新たな統治形態の模索も、諸外国と同様に始まっている。また、東京や大阪などに見られるように新たな地方政治の動きが見られる反面、地方創生政策のように中央政府による新たな地方政策も展開されている。この授業では、各回のテーマごとに、こうした地方自治の現状とその背景や変化について、政治学・行政学の視点から検討を進める。授業では、各テーマに関する基礎的な用語や知識について説明をするが、基本的にはそのトピックの全体構造や争点になっている論点について検討することに重きを置く。

The basic system of local autonomy in Japan has remained stable since the Meiji period. On the other hand, the policies and political situation developed under the system have changed in various ways. In particular, since the 1990s, while administrative rationalization due to recession has been promoted, such as municipal mergers and tax and fiscal reform, the search for a new system to provide public services by various entities called "Governance" has begun, as in other countries. In addition, while new local political movements such as those of local political parties in Tokyo and Osaka are seen, new local policies by the central government such as "Chihou Sousei" (the local revitalization policy) are also developed. In this class, the current situation of local autonomy, its background and changes will be examined from the viewpoints of politics and administration for each theme. In the class, basic terminology and knowledge on each topic are explained, but the focus is basically on the overall structure of the topic and the points at issue.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【ガイダンス・現代日本の地方自治】 現代の地方自治に関する基礎的な事項と、現在の争点・論点等について概説する。また、講義全体のテーマについて説明する。

【2】:【住民と自治】 自治の主役である「住民」の姿は様々に変化してきた。その歴史的な変容に触れながら、現在の課

題について検討する。

【3】:【議会と執行機関】自治体の政策は住民の意思を反映しているのか？逆に「住民の意思」は常に反映されなければならないのか？議会、首長、委員会といった、自治体の議決と執行の仕組みと課題について検討する。

【4】:【地方公務員制度と自治体職員】「縁の下力持ち」として目立たない存在、場合によっては住民からの非難を一身に浴びつつも、就職先として根強い人気を誇る地方公務員。その制度と現状について検討する。

【5】:【地方財政制度と自治体財政①】かつて「3割自治」と呼ばれるほど「脆弱」とされた日本の自治体財政。いったい「誰が」「何を」負担するのか？使っているのか？基本的な地方財政の制度とその課題について実際の事例を踏まえながら検討する。

【6】:【地方財政制度と自治体財政②】かつて「3割自治」と呼ばれるほど「脆弱」とされた日本の自治体財政。いったい「誰が」「何を」負担するのか？使っているのか？基本的な地方財政の制度とその課題について実際の事例を踏まえながら検討する。

【7】:【政策と計画】地域における問題への対処は一律ではない。自治体という組織において、そうした問題への対応がどのように形成され、総合化されるのか。政策や計画の制度と現状について検討する。

【8】:【組織編成と意思決定】個人は組織となることで様々な変貌を遂げる。自治体が対応すべき諸課題が「組織」として、どのように議論され、決定されているのか、その制度と現状について検討する。

【9】:【日本における地方自治の歴史①】地域における権力構造や勃興する地方政党など、地方政治を取り巻く現状を視野に入れつつ、明治から現在に至るまでの地方自治をめぐる事象とその変遷について検討する。

【10】:【日本における地方自治の歴史②】地域における権力構造や勃興する地方政党など、地方政治を取り巻く現状を視野に入れつつ、明治から現在に至るまでの地方自治をめぐる事象とその変遷について検討する。

【11】:【政府間関係】融合型とされる中央政府と自治体の関係、震災等を契機にますます重要となる自治体間関係、これらの政府間関係をどのようにマネジメントしていくのか。歴史を踏まえて政治・行政の両面から検討する。

【12】:【自治と地域①】東京都政の歴史と現状 立教が存在する東京の自治とその歴史について概観したうえで、日本の地方自治について考えて行く。特に、東京の自治については一般的に知られていないことが多い一方、近年では大阪都構想にみられるように、大都市の行政体制は大きな問題となっている。こうした「東京」の過去と現在について考えたい。

【13】:【自治と地域②】東京都政の歴史と現状 立教が存在する東京の自治とその歴史について概観したうえで、日本の地方自治について考えて行く。特に、東京の自治については一般的に知られていないことが多い一方、近年では大阪都構想にみられるように、大都市の行政体制は大きな問題となっている。こうした「東京」の過去と現在について考えたい。

【14】:全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定するテキストの各回の授業に関係している部分や、配布するレジュメや資料等を通じて、各回のトピックスについて予習・復習を行い、わからない点を明確にしておいてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :75%

平常点割合 :25% コメントペーパー:25%

テキスト / Textbooks

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治(新2版)』北樹出版 2025 9784779307782

テキストは授業中に用いるわけではありませんが、レジュメや授業のなかでテキストの該当箇所を指示するので、各自予習や復習などで活用してください。

参考文献 / Readings

辻陽『日本の地方議会』中央公論新社 2019 412102558

曾我謙悟『日本の地方政府』中央公論新社 2019 4121025377

柴田直子・松井望編『地方自治論入門』ミネルヴァ書房 2012 4623064603

佐々木信夫『都知事』中央公論新社 2011 4121020901

金井利之『自治制度』東京大学出版会 2007 4130342339

原田久『行政学』法律文化社 2016 4589037904

大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書 改訂版』第一法規 2021 9784474076990

1と2は、自治体に関する最新の研究動向を踏まえた新書であり、地方自治に関心のある学生は受講前に読んでみて

ほしい。3は、標準的な地方自治の教科書。テキストと共に読むと理解が深まります。4は、一般向けではあるが東京都政について概括的に述べたもの。5は、研究書であるので難しいが、本講義でも随所で言及する国と地方の関係を深く勉強したい学生は、ぜひトライしてみてください。6は、具体的な事例や問いを中心に行政や政策について考えようとするもの。地方自治のみならず、中央政府まで視野を広げて考えるために有用です。7は、地初学者向けの地方自治の教科書。そのほか、必要な文献、さらなる理解に有用な文献について授業中に指示します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

地方自治や地方行政への関心、授業以外でも地方自治に関する情報を収集しようとする意欲や能力、積極的に授業に参加しようとする意志が第一に求められます。授業ではできるだけ平易にお話しますが、コメントペーパーやテストでは、基本的に講義で得た知識をもとにして、地方自治に関する様々な議論にできるかどうかを測定する予定です。テスト前の一夜漬けや、考察の無いコメントペーパーで切り抜きたい学生にはあまり向かない授業かもしれません。

その他 / Others

自治体や、関連する省庁(総務省、内閣府など)などのホームページや広報誌など。できれば、出身地や居住地など、任意の自治体を一つ決め、その自治体が授業で取り上げた制度や課題などに対してどのような対応をしているかホームページなどを通じて調べてみると、より理解が深まります。

また、各回の授業内容については、順番が入れ替わったり、内容を変更する場合がありますが、その場合は予め受講学生に連絡します。

行政学1

Public Administration 1

小田 勇樹(ODA YUUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX262
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目を通じて、行政組織に関する理論、原理、分析視角を習得し、現実社会の諸問題の理解へ応用できるようになることがこの授業の到達目標です。また、公務の特殊性、公務特有の倫理観、公共的価値を学んで頂くことを目標として授業を行います。

The goal of this course is for students to acquire theories, principles, and analytical perspectives on administrative organizations and to be able to apply them to understanding various problems in the real world. In addition, this course is designed to teach students the peculiarities of the public service, the ethics unique to the public service, and public values.

授業の内容 / Course Contents

行政学1では、国の省庁や地方自治体のような行政組織に関する実証的な理論を学修します。社会科学における理論とは、行政組織と官僚の活動を説明する法則のようなものや、行政組織の活動原理をわかりやすく捉えるための視点のようなものを指します。行政学1は政治学的内容が多く、行政組織のマネジメントに関する内容は、行政学2で取り上げています。可能ならばセットで履修することをおすすめいたします。

In this course, students will learn empirical theories about administrative organizations such as national ministries and local governments. Empirical theory in the social sciences refers to the kind of logic that explains the activities of administrative organizations and bureaucrats, and the kind of perspective that makes it easier to understand patterns of behavior in administrative organizations. Public Administration I is more political science oriented, and content related to the management of administrative organizations is covered in Public Administration II. It is recommended to take the courses as a set if possible.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 行政の役割と行政学の誕生
- 【3】: 能率の追求 初期行政学の理論
- 【4】: 官僚制
- 【5】: 国の行政機構の仕組み
- 【6】: 立法過程・予算編成
- 【7】: 政策形成過程の理論(1)利益集団と多元主義
- 【8】: 政策形成過程の理論(2)合理的志決定と限定合理性
- 【9】: 政官関係(1)日本の政官関係

- 【10】:政官関係(2)政官関係の理論
 【11】:公務員の労働基本権と給与
 【12】:公務員の人事管理の仕組み
 【13】:公務員の人事における諸課題
 【14】:公務における働き方改革

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

原田久『行政学〔第2版〕』法律文化社 2022 4589041952

西岡晋・廣川嘉裕 編『行政学』文眞堂 2021 4830951389

真淵勝『行政学〔新版〕』有斐閣 2020 4641149356

曾我謙吾『行政学〔新版〕』有斐閣 2022 4641221901

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎〔第3版〕』有斐閣 2020 4641184496

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学 補訂版』有斐閣 2011 4641053774

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パワーポイントとPDF形式のファイルをCanvas LMSで配布します。

その他 / Others

公務員志望者はもちろん、政治や行政に関心のある方の履修を歓迎しております。

行政学2

Public Administration 2

小田 勇樹(ODA YUUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX263
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目を通じて、行政組織に関する理論、原理、分析視角を習得し、現実社会の諸問題の理解へ応用できるようになることがこの授業の到達目標です。また、公務の特殊性、公務特有の倫理観、公共的価値を学んで頂くことを目標として授業を行います。

The goal of this course is for students to acquire theories, principles, and analytical perspectives on administrative organizations and to be able to apply them to understanding various problems in the real world. In addition, this course is designed to teach students the peculiarities of the public service, the ethics unique to the public service, and public values.

授業の内容 / Course Contents

行政学2では、行政組織のマネジメントに関する問題を中心にした内容を学修します。行政学2はマネジメントの内容が多く、政治学的内容は、行政学1で取り上げています。可能ならばセットで履修することをおすすめいたします。

Public Administration II focuses on issues related to the management of administrative organisations. Public Administration II has more management content, while political science content is covered in Public Administration I. It is recommended that students take the courses as a set if possible.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: New Public Management(NPM)
- 【3】: 官僚制批判の理論とNPM
- 【4】: 中曽根行革と国鉄民営化
- 【5】: 橋本行革と独立行政法人制度
- 【6】: 公共サービスの外部委託
- 【7】: 非営利組織の役割の拡大
- 【8】: 公務員制度改革
- 【9】: 地方自治制度と地方分権改革(1)
- 【10】: 地方自治制度と地方分権改革(2)
- 【11】: 大都市制度
- 【12】: 政策実施
- 【13】: 政策評価
- 【14】: 講義の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

原田久『行政学〔第2版〕』法律文化社 2022 4589041952

西岡晋・廣川嘉裕 編『行政学』文眞堂 2021 4830951389

真淵勝『行政学〔新版〕』有斐閣 2020 4641149356

曾我謙吾『行政学〔新版〕』有斐閣 2022 4641221901

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎〔第3版〕』有斐閣 2020 4641184496

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学 補訂版』有斐閣 2011 4641053774

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パワーポイントとPDF形式のファイルをCanvas LMSで配布します。

その他 / Others

公務員志望者はもちろん、政治や行政に関心のある方の履修を歓迎しております。

経済原論

Principles of Economics
経済学の考え方を理解する

木村 雄一 (KIMURA YUICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX270
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面授業
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な概念と理論を理解することです。

The goal of this course is to provide students with an understanding of the basic concepts and theories of microeconomics and macroeconomics.

授業の内容 / Course Contents

前期はミクロ経済学について講義します。後期はマクロ経済学について講義します。ミクロ経済学では、市場の働きを中心にして、消費者および企業の行動に関する経済分析の基本的な内容をわかりやすく説明します。学ぶ内容は、経済学や経営学などビジネスのさまざまな分野で応用されるものです。他方、マクロ経済学という言葉はあまり身近ではないかもしれませんが、新聞やテレビなどでよく話題となる GDP、インフレーション、デフレーション、失業率、経済成長率、金融政策などは、マクロ経済学の重要な研究対象です。つまり、多くの人々の生活に大きく関わってくる分野です。マクロ経済学の入門から始めますが、最終的には、GDP の概念を理解しその決定のメカニズムを理解する段階まで進めるようにしたいと思います。

Microeconomics will be taught in the first semester. The second semester will focus on macroeconomics.

Microeconomics focuses on the workings of markets and explains the fundamentals of economic analysis of consumer and business behavior in an easy-to-understand manner. The content studied is applied in various fields of business such as economics and management. On the other hand, the term “macroeconomics” may not be very familiar to you. However, GDP, inflation, deflation, unemployment, economic growth, and monetary policy, which are often discussed in newspapers and on TV, are important subjects of macroeconomics research. In other words, this is a field that has a great deal to do with the lives of many people. We will start with an introduction to macroeconomics, but eventually we hope to advance to the stage of understanding the concept of GDP and the mechanism of its determination.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【市場とは何か:ミクロ経済学】

経済学と経済モデル・家計と企業・市場の構成と循環・合理的な経済行動とは何か・コストとベネフィット・機会費用・行動経済学の流行等について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第1章, 第8章, 第9章, 第10章, 第15章参照, p.59のコラム等)

【2】:【需要を考える(1):ミクロ経済学】

需要曲線・需要曲線のシフト・需要の価格弾力性(『はじめて学ぶ経済学第3版』第2章参照)

【3】:【需要を考える(2):ミクロ経済学】

需要の価格弾力性の決定要因・弾力性と企業収入一価格戦略について(『はじめて学ぶ経済学第3版』第2章参照)

【4】:【需要を考える(3):ミクロ経済学】

限界効用・二財モデル・無差別曲線・予算制約線・効用最大化について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第2章には記載がないため、教員によるレジュメで補足する)

【5】:【供給を考える(1):ミクロ経済学】

供給曲線・供給曲線のシフト・供給の価格弾力性について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第3章参照)

【6】:【供給を考える(2):ミクロ経済学】

供給の価格弾力性の決定要因・規模の経済性・範囲の経済性について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第3章, 第5章参照)

【7】:【供給を考える(3):ミクロ経済学】

平均費用・限界費用・短期・長期のモデル・生産関数について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第3章には記載がないため、教員によるレジュメで補足する)

【8】:【市場における価格の役割:ミクロ経済学】

市場価格の決定・均衡価格の変動・完全競争市場・資源配分の効率性について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第4章参照)

【9】:【不完全競争(1):ミクロ経済学】

市場の現実と価格支配力・不完全競争市場・ゲーム理論について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第5章参照)

【10】:【不完全競争(2):ミクロ経済学】

独占・独占的競争・ゲーム理論の応用について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第5章には記載がないため、教員によるレジュメで補足する)

【11】:【公共財と外部性:ミクロ経済学】

市場に失敗:続き・公共財、外部性について

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第6章参照)

【12】:【情報の非対称性:ミクロ経済学】

情報の非対称性とは・逆選択・モラルハザードについて

(『はじめて学ぶ経済学第3版』第7章参照)

【13】:【予備日:ミクロ経済学】

授業の遅れがあれば、この日を予備日とします。予定通り進んでいれば、問題を解きつつ、ミクロ経済学の内容を理解しているかどうかの復習をします。

(『はじめて学ぶ経済学第3版』全体の章参照)

【14】:【マクロ経済学って何だろうー市場とマクロ経済:マクロ経済学】「3つの市場と3つの経済主体」・「経済学のアプローチ」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第1章参照)

*【マクロ経済学に入ります】:前学期最終日ですが、新しい教科書に入ります。

ご準備ください。

【15】:【経済を大きく捉えるーGDPと物価:マクロ経済学】「GDP(国内総生産)とは何か」・「GDPを別の側面からみる:三面等価の原則」・「投資とは何か」・「名目GDPと実質GDP」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第2章参照)

【16】:【消費と投資がどうして重要なのかー財市場の分析:マクロ経済学】「消費関数という考え方」・「長い人生、いつもお金を使う?:ライフ・サイクル仮説」・「どんな投資をすべきか:投資の限界効率と利子率」・「投資関数という考え方」・「投資家はつねに合理的か:アニマル・スピリット」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第3章参照)

【17】:【GDPはどう決まるのか:マクロ経済学】「総需要がGDPを決める:有効需要の原理」・「GDPの決まり方」・「GDPの決まり方:図解」・「乗数という考え方」・「投資が増えるとGDPは何倍にもなる:乗数効果」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第4章参照)

【18】:【政府は何をするのかー財政とGDP:マクロ経済学】「政府支出を含めたGDPの決定」・「政府支出乗数と租税乗数」・「乗数効果は実際どれくらいあるのか」・「財政の3つの機能」・「日本の財政:税金と国債」・「どうやって国の借金を返すのか:累積債務の問題」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第5章参照)

【19】:【お金はどうして重要なのか:貨幣と利子率:マクロ経済学】「貨幣の3つの機能」・「経済にどれくらいお金があるのか:マネー・ストック」・「さまざまな銀行組織」・「利子率と債券価格の関係」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第6章参照)

【20】:【お金はどこから生まれるのかー貨幣市場:マクロ経済学】「お金がどんどん増える?:信用創造」・「中央銀行がお金をコントロールする」・「お金はなぜ必要になるのか:貨幣需要関数」・「流動性という考え方」・「利子率はどうか決まるのか」・「日本における中央銀行と金融市場の関係」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第7章参照)

【21】:【財市場と貨幣市場の同時決定ーIS-LM分析:マクロ経済学】

「財市場と IS 曲線」・「貨幣市場と LM 曲線」・「財政・金融政策の効果:IS-LM 分析」・「財政・金融政策の効果:IS-LM 分析」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第 8 章参照)

【22】:【失業はどうして起こるのかー労働市場:マクロ経済学】「労働力とは何か:就業者と失業者」・「失業率のデータをみる」・「賃金の決まり方:労働市場の分析」・「失業はなぜ発生するのか」・「失業への対策:マクロとミクロのアプローチ」・「日本の労働市場はどうなっているのか」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第 9 章参照)

【23】:【マクロ経済の全体像を見るーAD-AS 分析:マクロ経済学】「物価と総需要:AD 曲線」・「物価と総供給:AS 曲線」・「AD-AS モデルの使い方」・「不完全雇用と完全雇用の AD-AS モデル」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第 10 章参照)

【24】:【インフレとデフレ:マクロ経済学】「インフレやデフレはなぜ発生するのか」・「インフレやデフレの影響:メリットとデメリット」・「失業とインフレの関係:フィリップス曲線」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第 11 章参照)

【25】:【開放経済を分析するー為替レートと国際収支(1):マクロ経済学】「為替レートと国際収支表」・「為替レートはどうやって決まる?」・「輸出・輸入はどうやって決まる?」・「自由な資本移動のある経済:マンデル・フレミングモデル」・「固定相場制 VS 変動相場制」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第 12 章参照)

【26】:【景気循環・経済成長とは何か:マクロ経済学】「景気循環の考え方」・「経済成長の考え方」・「経済成長を計算する」・「経済成長の3つの要因」・「経済成長の理論」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第 13 章参照)

【27】:【日本経済を考えるーマクロ経済学の応用:マクロ経済学】「バブルの発生と終焉」・「失われた 30 年」とは何か」・「深刻な少子高齢化にどう対応するか」

(『はじめて学ぶマクロ経済学』第 14 章参照)

【28】:【予備日:マクロ経済学】

授業の遅れがあれば、この日を予備日とします。予定通り進んでいれば、問題を解きつつ、マクロ経済学の内容を理解しているかどうかの復習をします。

(『はじめて学ぶマクロ経済学』全体の章参照)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業では、第1回目～第 13 回目まで、関谷喜三郎・池野秀弘・大島考介・木村雄一・安田武彦『はじめて学ぶ経済学 第 3 版』(慶應義塾大学出版会, 2022 年)を、第 14 回目～第 28 回目まで、池野秀弘・木口武博・木村雄一『はじめて学ぶマクロ経済学』(慶應義塾大学出版会, 2025 年)を用います。この 2 冊をしっかりと読み込みこむことが授業の内容を理解することと同時に、単位取得のために必要です。準備をお願いします。また授業では、教科書を補足するための資料を配布することが多々ありますので、しっかりとファイルして、各自ノートを整理することを進めます。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

(予習)関谷喜三郎・池野秀弘・大島考介・木村雄一・安田武彦『はじめて学ぶ経済学 第 3 版』(慶應義塾大学出版会, 2022 年)、池野秀弘・木口武博・木村雄一『はじめて学ぶマクロ経済学』(慶應義塾大学出版会, 2025 年)の該当箇所を精読してください。またシラバスで指示する各回の授業内容の前提となる事柄について調べてください。

(復習)関谷喜三郎・池野秀弘・大島考介・木村雄一・安田武彦『はじめて学ぶ経済学 第 3 版』(慶應義塾大学出版会, 2022 年)、池野秀弘・木口武博・木村雄一『はじめて学ぶマクロ経済学』(慶應義塾大学出版会, 2025 年)の該当箇所を復習してください。またシラバスで指示する各回の授業内容における主要な考え方や概念について説明できるようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

関谷喜三郎・池野秀弘・大島考介・木村雄一・安田武彦 『 はじめて学ぶ経済学 第 3 版 』 慶應義塾大学出版会 2022 年 4766427955

池野秀弘・木口武博・木村雄一 『 はじめて学ぶマクロ経済学 』 慶應義塾大学出版会 2025 年 4766430034

参考文献 / Readings

参考書は、ミクロ経済学、マクロ経済学と名のつくものであれば、書かれていることはほぼ同じですので、どれでも結構です。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

多少の計算力は必要ですが、特にありません。経済学を自分のものにしようという意志さえあれば、十分です。頑張りましょう。

その他 / Others

教科書 2 冊を徹底的に何度も繰り返し精読してください。その上で、授業配布するプリントや資料、演習問題をこなせば、あなたも経済学の基本的な考え方を習得できるはずです。頑張りましょう。

政治過程論1

Political Process 1

孫 齊庸 (SOHN JEYONG)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX275
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治過程を理解するための理論と政治アクターの行動原理について理解する。

The objective of this course is to enhance students' understanding of the theoretical foundations and behavioral principles of political actors, enabling a more comprehensive grasp of political processes.

授業の内容 / Course Contents

政治の場において、政治アクターはそれぞれの目標を追求しながら、相互に影響を与え合う。その過程では、有権者、政治家、政党、利益団体、メディアといった多様な主体が、それぞれの戦略や利害に基づいて意思決定を行う。本授業では、これらの政治アクターの行動原理と、それを取り巻く制度的・社会的要因について考察し、政治過程の基本的な構造を体系的に理解することを目指す。

授業では、政治参加の動機、政党の組織と変遷、メディアと世論の関係、連立政権の形成など、現代政治における主要なテーマを取り上げる。また、理論的視点に基づき、政治アクターの行動が政治過程全体にどのような影響を及ぼすのかを分析する。これにより、学生は政治現象を実証的かつ理論的に考察する力を養う。

なお、本授業では政治アクターの行動に焦点を当て、政治制度の影響については「政治過程論 2」において詳しく扱う。

In the realm of politics, political actors pursue their own goals while influencing one another. This process involves various entities, including voters, politicians, political parties, interest groups, and the media, all of which make decisions based on their respective strategies and interests. This course examines the behavioral principles of these political actors and the institutional and societal factors that shape their interactions, providing a systematic understanding of the political process.

Throughout the course, key themes such as political participation, the organization and transformation of political parties, the relationship between media and public opinion, and the formation of coalition governments will be explored. By applying theoretical perspectives, students will analyze how the actions of political actors impact the broader political process. This approach will enable students to develop analytical skills necessary for empirical and theoretical examination of political phenomena.

This course primarily focuses on the behavior of political actors. The influence of political institutions on political dynamics will be covered in detail in "Political Process 2."

授業計画 / Course Schedule

【1】: 導入・政治アクターと政治制度

【2】: 理論(1) 合理的選択理論

【3】: 理論(2) 社会的選択理論

【4】: 理論(3) ゲーム理論

【5】: 有権者(1)

【6】: 有権者(2)

- 【7】: マスメディアと世論
 【8】: 政治家
 【9】: 政党 (1)
 【10】: 政党 (2)
 【11】: 連立政権
 【12】: 首相・大統領
 【13】: 利益団体
 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド (パワーポイント等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

【予習 (各回約 2 時間)】

次回授業に向けて、事前に配布された教材を入手し、授業開始前に必ず精読すること。教材の内容を理解した上で、授業に臨むこと。

【復習 (各回約 2 時間)】

授業終了後、教材と授業内容を振り返りながら、Canvas LMS を通じて小テストに取り組むこと。理解を深めるために、十分な時間を確保し、復習を徹底すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 60%

平常点割合 : 40% 小テスト: 20% コメントペーパー: 20%

小テストは、毎回の授業終了後に Canvas LMS を使用して実施する予定である。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。各回の授業スライド及び教材は、Canvas LMS 上で閲覧できるようにする。

参考文献 / Readings

授業内容の作成の参考にした著書や論文は配布資料に掲載する。

政治過程論2

Political Process 2

孫 齊庸 (SOHN JEYONG)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX276
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治アクター間の相互作用に影響を与える、様々な政治制度の内容とその制度的帰結について理解する。

The objective of this course is to provide a clear and thorough understanding of various political institutions and analyze how they influence the interactions among political actors.

授業の内容 / Course Contents

政治過程は、制度によって方向づけられ、その枠組みの中で政治アクターが意思決定を行う。本授業では、制度が政治家の行動、政党間競争、政策形成プロセスに与える影響を、理論的枠組みと実証的な事例を用いて分析する。例えば、選挙制度の違いが政党戦略に及ぼす影響、政治資金の規制が政策決定に与える変化、執政制度が政治指導者の役割に与える違いなどを取り上げる。

また、制度の設計が政治的安定性や政策の持続性に与える影響についても議論し、各国の制度の比較を通じて、その多様性と帰結を考察する。各回の授業では、制度の特性とその影響を具体的な問いを通じて掘り下げ、政治制度の本質的な機能を体系的に理解することを目指す。

なお、政治過程の理論的基礎や政治アクターの行動原理については、「政治過程論 1」において詳しく扱う。

The political process is structured by institutions, which provide the framework within which political actors make decisions. This course examines how institutions influence politicians' behavior, party competition, and policymaking processes through theoretical frameworks and empirical case studies. Topics include the impact of electoral systems on party strategies, the effects of political finance regulations on policy decisions, and the differences in executive leadership under various governance structures.

Additionally, the course discusses how institutional design contributes to political stability and policy sustainability, using cross-national comparisons to highlight institutional diversity and its consequences. Each session will explore specific questions related to institutional characteristics and their impact, enabling students to develop a systematic understanding of the fundamental functions of political institutions.

The theoretical foundations of the political process and the behavioral principles of political actors are covered in greater depth in "Political Process 1."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入・政治アクターと政治制度
- 【2】: 選挙制度(1): 選挙制度の構成要素と種類
- 【3】: 選挙制度(2): 選挙制度が政治過程に与える影響
- 【4】: 選挙制度(3): 日本における選挙制度の歴史的な変遷と「中選挙区制」
- 【5】: 政治資金制度(1): 政治資金の主要資金源とその特徴
- 【6】: 政治資金制度(2): 政治資金制度の多様性をもたらす要因
- 【7】: 政治資金制度(3): 日本における政治資金制度の歴史的な変遷とその特徴

- 【8】: 執政制度(1): 執政制度の分類方法と種類
 【9】: 執政制度(2): 執政制度が政治過程に与える影響
 【10】: 議会制度(1): 議会制度の分類方法と種類
 【11】: 議会制度(2): 日本の議会制度の特徴
 【12】: マルチレベルの政治過程(1): 中央と地方における不均一な政治制度
 【13】: マルチレベルの政治過程(2): 政治制度と国際関係
 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習(各回約2時間)】

次回授業に向けて、事前に配布された教材を入手し、授業開始前に必ず精読すること。教材の内容を理解した上で、授業に臨むこと。

【復習(各回約2時間)】

授業終了後、教材と授業内容を振り返りながら、Canvas LMS を通じて小テストに取り組むこと。理解を深めるために、十分な時間を確保し、復習を徹底すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:20% コメントペーパー:20%

小テストは、毎回の授業終了後に Canvas LMS を使用して実施する予定である。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。各回の授業スライド及び資料は、Canvas LMS 上で閲覧できるようにする。

参考文献 / Readings

授業内容の作成の参考にした著書や論文は配布資料に掲載する。

社会調査法(法学科1年)

Introduction to Social Research

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX283
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科1年次のみ		

授業の目標 / Course Objectives

社会調査の基礎的内容やデータ解析の基礎的内容について解説し、またレポート執筆などの方法についても触れる。
This course aims to explain the basic knowledge of social surveys and data analysis, as well as report writing.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の種類、調査票の作成、データの分析、報告書の執筆などの社会調査の基本的な知識の習得を目指す。
This course aims to provide students with basic knowledge of social research, including types of social surveys, survey design, data analysis, and reports writing.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 社会調査の目的と意義
- 【2】: 問題関心と仮説の設定
- 【3】: レポート、報告書作成の方法
- 【4】: 社会調査・社会統計学の歴史
- 【5】: 社会調査の種類
- 【6】: 調査票、質問文の作り方
- 【7】: 質的調査1
- 【8】: 質的調査2
- 【9】: 標本調査1: 無作為抽出と無作為割当
- 【10】: 標本調査2: 様々な標本調査
- 【11】: データ分析1: データの加工
- 【12】: データの作成2: 1 変数の分析
- 【13】: データ作成3: 2 変数の分析
- 【14】: 社会調査の今後、展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で触れたキーワードについてインターネットや参考書で確認してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 複数回の授業内課題:40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しません。授業では資料を配布するほか、復習プリントも配布します。

参考文献 / Readings

松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 2021 9784621306314

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法〔第4版〕』 法律文化社 2021 9784589041418

林雄亮・石田賢示 『基礎から学ぶ社会調査と計量分析』 北樹出版 2017 9784779305351

毛塚和宏 『社会科学のための統計学入門』 講談社 2022 9784065284506

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は社会調査やデータ解析の基礎的事項に触れるので、初学者も歓迎です。法学部の学生でも必ず役に立つような考え方(データの解釈の方法、レポート執筆の方法、社会調査の方法など)について触れていきます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業スライド(PDF)を Canvas LMS にアップロードしますので、それが閲覧できる環境を準備しておいてください。

その他 / Others

授業内では、馴染み深いトピックについてのデータやランキングなどを取り上げながら堅苦しくならないように授業を進めていきますので、そうした授業を受講したい方はぜひ受講してください

社会調査法(その他)

Introduction to Social Research
社会調査法の基礎

安東 慶太(ANDO KEITA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX284
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学科 2 年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標 / Course Objectives

社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得する。

The objective of this course is to acquire fundamental knowledge about the significance, background, and methods of social research.

授業の内容 / Course Contents

社会科学において、社会調査はデータを得るための手段として重要である。基本的な方法的基準を理解することなしには、社会に関する正しい知見は得られない。

本授業では、問いの設定から始まる調査企画・設計の一連の流れや、さまざまな社会調査の手法、データの整理などについて解説する。社会調査法の基礎を理解し、既存の調査データを読み解く／新たに調査データを取得する力を身に着けることを目的とする。

In the social sciences, social research is a critical means of obtaining data. Without understanding the fundamental methodological standards, it is impossible to acquire accurate insights about society.

This course provides an overview of the entire process of research planning and design, starting with the formulation of research questions. It also covers various social research methods, data organization. The goal is to help students understand the basics of social research methods and develop the skills to interpret existing research data and collect new research data effectively.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 社会調査とは何か
- 【2】: 問いの立て方
- 【3】: 社会調査のプロセス
- 【4】: データの収集方法
- 【5】: 実査の方法
- 【6】: 調査票の作成
- 【7】: サンプルング
- 【8】: 質問紙調査の実施
- 【9】: データの整理と基礎集計
- 【10】: インタビュー調査の心構え
- 【11】: インタビュー調査の実施
- 【12】: フィールドワークの技法
- 【13】: 資料テキストの分析
- 【14】: 社会調査の歴史と今日的課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業後は資料や関連書籍を読み、不明な点がないか確認すること。指定された文献等から、社会調査法に関する疑問点や論点を主体的に整理していくことが理解を深めることにつながる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー等による授業への参加度:40%

テキスト / Textbooks

・授業時に適宜レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

佐藤健二・山田一成(編著)『社会調査論』八千代出版 2009 9784842914930

松本渉『社会調査の方法論』丸善出版 2021 9784621306314

轟亮・杉野勇・平沢和司(編)『入門・社会調査法[第4版]』法律文化社 2021 9784589041418

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』有斐閣 2016 9784641150379

比較法

Comparative Law

貝瀬 幸雄 (KAISE YUKIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX310
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法学の学習に必要な外国法についての基礎知識を修得するために、比較法の方法、比較法の隣接諸領域、法族論、法とグローバリゼーションなどのテーマを学習する。特にグローバリゼーションが比較法に及ぼす影響に注目する。不十分ではあるが、法学入門としての役割も果たしたい。

In order to acquire knowledge concerning foreign law which is needed for the study of law, students in this course will study the methods of comparative law, areas adjacent to comparative law, the doctrine of legal families, law and globalization, and other topics. In particular, this course will focus on the impact of globalization of comparative law. While it will be insufficient, it is hoped that this course will also play a role as an introduction to law.

授業の内容 / Course Contents

担当者が執筆したテキストブックを用い、その内容について詳しく講述する。比較法の基礎理論すなわち比較法原論が講義の中心となる。アメリカ比較法学を代表するマティアス・ライマンの比較法史および比較法総論研究を取り上げるとともに、イタリアの比較法学者ジュゼッペ・モナテリの比較法方法論も紹介したい。

This course will use the textbook written by myself. The lectures will focus on the basic theories of comparative law. As the second part of this lecture, I will analyze the study of comparative legal history by Prof. Mathias Reimann, or the method of comparative law written by Prof. Giuseppe Monateri.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 比較法の意義
- 【2】: 比較法と隣接諸分野(1)
- 【3】: 比較法と隣接諸分野(2)
- 【4】: 比較法の方法(1)
- 【5】: 比較法の方法(2)
- 【6】: 法族論(1)
- 【7】: 法族論(2)
- 【8】: 法族論(3)
- 【9】: グローバル比較法学(1)
- 【10】: グローバル比較法学(2)
- 【11】: 歴史法学派とコモン・ロー(1)
- 【12】: 歴史法学派とコモン・ロー(2)
- 【13】: 歴史法学派とコモン・ロー(3)
- 【14】: 結論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

まずはテキストを読んできていただきたい。復習は丹念に行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

貝瀬幸雄『比較法学入門』日本評論社 2019

参考文献 / Readings

貝瀬幸雄『現代アメリカ比較法学の行方』日本評論社 2022

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

国際ビジネス法総合1A

International Business Law 1A

国境をまたいで行われるビジネスと法・紛争解決

小川 和茂(OGAWA KAZUSHIGE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX323
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化するビジネス社会に対応できる人材、すなわち「リーガルマインド」「ビジネスセンス」「国際的な素養」の3つを兼ね備えた人材の育成を目標とする。

The objective of this course is to cultivate talented people who can accommodate the globalizing business society, or in other words people who combine a "legal mind", "business sense", and an "international grounding."

授業の内容 / Course Contents

企業がグローバルにビジネス展開する場合、様々な法分野にまたがる問題が同時に発生する。そうした問題に対処可能な人材の育成を目指す。

学生には、単に講義を聴くだけではなく、現実の事例を素材とした具体的な設例の下、トラブルを解決する法的手段を考える、あるいはあるビジネスモデルの実現のための法的スキームを考えるといった課題が与えられる。

その課題は、様々な法分野にまたがっており、それぞれの分野の知見を有機的に組み合わせなければ答えは導けない。講義中の課題に際しては、複数の学生が自主的にチームを編成し、共同で作業を行うことが推奨される。

本講義は、「国際ビジネス法総合1B」及び「国際ビジネス法総合2」とセットである。

「国際ビジネス法総合1A」では、主に国境をまたいだビジネスを行う際に生じる法的問題を多角的に検討し、国際ビジネスの全体像を掴んでもらう。

「国際ビジネス法総合1B」では国際ビジネス契約を中心に、より具体的内容・事例に踏み込んだ講義が行われる予定である。

さらに、「国際ビジネス法総合2」で、様々な国際ビジネスに携わっている方々からの生の声を聞いて自身の知識をより確かなものにして欲しい。

When companies expand their business globally, problems spanning various legal fields can simultaneously occur. This course aims to cultivate talented people who can cope with such problems.

Students will not simply listen to lectures but be assigned problems that will require them to think of legal means to resolve problems based on specific examples using real cases as source materials or think of legal schemes to realize a certain business model.

Those problems span various legal fields and cannot be answered without organically combining the knowledge from each field. For problems assigned during lectures, it is recommended that multiple students independently form a team and work on them together.

These lectures are a set together with "International Business Law 1B" and "International Business Law 2."

In "International Business Law 1A", students engage in a multi-lateral examination of legal problems which occur primarily in businesses which span national borders to grasp an overall perspective of international business.

The lectures in "International Business Law 1B" are scheduled to venture deeply into more specific details and cases

with a focus on international business contracts.

In addition, students in "International Business Law 2" are asked to listen to the thoughts and remarks of people involved with various international businesses to create a more solid foundation for their own knowledge.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクションー 国際ビジネスの全体像と法の役割、国際ビジネスと法の適用ー
- 【2】: 国際売買契約 1
- 【3】: 国際売買契約 2
- 【4】: 代理店・販売店 1
- 【5】: 代理店・販売店 2
- 【6】: 国際ビジネスと知的財産
- 【7】: 海外拠点の設立・運営 1
- 【8】: 海外拠点の設立・運営 2
- 【9】: 国際ビジネスと税
- 【10】: 紛争解決 1 国際商事仲裁 1
- 【11】: 紛争解決 2 国際商事仲裁 2
- 【12】: 紛争解決 3 投資条約仲裁 1
- 【13】: 紛争解決 4 投資条約仲裁 2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストや関連資料を熟読し、設問等をあらかじめ解いた上で授業に臨むことが前提となる。
グループワークを行うことがあり、各グループごとに事前の打ち合わせを要する場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :65%

平常点割合 :35% リアクションペーパー・発言内容・小課題など:35%

テキスト / Textbooks

早川吉尚＝森下哲朗編 『国際取引法入門』 有斐閣 2024 9784641046986

テキストはおって指定する。

参考文献 / Readings

三菱商事株式会社法務部、三井物産株式会社法務部、住友商事株式会社法務部編 『新・国際売買契約ハンドブック 第2版』 有斐閣 2021 9784641046894

江頭憲治郎 『商取引法・第8版』 弘文堂 2018 9784335315442

神前禎＝早川吉尚＝元永和彦 『国際私法・第4版』 有斐閣 2019 9784641221314

森下哲朗＝平野温郎＝森口聡＝山本卓 『ケースで学ぶ国際企業法務のエッセンス』 有斐閣 2017 9784641046795
講義の中で適時指示する。

国際ビジネス法総合1B

International Business Law 1B

グローバルなビジネスを展開する上で最適な契約スキームの検討と交渉戦略を学ぶ ～具体的なビジネス事例を取上げながら～

石川 文夫 (ISHIKAWA FUMIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX324
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

企業がグローバルなビジネスを展開する上で必要な契約スキーム及び契約交渉について、まずビジネスの内容を理解し、その上で最適な契約を選択し、交渉のスタイルを学ぶ。具体的な契約例も可能な限り活用し契約書の文言の意味、役割も理解出来るようにする。

In this course, which aims to teach contract schemes and contract negotiations that are necessary for companies to do business on a global scale, the students will first understand the content of the business, then choose the contract that is most suitable for the business, and finally learn how to negotiate based on the contract. Court rulings on specific cases will be used as references so that the students will be able to understand the meanings and roles of the respective words used in contracts.

授業の内容 / Course Contents

現実に発生しているビジネス事案(講師作成のケース、報道されているケース等)を使用し、ビジネスの内容を理解しながら最適な契約スキームを考えて契約交渉についても講義の中で実践して見たい。

また、具体的な契約書を使用しながら契約書を読みながら契約条文が理解出来るようにする。

海外、国内問わず、弁護士さんなど有識者を招いた話(オンラインを含む)も聴く機会を設けたい。

Using examples of business situations currently observed (including those created by the lecturer and those covered by news reports), the students will consider the optimal contract scheme based on understanding of the business content and engage in simulated contract negotiations. The lecturer will teach them how to understand the meanings of the clauses contained in specific contracts. by reading contracts. The lecturer plans to invite both domestic and foreign lawyers and other specialists(including on line) as guest speakers.

授業計画 / Course Schedule

【1】:講師自己紹介、本講座の狙い、全体日程の説明等を含めた講義概要説明

【2】:契約書の位置付けと契約の種別説明、企業における基本的な業務フローの理解(ビジネスの発生から契約締結まで)特に、秘密保持契約については、モデル契約を使用しその役割を丁寧に説明する。

【3】:日本の契約と欧米の契約の考え方の相違と契約書の違いについての理解

【4】:知的財産(権)についての理解、ライセンスの理解

【5】:ビジネスを遂行する為に必要なコラボレーションの役割と理解

【6】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース1

【7】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース2

- 【8】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース3
- 【9】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース4
- 【10】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース5
- 【11】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース6
- 【12】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース7
- 【13】:専門分野の弁護士さんなど有識者を講義の中で(オンライン含む)参加していただき短時間で話をしていただきその後講義の中で意見交換を行う。(テーマは別途検討し最適な題材を選択する。)
- 【14】:これまでの講義の纏め

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義の復習はすること。予習については事前に講義の中で翌週の内容を話すので予習を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 講義における発言、態度、リアクションペーパーなど:20%

テキスト / Textbooks

石川文夫 『企業間コラボレーションを成功させる契約交渉の進め方』 中央経済社 2018 9784502259012

参考文献などは講義の中で適宜話しをする予定。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

企業社会で遂行されているビジネスの構造の理解に関心があり積極的に講義内容を吸収したい学生が参加することを期待する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

講義を休む場合で当該講義の配布資料が必要な場合には事前の欠席連絡と配布資料が必要な旨メールで事前に連絡をお願いします。かなり前の配布資料を突然欲しいと言われても対応が出来ない場合があります。よろしくお願いいたします。

国際ビジネス法総合2

International Business Law 2

早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX325
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「リーガルマインド」「ビジネスセンス」「国際的な素養」の三つを兼ね備えたグローバル化するビジネス社会に対応可能な人材を育成する。

Create human resources with legal mind, business skills and international sense for the coming globalized business community.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、「国際ビジネス法総合1A・1B」と対をなすものである。日本企業が海外でビジネス展開した際に生ずるトラブルの解決や、あるビジネスモデルの海外での実現のための契約スキーム構築といった業務を日夜行なっている実務家の方々を中心に、様々なゲストスピーカーに順に登壇してもらい、そうした問題が何故生じるのか、その背後にある各国の法制度の差異はどのようなものなのか、さらにその背後にある各国の文化や社会の差異はどのようなものなのか、実例を通じて、米国編、欧州編、アジア編の大きく三つに分けて、各人にわかりやすく解説してもらうことになる。

各授業の後半は、学生との間における質疑応答に充てられる。講義への積極的な参加が期待される。

A guest speaker appears in each session, who serves as an intermediary between Japan and another country. He or she provide his or her experiences which occur in the differences of culture, legal system and social system between the two countries.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 米国法文化論1
- 【3】: 米国法文化論2
- 【4】: 米国法文化論3
- 【5】: 米国法文化論4
- 【6】: 欧州法文化論1
- 【7】: 欧州法文化論2
- 【8】: 欧州法文化論3
- 【9】: 欧州法文化論4
- 【10】: アジア法文化論1
- 【11】: アジア法文化論2
- 【12】: アジア法文化論3
- 【13】: アジア法文化論4
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習としては、取り上げられる国やその法制度・文化などを事前に調べ、また、復習としては、その国でゲストスピーカーが直面した問題が何故生じたのか、その背後にある各国の法制度の差異はどのようなものなのか、さらにその背後にある各国の文化や社会の差異はどのようなものなのかにつき整理・考察することが望まれる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 課題10回:100%

テキスト / Textbooks

講義の中で適宜指示する

参考文献 / Readings

講義の中で適宜指示する

国際民事手続法

International Civil Procedure

安達 栄司(ADACHI EIJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX326
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際的な要素を含む民事裁判手続の基本原則を理解すること。

The aim of this course is for students to understand the basic principles, including international elements, of civil court procedures.

授業の内容 / Course Contents

国際民事手続法(国際民事訴訟、国際仲裁、国際倒産)について、近時の裁判例を紹介しながら、講義をする。

This course focuses on international civil litigation law, international insolvency law, and international arbitration law, with reference to recent court cases.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 国際民事訴訟法の全体像
- 【2】: 国際裁判管轄(1)
- 【3】: 国際裁判管轄(2)
- 【4】: 国際裁判管轄(3)
- 【5】: 送達
- 【6】: 証拠調べ
- 【7】: 手続は法廷地法によるの原則
- 【8】: 外国判決の承認執行(1)
- 【9】: 外国判決の承認執行(2)
- 【10】: 外国判決の承認執行(3)
- 【11】: 国際倒産法
- 【12】: 国際商事仲裁の意義
- 【13】: 仲裁判断の執行
- 【14】: 国際民事訴訟法の統一化、ハーグ条約、EU 法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考資料を読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

道垣内正人・中西康編 『国際私法判例百選[第3版]』 有斐閣 2021 9784641115569

嶋拓哉＝高杉直 『国際民事手続法』 勁草書房 2022 9784326451272

その他 / Others

講義資料は、グーグルドライブに掲載する。紙での配付はしない。

国際経済法1

International Economic Law 1

東條 吉純(TOJO YOSHIKUNI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX331
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン(全回) 発話を伴う授業を学内で受講 する場合は 8201(池袋キャンパ ス)、N851(新座キャンパス)の 利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づ き、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	国際経済法(4 単位)の単位修得者は履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

国境を越える企業の貿易・投資活動に対する主権国家の公的規制及びこれに対する国際法上の規律の仕組みを理解する。

This course aims to understand the public regulations of sovereign states on the cross-border activities of trade and investment and the mechanism of WTO and other international rules on them.

授業の内容 / Course Contents

主権国家は多様な国内政策目的を達成する手段として法的規制を行ってきたが、これら規制は国境を越える経済活動に大きな影響を及ぼす場合がある。経済のグローバル化の進展に伴って、こうした規制は様々な形で修正を迫られてきた。その最も重要な例の一つが第二次大戦以降の国際社会による貿易自由化への取り組みであり、その中心的存在が GATT・WTO 法の枠組みである。特に、WTO (世界貿易機関) の設立により、規律対象範囲は物品貿易からサービス貿易や知的財産保護にまで拡大され、さらに投資規制や競争政策に関する国際規律の形成も視野におかれている。それでは、このような国際規律は、主権国家の公的規制に対して、どのような正当性に基づき、何をどこまで実効的に義務づけるものだろうか。

本授業では、総論として国際経済法を学ぶ上で必要となる基本概念や基礎理論について説明した上で、WTO 法の全体構造と主要規律を中心に解説する。

Sovereign states enforce various regulations as a means of achieving a variety of domestic policy objectives, which can have a significant impact on cross-border economic activity. With the progress of economic globalization, these regulations have been forced to be amended in various ways. One of the most important examples is the efforts of the international community to liberalize trade since World War II, and its central existence is the framework of the GATT / WTO Law. In particular, with the establishment of the WTO (World Trade Organization), the scope of discipline has been expanded from trade in goods to trade in services and protection of intellectual property, and the formation of international discipline regarding investment regulation and competition policy is also being considered. Then, what is the legitimacy and what and how effectively does such international discipline control the public regulations of sovereign states?

In this course, it is explained that the basic legal concepts and theories necessary for studying international economic law and the overall structure and main discipline of the WTO law.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

- 【2】: 国際経済法の進展と WTO 法の基本構造
- 【3】: 関税譲許義務
- 【4】: 数量制限の一般的禁止
- 【5】: 最恵国(MFN)待遇
- 【6】: 開発途上国に対する特惠待遇 (S&D)
- 【7】: 内国民待遇原則(1)
- 【8】: 内国民待遇原則(2)
- 【9】: 正当化事由(1)
- 【10】: 正当化事由(2)
- 【11】: サービス貿易
- 【12】: 投資規制
- 【13】: 地域経済統合
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に随時指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% 予習課題, 授業への参加, 小テスト, 提出物等 (いずれも複数回):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

経済産業省『2023 年版 不公正貿易報告書』経産省 2024
 経済産業省『2024 年版 不公正貿易報告書』本文の URL
 (https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/tsusho_boeki/fukosei_boeki/report_2024/honbun.html)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

画面の大きな端末(授業時間中に情報検索を求めることがあるので, 画面 10 インチ以上のタブレット又は PC が望ましい)。安定的なオンライン接続環境で受講できること。

国際経済法2

International Economic Law 2

国際経済法上の諸問題

東條 吉純(TOJO YOSHIKUNI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX332
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	国際経済法(4 単位)の単位修得者は履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、WTO 協定を中心とする国際経済法ルールの基礎的な知識をもつ履修者を対象とした発展的なクラスであり、近年の国際経済法上の重要課題についてさらなる理解を深めることを目標とする。

This course is at an intermediate level, designed for those who have a basic knowledge international economic law including WTO Agreement. Students are expected to get deeper understanding on several important issues of international economic law.

授業の内容 / Course Contents

本科目は、国際経済法上の個別テーマについての講義、ゲストスピーカー講演、及び、履修者による発表によって構成される。各回の授業は、あらかじめ指定した予習教材(論文、エッセイその他の各種データ等)について各履修者が予習し事前に提出したコメント・質問を元に、各回テーマについての解説および予習教材の内容確認・全体討議を中心として進める(ゲストスピーカー講演の回も同様)。したがって、履修者は事前に指示された予習教材等について十分に予習を行い、各回の授業に臨むことを求められる。

また授業の後半には、各自の興味関心に基づき学習した内容の発表を行う。

本科目は、「国際経済法 1」で学修した内容を前提知識として、発展的な内容の学修を予定しているため、「国際経済法 1」を履修済みであることを踏まえて授業運営することに十分留意して履修登録を行うことが必要である。

This course consists of lectures on selected themes in international economic law, guest speaker talks on specific issues, and student presentations. Lectures and guest talks sessions will be followed by discussions among participants. So students are expected to read the assigned materials before each session, to participate in classroom discussion based on the reading assignment, and to prepare for a presentation individually or in groups (depending upon the total number of participants) at the latter half of the term.

This course is planned to cover advanced content based on the knowledge learned in "International Economic Law 1". Therefore, when registering for this course, students must take into account that the course will be run with the understanding that they have already taken "International Economic Law 1".

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション(自己紹介等)
- [2]: 国際経済法秩序の変容(1)
- [3]: 国際経済法秩序の変容(2)
- [4]: アジア地域経済統合と国際規律の新潮流(1)
- [5]: アジア地域経済統合と国際規律の新潮流(2)
- [6]: ゲストスピーカー(予定)
- [7]: 情報検索講習会

- 【8】:経済安全保障(1)
- 【9】:経済安全保障(2)
- 【10】:米中対立の諸相
- 【11】:デジタル貿易(1)
- 【12】:デジタル貿易(2)
- 【13】:グループ／個別報告(1)
- 【14】:グループ／個別報告(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習, および, 後半のグループ／個別報告に向けた準備作業

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 教室外学習(予習等):20% 授業への参加(発言・コメント等):50% 個別報告・発表:30%
履修者数次第で, 授業計画(とくに履修者の発表)が変更になることがありうる。

テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

経済産業省『2024 年版 不公正貿易報告書』
(https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/tsusho_boeki/fukosei_boeki/report_2024/honbun.html)

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本科目は、「国際経済法 1」で学修したことを前提知識として、発展的な内容の学修を予定しているため、「国際経済法1」を履修済みであることを前提に授業運営することに十分留意して履修登録を行うことが必要である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に必要に応じて情報検索を行うことになるので, 広い画面(目安として 10 インチ以上)のタブレット端末またはノート PC を持参すること

日本外交論

Diplomatic History of Japan
戦後日本を形作った対外関係

三浦 俊章(MIURA TOSHIAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX350
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代の日本外交のかかえる課題について包括的な知識を得る。あわせて主な二国間関係について歴史的な歩みを学ぶ。

To get a general picture of contemporary Japanese diplomacy from a historical perspective

授業の内容 / Course Contents

ジャーナリストとして30年以上にわたって日本の政治と外交取材してきました。冷戦の終結、同時多発テロとイラク戦争、中国の台頭…激動する内外情勢を第一線から報道する中で、たえず頭にあったのは、日本はどのような国であるべきか、日本は世界でどういう役割を担うべきかという問いでした。そうした問題意識を、歴史の文脈でとらえ直して、日本外交を論じたいと思います。

The lecturer is a journalist with 30 years' experience of covering Japanese politics and diplomacy. The course deals with such themes as the end of the Cold War, 9/11 and the war in Iraq, and the rise of China, on which the lecturer had hands-on experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入／外交とは何か
- 【2】: 日本外交の条件
- 【3】: 戦前の日本外交
- 【4】: 占領と講和
- 【5】: 冷戦と二つの分断国家
- 【6】: ナショナリズムと安保改定
- 【7】: 核兵器／恐怖の中の「平和」
- 【8】: 日米安保における沖縄
- 【9】: 米中接近と日中国交正常化
- 【10】: 韓国・北朝鮮と向き合う
- 【11】: 外交と民主主義／冷戦後の世界
- 【12】: 過去の克服
- 【13】: 外交と世論／ナショナリズムにどう向き合うか
- 【14】: まとめ／外交力強化のために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

プリント配布などによりテキストは使用しない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Power Point を利用した講義形式で、随時映像資料などを用いる。リアクションペーパーについては、次回の授業開始時に、全体的な講評を行います。

平和研究

Peace Studies

国際社会における戦争と平和

石田 淳 (ISHIDA ATSUSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX360
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際社会における平和の条件を理解するうえで必要な基礎知識と思考様式を身につける。

This lecture course is designed for students who would like to master basic knowledge and mode of thinking to understand the conditions of international peace.

授業の内容 / Course Contents

国際社会において、平和が歴史的にどのように制度化されてきたのかを政治学的に概観する。

This lecture course will overview the political logic in which international peace has been institutionalized over time.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:はじめにー国際政治学者の平和研究
○許容される武力行使と、許容されない武力行使の境界は明確か。
- 【2】:「棲み分け」の平和論
○制度とは何か。
○国際社会の脅威認識はなぜ変化するのか。
- 【3】:軍事力と平和
○軍備管理は可能か？
- 【4】:人の移動と平和
- 【5】:戦争の違法化ー両大戦間期の試み
- 【6】:平和の制度化ー国際連盟と国際連合
- 【7】:国際統合と平和ーヨーロッパ統合
- 【8】:戦争の違法化と経済制裁
- 【9】:国連憲章下の集団安全保障と平和活動
- 【10】:武力不行使体制ー原則と例外
- 【11】:国際社会における法の支配
- 【12】:保護する責任 (Responsibility to Protect)
- 【13】:国際刑事裁判ー平和と正義の相克
- 【14】:現状維持の平和と現状変更の平和
○平和論はなぜ分岐、競合するのか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの指定範囲につき、事前に一読し、事後に各自の理解を確認すること(各回あわせて約2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

石田淳ほか『国際平和論』有斐閣 2024 9784641149533

参考文献 / Readings

中西寛ほか『国際政治学』有斐閣 2013 9784641053786

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義関連資料(基本的に講義スライド)は Canvas LMS を通じて履修者と共有するので、必要に応じて PC 等を持参すること。

環境法1

Environmental Law 1

環境に関連する法制度を考える

小澤 久仁男(OZAWA KUNIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX371
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3500
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、環境問題に関して、法制度、学説、そして判例などを手掛かりにしつつ、その解決のための法制度を示すことができるようになることを最終的な目標としています。その上で、具体的な到達目標は次の通りとなります。

1. 環境法における基本原則を理解する。
2. 環境法を構成する諸法律を理解する。
3. 環境問題に関する判例の展開を理解する。

This lecture is designed to enable students to present a legal system for solving environmental problems, using the legal system, theories and case law as a starting point. The specific objectives of the course are as follows

1. to understand the basic principles of environmental law
2. to understand the laws that make up environmental law
3. to understand the development of case law on environmental issues

授業の内容 / Course Contents

本授業は、環境問題に関する法制度及び判例について取り上げていくことになります。具体的には、環境法という領域における制度が登場した背景や基本原則(第1回目～第3回目)、環境法という領域を構成する諸法律(第4回目～第13回目)、そして環境行政訴訟(第14回目)となります。これらのうち、諸法律や判例を分析していくことで、行政法の理解とも架橋していければと思っております。

This lecture will cover the legal system and case law relating to environmental issues. Specifically, the background and basic principles behind the emergence of the system in the area of environmental law (1st – 3rd), the laws that constitute the area of environmental law (4th – 13th) and environmental administrative litigation (14th) will be covered. By analysing the various laws and judicial precedents, I hope to bridge this with an understanding of administrative law.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 環境法の意義
- 【2】: 環境法の基本原則
- 【3】: 環境政策の手法
- 【4】: 環境基本法
- 【5】: 環境影響評価法
- 【6】: 水質汚濁防止法
- 【7】: 大気汚染防止法
- 【8】: 土壌汚染対策法
- 【9】: 循環基本法

- 【10】: 廃棄物処理法
- 【11】: 容器包装リサイクル法
- 【12】: 自然公園法
- 【13】: 地球温暖化対策法
- 【14】: 環境行政訴訟

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

講義形式で行います。また、参考資料を配布いたします。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布されることになる参考資料に目を通すようにし、授業後も簡単で良いので確認するようにしてください(14回×1時間程度)。また、知識を問う設問だけではなく、論述形式の試験も行う予定であるため、教科書も確認するようにしてください(30時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%
平常点割合

テキスト / Textbooks

大塚直『Basic 環境法(第4版)』有斐閣 2023 9784641233126
北村喜宣『環境法 第3版』有斐閣 2024 9784641151246
上記以外の教科書を用いても構いません。

参考文献 / Readings

大塚直・北村喜宣編『環境法判例百選(第3版)』有斐閣 2018 9784641115408

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

公法学の視点から、環境法1の授業を行っていくことになるため、行政法1の履修済が望ましい。また、行政法2についても、履修中・履修済であることが望ましい(但し、行政法1・2の知識については、必要に応じて解説をするようにいたします)。その他、環境問題をより深く理解するために、環境法2も履修することを推奨いたします。

その他 / Others

本科目につきましては、2025年度から担当となります。また、上記、授業計画につきましては、司法試験の環境法の試験範囲を念頭に置いたものとなりますが、少しでもご関心を持っていただけたら、担当者としては嬉しい限りです。

環境法2

Environmental Law 2

環境に関する法制度の概要／環境に関する民事紛争の解決

手塚 一郎 (TEZUKA ICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX372
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3500
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境法と呼ばれる法領域のうち、特に私法(民事法)分野について、その基礎を理解し、具体的な諸問題に対応するための知識を修得することが、この講義の到達目標です。

The objectives of this course are to specifically understand the fundamentals of the field of private law (civil law) within the legal area called Environmental Law and to acquire the knowledge to handle various specific problems.

授業の内容 / Course Contents

この授業では国内環境法に関する主要トピックをもれなく取り上げますが、その際に環境に関する私法上の紛争とその解決を主題とします。例えば、工場から排出された煤煙や廃水が周辺地域を汚染し、近隣住民に健康被害が生じた場合に提起される損害賠償請求や差止請求といった民事訴訟が主な検討素材となります。授業はテキストによる予習を前提として、事前に提示する資料に沿って行われます。

現代の環境法においては公法(行政法)分野の重要性が非常に高くなっていますので、トピックによっては公法分野の法制度・政策についても解説しますが、時間の制約から概要にとどまりますので、テキストや参考文献を活用しつつ自習によって補ってください。

なお、別科目である「環境法1」の内容と深く関連し、内容が重複する場合がありますが、相互に独立した科目であり、単独での履修が可能です。

This class will fully cover the primary topics concerning Environmental Law in Japan, but the main subjects at that time will be private law disputes about the environment and their resolutions. For example, the study materials will primarily consist of damage claims, injunctions, and other civil litigation raised in cases where smoke and wastewater is emitted from a factory, pollutes the surrounding region, and damages the health of nearby residents. Students will need to prepare in advance by reading the textbook, and classes will be conducted according to the lecture summary provided ahead of time.

The field of public law (administrative law) is becoming extremely important within contemporary environmental law, so an explanation of legal systems and policies within the field of public law will be provided depending on the topic. However, such explanations will be limited to an overview due to time restrictions, so please use the textbook and reference literature to supplement your studies on your own.

Furthermore, this course is deeply interconnected with the separate discipline of "Environmental Law 1", so the content may overlap at times, but they are independent courses that can be taken separately.

授業計画 / Course Schedule

【1】:環境法総論①歴史、体系、理念・原則
(テキスト1・2・3章)

【2】:環境法総論②主体、政策手法、紛争解決概論

(テキスト4・5・7章)

【3】: 私法上の紛争解決①不法行為法の基本事項

(事前配布資料)

【4】: 私法上の紛争解決②公害・環境訴訟と不法行為法理論

(事前配布資料)

【5】: 環境アセスメント

(テキスト6章)

【6】: 公害規制①大気汚染

(テキスト8章)

【7】: 公害規制②水質汚濁

(テキスト9章)

【8】: 公害規制③土壤汚染

(テキスト10章)

【9】: 循環管理(廃棄物処理を中心に)

(テキスト11章)

【10】: 化学物質管理

(テキスト12章)

【11】: 自然保護

(テキスト13章)

【12】: 都市景観の保護

(テキスト14章)

【13】: 地球温暖化への対処

(テキスト15章)

【14】: 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回共通の(最低限の)予習は、授業計画に記載したテキストの範囲(および/または、事前配布資料)を通読し、必要に応じて語句や条文の確認を行うことです。これを丁寧に行うと、毎回の予習には授業時間(100分間)と同程度の時間を要するはずです。

また、各回共通の(最低限の)復習は、授業計画に記載したテキストの範囲(および/または、事前配布資料)を予習と同様に通読するとともに、理解しきれていない部分がないかを確認することです。授業回によっては復習用資料を配布する場合もありますので、毎回の復習にも授業時間(100分間)と同程度の時間を要するはずです。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 小テスト:10%

テキスト / Textbooks

大塚直(編)『18歳からはじめる環境法(第3版)』法律文化社 2024 9784589043689

参考文献 / Readings

大塚直・北村喜宣編『環境法判例百選(第3版)』有斐閣 2018 9784641115408

大塚直・前田陽一・佐久間毅『民法6事務管理・不当利得・不法行為(有斐閣アルマ)』有斐閣 2023 9784641222069

授業では環境私法分野の主要な判決に言及しますが、それらを概観するには上記1のような判例集が便利です。また、本科目は民法(特に不法行為法)に基づく紛争解決を主要なテーマとしていることから、上記2のような不法行為法に関する参考書が授業内容の理解に役立ちます。

参考文献の購入は必須ではありませんが、不法行為法に関する標準レベルの参考書を用意して適宜参照するように心掛けてください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

履修にあたって民法(特に不法行為法)に関する基礎知識が求められます。民法の学修経験が乏しい場合、不法行為法に関する参考書を用いた事前学修や不法行為法を扱う科目の事前履修を強く推奨します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Web 上の各種システムや、文書作成や PDF 閲覧等のための一般的なアプリケーションを利用できる機器環境を用意してください。

その他 / Others

授業運営に Canvas LMS や Spirit Mail (Gmail) などの各種システムを利用します。また、資料等は原則としてデジタルデータとして Canvas LMS を通じて配布します。紙媒体が必要な場合には履修者自身がダウンロードして印刷し活用してください。

知的財産法

Intellectual Property Law

長谷川 遼 (HASEGAWA RYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX400
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX2500
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

著作権法と特許法を中心に、知的財産法を学びます。

The objective of this course is to learn about Intellectual Property Law with a focus on Copyright Law and Patent Law.

授業の内容 / Course Contents

知的財産法は、著作物や発明といった財産としての情報を扱う分野です。私たちの身の回りには、マンガや映画、お掃除ロボットやスマートフォンなど、様々な著作物や発明が溢れており、日々の生活を楽しく便利にしてくれています。こうした有益な情報を生み出す人々に、経済的対価を得るための仕組みを提供し、情報の創出を奨励するのが著作権法や特許法です。他方で、著作にしても発明にしても、創作活動は常に先人の業績の上に成り立ちます。そのため、単に権利を強化するだけでは、かえって後発の創作活動を委縮させてしまうことになりかねません。また、我々情報の利用者に不当に不便を強いるようでは、本末転倒です。そこで、どのように制度を設計し、いかにその制度を解釈すれば、適切なバランスを達成できるのかが問題となります。そして、この点を考究するのが著作権法学や特許法学なのです。講義では、これらの法分野に関する制度や議論を一通り学んでいきます。

Intellectual Property Law is a field which covers information such as literary works and inventions as assets. We are surrounded by an abundance of various original creative works and inventions such as comics and movies, cleaning robots, and smartphones that make our daily lives enjoyable and convenient. Copyright Law and Patent Law provide the people who create such useful information with a system to receive economic compensation that encourages the creation of such information. On the other hand, both original creative works and inventions always built on the creative activities of their predecessors. Therefore, simply strengthening rights would have the opposite effect of stunting later creative activities. Moreover, unfairly inconveniencing those of us who use such information would be putting the cart before the horse. Therefore, the questions of how to design the system, how to interpret that system, and how to achieve an appropriate balance become key issues. The fields of Copyright Law and Patent Law investigate these particular points. During the lectures, students will broadly study the systems and debates concerning these legal fields.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 知的財産法入門／著作権法入門
- 【2】: 著作財産権・著作者人格権の客体——著作物性1
- 【3】: 著作財産権・著作者人格権の客体——著作物性2
- 【4】: 著作財産権・著作者人格権の客体——著作物性3

- 【5】: 著作財産権・著作者人格権の客体——著作物性4
- 【6】: 著作財産権・著作者人格権の主体
- 【7】: 著作財産権の内容と保護範囲1
- 【8】: 著作財産権の内容と保護範囲2
- 【9】: 著作財産権の制限1
- 【10】: 著作財産権の制限2
- 【11】: 著作財産権の存続期間
- 【12】: 著作財産権を用いた収益活動
- 【13】: 著作者人格権の内容と制限
- 【14】: 救済1
- 【15】: 救済2
- 【16】: 特許法入門
- 【17】: 特許権の客体——特許要件1
- 【18】: 特許権の客体——特許要件2
- 【19】: 特許権の客体——特許要件3
- 【20】: 特許権の主体
- 【21】: 特許権の発生・消滅過程1
- 【22】: 特許権の発生・消滅過程2
- 【23】: 特許権の内容1
- 【24】: 特許権の内容2
- 【25】: 特許権の制限1
- 【26】: 特許権の制限2
- 【27】: 特許権の存続期間／特許権を用いた収益活動
- 【28】: 救済

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書や配布資料(裁判例)を用いた予習・復習が要求されます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

島並良・上野達弘・横山久芳 『著作権法入門〔第4版〕』 有斐閣 2024 9784641243811

島並良・上野達弘・横山久芳 『特許法入門〔第2版〕』 有斐閣 2021 9784641243507

参考文献 / Readings

前田健・金子敏哉・青木大也編 『図録 知的財産法』 弘文堂 2021 9784335358586

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法の基礎的な知識があると理解に資します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を利用します。

租税法1

Tax Law 1

個人課税(所得税、相続税)

浅妻 章如(ASATSUMA AKIYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX411
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

個人に課せられる所得税・相続税を体系的に勉強する。租税法の仕組みの概要を知る。特に、所得の操作ということについて、イメージできるようになる。法律と政策論との関わりを理解する。

The objective of this course is the systematic study of income tax and inheritance tax which are imposed on individuals. Students will understand an overview of the mechanisms of tax law. In particular, students will become able to have images in which how income is shifted. Students will understand the connection between laws and political discussions.

授業の内容 / Course Contents

概ね教科書に沿って、所得税・相続税を扱います。

租税法を勉強する意義は、大きく言ってふたつあります。実学の側面と公平の側面です。第一に、民法・商法等で幾つかの法形式を教わったことと思いますが、その法形式の選択次第では税負担が重くなったり軽くなったりすることがあります。納税者の立場からは、どのようにすれば余計な税負担を負わないようにすることができるかを、課税する方の立場からは納税者が租税を免れようとする時に何を考えているのかを、学ぶ必要があります。この実学の側面は、主に解釈・運用の場面に関わります。

第二に、税負担の配分は、どのようにするのが公平に適うかという哲学的な問いをも、租税法は含んでいます。何が公平かについて生の価値判断を述べることは法律家のよくするところではありませんが、公平について議論する際の考慮事項は、今後皆さんが主権者として政策決定に関わる際に知っておくべき事柄です。公平の側面は、主に立法論・政策論に関わります。

The class will generally follow the textbook and cover income tax and inheritance tax.

Studying tax law has significance for two major reasons. There is the practical aspect and the fairness aspect. First, students are expected to have learned legal forms in classes of Civil Law, Commercial Law and etc., and the tax burden can be increased or decreased depending on the selected legal form. From the standpoint of taxpayers, students have to learn how to not carry an excessive tax burden, and from the standpoint of the tax agency, students have to learn what taxpayers are thinking when they try to avoid taxation. This practical aspect is primarily concerned with interpretation and implementation.

Secondly, tax law also includes the philosophical inquiry how distributive fairness of tax burden is approached. Lawyers do not frequently state concrete value judgments about what is fair, but students should understand the matters under consideration in debating fairness when they are in charge of deciding policy in the future. The fairness aspect is primarily concerned with legislative and political discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】:1・2章租税法律主義

【2】:2章租税の手続

- 【3】:4章所得概念
- 【4】:4章課税単位
- 【5】:4章所得分類(譲渡所得)
- 【6】:4章所得分類(譲渡所得)
- 【7】:4章所得分類(給与所得等)
- 【8】:4章所得税と相続税の調整
- 【9】:4章収入金額・必要経費
- 【10】:4章所得の年度帰属
- 【11】:4章所得の人的帰属
- 【12】:4章マイナス項目
- 【13】:7 章相続税
- 【14】:7 章贈与税

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

租税法は、会計や税務ではなく【法学】の一つとして勉強するものですので、民法・会社法・行政法など、法学部の基本科目について履修済みまたは並行して履修しておくことが望ましいです。

初回授業を受ける前に教科書の 1 章 2 章を読んでおいてください。

各回の授業で、次の授業で扱う教科書の部分を指示しますので、読んでおいてください。

この授業では予習より復習に時間を割いてください。授業で理解しにくかったところなどについては <http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/sozeihou.html> が参考になると思います。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

中里実他『租税法概説 4 版』有斐閣 2021 9784641228191

参考文献 / Readings

金子宏『租税法 24 版』弘文堂 2021 9784335315558

中里実他『租税判例百選 7 版』有斐閣 2021 9784641115538

中里実他『租税法判例六法 6 版』有斐閣 2023 9784641001602

佐藤英明『スタンダード所得税法 4 版』弘文堂 2024 9784335359859

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法・商法・行政法といった七法科目を履修済みか並行して履修していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

租税法の条文はポケット六法等に載っていないので PC を持参することが望ましい。紙ならば中里実・増井良啓編『租税法判例六法 6 版』(有斐閣、2023 年)がお勧め。

その他 / Others

<http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/kakokougi.html> から過去問(司法試験審査委員であった期間を除く)を見ることができます。

租税法2

Tax Law 2

企業課税(法人税、付加価値税、国際課税)

浅妻 章如(ASATSUMA AKIYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX412
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

企業に課せられる法人税・消費税(講学上は付加価値税と呼ばれる)を体系的に勉強する。租税回避を勉強する。国際課税を勉強する。

The objective of this course is the systematic study of the corporation tax and consumption tax (also called a value-added tax in scholarly circles) which are imposed on enterprises. Students will study tax avoidance. Students will study international taxation.

授業の内容 / Course Contents

教科書の5章(法人税)、6章(消費税)、8章(国際課税)、2～3章(租税法の解釈等)を扱います。

租税法を勉強する意義は、大きく言ってふたつあります。実学の側面と公平の側面です。第一に、民法・商法等で幾つかの法形式を教わったことと思いますが、その法形式の選択次第では税負担が重くなったり軽くなったりすることがあります。納税者の立場からは、どのようにすれば余計な税負担を負わないようにすることができるかを、課税する方の立場からは納税者が租税を免れようとする時に何を考えているのかを、学ぶ必要があります。この実学の側面は、主に解釈・運用の場面に関わります。

第二に、税負担の配分は、どのようにするのが公平に適うかという哲学的な問いをも、租税法は含んでいます。何が公平かについて生の価値判断を述べることは法律家のよくするところではありませんが、公平について議論する際の考慮事項は、今後皆さんが主権者として政策決定に関わる際に知っておくべき事柄です。公平の側面は、主に立法論・政策論に関わります。

The classes will cover Chapter 5 (corporation tax), Chapter 6 (consumption tax), Chapter 8 (international taxation), and Chapters 2 through 3 (interpretation of tax law) in the textbook.

Studying tax law has significance for two major reasons. There is the practical aspect and the fairness aspect. First, students are expected to have learned several legal forms in classes of Civil Law, Commercial Law, and etc., and the tax burden can be increased or decreased depending on the selected legal form. From the standpoint of the taxpayer, students have to learn how to not carry an excessive tax burden, and from the standpoint of the tax agency, students have to learn what the taxpayers are thinking when they try to avoid taxation. This practical aspect is primarily concerned with interpretation and implementation.

Secondly, tax law also includes the philosophical inquiry how distributive fairness of tax burden is approached. Lawyers do not frequently state concrete value judgments about what is fair, but students should understand the matters under consideration in debating fairness when they are in charge of deciding policy in the future. The fairness aspect is primarily concerned with legislative and political discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】:5章法人税(益金)

- 【2】:5章法人税(損金1)
- 【3】:5章法人税(損金2)
- 【4】:5章法人税(同族会社)
- 【5】:5章法人税(出資・分配・組織再編成)
- 【6】:6章消費税(仕組み)
- 【7】:6章消費税(政策論)
- 【8】:8章国際課税(国際的二重課税)
- 【9】:8章国際課税(非居住者・外国法人に対する課税)
- 【10】:8章国際課税(居住者・内国法人に対する国際的二重課税の排除)
- 【11】:8章国際課税(移転価格・過小資本・過大支払利子)
- 【12】:8章国際課税(タックスヘイヴン)
- 【13】:2～3章租税行政過程・租税争訟
- 【14】:3章租税法の解釈(租税回避)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

租税法は、会計や税務ではなく【法学】の一つとして勉強するものですので、民法・会社法・行政法など、法学部の基本科目について履修済みまたは並行して履修しておくことが望ましいです。租税法1履修は必須要件ではありませんが、租税法1履修済みであることが望ましいです。

初回授業を受ける前に教科書の5章を読んでおいてください。

各回の授業で、次の授業で扱う教科書の部分を指示しますので、読んでおいてください。

この授業では予習より復習に時間を割いてください。授業で理解しにくかったところなどについては

<http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/sozeihou.html> が参考になると思います。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

中里実他『租税法概説4版』有斐閣 2021 9784641228191

参考文献 / Readings

金子宏『租税法24版』弘文堂 2021 9784335315558

中里実他『租税判例百選7版』有斐閣 2021 9784641115538

中里実他『租税法判例六法6版』有斐閣 2023 9784641001602

渡辺徹也『スタンダード法人税法3版』弘文堂 2023 9784335359255

佐藤英明・西山由美『スタンダード消費税法』弘文堂 2022 9784335359156

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法・商法・行政法といった七法科目を履修済みか並行して履修していることが望ましい。租税法1履修済みであることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

租税法の条文はポケット六法等に載っていないのでPCを持参することが望ましい。紙ならば中里実・増井良啓編『租税法判例六法6版』(有斐閣、2023年)がお勧め。

その他 / Others

<http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/kakokougi.html> から過去問(司法試験審査委員であった期間を除く)を見ることができます。

比較憲法

Comparative Constitutional Law

玉蟲 由樹(TAMAMUSHI YUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX420
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法の解釈・実践のあり方を、他国の憲法体制との比較のなかで検討し、日本国憲法の立ち位置や抱える問題などを明らかにするとともに、憲法学のより深い理解へとつなげる。

The objectives of this course are to examine the interpretation and ideal practice of Japanese Constitutional Law within the context of a comparison to constitutional systems in other countries and to clarify the position and problems faced by Japanese Constitutional Law while deepening the students' understanding of the study of constitutional law.

授業の内容 / Course Contents

憲法体制の歴史的展開をタテ系に、そして現在の国際的展開をヨコ系に、「タテ」と「ヨコ」の比較を念頭に置きつつ、人権論・国家組織論における主要問題をテーマとして憲法体制の比較検討を行う。従来の比較憲法学における主要比較対象国であったイギリス・アメリカ・ドイツ・フランスを中心に取り上げるほか、EU の動向、北欧・アジアの憲法体制も適宜取り上げることとしたい。

The classes will engage in a comparative review of constitutional systems to focus on the major problems in human rights theory and polity theory while keeping in mind a comparison of the vertical strands of the historical development of the constitutional system and the horizontal strands of contemporary international development. In addition to focusing on the countries which are typically used for comparison (England, America, Germany, and France) in conventional Comparative Constitutional Law, classes will also cover EU trends and constitutional systems in northern Europe and Asia when appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 比較憲法とは何か
- 【2】: 近代立憲主義の展開
- 【3】: 近代立憲主義から現代の憲法体制へ
- 【4】: 民主政原理
- 【5】: 権力分立原理
- 【6】: 議会と立法
- 【7】: 政府と執行・行政
- 【8】: 裁判所と司法
- 【9】: 違憲審査制
- 【10】: 基本権の保障
- 【11】: 自由権・防御権
- 【12】: 社会権
- 【13】: 政治参加の権利・手続的権利
- 【14】: 比較のなかの日本国憲法—現状と課題—

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義後に確認項目および次週の講義のための予習項目を指示するので、各自でそれらの項目を自習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 第1回小テスト:10% 第2回小テスト:10% 第3回小テスト:10% 第4回小テスト:10% 第5回小テスト:10%

テキスト / Textbooks

東裕・玉蟲由樹編『比較憲法』弘文堂 2019 9784335002410

参考文献 / Readings

初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集(第5版)』三省堂 2020 9784385313115

法政ゲートウェイ講義(公務入門)

Gateway to Law and Politics(Introduction to Public Service)
公務を切り口とした法学部での学修意義の理解とキャリア形成

橋本 賢二(HASHIMOTO KENJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX425
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が行政の仕組みや公務員の仕事への理解を軸としながら社会全体を見渡す視座を獲得し、大学での学修や様々な活動に向けた意欲と行動を喚起することである。

The goal of this class is to help students gain a perspective on society as a whole, based on an understanding of the structure of government and the work of public servants, and to stimulate their motivation and action toward their studies and various activities at the university.

授業の内容 / Course Contents

公務員制度や公務員に関連した論点や話題を取り上げながら、就職先としての公務員の魅力を伝えるとともに、社会課題を読み解き、解決に向かうために必要となる学修や行動につながるヒントを伝える。

While discussing issues and topics related to the public servant system and public servants, the course informs students of the attractiveness of public servants as a place of employment and provides hints that lead to the study and actions necessary to understand social issues and work toward solutions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 講義担当教員の紹介、本講義の目的、心構え
- 【2】: 公務の実践的理解
- 【3】: 公務の歴史的・理論的理解
- 【4】: 行政が直面する今日的社会的課題
- 【5】: 公務員の仕組み1(種類、倫理、モチベーション)
- 【6】: 公務員の仕組み2(勤務条件、昇進、給与、退職)
- 【7】: 公務員としてのキャリア形成
- 【8】: 採用試験の仕組み
- 【9】: 地方公務員の世界1(市町村)
- 【10】: 地方公務員の世界2(都道府県)
- 【11】: 国家公務員の世界1(地方機関)
- 【12】: 国家公務員の世界(本府省)
- 【13】: 国家公務員と地方公務員の異同
- 【14】: 本講義における学びを振り返る

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に提示する講義資料を予め通読し、不明点や疑問点を明らかにして講義に臨むこと(各2時間程度)。講義終了後、講義中に示した課題について、講義内容を踏まえた自分の考えを200字以上の文章でまとめ「Canvas LMS」を通じて提出すること(締切期限は講義を実施した週の土曜日23時59分(受信時)、各回2時間程度)。提出されたコメントペーパーをもって出席とする。

なお、講義内容を踏まえていない、又は、自らの考えを示していないと思われるコメントは、出席として扱わずに再提出を求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 13回のコメント提出:70% 最終レポート割合::30%

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

真淵勝『行政学新版』有斐閣 2020 9784641149359

宇野重規『実験の民主主義』中公新書 2023 9784121027733

随時、講義中に提示する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自分が知っていることや認識していることに対して、抽象的で曖昧な言葉で分かったつもりで片付けない能力

例え拙い言葉であっても、自分の思っていることや感じていることを素直な言葉で他者に伝えようとする能力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義中にアプリ等を使用するため、PC 又はスマートフォンを持参のこと

その他 / Others

学生へのメッセージ:ステレオ的な公務員像を打破して、21世紀に相応しい実践的な公務員像の再構成を試みると共に、法学部で学修することの意義を理解し、就職後にも生きるキャリア意識の形成にも資する唯一無二の講義を目指します。

注意事項(検索結果画面)

成績評価は合格・不合格のみとする。

法政ゲートウェイ講義(ビジネスとメディア)

Gateway to Law and Politics(Business and Media)

現役ジャーナリストによる時事解説と体験的・日本経済の解説

土屋 直也(TSUCHIYA NAOYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX426
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

就職して社会に出て行き、責任ある社会人になるための準備として時事問題に身近に接することができるように直近のニュースや政治経済問題の実例を挙げ、解説・分析していく。

The course will explain and analyze recent news and actual examples of political and economic issues so that students can become familiar with current affairs in preparation for getting a job, going out into the world, and becoming a responsible member of society.

授業の内容 / Course Contents

毎回、直近 1ー2 週間の時事問題を解説するほか、ビジネスや法、政治に関して知っておくべきテーマを講義します。時々、ゲストを招きます。過去の授業では、直前のニュース解説としてトランプ新政権の経済政策の特徴、日産・ホンダの統合破談、石破新政権の公約などについて取り上げました。重要テーマとして、日本銀行の政策の軌跡、日経平均株価の推移とその意味、変動制移行後の円・ドル相場の推移とトレンドが変化する際のイベントの検証、戦後最大の倒産だった日本航空の破綻とその特徴、そして再生などを取り上げています。生のニュースを通じて経済と政治・社会の姿を理解できるように解説します。

Each session will cover current events of the past week or two, as well as topics in business, law, and politics that you should know about. Occasional guests are invited.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【3】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【4】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【5】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【6】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【7】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【8】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【9】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【10】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【11】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【12】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など
- 【13】: 直前のニュース解説と重要テーマの解説など

【14】:総括**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ニュースをよく読むこと。復習もかねて授業で扱ったケースや関連する分野、興味をもった問題について各自調べることが期待される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席時の態度とコメントペーパー:40% 中間レポート:30% 最終レポート割合::30%

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項(検索結果画面)**

成績評価は合格・不合格のみとする。

法政ゲートウェイ講義(司法職入門)

Gateway to Law and Politics(Introduction to Legal Profession)

藤澤 治奈／濱野 亮(FUJISAWA HARUNA/ HAMANO RYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX427
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が弁護士、裁判官、検察官、司法書士、弁理士など司法関係専門職等および司法制度・法曹養成制度について基本的な理解を得て、司法職や司法関連機関への就職、予備試験合格、法科大学院への進学等に役立つ基礎知識や態度を身につけることを目標とする。

The objectives of this course are for students to gain a fundamental understanding of legal professions such as lawyer, judge, prosecutor, legal scrivener, and patent attorney as well as the judicial system and judicial officer training for the purpose of cultivating the fundamental knowledge and attitude which will help them find employment in the legal profession and law related institutions, pass the preliminary examination, and go on to law school.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、司法関連専門職等、司法制度、法曹養成制度に関する講義と、ゲストスピーカーをお招きする回から構成される。ゲストスピーカーをお招きする回では、主として本学法学部・本学法科大学院の OB・OG との質疑応答を通じて、法曹(弁護士・裁判官・検察官)、各種士業(司法書士、弁理士など)、会社法務部(企業内弁護士)などの仕事の魅力を伝えていきたい。

The classes will consist of lectures concerning law related professions, the legal system, and the judicial officer training system as well as sessions in which guest speakers will be invited. The guest speaker sessions will convey the appeal of working as a legal professional (lawyer, judge, public prosecutor), various professional occupations (legal scrivener, patent attorney, etc.), and in corporate legal departments (in-house corporate lawyer) through Q&A sessions primarily with graduates of the university's College of Law and Politics undergraduate and graduate school programs.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス: 講義の進め方の説明

【2】: 法専門職について(濱野)

【3】: 弁護士の仕事(1): ゲストスピーカー1

なお、第3回以降のゲストスピーカーの日程については現在調整中であり、以下は仮の日程である。

【4】: 司法修習: ゲストスピーカー2

【5】: 弁護士の仕事(2): ゲストスピーカー3

【6】: 弁護士の仕事(3): ゲストスピーカー4

【7】: 弁護士の仕事(4): ゲストスピーカー5(企業法務部)

【8】: 法学学習の基礎知識(藤澤)

【9】: 司法書士の仕事: ゲストスピーカー6

【10】: 弁理士の仕事: ゲストスピーカー7

【11】: 裁判官の仕事: ゲストスピーカー8

【12】: 裁判所書記官の仕事: ゲストスピーカー9

【13】:検察官(検事)の仕事:ゲストスピーカー10

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業終了後、Canvas LMS の「課題」に、①授業の内容、②感想・意見・疑問、③次回のゲストへの質問を分けて、①と②それぞれ 400 字以上でまとめ、③は必ず一つの質問を書き、全体を 1 本のファイルとし、ワードまたは PDF ファイルで提出すること。授業の資料は必要に応じて Canvas LMS の「教材」にアップロードするので、事前にダウンロードあるいはプリントアウトして授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の Canvas LMS による提出物:70%

最終レポート割合::30%

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト / Textbooks

資料を Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

村山眞維・濱野亮『法社会学 第3版』有斐閣 2019

市川正人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判 第7版』有斐閣 2017 9784641220959

佐藤岩夫・濱野亮編『変動期の日本の弁護士』日本評論社 2015 9784535520967

中央大学真法会編『裁判官・検察官・弁護士の仕事』法学書院 2010 9784587621001

石田武臣・寺町東子編著『弁護士っておもしろい!』日本評論社 2017 9784535522862

千原曜・日野慎司『弁護士の仕事』中央経済社 2017 9784502242113

田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート[第2版]』有斐閣 2019 9784641126114

その他 / Others

毎回の授業内容・感想の締切期限内の未提出が3回を超える場合、または欠席が3回を超える場合(正当な理由のない遅刻、早退は欠席とする)、原則として不合格とする。最終レポートを期限内に提出しない場合も、不合格とする。

ゲストスピーカー(本学の OBOG)には、多忙にもかかわらず後輩のためにと登壇していただいているので、失礼のないように真剣に受講できる学生のみ参加されたい。

注意事項(検索結果画面)

成績評価は合格・不合格のみとする。

法政ゲートウェイ講義(金融入門)

Gateway to Law and Politics(Introduction to Finance)

藤澤 治奈／河村 賢治／三橋 葉子(FUJISAWA HARUNA/ KAWAMURA KENJI/ MITSUHASHI YOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX429
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、履修者が、金融とは何かについて、基礎的な理解を得ることを目標としています。また、さまざまな金融機関の役割について学び、キャリア形成の手がかりを得ることを目指します。

The objective of this course is for students to gain a basic understanding of what finance is. This course also aims to help students to take a cue towards their career building, through learning the roles of various financial institutions.

授業の内容 / Course Contents

立教大学法学部の卒業生が最も多く就職する業界の 1 つが、金融・保険業界です。ところが、「金融」とは一体何なのか、それぞれの金融機関の役割がどのようなものなのかは、イメージしづらいものでもあります。そこで、この授業では、金融に関する法ルールの基礎を講義しつつ、金融業界に興味のある学生が、具体的なキャリアプランを描くために、これからの 4 年間、法学部でどのような学修をすればよいのかをお伝えします。また、多くのゲストスピーカーをお招きし、金融業界の現状や実際の仕事内容について、分かりやすくお話いただきます。

One of the industries where the largest numbers of graduates from the College of Law and Politics, Rikkyo University find employment is the financial and insurance industries. However, it is not easy to imagine what “finance” is and what roles are played by different financial institutions. This course will give lectures about basics of legal rules related to finance, while providing students who are interested in the financial industry with guidance on what academic studies they should pursue in the College of Law and Politics over the coming four years, in order for them to make specific career plans. In addition, many guest speakers will be invited, who will give easy-to-understand lectures about the current situation of the financial industry and what they actually do in their jobs.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス・金融とは何か

【2】: 私たちにとっての金融

(なお、以下の授業は、ゲストスピーカーの都合等により、順番が入れ替わる可能性がある)

【3】: 金利と経済

【4】: さまざまな金融機関

【5】: 銀行とは何か

【6】: ゲストスピーカー①

【7】: 証券の役割

【8】: ゲストスピーカー②

【9】: ゲストスピーカー③

【10】: 保険とは何か

【11】: ゲストスピーカー④

【12】: 決済とは何か

【13】:ゲストスピーカー⑤

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習:教員により指定された文献を読んでください

復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のリアクションペーパー:70% 最終レポート割合::30%

成績評価は合格・不合格のみとする。

最終レポートを提出しなかった履修者は、その他の課題を全て提出していたとしても、不合格とする。

テキスト / Textbooks

授業中に適宜指示します。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付およびリアクションペーパーの提出は、CanvasLMS 通じて行います。

注意事項(検索結果画面)

成績評価は合格・不合格のみとする。

国際ビジネス法総合・基礎

Introduction to International Business Law

国際ビジネス法の基礎知識を習得する

小川 和茂(OGAWA KAZUSHIGE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX431
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	(旧科目名:法学特殊講義(国際ビジネス法総合・基礎))		

授業の目標 / Course Objectives

国際的な民間企業間の売買契約を中心として、国際ビジネス法の基礎を養う。国際ビジネス法総合 1A・1B への導入的な位置付けでもある。

The objective of this course is to learn the fundamentals of international business law with a focus on sales agreements between international private companies. This course is also positioned as an introduction to International Business Law 1A and 1B which are assigned during the third and fourth years.

授業の内容 / Course Contents

社会のグローバル化が進展し、人々の交流や物流が盛んになったといわれるが、実際には依然として国境は存在するし、国家単位で適用される法は異なる。グローバル社会においては、国家のほかさまざまな国際機関も存在し、これらがルール形成をすることがある。

人々の交流が盛んになることによって、これまではある程度同一の価値感を有していた社会も変容している。そうすると、同一の価値感や慣習を有していたグループにおいてはなんとなく解決できていたトラブルも解決が困難となる。

以上の様な背景を前提に、企業が国際的なビジネスを行う際に法がどのように活用されているのかを3年次以降の国際ビジネス法総合で学ぶことになるがその導入として、国際契約法、紛争解決などに関する基礎知識を養い、国際ビジネス法総合と並行してどのような法分野を学ぶべきかを提示できればと考えている。

具体的には、民間企業間の物品売買取引を中心として、具体的な事例を使いつつ解説をするのみではなく、トラブルを解決あるいは予防するための法的な手段を履修者にも検討してもらう。

この授業が終わる頃には、想像した以上に国際的なビジネスに関係する法分野が多岐に渡ること気付くだろう。

While it is said that the globalization of society is advancing and the exchange of people and goods has increased, in reality national borders still exist as they did before, and the laws which are applied differ according to each nation. In a global society, various international organizations also exist in addition to the state, and they are sometimes also involved in rule formation.

As a result of the increasing exchange between people, societies which used to possess the same overall sense of values are also changing. Correspondingly, problems which somehow used to get resolved within groups with the same values and customs are becoming difficult to resolve.

Based on the background situation described above, students starting from the third year learn how the law is utilized when companies engage in international business in International Business Law, and this course serves as an introduction to cultivate fundamental knowledge about international contract law and dispute resolutions to make suggestions to students about what fields of law they should study in parallel with International Business Law.

More specifically, this course will not only provide an explanation of international business law using specific case

studies with a focus on transactions concerning the sales of goods between private companies, but students will also examine legal means of resolving or preventing problems.

By the time this class ends, students will likely realize that the legal field pertaining to international business is more wide-ranging than they imagined.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 国際ビジネスの全体像と法の役割
- 【3】: 国際的なビジネスを行う企業の法務部門はどのようなことをしているのか
- 【4】: 国際取引に適用される法規範 1 私法
- 【5】: 国際取引に適用される法規範 2 公法
- 【6】: 国際取引に適用される法規範 3 国際法
- 【7】: 具体的なビジネスを素材に法の役割を考える 1
- 【8】: 国際物品売買契約 1
- 【9】: 国際物品売買契約 2
- 【10】: 国際代金決済
- 【11】: 国際運送
- 【12】: 裁判による国際ビジネス紛争の解決 1
- 【13】: 裁判による国際ビジネス紛争の解決 2
- 【14】: 具体的なビジネスを素材に法の役割を考える 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストや関連資料を熟読し、設問等をあらかじめ解いた上で授業に臨むことが前提となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :55%
平常点割合 :45% リアクションペーパー・発言内容・小課題など:45%

テキスト / Textbooks

早川吉尚＝森下哲朗編『国際取引法入門』有斐閣 2024 9784641046986
森下哲朗＝平野温郎＝森口聡＝山本卓『ケースで学ぶ国際企業法務のエッセンス』有斐閣 2017 9784641046795
適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

講義の中で適宜指示する。

政治学特殊講義(「露宇戦争」の多角的分析)

Special Lecture on Politics (Russia-Ukraine War: Diverse Perspectives)

井出 敬二 (IDE KEIJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX448
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

冷戦終結後の共産主義諸国の移行の中でロシア・ウクライナ戦争へと至った経緯、国家の「起源」など歴史認識の問題、旧ユーゴスラビア紛争との比較、戦争の国際的なインパクト、中国の立場、武力行使・戦争犯罪などについての国際法からの考察など、幅広い観点から理解することを目標とする。

To understand the history/background and the impact of Russia-Ukraine War as well as relevant international law from diverse perspectives.

授業の内容 / Course Contents

ロシア・ウクライナ戦争を題材にして、(1)両国の歴史(含む正教、歴史認識)、(2)冷戦終結後の共産主義諸国の移行の諸問題(旧ユーゴスラビアについても説明する)、(3)国際法の発展の中で位置づけ、国際社会の反応、(4)中国、北朝鮮の反応、アジアにとってのインパクト、を説明する。

The lectures cover the history of Russia and Ukraine, issues of former Communist countries (after the end of the Cold War) as well as the reaction of each country/regions (US, Europe, former Soviet Union countries, China, DPRK other Asian countries) and the international community (such as the United Nations and the International Criminal Court).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、ロシア・ウクライナ関係概観
- 【2】: ロシア・ウクライナの歴史(キエフ・ルーシ〜近代)、国家の「起源」と民族をめぐる論争
- 【3】: 2つの大戦、冷戦、冷戦の終結、国際法の発展
- 【4】: ユーゴスラビア解体とソ連邦解体(その経緯、解体に伴う諸問題、2事例の比較)
- 【5】: ソ連邦解体後のウクライナ(内政と対外関係)
- 【6】: グローバリゼーション、NATOとEUの拡大、ロシア側の認識
- 【7】: 正教(歴史、特徴)
- 【8】: ロシア・ウクライナ戦争と停戦交渉
- 【9】: アジア諸国等へのインパクト(旧ソ連諸国、中国、北朝鮮、他)
- 【10】: 戦争に関する国際法
- 【11】: 国際社会の反応(国連、経済制裁)
- 【12】: 外部講師による講演(ロシア・ウクライナに詳しい元外交官)
- 【13】: 外部講師による講演(ロシア・ウクライナに詳しいジャーナリスト)
- 【14】: まとめ、今後の展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から新聞、テレビ・ニュースなどに目を通していただきたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 授業への参加:25% 授業内に指示した提出物:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

服部倫卓、他 『ウクライナを知るための 65 章』 明石書店 2018 9784750347325

プロヒー、セルヒー 『ウクライナ全史』 明石書店 2024 9784750357911

浅田正彦、玉田大 『ウクライナ戦争をめぐる国際法と国際政治経済』 東信堂 2023 9784798918228

栗生沢猛夫 『キエフ・ルーシ断章ーロシアとウクライナの歴史家はどう考えてきたか』 大月書店 2024 9784865200676

松里公孝 『ウクライナ動乱ーソ連解体から露ウ戦争まで』 筑摩書房 2023 9784480075703

倉井高志 『世界と日本を目覚めさせたウクライナの「覚悟」』 PHP 研究所 2022 9784569852430

角茂樹 『ウクライナ侵攻とロシア正教会』 KAWADE 夢新書 2022 9784309504391

プーチン、ウラジーミル、『プーチン重要演説集』、星海社、2023

大前仁、『ウクライナ侵攻までの 3000 日:モスクワ特派員が見たロシア』、毎日新聞出版、2023

政治学特殊講義(パブリック・マネジメント論)

Special Lecture on Politics (Public Management)

現代行政の実態と課題を学ぶ

箕浦 龍一(MINOURA RYUICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX449
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国の行政の仕組みを、政治との関係や国・地方の関係を含め、実態に即した理解を得ることを狙いとする。

The aim is to obtain an understanding of the actual situation regarding the administrative system of the country, including its relationship with politics and the relationship between the national and local governments.

授業の内容 / Course Contents

国の政策立案のプロセスや運営のための仕組みを、様々な角度から実体的に学ぶ講座とする。

まずは、国の行政の担い手である国家公務員(官僚)の実像のイメージを持つところからスタートし、続いて、内閣を構成する政治家との関係、政府内の調整プロセス、国会との関係、執行等をつかさどる独立行政法人等との関係や、近年問題となった公文書管理や情報公開の仕組み、政策評価の意味などを順次概観する。

加えて、社会課題解決の最前線に置かれている地方公共団体の機能や役割についても理解を深める。

教科書は特に指定しないが、ある程度の基礎的な視座を以って授業に臨みたい者には、参考図書で挙げた 2 点を推奨する。(授業では用いないので、必ずしも購入の必要はない。)

The course aims to provide a practical understanding of the mechanisms for policy planning and operation in the national government from various perspectives. Starting with an image of the actual state of national civil servants, who are the driving force behind the administration of the country, the course will then sequentially outline the relationship with politicians who make up the cabinet, the adjustment process within the government, the relationship with the National Diet, the relationship with independent administrative agencies that oversee execution, and the mechanisms for document management and information disclosure that have become issues in recent years, as well as the meaning of policy evaluation. In addition, the course will deepen understanding of the functions and roles of local governments, which are at the forefront of solving social issues.

Although there is no specific textbook required, for those who wish to approach the lessons with a basic understanding, I recommend the two reference books mentioned (they are not used in class, so purchasing them is not mandatory).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス～国/地方の行政の課題を身近に知る
- 【2】: 公務員の人事制度(1)
- 【3】: 公務員の人事制度(2)
- 【4】: 政官関係(1)(政治と行政)
- 【5】: 政官関係(2)(国会審議、与野党事前審査)
- 【6】: 省庁間調整(行政府内部の政策立案過程)
- 【7】: 予算管理と行政管理(機構・定員管理、級別定数など)
- 【8】: 行政改革

- 【9】:政策の評価
- 【10】:特殊法人・独立行政法人・公益法人等
- 【11】:情報公開と公文書管理
- 【12】:デジタル時代の行政の方向性
- 【13】:地方の行財政と地方創生
- 【14】:「公務」「公共」が直面する壁と、民主主義の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

単位を取ることで自分が大学での学びの目的ではないので、授業の内容に限らず、一人の国民・住民として、日頃の社会での事象や政治・行政、公共問題に広く関心を持ち、授業で学ぶことと重ね合わせながら、自律的に考えたり仮説を立て、調べ、検証するなどの思考態度を習慣づけるようにしていただきたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における参加度:40% 講義での質問、発言など授業態度:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

教科書は、特に指定しない。各回の講義資料(授業後にデータで配付)を読めば足りる。

参考文献 / Readings

原田久『行政学』法律文化社 2022 4589041952

曾我謙悟『日本の地方政府』中公新書 2019 4121025377

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

通常の日本語能力

政治学特殊講義(政治とマスメディア)

Special Lecture on Politics (Politics and Mass Media)

インターネット時代における政治と(マス)メディアについて考える

大森 翔子(OMORI SHOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX450
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	担当教員用務のため、第4回・第8回・第11回はオンライン講義の予定です。詳細は授業時に指示します。
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3600
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. マスメディアについて、基礎的なシステムの構造と諸理論を把握し、説明できるようになる。
2. インターネット時代における政治とメディアの関係が抱える諸問題、今後の発展可能性について説明・考察できるようになる。
1. Students will be able to understand and explain the basic structure and theories of the mass media.
2. Students will be able to explain and consider the various issues and future possibilities for the relationship between politics and the media in the internet era.

授業の内容 / Course Contents

マスメディアは現代社会において「第4の権力」と呼ばれるほど大きな役割を果たしているとされます。他方で、インターネット時代においては人々のマスメディアへの接触が激減したという見方が強い状況にあります。そのような状況下において、政治とマスメディアはどのような関係にあるのでしょうか。

本講義では、序盤に、マスメディアのシステムに関する諸理論を解説します。中盤では、マスメディアが人々に与える影響についての学説であるメディア効果論を学びます。終盤では、インターネット時代におけるメディアの現状に関する議論を紹介し、今後の政治とメディアのあり方について考察を深められることができるよう解説を行います。

The mass media is said to play such a large role in modern society that it is referred to as the “fourth power”. On the other hand, there is a strong view that people’s contact with the mass media has decreased dramatically in the internet age. In such a situation, what is the relationship between politics and the mass media?

In this lecture, we will begin by explaining various theories related to the mass media system. In the middle, we will study media effect theory, which is a theory about the influence of the mass media on people. In the final part, we will introduce a discussion about the current situation of the media in the Internet age, and explain it in a way that will enable students to deepen their consideration of the future of politics and the media.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 本講義の射程
- 【2】: マスメディアのシステム(1): 2020 年代の政治情報環境とマスメディア
- 【3】: マスメディアのシステム(2): 経済構造
- 【4】: マスメディアのシステム(3): 政治体制との関係
- 【5】: (マス)メディア効果論(1): 強力? な効果論
- 【6】: (マス)メディア効果論(2): 限定効果論

- 【7】: (マス)メディア効果論(3):新強力効果論
 【8】: (マス)メディア効果論(4):インターネットの発達と最小効果論
 【9】: マスメディアのインターネット進出
 【10】: 選挙とメディア
 【11】: インターネットメディアと世論の分極化
 【12】: インターネットメディアと偽・誤情報の伝播
 【13】: インターネットメディアは政治知識・政治参加の格差を縮小させるのか?
 【14】: まとめ・インターネット時代における政治とマスメディアの今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布するスライド・履修者自身がとるノートを活用して、予習復習を行ってください。教員から指定された場合には、予習として文献を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパーの内容:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

谷口将紀『政治とマスメディア』東京大学出版会 2015 4130321307

善教将大『政治意識研究の最前線』法律文化社 2025 9784589043788

大森翔子『メディア変革期の政治コミュニケーション:ネット時代は何を変えるのか』勁草書房 2023 9784326603589

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回の授業ではスライドのファイルを配布するので、ダウンロードをし、授業中に紙・電子媒体でアクセスできるようにしてください。また、毎回の授業でオンラインシステムを通じてリアクションペーパーを提出することが求められるので、提出可能な電子機器を準備してください。

その他 / Others

受講生の皆さんが日常でメディアを利用する中、あるいは政治とメディアの関係を考える中で生じている疑問などをぜひ教えて欲しいと考えています。受講生の関心や理解度によって内容の変更もあり得ます。

少年法

Juvenile Law

後藤 弘子(GOTO HIROKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX455
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

少年法は、少年であることを理由とした特別扱いを規定している法律である。その法律がどのような内容なのか、少年の手続と成人の手続はどのように異なるのか、少年法の改正はなぜ、どのような形で行われてきたのかなど、少年法の理念、手続について理解することを目的とする。

Juvenile law is a special law which treats juveniles differently because of minors. The purpose of this class is to understand the principle of juvenile justice and procedure. I will focus on the differences between adult criminal justice and juvenile justice and the reason of juvenile law reforms.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、20歳未満の非行少年に対する特別な手続を規定している少年法について、その理念、内容、少年事件の手続の流れ、家庭裁判所における少年に対する審判、処分について学ぶ。加えて、少年非行の動向やこどもと法についても学ぶ。

In this class you will learn the following topics on juvenile law : the principle of juvenile law, the juvenile law statutes, juvenile law procedure, juvenile hearing and disposition in Family Court. Additionally, you will learn about recent trend of juvenile delinquency and child and law.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 少年法入門: 非行少年とは誰か
- 【2】: 少年法の理念と少年司法手続の流れ
- 【3】: 少年法の改正(1)
- 【4】: 少年法の改正(2)
- 【5】: 少年犯罪と犯罪被害者
- 【6】: 少年事件の捜査と身柄
- 【7】: 少年保護事件と調査
- 【8】: 少年保護事件と少年審判
- 【9】: 付添人の役割
- 【10】: 少年保護事件とその処分(1)
- 【11】: 少年保護事件とその処分(2) 少年院とはどのようなところか
- 【12】: 少年の刑事事件
- 【13】: 少年事件と死刑
- 【14】: 推知報道の禁止と少年法の理念

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

場合によっては, 指定する文献や本を前もって読むことも求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% レポート:20%

テキスト / Textbooks

守山正・後藤弘子 『ビギナーズ少年法第3版補訂版』 成文堂 2022

川出敏裕 『少年法第2版』 有斐閣 2022

参考文献 / Readings

川出敏裕 『少年法判例百選(第2版)』 有斐閣 2024

河原俊也 『実例少年法』 青林書院 2023

季刊刑事弁護増刊 『少年事件ビギナーズ ver.2,1』 現代人文社 2023

廣瀬健二 『少年法』 岩波新書 2021

田宮裕・廣瀬健二 『注釈少年法(第5版)』 有斐閣 2024

法学特殊講義(ITと法)

Special Lecture on Law(IT and Law)

法学特講(ITと法)／Special Lecture on Law(IT and Law)

清水 音輝(SHIMIZU OTOKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX456
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3500
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日々発展が目覚ましい IT 分野における法令や規制の基本事項を理解することを目標とする。特にブロックチェーンに関する分野を取り上げ、技術の進歩により法令の整備が追いついていない状況において、どのような法的手当や実務上の対応が行われているか、また、行うべきかについても学んでいく。

This course will provide you with an understanding of the fundamental legal and regulatory issues in the IT field, which is developing rapidly every day. In particular, the course will focus on areas related to blockchain and learn what legal and practical responses are being made or should be made when laws and regulations have not kept pace with technological advances.

授業の内容 / Course Contents

決済・ブロックチェーンに関する現実世界の事例をベースに、法令や規制の適用関係や、具体的な法的課題を理解できるようにする。これらの分野について、民間企業、規制当局、業界団体、立法府その他の関係者が課題解決に向けてどのように取り組んでいるか、また取り組むべきかについても、実際の事例をベースに学んでいく。必要に応じて、当該分野を専門的に取り扱っている弁護士ないし上場企業における実務家等の専門家を招いて話を聞く機会を設ける。

This course will be based on real-world cases related to payments and blockchain to help you understand laws, regulations, and specific legal issues. You will also learn how private companies, regulators, industry associations, and legislatures in these areas are and should be working to resolve problems. This course will invite lawyers specializing in these areas or practitioners at publicly listed companies.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 序論・ガイダンス～本講義の目的と概要
- 【2】: 決済に適用される法律について 資金決済法の概要
- 【3】: ブロックチェーンと契約① スマートコントラクトの概要について
- 【4】: ブロックチェーンと契約② ブロックチェーン上の資産にかかる規制
- 【5】: ブロックチェーンと契約③ ブロックチェーン上の資産にかかる規制その2
- 【6】: ブロックチェーンと契約④ ブロックチェーンを通じた取引の基本
- 【7】: ブロックチェーンと契約⑤ 分散型金融の概要
- 【8】: ブロックチェーンと契約⑥ 特殊な契約形態について
- 【9】: ブロックチェーンと決済の実務① ステープルコインの概要
- 【10】: ブロックチェーンと決済の実務② 金融ライセンスを取得するために求められる態勢
- 【11】: ブロックチェーンと決済の実務③ 金融ライセンスを取得するために求められる態勢その2
- 【12】: ブロックチェーンと決済の実務④ 規制当局との対話について
- 【13】: ゲストスピーカーの講演① 上場企業と先端テクノロジー分野の付き合い方について

【14】:ブロックチェーンと決済の実務⑤ ロビーイングについて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各講義後には復習をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

清水 音輝・荒巻 陽佑 『スマートコントラクトの仕組みと法律』 中央経済社 2023 9784502462214

参考文献 / Readings

堀 天子 『実務解説 資金決済法〔第5版〕』 商事法務 2022 9784785729332

法学特殊講義(国際環境法)

Special Lecture on Law(International Environmental Law)

国際環境法

許 淑娟(HUH SOOKYEON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX457
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際環境法の原則および概念の理解を深め、代表的な多国間環境条約の特徴について説明できる。

The goal of this course is to help students to understand the key principles and concepts of international environmental law and to explain their characteristics and basic architectures of several multilateral environmental treaties.

授業の内容 / Course Contents

国際環境法の入門科目である。地球規模の環境問題の特徴と規制の必要性を認識し、国際環境法の基本原則および基本概念を学ぶ。基本原則及び基本概念としては、持続可能な開発、予防原則・予防アプローチ、世代間衡平、共通だが差異ある責任、人類共通の遺産などが含まれる。また、授業の後半では、具体的な環境事例および多国間環境条約を個別に検討する。気候変動や、オゾン層、生物多様性、海洋汚染、希少動植物保存、有害廃棄物の越境移動などである。

国際法 1 および 2 を履修していない者は、履修前に、国際法の教科書を入手して目を通しておくことを強く推奨する。

This course is designed to provide an introduction of International environmental law, It will survey the basics of international environmental law, beginning with an overview of global environmental challenge and core legal principles including sustainable development, precautionary principle/approach, intergenerational equity, common but differentiated responsibility, common heritage of mankind. It will cover several legal regimes such as climate change, ozone layers, biodiversity, marine pollution, CITES, trans-boundary pollution.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 国際法の法源
- 【2】: 国際環境法の形成と展開
- 【3】: 国際環境法の基本原則および基本概念(1)
- 【4】: 国際環境法の基本原則および基本概念(2)
- 【5】: 国際環境法の基本原則および基本概念(3)
- 【6】: 国際環境法の基本原則および基本概念(4)
- 【7】: 国際環境法の基本原則および基本概念(5)
- 【8】: 国際環境法の基本原則および基本概念(6)
- 【9】: 個別の環境条約・環境事例(1)
- 【10】: 個別の環境条約・環境事例(2)
- 【11】: 個別の環境条約・環境事例(3)
- 【12】: 個別の環境条約・環境事例(4)
- 【13】: 個別の環境条約・環境事例(5)
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワーポイント等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回予習のための教科書、論文、サイトを指定する。

予習していることを前提として、双方向式の講義を行う。授業中に示された理解や参加の度合い、授業後のコメントや質問が平常点として評価される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の質問コメント:20% 授業中の発言等:20%

テキスト / Textbooks

教科書・参考書については、初回授業時に指定する。初回時には、国際法1および2 で使った教科書を参照すること。国際法 1 および 2 で使われる教科書は、本シラバスの参考書の欄に示すが、それ以外の国際法の概説書でも構わない。

参考文献 / Readings

岩沢雄司『国際法』2023 東大出版会

西村弓ほか『国際法』2011 有斐閣

浅田正彦ほか『国際法(第四版)』2019 東信堂

中谷和弘ほか『国際法(第四版)』2021 有斐閣

教科書・参考書については、初回授業時に指定する。初回時には、国際法1および2 で使った教科書を参照すること。なお、国際法 1 および 2 で使われる教科書・参考書は、本シラバスの参考書の欄に示すが、それ以外でも構わない。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

地球環境問題に関する関心、ニュースや新聞を毎日チェックすること、質問を作り出す能力

その他 / Others

以下を視聴すること。

https://youtu.be/uynhvHZUOOo?si=AUSsw_WdcT72HZ2A

https://youtu.be/vtPnsH_ZdSA?si=AidnkXuua-8pMHJU

法学特殊講義(西豪州大学短期研修)

Special Lecture on Law(UWA Law Study Tour)

西オーストラリア大学における講義を通じて大学での学びを経験しつつ、オーストラリアの法律、文化、歴史について学ぶ

to learn the basics of Australian law while immersing yourself in the academic milieu at the University of Western Australia and Australian culture

長谷川 遼/東條 吉純(HASEGAWA RYO/ TOJO YOSHIZUMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX458
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	4	科目ナンバリング	LPX2930
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

3 週間の西オーストラリア大学での短期研修プログラムにおいて、オーストラリアの法律、文化、歴史について学ぶことを通して、法律、文化、社会の多様性を学び、経験する。

The objective of this course is to learn diversity in law and culture by learning the basics of Australian law, and the culture and history of Australia at the University of Western Australia.

授業の内容 / Course Contents

西オーストラリア大学での短期研修プログラムへの参加に向けて、事前準備講義を受けるとともに、プログラムへの参加後に、振り返り会に参加し、プログラムで学んだことに関するレポートを提出することで、本講義を修了する。

実施期間:2026 年 2 月中の 3 週間を予定。

西オーストラリア大学での講義の他に、国会・美術館・自然公園への訪問など、フィールドトリップやアクティビティが予定される。(詳細な日程等も追って示す)

研修プログラムへの参加の前には、数回の事前準備講義が予定されている(オーストラリアへの渡航準備としての海外保険やその他の説明についても、事前準備講義に含まれる)。

研修プログラム参加後のレポートについて、課題は追って提示する。

事前のオンラインガイダンスにて、プログラムについての説明や応募方法の詳細を説明するため、ガイダンスに参加の上、応募をしていただきたい。説明会の日程変更や体調不良等のために説明会に出席できない場合は、ガイダンスの録画ビデオを閲覧の上、応募すること。応募者多数の場合は抽選により選考する。

This course is consisted of (1) the study tours at the University of Western Australia, (2) preparatory sessions prior to the study tours, and (3) submissions of research papers after the study tours.

(1) Period: Three weeks in February 2026—the exact dates to be confirmed.

(2) In order to make the most of the study tours, a handful of preparatory sessions are arranged prior to the study tours. Preparatory sessions also include administrative guidance sessions (e.g., as for manners to pay the fees for the study tours, acquire travel insurance, and arranging the accommodation).

(3) After the study tours, students are expected to attend a review session and submit research papers. The theme of the papers will be notified during the spring semester.

For further details, an online guidance session will be held prior to the first round of the application.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Preparatory session (1): introduction and preparation for learning in another country

初めて外国の大学で学ぶ、あるいは、外国で数週間生活するという学生も念頭に置き、そのための準備、ならびに、英語で法学を学ぶことに対する指導をします。

【2】:Preparatory session (2): introduction and preparation for learning in another country

初めて外国の大学で学ぶ、あるいは、外国で数週間生活するという学生も念頭に置き、そのための準備、ならびに、英語で法学を学ぶことに対する指導をします。

【3】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【4】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【5】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【6】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【7】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【8】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【9】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【10】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【11】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【12】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【13】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【14】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【15】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【16】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【17】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【18】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【19】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【20】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【21】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【22】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【23】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【24】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【25】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【26】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【27】:Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

西オーストラリア大学での研修プログラム参加

【28】:Review session

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研修に出発する前の準備として、現地での学習の仕方などを学びます。事前準備のための講義には、必ず参加してください。

Since preparation for the study tours is critical for gaining fruitful experience in Australia, attending the preparatory sessions is mandatory.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研修プログラムへの参加(Participation in the study tours):40% 事前準備講義及び振り返り会への参加(participation in the preparatory sessions and a review session):30% 最終レポート割合::30%

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

河野康子 英語で読む日本史(増補改訂2版) 講談社インターナショナル 2006 9784770040183
 ジェームス M バーダマン シンプルな英語で話す日本史 ジャパンタイムズ 2015 9784789015943
 鎌田真弓 日本とオーストラリアの太平洋戦争:記憶の国境線を問う お茶の水書房 2012 9784275009784
 司馬遼太郎 木曜島の夜会 文藝春秋 2011 9784167663360
 上記参考文献は一部であり、他は事前講義の際に指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS

その他 / Others

募集条件

履修対象学生: 本学1~3 年次生(2025 年 9 月入学者は対象外)。

募集人数: 追って公表する。

選考方法: 本授業の履修手続ガイダンスに出席の上、応募を決定すること(ガイダンスは6 月 26 日(木)12 時 40 分より13 時 10 分までオンラインにより実施)。履修を希望するものは、所定の期間内に所定の方法で申し込みを行うこと。体調不良等のために説明会に出席できない場合は、ガイダンスの録画ビデオを閲覧の上、応募すること。

募集期間は下記のとおりである。

第1 次募集:8 月 1 日(金)10:00 から8 月 6 日(水)15:00 まで 結果発表:8 月 22 日(金)15 時

第2 次募集:9 月 2 日(火)10:00 から9 月 4 日(木)15:00 まで 結果発表:9 月 11 日(木)15 時

指定された期間に志望理由書を提出すること。詳細については説明会の際に指示する。

現地大学でのディスカッション・プレゼンテーションも予定されているため、積極的に取り組む意欲があることを前提とする。

* 本科目は、登録後取り消すことはできない(履修が許可された場合には、それ以降の履修取消は原則として認めない)。

* 履修者が10 名に満たない場合は、本科目は開講しない。

注意事項(検索結果画面)

成績評価は合格・不合格のみとする。

法学特殊講義(子ども法－理論と実践)

Special Lecture on Law(Children Law)

河村 賢治／橋爪 幸代(KAWAMURA KENJI/ HASHIZUME SACHIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX460
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	LPX3500
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

豊島区子どもの権利に関する条例の前文には、次のような文章があります。

「子どものみなさん

あなたの人生の主人公は、あなたです

あなたのことは、あなたが選んで決めることができます

失敗しても、やり直せます

困ったことがあったら、助けを求めていいのです

あなたは、ひとりではありません

私たちおとなは、あなたの立場に立って、あなたの声に耳を傾けます

あなたがあなたらしく生きていけるように、いっしょに考えていきましょう

あなたという人は、世界でただ一人しかいません

大切な、大切な存在なのです」

児童虐待などの事案が存在する中、上記宣言を実現するために、法そして私たちは何ができるでしょうか。

この授業では、そうしたことを座学およびロールプレイなどを通じて学び、子どもの権利のために協働することができる人材の育成を目指します。

The preamble to the Toshima Ward Ordinance on the Rights of the Child contains the following sentence.

"Dear children

You are the protagonist of your life

You can choose and decide what to do with your life.

If you fail, you can start over

If you have a problem, you can ask for help.

You are not alone.

We, adults, will stand in your shoes and listen to you.

Let's think together so that you can live your life as you are.

You are the only one in the world.

You are important and precious."

In the midst of cases of child abuse, what can the law and we do to realize the above declaration?

In this class, we will learn such things through classroom lectures and role-plays, aiming to develop human resources who can work together for the rights of children.

授業の内容 / Course Contents

授業前半では、子どもの権利に関連する様々な法や専門職などを座学スタイルで学びます。グループワーク等を行う可能性もあります。

授業後半では、例えば自分が子ども関連の仕事を担当する豊島区職員になったとして、児童虐待等の事案にどう向き合うのかに関する、ロールプレイ等を行う予定です。

＊授業を行う日時が通常の授業とは異なることに注意してください。

＊インターンシップなどと重ならないようにしてください(グループワークやロールプレイなどがあるため欠席されると他のメンバーに負担がかかります)。

＊痛ましい事案が題材となりうるほか、ロールプレイでは言葉が強かったり、非協力的であったりするなど、さまざまなタイプの親に対応していただく場面があるかもしれません。相応の覚悟をもって受講してください。

In the first half of the class, students will learn various laws and profession related to children's rights in a classroom style. There is a possibility of group work, etc.

In the second half of the class, role-plays will be conducted on how to deal with cases of child abuse, etc., assuming that you are an employee of Toshima Ward in charge of child-related work, for example.

＊Please note that the dates and times for classes are different from regular classes.

＊Please make sure that your absence from class does not conflict with your internship or other commitments (There will be group work and role play, so if you are absent, other members will be inconvenienced).

＊There may be situations in which you will have to deal with various types of parents, such as verbally abusive or uncooperative parents, in role-plays, as well as potentially tragic cases. Please take this class with great determination.

授業計画 / Course Schedule

【1】:4月15日(火)3時限:ガイダンス

＊各回の講師・担当部署は2025年1月時点の予定であり、今後やむを得ない事情により変更される可能性があります。

【2】:4月29日(火)3時限:子どもを守る法1(民法:幡野弘樹先生)

【3】:5月6日(火)3時限:子どもを守る法2(児童福祉法・児童虐待防止法:橋爪幸代先生)

【4】:5月20日(火)3時限:子どもを守る法3(刑法:深町晋也先生)

【5】:6月3日(火)3時限:子どもと行政(こども家庭庁:田中義高様)

【6】:6月17日(火)3時限:子どもとNPO(豊島子どもwakuwakuネットワーク:栗林知絵子様)

【7】:8月1日(金)2時限:子どもと弁護士(豊島区子どもの権利擁護委員:山下敏雅弁護士)

【8】:8月1日(金)3時限:豊島区の取り組み(豊島区子ども家庭部)

【9】:8月1日(金)4時限:ワークショップ&ロールプレイ1(豊島区子ども家庭部)

【10】:8月4日(月)3時限:ワークショップ&ロールプレイ2(豊島区子ども家庭支援センター)

【11】:8月4日(月)4時限:ワークショップ&ロールプレイ3(豊島区子ども家庭支援センター)

【12】:8月5日(火)3時限:ワークショップ&ロールプレイ4(豊島区児童相談所)

【13】:8月5日(火)4時限:ワークショップ&ロールプレイ5(豊島区児童相談所)

【14】:8月6日(水)2時限:振り返り&成果物(次年度履修前授業説明資料)作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

子どもの権利・保護については様々な法律が関係することを理解し、必要に応じて各法律の基礎を自ら学ぶことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の発言・リアクションペーパー:30% ワークショップ・グループワーク:60% 成果物作成:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

＊授業を行う日時が通常の授業とは異なることに注意してください。

＊インターンシップなどと重ならないようにしてください(グループワークやロールプレイなどがあるため欠席されると他のメンバーに負担がかかります)。

＊痛ましい事案が題材となりうるほか、ロールプレイでは言葉が強かったり、非協力的であったりするなど、さまざまなタイプの親に対応していただく場面があるかもしれません。相応の覚悟をもって受講してください。

＊3月7日(金)の10時30分から1104教室にて事前説明会を開催する予定です。受講を検討している方はぜひ参加

してください。

<選考方法>

採用人数:10～15 人

配当年次:3・4 年次

選考方法:レポート

題目:①なぜ本講義を受講したいのか、②本講義での学びを今後どのように活かしていきたいか、③これまでに子ども支援の取り組みに参加したことがあればその内容、を書いてください。

字数:①②③あわせて、1200 字程度

法学特殊講義(多文化共生と法—理論と実践)

Special Lecture on Law(Intercultural Cohesion and Law)

山口 敬介／島村 暁代(YAMAGUCHI KEISUKE/ SHIMAMURA AKIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX461
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年他
単位	2	科目ナンバリング	LPX3500
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

外国人が日本社会において直面しうる法的問題について学び、関係する法ルールについて理解を深めることを通じて、現在の法ルールを分析し問題点を考察する力を養うこと

To develop the ability to analyze current legal rules and regard problems by learning about legal issues that foreigners may face in Japanese society and deepening their understanding of related legal rules.

授業の内容 / Course Contents

外国人が日本社会で生きていくにあたって直面しうる法的問題を知り、それに関する法的ルールを学ぶこと、さらには、豊島区等において外国人の支援に関わる団体の活動を観察して問題解決の糸口を模索することを目的とする。

外国人が直面する法的問題には、外国人に固有のもの(在留資格等)と外国人にも日本人にも共通するもの(労働、居住、家族関係、社会保障等)があるところ、前者だけでなく後者についても学ぶことを通じて、外国人を「鏡」に日本法の現況・問題点を考える契機とする。

受講者には、外国人の支援に関わる団体の活動に参加したうえで、各団体の活動内容、活動理念やかかえる課題についての記事を作成することが求められる。

第1～7回の授業は4～6月の春学期授業期間内に池袋キャンパスにて木曜2限の時間帯で実施し、第8～11回のフィールドワークは6～9月頃に各団体を訪問して行う。第12～14回については9月(秋学期開始前)に池袋キャンパスで実施する予定である。また、10月末頃までに上記の記事の完成版を提出することが求められる。

※下記の授業計画は、諸般の事情により変更することがある。

The purpose of this course is to learn about the legal problems that foreigners may face while living in Japanese society, learn the legal rules related to them, and also observe the activities of organizations involved in supporting foreigners in Toshima Ward and other areas to solve problems. Some of the legal issues that foreigners face are unique to foreigners (such as status of residence), while others are common to both foreigners and Japanese (labor, residence, family relationships, social security, etc.). By learning not only about the former but also about the latter, students will have the opportunity to consider the current situation and problems of Japanese law using foreigners as a "mirror."

Students are required to participate in the activities of organizations involved in supporting foreigners, and then write articles about each organization's activities, philosophy, and issues they are facing.

The 1st to 7th classes will be held during the 2nd period on Thursdays at the Ikebukuro campus during the spring semester class period from April to July, and the 9th to 11th fieldwork will be held from July to September with each group. Visit and do it. The 12th to 14th sessions are scheduled to be held at the Ikebukuro campus in September (before the start of the fall semester). Students are also required to submit a final report by the end of October.

*The course schedule below is subject to change due to various circumstances.

授業計画 / Course Schedule

【1】:4月10日(木)2限

ガイダンス・自己紹介

授業の内容や進行予定について説明する。

【2】:4月17日(木)2限

ゲストスピーカー・その1

医療保健分野におけるゲストスピーカーを招き、関係する法ルールや現在の課題等についてレクチャーを受ける。

【3】:4月24日(木)2限

ゲストスピーカー・その2

弁護士として外国人の支援に関する業務に携わるゲストスピーカーを招き、関係する法ルールや現在の課題等についてレクチャーを受ける。

【4】:5月22日(木)2限

ゲストスピーカー・その3

司法通訳に従事するゲストスピーカーを招き、関係する法ルールや現在の課題等についてレクチャーを受ける。

【5】:5月29日(木)2限

講義

ここまでのゲストスピーカーのお話を振り返りながら、そこで取り上げられた法制度や周辺の法律問題について詳しく学ぶ。

【6】:6月19日(木)2限

ゲストスピーカー・その4

地方公共団体(豊島区)において外国人に関する業務に携わるゲストスピーカーを招き、関係する法ルールや現在の課題等についてレクチャーを受ける。

グループワーク・事前報告会

フィールドワークに行く団体について事前に調査した内容と訪問時の調査事項等についてグループごとに報告する。

【7】:6月26日(木)2限

国(法務省)において外国人に関する業務に携わるゲストスピーカーを招き、関係する法ルールや現在の課題等についてレクチャーを受ける。

【8】:フィールドワーク・その1

豊島区等で外国人の支援にかかわる団体を訪問し、活動に参加する。また、活動内容、活動理念やかかえる課題についてインタビュー調査をする。

【9】:フィールドワーク・その2

豊島区等で外国人の支援にかかわる団体を訪問し、活動に参加する。また、活動内容、活動理念やかかえる課題についてインタビュー調査をする。

【10】:フィールドワーク・その3

豊島区等で外国人の支援にかかわる団体を訪問し、活動に参加する。また、活動内容、活動理念やかかえる課題についてインタビュー調査をする。

【11】:フィールドワーク・その4

豊島区等で外国人の支援にかかわる団体を訪問し、活動に参加する。また、活動内容、活動理念やかかえる課題についてインタビュー調査をする。

【12】:9月18日(木)

事後検討・その1

フィールドワークの活動を振り返り、得た知見をふまえてさらに法的課題について調査する。また、団体の活動内容等についての記事を作成する。

【13】:9月18日(木)

事後検討・その2

フィールドワークの活動を振り返り、得た知見をふまえてさらに法的課題について調査する。また、団体の活動内容等についての記事を作成する。

【14】:9月18日(木)

最終報告会

授業全体を振り返り、各自の調査内容等について報告する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ゲストスピーカー講義やフィールドワークで必要となる基本的法知識について予習することが求められる。
また、ゲストスピーカー講義やフィールドワークで得た知見をもとに、法的な問題についてさらに自分で検討を深めることなどが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の発言・リアクションペーパー:20% グループワーク等:60% 成果物作成:20%

テキスト / Textbooks

講義の中で指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

憲法、行政法、民法、労働法、社会保障法を履修済みあるいは並行して履修中であることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

フィールドワークに行く前に、学研災付帯賠償責任保険(保険料 340 円)に加入することを要する。

初回のガイダンスでは、受講生のみなさんに自己紹介をしていただくので、各自でパワーポイントを用意すること。趣味・特技等のほか、この科目を履修しようと思った理由・この科目を通じて学びたいこと・意気込み、将来の夢などについても語っていただけるとありがたい。

その他 / Others

第1回から第7回については木曜2限に開講する予定であるが、詳細については、3月7日(金)の10時半から1104教室で事前説明会を開催するため、受講を検討している方はぜひ参加していただきたい。

<選考方法>

採用人数:12人

配当年次:3・4年次

選考方法:レポート

内容、字数等:本講義を受講したい理由や本講義で学びたいことについて、自由に記載してください。将来の展望についての記載も歓迎します。字数は1200字程度でお願い致します。

法学特殊講義(Sec Reg)

Special Lecture on Law(Securities Regulations)
Introduction to U.S. Securities Regulation

三橋 葉子(MITSUHASHI YOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX462
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

米国の証券取引法を始めとする証券規制は、クロスボーダーの M&A やグローバルな証券発行を含めた国際的なビジネスに携わるにあたって必須の知識である。米国証券規制の概観を理解し、グローバルな金融・資本市場に関する知見を深めることが目標である。

The US securities regulation is the essential knowledge when participants would engage in the international businesses in the future, such as cross-border M&A and cross-border securities issuance. Understanding an overview of U.S. securities regulation and deepening knowledge about global financial and capital markets are the objectives of this lecture.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、英語テキストを参照しながら、米国の市場構造や米国の証券規制の全体像を理解する。あわせて、具体的な適用事例や判例について分析を行う。日本法との比較も適宜行う。

In this lecture, participants are expected to understand the market structure and the framework of securities regulation in the U.S. through reading the specified textbook. In addition, practical applications and court cases of the U.S. securities regulation will be analyzed. At times, comparative analysis with Japanese law will also be conducted.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Overview of Securities Markets and Regulation
- 【3】:Definition of Security
- 【4】:Registration of Securities Offerings
- 【5】:Exemptions from Securities Act Registration
- 【6】:Securities Act Liability
- 【7】:Regulation of Securities Trading Markets
- 【8】:Regulation of Public Companies
- 【9】:Proxies and Tender Offers
- 【10】:Rule 10b-5
- 【11】:Insider Trading
- 【12】:Regulation of Brokers, Dealers, and Investment Advisors
- 【13】:Public Enforcement
- 【14】:U.S. Regulation of Cross-Border Securities Transactions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

The teaching methods may change depending on the number of participants and other circumstances.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Participants are expected to read specified section of the textbook before classes.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Submissions instructed in class:40% 中間レポート(Mid-term Report):30% 最終レポート
割合::30%

テキスト / Textbooks

Alan R. Palmiter Examples & Explanations for Securities Regulation (Examples & Explanations Series) 8th Edition
ASPEN Publishing 2021 9781543807684

Handouts will be distributed for each session.

参考文献 / Readings

黒沼 悦郎 『アメリカ証券取引法 (アメリカ法ベーシックス)(第2版)』 弘文堂 2004 9784335301094
山本 雅道 『アメリカ証券取引法入門—基礎から学べるアメリカのビジネス法(改訂版)』 第一法規 2019
9784474067615

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent. However, even if this condition is not fulfilled, students are welcome to participate in the class as long as they have strong curiosity in learning each topic.

その他 / Others

The order of course schedule may change depending on the progress of the lecture. Other themes may be taken up in view of the progress of current events.

法学特殊講義(金融商品取引法)

Special Lecture on Law(Financial Instruments and Exchange Law)

基礎から学ぶ金融商品取引法

三橋 葉子(MITSUHASHI YOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX464
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

我が国の資本市場法制の大きな柱である金融商品取引法の全体像を体系的に理解することを授業の目標とする。将来、企業で働く上でも、個人の資産形成の観点からも、金融商品取引法に触れる機会は極めて多いと考えられ、金融商品取引法の全体像の理解は不可欠である。

This course aims to provide comprehensive understanding of the basics of the Financial Instruments and Exchange Act ("FIEA"), the securities law in Japan and a fundamental framework of Japanese capital markets. Both in the context of working for a company and from the perspective of personal asset formation, participants are expected to engage with the FIEA in the future. The comprehensive understanding of the FIEA is essential in carrying out such activities.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、金融商品取引法の沿革、特徴及び全体像を理解するとともに、金融商品取引法の企業内容等の開示規制、金融商品取引業者等に関する規制及び市場における不公正取引に対する規制を中心に、制度の趣旨・内容を理解する。また、制度の学習だけにとどまらず、実際の法令適用事例や、国際的な動向、関連する金融行政の話題等にも触れる。

The lecture covers background and the characteristics of the FIEA, as well as rationale and contents of such pillars of regulations as disclosure requirements, regulations on financial intermediaries, and prohibition of market misconduct.

The course intends to provide not only theoretical knowledge on rules and regulations but also practical application of the FIEA, international trends, and the relevant financial regulatory and supervisory topics.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

日本の金融・資本市場の特徴

【2】: 金融行政の特徴と課題

【3】: 金融商品取引法の意義・概観

会社法と金融商品取引法との関係

【4】: 企業内容等の開示(総論)

開示制度の意義・概観

有価証券の種類

【5】: 企業内容等の開示(発行開示)

有価証券届出書、目論見書等

【6】: 企業内容等の開示(継続開示)

有価証券報告書の提出義務・記載内容

公認会計士又は監査法人による監査証明

【7】:企業内容等の開示(継続開示)
 四半期報告書、臨時報告書、内部統制報告書等
 【8】:開示の実効性確保
 罰則、課徴金、民事責任
 【9】:公開買付けに関する開示
 公開買付制度の意義・内容・手続
 【10】:株券等の大量保有の状況に関する開示
 大量保有報告制度の意義・内容・手続
 【11】:金融商品取引業者等の規制
 金融商品取引業者等の類型
 誠実公正義務、不招請勧誘、適合性原則、説明義務等
 【12】:自主規制機関の役割
 金融商品取引業協会、金融商品取引所
 【13】:不公正取引規制
 インサイダー取引、相場操縦
 【14】:不公正取引規制
 風説の流布・偽計等

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

履修人数に応じて、授業方法を変更することがあり得る。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたっては、事前に配布される資料を読んで予習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :52%
 平常点割合 :48% 12回のリアクションペーパー:48%

テキスト / Textbooks

毎回、講義で取り扱うテーマごとに説明資料を配付する。

参考文献 / Readings

川口恭弘『金融商品取引法への誘い』有斐閣 2018 9784641137974
 松尾直彦『金融商品取引法〔第7版〕』商事法務 2023 9784785730406

その他 / Others

授業計画は上記のテーマを予定しているが、履修人数や時事の進展等を鑑みてテーマを変更することがあり得る。

法学特殊講義(地方自治法)

Special Lecture on Law(Local Government Law)

地方自治法／身近な行政の存在およびその法制度を考える

小澤 久仁男(OZAWA KUNIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX466
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、①地方自治を巡る法的課題としてどのようなものがあるのか、ということが主たる目標となります。その上で、②過去から現在まで生じている法的課題をどのように解決するべきかを受講生が考えられるようになっていただくこと、および、③地方自治はどうあるべきかを考えられるようになっていただくことが、最終的な目標となります。

This lecture's main target is ①What kind of legal problems in local autonomy exists. Moreover, this lecture's last target are ②Student have be able to think how to settle a legal problem in the local autonomy which has formed in the past and present now, ③Student have be able to think how there should be local autonomy.

授業の内容 / Course Contents

地方自治は、現代国家において、住民の人権と民主主義を実現する上で不可欠な制度・存在となっています。けれども、わが国は長く中央集権国家として発展してきたということもあって、そこにはさまざまな障害も生じています。

そこで、本講義においては、地方自治法で規定されている重要な制度を取り上げることで、住民が各地方公共団体に対してどのような権利を有しているのか、そして各地方公共団体はどのような権限を有しているのか、といった基礎知識を養うことになります。その上で、国と地方公共団体の関係や地方公共団体と住民の関係といった地方自治はどうあるべきかを考えて貰えるきっかけを提供できれば、と思っています。

In a modern nation, local autonomy is indispensable system and existence to achieve resident's human rights and Democracy. However, our country was developing as the centralized government lengthily. Therefore various problems have also occurred there.

So, in this lecture, the important system prescribed by a local government law will be taken up. Specifically, student can get basic knowledge about what kind of right a resident possesses to a local government and what kind of authority each local government possesses. Then, I'd like to offer the motive which can think how there should be local autonomy on it. For example it's possible to give this a thing such as relations between a state and a local government, and relations between a local government and a resident.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、地方自治とは何か: 日本国憲法と地方自治
- 【2】: 地方自治の歴史: 戦前・戦後の展開
- 【3】: 地方自治を巡る法的制度: 地方自治の法源・法制度
- 【4】: 地方公共団体の種類: 普通地方公共団体・特別地方公共団体
- 【5】: 地方公共団体の事務①: 自治事務と法定受託事務
- 【6】: 地方公共団体の事務②: 事務処理の原則と国・都道府県との関与
- 【7】: 自治立法権: 条例と規則、条例制定権の限界

- 【8】: 自治財政権: 地方公共団体の歳入・歳出と財産
 【9】: 地方公共団体の組織①: 地方議会
 【10】: 地方公共団体の組織②: 長・その他の執行機関
 【11】: 住民の権利と義務①: 住民の意義、直接請求①
 【12】: 住民の権利と義務②: 直接請求②、住民投票
 【13】: 住民監査請求: 意義、要件、手続
 【14】: 住民訴訟: 意義、要件、手続、2017 年改正

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に Canvas LMS で配信するレジュメに目を通すとともに、テキストの該当箇所も読んでおくことにより一層の理解に役立つものと思われます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

宇賀克也『地方自治法概説(第11版)』有斐閣 2025 9784641228801

高橋明男・佐藤英世編『地方自治法の基本』法律文化社 2022 9784589041807

上記のテキストのうち、いずれを購入しても構いません。ご自身の関心などに合うテキストを見つけていただけたらと思います。

参考文献 / Readings

小幡純子・斎藤誠・飯島淳子編『地方自治判例百選(第5版)』有斐閣 2023 9784641115156

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

地方自治法は、従来、行政法各論として位置付けられており、行政法1・行政法2を履修中・履修済であると、より効果的に学修が行えることになります。

その他 / Others

参考資料などについては、授業時に配付します(但し、配付は1回のみとなり、欠席などで受け取れない場合にはご自身で印刷をお願いいたします)。また、授業中の私語・スマホの操作などについては、ご遠慮ください(いずれも教室外で行うことは妨げません)。これらを守っていただけない場合については、参考資料などの配付を中止し、各自で印刷していただくことに変更する場合があります。

Special Lecture on Law(Constitutional Law A)

Special Lecture on Law(Constitutional Law A)
Japanese Constitutional Law

白水 隆(SHIROUZU TAKASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX471
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2101
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course will focus on developing a systematic understanding of the general principles of human rights and the first half of specific topics in human rights under Japanese constitutional law, with an emphasis on court cases.

授業の内容 / Course Contents

First, we will examine fundamental concepts underlying the Constitution and topics related to the general theory, such as the application of constitutional principles. Following this, we will address specific areas, including autonomy, Equality rights, freedom of expression, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:The Meaning of the Constitution, Sources of Constitutional Law, History of Japanese Constitutional Law, the Development of Constitutionalism
- 【2】:Application of the Constitution, Judicial Review
- 【3】:Categories of Entitlement to Protection under Japanese Constitutional Law
- 【4】:Autonomy (part 1)
- 【5】:Autonomy (part 2)
- 【6】:Equality Rights (part 1)
- 【7】:Equality Rights (part 2)
- 【8】:Freedom of Thought and Conscience
- 【9】:Freedom of Religion, Separation of Church and State
- 【10】:Freedom of Expression (part 1)
- 【11】:Freedom of Expression (part 2)
- 【12】:Freedom of Expression (part 3)
- 【13】:Economic Freedoms
- 【14】:In-Class test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read all the materials beforehand.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class quiz (3~4times):60% In-Class test:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Special Lecture on Law(Constitutional Law B)

Special Lecture on Law(Constitutional Law B)
Japanese Constitutional Law

白水 隆(SHIROUZU TAKASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX472
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2101
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course will focus on the second half of specific topics related to human rights under Japanese Constitutional Law, as well as the general principles of government structure.

授業の内容 / Course Contents

First, as a continuation of Constitutional Law A, we will examine the latter half of the field of human rights, such as social rights. Next, we will cover the structure of government, including the Diet, Cabinet, and Court.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Recap of Constitutional Law A
- 【2】:Welfare Right
- 【3】:Right to receive education, Rights of Workers
- 【4】:Right to Vote
- 【5】:The Diet (part 1)
- 【6】:The Diet (part 2)
- 【7】:The Cabinet (part 1)
- 【8】:The Cabinet (part 2)
- 【9】:The Court (part 1)
- 【10】:The Court (part 2)
- 【11】:Local Government
- 【12】:Pacifism
- 【13】:Wrap up
- 【14】:In-Class test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read all the materials beforehand.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class quiz (3~4times):60% In-Class test:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

法学特殊講義(Comparative F

Special Lecture on Law(Comparative Family Law)

Introduction to Comparative Family Law

デ アウカンタ(DE ALCANTARA MARCELO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX473
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students with a general understanding of family law from a comparative and international perspective.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover a wide range of topics concerning domestic and cross-border family disputes, such as marriage, parent and child relationship, parental responsibility, surrogacy and other forms of assisted reproduction. The course will also cover legal issues concerning sexual and gender minority families. The case studies will explore a variety of examples from the European Court of Human Rights, the Supreme Court of Japan, the Supreme Court of the US, and the UK High Court of Justice, among others.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Case Study (1)
- 【3】:Case Study (2)
- 【4】:Case Study (3)
- 【5】:Case Study (4)
- 【6】:Case Study (5)
- 【7】:Case Study (6)
- 【8】:Case Study (7)
- 【9】:Case Study (8)
- 【10】:Case Study (9)
- 【11】:Case Study (10)
- 【12】:Case Study (11)
- 【13】:Case Study (12)
- 【14】:Review

*The course schedule is subject to change

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to have read the assigned readings and required to write one short essay prior to class. Detailed instructions for each assignment will be distributed in class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Short Essays:40% Class Participation:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

Digital course materials will be provided to students.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

法学特殊講義(立法学)

Special Lecture on Law(Legislation)

加藤 敏博(KATO TOSHIHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX475
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

立法技術、立法内容及び立法過程に関する基礎的知識の習得を通じて、法制度を設計し、これを法律案の形式に組み立て、法律として成立させるまでのプロセスを理解する。また、我が国のさまざまな問題を解決する手段としてどのような法制度を設計すればよいかを考えることのできる基礎的な能力を身に付ける。

Through acquiring basic knowledge of legislative techniques, legislative content, and legislative process, students will understand the process of designing a legal system, assembling it into a proposed law, and enacting it as a law. Students will also acquire the basic ability to consider what kind of legal system should be designed as a means to solve various problems in Japan.

授業の内容 / Course Contents

立法学の入門的な講義です。

国民生活、経済社会情勢の変化によって生じる問題を解決するための手段として、毎年多くの法律が新たに制定され、改正され、又は廃止されており、法律は常に変化し続けています。この講義は、このような立法に関し、①法令の構造、個々の条文の表現に用いる法令用語等、法令を作成する際の技術的な手法はどのようなものか(立法技術)、②どのような目的でどのような法政策を選択しどのような構成の法制度を構築するか(立法内容)、③法律案の作成から成立に至るまでに政府や国会においてどのような手続や過程を経るのか(立法過程)、という3つの切り口で解説します。

実際に法令案を立案するためには、憲法、行政法、地方自治法、民法、刑法等の十分な理解が前提になり、対象となる法分野に関する知識も必要ですから、この講義では、これらを要しない入門的な事項を中心に概説します。

対象とするのは、国の法令が中心ですが、可能であれば、条例、地方公共団体の規則等についても言及します。

①と②についての講義は、行政法を中心に、法律を解釈する際の基礎的な知識にもなり、また、社会に出て何らかの規範(ルール)を定める文書を作成する際に役立ち、また、③については、憲法の定める統治機構のうち国会や行政に関する理解が深まります。

これらのほか、最近の新聞において立法や国会に関係する報道があれば取り上げ、その背景、実情、課題等を概説します。

This is an introductory course in legislative studies.

Laws are constantly changing, with many new laws being enacted, amended, or repealed each year as a means of solving problems arising from changes in people's lives and economic and social conditions. This lecture will focus on (1) the structure of laws and regulations, the terminology used to express individual articles, and other technical methods used to create laws and regulations (legislative techniques), (2) what legal policies are selected for what purposes and what structure of the legal system is established (legislative content), and (3) how laws are enacted by the government and the Diet from the drafting of proposed laws to their enactment (legislative process). The course will explain from three perspectives: (1) what kind of procedures and processes are followed by the government and the Diet from the drafting of a proposed law to its enactment (legislative process).

In order to actually draft laws and regulations, a sufficient understanding of the Constitution, Administrative Law, Local Autonomy Law, Civil Law, Criminal Law, etc. is a prerequisite, and knowledge of the target legal field is also necessary, so this lecture will focus on an overview of introductory matters that do not require these. The subject matter will focus on national laws and regulations, but if possible, ordinances, local government regulations, etc. will also be discussed.

The lectures on (1) and (2) will provide basic knowledge for interpreting laws, particularly administrative laws, and will also be useful when students go into practice and prepare documents that establish some legal norms (rules), while (3) will deepen students' understanding of the Diet and the administration among the governance structures established by the Constitution.

In addition to the above, any recent newspaper reports related to legislation and the Diet will be discussed, and the background, actual conditions, and issues will be outlined.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 立法学について
- 【2】: 立法技術: 法令の基本構造
- 【3】: 立法技術: 法令の形式と効力
- 【4】: 立法技術: 法令用語(1)
- 【5】: 立法技術: 法令用語(2)
- 【6】: 立法技術: 新規制定法令の規定の種類と内容(1)～本則
- 【7】: 立法技術: 新規制定法令の規定の種類と内容(2)～附則
- 【8】: 立法内容: 法令の実体的規定(1)～事業規制法令
- 【9】: 立法内容: 法令の実体的規定(2)～資格付与法令
- 【10】: 立法内容: 法令の実体的規定(3)～助成法令、計画法令等
- 【11】: 立法技術: 一部改正法令、全部改正法令及び廃止法令の構造
- 【12】: 立法内容: 法政策・法令の立案
- 【13】: 立法過程: 法律案の作成過程～内閣提出法案・議員提出法案
- 【14】: 立法過程: 法律案の審議過程～委員会・本会議・衆議院と参議院の関係

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業中に数回、練習問題を解いてもらいます。これは、小テストや筆記試験の準備になります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習は、授業の復習とし、必要に応じて授業中に具体的に指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 80%

平常点割合 : 20% 授業内に行う小テスト: 20%

テキスト / Textbooks

授業の際にレジュメ、資料等を配布します。

参考文献 / Readings

大島稔彦『立法学-理論と実務』第一法規 2013 9784474028920

大島稔彦『法制執務の基礎知識』第一法規 2023 9784474092723

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業を理解するために憲法に関する基礎的な知識が必要です。

法学特殊講義(企業のビジネス戦略と契約実務)

Special Lecture on Law(Corporate Business Strategies and Contract Practice)

企業がグローバルなビジネスを展開する上で最適な契約スキームの検討と交渉戦略を学ぶ ～具体的なビジネス事例を取上げながら～

石川 文夫 (ISHIKAWA FUMIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX478
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

企業がグローバルなビジネスを展開する上で必要な契約スキーム及び契約交渉について、まずビジネスの内容を理解し、その上で最適な契約スキームを検討し、交渉のスタイルを学ぶ。具体的な契約例も可能な限り活用し契約書の文言の意味、役割も理解出来るようにする。

In this course, which aims to teach contract schemes and contract negotiations that are necessary for companies to do business on a global scale, the students will first understand the content of the business, then consider appropriate contract scheme that is most suitable for the business, and finally learn how to negotiate based on the contract. Actual business contract will be used so that the students will be able to understand the meanings and roles of the respective words used in contracts.

授業の内容 / Course Contents

現実に発生しているビジネス事案(講師作成のケース、報道されているケース等)を使用し、ビジネスの内容を理解しながら最適な契約スキームを考えて契約交渉についても講義の中で実践して見たい。また、具体的な契約書を使用しながら契約の条文も理解出来るようにする。

海外、国内問わず、弁護士さんなど有識者を招いた話(オンラインも含む)も聴く機会を設けたい。

Using examples of business situations currently observed (including those created by the lecturer and those covered by news reports), the students will consider the optimal contract scheme based on understanding of the business content and engage in simulated contract negotiations. The lecturer will teach them how to understand the meanings of the clauses contained in specific contracts. The lecturer plans to invite both domestic and foreign lawyers and other specialists(including on line) as guest speakers.

授業計画 / Course Schedule

【1】:講師自己紹介、本講座の狙い、全体日程の説明等を含めた講義概要説明

【2】:契約書の位置付けと契約の種別説明、企業における基本的な業務フローの理解(ビジネスの発生から契約締結まで)

特に、秘密保持契約の役割と契約モデルの説明(海外版・国内版)

【3】:日本の契約と欧米の契約の考え方の相違と契約書の違いについての理解

【4】:知的財産(権)についての理解、ライセンスの理解

【5】:ビジネスを遂行する為に必要なコラボレーションの役割と理解

サプライチェーンと契約関連について

【6】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース1

- 【7】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース2
- 【8】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース3
- 【9】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース4
- 【10】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース5
- 【11】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース6
- 【12】:具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース7
- 【13】:専門分野の弁護士さん、企業人など有識者からの話を講義の中やオンラインで視聴しクラス内で意見交換を行なう。
- 【14】:これまでの講義の纏め

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義の復習はすること。予習については事前に講義の中で翌週の内容を話すので予習を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 講義における発言、態度:20%

テキスト / Textbooks

石川文夫『企業間コラボレーションを成功させる契約交渉の進め方』中央経済社 2018 9784502259012

参考文献などは講義の中で適宜話しをする予定。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

受講者は民法(契約)、知的財産法などを履修完了または受講中が望ましい。

社会の色々な分野におけるビジネスに関心があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

講義の中で適宜有用な WEB サイト、セミナーなどを紹介する。講義を休む場合で当該配布資料が欲しい場合には事前にメールで連絡をください。かなり過去の講義の配布資料を突然要求されても対応が困難な場合もありますので。

統計学

Statistics

社会科学のための統計学入門

歸山 亜紀 (KAERIYAMA AKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX480
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この科目では、社会科学分野におけるデータの要約や分析に用いられる基礎的な統計学の知識を修得します。

In this course, students will gain foundational knowledge of statistics used for summarizing and analyzing data in the field of social sciences.

授業の内容 / Course Contents

授業では、統計学の基礎的内容について解説を行います。また、受講生自身が練習問題を解くことで理解を定着させます。

The course will provide explanations on fundamental concepts of statistics. Additionally, students will solidify their understanding through solving practice problems.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 統計学の必要性和意義について
- 【2】: 測定と尺度水準
- 【3】: データの要約1: 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、範囲、四分位範囲
- 【4】: データの要約2: z得点、変動係数、グラフ
- 【5】: データの要約3: 練習問題を解きながら、ここまでの確認をする
- 【6】: 2変数の関連: クロス集計表、散布図、相関係数
- 【7】: 確率論の基礎: 確率、確率密度関数、正規分布
- 【8】: 無作為抽出と統計的推定: 標本調査の役割、ランダムサンプリング、標本抽出分布、信頼区間
- 【9】: 統計的検定の考え方1: 帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の誤りと第2種の誤り
- 【10】: 統計的検定の考え方2: 帰無仮説と対立仮説、片側検定と両側検定、第1種の誤りと第2種の誤り
- 【11】: 1つの平均値のt検定
- 【12】: 2つの平均値の差の検定
- 【13】: 平均値の検定: 練習問題を解いて確認する
- 【14】: 中間テスト: ここまでのまとめとして中間テストを行う
- 【15】: 分散分析1
- 【16】: 分散分析2
- 【17】: 分散分析3: 練習問題を解いて分散分析を確認する
- 【18】: 度数分布表の検定1: 独立性のカイ2乗検定、適合度のカイ2乗検定
- 【19】: 度数分布表の検定2: 練習問題を解いてカイ2乗検定の確認を行う。
- 【20】: 単回帰分析1
- 【21】: 単回帰分析2

- 【22】: 単回帰分析3: 練習問題を解いて確認を行う。
 【23】: 多変量解析の考え方: 変数のコントロール
 【24】: 第3変数のコントロール1: 3重クロス表
 【25】: 第3変数のコントロール2: 偏相関係数
 【26】: 重回帰分析1
 【27】: 重回帰分析2
 【28】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業時間外学習に関する指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行います。
- ・各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 50%
 平常点割合 : 50% 授業内レポート(練習問題): 20% 中間テスト: 30%

テキスト / Textbooks

テキストは使用せず、レジュメを配布します。
 必要に応じて、そのほかの資料を配布することがあります。

参考文献 / Readings

G.W. ボーンシュテット & D. ノーキ 『社会統計学: 社会調査のためのデータ分析入門』 ハーベスト社 1992
 4938551128

毛塚和宏 『社会科学のための統計学入門: 実例からていねいに学ぶ』 講談社 2022 4065284503

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

数学的な内容に苦手意識がある方も多いかもかもしれません。しかしこの授業の学習内容は、一定の思考の論理性があれば理解可能なものですので、必要以上に心配しないで受講を検討してください。ただし、予習復習にはじゅうぶんな時間をかけ、練習問題を解いて、知識の習得のために努力してください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

平方根の計算ができる電卓を持参してください。

Special Lecture on Law(Comparative Contract Law)

Special Lecture on Law(Comparative Contract Law)

トタロ, ダビデ (TOTARO DAVIDE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX481
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face (all 14 classes).
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3401
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Upon successful completion of the course, students will be able to: (i) Apply foundational principles and regulatory frameworks of Contract Law to practical case studies and real-world contexts; (ii) Critically interpret legal provisions, evaluating the rationale and objectives underlying specific legal rules; (iii) Utilize comparative legal analysis method to assess similarities and distinctions among key international legal systems (E.g., US, UK, Germany, France, Italy and Japan).

授業の内容 / Course Contents

This course offers a comparative exploration of Contract Law across the European Civil Law system, the Common Law system, and Japan, highlighting their unique legal cultures and practices. Students will engage in an in-depth examination of contract drafting, interpretation, and key elements such as formation, performance, renegotiation, and remedies. Real-world case studies will illustrate cross-jurisdictional challenges and global market implications. The course further incorporates discussions on intersecting legal domains, such as consumer protection, data privacy, and industry-specific regulations in the banking, finance, and insurance sectors, serving as subjects for comparative analysis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Course's Introduction and Overview of Legal Systems
- 【2】: Legal Families and Jurisdictions' Taxonomy
- 【3】: General Principles of Contract Law
- 【4】: Contract Formation: Offer and Invitation to Treat
- 【5】: Essential Elements of a Contract
- 【6】: Vitiating Factors
- 【7】: Performance and Contractual Remedies
- 【8】: Contractual Penalties and Liquidated Damages Clauses
- 【9】: Impossibility and Changed and Unforeseen Circumstances
- 【10】: Contract Interpretation
- 【11】: Contracts and third parties
- 【12】: Consumer Contracts and Business Contracts
- 【13】: Contracts in Regulated Markets
- 【14】: Representations, Warranties, and Indemnities

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

In class, students will be actively asked questions and strongly encouraged to engage in discussions; therefore, a proactive attitude is expected.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to carefully review the readings assigned weekly by the instructor (approximately 2 hours per class) to foster discussion and active engagement. Additionally, after class, students must complete the assigned tasks as instructed (approximately 2 hours per class).

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% Class active participation (questions, opinion and discussion):20% Student oral presentation on a research topic:30%

Credits cannot be earned if students do not attend at least 2/3 of the classes.

テキスト / Textbooks

Jan M. Smits Contract Law: A Comparative Introduction Edward Elgar Publishing 2021 1800373104

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Intermediate English language proficiency: Participants should be capable of understanding and interacting in English. Additionally, they must be able to read and draft the final report in English.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

法学特殊講義(Crim Proc)

Special Lecture on Law(Criminal Procedure)
Japanese Criminal Procedure in Comparative Perspective

オルトラニ／中原 隆雅(ORTOLANI ANDREA/ NAKAHARA TAKAMASA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX483
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2301
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to present Japanese criminal procedure as seen by Japanese and international scholars.

授業の内容 / Course Contents

This course will present Japanese criminal procedure from a historical and comparative perspective.

The lessons will touch upon on all aspects related to Japanese criminal procedure: its history, its present form, its constitutional dimension, with a particular focus on its current practice.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:History of criminal law and procedure before the Meiji period.
- 【2】:The reception of Western criminal law in the Meiji period.
- 【3】:Criminal law 1900-1945. The first jury.
- 【4】:Criminal law reforms after WWII: Constitution and laws.
- 【5】:Overview of the criminal trial: Basic structure, participants in criminal proceedings.
- 【6】:Investigation: Beginning of investigation, compulsory and voluntary investigations.
- 【7】:Investigation: Arrest and detention, search and seizure, interrogation.
- 【8】:Trial: Overview, lay judge system.
- 【9】:Evidence: Confession, hearsay.
- 【10】:Death Penalty: Nagayama Criteria and Hikari parent-child murder incident.
- 【11】:Prisons in Japan.
- 【12】:Recent reforms in criminal law and criminal trial.
- 【13】:Comparative remarks I.
- 【14】:Comparative remarks II.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Participants will have to give individual or group presentations on selected topics. At regular intervals, in-class short tests will be held.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Participants will be required to read materials in English in preparation for the lessons.

Participants will have to submit short papers at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Short papers:25% Self-evaluation:25% Short tests:30% 最終レポート割合::10%最終テスト割合::10%

テキスト / Textbooks

M. Mitsui, T. Sakamaki An Introduction to Japanese Criminal Procedure Law Yuhikaku 2022

Colin P. A. Jones, Frank S. Ravitch The Japanese Legal System in a Nutshell West 2020

Purchase of the textbook is not mandatory.

The instructors will distribute all mandatory reading materials.

参考文献 / Readings

Additional reading materials (books, articles, and other resources) will be provided during the semester.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Ability to listen to a class in English and engage in simple conversations in English about the topics presented.

Basic knowledge of Japanese history since 1868.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

The use of laptops, tablets, phones and other electronic devices during the lesson, unless explicitly allowed on a case-by-case basis, is strictly prohibited.

社会科学情報処理

Information Processing for Social Science
SPSS を利用した社会調査データの分析と解釈

蔵本 知子(KURAMOTO TOMOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX484
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会科学分野の調査データから全体的な行動傾向やその要因を読み取るための統計処理、発展的な情報処理に関する知識や技術を習得する。

The objective of this course is to master the knowledge and techniques of statistical processing and advanced data processing for reading overall behavioral trends and their causes from survey data in the field of social sciences.

授業の内容 / Course Contents

コンピュータ教室を使用し、実習形式で授業を行う。授業は以下の内容で構成される。

(1)調査データと統計分析

様々な統計分析の手法、調査データの内容から統計手法を選択するポイント、手法や結果解釈に存在する問題点等について説明する。

(2)操作方法実習

コンピュータを操作しながら SPSS の利用方法や結果の読み取り・解釈の要点を習得する。

(3)統計解析実習

操作方法実習をふまえ、調査データを分析、項目内容と照らし合わせ結果から行動傾向を読み取る。

The computer classroom will be used to conduct the class in a practical training format. The classes are composed of the following elements.

(1) Survey data and statistical analysis

This section will explain various methods of statistical analysis, the key points for selecting statistical methods based on the content of the survey data, and the problems which lie in the methods and interpretation of the results

(2) Operating procedure practice

Students will learn how to use SPSS and the essentials of reading and interpreting the results while operating the computer.

(3) Statistical analysis practice

Based on the operating procedure practice, students will analyze survey data and compare against the item content to pick up behavioral trends from the results.

授業計画 / Course Schedule

【1】:SPSS の基本操作とデータ要約／データ加工と記述統計

【2】:回答の分布傾向から行動の偏りや質問の問題点を考える／度数分布表とヒストグラム

【3】:データの単位を揃えて測定値同士を比較する／標準化

【4】:人数の偏りを元に選択項目が別の項目に与えた影響を見出す／クロス表とカイ二乗検定

【5】:クロス表の「個別のセル」のずれを確認する／残差分析

- 【6】:2 条件間で行動傾向に違いがあるかを検討する／t 検定
 【7】:3 条件間で行動傾向に違いがあるかを検討する／1 要因の分散分析と多重比較
 【8】:要因の組合せが行動・心理傾向を促進・抑制するか検討する／2 要因の分散分析
 【9】:2つの項目間の関係性を図と数値で表す／散布図と相関係数
 【10】:行動傾向の強さをいくつかの要因を利用して説明・予測する／重回帰分析
 【11】:傾向の説明にグループの違いを利用する／ダミーデータを利用した重回帰分析
 【12】:行動が2種類に分かれる場合にどちらの行動をとるかを予測する／ロジスティック回帰分析
 【13】:調査対象者をいくつかの行動傾向を元にグループ分けする／クラスター分析
 【14】:調査項目を回答傾向でまとめる／主成分分析

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布された資料に基づいて、各回の授業で取り上げる統計手法について予習・復習を行うこと(2 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 授業内に行う小テスト:30% 授業への参加態度:25%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

秋川卓也 / 内藤統也 『文系のための SPSS 超入門 新装版』 プレアデス出版 2007 9784903814032

山際勇一郎・服部環 『文系のための SPSS データ解析』 ナカニシヤ出版 2016 9784779510137

その他 / Others

SPSS(IBM 社が提供する統計解析ソフトウェア)を利用するにあたり、必要な統計学の知識は授業内で随時取り上げる。

社会科学情報処理

Information Processing for Social Science

社会調査の留意点と SPSS を利用した社会調査データの分析

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX485
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会調査でデータを収集、また収集されたデータを分析するための能力を養うとともに、法学を学ぶ上で必要不可欠な論理的思考能力を鍛錬する。

This course will develop the ability to collect and analyze data in social surveys, as well as the logical thinking skills that are essential for studying law.

授業の内容 / Course Contents

実際の社会調査で収集されたデータを利用し、統計解析ソフト SPSS を利用した分析手法について実習を交えて説明する。授業は以下の内容で構成される。

(1) 質問項目と調査方法の妥当性と信頼性の概説

調査自体に問題が存在するとデータを分析しても的確な結果は得られない。

質問項目や調査方法が原因で生じる妥当性・信頼性の問題について概説する。

(2) データ傾向の把握と全体的傾向の推測

データを整理・要約し行動傾向を記述するためには、項目の内容に応じた適切な手法を選択する必要がある。項目を表す数値の種類と統計的な記述方法との関係や留意点について説明し実習するとともに、データから全体的傾向を推測する方法についても実習する。

(3) 調査目的と質問内容に応じた分析手法の選択

調査では行動傾向をつかむだけでなく、行動の要因を探り、関連性を把握し、今後の行動予測に応用することも目的であり、そのためには統計解析による分析が必要となる。実際に調査分析で利用されている分析の内容や、統計解析の種類、選択のポイントについて説明する。

(4) 分析結果の説明

実際に統計解析を実行するとどのような結果が得られるのか、数値は何を表し、どのように説明できるのか。分析結果の読み取り方について説明するとともに、偽相関のような手法や結果説明にひそむ問題点についても述べる。あわせて統計解析ソフト SPSS を利用したデータ分析と解釈の実習もおこなう。

Using the data collected in actual social surveys, we will explain the statistical analysis method using the statistical analysis software SPSS with practical training. The course consists of the following contents.

(1) Overview of validity and reliability of question items and survey methods

If there is a problem with the survey itself, the analysis of the data will not yield accurate results. The course will provide an overview of validity and reliability issues that arise due to question items and survey methods.

(2) Understanding data trends and estimating overall trends

In order to organize and summarize data and describe behavioral tendencies, it is necessary to select an appropriate method according to the content of the item. In addition to explaining and practicing the relationship between the types

of numerical values that represent items and the statistical description methods and points to keep in mind, we will also practice how to infer overall trends from data.

(3) Selection of analysis method according to survey purpose and question content

The purpose of the survey is not only to grasp behavioral trends, but also to explore the causes of behavior, understand the relationships, and apply it to future behavior predictions, which requires statistical analysis. Explains the content of analysis actually used in survey analysis, types of statistical analysis, and selection points.

(4) Interpretation of analysis results

What kind of results are obtained when statistical analysis is actually performed, what do the numbers represent, and how can they be interpreted? And to what extent can the numbers be interpreted? In addition to explaining how to read the analysis results, we also discuss methods and problems hidden in the interpretation of the results such as false correlations. The course will include practical training in data analysis and interpretation using the statistical analysis software SPSS.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 調査の妥当性に問題が生じる質問項目の内容と調査対象の偏り
- 【2】: サンプルサイズによって生じるデータの誤差と信頼性の指標
- 【3】: 回答方法の違いと符号化された数値の種類: Stevens の尺度の 4 分類
- 【4】: 調査データの傾向を数値で表す: 記述統計
- 【5】: 調査データと一般的傾向との誤差を推測する: 区間推定
- 【6】: 調査データから一般的な傾向を推測できるのか: 統計的検定と有意確率
- 【7】: 回答を選択した人数の偏りから質問項目間の関係性を検討する: カイ二乗検定
- 【8】: 行動傾向の強さをもとに質問項目間の関係性を表す: 相関係数
- 【9】: 2つの質問項目間で回答の平均値を比較し、傾向の違いを調べる: 対応のある t 検定
- 【10】: 2つの条件間で回答の平均値を比較し、傾向の違いを調べる: 対応の無い t 検定
- 【11】: 3 条件以上の回答の平均値を比較、傾向の違いを調べる: 分散分析と多重比較
- 【12】: ある行動傾向の強さを別の行動傾向の強さを利用して予測する: 重回帰分析
- 【13】: 2つの選択肢からどちらを選ぶのか、行動傾向の強さをもとに予測する: 判別分析
- 【14】: 行動傾向の強さをもとに回答者をグループ分けする: クラスタ分析

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料と分析に利用する質問項目の内容を確認し、分析の疑問点を整理する。また質問項目への回答に影響を与えようと考えられる要因、質問項目同士の関係性について自分なりに仮説をたてておくこと。また扱った分析はどのような行動の分析に応用可能か、その際どのような点に留意して質問項目と回答方法を設定する必要があるか、また実際に実施された類似の調査や分析結果を解釈する際の留意点について整理すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :45%
平常点割合 :55% 授業時に指定する課題提出(11 回):55%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

栗原伸一・丸山敦史『統計学図鑑』オーム社 2017 9784274220807
内藤統也・秋川卓也『文系のための SPSS 超入門』プレアデス出版 2007 9784903814032
江崎貴裕『分析者のためのデータ解釈学入門 データの本質をとらえる技術』ソシム 2020 9784802612906
シュピーゲルハンター『統計学の極意』草思社 2024 9784794226921

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回メディアセンターの実習室で講義・実習する。分析の実習に使用する SPSS は実習室でしか使用できないため、特に準備すべき機器はない。

ただし分析後の結果の整理および課題作成に文書作成アプリを使用する。実習室の機器利用を前提に説明するが自分の機器で作成してもよい。Word または PDF 形式で表示できるならば使用するアプリの種類は問わない。Macintosh の利

用も可能。

その他 / Others

授業資料配布及び課題提出には Canvas LMS を利用する。

会計学

Accounting

会計学の基本的な知識を習得する

坂内 慧(SAKAUCHI KEI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX486
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. 会計が、誰に向けて、何のために行われるのかを理解し説明できるようになる
2. 企業の財務諸表を作成する上での考え方を理解し説明できるようになる
1. To understand and be able to explain to whom and for what purpose accounting is performed.
2. To be able to understand and explain the concept of preparing financial statements of companies

授業の内容 / Course Contents

会計は、一定のルールのもと、経済主体の活動を主に貨幣額によって測定・伝達するプロセスです。本講義では、会計の基礎的な考え方を理解するとともに、企業が財務諸表をどのように作成・報告しているのかということについて学習し、会計学に関する基本的理論を習得してもらうことを目的としています。

Accounting is the process of measuring and communicating the activities of economic entities under certain rules, mainly in terms of monetary amounts. The aim of this course is to provide students with an understanding of the basic concepts of accounting and how companies prepare and report their financial statements, as well as to provide them with a basic theory of accounting.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 会計の仕組みと会計計算書の基本
- 【3】: 様々な会計学
- 【4】: 現金出納帳と会計報告書
- 【5】: 財務諸表の関係と複式簿記の仕組み
- 【6】: 問題演習(1): 第 5 回まで
- 【7】: 株式会社と計算書
- 【8】: 会計公準と一般原則
- 【9】: 会社の設立等
- 【10】: 貸借対照表の表示法と営業開始取引
- 【11】: 簿記会計の基本構造, 会計学と簿記記録の関係
- 【12】: 当期の収入・支出と収益・費用の不一致
- 【13】: 損益計算書と貸借対照表の作成
- 【14】: 問題演習(2): 第 13 回まで
- 【15】: 前期の復習
- 【16】: 損益計算書の概観
- 【17】: 売上高の計算基準(売上総利益の計算①)

- 【18】:売上原価の計算基準(売上総利益の計算②)
- 【19】:販売費及び一般管理費の計算基準と見越繰延(営業利益の計算①)
- 【20】:販売費及び一般管理費の計算基準と営業用固定資産(営業利益の計算②)
- 【21】:販売費及び一般管理費の計算基準と引当金(営業利益の計算③)
- 【22】:問題演習(3):営業利益の計算までの問題演習
- 【23】:営業外損益の計算基準(経常利益の計算①)
- 【24】:問題演習(4):経常利益の計算までの問題演習
- 【25】:特別損益の計算および当期純利益の計算
- 【26】:損益計算書と貸借対照表の作成
- 【27】:財務諸表分析の基礎
- 【28】:製造業会計の基礎

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習:各講義回に対応する教科書の該当部分を読む
 復習:講義資料の復習とCanvas LMS における小テストの受験

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%
 平常点割合 :30% 小テスト:30%
 Canvas LMS において小テストを実施する

テキスト / Textbooks

新田忠誓・佐々木隆志他 『会計学・簿記入門』(第 17 版) 白桃書房 2024 9784561352259

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

初歩的な簿記・会計に興味のある学生に履修していただければと思います。初学者でも全く問題なくついてこれると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具, 電卓

その他 / Others

パワーポイントを使った講義を行います。
 Canvas LMS にアップロードされる小テストを毎回受験してください
 講義に関する質問は, 講義前後ないし Email にてお願いします。

社会政策論

Social Policy & Administration
福祉と労働の経済学

田中 聡一郎 (TANAKA SOICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX487
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	経済理論等の回(5-8、17・18、23・24)は、オンデマンド配信で実施し、復習しやすいようにする。
校地	池袋	学期	春学期
単位	4	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、社会政策の基本的知識と経済学的理解の習得を目的とする。

The objective of this course is to acquire an essential knowledge and economic understanding of social policy.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、社会政策がどのように機能しているのかを経済学的に検討する。授業の内容は、社会政策の制度概要、その機能、政策トピックスの提供である。前半は労働政策について、後半は社会保障制度について講義する。

This course will discuss how social policy works from an economic perspective. The content of the course will provide an overview of the social policy, its functions, and policy topics. The first half of the course will focus on labor policy, and the second half will focus on the social security system.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 社会政策とは: その定義と範囲
- 【3】: 日本の所得分配
- 【4】: 日本の労働市場
- 【5】: 社会政策の政府資料・統計のガイダンス
- 【6】: 経済理論①: 政策介入の合理性
- 【7】: 経済理論②: 社会保障・労働政策の根拠
- 【8】: 労働市場①: 日本的雇用慣行
- 【9】: 労働市場②: 非正規雇用・女性労働
- 【10】: 小テスト①: 【社会政策の経済学的理解】
- 【11】: 労働規制①: 最低賃金
- 【12】: 労働規制②: 労働時間規制
- 【13】: 労働保険①: 労災保険
- 【14】: 労働保険②: 雇用保険
- 【15】: 小テスト②: 【労働政策全般】
- 【16】: 日本の社会保障制度
- 【17】: 経済理論③: 年金の経済学
- 【18】: 生活保護制度

- 【19】: 児童手当
 【20】: 公的年金制度
 【21】: 公的年金改革
 【22】: 小テスト③:【社会保障(現金給付)】
 【23】: 経済理論④: 現物給付の経済学
 【24】: 経済理論⑤: 医療の経済学
 【25】: 医療保険制度
 【26】: 介護保険制度
 【27】: 子育て支援
 【28】: 小テスト④:【社会保障(現物給付)】

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

経済理論等の回(5-8、17・18、23・24)は、オンデマンド配信で実施し、復習しやすいようにする。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業では、Canvas LMS にレジュメ、参考文献、動画の案内を掲示します。予習や復習に活用してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト①:20% 小テスト②:20% 小テスト③:20% 小テスト④:20% 授業内課題(コメントペーパーやミニレポート):20%

テキスト / Textbooks

駒村康平、山田篤裕ら『社会政策:福祉と労働の経済学[新版]』有斐閣 2025 4641222401

※ テキストは 2025 年発売の新版を用います。

参考文献 / Readings

ニコラス バー(菅沼隆監訳)『福祉の経済学: 21 世紀の年金・医療・失業・介護』光生館 2007 4332600835

大森義明、永瀬伸子『労働経済学をつかむ』有斐閣 2021 9784641177307

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

経済学アプローチへの興味・関心を持ってほしいと思います(事前の知識は不要です)。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

コメントペーパーやミニレポートは Canvas LMS を通じて提出するため、ノート型 PC の授業内利用を推奨しています。

その他 / Others

今年度は春学期2コマ連続で開講します。

財政学

Public Finance
危機の時代の財政

倉地 真太郎 (KURACHI SHINTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX488
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX3900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、財政と市場の関係性、日本と諸外国が直面する財政問題を学び、財政政策と公共サービスの意義と課題を理解すること、身近な社会問題を財政学的視点でとらえることである。

The goals of this course are to study the relationship between public finance and markets, to learn about fiscal issues facing Japan and other countries, to understand the significance and challenges of fiscal policy and public services, and to view familiar social issues from a fiscal perspective.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、財政学を理論と実際の両面から学習する。現在、日本は未曾有の政府債務を抱えており、将来の公共サービスの持続可能性に対して多くの人々が不安を抱えている。最近では政府が「異次元の少子化対策」を掲げて子育て支援政策の拡充を検討し、防衛費も過去最大の額を計上するなど財政支出は拡大し続けている。財政支出の拡大は日本だけに限らない。2020 年初頭から猛威を奮った新型コロナウイルス感染症、2022 年からはウクライナ危機を背景に、多くの先進諸国でも財政支出の拡大が見られる。このような財政のあり方は持続可能なのだろうか。あるべき社会保障財政、地方財政、財政政策はどのようなものだろうか。なぜ日本では様々な財政問題が発生しているのか。どのようにすれば解決可能なのか。財政政策の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深める。

In this course, students will study fiscal science from both theoretical and practical perspectives. Currently, Japan is saddled with unprecedented government debt, and many people are concerned about the sustainability of public services in the future. Fiscal spending continues to expand, with the government recently considering expansion of childcare support policies under its "countermeasures against the declining birthrate of another dimension," as well as the largest-ever defense spending. The expansion of fiscal spending is not limited to Japan; many developed countries are also expanding their fiscal spending against the backdrop of the COVID-19 infection that has been raging since early 2020 and the Ukrainian crisis since 2022. Is this type of public finance sustainable? What are the ideal social security finances, local government finances, and fiscal policies? Why are various fiscal problems occurring in Japan? How can they be solved? Using the study of fiscal policy as a starting point, we will deepen our understanding of the issues facing contemporary society.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(危機の時代の財政)
- 【2】: 財政の機能と役割
- 【3】: 公共財の理論と外部性
- 【4】: 予算編成と予算原則
- 【5】: 租税原則
- 【6】: 所得税

- 【7】: 法人税
- 【8】: 資産課税
- 【9】: 消費税
- 【10】: 環境税
- 【11】: 財政赤字の歴史
- 【12】: 公債管理政策
- 【13】: 財政・経済政策①—公共投資—
- 【14】: 財政・経済政策②—金融政策—
- 【15】: 福祉財政①—税方式と社会保険方式—
- 【16】: 福祉財政②—年金財政—
- 【17】: 福祉財政③—生活保護財政—
- 【18】: 福祉財政④—医療財政—
- 【19】: 福祉財政⑤—介護財政—
- 【20】: 福祉財政⑥—保育財政—
- 【21】: 福祉財政⑦—教育財政—
- 【22】: 福祉財政⑧—普遍主義と選別主義—
- 【23】: 地方財政の理論と実際①—地方税—
- 【24】: 地方財政の理論と実際②—地方交付税—
- 【25】: 地方財政の理論と実際③—地方公営企業—
- 【26】: グローバル化と財政民主主義
- 【27】: 人口減少時代の財政問題
- 【28】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃からニュースに目を通し、時事問題に広く関心を持つようにすること。講義資料や講義で紹介した参考文献を確認し、復習する必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:30% 中間レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

高端正幸・佐藤滋 『財政学の扉をひらく』 有斐閣 2020 9784641150829

池上岳彦編 『現代財政を学ぶ』 有斐閣 2015 9784641184244

沼尾波子ら 『地方財政を学ぶ(新版)』 有斐閣 2023 9784641184640

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし。公務員試験対策にも役立ち、かつ経済学の初学者にも分かりやすい講義を心がける。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。講義資料は紙で配布しない。すべて Canvas LMS で事前に公開する予定なので必要であれば印刷しておくか、PC やタブレットで見ながら講義を受けること。

その他 / Others

講義担当者 HP:<https://shintarokurachi.org/>

日本史概説

Japanese History
日本金融史

落合 功(OCHIAI KO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX491
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面による講義
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部教職課程登録者のみ 教職課程登録者以外は抽選登録(EX493)にて申し込むこと		

授業の目標 / Course Objectives

日本金融史の流れを理解する。

Understanding the flow of Japanese financial history

授業の内容 / Course Contents

古代から現代にいたるまで、日本金融史の流れを紹介する。

Introducing the flow of Japanese financial history from ancient times to the present.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、金融史の諸問題
- 【2】: 貨幣の登場と流通1
- 【3】: 貨幣の登場と流通2
- 【4】: 金融業の発生と信用取引の登場1
- 【5】: 金融業の発生と信用取引の登場2
- 【6】: 150 年の戦乱から 260 年の平和の時代へ
- 【7】: 江戸時代の通貨制度と紙幣の登場1
- 【8】: 江戸時代の通貨制度と紙幣の登場2
- 【9】: 米遣いの経済と貨幣経済
- 【10】: 明治期財政と金融制度の整備1
- 【11】: 明治期財政と金融制度の整備2
- 【12】: 戦後日本経済の展開と銀行1
- 【13】: 戦後日本経済の展開と銀行2
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを事前に読んでおく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

落合功『新版 日本金融史』日本経済評論社 2016 9784818824294

参考文献 / Readings

落合 功『ちょっと深掘り 日本金融史』学文社 2024 9784762033193

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

しっかり講義を聞くこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

試験は、参考文献の方を中心に(『ちょっと深掘り日本金融史』)出題します。

世界史概説

World History
近代世界とアジア

島田 竜登 (SHIMADA RYUTO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX492
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、16 世紀以降の近代世界の諸相を検討しながら、グローバル化時代の現代に生きるわれわれにとって、世界史とは何かということを考える。15 世紀末から、アメリカ大陸を含めた世界の一体化が急速に進展する。モノや人、情報がグローバルなスケールで移動し、人々の生活が大きく変化し、現在のわれわれの社会を生み出していったのである。本講義は近年盛んとなっているグローバル・ヒストリーの立場から、近代世界の形成と変容について概観を試みたい。

The objective of this course is to think about what world history means to us as we live in this current age of globalization while examining the various phases of the modern world since the sixteenth century. From the end of the fifteenth century, the integration of the world including the American continent rapidly advanced. Things, people, and information moved on a global scale, people's lives significantly changed, and it brought about the creation of our current society. This course will attempt to provide a general overview of the formation and transformation of the modern world from the perspective of global history, which has become popular in recent years.

授業の内容 / Course Contents

講義は、第一に産業革命以前のグローバル・ヒストリーを、第二に、産業革命以後のグローバル・ヒストリーを検討する。最終的には、世界史の見方、歴史学の方法について考究する。なお、講義にあたっては、日本を含むアジアを近代世界の中にどのように位置づけるかについて注意深く考察を行うことにする。

The lectures will first examine global history before the Industrial Revolution and then during the second stage after the Industrial Revolution. Finally, this course will investigate the perspectives of World History and the methods of historical science. Furthermore, the lectures will carefully examine how Asia including Japan is positioned within the modern world.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 問題の所在: グローバル・ヒストリーとは何か
- 【2】: 大航海時代と銀
- 【3】: オランダ東インド会社の世界貿易
- 【4】: 近世アジアと異文化接触
- 【5】: 近世日本の世界史的 position
- 【6】: 産業革命の世界史的意義
- 【7】: 綿布のグローバル・ヒストリー
- 【8】: アジアの開発と世界商品
- 【9】: 世界の緊密化とアジア
- 【10】: 金融制度とグローバル経済
- 【11】: グローバル化とライフスタイル

【12】:エネルギーと近代世界

【13】:リオリエントへの展望

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

とくに復習に力を入れて下さい。講義の際、適宜、参考文献を紹介するので、紹介文献を手始めに、多読を望みます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

水島司・島田竜登『グローバル経済史』放送大学教育振興会 2018 9784595318818

参考文献 / Readings

小川幸司・島田竜登編『構造化される世界:14～19世紀』岩波書店 2022 9784000114219

島田竜登編『1683年 近世世界の変容』山川出版社 2018 9784634445079

島田竜登編『1789年 自由を求める時代』山川出版社 2018 9784634445086

金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020 9784623087792

吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房 2022 9784623092178

水島司『グローバル・ヒストリー入門』山川出版社 2010 9784634349650

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし

日本史概説

Japanese History
日本金融史

落合 功(OCHIAI KO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX493
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面による講義
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部教職課程登録者は、科目コード EX491 を登録すること		

授業の目標 / Course Objectives

日本金融史の流れを理解する。

Understanding the flow of Japanese financial history

授業の内容 / Course Contents

古代から現代にいたるまで、日本金融史の流れを紹介する。

Introducing the flow of Japanese financial history from ancient times to the present.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、金融史の諸問題
- 【2】: 貨幣の登場と流通1
- 【3】: 貨幣の登場と流通2
- 【4】: 金融業の発生と信用取引の登場1
- 【5】: 金融業の発生と信用取引の登場2
- 【6】: 150 年の戦乱から 260 年の平和の時代へ
- 【7】: 江戸時代の通貨制度と紙幣の登場1
- 【8】: 江戸時代の通貨制度と紙幣の登場2
- 【9】: 米遣いの経済と貨幣経済
- 【10】: 明治期財政と金融制度の整備1
- 【11】: 明治期財政と金融制度の整備2
- 【12】: 戦後日本経済の展開と銀行1
- 【13】: 戦後日本経済の展開と銀行2
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを事前に読んでおく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

落合 功『新版 日本金融史』日本経済評論社 2016 9784818824294

参考文献 / Readings

落合 功『ちょっと深掘り 日本金融史』学文社 2024 9784762033193

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

しっかり講義を聞くこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

試験は、参考文献の方を中心に(『ちょっと深掘り日本金融史』)出題します。

法政リーディング&ライティング

Japanese Reading & Writing(Law and Politics)

鹿目 葉子(KANOME YOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX494
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	履修対象学生は日本語を母語としない法学部生に限る。		

授業の目標 / Course Objectives

法学部の学生が、法学部における講義の理解に必要な日本語のリーディングスキルを身に着ける。また、法学部におけるレポート作成、試験問題への回答などのために必要なライティングスキルを身に着ける。

The purpose of this course is to provide students of the Faculty of Law with the reading skill in Japanese required to understand lectures at the Faculty of Law. In addition, the students enrolled in this course will acquire the writing skills necessary for preparing reports at the Faculty of Law and answering exam questions.

授業の内容 / Course Contents

法学部での学びに関連した内容の文章を読み、その内容を自分の言葉で説明する。また、理解した内容を基礎として、自分なりの意見をまとめて書くことにつなげる。「書く」ことに関しては、①読んだ内容をふまえ、さらに文献などを調べて、レポートにまとめる、②読んだ内容を理解し、出された問に文章で制限時間内に回答する、という2つのスキルに焦点をあてて扱う。さらに、日本語で書くために必要な語彙や文型についても扱う。授業後半には、専門科目でのレポートや試験を想定した筆記テストを行い、法学部での学びに十分な日本語力が身に着いたかを各自が確認する。

Students will read texts pertinent to their studies at the Faculty of Law and will explain the content in their own words. Additionally, based on the content they understood, students will link it to summarize and write their opinions. The following skills will be focused in writing: (1) based on what students have read, they conduct further research by reading additional literatures and others and write a summary in a report, and (2) students comprehend the content of the reading materials and answer questions in writing within a given time limit. In addition, vocabulary and sentence pattern required for writing in Japanese will also be covered. In the second half of the course, students will report in specialized courses and take a written test simulating the examination to determine whether they have acquired sufficient Japanese language skills for their studies at the Faculty of Law.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:読む・書く技術①
- 【3】:読む・書く技術②
- 【4】:読む・書く技術③
- 【5】:読む・書く技術④
- 【6】:読む・書く技術⑤
- 【7】:読む・書く技術⑥
- 【8】:読む・書く技術⑦
- 【9】:読む・書く技術⑧
- 【10】:読む・書く技術⑨
- 【11】:読む・書く技術⑩

【12】:読む・書く技術①

【13】:筆記テスト(読み、書き能力測定テスト)

【14】:テストのフィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で、予習、復習等については指示する。講義 1 回あたり 4 時間の授業時間外学修が必要であることを目安として、予習・復習に取り組むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題:35% 参加度:30% 伸長度確認テスト:35%

テキスト / Textbooks

授業で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

法学部で 4 年間学んでいくための日本語を身に着ける科目です。責任をもって、毎回の課題に積極的に取り組んでください。

キャリア意識の形成

Career Planning Formation

キャリア形成のための自覚的検討とコミュニケーション能力の向上

薬師丸 正二郎<薬師丸 正二郎>/原田 昌和(YAKUSHIMARU SHOJIRO/ HARADA MASAKAZU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX499
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、受講者一人一人が、将来の進路を考えるに際して必要な情報を手に入れる手がかりを得るとともに、法学部での学修が社会とどのように関わっているかについて考えることにより、各自にふさわしいキャリアを形成するための方法について、自覚的に検討する機会を与えることを目的とする。

The purpose of this course is to provide each student with an opportunity to consciously examine the methods used to build a career which is well-suited to them by thinking about how their studies in the College of Law and Politics relate to society while receiving clues to obtain the information which is necessary when thinking about a future career path.

授業の内容 / Course Contents

自分のキャリアについて広く深く考え、行動するために、多様な考え方を知るとともに、社会で生きていくために不可欠なコミュニケーション能力がいかなるものかを体験的に学ぶ。さらに、2 年次秋学期という専門科目を本格的に学び始めた時期において、法学部の学修の意義と方法を再確認する。

具体的には、本学法学部卒業生を中心としたゲストスピーカーを招き、キャリアに関する情報や考え方を提供する。ゲストスピーカーと受講生との質疑応答、コメント・カードの提出、レポート作成等を行い、法学部における学修とキャリアとの関係、また「働く」こと、さらには、「生きる」ことについて、受講生が自己の見解を明確にもち、それを表現できるようにする。あわせて、個人、ペア、グループワークによるコミュニケーション能力向上のトレーニングを行う。

In this class, students will learn from direct experience what the essential communication skills for living in society are while understanding diverse ways of thinking, broadly and deeply considering their own career, and using it as an opportunity to take action. In addition, when taken during the fall semester of the second year when students begin to formally study the specialized disciplines, this course will reconfirm the significance and methods of study within the College of Law and Politics.

Specifically, this course will invite guest speakers who are primarily graduates of the university's College of Law and Politics to provide information and points of view about careers. Through Q&A sessions between the guest speakers and students, comment card submissions, and writing reports, students will clarify and become able to express their own self opinion in regard to the relationship between their studies in the College of Law and Politics and their career as well as what it means "to work" and "to live". In addition, training will be conducted to improve communication skills through individual, pair, and group work.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: スキルトレーニング(1)

- 【3】: ゲスト・スピーカー
 【4】: ゲスト・スピーカー
 【5】: ゲスト・スピーカー
 【6】: ゲスト・スピーカー
 【7】: スキルトレーニング (2)
 【8】: ゲスト・スピーカー
 【9】: ゲスト・スピーカー
 【10】: ゲスト・スピーカー
 【11】: スキルトレーニング (3)
 【12】: スキルトレーニング (4)
 【13】: ゲスト・スピーカー
 【14】: スキルトレーニング (5) と全体ふり回り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド (パワポ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本講義では学生の積極的な参加が望まれるので、事前に問題意識を持って参加すること。
 参考文献に掲げた書物を中心に、キャリアデザインに関する基本的知識を得たり、ゲストスピーカーの業界や職種、企業などについて、『会社四季報』や諸文献、インターネットによって情報を随時得ておくこと。日頃から、社会の動きにアンテナを張り、分野を問わず、さまざまな問題について関心を持ち、自分で調べておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 出席を含めた講義への積極的参加: 60% レポート: 40%

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト / Textbooks

指定しない

参考文献 / Readings

ビル・バーネット & デイブ・エヴァンス スタンフォード式人生デザイン講座 早川書房 2019 9784150505462
 小塩真司 非認知能力: 概念・測定と教育の可能性 北大路書房 2021 9784762831645
 水國照充他 楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学 北樹出版 2018 9784779305771
 児美川 孝一郎 キャリア教育のウソ 筑摩書房 2013 9784480688996
 本田由紀 教育の職業的意義—若者、学校、社会をつなぐ 筑摩書房 2009 9784480065230
 森岡毅 苦しかったときの話をしようか ダイアモンド社 2019 9784478107829

その他 / Others

採用人数は 100 名程度、配当学年は 2 年次のみ。履修申込の際、提出するレポートにより選考する。
 題目は、「①本講座への志望理由とともに、②法学部の学修は社会に出て、どのように役立つと考えるかについて述べて」。字数: 1000 字程度。Word 形式とする。

注意事項 (検索結果画面)

成績評価は合格・不合格のみとする。

基礎文献講読

Basic Readings

新入学生のための導入演習

鄭 燦玉 (JUNG CHANOK)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX501
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法学や政治学などの社会科学を専門的に学ぶための導入として、基本的で含蓄のある文献を素材として適宜用いながら、文献や資料の収集方法・プレゼンテーションの作法・レポート作成の方法・読解力・論理的思考力などを身につける。 This is an introductory course for freshmen students who are going to major in law and political science. By using basic yet significant literature as reading materials, this course aims to provide students with a comprehensive knowledge on how to gather materials, skills for making a presentation, how to write a report, reading comprehension skills, and logical thinking methods.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、次のスタイルで実施する予定である。

履修者は、全員、授業回ごとに指定する文献の該当範囲をよく読んで授業に参加する。あらかじめこちらから提示する論点などについて、コメントカードの作成を求めることもある。また、報告者を指名して、文献の要約を中心とするレジメの作成と報告を求めることもある。授業では、報告者による発表や、各自のコメントカードなどを基に、履修者全員が各自の意見・疑問を示しつつ、それをふまえて全員で討論することで理解を深める。

また、講読する文献や討論から浮かび上がってきた論題や、発展的な論題をいくつか選び、それらについての討論を行う授業回を設ける場合もある。その際に履修者は、関連する情報を丹念に収集・調査して自己の見解を事前にまとめる等、十分に準備をする。授業を通じて履修者は、意見交換やお互いの疑問や批判に応えることを通じて、自らの見解を深め、説得力のある主張を示すことができるように努める。

This course is going to be conducted in the following ways.

All students shall participate in class after reading assigned readings for each week. Students may be required to write reaction papers regarding issues presented by the lecturer. Student presenters will be nominated to create an outline summarizing the reading assignments and asked to make a presentation. Based on the presentations and reaction papers, students are to take part by speaking in the discussion to deepen their understanding.

In some cases, specific topics may be selected to conduct a discussion session for the subjects. Students are required to prepare for the session by gathering related information in order to establish their own views on the issues. This class aims to enable students to deepen their own views and become able to make persuasive statements through the exchange of opinions and by responding to mutual questions and criticism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:図書館情報検索講習会(他の回に行う場合もある)
- 【3】:文献の講読および討論①
- 【4】:文献の講読および討論②

- 【5】: 文献の講読および討論③
 【6】: 文献の講読および討論④
 【7】: 文献の講読および討論⑤
 【8】: 文献の講読および討論⑥
 【9】: 文献の講読および討論⑦
 【10】: 文献の講読および討論⑧
 【11】: 文献の講読および討論⑨
 【12】: 文献の講読および討論⑩
 【13】: 文献の講読および討論⑪
 【14】: 文献の講読および討論⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:70% 最終レポート割合::30%

2 回連続無断欠席, 通算 3 回欠席の場合, もしくは最終レポートを提出しない場合, 原則として履修放棄として扱われる。

テキスト / Textbooks

授業の最初の回に指示する。テキスト・参考文献のいずれについても, 必要があればコピーを配布することもある。

参考文献 / Readings

授業の最初の回などに, 適宜, 指示する。

その他 / Others

＜授業形態＞

演習形式の授業であり, 少人数のグループ・ディスカッションや最大 20 名程度の全体討論をおこなう。

＜フィードバック＞

指定教材のレジュメ作成や提出されたコメントペーパーに関して, 教員から適宜フィードバックを行う。

基礎文献講読

Basic Readings

新入学生のための導入演習

安藤 有史 (ANDO YUJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX502
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法学や政治学などの社会科学を専門的に学ぶための導入として、基本的で含蓄のある文献を素材として適宜用いながら、文献や資料の収集方法・プレゼンテーションの作法・レポート作成の方法・読解力・論理的思考力などを身につける。 This is an introductory course for freshmen students who are going to major in law and political science. By using basic yet significant literature as reading materials, this course aims to provide students with a comprehensive knowledge on how to gather materials, skills for making a presentation, how to write a report, reading comprehension skills, and logical thinking methods.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、次のスタイルで実施する予定である。

履修者は、全員、授業回ごとに指定する文献の該当範囲をよく読んで授業に参加する。あらかじめこちらから提示する論点などについて、コメントカードの作成を求めることもある。また、報告者を指名して、文献の要約を中心とするレジメの作成と報告を求めることもある。授業では、報告者による発表や、各自のコメントカードなどを基に、履修者全員が各自の意見・疑問を示しつつ、それをふまえて全員で討論することで理解を深める。

また、講読する文献や討論から浮かび上がってきた論題や、発展的な論題をいくつか選び、それらについての討論を行う授業回を設ける場合もある。その際に履修者は、関連する情報を丹念に収集・調査して自己の見解を事前にまとめる等、十分に準備をする。授業を通じて履修者は、意見交換やお互いの疑問や批判に応えることを通じて、自らの見解を深め、説得力のある主張を示すことができるように努める。

This course is going to be conducted in the following ways.

All students shall participate in class after reading assigned readings for each week. Students may be required to write reaction papers regarding issues presented by the lecturer. Student presenters will be nominated to create an outline summarizing the reading assignments and asked to make a presentation. Based on the presentations and reaction papers, students are to take part by speaking in the discussion to deepen their understanding.

In some cases, specific topics may be selected to conduct a discussion session for the subjects. Students are required to prepare for the session by gathering related information in order to establish their own views on the issues. This class aims to enable students to deepen their own views and become able to make persuasive statements through the exchange of opinions and by responding to mutual questions and criticism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:図書館情報検索講習会(他の回に行う場合もある)
- 【3】:文献の講読および討論①
- 【4】:文献の講読および討論②

- 【5】: 文献の講読および討論③
 【6】: 文献の講読および討論④
 【7】: 文献の講読および討論⑤
 【8】: 文献の講読および討論⑥
 【9】: 文献の講読および討論⑦
 【10】: 文献の講読および討論⑧
 【11】: 文献の講読および討論⑨
 【12】: 文献の講読および討論⑩
 【13】: 文献の講読および討論⑪
 【14】: 文献の講読および討論⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:70% 最終レポート割合::30%

2 回連続無断欠席, 通算 3 回欠席の場合, もしくは最終レポートを提出しない場合, 原則として履修放棄として扱われる。

テキスト / Textbooks

授業の最初の回に指示する。テキスト・参考文献のいずれについても, 必要があればコピーを配布することもある。

参考文献 / Readings

授業の最初の回などに, 適宜, 指示する。

その他 / Others

<授業形態>

演習形式の授業であり, 少人数のグループ・ディスカッションや最大 20 名程度の全体討論をおこなう。

<フィードバック>

指定教材のレジュメ作成や提出されたコメントペーパーに関して, 教員から適宜フィードバックを行う。

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law

いのちの法と倫理－生命倫理ことはじめ

土屋 裕子(TSUCHIYA YUKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX560
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人のいのちをめぐる問題を法的・倫理的側面から検討し、多角的な視点から物事を考察する力を身に付けます。

The purposes of this course are (1) to examine problems around human life from legal and ethical aspects and (2) to develop the ability to observe through a multifaceted perspective.

授業の内容 / Course Contents

私たちは日々医療や健康、そして生や死という問題と向き合いながら生きています。これらの問題は、「生命倫理」の問題と呼ばれ、それは誰もが生きている限り避けては通れない問題です。この授業では、人間のいのちをめぐるどのような問題が存在し、それに対してどのような議論がなされているのか、そして皆さんが大学で学んでいる「法」がどのように関連しているのかを考えてみたいと思います。

毎回、指定テキストから生命倫理に関する具体的な事例を取り上げ、全員で議論を行います。なお、この授業は「正しい答え」を提供するものではありません。答えのない問題に自分なりの答えを導き、様々な価値観を持つ仲間との議論を通じて、自分の価値観や既存の倫理観を再考してみましょう。

We live daily with the issues of medicine and health, as well as life and death. These issues are called "bioethical" issues, which are unavoidable as long as anyone is alive. In this class, we will consider what kind of issues exist concerning human life, what kind of arguments are being made against them, and how the "law" you are studying at university is related to them.

We will take up a specific case study on bioethics from the assigned text and discuss it with all the students. But the course is not intended to provide a "correct answer." All students should reconsider their values and existing ethical perspectives, then derive individual answers to problems that have no clear answers, and discuss them with others who have different values.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 【医療をめぐる生命倫理1】限られた医療資源の配分問題
- 【3】: 【医療をめぐる生命倫理2】新型コロナウイルス感染症と生命倫理
- 【4】: 【医療をめぐる生命倫理3】自己決定権とインフォームド・コンセント
- 【5】: 【医療をめぐる生命倫理4】小児医療・新生児医療
- 【6】: 【医療をめぐる生命倫理5】生体間移植・臓器売買
- 【7】: 【出生をめぐる生命倫理1】出生前診断
- 【8】: 【出生をめぐる生命倫理2】人工妊娠中絶

- 【9】:【出生をめぐる生命倫理3】生殖補助医療
 【10】:【出生をめぐる生命倫理4】代理出産
 【11】:【死をめぐる生命倫理1】脳死・臓器移植
 【12】:【死をめぐる生命倫理2】安楽死
 【13】:【死をめぐる生命倫理3】尊厳死
 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者は担当テーマに関する情報収集、レジュメ作成等、周到な準備が必要となります。また、最先端のテーマを扱いますので、日頃から新聞やニュース等で医療や科学技術に関する情報に関心を持つようにしてください。

なお、この授業では生命倫理に関する予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度:70% 報告の内容:30%

なお、正当な理由なく欠席回数が3回を超えた場合は単位を認めません。

テキスト / Textbooks

香川知晶『命は誰のものか 増補改訂版』ディスカヴァー携書 2021 4799327291

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:18名程度

配当年次:1年次

選考方法:レポート

①題目:このゼミの志望理由と意気込み

②字数:1,200字程度

ゼミ運営の都合上、合格後は必ずゼミに参加する意思のある方のご応募をお待ちしております。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

法学基礎演習(法曹)

Introductory Seminar on Law

法曹志望者のための刑法基礎演習

三代川 邦夫(MIYOKAWA KUNIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX561
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

将来、司法試験を受験するための基礎として、学修方法を確立し、法律文書の書き方を理解すること。

As a basis for taking the bar examination in the future, this course aims to establish learning methods for and impart understanding of how to write legal documents.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、正当防衛に関する地裁判決を取り扱います。

正当防衛は、(このシラバスをみている段階では)まだ授業で習っていないでしょうが、ある程度のイメージは沸くと思います。しかし、相手を挑発した場合でも、正当防衛は成立するのでしょうか。殺意があった場合は、どうでしょうか。あるいは、相手が素手で殴ってきたのに対し、こっちは包丁でやり返した場合はどうでしょうか。正当防衛は、単純なようでいて奥が深く、しかも実際によく事件になります。

正当防衛を考えるにあたって、実際の事件を取り上げます。本当に人が殺されている事件において、裁判官はどう答えを出したのか、そのような答えは本当に正しいのか、といった点を、考えていきます。最高裁判例よりも、むしろ地裁判決の方が考えさせられる事件が多く、詳細な事実関係が載っていることもあるので、地裁判決を取り上げることにします。それによって、事実関係を正確に理解する能力、事案の本質を見極める能力などを、磨くことができるはずです。

演習の形式としては、報告者が事実関係と判決を要約し、報告者の意見を交えて報告して貰います。それに対し、参加者全員で議論をします。

さらに、本演習では、報告者には報告後、次回演習までに、正当防衛の成否について、模擬判決文を起案して貰います。法律家を目指すためには司法試験という筆記試験を突破することが必要であり、さらに合格後も種々の文書を起案する必要があるため、文章作成能力は法律家として必須の能力です。そこで、法的な文章の書き方を身につけるべく、議論を踏まえてその内容を的確に書く訓練をします。

書いたものについては、参加者全員で検討する機会を設けようと考えています。これは、学生相互に文章を読んだり改善案を検討することにより、文章力が高まるためです。

This course aims to deal with district court rulings on self-defense.

(1) Students are unlikely to have learned much about self-defense, but they generally understand the concept. However, is self-defense possible even if the defender provokes the aggressor? If the aggressor has murderous intention or if the aggressor hits with his bare hand, but the defender uses a knife, is self-defense established? Self-defense seems simple, but it is deep, and in fact, often an accident.

The course considers self-defense by examining actual cases. Students consider how the judge arrived at a verdict when a person was actually killed and whether the judge's verdict was really correct. Because many cases are more likely to be heard by district courts than by the Supreme Court and are likely to contain detailed facts, the course focuses on district court cases. This activity should improve students' ability to understand facts accurately and to

determine the essence of a case.

(2) As an exercise, adopt a style in which a reporter summarizes facts and judgments and reports his/her opinions.

All students are required to join the discussion. Furthermore, in this exercise, the reporter is obliged to draft a mock judgment on the success or failure of self-defense after the report and before the next seminar. In order to become a lawyer, it is necessary to pass the written test called the bar exam, and since it is necessary to draft various documents even after passing, the ability to prepare sentences is essential for a lawyer. Therefore, to learn how to write legal sentences, students practice writing contents properly based on the discussion.

I am planning to provide an opportunity for all participants to discuss what they have written. This is because students improve their writing skills by reading each other's texts and considering improvement plans.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・報告の割り振り
- 【2】: 判例データベース講習会
- 【3】: 報告者による報告および議論(1)
- 【4】: 報告者による報告および議論(2)
- 【5】: 報告者による報告および議論(3)
- 【6】: 報告者による報告および議論(4)
- 【7】: 報告者による報告および議論(5)
- 【8】: 報告者による報告および議論(6)
- 【9】: 報告者による報告および議論(7)
- 【10】: 報告者による報告および議論(8)
- 【11】: 報告者による報告および議論(9)
- 【12】: 報告者による報告および議論(10)
- 【13】: 報告者による報告および議論(11)
- 【14】: 提出された文書に対する検討会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者は、レジメを作成するために事前の準備が必要である。他の参加者は、事前の準備をする必要はない。

また、最終回に向けて、文章を起案することも必要となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 担当回の報告内容: 30% 議論への参加度・貢献度: 50% (最終回用の)文書の起案・提出: 20%

テキスト / Textbooks

テキストを使用する予定はありません。

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数: 10 名程度

配当年次: 1 年次

選考方法: レポート

① 題目: 演習の志望動機を、具体的に書いて下さい。本演習は法曹養成コースを念頭に置いた演習であるため、将来の進路について考えていることにも触れて下さい。

② 字数: A4 用紙 1～3 枚

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law

グローバル社会と法学／グローバル化現象の分析に有用な方法論を学ぶ

荻村 慎一郎 (OGIMURA SHINICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX562
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

企業活動と就業・労働の領域を対象に、法学の方法論を用いて、グローバル化の深化・拡大に伴って生じている諸問題について考察します。

Using legal methodology, we will examine the problems that arise with the deepening and expansion of globalization, targeting the areas of corporate activities and employment and labor.

授業の内容 / Course Contents

企業活動が地球規模で展開されている現代においては、営利追求に熱心なビジネス・コミュニティの振る舞いと世界各地域に固有の法制度、文化、慣習との間の関係が、グローバル化現象を映す象徴的な問題として考えられるようになっていきます。

そこで、本演習では、比較法学の知見をもとに、日本、米州諸国、欧州諸国、アジア諸国を対象としながら、グローバル化現象が私たちの生活にもたらす核心的な意味について把握することを試みます。

具体的には、農業・食品業を例に、取引活動、知的財産の保護、雇用および労働、農業政策に関する法的諸問題を検討します。

また、基礎演習であることから、普段の学修への取り組み方や試験に対する準備と心構えについても、適宜助言する予定です。

In the current world where corporate activities are developed on a global scale, the relationship between the behavior of the business community which seeks to pursue profits and the legal system, culture and customs unique to each region of the world can be considered to be a symbolic problem that reflects the phenomenon of globalization.

Therefore, in this seminar, based on the knowledge of Comparative Legal Studies, we will try to understand the core meaning that the phenomenon of globalization brings to our lives, targeting Japan, the Americas, European countries, and Asian countries.

Specifically, we will examine legal issues related to trading activities, protection of intellectual property, employment and labor, and policy processes taking the food and agriculture sector as examples.

Because this is an introductory seminar, students will receive proper counseling about how to undertake their regular studies and the preparation and mental attitude required for tests.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 演習全体の準備と展望: チームの編成と前提知識の説明
- 【2】: 労働の問題(労働法の初歩)①: 課題の把握
- 【3】: 労働の問題(労働法の初歩)②: 分析と準備
- 【4】: 労働の問題(労働法の初歩)③: 中間報告(プレゼンテーション)
- 【5】: 農業市場の問題(経済法の初歩)①: 課題の把握

- 【6】: 農業市場の問題(経済法の初歩)②: 分析と準備
 【7】: 農業市場の問題(経済法の初歩)③: 中間報告(プレゼンテーション)
 【8】: 知的財産の問題(知的財産法の初歩)①: 課題の把握
 【9】: 知的財産の問題(知的財産法の初歩)②: 分析と準備
 【10】: 知的財産の問題(知的財産法の初歩)③: 中間報告(プレゼンテーション)
 【11】: 農業政策全体の問題(憲法・行政法・国際法の初歩)①: 課題の把握
 【12】: 農業政策全体の問題(憲法・行政法・国際法の初歩)②: 分析と準備
 【13】: 農業政策全体の問題(憲法・行政法・国際法の初歩)③: 中間報告(プレゼンテーション)
 【14】: 全チームによる最終報告会(報告の完成とプレゼンテーション)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

チームごとに半年間をかけて、一つのテーマに取り組みます。
 共通の関心分野(問題)を持つ仲間同士でチームを組んだうえで、各チームが担当した分野(問題)については、教員の助力を得ながらも、そのチームが中心となってゼミを進行してもらいます。
 したがってそのための準備を、仲間同士で互いに協力し合って、無理のない範囲で授業時間外に進めて頂きます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 通常回における参加と取り組み:60% 中間報告および最終報告における報告の内容:40%

テキスト / Textbooks

オリジナル教材を毎回配布します。

参考文献 / Readings

生源寺眞一 農業がわかると、社会のしくみが見えてくる 新版 家の光協会 2018 9784259518660
 英語や言語 B で履修している外国語(担当教員が対応できるのはスペイン、フランス、ドイツ、中国の各言語)の自学自習の方法についても、ご関心のある方には助言できれば、と考えています。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:20 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:

①題目:農業・食品業に係る法的問題について

「牛肉」「和牛」「農協」「種子」「種苗」の 1 語単独または「農業」と「貿易(通商でも可)協定」もしくは「実習生」の 2 語の組み合わせの中から関心を持った言葉をてがかりに、東京新聞のウェブサイトのサイト内検索機能を用いて、2017 年以降の記事から 1 つを選んでください(誰でも無料で利用できる記事が多いことから、東京新聞を指定しています)。

選ぶ基準としては、何らかの法律または法的な話題に関係していることが求められます。

まず、選んだ記事の日付と見出しを掲げたうえで、記事の内容を簡潔に要約してください。

次いで、その記事を選んだ理由(あなたが関心をもっている学問分野や進路・職業を示せるという意味で、自己紹介になります)と自分なりにある程度調べたもののよくわからなかったので仲間と一緒に勉強してみたい点(この演習に対するあなたの知的動機を示すことになります)、この 2 点について、わかりやすくまとめてみてください。

②字数:1,200 字程度(A4 用紙で表面 1 枚以内を厳守のこと)

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law

倫理学トレーニング(心と体の倫理学+情動の脳科学)

宮澤 弘(MIYAZAWA HIROSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX563
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

二つの目標があります。一つは、倫理学の基本的な知識を獲得すること、もう一つは、ある概念につき、そこに横たわる論点を見つけ出して解釈し整理する力を文献講読を通してトレーニングすることです。

There are two objectives of this course. One is to acquire basic knowledge of the ethics. Another is to train the ability to interpret and organize the points which lie within a certain idea by reading literature.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、倫理学の基礎的な知識を学び、その知識を使って現在の様々な道徳的諸問題、特に心と体に関わる倫理問題について議論していきます。心と体に関わる倫理問題とは、例えば美容整形の是非、性別不合(性別違和、性同一性障害)をめぐる問題、記憶力や推論能力を強化するために薬を使用して脳の機能を向上させることが抱える問題、などです。これらは治療を超えた医学的介入であるとされ、エンハンスメントと呼ばれています。授業では、全体を通して倫理学の基礎的な知識を学びながら心と体に関する倫理的諸問題を議論していきますが、授業の中盤に情動に関する科学啓蒙書を読み関連する知識の幅も深めていく予定です。

In this seminar, students will learn basic knowledge of ethics and then discuss a number of contemporary moral issues, especially the mind-body ethics using that obtained knowledge. Ethical issues in relation to mind and body is, for example, cosmetic surgery, problems of gender incongruence (gender dysphoria, gender identity disorder), issues in regards to brain modifications by using drugs to increase memory or reasoning capabilities, and so on. These are called enhancement; medical intervention beyond medical treatment. Students will learn the basic knowledge of ethics and discuss some ethical issues related to mind and body throughout the whole, meanwhile students will also read some scientific nonfiction about consciousness and emotions for general public to deepen their knowledge base.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:はじめに(授業の進め方、参考文献の提示、説明、時間外学習について、担当報告の割り当て等)
- 【2】:容姿を整える～美容整形の倫理
- 【3】:運動能力を増強する～ドーピングの倫理
- 【4】:身体を機械化する～サイボーグ化の倫理
- 【5】:認知能力を向上させる～スマートドラッグの倫理
- 【6】:情動とは何か1<思考と感情>
- 【7】:情動とは何か2<情動の目的・心と体のつながり>
- 【8】:情動の驚くべき力1<情動が思考を導く・感情はどこからやってくるのか>
- 【9】:情動の驚くべき力2<動機・欲求と嗜好の関係・情動と決意>
- 【10】:全体討議(これまでの授業を振り返って)
- 【11】:気分・感情・性格を変化させる～感情制御の倫理

- 【12】:性を一致させる～性別移行をめぐる倫理
 【13】:遺伝子を操作する～遺伝子操作の倫理
 【14】:善人を作り出す～モラル・エンハンスメントの倫理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業毎に割り当てられる文献は必ず熟読してきてください。初回授業時に関連する文献を紹介しますので、関連文献は積極的に読み進めてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の積極的な発言:60% テキストの予習(事前学習):20% 報告の内容:20%

テキスト / Textbooks

佐藤岳詩『心とからだの倫理学』筑摩書房 2021 9784480684066

レナード・ムロディナウ『「感情」は最強の武器である:「情動的知能」という生存戦略』東洋経済新報社 2023 9784492047330

その他に必要な資料は配布します。

参考文献 / Readings

佐藤岳詩『メタ倫理学入門』勁草書房 2017 9784326102624

ジュリアン・バジーニ他、長滝祥司他訳『倫理学の道具箱』共立出版 2012 9784320005860

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社 1997 9784061592674

児玉聡『功利主義入門』筑摩書房 2012 9784480066718

マイケル・J・サンデル、林芳紀他訳『完全な人間を目指さなくてもよい理由』ナカニシヤ出版 2010 9784779504761

ジョセフ・ルドゥー『情動と理性のディープ・ヒストリー:意識の誕生と進化40億年史』化学同人 2023 9784759823332

ジョセフ・ルドゥー『エモーショナル・ブレイン:情動の脳科学』東京大学出版会 2003 9784130633192

その他の参考文献は適宜授業中に示します。

その他 / Others

採用人数/Number of students:10～15 名程度/Probability of 10 to 15 people

配当年次/Designated year:1 年次/1st year

選考方法/Selection method:レポート/Report

①題目/Title:この演習を志望した理由/Reason for applying this seminar

②字数/Character limit:1000 字程度/Approximately 1000 characters

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law

交渉学入門 (Introduction to negotiation studies)

濱野 亮 (HAMANO RYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX564
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

交渉に関する基本的知識とスキルを身につける。与えられた論点に関する文章作成能力と、口頭によるプレゼンテーションの能力を身につける。

Develop basic knowledge and skills in negotiation. Acquire the ability to write short essays on given issues and develop short writing skills and oral presentation skills on given issues.

授業の内容 / Course Contents

アルバイトのシフトの変更、サークルでの行事の決定、就活、会社での営業、企業買収、結婚、交通事故・相続・離婚などの紛争解決、どれをとっても、複数の人間が関わる全てのことは「交渉 negotiation」です。交渉の基本的知識とスキルを知っておくことは、これから社会に出ていく皆さんにとって役に立ちます。この演習は、交渉学の入門書を読み、交渉のロール・プレーとその振り返りを行うことで、交渉学の基礎的知識を得てもらうことをめざしています。

文献を読む回は、私が事前に提示した3つ程度の論点に対して、全員がテキストを正確に読んで自分の考えを文章にして毎回提出してもらいます。毎回の予習はかなりの分量になりますので、意欲ある人の履修を希望します。毎回、報告担当班を定め、テキストの担当部分の要約を分担して発表してもらいます。

また、交渉のロール・プレーを全員が行う回を数回設け、文献で学んだことを実際に経験してもらいます。

以上を通じて、2 年次以降に開講予定の交渉学ゼミの導入とします。

Changing shifts at part-time jobs, deciding on events at clubs, job hunting, sales at the company, the company acquisitions, marriages, resolving disputes such as traffic accidents, inheritance and divorce, all of which involve more than one person, are all "negotiations". Knowing the basic knowledge and skills of negotiation will be useful for everyone.

This seminar is an introduction to negotiation studies. This seminar will help you in your future career by reading an introduction to negotiation studies, role-playing a negotiation and reflecting on it.

In the literature reading sessions, all students are required to read the text accurately and to write their own ideas on the three or so issues I have presented to them beforehand. The amount of preparatory work for each session is quite large. Each time, a group in charge of reporting will be assigned and will be asked to present a summary of the part of the text for which they are responsible.

In addition, there are several times when everyone takes part in role-plays of negotiation, so that the students can actually experience what they have learned from the literature.

The above will serve as an introduction to the negotiation seminar to be held from the second year and after.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクションとロールプレイ(女優の出演交渉)

- 【2】:交渉理論の基本的分析概念
 【3】:交渉を失敗させる三つの誤解、交渉を成功させる三つの原則
 【4】:感情と心理バイアス、そして合理性
 【5】:交渉戦略を立案する——事前準備の方法論
 【6】:ロールプレイ(サッカー選手の年棒交渉)
 【7】:交渉をマネジメントする
 【8】:ロールプレイ(テレビ局アナウンサー内定取り消し事件)
 【9】:振り返り
 【10】:最高の合意を作り出す交渉の進め方
 【11】:対立を乗り越えて—コンフリクト・マネジメント(デパートの子供の遊び場問題)
 【12】:ロールプレイ
 【13】:振り返り
 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、全員、事前に表示された論点(3つ程度)について、レポートを作成し提出する。ロールプレイについては、振り返りのレポートを提出する。報告担当班は、メンバーが分担部分についてレジュメを提出する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題:40% 担当報告の内容:30% 平常の授業態度:30%

テキスト / Textbooks

田村次朗・隅田浩司『戦略的交渉入門』日本経済新聞出版 2014 9784532112998

参考文献 / Readings

フィッシャー&ユーリー『ハーバード流交渉術』三笠書房 2011 9784837957324

マルホトラ&ベイザーマン『交渉の達人』パン・ローリング 2016 97847759416348

田村次朗『交渉学入門』中央公論新社 2014 9784121504814

ベイバー&チェン『世界標準のビジネス交渉』経済産業調査会 2022 9784806530732

ウィリアム・ユーリー『ハーバード流最後までブレない交渉術』日本経済新聞出版社 2015 9784532320096

ティク・ナット・ハン『あなたに平和が訪れる禅的生活のすすめ』アスペクト 2005 9784757211179

フィッシャー&シャピロ『新ハーバード流交渉術』講談社 2006 4062134411

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:1年次

選考方法:

①題目:このゼミを志望する理由

②字数:1600字以上

法学基礎演習(法曹)

Introductory Seminar on Law

法曹志望者のための民法基礎演習

山口 敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX565
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

将来、司法試験を受験するための基礎として、学修方法を確立し、法律文書の書き方を理解すること。

The aim of this course is to establish a learning method and understand how to write legal documents as a basis for taking the Bar Examination in the future.

授業の内容 / Course Contents

民法総則・物権法(担保物権法を除く)分野の著名な判例を検討し、関連する事例問題(各回数人の人に答案を書いてきてもらう予定)を考えることによって、民法の基礎知識と文書作成能力を身につける。法曹志望者を対象とするアドバンスな内容なので、履修の際には注意されたい。下記のテーマを予定しているが、受講者の学習進度によって変更することがある。

The classes cover the general provisions of Civil Code and so-called Property Law (Article 175 to Article 294 in the Civil Code), except sections involving Security Property Law. The aim of this course is to promote a deeper understanding of Civil Law and to develop the ability to write legal documents by studying the famous judicial precedents and related case issues. The following themes are planned and are subject to change depending on student progress.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 情報検索講習会
- 【3】: 錯誤/その1
- 【4】: 錯誤/その2
- 【5】: 94条2項類推適用/その1
- 【6】: 94条2項類推適用/その2
- 【7】: 表見代理/その1
- 【8】: 表見代理/その1
- 【9】: 消滅時効/その1
- 【10】: 消滅時効/その2
- 【11】: 不動産物権変動/その1
- 【12】: 不動産物権変動/その2
- 【13】: 動産物権変動/その1
- 【14】: 動産物権変動/その2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマに合わせて、民法(1)の該当部分を復習し、さらに、各自の教科書の該当部分を読んてくること。
また、指定した判例などの文献を熟読し、設問に対する答えを考えてくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:35% 提出答案の内容:30% 授業中の発言内容:35%

テキスト / Textbooks

授業内で指示する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Probability of 10 to 15 people

配当年次／Designated year:1 年次／1st year

選考方法／Selection method:レポート

①題目:本演習の志望動機

②字数:A4 1枚程度

First-Year Seminar

First-Year Seminar

To examine the society from a legal point of view and train your independent research, logical thinking, writing and presentation skills

田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX566
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ 2025 年度以降入学のグローバルコース 1 年次(4 月入学者)自動登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program (April entrants) entering in 2025 or later		

授業の目標 / Course Objectives

This seminar is designed to train students' logical thinking, writing and presentation skills, while examining the society from the legal, sociological, cultural and political points of view.

Through examining modern social issues from a legal point of view, students can also gain insights into the modern society in Japan.

授業の内容 / Course Contents

The seminar is an introduction to Japanese law and legal studies. Social issues are examined from legal, sociological, cultural, historical and political points of view.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction to the seminar

Logical thinking and presentation skills. The topic will be provided by the instructor.

【2】:Logical thinking and presentation skills. The topic will be provided by the instructor.

【3】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【4】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【5】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【6】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【7】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【8】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【9】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【10】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【11】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【12】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【13】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【14】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

There will be reading assignments every week. Students must complete the reading assignments. Occasional writing assignments may be given, as well. For preparing for the presentations, independent research will be required as well.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation and participation in class:80% Writing assignments:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

法学基礎演習(法曹)

Introductory Seminar on Law

法曹志望者のための憲法基礎演習

守田 大悟(MORITA DAIGO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX567
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

将来、司法試験を受験するための基礎として、学修方法を確立し、法律文書の書き方を理解すること

By the end of the course, students will be able to 1) establish the methods of studying jurisprudence, 2) write legal documents, with a view to taking the National Bar Examination of Japan.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法が関係する判例を5~8つほど選択し、約2~5回の演習で一つのトピックを学ぶこととする。一つのセットとなる2~5回の演習は以下のように行われる。

- (1) 対象判例を読む
 - (2) 対象判例の理解の助けになるような文献(例えば、判例評釈、調査官解説、論文)を読む
 - (3) 対象判例とは少しだけ異なる事例問題について、議論する。
- ・(1)と(2)では、報告者を指名して、判例又は文献の要約を行ってもらい。報告者はレジュメを書き、報告を行う。
 - ・(3)の討論は、参加者が事前に起案したレポートを基に行う。
 - ・(2)又は(3)を進行に応じて省略する場合もある。
 - ・(1)において、事実を詳しく知るために、第一審判決を検討することもある。

In this course, we will study five to eight cases with which the Constitution of Japan is related. For each topic, two to five classes will be spared. A set of these two to five classes will be carried as follows:

- (1) We will read the cases in question.
 - (2) We will read some documents which may help to understand the case studied in Class (1), such as commentaries written by scholars or clerks (Judicial Research Officials of Supreme Court of Japan), and academic papers.
 - (3) We will have a discussion on a case example which is slightly different from the case studied in Class (1).
- ・In Classes (1) and (2), some students will be assigned to summarize a case or a document. Those students will be required to write a handout in advance and to make a presentation.
 - ・Class (3) discussion will be based on reports written by students in advance.
 - ・We may sometimes dispense with Class (2) or (3), according to the progress of the course.
 - ・In Class (1), we may examine the adjudication of first instance to know the facts in detail.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス①(演習の進め方の説明等)
- 【2】: ガイダンス②(教員によるプレ報告等)
- 【3】: 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論

- 【4】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【5】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【6】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【7】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【8】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【9】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【10】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【11】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【12】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【13】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
 【14】:判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回について、主に以下のような予習を行うこと。

- (1) 対象判例を原文で読んでくること。
- (2) 指定された文献を読んでくること。
- (3) 課題となる事例について、(1)(2)で学んだことを活かしてどう解決できるか、(訴訟代理人か裁判官になったつもりで)自分なりに考えてくること。起案レポートの執筆を課す場合もある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回の報告とレジュメの内容:50% 出席状況と学習状況:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数/Number of students:14 名程度

配当年次/Designated year:1 年次/1st year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:この演習を志望する動機

②字数:A4 で 1 枚

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law
Future Skills Project

薬師丸 正二郎<薬師丸 正二郎> (YAKUSHIMARU SHOJIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX569
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	Future Skills Project		

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、社会や企業が現実抱える問題や課題を知り、チームで課題解決に向けて取り組むことを目指す。課題を解決する過程で、実社会に触れることにより、社会で必要とされる能力に気づき、その活用方法を学んでゆく。また課題解決を図る上で、必要と気付いた様々な能力を身につけるために、大学生活をどのように過ごし、学んでいくかについて、自ら考え、主体的に行動する力を養うことを目標としている。

This class aims to have students understand the problems and issues actually faced by society and companies and to work in teams to resolve these issues. Through the process of resolving these issues, students will gain exposure to the real world, become aware of the abilities which are required in society, and learn how to apply them. Moreover, in order to enable students to develop the various abilities which are realized to be necessary during the problem-solving process, the objective of this course is to help students think on their own about how to spend their time at university and the learning process to cultivate the ability to take self-directed action.

授業の内容 / Course Contents

◇ 本講義は、大教室での受動的な講義ではなく、学生自らが能動的に議論に参加し、発表する学習方法(アクティブ・ラーニング形式)で行う課題解決型学習(PBL:Problem Based Learning)である。

◇ 講義は、前半に1企業、後半にもう1企業(合計2社)の協力を得て、それぞれから課題を提示してもらい、提示された課題に対して、チームで取り組み、成果を出してゆく。

◇ 企業の担当者から提示された課題に対して、受講者は「社員の立場(当事者目線)」でチームによる解決を目指す(当事者意識を持って課題解決に取り組むこと)。課題解決を通して、必要な情報を収集・分析し、自分の意見を出し、DATAや資料により自らの主張を裏付けること。そして、他人に自分の意見を伝え、相手の意見を引き出して理解し、チームで検討することにより、チームの結束力を高めることにより、特定の課題を解決していくことを学ぶ。

◇ 中間プレゼンと最終プレゼンでは、チームで考え抜いた課題解決策を企業担当者に提示し、そこでのフィードバックから自分と自らのチームの取り組みを振り返る。

◇ 本講義は、一般社団法人 Future Skills Project 研究会がプラットフォームとなり、その協力を受けながら、実施されるプログラムである(<http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>)。

◇ The lectures will not consist of passive lectures in a large auditorium but instead be conducted using Problem Based Learning (PBL) in which students learn through active participation in discussions and by giving presentations (active learning format).

◇ The first half of the lectures will obtain the cooperation of one company, and the second half will work with one additional company (total of two companies). Each company will present an issue which the students will take on in teams to produce results.

◇ The teams will aim to resolve the issues (approach the problem solving with an awareness of the concerned parties)

presented by the company representatives from the “employee’s perspective (viewpoint of the concerned parties).” Students will collect and analyze the required information, come up with their own opinions, and substantiate their own statements with data and documentation through the problem-solving process. Finally, students will learn how to resolve a specific issue by increasing team cohesiveness through stating their own opinion to others, soliciting and understanding the opinion of others, and evaluating the issue as a team.

◇ During the intermediate and final presentations, students will present the solution thought up by the team to the company representatives to review their own and the team’s effort based on the feedback received.

◇ The platform for these lectures is the Future Skills Project Research Society and the program is presented in cooperation with the Future Skills Project. <http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>

授業計画 / Course Schedule

【1】:マインドセット・ルール説明

【2】:課題とは？

ディスカッションとは？

《企業①》

【3】:企業(第一登壇企業)からの課題提示 ★ (★:企業参加の回)

【4】:グループ活動

【5】:企業への中間プレゼン ★

【6】:グループ活動

【7】:企業への最終プレゼン・評価 ★

【8】:振り返り・スキル紹介

チーム再編

《企業②》

【9】:企業(第二登壇企業)からの課題提示 ★

【10】:グループ活動

【11】:企業への中間プレゼン ★

【12】:グループ活動

【13】:企業への最終プレゼン・評価 ★

【14】:全体の振り返り

今後の大学生活での学びを検討する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

◇ この講義は、企業の第一線で活躍する方々を招いて行われる。したがって、講座への出席とチームへの参画には責任をもって、積極的に取り組むことが必要条件である。

◇ 受講者は、①授業時間の大半がチームワークであること、②授業外でのフィールドワークやディスカッション、サブゼミ等も必要であること、③自分の行動に責任をもって積極的にチームに貢献すること、④講義終了時に振り返りを行うことが必須条件である。

以上のことを理解して主体性を持って、積極的な意欲をもって参加して欲しい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出欠・参加姿勢:20% リフレクションシートの内容:30% チームへの貢献:25% プレゼンの内容:25%

テキスト / Textbooks

FSP 研究会 Project Support Notebook Future Skills Project 研究会事務局

○ 講義は、毎回、FSP 研究会作成のテキスト『Project Support Notebook』を使用する。

○ 初回の講義から使用するため、受講者各自で購入し、講義に持参すること。

参考文献 / Readings

上野千鶴子 情報生産者になる 筑摩書房 2018 4480071679

桑田てるみ 学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版: スキルを学ぶ 21 のワーク 実教出版 2015 4407336145

バーバラ ミント 考える技術・書く技術—問題解決力を伸ばすピラミッド原則 ダイヤモンド社 1999 4478490279

ジャスパー・ウ 実践 スタンフォード式 デザイン思考 インプレス 2019 9784295007326

デイヴィッド・ケリー他 クリエイティブ・マインドセット 日経 BP 2014 9784822250256

中村善貞 図解 新規事業を創出する方法 言視社 2018 9784865651164

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

問題意識をもって物事を深く考え、主体的に調べる能力。

時間外においてもグループ学修を行い、グループワークにより、結論を導き出す能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

グループワーク中に様々なデータを検索し、資料を作成するため、タブレットまたはパソコン

その他 / Others

・一年生の春学期科目であることから、今後、4年間の大学生活をどのように過ごすかについて考える貴重な機会になります。是非、主体的に、チャレンジして下さい！

・抽選登録のため、選考なし。

First-Year Seminar

First-Year Seminar
Understanding Contracts

アレン, A. (ALLEN ANDREW)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX570
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ 2025 年度以降入学のグローバルコース 1 年次(4 月入学者)自動登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program (April entrants) entering in 2025 or later		

授業の目標 / Course Objectives

The primary objective of this course are to help students (i) acquire an understanding of the basic rules of contract law in the United States and (ii) feel comfortable sharing their opinions relating to resolving issues within contract law in the United States. By the end of the course, students should understand contract law principles that govern the process of resolving contract law disputes in the United States.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will study the common law principles relating to contracts for services and the Uniform Commercial Code relating to the sales of goods in the United States.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Introduction and Enforcing Promises
- 【2】:Contract Formation (Part 1)
- 【3】:Contract Formation (Part 2)
- 【4】:Who can Enforce a Contract?
- 【5】:Uniform Commercial Code and the Common Law
- 【6】:Defenses to Contract Formation (Part 1)
- 【7】:Defenses to Contract Formation (Part 2)
- 【8】:Remedies (Part 1)
- 【9】:Remedies (Part 2)
- 【10】:Interpreting the Contract
- 【11】:Duties in a Contract
- 【12】:Review of a Contract
- 【13】:Course Review
- 【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class and come ready to ask questions and share their opinions. Any information in the readings may be included on the quizzes and the final test.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes:30% Participation:30% Final Test:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading pack to be provided.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

Participation: Class attendance, participation, and preparation are expected. If you are unable to attend class, please contact me by email before absences occur, or as soon as possible after class starts if you have an unexpected emergency. Unauthorized absences will be considered in calculating a student's class participation score. Please note that all students must attend at least 2/3 of the lectures in order to earn credit for this course.

Quizzes: Students will take 4 quizzes that will cover information discussed throughout this seminar. Please note that the lowest score will automatically be dropped and the remaining scores will be averaged.

Final test: The final test will be held during the time of the final class and will cover material discussed during the entire seminar. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the quizzes, (c) attended all of the seminars, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each class, then they should be prepared for the final test.

Syllabus: The syllabus represents current plans and objectives for each week, but as we go through the semester, the material that we cover each week may need to be changed to maximize the class learning opportunity. Such changes, if necessary, will be clearly conveyed to the class.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science

グローバリゼーションの光と陰

高橋 和則(TAKAHASHI KAZUNORI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX571
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代政治最大の特徴であるグローバリゼーションという現象を理解する。

Understanding the phenomenon of globalization

授業の内容 / Course Contents

グローバリゼーションに関する本を精読し、それが現代政治にどのような影響を与えているかを把握する。グローバリゼーションも 20 世紀末と現在では様相や受け止めが異なっており、その変化を二冊の本で確かめてみることにする。

Try to articulate the influence of globalization to actual politics, reading the fundamental books about globalization.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 本演習の方法と進行について
- 【2】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』はじめに+1 章
- 【3】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』2 章
- 【4】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』3 章
- 【5】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』4 章
- 【6】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』5 章
- 【7】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』まえがき+序章
- 【8】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』1+2 章
- 【9】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』3 章
- 【10】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』4 章
- 【11】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』5+6 章
- 【12】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』7+8 章
- 【13】: 伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』9+10+終章
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト指定範囲を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:50% 演習への貢献:50%

テキスト / Textbooks

伊豫谷登士翁 グローバリゼーションとは何か 平凡社 2002 4582851509

伊豫谷登士翁 グローバリゼーション 筑摩書房 2021 9784480074485

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Probability of 10 to 15 people

配当年次／Designated year:1 年次／1st year

選考方法／Selection method:レポート(自己紹介と本演習を希望する理由を合わせて 1600 字以上)

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science
現代の国際政治を学ぶ

白鳥 潤一郎 (SHIRATORI JUNICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX572
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際政治は激動の時代を迎えている。しかし、そうした時代の変化を的確に把握するためには論理的な思考と歴史や思想に根差した視座が必要となる。本演習から国際政治や外交について考えを深めるきっかけを得て欲しい。また、授業への参加を通じて、文章を読みこなし、報告・議論・コメントカード及びレポート執筆等に関する学術的な能力の基礎を身に付けて欲しい。

International Politics is facing a turbulent era. However, in order to accurately understand such changing times, logical thinking and a viewpoint based in history and ideas are required. The objective of this seminar is to provide students with an opportunity to deepen their thinking about International Politics and foreign policy. Moreover, it is hoped that participation in class will enable students to effectively understand writing and master the fundamentals of academic capabilities with respect to presenting reports, engaging in discussions, and writing comment cards.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、高坂正堯『平和と危機の構造』(中公文庫、2024 年)と近年執筆された様々の論考を併読しつつ、現代の国際政治を学ぶ。課題量は受講者の人数次第で調整する。第 2 回以降は事前にコメントカード(400 字程度)を提出を求める。各回は、報告担当者が課題文献の内容報告を行い、その後は討論者の問題提起をふまえた全体討論を行う形で授業を進めて行く。

In this seminar, students will read the textbook of International Politics literature which are said to be "modern classics." The volume of assigned literature reading will be adjusted based on the number of participants. Starting from the second session, students will be required to submit comment cards (approximately 400 characters in Japanese) in advance. During each class session, the student in charge of presenting will report on the content of the assigned literature reading followed by an overall discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション／自己紹介／担当決め
- 【2】: 課題文献の輪読①
- 【3】: 課題文献の輪読②
- 【4】: 課題文献の輪読③
- 【5】: 課題文献の輪読④
- 【6】: 課題文献の輪読⑤
- 【7】: 課題文献の輪読⑥
- 【8】: 課題文献の輪読⑦
- 【9】: 課題文献の輪読⑧
- 【10】: 課題文献の輪読⑨

- 【11】:課題文献の輪読⑩
 【12】:課題文献の輪読⑪
 【13】:課題文献の輪読⑫
 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回授業開始までに指定文献に目を通していただくことを前提に授業を進める。基礎知識に自信が無い受講者には授業開始前の夏期休暇期間中に参考文献に目を通していただくことを推奨する。特に『国際政治をつかむ 第3版』や『現代の国際政治』を優先するとよいだろう。また、教科書や指定文献だけでなく関連する様々な文献やニュースにも触れることで授業の理解度や満足度が深まることも押さえておきたい。ゼミ形式の授業は参加者に積極的な発言と活発な討論が期待される。授業準備は授業で発言することを念頭に行なって欲しい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントカード:20% 報告:30% 授業での発言及び議論への参加:50%

上記を基本とするが受講者数次第で調整する。ゼミ形式の授業は特別な理由がない限り、授業への出席が成績評価の前提として求められることに留意して欲しい。

テキスト / Textbooks

高坂正堯 平和と危機の構造 中央公論新社 2024 9784122075689

テキストは初回授業時に持参すること。またメインテキスト以外の文献については授業内で適宜している。

参考文献 / Readings

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将 『国際政治学をつかむ 第3版』 有斐閣 2023 9784641177314

小川浩之・板橋拓己・青野利彦 『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』 有斐閣 2018 9784641150522

モーリス・ヴァイス 『戦後国際関係史——二極化世界から混迷の時代へ』 慶応義塾大学出版会 2018

9784766425345

白鳥潤一郎・高橋和夫編 『現代の国際政治』 放送大学教育振興会 2022 9784595323409

ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ 『国際紛争——理論と歴史 原書第10版』 有斐閣 2017

9784641149175

参考文献については初回授業時により詳細なものを紹介する。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10名程度(履修希望者数次第で調整する)

配当年次:1年次

選考方法:レポート

①題目:志望動機及び授業に求めること

②字数:1000字程度

※初回授業について担当者から連絡する予定なのでパソコンのメールアドレスを必ずレポート内に記載すること。また授業開始前に参考文献の中から少なくとも1冊を読んでおくことを推奨します。

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science

21 世紀の「危機」と民主主義を考える／Contemporary crises and Democracy

永野 和茂(NAGANO KAZUSHIGE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX573
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

パンデミック、グローバル格差、リベラル・デモクラシーの動揺、社会の「分断」、戦争、気候変動など、私たちは現在進行形の様々な課題に直面している。

本演習は、これらの問題を素描する文献を読み解き、政治を分析する基本的な概念や議論について学ぶ。

また、授業への参加を通じて、テキスト要約の報告、論点の提出および討論、レポート執筆に関する学術的な基礎能力を身につけることも目標とする。

In the 21st century, democracies are confronting a range of new challenges, including pandemics, new technology, economic inequality, the instability of liberal democracy, the ‘fragmentation’ of society, prolonged war, and climate change.

This seminar aims to introduce students to fundamental concepts and debates in politics through the study of literature addressing these issues.

By actively participating in the course, students will have the opportunity to develop their academic skills, including presentation, debate, and report writing.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、現代の政治と民主主義を分析する入門的な文献を輪読しながら、各テーマについて討論する。報告担当者はテキストの内容報告を行い、それ以外の受講生は事前にコメント・ペーパー(400 字程度)を提出する。

各回、コメント・ペーパーや報告者論点などからいくつかの問題提起をふまえた全体討論を行う。必要に応じて、より詳細な議論と分析を促すため、小グループに分かれて討論することもある。

授業後半では、個々の関心に応じてグループワークを行い、最終日にグループ報告を行う予定である。

In this seminar, students will engage in a rotational reading and discussion of the assigned texts. Presenters will provide a comprehensive summary of the readings, while the rest of the class is required to submit a comment paper prior to each session.

During the seminar, discussions will focus on the key issues and questions raised by the presenters and comment papers. If deemed necessary, students may be divided into smaller groups to facilitate more in-depth discussion and analysis.

In class, group work will be organized based on individual interests, and a group report will be presented on the final day.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス、問題提起

【2】: 文献講読 1

【3】: 文献講読 2

- 【4】: 文献講読 3
- 【5】: 文献講読 4
- 【6】: 文献講読 5
- 【7】: 文献講読 6
- 【8】: グループワーク
- 【9】: 文献講読 7
- 【10】: 文献講読 8
- 【11】: グループワーク
- 【12】: 文献講読 9
- 【13】: グループ報告
- 【14】: グループ報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は毎回指定された範囲のテキストを事前に読み、演習開始前にコメント・ペーパーを提出する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 報告:20% コメントペーパー:20% グループワーク・レポート:30%

テキスト / Textbooks

イアン・ブレマー、フランシス・フクヤマ、ニール・ファーガソン、ジョゼフ・ナイ、ダロン・アセモグル、シーナ・アイエンガー、ジェイソン・ブレナン、大野和基訳 『民主主義の危機:AI・戦争・災害・パンデミック—世界の知性が語る地球規模の未来予測』 朝日新書 2024 4022952628

宇野重規、若林恵 『実験の民主主義—トクヴィルの思想からデジタル、ファンダムへ』 中公新書 2023 9784121027733

参考文献 / Readings

イアン・ブレマー、稲田誠士監訳 『危機の地政学—感染爆発、気候変動、テクノロジーの脅威』 日本経済新聞出版 2022 9784296113941

玉川 透編、ヤシャ・モンク、ロベルト・ステファン・フォア、濱田 江里子訳 『強権に「いいね!」を押す若者たち』 青灯社 2020 4862281109

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を利用する。

その他 / Others

採用人数/Number of students:10~15 名程度/Probability of 10 to 15 people

配当年次/Designated year:1 年次/1st year

選考方法/Selection method:レポート(本演習テーマについての関心を 1000 字程度で自由に書いてください)

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science
戦後思想を学ぶ

田頭 慎一郎 (DENDO SHINICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX574
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

指定した著作の輪読を通して、内容を要約し論点を発見し議論する能力を身につけることを目的としています。

The objective of this course is to master the ability to summarize content, discover issues, and engage in discussion through reading the specified work in turn.

授業の内容 / Course Contents

丸山眞男を中心に戦後思想を学びます。丸山の代表的著作を読みすすめた上で、丸山と同じ問題を論じながらも別の視点を提示した同時代の著作も読んでいきます。これらの比較を通して、戦後思想の幅広さを学ぶことを目的としています。

Students will learn Japanese thought of postwar, it's mainly Masao Maruyama. After reading Maruyama's representative works, we will also read works by his contemporaries that discussed the same issues as Maruyama, but presented different perspectives. Through these comparisons, our purpose is to learn about the breadth of postwar thought.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 演習の概要説明
- 【2】: 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」(1946 年)
- 【3】: 丸山眞男「軍国支配者の精神形態」(1949 年)
- 【4】: 丸山眞男「三たび平和について」第1章・第2章(1950 年)
- 【5】: 福田恆存「平和論の進め方についての疑問」(1954 年)
- 【6】: 丸山眞男「「である」ことと「すること」」(1959 年)
- 【7】: 松下圭一「大衆天皇制論」(1959 年)
- 【8】: 坂本義和「中立日本の防衛構想」(1959 年)
- 【9】: 上山春平「大東亜戦争の思想史的意義」(1961 年)
- 【10】: 高坂正堯「現実主義勇者の平和論」(1963 年)
- 【11】: 丸山眞男「憲法第九条をめぐる若干の考察」(1965 年)
- 【12】: 大熊信行「日本民族について」(1964 年)
- 【13】: 永井陽之助「国家目標としての安全と独立(抄)」(1966 年)
- 【14】: 松本健一「風景の変容—1964 年社会転換説」(1983 年)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題となった作品を読んできると、授業内で音読することがあるので、読めない漢字や外国語があった場合は調べてフリガナをふっておくこと。また、授業中に紹介した参考文献を参照しつつ討論に備えること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・コメントペーパーの提出:40% 授業内での討論:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

テキストは、担当教員が用意する。

参考文献 / Readings

丸山眞男『(増補版)現代政治の思想と行動』未来社 1964

荏部直『丸山眞男』岩波新書 2006

山本昭宏 教養としての戦後〈平和論〉イースト・プレス 2016

山本昭宏『戦後民主主義』中公新書 2021

奥武則 増補 論壇の戦後史 平凡社ライブラリー 2018

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ある程度の長さの文章を読めること。

日本の近現代史についての概要を知っていること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布は Canvas LMS を通して行なうので、それを利用できること。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数：10 人程度

配当年次：1年次

選考方法：レポート

①題目：志望動機について

②字数：1000 字程度

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science
アートと社会問題 (Arts and social issues)

宮内 悠輔 (MIYAUCHI YUUSUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX575
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、創作的な文化活動が社会に与える／社会から受ける影響について検討する。近年、歴史を題材としたミュージック・ビデオの炎上や、政治的なメッセージを含む企業広告をめぐる論争などが国内外で相次いでいる。本演習においては、主にアートにまつわる事例を紹介した文献を輪読しながら、上記の論点を検討していく。

The objective of this seminar is to discuss issues of the relation between arts and social issues.

授業の内容 / Course Contents

受講者は、予習として事前に文献を読み、Canvas LMS の公開トピックへ考察・疑問点を書き込む(文献考察)。また、報告担当者は、文献の内容を要約し、レジュメとしてまとめて提出する。授業時は、報告担当者の内容要約・論点提起をベースとして、複数グループもしくはクラス全体で議論を行う。なお、文献考察は 1 つに集約した上で教員のリプライを添え、当日配布する。また、学期末はグループごとに分かれてそれぞれ共同でプレゼンテーションを実施する。

The students will read the literature and submit a comment in advance. In the class, the student in charge of presenting will report the summary of the literature and question points. After the reporting, all the participants will discuss regarding the issues of the literature based on the report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・自己紹介・役割分担
- 【2】: 文献講読①
- 【3】: 文献講読②
- 【4】: 文献講読③
- 【5】: 文献講読④
- 【6】: 文献講読⑤
- 【7】: 文献講読の中間総括／グループ・プレゼンテーションの班分けと打ち合わせ
- 【8】: 文献講読⑥
- 【9】: 文献講読⑦
- 【10】: 文献講読⑧
- 【11】: 文献講読⑨
- 【12】: 文献講読の最終総括／グループ・プレゼンテーションの進捗報告
- 【13】: グループ・プレゼンテーションと質疑応答①
- 【14】: グループ・プレゼンテーションと質疑応答②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

- ・文献講読実施日は、事前に文献への考察を提出する。
- ・授業内で、最大3回ほどグループ・ディスカッションを実施する。
- ・学期末にはグループに分かれて自主リサーチを実施し、班ごとにプレゼンテーションと質疑応答を行ってもらう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習: 文献の読解、および考察の提出。(課題のない日は、プレゼンテーションのための自主リサーチを行う)

復習: 履修者の提出物に対する教員のリプライに目を通す。

予習・復習いずれも、週2時間程度。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 文献考察等の提出、およびレジュメ作成・報告: 35% ディスカッションへの貢献: 30% 学期末プレゼンテーション(自班の発表・質疑応答および他班への質疑): 35% 最終レポート割合: 0% 最終テスト割合: 0%

- ・以下に該当する履修者は、本人の申告の有無にかかわらず、原則として履修放棄とみなす。

- 連続2回にわたって無断欠席した履修者
- 通算3回欠席した履修者
- レジュメ未提出者
- 学期末プレゼンテーション実施日に欠席した履修者

- ・学期末プレゼンテーションについては、複数回にわたって実施する場合、その全日程への参加(自班が発表しない回も含む)を成績評価の条件とする。

- ・本演習では、学校感染症罹患もしくは裁判員制度以外による欠席に対しては、成績評価面での配慮を一切行わない。欠席頻度が高くなりそうな見込みの学生は、本演習への応募を再考すること。

テキスト / Textbooks

村上由鶴『アートとフェミニズムは誰のもの?』光文社新書 2023 9784334100148

毛利嘉孝『バンクシー: アート・テロリスト』光文社新書 2019 9784334044466

- ・教員が一部分をコピーして配布するので、購入の必要はない(自主的に購入することはもちろん構わない)。
- ・テキストは変更の可能性があることを留意されたい。また、上記以外の文献を追加でテキストとする可能性もある。

参考文献 / Readings

瀬地山角『炎上CMでよみとくジェンダー論』光文社新書 2020 9784334044695

河野真太郎『正義はどこへ行くのか: 映画・アニメで読み解く「ヒーロー」』集英社新書 2023 9784087212938

宇野常寛『リトル・ピープルの時代』幻冬舎文庫 2015 9784344423244

ミゲル・シカルル『プレイ・マターズ: 遊び心の哲学』フィルム・アート社 2019 9784845918010

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・全員: 毎週、50~60ページ程度、あるいはそれ以上の分量の文献を読み通す意欲と集中力を具备している。
- ・グローバルコース以外の学生: 春学期「基礎文献講読」で水準以上の成績を修め、かつ同演習で求められる能力を一通り習得している(応募時点で、その見込みである)。
- ・グローバルコースの学生: 春学期に配布された『法学部ラーニングガイド2025』を改めて一読し、内容を理解しておくこと。

※流行のポップ・カルチャーに関する知識の多寡は、基本的には問わない(担当教員も決して詳しいわけではない)。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

- ・採用後は、学期末まで履修を継続していただきたい。
- ・毎回、一度に読む文献の分量がそれなりに多い(おおむね50~60頁、あるいはそれ以上)。演習に振り向けなくてはならない負担の大きさを考慮した上で応募してほしい。なお、極力、演習時間の延長は行わない。

<選考方法>

採用人数: 12人

配当年次: 1年次

選考方法: レポート

①題目(テーマ): 以下の内容でまとめてください。

【必須】

- ・この演習に応募した理由
- ・通常の課程の学生は、応募時点で所属している「基礎文献講読」の内容およびそれに対する所感。グローバルコース

学生は、春学期に受講していれば演習系授業の所感、演習を受講していない場合はもっとも印象に残っている法学部授業についての所感。(できるだけ率直に書いてください)

【任意】

- ・自己紹介
- ・読んでみて面白いと思った本や好きな映画の紹介
- ・大学・法学部のカリキュラム、各教員の授業方針や講義内容など、学修環境に対する不満
- ・大学生活における悩み

※レポート作成にあたっては、適度に段落分けをしてください。

②字数:800～2000 字

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science

民主主義の問題点

一ノ瀬 佳也 (ICHINOSE YOSHIYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX576
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習は、政治学に関わる基礎的な文献を読むことによって、学生のプレゼンテーションやディスカッションの力をつけていくことを目標としている。特に、ポピュリズムに関連する文献を文献を読むことによって、民主主義における問題点について理解できるようになる。

The main objective of this seminar is that student improve their abilities of presentation and discussion by reading some elementary books concerning Politics. Especially, Students will read two books concerning 'Populism' and be able to understand on some problems including Democracy,

授業の内容 / Course Contents

この演習では、「ポピュリズム」に関するテキストを読み、民主主義の問題点について学んでいくことになる。

この授業は「演習」形式で行われる。報告者がテキストの担当箇所についてのプレゼンを行い、その論点についてみんなで議論することを通じて理解を深めていく。

In this seminar, we will read two books concerning Populism, and study on some problems including Democracy.

This lecture hold a style of seminar. So Students must have some presentations and comments concerning textbook.Students will be able to deepen their understanding by discussing with members

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス;ポピュリズムとは何か

【2】: 幻滅した人

実現不可能な理想

【3】: 行為者と傍観者

公衆の役割

専制的影響力の抑制

【4】: アリストテレスの問い

問題の本質

社会的契約

公衆が直面する二つの問題

【5】: 国民的な議論の主たる価値

欠陥のあるルール

改正・改革の基準

世論の基本原則

【6】: 社会の本来の在り方

見えざる統治者

秩序なき領域

【7】:まとめ

【8】:はじめに

【9】:フェイクの民主主義ー誰もがそれなりの道理を持っている

【10】:現実の民主主義ー自由、平等、不確実性

【11】:重要なインフラストラクチャー

【12】:活動の再開

【13】:民主主義に希望をもつべき5つの理由

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は、毎回指定された範囲のテキストを事前に読んでくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60 % プレゼンテーション:40%

テキスト / Textbooks

ウォルター・リップマン 『幻想の公衆』 一藝社 2023 9784863592780

ヤン・ヴェルナー・ミュラー 『民主主義のルールと精神:それはいかにして生き返るのか』 みすず書房 2022

9784622090991

参考文献 / Readings

ウォルター・リップマン 『世論(上)』 岩波書店 1987 9784003422212

ウォルター・リップマン 『世論(下)』 岩波書店 1987 9784003422229

ヤン・ヴェルナー・ミュラー 『ポピュリズムとは何か』 岩波書店 2017 9784000247962

吉田徹 『ポピュリズムを考える:民主主義への再入門』 NHK 出版 2011 9784140911761

宇野重規、若林恵 『実験の民主主義:トクヴィルの思想からデジタル、ファンダムへ』 中央公論社 2023

9784121027733

水島治郎 『ポピュリズムという挑戦——岐路に立つ現代デモクラシー』 岩波書店 2020 9784000613934

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

1年生を対象とする演習なので特別に専門知識を必要としないが、ポピュリズムや民主主義に関心があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の連絡や資料の配布などに際して、基本的には Canvas LMS を用いるので、そこにアクセスできるようにしてください。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15名前後

配当年次:1年次

選考方法:レポート

①題目:本演習で履修する動機とテーマについての関心を自由に書いてください。

②字数:1000字

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science

男性中心で運営されてきた日本政治と日本社会を問い直す。

笠井 昭文(KASAI AKIFUMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX577
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. レポート作成やグループ・プレゼンテーションを通じて、学生にとって必要となる基礎的な技能の向上を目指します。2. テキストの報告と議論を通じて、男性中心で運営されてきた日本政治の問題点について理解を深めると共に、誰もが生きやすい日本社会へと変えていくために、どのような発想や行動が必要となるのかについて考えていきたいと思います。3. 以上の目標を通じて、現代社会の諸問題について、自ら考え、自分の言葉で表現しようとする人間を育てたいと思います。

1) Through report writing and group presentations, this course aims to improve the fundamental skills that students need. 2) Through the presentation and discussion of the texts, we hope to deepen our understanding of the problems with Japanese politics, which has been run mainly by men, and to think about what kind of ideas and actions are needed to change Japanese society into one where everyone can live comfortably. 3) Through the objectives described above, I would like to train people who can think on their own about the various problems in contemporary society and who try to express their ideas in their own words.

授業の内容 / Course Contents

この演習は、大きく二つの部分から構成されています。一つは、「法学部ラーニングガイド」や「Master of Writing/Presentation」で紹介されている学生にとって必要な技能を、グループ・プレゼンテーションやレポート作成を進めることで、一年次の内に実践的に身に付けてもらうことです。もう一つは、テキストの報告と議論を通じて、男性中心で運営されてきた日本政治の問題点について理解を深めると共に、様々な格差を解消し、誰もが生きやすい日本社会へと変えていくために、どのような発想や行動が必要となるのかについて考えていきたいと思います。

演習で取り組む課題は難しいものではありませんが、授業時間とは別に、グループ・プレゼンテーションのために学生同士で議論し、各人が分担して様々な事柄を調べ、またゼミレポート集においては自分の言葉で書くことが求められる「出力」重視の演習です。得られる単位は2単位だけなので、単位取得効率の点から言えば甚だ「コスパ/タイパ」の悪い講義ですが、自らの考えを深め、それを他者に向けて表現していくことを大切にしたい人には良い機会になると思います。

The seminar is composed of two sections. In the first section, students will learn practical skills within the first year through group presentations and report writing, which are introduced in "the Faculty of Law Learning Guide" and "Master of Writing/Presentation". In the second section, through the presentation and discussion of the text, we hope to deepen our understanding of the problems with Japanese politics, which has been run mainly by men, and to think about what kind of ideas and actions are needed to eliminate various disparities and transform Japanese society into a place where everyone can live comfortably.

The assignments in the seminars are not difficult, but they are focused on "output", with students discussing with each other in preparation for group presentations outside of class time, each student dividing up the work into research topics, and students being required to write in their own words for a seminar report. Since only two credits will be

received, in terms of the efficiency of acquiring credits, this course has poor "cost performance or time performance". But I think this course will be a good opportunity for those who want to deepen their own thoughts and value expressing them to others.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:アイスブレイク、ガイダンス
- 【2】:小レポートへの相互評価、プレゼンのためのブレイン・ストーミング
- 【3】:プレゼン準備、『さらば、男性政治』第1章の報告と議論
- 【4】:プレゼン準備、『さらば、男性政治』第2章の報告と議論
- 【5】:プレゼン準備、『さらば、男性政治』第3章の報告と議論
- 【6】:プレゼン準備、『さらば、男性政治』第4章の報告と議論
- 【7】:グループ・プレゼンテーションの実施
- 【8】:ゼミレポートの構想報告
- 【9】:ゼミレポートの構想報告
- 【10】:『さらば、男性政治』第5章の報告と議論
- 【11】:『さらば、男性政治』第6章の報告と議論
- 【12】:『さらば、男性政治』第7章の報告と議論
- 【13】:レポート講評会の実施
- 【14】:演習全体のまとめと今後の学生生活について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は毎回、テキストをしっかりと読んで上で参加して下さい。テキストの報告については、担当者を決め、分担して報告してもらいます。また、小レポートの執筆、小レポートの相互評価、グループ・プレゼンテーションの準備作業とプレゼンの実施、ゼミレポート集の作成、レポート講評会での書評報告といった課題を予定しています。計画的に取り組み、準備に時間をかければ、いずれも難しい課題ではありません。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テキストの報告と議論への参加:40% プレゼンテーションの準備作業と発表:30% 小レポートおよびレポート集への原稿作成:30%

すべての課題を達成して、初めて成績評価の対象とします。正当な理由がない4回以上の欠席は、成績評価の対象とはしません。

テキスト / Textbooks

三浦まり『さらば、男性政治』岩波書店 2023 9784004319559

参考文献 / Readings

演習の中で随時紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート執筆やグループ・プレゼンテーションでのパワーポイント作成では、パソコンが必要になります。また、課題提出はインターネットを通じて行いますので、インターネットに接続できる環境も必要です。

その他 / Others

採用人数/Number of students:12名程度/Probability of 12 people

配当年次/Designated year:1年次/1st year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:ジェンダー、フェミニズム、マイノリティ、多様性といったテーマに関する自分自身の関心について述べ、併せて演習への志望動機を述べて下さい。

②字数:1600字程度(40字×40行、A4用紙・縦版横書きで1枚程度)

演習計画は、履修者数や学生の関心に配慮して随時組み替えていきます。履修者数が多くなった場合は、集中ゼミや合宿を行うことで対応します。座っていれば単位が取れるような演習ではありません。その点から言えば、演習テーマに関心のない人がこの演習を志望することは、ご遠慮願います。

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science

空間の政治学:議会、広場から住宅、ショッピングモールまで/Politics of Space: From Parliament and Square to Housing and Mall

安藤 有史(ANDO YUJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX578
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治と空間はどのように関係しているか。政治にとって空間がもつ意味とは何か。本演習では「空間」を切り口に、近現代の政治理論の重要概念について議論します。ここで問題にする「空間」とは、メタファーではなく、文字通りの物理的空間のことです。住居や部屋、空き地、巨大建造物、広場、道路、ショッピングモール、娯楽施設、議事堂…これらは私たちが日常的に滞在し、通り過ぎていく空間です。議事堂のように、政治との関わりが明らかな場合もあれば、個人の住宅やショッピングモールのように、通常は政治と関連づけられにくい空間もあります。しかし、詳しくみていけば、一見して非政治的とされるものも含めて、あらゆる空間には政治学の対象となるような、権力やイデオロギー、資本主義と社会主義、公私関係や福祉の問題が潜んでいます。本演習の目標は、私たちの身のまわりにありふれた空間に、政治性を見出す視座を養うことにあります。

How do politics and space relate to each other? What does space mean for politics? In this seminar, we will discuss some of the key concepts of modern political theory in terms of 'space'. The term 'space' here is, not a metaphor, but a physical one. Houses, rooms, open spaces, edifices, squares, streets, shopping malls, amusement parks, and parliament buildings... these are the spaces we stay in and pass through in our daily lives. In some cases, such as parliament buildings, there are clear connections with politics. In contrast, in others, such as private houses and shopping malls, many spaces are not usually associated with politics. However, taking a closer look, it will be revealed that all sorts of spaces including those seemingly non-political contain latent issues of power and ideology, capitalism and socialism, public-private relations, and social welfare, which are the subject of political science. This seminar aims to develop students' perspective that sees the political in all spaces around us.

授業の内容 / Course Contents

本演習では空間と政治に関係する多彩なトピックを取り上げます。毎回、テーマに合わせた文献を講読し、議論を行います。

第2・3回目「公的空間と私的空間」では、政治は家庭などのプライベートな空間ではなく、公共空間において行われるものだという伝統的主張の意味と問題点を議論します。

第4・5回目「住宅と資本主義／社会主義」では、人びとの住み方が政治経済体制の違いによってどのように左右されるのかを考えます。例えば社会主義体制下では共同住宅が好まれがちであるのに対して、資本主義社会では個人の持家が好まれるといった違いです。

第6・7回目「フロンティアと民主主義／帝国主義」では、近代的な民主主義体制と資本主義経済にとって、フロンティア＝未開拓の外部がどのような役割を果たすかを考えます。

第8・9回目「巨大建築とユートピア／イデオロギー」では、19世紀末以降に登場した高層ビルや巨大建築には、単に技術的な可能性だけでなく、政治的な夢が込められていた点について議論します。

第10・11回目「広場と抗議運動、議場と代表制」では、2011年以降の社会運動に顕著にみられるようになった、都市空間の一時的占拠による抗議について検討します。また、議会が民衆に占拠される事例についても議論します。

第12・13回目「快適な空間と消費社会／監視社会」では、ショッピングモールやテーマパーク、空港などの清潔、安全、便利、快適な空間における、監視やジェントリフィケーションの問題を考えます。

This course covers a wide variety of topics related to space and politics. In each class, students will read and discuss the selected literature on these topics.

The second and third classes, 'Public and Private Space', discuss the implications and problems of the traditional view that politics is proper in the public realm, not in the private one such as homes.

The fourth and fifth classes, 'Housing and Capitalism/Socialism', consider how the way people live is affected by differences in political and economic regimes. For example, communal apartments tend to be preferred in socialist regimes, while private home ownership is preferred in affluent capitalist regimes.

In the sixth and seventh classes, 'Frontiers and Democracy/Imperialism', we consider the role of the frontier, that is the unexplored outside, for modern democratic regimes and capitalist economies.

In the eighth and ninth classes, 'Huge Architectures and Utopia/Ideology', we discuss how the skyscrapers and edifices that appeared from the end of the 19th century onwards were built not only for technical matters but also for political dreams.

The tenth and eleventh classes, 'Squares and Protest Movements, Parliaments and Representation', consider the meaning of protest through the temporary occupation of urban space, which has become significant in social movements since 2011. It will also discuss some cases where the parliament building itself is occupied by the protesting people.

In the twelfth and thirteenth classes, 'Comfortable Spaces and Consumer /Surveillance Society', we will discuss the issues of surveillance and gentrification in clean, safe, convenient, and comfortable spaces such as shopping malls, amusement parks, and airports.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: 「公的空間と私的空間」に関する文献講読と議論

【3】: 「公的空間と私的空間」に関する文献講読と議論

【4】: 「住宅と資本主義／社会主義」に関する文献講読と議論

(個人で住むか／みんなで住むか)

【5】: 「住宅と資本主義／社会主義」に関する文献講読と議論

(個人で住むか／みんなで住むか)

【6】: 「フロンティアと民主主義／帝国主義」に関する文献講読と議論

(フレデリック・J・ターナーを読む)

【7】: 「フロンティアと民主主義／帝国主義」に関する文献講読と議論

(フレデリック・J・ターナーを読む)

【8】: 「巨大建築とユートピア／イデオロギー」に関する文献講読と議論

(エッフェル塔、エンパイア・ステート・ビル、ソヴィエト宮殿、ワールドトレードセンター)

【9】: 「巨大建築とユートピア／イデオロギー」に関する文献講読と議論

(エッフェル塔、エンパイア・ステート・ビル、ソヴィエト宮殿、ワールドトレードセンター)

【10】: 「広場と抗議運動、議場と代表制」に関する文献講読と議論

(オキュパイ運動、ひまわり運動)

【11】: 「広場と抗議運動、議場と代表制」に関する文献講読と議論

(オキュパイ運動、ひまわり運動)

【12】: 「快適な空間と消費社会／監視社会」に関する文献講読と議論

(空港、ショッピングモール、テーマパーク)

【13】: 「快適な空間と消費社会／監視社会」に関する文献講読と議論

(空港、ショッピングモール、テーマパーク)

【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全受講者は毎回、文献の指定範囲を読んだ状態で出席してください。

各回の報告担当者は内容要約のレジュメを準備してください。
報告者以外にも簡潔なコメントを授業前・授業中に提出してもらいます

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、授業時の参加、発言等:40% 事前のコメントの提出・内容:30% 報告担当時の発表内容:30%

テキスト / Textbooks

山本理顕『権力の空間／空間の権力:個人と国家の〈あいだ〉を設計せよ』講談社 2015 9784062586009

原武史『団地の空間政治学』NHK 出版 2012 9784140911952

フレデリック・J・ターナー(渡辺真治・西崎京子訳)『アメリカ古典文庫 9:フレデリック・J・ターナー』研究社 1975 4327365092

港千尋『革命のつくり方:台湾ひまわり運動——対抗運動の創造性』インスクリプト 2014 9784900997486

授業で使用する文献は、各回、書籍の一部を適宜コピーして配布します。各自が用意する必要はありません。「テキスト」には、比較的重要かつ読みやすいものを挙げています。使用する文献は必要に応じて変更することがあります。

参考文献 / Readings

ハンナ・アレント(牧野雅彦訳)『人間の条件』講談社 2023 9784065314272

スーザン・バック＝モース(堀江則雄訳)『夢の世界とカタストロフィ:東西における大衆ユートピアの消滅』岩波書店 2008 9784000023542

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・前期基礎文献講読で学習した、文献の精読、要約の作成・発表、資料の調査(図書館の利用法、データベースの使い方等)が身についていること。
- ・上記、「授業時間外の学修」の水準を満たせること

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ラップトップ、タブレット端末など、授業中にインターネットと接続可能な機器(知らないことはその場で調べることができる状態にすること)。

その他 / Others

採用人数/Number of students:20 名程度/Probability of 20 people

配当年次/Designated year:1 年次/1st year

選考方法/Selection method:

①題目:レポートこの演習で扱うテーマのどこに関心があるかを自由に書いてください。

参考文献をつけるかどうかは任意ですが、応募過多の場合、参考文献が適切に明記されているレポート、質の高い参考文献が用いられているレポートを優先的に評価します。

②字数:800 字以上、1200 字以内。

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science

現代の国際政治における諸問題を体系的に分析する。

清水 謙 (SHIMIZU KEN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX579
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では国際政治における様々な問題を体系的に分析できる力を身につけることを狙いとする。

This seminar aims to give the students the ability to analyze systematically various issues in international politics.

授業の内容 / Course Contents

国際政治は「アナーキー」であり、世界政府などは存在しない。にもかかわらず、政府なき統治の中にあってもグローバルな問題が制御されていることが多い。これは一体なぜだろうか。現代の国際政治のアクターは国家だけでなく、国際機関や地域機構、国際的企業、非政府組織などの非国家アクターも存在する。本演習では、国際政治における様々な問題を取り上げることで、国際政治を包括的に捉えながら、事例研究を通してグローバル・ガバナンスへの理解を深める。受講生には報告を担当してもらったテキストの章を割り当て、担当者の報告のあと教員が解説を加えてから、受講生が提出する「準備メモ」(コメントカード)をもとに全体で議論をする。

なお、履修者の関心によって予定している演習内容の順番を多少変更する可能性もある。

The international politics is "anarchic state of nature" and so-called world government does not exist. Despite that, even in the absence of such world government, global issues are managed in some way. How can it be analyzed? The actors in modern international politics are involved not only by states but also international organizations, regional organizations, international companies and non-governmental organizations. In this seminar students will gain a comprehensive understanding of international politics and acquire a wide knowledge of global governance through case studies by taking up various global issues.

Students will be assigned chapters in the textbook to present reports. After the report has been presented, the faculty member will add an explanation followed by a discussion among all the students based on the "preparatory notes" submitted by the students.

Note: The order of the course schedule can be changed depending on the students' interest.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: パワー・シフトとグローバル・ガバナンス
- 【3】: 核をめぐるグローバル・ガバナンス
- 【4】: 同盟とグローバル・ガバナンス
- 【5】: 戦争と抑止のグローバル・ガバナンス
- 【6】: 内戦とグローバル・ガバナンス
- 【7】: FTA が生み出すリージョン・ガバナンス
- 【8】: 投資協定によるガバナンス
- 【9】: インターネット・ガバナンス

- 【10】:新自由主義時代に変容する福祉国家とグローバル・ガバナンス
 【11】:腐敗・汚職問題とグローバル・ガバナンス
 【12】:人権:ビジネスとプライベート・ガバナンス
 【13】:移民・難民:越境のグローバル・ガバナンス
 【14】:まとめの議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテキスト輪読に際して演習で扱う章を事前に通読し、コメントや疑問点、演習で議論したい論点などを整理した「準備メモ」(コメントカード)を作成し、事前に提出してもらう。

各回のテーマに関する情報を事前に収集し、参考文献として挙げられている文献などに目を通しておく。また、世界情勢を把握するため、国際ニュースなどもこまめにチェックしておくこと。授業では事例研究を行うので、各自で各回のテーマに関連する事例を考える。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当箇所の報告:60% 準備メモ(コメントカード)と議論への積極的参加度など:40%

テキスト / Textbooks

大芝亮・秋山信将・大林一広・山田敦『パワーから読み解くグローバル・ガバナンス論』有斐閣 2018 9784641184381

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日頃から積極的に国際情勢に疑問や関心を持つこと

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

演習のレジュメは Canvas LMS にアップロードして配付する。「準備メモ」(コメントカード)も Google Classroom などを活用して提出してもらうので、演習中に参照できる電子機器が必要となる。レジュメやコメントカードなどは各自で印刷出力して紙媒体で活用してもよいし、コンピューターやタブレットなどを利用してデジタルにノートテイキングをしてもよい。演習中にも電子機器の使用により資料などを閲覧したり、最新の国際情勢などを検索したりする。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15名程度

配当年次:1年次

選考方法:レポート

①題目:本演習を志望する理由と、国際政治で関心のあるテーマについて自由に論じて下さい。

②字数:1000～1200字程度(A4用紙1枚以内)

演習での議論では、自由闊達かつ柔軟な視点が重要なので、積極的に自分の考えを発言して議論を盛り上げてほしい。

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law
Future Skills Project

横山 政司(YOKOYAMA MASASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX580
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	Future Skills Project		

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、社会や企業が現実抱える問題や課題を知り、チームで課題解決に向けて取り組む。課題を解決する過程で、実社会に触れることにより、社会で必要とされる能力に気づき、その活用方法を学ぶ。また課題解決を図るために必要であると気付いた様々な能力を身につけるために、大学生活をどのように過ごし、学んでいくかについて、自ら考え、主体的に行動する力を養うことを目標としている。

This class aims to have students understand the problems and issues actually faced by society and companies and to work in teams to resolve these issues. Through the process of resolving these issues, students will gain exposure to the real world, become aware of the abilities which are required in society, and learn how to apply them. Moreover, in order to enable students to develop the various abilities which are realized to be necessary during the problem-solving process, the objective of this course is to help students think on their own about how to spend their time at university and the learning process to cultivate the ability to take self-directed action.

授業の内容 / Course Contents

◇ 本講義は、大教室での受動的な講義ではなく、学生自らが能動的に議論に参加し、発表する学習方法(アクティブ・ラーニング形式)で行う課題解決型学習(PBL:Problem Based Learning)である。

◇ 講義は、前半に1企業、後半にもう1企業(合計2社)の協力を得て、それぞれから課題を提示してもらい、提示された課題に対して、チームで取り組み、成果を出す。

◇ 企業の担当者から提示された課題に対して、受講者は「社員の立場(当事者目線)」でチームによる解決を目指す(当事者意識を持って課題解決に取り組む)。課題解決を通して、必要な情報を収集・分析し、自分の意見を出し、DATAや資料により自らの主張を裏付ける。そして、他人に自分の意見を伝え、相手の意見を引き出して理解し、チームで検討を重ねる。それにより、チームの結束力を高め、特定の課題を解決していくことを学ぶ。

◇ 中間プレゼンと最終プレゼンでは、チームで考え抜いた課題解決策を企業担当者に提示し、そこでのフィードバックから自分とチームの取り組みを振り返る。

◇ 本講義は、一般社団法人 Future Skills Project 研究会がプラットフォームとなり、協力を受けながら、実施されるプログラムである(<http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>)。

◇ The lectures will not consist of passive lectures in a large auditorium but instead be conducted using Problem Based Learning (PBL) in which students learn through active participation in discussions and by giving presentations (active learning format).

◇ The first half of the lectures will obtain the cooperation of one company, and the second half will work with one additional company (total of two companies). Each company will present an issue which the students will take on in teams to produce results.

◇ The teams will aim to resolve the issues (approach the problem solving with an awareness of the concerned parties)

presented by the company representatives from the “employee’s perspective (viewpoint of the concerned parties).” Students will collect and analyze the required information, come up with their own opinions, and substantiate their own statements with data and documentation through the problem-solving process. Finally, students will learn how to resolve a specific issue by increasing team cohesiveness through stating their own opinion to others, soliciting and understanding the opinion of others, and evaluating the issue as a team.

◇ During the intermediate and final presentations, students will present the solution thought up by the team to the company representatives to review their own and the team’s effort based on the feedback received.

◇ These lectures are the program conducted by the Future Skills Project Research Society as a platform and with cooperation from it. <http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>

授業計画 / Course Schedule

【1】:マインドセット・ルール説明

【2】:課題とは？

ディスカッションとは？

《企業①》

【3】:企業(第一登壇企業)からの課題提示 ★ (★:企業参加の回)

【4】:グループ活動

【5】:企業への中間プレゼン ★

【6】:グループ活動

【7】:企業への最終プレゼン・評価 ★

【8】:振り返り・スキル紹介

チーム再編

《企業②》

【9】:企業(第二登壇企業)からの課題提示 ★

【10】:グループ活動

【11】:企業への中間プレゼン ★

【12】:グループ活動

【13】:企業への最終プレゼン・評価 ★

【14】:全体の振り返り

今後の大学生活での学びを検討する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

後述する授業時間外の活動のウエイトが大きいことが、本講義の特徴である。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

◇ この講義は、企業の第一線で活躍する方々を招いて行われる。企業の方は非常に熱心に講義に関わって下さるので、講義への出席はもちろん、授業時間外のチーム活動への参画に責任を持つことが必須条件である。

◇ 具体的には、授業時間内のグループワークに加え、授業時間外でのフィールドワークやディスカッション等に相当な時間を費やす必要がある。

以上のことを十分に理解したうえで、覚悟と主体性を持って参加して欲しい。

授業時間外を含めて本気で取り組めば、必ず皆さんの成長に繋がる講座である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出欠・参加姿勢:20% リフレクションシートの内容:30% チームへの貢献:30% プレゼンの内容:20%

テキスト / Textbooks

- ・講義は、Future Skills Project 研究会作成のテキスト『Project Support Notebook』を使用する。
- ・初回の講義から使用するため、受講者各自で購入し、講義に持参すること。

参考文献 / Readings

ハンス・ロスリング 『FACT FULNESS』 日経 BP 2019 4822289605

成毛眞 『2040 年の未来予測』 日経 BP 2021 4822288900

エイミー・C・エドモンドソン 『恐れのない組織「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』 英治出版 2021

4862762883

宇田川元一 『他者と働く』 NewsPicks パブリッシング 2019 4910063013

竹林 一 『たった1人からはじめるイノベーション入門』 日本実業出版社 2021 4534058977

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

主体性、協調性、授業時間外の活動に対するコミット

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートPCを持参すること

その他 / Others

・抽選登録のため、選考なし。

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law

ビジネスに関する基礎的な法律知識の修得

鄭 燦玉 (JUNG CHANOK)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX582
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ビジネス法のエッセンスを学び、その内容を理解しておくことで、各法律の本格的な学習に備える。

This seminar can help students prepare for an in-depth study of each law by learning the essence of business law and understanding its contents.

授業の内容 / Course Contents

法は社会生活のあらゆる領域を規律していますが、とりわけ企業活動は法的規律なしには成立しえません。たとえ企業に所属せず、ビジネス活動を日常的に行うわけではない一般個人であるとしても、企業から商品を購入するなど、日常生活において企業を相手に契約を結ぶことは数多くあります。法的紛争の防止・解決のためにも、社会人にとって関連する法律知識を備えておく必要性は高いといえます。

本演習は、民法や会社法などのより専門的な法学科目への橋渡しの役割を演じるためのものであり、授業の中ではビジネスに関係する法律の基本的な規律内容について勉強していきます。具体的には、ビジネス法の入門書である中村信男ほか『ビジネス法入門〔第4版〕』(学期の初めごろに新版が出されている場合は、それをテキストとする)の各パートを適当に割り当てたうえ、担当者に該当部分を事前に精読してもらい、その内容を要約・報告してもらいます。

In this seminar, we will study the basic regulations of business-related laws such as civil law and corporate law. In the seminar presentation, students read an introduction to business law attentively, write a report and give a presentation to other students.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

—テキストと参考文献の紹介、授業の進め方と準備・報告の方法の説明—

【2】: ビジネス法の意義・範囲・特色

【3】: 企業取引と契約(1)(2)

【4】: 企業取引と契約(3)

【5】: 企業取引と契約(4)

【6】: 商取引法の概要と特色(1)(2)

【7】: 会社制度の特徴と会社の種類

【8】: 株式会社の経営機構と監視・監督制度

【9】: 上場会社とコーポレート・ガバナンス

【10】: 取締役等の義務と報酬規制

【11】: 取締役等の民事責任と代表訴訟

【12】: ファイナンスに関する法制度

【13】: M&A と組織再編

【14】:ビジネスに係るその他の規整、まとめ

※以上の計画は、授業の進捗状況や最終的に確定した受講生の人数などに鑑み、若干変更される可能性がある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

※2回以降の共通事項:担当者による該当パートの報告と教員からのコメント、みんなでの意見交換

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

学習の効率を高めるためにも、担当者が事前にアップロードする報告レジュメやテキストの該当部分を一読してくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメの出来と報告内容:70% 質疑応答やディスカッションへの参加度:30%

ただし、欠席回数が5回以上である場合、または、自分の報告日に正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。

テキスト / Textbooks

中村信男ほか『ビジネス法入門』中央経済社 2023 9784502458811

状況に応じて追加のテキストを検討する(追加テキストは教員が用意し提供する)。

参考文献 / Readings

参考文献については、授業中に適宜紹介します。

その他 / Others

採用人数/Number of students:13名内外 ※選考の結果、合格者が13名を超えることもありうる。

配当年次/Designated year:1年次

選考方法/Selection method:レポート

①内容:自己紹介と志望動機、その他

②字数:1000字程度(例:自己紹介300字、志望動機やゼミ授業に臨む心構え700字)

※自分を採用すべき理由を中心にわかりやすく書いてください。

※本演習では、報告レジュメの出来について教員が綿密に検討し、授業中に頻繁にコメントをします。教員から質問・コメントを受けることや、クラスメートから指摘を受けることに拒否感をもつ学生は、本演習志望を再考してください。

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law
Law & Peace

リベイロ, D. (RIBEIRO DILTON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX584
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2913
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	国際ビジネス法学科生優先 特に英語授業に関心がある者、グローバルコースへの転コースを検討している者の受講を推奨します。		

授業の目標 / Course Objectives

本法学基礎演習は、英語で学ぶことに興味がある学生、特に法学や平和に関連するテーマに関心を持つ学生を対象としています。また、将来的に交換留学プログラムへの参加を検討している方や、法学部のグローバルコースに関心がある方にも適した講義となっています。本演習では、学生が負担を感じることなく英語での学習に取り組めるよう工夫されています。授業の主な使用言語は英語ですが、日本語も適宜使用する予定です。

本法学基礎演習の主な目的は2つあります。1つ目は、学生が安心して学べる環境の中で、英語でテーマを学ぶ入門的な経験を提供することです。2つ目は、法と平和の関係についての基礎的な知識を紹介することです。

法学や社会科学に興味を持つ学生には特に履修をお勧めします。英語力に自信がない場合でも、本法学基礎演習は全ての学生が安心して学べるようサポートすることを目的としています。

本法学基礎演習では、法と平和の国際的側面に焦点を当てつつ、平和が社会や個人にどのような影響を与えるかについても議論します。

本法学基礎演習の具体的な目標は以下の通りです：

- 英語で法や法関連のテーマを学ぶ基礎的な体験を得ること
- 国際法と平和について学際的な視点から基礎的な理解を深めること
- 重要な社会的・法的課題を批判的に分析する能力を養うこと

This course is designed for students interested in studying law-related topics in English, particularly those who are interested in law and peace-related topics. Moreover, this course might be a good option for those who are considering future participation in exchange programs or are interested in the Global Program from the Faculty of Law. Students will be introduced to studying in English in a way that is manageable and not overwhelming. While the primary language of instruction is English, Japanese may also be used in class.

The main objectives of this course are twofold: first, to provide students with an introductory experience of studying a topic in English within a safe and welcoming environment, and second, to introduce students to the relationship between law and peace.

Students with an interest in law and social sciences are especially encouraged to enroll. Regardless of their level of confidence in the English language, this course is designed to support all students.

The course will primarily focus on the international aspects of law and peace, but there will also be discussions on how peace impacts society and individuals.

The objectives of this course are to help students:

- have an introduction to law and law-related topics in English

- b) gain a basic understanding of international law and peace from an interdisciplinary perspective
- c) develop skills to critically analyze key social and legal issues

授業の内容 / Course Contents

この基礎演習は、積極的平和、消極的平和、文化的平和といった平和に関連する概念について理解を深めることを目的としています。また、これらの概念が法とどのように関連するかを分析し、非暴力に関する理論にも触れていきます。さらに、国家が戦争を行う条件やその方法、戦争が勃発した場合の法の適用についても検討します。最後に、戦争犯罪者をどのように責任追及するかについても学びます。平和の反対は暴力であり、本科目では、大規模な暴力や暴力的行動を平和や法の侵害として扱います。

なお、戦争や暴力といったセンシティブな話題について議論することをご理解ください。

この科目は、英語で法学を学びたい方や英語圏の大学への交換留学を希望する方を対象とした入門的な演習です。授業は英語で行われますが、言語に自信のない方にも対応し、ディスカッションや質問は日本語でも可能です。国際法、あるいは法学一般に関する事前知識は不要です。言語、バックグラウンド、法学の知識に関係なく、どなたでも参加し、学ぶことができます。

This course is designed to provide students with a better understanding of peace-related concepts such as positive, negative, and cultural peace. Students will also analyze how these concepts relate to law and engage with theories on nonviolence. Additionally, the course will focus on whether and how states can go to war, as well as how the law applies once war breaks out. Finally, the course will address how to hold war criminals accountable for their crimes. It is important to note that the opposite of peace is violence, and this course will deal with large-scale violence and violent behavior as breaches of peace and law.

Please note that sensitive topics such as war and violence will be discussed.

This course is an introductory seminar for anyone interested in studying law in English or those interested in going on exchange to an English-speaking university. Classes will be in English, but the instructor will accommodate those who are not confident in the language (discussions and questions can be in Japanese). No previous knowledge of international law - or law in general - is necessary. Everyone is welcome to join and participate, regardless of their language, background, or legal knowledge.

授業計画 / Course Schedule

【1】: Week 1

Topic: Course Introduction and Introduction to Law and Peace

【2】: Week 2

Topic: Galtung's Peace Theories (What is Violence? What is Peace?)

【3】: Week 3

Topic: Galtung's Peace Theories (Negative Peace, Positive Peace and Cultural Peace)

【4】: Week 4

Topic: Galtung's Peace Theories in Practice & Discussions

【5】: Week 5

Topic: Introduction to International Law (Part 1)

【6】: Week 6

Topic: Introduction to International Law (Part 2)

【7】: Week 7

Topic: Introduction to International Law – Discussions on Law and Peace

【8】: Week 8

Topic: The Law that Applies When War Happens – International Humanitarian Law (Part 1)

【9】: Week 9

Topic: International Humanitarian Law (Part 2)

【10】: Week 10

Topic: International Humanitarian Law (Part 3) & Discussions

【11】: Week 11

Topic: When Can Countries Go to War? The Use of Force (Part 1)

【12】: Week 12

Topic: The Use of Force (Part 2)

【13】: Week 13

Topic: Should We End All Wars? The Nonviolent Movement

【14】: Week 14

Topic: Should We Arrest War Criminals? An Introduction to International Criminal Law

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend about 110 minutes per week on required and optional readings, assignments, and other learning activities.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class Participation:60% Take-Home Final Report:40%

テキスト / Textbooks

All materials will be provided online (on Canvas LMS).

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

In this course, all students need is curiosity and an interest in global issues, as well as a willingness to improve their English skills. If students feel uncertain about their English language abilities, the instructor will provide the necessary assistance and support.

この演習で、受講生にとって求められるものは、グローバルな課題への関心と好奇心、そして英語力を向上させたいという意欲のみです。英語力に不安を感じる場合でも、どうぞご心配なさらないでください。講師が必要な支援を丁寧に行います。

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law
Special Topics in Criminal Law

リベイロ, D. (RIBEIRO DILTON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX589
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この法学基礎演習は、英語で法学関連のテーマを学びたい学生、特に社会正義、刑法、国際法に関心のある学生を対象としています。また、将来的に交換留学プログラムへの参加を検討している学生や、法学部のグローバルコースに興味のある学生にも適した演習です。学生が英語での学習に取り組む際に負担が大きくなるように、分かりやすく進めていきます。授業の主要言語は英語ですが、必要に応じて日本語も使用される場合があります。

本演習では、刑法(主に欧米法)、人身取引(現代の奴隷制度)に関する国際的および日本の規制、そして国際刑法の基本原則について学ぶための導入を提供します。

本演習の目標:

- 欧米法の法域における刑法の基本的な理解を得ること
- 刑法に関連する主要な社会的および法的問題を批判的に分析するスキルを身につけること
- 刑法の問題をグローバルな視点で考察すること
- 国際的な刑法に関する基本的な問題を理解すること

この演習は刑法の事前知識がない学生にも適しており、すべての背景や専攻の学生に開かれています。このセミナーを受講することに興味がある方は、どなたでも歓迎します。

This course is designed for students interested in studying law-related topics in English, particularly those who are interested in social justice, criminal law, and international law. Moreover, this course might be a good option for those who are considering future participation in exchange programs or are interested in the Global Program from the Faculty of Law. Students will be introduced to studying in English in a way that is manageable and not overwhelming. While the primary language of instruction is English, Japanese may also be used in class.

This course aims to provide students with an introduction to some fundamental aspects of criminal law (mainly common law), both international and Japanese regulations concerning human trafficking (modern-day slavery), and the basic principles of international criminal law.

The objectives of this course are to help students:

- have a basic understanding of criminal law in common law jurisdictions
- develop skills to critically analyze key social and legal issues concerning criminal law
- think about criminal law issues from a global perspective
- have a basic understanding of international issues concerning criminal law

This course is suitable for students with no prior knowledge of criminal law. It is open to students of all backgrounds and majors who are interested in taking this seminar. Everyone is welcome.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、まず「Common Law」の刑事法体系における基本的な定義と概念を学生に紹介します。主にイギリスの刑

事法体系に焦点を当てますが、アメリカ合衆国など他のコモンロー諸国の刑事法体系についても学びます。また、日本の刑事法体系についても少しだけ取り上げます。国内法体系における刑事法の概要を学んだ後、その国際的側面についても分析を行います。

初めに、犯罪データを分析してトレンドを把握する方法に焦点を当てます。特に、アメリカと日本において増加している犯罪と減少している犯罪について検討します。次に、どのような行為が犯罪と分類されるのか、また、どの行為が刑罰に値すべきかについて理解を深めます。その後、犯罪の構成要件を学び、特に殺人のような重大犯罪を評価する際に、刑事弁護士の視点で考える方法を習得します。このセクションでは、イギリスの主要な判例を取り上げ、実践的な分析を行います。

続いて、国際連合が定義する人身取引(ヒューマントラフィッキング)に焦点を当てます。学生は、人身取引の定義について議論し、強制労働や強制的な物乞いなど、それに関連する主要な刑事問題を検討します。最後に、刑事司法制度が個人の生活にどのような影響を与えるかを探り、国際刑事法の仕組みについて簡単に触れます。特に国際刑事裁判所(ICC)に焦点を当てます。

演習内容には、犯罪や法違反に関する議論が含まれます。授業内でセンシティブな話題が取り上げられることを予めご了承ください。

この科目は、英語で法学を学びたい方や英語圏の大学への交換留学を希望する方を対象とした入門的な演習です。授業は英語で行われますが、言語に自信のない方にも対応し、ディスカッションや質問は日本語でも可能です。刑事法、国際法、または法学一般に関する事前知識は不要です。言語、バックグラウンド、法学の知識に関係なく、どなたでも参加し、学ぶことができます。

The course will begin by introducing students to the fundamental definitions and concepts of a common law criminal system. While the primary focus is on the United Kingdom, students will also explore the criminal systems of other common law countries, such as the United States. The course will also address the Japanese criminal system. After providing a general overview of criminal law within the domestic legal system, the course will analyze its international aspects.

The seminar will initially focus on how to analyze criminal data to identify trends—specifically, which crimes are increasing and which are decreasing in both the United States and Japan. Next, the focus will shift to understanding how certain behaviors are classified as crimes and which actions should be considered criminal. The course will then cover the elements of a crime and provide insight into how to think like a criminal lawyer, particularly in assessing serious offenses like murder. This section will draw upon key interesting case laws from the United Kingdom and include practical analysis.

Subsequently, the seminar will focus on human trafficking as defined by the United Nations. Students will discuss the definition of human trafficking and examine key criminal issues related to it, such as forced labor and forced begging, among other crimes. Finally, the course will address the criminal justice system, exploring how it impacts individuals' lives. It will also briefly consider the workings of international criminal law, with a particular emphasis on the International Criminal Court.

Class contents will include discussions of crimes and violations. Please be aware that sensitive topics will be discussed in class.

This course is an introductory seminar for anyone interested in studying law in English or those interested in going on exchange to an English-speaking university. Classes will be in English, but the instructor will accommodate those who are not confident in the language (discussions and questions can be in Japanese). No previous knowledge of criminal law or international law - or law in general - is necessary. Everyone is welcome to join and participate, regardless of their language, background, or legal knowledge.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Week 1

Topic: Course Introduction & Crime Statistics

【2】:Week 2

Topic: Crime Statistics - US & Japan (Part 2)

【3】:Week 3

Topic: What Should Be a Crime? (Part 1)

【4】:Week 4

Topic: What Should Be a Crime? (Part 2)

【5】:Week 5

Topic: How to Think Like a Criminal Lawyer - Legal Principles (Part 1)

【6】:Week 6

Topic: How to Think Like a Criminal Lawyer - Legal Principles (Part 2)

【7】:Week 7

Topic: How to Think Like a Criminal Lawyer - Legal Principles (Part 3)

【8】:Week 8

Topic: International Human Trafficking (Part 1)

【9】:Week 9

Topic: Human Trafficking (Part 2)

【10】:Week 10

Topic: Human Trafficking (Part 3)

【11】:Week 11

Topic: Human Trafficking in Japan

【12】:Week 12

Topic: Problems of the Criminal Justice System

【13】:Week 13

Topic: Problems of the Criminal Justice System (Part 2)

【14】:Week 14

Topic: International Criminal Law & Course Wrap-Up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend about 110 minutes per week on required and optional readings, assignments, and other learning activities.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class Participation:60% Take-Home Final Report:40%

テキスト / Textbooks

All materials will be provided online (Canvas LMS) or distributed in class.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

In this course, all students need is curiosity and an interest in global issues, as well as a willingness to improve their English skills. If students feel uncertain about their English language abilities, the instructor will provide the necessary assistance and support.

この演習で、受講生にとって求められるものは、グローバルな課題への関心と好奇心、そして英語力を向上させたいという意欲のみです。英語力に不安を感じる場合でも、どうぞご心配なさらないでください。講師が必要な支援を丁寧に行います。

その他 / Others

採用人数/Number of students:45 名程度/Probability of 45 people

配当年次/Designated year:1 年次/1st year

選考方法/Selection method:申請のみ/ Application Only

※Please apply according to the guidelines

※ガイドラインに沿って申請してください

※Lottery in the case of a large number of applicants

Law and Society in Japan A

Law and Society in Japan A
Japanese Law in Comparative Perspective

オルトラニー (ORTOLANI ANDREA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX591
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program Course Code Registration for after 2nd year students of the Global Program		

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to present Japanese law as seen by Japanese and international scholars.

授業の内容 / Course Contents

This course will present some areas of the Japanese legal system from a historical and comparative perspective. The focus will be on the judicial system and in particular on the Supreme Court of Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course
Judicial review
- 【2】:The establishment of the Supreme Court of Japan
- 【3】:Constitutional and statutory provisions on courts and judges
- 【4】:The legal professions
- 【5】:Appointment and review of Supreme Court justices
- 【6】:The current justices of the Supreme Court
- 【7】:Research officials, other staff
Judicial independence, and judicial precedents in Japan
- 【8】:Analysis of Supreme Court case law
- 【9】:Analysis of Supreme Court case law
- 【10】:Analysis of Supreme Court case law
- 【11】:Analysis of Supreme Court case law
- 【12】:Analysis of Supreme Court case law
- 【13】:Analysis of Supreme Court case law
- 【14】:Analysis of Supreme Court case law

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

Participants will have to give individual or group presentations on selected topics. At regular intervals, in-class short tests will be held.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Participants will be required to read materials in English in preparation for the lessons.

Participants will have to submit short papers at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Short papers:25% Self-evaluation:25% Short tests:30% 最終レポート割合::10%最終テスト割合::10%

テキスト / Textbooks

C. P. A. Jones, F. S. Ravitch The Japanese Legal System – In a Nutshell West 2020 9781683281108

Purchase of the textbook is not mandatory.

The instructor will distribute all mandatory reading materials.

参考文献 / Readings

Additional reading materials (books, articles, and other resources) will be provided during the semester.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Ability to listen to a class in English and engage in simple conversations in English about the topics presented.

Basic knowledge of Japanese history and society since 1947.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

The use of laptops, tablets, phones and other electronic devices during the lesson, unless explicitly allowed on a case-by-case basis, is strictly prohibited.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Law and Society in Japan B

Law and Society in Japan B
Japanese Law in Comparative Perspective

オルトラニー (ORTOLANI ANDREA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX592
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX1901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program Course Code Registration for after 2nd year students of the Global Program		

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to present Japanese law as seen by Japanese and international scholars.

授業の内容 / Course Contents

This course will present some areas of the Japanese legal system from a historical and comparative perspective. The focus will be on constitutional law, private law and family law.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Historical background
Pre-modern law
- 【2】:Reception of Western law in the 1800s
- 【3】:The Meiji Constitution
- 【4】:Modernization of the legal system 1889-1945
- 【5】:Occupation: reforms, and the new Constitution
- 【6】:The Japanese Parliament (Diet)
- 【7】:The Cabinet
- 【8】:The Judiciary
- 【9】:Civil law: the drafting of the Civil Code
- 【10】:Civil law: the reform of the civil code
- 【11】:Civil law: current issues
- 【12】:Family law: the koseki
- 【13】:Family law: marriage and divorce, adoption, rights of the children
- 【14】:The debate on the Japanese legal consciousness

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

Participants will have to give individual or group presentations on selected topics. At regular intervals, in-class short tests will be held.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Participants will be required to read materials in English in preparation for the lessons.

Participants will have to submit short papers at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Self-evaluation:25% Short papers:25% Short tests:30% 最終レポート割合::10%最終テスト割合::10%

テキスト / Textbooks

C. P. A. Jones, F. S. Ravitch The Japanese Legal System – In a Nutshell West 2020 9781683281108

C. P. A. Jones (ed.) The Annotated Constitution of Japan: A Handbook Japan Documents 9784909286185

Purchase of the textbook is not mandatory.

The instructor will distribute all mandatory reading materials.

参考文献 / Readings

Additional reading materials (books, articles, and other resources) will be provided during the semester.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Ability to listen to a class in English and engage in simple conversations in English about the topics presented.

Basic knowledge of Japanese history, in particular since 1868.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

The use of laptops, tablets, phones and other electronic devices during the lesson, unless explicitly allowed on a case-by-case basis, is strictly prohibited.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

政治学基礎演習

Introductory Seminar on Political Science

政治学をめぐる思考力

崔 先鎬(CHOI SEONHO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX593
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治学を構成する様々なテーマを扱いながら論理的思考力を蓄える。

これをもとに、この演習の参加者各自の専門分野に応用して貰うこと。

Improve the logic of seminar students by dealing with various basic themes of political science.

Based on this, the participants of this exercise are to apply it to their own specialized academic fields

授業の内容 / Course Contents

この演習では、日本と世界で扱われてきた政治理論と思想体系についてテキストを中心に考察して行く。

In this seminar, we will examine political theories and thought systems that have been considered in Japan and the world, focusing on texts

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

(演習の概要、参加者の自己紹介・各自の担当について話し合う)

【2】:政治学の概念と価値

【3】:政治と道徳

【4】:政治と宗教

【5】:政治と経済

【6】:政治理念の類型 - ナショナリズム

【7】:政治理念の類型 - リベラリズム

【8】:政治理念の類型 - デモクラシー

【9】:政治理念の類型 - マルキシズム・アナーキズム

【10】:政治理念の類型 - ソーシャルリズム・イデアリズム

【11】:政治的権威 - 一元性と多元性

【12】:公権力

【13】:主権

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの中に登場する用語と文脈を「丁寧に」読むこと。

テキストを「事前に」読んで纏めること。

演習開始前にレジメとコメントペーパーを提出したうえ参加者全員に配布すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度・姿勢:25% 発表・論議:25% レジメ:25% 最終レポート:25%

テキスト / Textbooks

南原繁『政治哲学序説』岩波書店 2006 年 9784000011853

杉田敦『政治的思考』岩波新書 新赤版 1402 2014 年 9784004314028

『政治哲学序説』はコピーを配布する。

参考文献 / Readings

野口雅弘・山本圭・高山裕二 編『よくわかる政治思想』ミネルヴァ書房 2021 年 9784623090990

川崎修・杉田敦 編『現代政治理論』有斐閣 2014 年 9784641124547

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

黒・青の油性ボールペン・大学ノート

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:10 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

① 題目

自己紹介およびこの演習科目に興味をもった理由(= 日韓をめぐる事柄の中で各自の関心事、例えば、日韓に於ける文化交流など)について

② 字数

合計 1000 字

First-Year Seminar

First-Year Seminar
Understanding Real Estate Transactions

アレン, A. (ALLEN ANDREW)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX596
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ 2025 年度以降入学のグローバルコース 1 年次(9 月入学者)自動登録 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law Automatic registration for 1st year students of the Global Program (September entrants) entering in 2025 or later		

授業の目標 / Course Objectives

The primary objective of this course is to expose students to the academic and practical aspects of real estate transactions. By the end of this seminar, students should have the ability to address issues that may arise in real estate transactions and a general understanding of, and the ability to recognize, legal issues affecting the acquisition, ownership and operation of real estate in the United States.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will examine the law and practice of buying, selling, leasing and financing real estate in the United States. While the focus of this seminar will revolve around real estate transactions in the United States, I may also discuss real estate transactions in Japan. Depending on availability, there may be guest lecturers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Introduction and the Concept of Property (Part 1)
- 【2】:Concept of Property (Part 2)
- 【3】:Owning Real Property
- 【4】:Real Estate Purchase & Sale Agreements (Part 1)
- 【5】:Real Estate Purchase & Sale Agreements (Part 2)
- 【6】:Real Estate Purchase & Sale Agreements (Part 3)
- 【7】:Midterm Quiz
- 【8】:Leasing
- 【9】:Financing
- 【10】:Lending
- 【11】:Real Estate Closings and Deal Management
- 【12】:Environmental Laws & Hazardous Materials
- 【13】:Real Estate Article Reading and Discussion
- 【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class and come to class ready to ask questions and share their opinions. I expect students to share their ideas and debate in class. Any information in the readings may be included on the quizzes and the final test.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes:20% Midterm Quiz:20% Class Participation:30% Final Test:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading pack to be provided.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

Participation: Class attendance, participation, and preparation are expected. If you are unable to attend class, please contact me by email before absences occur, or as soon as possible after class starts if you have an unexpected emergency. Unauthorized absences will be considered in calculating a student's class participation score. Please note that all students must attend at least 2/3 of the lectures in order to earn credit for this course.

Quizzes: Students will take 4 quizzes that will cover information discussed throughout the seminars. Please note that the lowest score will automatically be dropped and the remaining scores will be averaged. Please note that this calculation does not include the midterm quiz.

Final test: The final test will be held during the time of the final class and will cover material discussed during the entire seminar. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the quizzes, (c) attended all of the seminars, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each class, then they should be prepared for the final test.

Guest Lectures: If scheduled, students are strongly encouraged to attend guest lectures. Any information presented during guest lectures may be included on quizzes and/or the final test.

Syllabus: The syllabus represents current plans and objectives for each week, but as we go through the semester, the plans may need to be changed to maximize the class learning opportunity. Such changes, if necessary, will be clearly conveyed to the class.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

法学基礎演習

Introductory Seminar on Law

国際法の視点から国際問題を考える

鈴木 孟(SUZUKI TAKESHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX597
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日々生起する様々な国際問題について、国際法の視点から考え、調査し、分析できるようになる。

This course aims to acquire the ability to consider, research and examine various international problems from the perspective of international law.

授業の内容 / Course Contents

今日の国際社会では日々様々な国際問題(*)が生じており、それらのうちのほとんどは国際法上の論点を孕んでいる。この演習では、そのような種々の国際問題について、事実関係を踏まえた上で、そこに含まれる国際法上の論点を抽出し、国際法の観点から検討する素地を養う。

各回の具体的な内容は次の通りである。はじめに報告者が、予め自身の関心に基づいて選んだ国際問題につき報告を行う。この報告の後で、司会者の学生による進行のもと、受講者全員で討論を行う。この討論は、受講者全員が事前に提出するコメントを土台として、また可能な限り受講者自身によって行われる。

各受講者は、報告者と司会者をそれぞれ1回ずつ担当する。報告する国際問題は各自の関心に基づき何を選んでも構わないが、例えば、森川幸一ほか(編)『国際法で世界がわかる』、坂元茂樹『国際法で読み解く外交問題』は参考になる。報告者は、受講者全員による討論を実りあるものにするため、適切な予習用文献の指定、十分な報告準備、及び当日の議論を積極的にリードすることが求められる。司会者は、報告者に対する質問や批判を十分に用意しておくこと、及び当日の議論をリードすることが求められる。他の受講生も、討論に貢献できるだけ十分な予習と、各回最低1回の発言が求められる。

*ここでの「国際問題」とは、典型的には複数国家間の紛争(領土問題、国家間武力紛争など)や、国際社会で協働して対処する必要のある各国共通の問題(地球環境問題など)を指すものの、それ以外にも、例えばある国の国内措置や国内問題のうち、他国や国際機関による、抗議以外の何らかの反応(非難、承認、支援など)を呼び起こすような国際的影響を持つもの(一部地域の独立による新国家の創設、人権問題など)も含める。さらに、「問題」という語感とは馴染まないものの、各国が協働して一定の共通利益を促進する措置も含める(自由貿易の促進など)。

There arise various international problems (*) on a daily basis in the current international society, most of which hold some aspects of international law. This seminar aims to enhance the ability to find such legal aspects and examine, based on the relevant facts, various international problems from the perspective of international law.

More specifically, in each class, one presenter will make a presentation on the international problem which they will have chosen according to their interest, followed by a discussion among all the participants under the direction of a facilitator student. This debate will be based on the comments submitted by all the participants in advance and will be led by participants themselves as far as possible.

Every student will be a presenter and a facilitator at least once for each. They can choose any international problem in

which they are interested, but the suggested reference book below may be helpful to choose it. In order to make the discussion fruitful, each presenter is required to designate appropriate reading materials, prepare enough for their presentation and lead the discussion, while each facilitator should prepare thoughtful questions and critical comments to the presenter and lead the discussion. Other participants are also required to read well enough to contribute to the discussion and make at least one comment in each class.

*“An international problem” in this context typically refers to a dispute between States (e.g. territorial disputes or international armed conflicts) or a global issue to be addressed in collaboration by the whole international society (e.g. environmental problems), but also includes a domestic measure or problem that has such an international influence as to provoke some responses other than protest, namely, condemnation, recognition or support etc., from other states or international organizations (e.g. creation of a new State as a result of independence of an area from the original State or human rights problems). In addition, notwithstanding some deviation from the original meaning of the word “problem”, it also includes some collaborative measures to enhance common interests among States (e.g. promotion of free trade).

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション、各回のテーマと報告者・司会者の決定

【2】: 調査方法の解説など

【3】: 報告者による報告と討論①

【4】: 報告者による報告と討論②

【5】: 報告者による報告と討論③

【6】: 報告者による報告と討論④

【7】: 報告者による報告と討論⑤

【8】: 報告者による報告と討論⑥

【9】: 報告者による報告と討論⑦

【10】: 報告者による報告と討論⑧

【11】: 報告者による報告と討論⑨

【12】: 報告者による報告と討論⑩

【13】: 報告者による報告と討論⑪

【14】: 報告者による報告と討論⑫・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【各回の報告者がやること】

報告日の一週間前の授業時まで、受講者全員に予習しておいてほしい文献(複数可)を指定する。その上で、自身の選んだ国際問題について、事実関係を踏まえた上で、それを関連する法規範に照らして検討したレジюмеを作成し、報告日の5日前までに Canvas LMS を通じて配布する。

【各回の司会者がやること】

各回の指定文献、報告者のレジюме、全員のコメント(下記参照)に十分目を通した上で、当日の議論をリードする。また議論が停滞したときに議論を喚起するため、司会者自身が報告者に対して質問や批判を行えるよう十分な準備をしておく。

【毎回参加者全員がやること】

各回の指定文献と報告者のレジюмеを読んだ上で、疑問点や報告者に対する賛同・異論などを書いたコメントを、授業日の2日前までに Canvas LMS を通じて提出する。授業時には毎回必ず1回は発言する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:40% 出席・毎回のコメント・議論への貢献度:40% 司会進行:20%

5回以上欠席した者には原則として単位を与えない。

テキスト / Textbooks

特になし。各報告者が予習用文献を指定すること。

参考文献 / Readings

森川幸一・森肇志・岩月直樹・藤澤巖・北村朋史(編) 国際法で世界がわかる ニュースを読み解く 32 講 岩波書店

2016 年 9784000229555

坂元茂樹 国際法で読み解く外交問題 東信堂 2024 年 9784798918761

なお、条約集を持参することが望ましい。例えば、

植木俊哉・中谷和弘(編)『国際条約集(2024 年版)』(有斐閣、2024 年)

また国際法学の各種教科書を適宜参照すること(初回に紹介する)。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:12 名

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

① 題目: (1)本ゼミを選ぶ理由、(2)現時点で自らの報告したい国際問題をグループ報告用と単独報告用に 1 つずつ(計 2 つ)選び、その国際問題を選ぶ理由を述べて下さい(授業時には選択する問題を変更しても構いません)。上記の参考文献の目次(下記 URL を参照。ただし 2 冊目の目次は実物の方が詳細)を見て、同書で扱われている国際問題から選択してもよいですし、自身で別のテーマを設定しても構いません。なお「国際問題」の定義は「授業の内容」を参照。

https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/C_00002.html

<https://www.toshindo-pub.com/book/91876-2/>

② 字数: (1)(2)を合わせて、A4 で 1 枚程度

演習

Seminar

政治報道を読む

三浦 俊章(MIURA TOSHIAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX600
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治報道のメディア・リテラシーを高める

increasing media literacy for political news

授業の内容 / Course Contents

この 20 年でニュースへの接し方が劇的に変化し、新聞やテレビに代わって SNS が主流になりました。アクセスがしやすくなった半面、フェイクニュースやニュース疲れの問題が起きています。政治報道で特にその傾向が顕著です。そういう中でも、新聞の政治記事は依然として信頼性の高いニュースソースであり続けているのですが、若い世代は新聞を読む習慣があまりなく、そもそもどのように政治記事を読めばいいのか、手掛かりすらないのではありませんか。この授業では、新聞記者として 30 年以上にわたって国内外の政治を担当してきたベテランのジャーナリストが、政治記事の読み方のコツを教え、新聞各紙の比べ読みを実践します。受講者は、講師の指導のもと、興味のあるテーマについて記事を比べ読みし、発表を行います。最後に、その発表を踏まえたレポートの提出を求めます。

The way we consume news has changed dramatically in the past 20 years, with SNS taking over from newspapers and television. While access has become easier, problems of fake news and news fatigue have arisen. This tendency is particularly evident in political reporting. Despite this, political articles in newspapers remain a reliable news source, but the younger generation does not have much of a habit of reading newspapers, and they may not even have a clue how to read political articles in the first place. In this class, a veteran journalist who has been covering domestic and international politics as a newspaper reporter for over 30 years will teach you the tricks of reading political articles and practice comparative reading of various newspapers. Under the guidance of the instructor, students will compare and read articles on topics of interest and make a presentation. At the end, students will be asked to submit a report based on their presentation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション／政治ジャーナリズム入門
- 【2】: ニュースと解説を読む
- 【3】: 社説とコラムを読む
- 【4】: インタビューと連載を読む
- 【5】: 発表と討論
- 【6】: 発表と討論
- 【7】: 発表と討論
- 【8】: 発表と討論
- 【9】: 発表と討論
- 【10】: 発表と討論

- 【11】: 発表と討論
 【12】: 発表と討論
 【13】: 発表と討論
 【14】: まとめ／政治ジャーナリズムの課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

新聞の購読は求めませんが、授業期間中は、大学図書館などで紙媒体としての(複数の)新聞になるべく接するようにしてください

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と授業参加:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリント(政治記事のコピーなど)を配布する

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数／Number of students:20～30 名程度／Approximately 20-30 students

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method: 自己紹介と志望動機を 800 字程度にまとめて提出してください

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

憲法判例の多角的な検討

原田 一明 (HARADA KAZUAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX602
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人権や統治機構に関する新しい憲法判例と基本的な憲法判例を素材として、近年の憲法問題について深く議論することを目標とする。

The summer term will primarily use new constitutional precedents concerning human rights and government organizations and fundamental constitutional precedents as source material with the objective of engaging in a deep discussion about constitutional problems in recent years.

授業の内容 / Course Contents

受講者に、それぞれ担当する判例を1つ以上割り当てる。担当者は、自分の担当判例について、事実の概要、判決内容、判決の研究を記したペーパーを予め作成する。授業では、そのペーパーに基づいて報告し、質疑応答するという形式で討論を行う。

During the summer term, each participant will be put in charge of one or more judicial precedents. Students will write a paper in advance which states an overview of the facts, the details of the decision, and research about the decision for the judicial precedent that they are in charge of. Students will present a report based on that paper in class and debate the issues in a question and answer format.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション; 担当判例の割り当てなど
- 【2】: 基本的な憲法判例の検討(1)
- 【3】: 基本的な憲法判例の検討(2)
- 【4】: 基本的な憲法判例の検討(3)
- 【5】: 基本的な憲法判例の検討(4)
- 【6】: 基本的な憲法判例の検討(5)
- 【7】: 基本的な憲法判例の検討(6)
- 【8】: 基本的な憲法判例の検討(7)
- 【9】: 基本的な憲法判例の検討(8)
- 【10】: 基本的な憲法判例の検討(9)
- 【11】: 基本的な憲法判例の検討(10)
- 【12】: 基本的な憲法判例の検討(11)
- 【13】: 基本的な憲法判例の検討(12)
- 【14】: 基本的な憲法判例の検討(13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

憲法の講義内容の復習

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポーターとしての報告内容:50% 平常の出席状況及び学習態度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第7版)』、法学教室判例セレクト Monthly、令和5年度・令和6年度等の重要判例解説など。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:15名程度

配当年次:3,4年次

選考方法:レポート

①題目:本演習に参加する理由

②字数:1000字程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar

企業がグローバルなビジネスを遂行する上での法的課題と取組みについて～具体的な事例を使用しながら意見交換・検討・考察をして理解をする。～

石川 文夫 (ISHIKAWA FUMIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX603
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

企業が実施している種々のビジネスのしくみを考えて理解しながら、ビジネス取引に伴う法的課題や具体的な契約についてメンバーで意見交換しながら課題解決をして行きます。
メンバーが企業社会等に入った時に求められると考えられる課題の抽出力、課題を解決する力を醸成したいと考えます。
In this course, the students will review various business schemes carried out by companies and discuss legal issues and specific contracts associated with business transactions, with a view to finding solutions to the issues. The lecturer aims to enhance the abilities to identify issues and skills to solve issues that students will need when they enter the business community.

授業の内容 / Course Contents

講師が執筆したテキストやオリジナル作成資料、日々のビジネス関連の報道事案(業界、海外・国内を問わない)を抽出して適宜それらを使用しながら進めて行きます。
講師が企業社会で経験した契約交渉などの実務経験、保有する人脈、その他保有する有用な資料などを最大限活用、提供しながらメンバーのナレッジを拡大して行きます。
上記に加えて、演習で取り上げたテーマに関して有識者を必要に応じてゲストで参加いただきアドバイスを受ける機会も設けたいと思います。
また、産業界における実状を把握する為にチームに分けて異なる業界の企業について調査する活動も行います。講師のネットワークを活用し特定の企業にヒアリング活動も行う予定です。(例 半導体業界、自動車業界、IT 業界など最近4年間連続実施。調査活動の考察については12月末を目処に演習内で成果報告会も実施する予定です。上記の活動などを通じて法律が実社会でどのように活用されているか、どこに問題があるか等に関して知見(ナレッジ)をさらに広げることを期待します。
また必修ではありませんが、もし自分の関心がある法的課題のテーマを設定し1年間当該テーマについて調査・研究し論稿として纏めたい方がいればその為の支援も行います。
The class will use textbooks and original materials written by professor, as well as daily business-related news reports (regardless of industry, domestic or international), as appropriate.
The professor will expand members' knowledge by making the most of their practical experience in contract negotiations and other aspects of the corporate world, their personal connections, and other useful materials they possess.
In addition to the above, Professor would like to provide opportunities for guest experts to participate and receive advice on the themes covered in the exercises as necessary.
In addition, in order to grasp the actual situation in the industrial world, participants will be divided into teams and will conduct activities to research companies in different industries. We also plan to use the professors' networks to

conduct interviews with specific companies. (For example, this has been carried out for the last 4 years in a row in the semiconductor, automotive and IT industries. Regarding the report on the results of the research activities is planned to be held around the middle of December within the seminar. Through the activities mentioned above, it is expected that students will further broaden their knowledge of how the law is used in the real world and where the problems lie. In addition, although it is not compulsory, if there are students who would like to set a theme for a legal issue that they are interested in and research and study that theme for a year, and compile the results into a paper, support will be provided for this.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講師紹介、本演習の狙い、全体説明等を行う。
- 【2】: 契約の位置付け、企業における契約交渉の実状、組織について。社会全体の動きなどの説明、理解、意見交換等を実施。
- 【3】: 企業間コラボレーションについて。その実状と役割を理解する。ライセンス、共同開発、外部委託、合併会社、M&A等の説明
- 【4】: 企業ビジネス展開の最初に必要な秘密保持契約と秘密情報の重要性について具体的な契約書を使用しその役割と内容の理解をする。
- 【5】: 知的財産(権)の理解とライセンス契約にういて、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
- 【6】: 企業間の共同開発契約について、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
- 【7】: 企業間の委託・受託契約について、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
- 【8】: 企業間の販売店契約について、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
- 【9】: 製造物責任法について具体的な例を使用し、問題点、対処方法について考える。
- 【10】: 技術標準について具体的な例を使用し、問題点及びその役割と重要性を理解する。
- 【11】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【12】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【13】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【14】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【15】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【16】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【17】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【18】: 国内外の有識者をゲストに招いて、テーマを設定した上で話しを聴いて理解をする、(ON LINE も活用)
- 【19】: 企業におけるコンプライアンスの取組みについて (SDGs を含む) 専門家をゲストに招いて話しを聴き理解をする。
- 【20】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【21】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【22】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【23】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【24】: 弁護士さん等をゲストに招いて (ON LINE も活用)、国内・海外を問わず現状の訴訟など公開可能な範囲で最新の問題事案についての話しを聴いて知見を拡大する、
- 【25】: 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
- 【26】: 産業界別の調査活動についての成果報告会を実施、意見交換を行う。
- 【27】: 産業界別の調査活動についての成果報告会を実施、意見交換を行う。
- 【28】: 演習全般を通じての振り返りと総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

産業界における法的問題等のヒアリング、企業見学(IT、DX 等見学コース保有企業等)を活用(チーム別でその都度予定が可能な学生だけ)

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習の中で随時話しをします。事前に現実のビジネスケースを読んで理解をしておく必要がある場合もあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習内での発言等:20% チームによるケースの検討発表:40% 成果報告書(グループ)、成果報告会態度:40%

テキスト / Textbooks

石川文夫 企業間コラボレーションを成功させる契約交渉の進め方 中央経済社 2018 9784502259012

演習内で適宜紹介します。

参考文献 / Readings

資料、書籍は演習内で随時紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

企業社会などビジネスに関心がある学生が望ましい。民法契約法は履修済みが望ましい。

また言うまでもないことですが、当たり前の礼儀、マナーがある方が参加してください。たとえば、挨拶「こんにちは。」「ありがとうございます。」「これは最低限のマナーです。また、外部の企業訪問などに遅れる場合、急に参加出来なくなった場合には事前に必ず連絡ください。就職面談などでなど理由になりません。不参加のことではなく連絡をしないことが問題であり他の参加者に迷惑をかけることになりますので敢えて当たり前ですが記載しておきます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特段なし。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:6 人～10 人(予定)

配当年次:2 年、3 年、4 年 やる気で知識にハングリーなやる気があるポジティブな人材を求めます。

選考方法:レポート

①題目:自己PRおよび志望理由

②字数:原則 A4 1 枚以内

演習論文:実施しない

※ 自主面談を希望される方は、2 月 26 日(公開日)から 3 月 18 日までに、石川(下記)宛てにご連絡ください。

<連絡先>

石川文夫 5690853@rikkyo.ac.jp

演習

Seminar

生命倫理と法ーいのちの問いに真っ向から挑む法律学

土屋 裕子(TSUCHIYA YUKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX604
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人の命をめぐる問題について多角的な視点から考察し、答えのない問題に自分なりの答えを導き出す能力を養います。
The objective of this seminar is to examine problems concerning human life from various perspectives to cultivate the ability to derive your own answer to problems that have no answer.

授業の内容 / Course Contents

あなたの命は誰のものですか？もしあなた自身のものだとなると、あなたはあなたの命を自由に処分することができるでしょうか？たとえば、死にたいと思ったら死んだり、臓器を売ってお金に換えたり。もしそのようなことが制限されるとしたら、それは何によってどのような理由で制限されるのでしょうか？

いわゆる、「生命倫理」に関する問題が提起されるたびに、それに関する法整備を求める声が上がります。しかし生命倫理の分野には、法律論だけでは解決のできない倫理的に困難な問題が多数存在します。

この演習では、例えば生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植など、生命倫理に関する具体的な事例を法的・倫理的側面から検討するとともに、医療における法の目的・役割、そして限界について考えてみたいと思います。

毎回生命倫理に関する具体的な事例を取り上げ、全員で議論を行います。そのため、参加者には議論への積極的な参加と発言が求められます。なお、この授業は「正しい答え」を提供するものではありません。答えのない問題に自分なりの答えを導き、様々な価値観を持つ仲間との議論を通じて、自分の価値観や既存の倫理観を再考してみましょう。もしかしたら、あなたにとっての常識が、誰かにとっての非常識であることに気付くかもしれません。

なお、具体的な授業計画は、参加者の関心によって決定します。

Who does your life belong to? If it belongs to you, can you freely take your own life? For example, if you wish to die, can you do so and sell your organs for money? If such an action is to be restricted, on what basis and for what reasons is it restricted?

When problems concerning what is called “bioethics” are presented, there are calls for corresponding legislation. However, in the field of bioethics there are many ethically challenging problems which cannot be resolved using only legal theory.

In this seminar, the instructor would like to consider specific cases concerning bioethics, for example assisted reproductive technology, prenatal diagnosis, euthanasia, death with dignity, brain death and organ transplantation, from legal and ethical perspectives while thinking about the purpose, role, and limitations of law within medicine.

Each class session will raise a specific case concerning bioethics followed by a discussion among all of the students. Therefore, participants are required to actively participate and speak out during the discussion. Furthermore, this class is not intended to provide a “correct answer.” Let us all reconsider our own sense of values and existing ethical perspectives by deriving our own answer to problems that have no answer and discussing these problems with others

who have a different sense of values. You might realize that what you consider to be common sense is regarded as absurd by someone else.

Furthermore, the specific class plan will be determined according to the interests of the participants.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: イントロダクトリー・ディスカッション～生命倫理について論じてみよう～
- 【3】: テーマの発見・抽出・選択～自分で問題を見つけてみよう～
- 【4】: 報告と議論
- 【5】: 報告と議論
- 【6】: 報告と議論
- 【7】: 報告と議論
- 【8】: 報告と議論
- 【9】: 報告と議論
- 【10】: 報告と議論
- 【11】: 報告と議論
- 【12】: 報告と議論
- 【13】: 報告と議論
- 【14】: 報告と議論
- 【15】: 報告と議論
- 【16】: 報告と議論
- 【17】: 報告と議論
- 【18】: 報告と議論
- 【19】: 報告と議論
- 【20】: 報告と議論
- 【21】: 報告と議論
- 【22】: 報告と議論
- 【23】: 報告と議論
- 【24】: 報告と議論
- 【25】: 報告と議論
- 【26】: 報告と議論
- 【27】: 報告と議論
- 【28】: 全体の統括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジュメの作成等、周知な準備が求められます。また、日々進歩する医療技術について扱うため、日頃から新聞やニュース等で関連する情報を収集しておいてください。

なお、この授業では生命倫理の予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度:70% 担当報告の内容:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

テキスト・参考文献は指定しませんが、必要に応じて関連資料や新聞記事の配布、視聴覚教材などを使用します。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数: 15 名程度

配当年次: 3,4 年次

選考方法: レポート

①題目:

(i) 自己PRと志望動機

(ii) あなたの目の前で3人の人が溺れています。1人しか助けられない場合、あなたなら誰を助けますか？下記の選択肢の中から選び、その理由を論じてください(なお、救出に伴いあなたの命に危険が及ぶ可能性はなく、また自力で助かる可能性はないものと仮定します)。

a.重度の心臓病をかかえた余命3ヶ月の1歳児

b.3人の子どもを持つ35歳シングルファーザーの殺人犯

c.68歳の総理大臣

d.誰も助けない

②字数:2,000字程度

演習論文:実施しない

※ゼミ運営の都合上、合格後は必ずゼミに参加する意思のある方のご応募をお待ちしております。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

演習

Seminar

国際法に関係する日本の国内判例を読む

鈴木 孟(SUZUKI TAKESHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX605
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際法に関係する日本の国内判例を正確に読み、関連資料も踏まえつつ批判的に検討する力をつける。

This course aims to acquire the ability to correctly read and critically analyze judgments of Japanese domestic courts that are related to international law, taking consideration of related materials.

授業の内容 / Course Contents

国際法は基本的に国家間関係を規律するものであるため、国際法を適用する裁判所は主として国際司法裁判所(ICJ)をはじめとする国際裁判所である。しかし、様々な理由から、各国の国内裁判所が判決を下す際に国際法に関わることも頻繁にある。

そこで本演習では、日本の国内裁判所が下した判決の中で、国際法に関わる重要なものをいくつか取り上げ、それに関連する資料(調査官解説、評釈、論文など)も含めて精読し、理解を深める。扱う分野は、国家承認、政府承認、主権免除、国際人権法(難民関連訴訟を含む)、戦後補償、原爆訴訟、国際経済法、海洋法、国際環境法などから、受講生の関心に基づき決定する。なお、学生の関心によっては、国際裁判所による英語の判決等を扱うこともあり得る。

報告は2人で1つのグループとなり共同で行うものとし、2週連続で担当してもらう。1週目は当該判決及び(あれば)原判決などの原文、2週目は関連資料を扱う。毎回2人の報告者が共同でレジュメを作成した上で報告し、その後受講者全員による討論を行う。2人の報告者は、受講者全員による討論を実りあるものにするため、十分な報告準備と適切な予習用関連資料の指定が求められる。他の受講生も、討論に貢献できるだけの十分な予習が求められる。

国際法に関心がある方はもちろん、法曹を目指している方など、意欲のある多様な学生を歓迎する。

Since international law basically governs relationship between States, courts that apply international law are mainly international courts such as the International Court of Justice (ICJ). For various reasons, however, there are many judgements of domestic courts where international law is involved.

We will precisely read and deeply understand in this seminar some important judgments of Japanese domestic courts that are related to international law, including related materials (such as commentaries or academic papers). According to participants' interest, we will choose subjects from such fields as recognition of States, recognition of governments, sovereign immunity, international human rights law (including litigations on refugee status), postwar compensation, atomic bomb litigation, international economic law, international maritime law or international environmental law. Students are not prevented from choosing English judgments, decisions or opinions by international courts, if they would like.

In each class, two presenters will form one group and collectively make a presentation, followed by a discussion among all the participants. The group will make their presentations on two successive classes (two weeks), the first of which deals with the text of the judgment (and, if any, the impugned judgments of lower courts) and the second of which

focuses on related materials. The two presenters are required to prepare enough for their presentation and designate appropriate related materials to make the discussion fruitful, while other participants are also required to read well enough to contribute to the discussion.

This seminar is suitable for highly motivated students, such as those who are interested in international law or those who intend to take the bar examination.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、各回の判例と報告者の決定
- 【2】: 調査方法の解説など
- 【3】: 本ゼミの前提知識に関する基本文献の講読
- 【4】: 本ゼミの前提知識に関する基本文献の講読
- 【5】: 第 1 グループによる報告と討論(判例①)
- 【6】: 第 1 グループによる報告と討論(判例①の関連資料)
- 【7】: 第 2 グループによる報告と討論(判例②)
- 【8】: 第 2 グループによる報告と討論(判例②の関連資料)
- 【9】: 第 3 グループによる報告と討論(判例③)
- 【10】: 第 3 グループによる報告と討論(判例③の関連資料)
- 【11】: 第 4 グループによる報告と討論(判例④)
- 【12】: 第 4 グループによる報告と討論(判例④の関連資料)
- 【13】: 第 5 グループによる報告と討論(判例⑤)
- 【14】: 第 5 グループによる報告と討論(判例⑤の関連資料)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 【各回の報告者がやること】
担当する判決や関連資料に関するレジюмеを作成し、報告日の 5 日前までに Canvas LMS を通じて配布する。
レジюмеに記載すべき内容は初回に指示するが、基本的には要約と考察を含むものとする予定である。
なお、2 週目の関連資料の指定は一週間前の授業時までに行う。
- 【毎回参加者全員がやること】
毎回の判決や資料を熟読し、報告者のレジюмеを読んだ上で、疑問点、判決や報告者に対する賛同・異論などを書いたコメントを、授業日の 2 日前までに Canvas LMS を通じて提出する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告内容:60% 出席・毎回のコメント・議論への貢献度:40%
5 回以上欠席した者には原則として単位を与えない。

テキスト / Textbooks

各回に扱う判例や関連資料以外にはなし。
ただし、条約集を持参することが望ましい。例えば、
植木俊哉・中谷和弘(編)『国際条約集(2024 年版)』(有斐閣、2024 年)

参考文献 / Readings

国際法学の各種教科書を適宜参照すること(初回に紹介する)。

その他 / Others

- <選考方法>
採用人数:10 名
配当年次:2 年次
選考方法:レポート
- ①題目:(1)本ゼミを選ぶ理由、(2)現時点で関心のある国際法分野について、理由と共に述べて下さい。特定の判決に関心がある場合は、ぜひ記載してください。
- ②字数:A4 で 1 枚程度
演習論文:実施しない

演習

Seminar

会社法・金融商品取引法に関する最先端の課題の研究

河村 賢治 (KAWAMURA KENJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX606
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ビジネスローのうち会社法・金融商品取引法の分野で話題となっている最先端の課題を把握し、どのような議論がされているのかを理解する。具体的には、ビジネスロー分野の専門家の間でよく読まれている雑誌の一つである旬刊商事法務の中から、関心のある論文や判例などを受講生に選んでもらい、その内容について報告・検討を行っていく。会社法・金融商品取引法に関する最先端の話題を理解することに加え、自ら調査・分析する力や、その内容を分かりやすく要約し報告する力、他者との議論を通じて自らの考えを深め解決策を提案する力などを育むことを目標とする。将来、金融機関や事業会社の法務部、M&Aを含めた金融経済系のコンサルティング会社、ビジネスローヤーや公認会計士、金融庁・法務省・経済産業省などの経済官庁、経団連や証券取引所などの経済関連団体、商法分野の研究者などを目指している学生にとって有意義な内容のゼミとしたい。

なお、専門性が高いゼミとなるため、商法(1)(2)や金融商品取引法の講義を受講しておくことを推奨する。

Students will grasp the cutting-edge issues that are currently being discussed in the fields of company law and the Financial Instruments and Exchange Act, and understand what kind of debates are being held. Specifically, students will be asked to choose articles and court cases of interest from Junkan Shoji Homu, one of the magazines often read by experts in the field of business law, and report and discuss the content of these.

In addition to understanding the latest topics related to company law and the Financial Instruments and Exchange Act, the aim is to foster the ability to conduct research and analysis independently, the ability to summarize and report on the content in an easy-to-understand manner, and the ability to deepen one's own ideas and propose solutions through discussion with others.

We aim to make this seminar a meaningful experience for students who are aiming to become researchers in the field of commercial law, or who are aiming to work in the future in financial institutions, the legal departments of business corporations, financial and economic consulting companies including M&A, business lawyers, certified public accountants, economic government agencies such as the Financial Services Agency, the Ministry of Justice, and the Ministry of Economy, Trade and Industry, economic organizations such as the Japan Business Federation and the Tokyo Stock Exchange, etc.

As this is a highly specialized seminar, I recommend that you have already taken the Commercial Law (1)(2) and Financial Instruments and Exchange Law lectures.

授業の内容 / Course Contents

ビジネスロー分野の専門家の間でよく読まれている雑誌の一つである旬刊商事法務の中から、関心のある論文や判例などを受講生に選んでもらい、その内容について報告・検討を行っていく。

From among the articles in the Junkan Shoji Homu, a magazine that is widely read by experts in the field of business law, students will select articles and court cases that interest them, and then report on and discuss the content of these

articles.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ゼミの概要、旬刊商事法務の紹介、報告準備
- 【2】:報告準備
- 【3】:報告・検討
- 【4】:報告・検討
- 【5】:報告・検討
- 【6】:報告・検討
- 【7】:報告・検討
- 【8】:報告・検討
- 【9】:報告・検討
- 【10】:報告・検討
- 【11】:報告・検討
- 【12】:報告・検討
- 【13】:報告・検討
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者は周知な準備が求められる。報告者でない参加者は積極的な発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告の内容:40% 出席態度:30% 発言の内容・積極性:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数／10～15 名程度
配当年次／2～4 年次
選考方法／レポート(題目・字数:図書館に所蔵されている最近の旬刊商事法務の中から関心のある論文や判例を選び、その理由を 1200 字程度で説明してください。)
演習論文／実施しない

演習

Seminar
企業法務演習

松本 真輔 (MATSUMOTO SHINSUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX607
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

会社法をはじめとする企業法について実務的な理解(企業法の条文・ルールが実務においてどのように適用・使用されているのか等の理解)を得るとともに、実務に必要な質問能力、法律調査能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力等を習得してもらうことを目標とする。

The objectives of this seminar are to acquire a practical understanding of business law, including, but not limited to the Companies Act, (an understanding of how the provisions and rules of business law are applied and used, etc. in practice) while mastering the abilities to inquire, conduct legal research, draft documents, give presentations, etc. required for practice.

授業の内容 / Course Contents

企業法務の弁護士が行う M&A の具体的な作業内容について、まず講師からそれらについて実務的な観点から概説する講義を行った上で、具体的な事例に基づき、受講者にその基本的な作業を実際に体験してもらい、それに対して適宜講師からコメント・指導等を行う。チームでの共同作業や、会社法に加え、金融商品取引法、独占禁止法、労働法、証券取引所規則等の複数の法令等が問題になる作業も体験してもらう予定である。

First, the lecturer will give lectures from practical perspectives outlining the specific types of work for M&A performed by corporate lawyers. Thereafter, the students will actually experience those basic tasks based on specific hypothetical cases with the lecturer providing comments and guidance as necessary. The students are planned to experience team-based group work and the work in which multiple laws and ordinances, including the Financial Instruments and Exchange Act, Anti-monopoly Act, Labor Law, and stock exchange regulations, in addition to the Companies Act, become a problem.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: M&A のプランニングに関する講義
- 【3】: M&A のプランニングに関する演習(ストラクチャーの検討等)(1)
- 【4】: M&A のプランニングに関する演習(スケジュールの作成等)(2)
- 【5】: M&A の法務デュー・ディリジェンスに関する講義
- 【6】: M&A の法務デュー・ディリジェンスに関する演習
- 【7】: M&A 契約の講義(株式譲渡契約～前提条件、表明保証、誓約、補償等)(1)
- 【8】: M&A 契約の講義(組織再編契約・計画)(2)
- 【9】: M&A 契約の作成(1)
- 【10】: M&A 契約の作成(2)
- 【11】: MBO・敵対的買収と防衛策に関する講義

- 【12】:M&A の判例研究(キャッシュアウトに関する判例)(1)
【13】:M&A の判例研究(買収防衛策に関する判例)(2)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習の回については、事前に課題を出すので、授業までにそれを行ってきてもらう必要がある。また、M&A 契約の作成や M&A の判例研究はチーム単位で行ってもらうことがあり、チームのメンバー間で連絡を取り合い、共同での作業を行ってもらうことが必要になる場合がある。また、企業の法務担当者等にゲストスピーカーとして授業に来てもらったり、企業の法務部等を訪問して話を聴く機会を設ける可能性がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業内外で行った作業結果:60% 授業への参加態度等:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

藤田友敬 M&A 契約研究 理論・実証研究とモデル契約条項 有斐閣 2018 年 9784641138001
中東正文＝大杉謙一＝石綿学 M&A 判例の分析と展開Ⅱ 経済法令研究会 2010 年 9784766821994
松本真輔ほか 60 分で分かる！会社法超入門 技術評論社 2024 年 9784297139971
上記のほか、必要に応じて授業時に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

その他 / Others

＜選考方法＞
採用人数:14 名程度
配当年次:3・4 年次
選考方法:レポート
①題目:自己紹介及び本演習の志望理由
②字数:400 字以内
演習論文:実施しない

演習

Seminar

家族をめぐる判例で学ぶ刑法総論

深町 晋也 (FUKAMACHI SHINYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX608
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習は、家族において生じる法的問題を巡る刑法総論の判例・裁判例を基にして、因果関係論、不作為犯論、違法論、責任論や共犯論といった刑法総論の基本的な議論枠組みをより深く学ぶことを目標とする。

The aim of this seminar is to learn more about the basic framework of criminal law(general part), such as the theory of causation, the theory of omissions, the theory of illegality and responsibility and so on, based on cases and judicial precedents of criminal law concerning legal issues arising in the family.

授業の内容 / Course Contents

刑法総論で検討対象となる因果関係論や不作為犯論、違法論といった議論は、抽象度の高い議論であると同時に、現実の我々の生活において生起する問題を解決するための思考枠組みでもある。

本演習では、家族を巡って生じる様々な事例が提起する刑法総論における問題を解決するために、従来の刑法における議論を十分に理解することを前提に、新たな解決の可能性を検討したい。

例えば、親が子に対して救助的な意図で行った行為により、子の怪我を悪化させて死亡させた場合に、親は死亡結果に責任を負うのであろうか。このような救助的な行為は家庭内ではしばしば行われるものであるが、刑法の因果関係論においてどのように解決されるべきかは直ちには明らかではない。

この演習では、このような事案が現実の問題とされた判例・裁判例を題材としつつ、刑法総論における解決方法を考えていくことにする。

Arguments such as the theory of causation, the theory of omissions or the theory of illegality, which are the subject of consideration in the general part of criminal law, are not only highly abstract arguments, but also a framework for thinking to solve problems that arise in our real life.

In this seminar, in order to solve the problems raised by various cases arising in the family, on the premise of a good understanding of the arguments in criminal law, we would like to examine the possibility of new solutions.

For example, if a parent aggravates the injury of his/her child and causes his/her death with an intention of rescue, is the parent liable for the death of the child? Such acts are often performed within the family, but it is not obvious how these problems should be resolved in the theory of causation.

This seminar will consider how such cases should be resolved in the general theory of criminal law, taking as its subject judicial decisions in which such cases were at issue.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 初回打ち合わせ
- 【2】: 因果関係論(1)
- 【3】: 因果関係論(2)
- 【4】: 不作為犯論(1)

- 【5】: 不作為犯論(2)
 【6】: 一般的違法性阻却(1)
 【7】: 一般的違法性阻却(2)
 【8】: 正当防衛(1)
 【9】: 正当防衛(2)
 【10】: 緊急避難(1)
 【11】: 緊急避難(2)
 【12】: 故意論(1)
 【13】: 故意論(2)
 【14】: 中間まとめ
 【15】: 過失論、責任論、未遂・中止犯、共犯論のいずれか(以下同じ)
 【16】: 第15回参照
 【17】: 第15回参照
 【18】: 第15回参照
 【19】: 第15回参照
 【20】: 第15回参照
 【21】: 第15回参照
 【22】: 第15回参照
 【23】: 第15回参照
 【24】: 第15回参照
 【25】: 第15回参照
 【26】: 第15回参照
 【27】: 第15回参照
 【28】: 最終回

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習参加者は、半期に1回あるいは2回程度、演習時間内での報告を行ってもらうが、そのための予習などが欠かせない。

また、自分の担当以外の回についても、随時、指定された文献を読み、積極的に議論に参加することが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習中の報告:40% 演習における発言等:40% 演習への参加意欲:20%

テキスト / Textbooks

深町晋也 家族と刑法 有斐閣 2021 9784641139510

参考文献 / Readings

参考文献は適宜指定する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

既に刑法(1)を履修し、単位を取得していることが望ましい。

その他 / Others

採用人数/Number of students:20~30名程度/Approximately 20-30 students

配当年次/Eligible year:2~4年次/2nd - 4th year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:刑法総論又は各論の判例・裁判例を一つ選択し、自分がなぜその判例・裁判例に関心を有したのかを明示しつつ、その判例・裁判例の理由付けや結論に対してどのように考えるかについて、自由に記述して下さい。

②字数:1000字~1500字程度

演習論文/Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

プラトンの政治哲学 —『国家』と現代デモクラシー—

面 一也 (OMOTE KAZUYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX609
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. プラトン『国家』の内容を正確に理解する。
2. プラトン『国家』の政治哲学上の意義を理解する。
3. 上記の二点を踏まえ、現代デモクラシーをめぐる諸問題を批判的に考察する力を身につける。
1. Students will understand the contents of Plato's "Republic" accurately.
2. Students will understand the significance of Plato's "Republic" in the political philosophy.
3. Students will acquire the ability to consider critically the issues concerning the contemporary democracy, based on the above-mentioned points.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、プラトンの『国家』を精読しながら、現代デモクラシーをめぐる諸問題について議論を行なう。

西洋哲学の歴史は「プラトンへの注釈」にすぎない(A・N・ホワイトヘッド)、とまで言われる。とりわけ『国家』は、プラトンの主著の中の主著として、そればかりか西洋哲学の古典の中の古典として、二千年以上の長きにわたり読み継がれてきた。その理由は、この対話篇が政治のあり方をめぐって、時代を超えて問われるべき根本的テーマを扱っているからである。

『国家』は、永遠不変の善のアイデアを把握する哲人王支配による最善国家を説くものとして知られるが、その背景には、当時の墮落したデモクラシーに対するプラトンの強い危機意識が見て取れる。近年もまた、デモクラシーの危機が指摘されている。実際に、反デモクラシー的な極右勢力やポピュリズムが、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。プラトンの議論は、現代の政治のあり方を考えるうえで、大きな示唆を与えてくれる。春学期は、『国家』第一巻から第五巻を精読する。

In this seminar, we will discuss the issues concerning the contemporary democracy through a close reading of Plato's "Republic".

It is said that the history of Western philosophy is but "a series of footnotes to Plato" (A. N. Whitehead). The "Republic," in particular, has been read for more than 2,000 years as Plato's masterpiece among his major works and as a classic among the classics of Western philosophy. The reason is that the Dialogue deals with the fundamental themes of the nature of politics, which should be questioned throughout the ages.

The "Republic" is known as the advocating of the best state under the rule of the philosopher-king who grasps the eternal and immutable Idea of the Good, but in its background, we can see Plato's strong sense of crisis against the corrupt democracy of that time. Also in recent years, the crisis of democracy has been pointed out. In fact, anti-democratic far-right groups and populism have emerged in many parts of the world. In Japan, too, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Plato's argument offers a great deal of insight into the nature of politics today. In the spring semester, we

will closely read Books 1 through 5 of the “Republic”.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
【2】: 正義をめぐる問いへの導入: ケパロスとの対話(1 巻 1-5 章)
【3】: 正義は相手にふさわしいものを返し与えることか: ポレマルコスとの対話(1 巻 6-9 章)
【4】: 正義は強者の利益か: トラシュマコスとの対話①(1 巻 10-19 章)
【5】: 不正義は正義にまさるか: トラシュマコスとの対話②(1 巻 20-24 章)
【6】: 正義は不正義にまさるか: グラウコンとアデイマントスによる根本的な問い(2 巻 1-9 章)
【7】: 必要国家と贅沢国家(2 巻 10-16 章)
【8】: 守護者の教育①: 音楽と文芸(2 巻 17-3 巻 5 章)
【9】: 守護者の教育②: 体育と医術(3 巻 6-18 章)
【10】: 守護者の条件: 建国神話(“高貴な嘘”)、私有財産の禁止(3 巻 19-4 巻 5 章)
【11】: 知恵、勇気、節制、正義; 魂の三分区(4 巻 6-15 章)
【12】: 最善国家(王制または優秀者支配制)、三つの波①: 男女平等(4 巻 16-5 巻 6 章)
【13】: 三つの波②: 妻子共有(5 巻 7-16 章)
【14】: 三つの波③: 哲学者とイデア(5 巻 17-22 章)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

議論を積極的に行うので、問題意識の旺盛な学生の参加を歓迎する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習に関しても復習に関しても、以下の三点を行なうこと。

- ・テキストの精読
- ・論点の抽出
- ・論点に関する考察

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 発表: 50% 議論への参加: 50%

テキスト / Textbooks

プラトン『国家(上)』岩波文庫 2008 年 4003360176

2008 年以降に出版された「改版」を入手すること。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

その他 / Others

採用人数 / Number of students: 10~15 名程度 / Approximately 10-15 students

配当年次 / Eligible year: 2~4 年次 / 2nd - 4th year

選考方法 / Selection method: レポート / Report

① 題目: 志望理由

② 字数: 1,000 字程度

演習論文 / Seminar papers: 実施しない

演習

Seminar

刑法総論・各論の近時の重要判例の検討

永井 紹裕 (NAGAI AKIHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX610
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

刑法総論および各論における近時の重要判例についての検討を通じて、問題となる論点の理解を深める

Deepen understanding of the issues through consideration of recent important precedents in criminal law general theory and criminal law specific theory

授業の内容 / Course Contents

本演習では、近時の刑法判例の中で特に重要だと考えられるものを取り上げ検討を加えます。皆さんが報告で扱う判例については、教員からいくつか候補を示したうえで、興味をもったものを選んでもらいます。報告者は扱う判例について調査したうえで、学説上の議論もフォローし、参加者に説明し、議論を促します。参加者は報告をもとに、議論に加わりま

す。
刑法総論と刑法各論の成績は考慮しません。刑法に興味があり、積極的に議論に参加しようとする意欲ある学生を歓迎します。

In this seminar, we will take up and examine the cases recent criminal law precedents that are particularly important. The instructor will present a number of candidates for the cases to be discussed in the report, and you will select the ones that interest you. The student presenter will research the case to be discussed, follow up on the academic discussion, explain it to the participants, and encourage them to discuss it. Participants will join the discussion based on the reports.

Grades in Criminal Law General and Criminal Law Specific will not be taken into consideration. Students with an interest in criminal law and a willingness to actively participate in the discussion are welcome.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション(報告順、扱う判例の決定)、総論の復習

【2】:各論の復習

【3】:重要判例の検討①

【4】:重要判例の検討②

【5】:重要判例の検討③

【6】:重要判例の検討④

【7】:重要判例の検討⑤

【8】:重要判例の検討⑥

【9】:重要判例の検討⑦

【10】:重要判例の検討⑧

【11】:重要判例の検討⑨

【12】:重要判例の検討⑩

【13】:重要判例の検討①

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告で扱う判決文を読んだうえで、当該判例についての評釈を参照してから授業に臨むこと

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加度:40% 報告の内容:60%

参加者全員各回必ず1回は発言することを求める。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

佐伯仁志・橋爪隆編 刑法判例百選 総論(第8版) 有斐閣 2020 9784641115507

佐伯仁志・橋爪隆編 刑法判例百選 各論(第8版) 有斐閣 2020 9784641115514

松原芳博編 続・刑法の判例 総論 成文堂 2022 9784792353797

松原芳博編 続・刑法の判例 各論 成文堂 2022 9784792353803

報告に際して参照すべき文献については教員から指示する。

その他 / Others

採用人数/Number of students:10名程度/Approximately 10 students

配当年次/Eligible year:2~4年次/2nd - 4th year

選考方法/Selection method:レポートによる

「志望理由(これまでの学習で興味・関心を持っている刑法の判例についてなど)」

字数は指定しない(ただし選考における考慮の対象とする)

演習論文/Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

知的財産法プレゼン&ディスカッションゼミ

長谷川 遼 (HASEGAWA RYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX611
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

裁判例・学説等の分析を通して知的財産法に関する理解を深める。併せて、プレゼンの能力や、ディスカッションを充実したものにするための力を養う。

The objective of this seminar is to deepen the students' understanding of Intellectual Property Law through an analysis of court precedents and theories, etc. At the same time, it will also cultivate the students' abilities to give presentations and engage in thorough discussions.

授業の内容 / Course Contents

参加者には、指定する裁判例を、関連する学説・裁判例や時事問題も含めて調査した上で、グループ発表を行ってもらいます。知的財産法は、エンターテインメント、デザイン、技術、ブランド、営業秘密といった、様々な分野に関わる法領域ですが、今年度のゼミは、ブランドに関わる商標法と、技術に関わる特許法に焦点を当てます(来年度は、不正競争防止法と著作権法を扱う予定です)。報告者の人数や報告回数等は、参加人数や各自の関心を考慮して後ほど決定します。

報告の後に、参加者全員で議論を行います。議論の形式は報告者に任されますが、最近はグループディスカッションを交えた形を採ることが多いです。

演習を充実したものにするためにも、報告者・報告者以外の参加者ともに相応の準備が求められます。報告者には、本報告の一週間前に、プレレジュメによって、報告内容の簡略な予告と最低限の参考文献の指定を行ってもらいます。報告者以外の参加者には、指定された裁判例を事前に読み、プレレジュメを参考に当該テーマについてある程度理解を深めた上で本報告に臨んでもらいます。

Participants will give group presentations after researching the specified court precedents including related theories, precedents, and current topics. Intellectual Property Law is an area of law which is involved with various fields such as entertainment, design, technology, branding, and trade secrets, but the seminar during this academic year will focus on Trademark Law involving brands and Patent Law involving technology (the seminar during the following academic year is scheduled to cover Unfair Competition Law and Copyright Law). The number of presenters and the number of reports will be decided later based on the number of participants and in consideration of individual interests.

After the reports, all participants will engage in a discussion. The discussion format will be left up to the presenters, but recently many students adopt a format which mixes in group discussion.

In order to make it a productive seminar, presenting students as well as other participants are required to carry out a suitable level of preparation. One week before a report is given, the presenters will provide a brief preview of the report content and specify the minimum reference literature through a pre-summary. Participants who are not presenting will read the specified court precedent in advance and attend the report presentation after deepening their understanding of the relevant topic to a certain degree by referring to the pre-summary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:オリエンテーション
- 【3】:商標法1
- 【4】:商標法2
- 【5】:商標法3
- 【6】:商標法4
- 【7】:商標法5
- 【8】:商標法6
- 【9】:商標法7
- 【10】:商標法8
- 【11】:商標法9
- 【12】:商標法10
- 【13】:商標法11
- 【14】:商標法12またはその他
- 【15】:オリエンテーション
- 【16】:特許法1
- 【17】:特許法2
- 【18】:特許法3
- 【19】:特許法4
- 【20】:特許法5
- 【21】:特許法6
- 【22】:特許法7
- 【23】:特許法8
- 【24】:特許法9
- 【25】:特許法10
- 【26】:特許法11
- 【27】:特許法12またはその他
- 【28】:その他

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

裁判例・プレジデントを読んでくことと、教科書等を用いた関連分野の予習が要求されます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:50% 議論やゼミ運営への参加態様:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

茶園成樹編『商標法[第2版]』有斐閣 2018 9784641243118

島並良・上野達弘・横山久芳『特許法入門[第2版]』有斐閣 2021 9784641243507

前田健・金子敏哉・青木大也編『図録 知的財産法』弘文堂 2021 9784335358586

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

知的財産法の講義を受講していなくても参加可能です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を利用します。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数 : 約 20 名

配当年次 : 2~4 年次

選考方法 : レポート

①題目 : 簡略な自己紹介/ 知的財産法について関心のあるテーマとその理由

②字数 : A4で1~2枚

演習論文 :実施しません

演習

Seminar

排除の中で仲間をつくる;排除された人々が、排除に抵抗するために仲間をつくるやり方について考える。

浪岡 新太郎 (NAMIOKA SHINTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX612
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において階層の違い、エスニシティの違い、ジェンダーの違いを理由とする排除にどのように人々が抵抗していくことができるのかを理解する。

The objective of this seminar is to understand how people in modern society can resist exclusions based on the reason of social class, ethnicity and gender.

授業の内容 / Course Contents

多文化主義は異なったコミュニケーションスタイルをもつ人々の終わることのない努力を前提としている。異なった特徴をもつマイノリティの人々を理解するための努力の増大にマジョリティの人々は耐えられなくなっている。治安のため、人権のために理由とした画一的な排除(例えばムスリムの入国禁止など)はこのような事例として考えることができる。排除に対する抵抗の仕方を学ぶ。

Multiculturalism supposes endless efforts to understand people with different communication styles. But the majority of people can not assume the increase in effort in order to get along with minority people of different social classes, ethnicities and genders. Thus we see the spread of categorical exclusions in the name of security and human rights that are actually based on characteristics particular to minorities (for example the Muslim ban). Students will learn how to struggle with these categorical exclusions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 報告と議論: 排外主義についての文献1
- 【3】: 報告と議論: 排外主義についての文献2
- 【4】: 報告と議論: 多文化主義についての文献 1
- 【5】: 報告と議論: 多文化主義についての文献 2
- 【6】: 報告と議論: 多文化主義についての文献 3
- 【7】: 報告と議論: 民主主義についての文献1
- 【8】: 報告と議論: 民主主義についての文献2
- 【9】: 報告と議論: 民主主義についての文献3
- 【10】: 報告と議論: 民主主義についての文献4
- 【11】: 報告と議論: 民主主義についての文献5
- 【12】: 報告と議論: ジェンダーについての文献1
- 【13】: 報告と議論: ポストコロニアリズムについての文献2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を読んで自分なりのコメントを考えてくること。また、前回の内容を復習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・発言:60% 最終レポート割合::40%

学生の議論を中心に進むので、学生の参加が重視される。また、映像資料を使用する場合やゲストを呼ぶ場合もあり、授業が伸びる場合が多いので次の時間に予定のない学生に向いている。

テキスト / Textbooks

学生の希望を聞いた上で適宜指定する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数: 15 名程度

配当年次: 2,3,4 年次

選考方法: レポート提出

①題目: 自分が興味を持つ現代のマジョリティがマイノリティを排除する現象をあげ、自分が興味を持つ理由を説明する。

②字数: 2000 字程度

演習論文: 実施しない

演習

Seminar

法現象を解明するための社会科学的アプローチ

佐伯 昌彦(SAEKI MASAHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX613
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	L PX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法的な問題を特定し、その問題を考えるために必要な社会調査を構想する能力を涵養することを目標とする。

This seminar aims to acquire the ability to identify the issue about laws to be solved and imagine the scientific approach which could provide helpful findings while considering that issue.

授業の内容 / Course Contents

法社会学に関連する実証研究の具体例に触れるため、関連する論文を読み進めるとともに、自分の関心のあるテーマについて問題を特定し、調査の方法について構想を練っていく。

ガイダンス・イントロダクションを除く文献講読とディスカッション、中間および最終報告では、学生の報告および学生同士の質疑応答・議論が授業の中心となる。したがって、本演習を受講する学生には、事前に文献等を読んで準備をし、積極的に議論に参加することが求められる。なお、文献購読および中間および最終報告で要求される学習内容については、「授業時間外の学習」の欄を参照。

なお、文献講読や中間／最終報告の回数は、履修学生の人数に応じて調整をすることがある。

In this seminar, students are required to read articles about empirical legal studies. Simultaneously, students are also required to identify the issue to be solved and design a rough research plan that could contribute to the discussion. Except for the sessions on guidance and introduction, the focus of the class will be on students' presentations and Q&A and discussion among students. Therefore, students attending this seminar are expected to prepare themselves by reading literature, etc. in advance and to actively participate in discussions. Please refer to the "Learning Outside of Class Hours" section for the required preparation.

The number of sessions for literature readings and interim/final reports may be adjusted according to the number of students enrolled.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ガイダンス:授業の進め方の説明や自己紹介等
- 【2】:イントロダクション:法社会学分野における実証研究の概観
- 【3】:文献講読(1)
- 【4】:文献講読(2)
- 【5】:文献講読(3)
- 【6】:文献講読(4)
- 【7】:文献講読(5)
- 【8】:文献講読(6)

- 【9】: 文献講読(7)
 【10】: 文献講読(8)
 【11】: 文献講読(9)
 【12】: 中間報告(1)
 【13】: 中間報告(2)
 【14】: 中間報告(3)
 【15】: 文献講読(10)
 【16】: 文献講読(11)
 【17】: 文献講読(12)
 【18】: 文献講読(13)
 【19】: 文献講読(14)
 【20】: 文献講読(15)
 【21】: 文献講読(16)
 【22】: 文献講読(17)
 【23】: 文献講読(18)
 【24】: 最終報告(1)
 【25】: 最終報告(2)
 【26】: 最終報告(3)
 【27】: 最終報告(4)
 【28】: 最終報告(5)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

履修者の人数によっては個人発表ではなくグループ発表を採用する場合もある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読は、各回の報告担当者を決めて、担当学生に報告をしてもらう。担当となった学生には、論文の内容をまとめ、疑問点や論点を整理したレジュメを準備してもらう。そのため、報告担当の学生は指定された文献だけでなく、その疑問点や論点を整理・提示するために、関連する文献を集めて、それらを読み進めることも要求される。また、報告担当となっていない学生も、当日の議論に参加するために、少なくとも対象文献を読み込んでくることが要求される。したがって、文献講読の回については、報告者は少なくとも6時間程度の準備時間を要するものと思われ、また報告担当ではない者も文献を読み込むため1時間30分程度の事前学習時間を要することになる。

また、本演習では、各自がテーマを定めて大まかな調査方法について提案をまとめてもらう。したがって、演習で扱う論文を参考にしつつも、自分の関心に即した研究論文や調査方法に関する参考書を読み進めていくことが求められる(どのような文献を読むべきかについては、各自の関心に即して適宜助言する)。その内容について、春学期の終わりに中間的な報告をしてもらい、さらに秋学期の終わりに最終報告をしてもらう。中間報告の準備自体は2時間程度でも足りるが、最終報告の準備のためにはさらに多くの準備時間を要する。

なお、文献講読や中間／最終報告の回数は、履修学生の人数に応じて調整をすることがある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の貢献度:40% 中間報告:20% 最終報告:40%

無断欠席又は正当な理由のない欠席が3回以上の場合、成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

和田仁孝・阿部昌樹・太田勝造編 法と社会へのアプローチ 日本評論社 2004

太田勝造・ダニエル・H・フット・濱野亮・村山眞維編 法社会学の新世代 有斐閣 2009 9784641125339

日本法社会学会編 法社会学 83号 <<法>>を見る 有斐閣 2017

鈴木淳子 質問紙デザイン技法(第2版) ナカニシヤ出版 2016 9784779510755

その他 / Others

採用人数/Number of students:10~15名程度/Approximately 10-15 students

配当年次/Eligible year:2~4年次/2nd - 4th year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:この演習を志望する理由・現時点で関心のある法的問題

②字数:1,200 字程度(字数を超過する分には差し支えない)
演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

ディスカッションを通じて学ぶ法、金融&ビジネス

久保 淳一 (KUBO JUNICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX615
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

(1)経済の基盤である金融についての基本的な知識とともに、法、金融及び経済(ビジネス)との深いつながりを学ぶこと、および(2)授業の準備、グループ毎のディスカッション及び全体でのディスカッションを通じ”自分の頭で考える”力を養うことを目標とします。

The objectives of this course are to (1) acquire fundamental knowledge about finance which forms the foundation of the economy while learning about the deep connections between law, finance, and the economy (business) and (2) to learn to think for yourself through preparation for class, group discussion and whole class discussion.

授業の内容 / Course Contents

法、金融、経済の分野から選んだテーマについて、基礎的な部分の説明を適宜補いながら、実例や設例についてでディスカッションを行います。

授業は、(1) 事前課題について各自で検討する、(2) 少人数のグループで(1)の検討結果を踏まえて議論しグループ毎の意見を発表する、(3) グループの意見について全体で議論する、という形で進めます。

授業への毎回出席が必須です。また、ディスカッションへの積極的な参加を求めます。授業の進行状態によっては、時間を超過することもあります。

また、様々なバックグラウンドを持つゲストスピーカーを迎えてのワークショップのほか、ゲストスピーカーとの懇親会やOBOGとの交流会などの課外活動も行う予定です。

This seminar will cover the fundamental aspects of topics selected from the fields of law, finance, and the economy with supplemental explanations provided as needed while engaging in discussions about case studies and created examples in a workshop format.

As a general rule, the classes will be carried out this way: (1) each student does a "homework" and prepares for the class, (2) students discuss about the homework in small groups, and (3) the entire class discuss about the conclusions of the groups.

Students are expected to attend every class, and actively participate in the discussions. The class may continue beyond the normal hours.

The the class schedule includes workshops with guest speakers having various backgrounds. In addition, social gatherings with guest speakers and the seminar alumni and alumnae, and other extracurricular activities will be planned.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 経済と金融と法

【3】: 金融の種類 その1 — 直接金融と間接金融、指名債権と有価証券、他人資本と自己資本

【4】: 金融の種類 その2 — 直接金融と間接金融、指名債権と有価証券、他人資本と自己

- 【5】: 資本銀行と銀行業務
 【6】: 銀行預金
 【7】: 資金決済 ― 為替
 【8】: 資金決済 ― 手形・小切手
 【9】: 貸付
 【10】: 相殺 ― 貸金債権と預金債権の相殺
 【11】: 債権譲渡 その1 ― 債権譲渡とは何か
 【12】: 債権譲渡 その2 ― 債権譲渡の対抗要件
 【13】: 将来債権譲渡
 【14】: 手形割引
 【15】: 証券化取引 その1 ― 証券化取引の仕組み
 【16】: 証券化取引 その2 ― 証券化取引の目的
 【17】: 証券化取引 その3 ― 証券化取引の特徴
 【18】: 証券化取引 その4 ― 証券化取引の特徴(続)
 【19】: 信託 その1 ― 信託とは何か
 【20】: 信託 その2 ― 信託の特徴
 【21】: お金 その1 ― お金とは何か
 【22】: お金 その2 ― 仮想通貨
 【23】: お金 その3 ― ブロックチェーン
 【24】: インサイダー取引
 【25】: ゲストスピーカー(時期は未定ですが、2～3か月に1回のペースで招聘予定)
 【26】: ゲストスピーカー(時期は未定ですが、2～3か月に1回のペースで招聘予定)
 【27】: ゲストスピーカー(時期は未定ですが、2～3か月に1回のペースで招聘予定)
 【28】: ゲストスピーカー(時期は未定ですが、2～3か月に1回のペースで招聘予定)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【事前課題をやってくることは履修の条件です】

事前課題は、授業でのディスカッションを活性化し、また授業の内容を十分に理解するための“準備作業”です。「ネットで検索してコピペ」では不十分です。自分でしっかりと調べて考え、自分なりの意見を発表できるように準備しておいてください。(正解を見つけることではなく、何がわかって何がわからないのかを自分なりに認識してくることを求めています。)やむを得ない事情で授業に参加できない場合は、事前課題を検討した結果を授業前日までに(急病などの場合は事後速やかに)提出してください。

事前課題の提出がない欠席が3回を越えると、履修の継続は認めません。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ活動への参加態度(授業中の発言、事前準備など):60% ゼミ活動への寄与度(ゼミ運営、ゲストスピーカー招聘など):40%

テキスト / Textbooks

事前課題と講師の作成するパワーポイントのプレゼンテーションをベースに授業を進め、必要に応じて資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業中、または課題を出す時に、指示します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・本演習で取り上げる事項についての強い興味(金融や経済のことを今は知らなくても大丈夫です)
- ・ディスカッションへの自発的な参加(「ディスカッションができるようになりたい」という強い気持ちがあれば十分です)
- ・ゲストスピーカーやOBOGとの懇親会や課外活動を積極的に楽しむ姿勢(受け身では本演習を履修する意味がありません)

その他 / Others

<選考方法>

【採用人数】 30 名前後(継続生 10 名強を含みます)

【配当年次】 二、三、四年次

【履修にあたっての留意点】

(1) 【授業時間外(予習・復習等)の学修】をよく読むこと。

(2) 【履修にあたって求められる能力】をよく読むこと。

(3) 毎回出席が必須(就活や部活動などについてはある程度配慮しますが、無断欠席が重なると履修中止)。

(4) 理由にかかわらず、全授業回数の 3 分の 2 以上の参加が必要です。

【選考方法】レポート及び任意面談(※希望者が多い場合は、任意面談を受けた学生を優先。)

①レポート

題目は(ア)自己紹介 と(イ)変更本演習を志望する理由、字数は自由です(伝えたいことが伝わるように書いてください)。

※ レポートは、本演習を継続して履修する新四年生も内容をチェックし評価します。

②任意面談

本演習の内容や雰囲気を理解してもらうために、2025 年 3 月の第1週から第 3 週に、継続する新四年生も参加しての面談をオンラインで実施します。希望者は、講師宛にメール(jkubo@rikkyo.ac.jp)で申し込んでください。具体的なスケジュールは追って連絡します。

【演習論文】 実施しません。

演習

Seminar

企業法務-リスク分析と法務インテリジェンス

畑 勝之 (HATA KATSUYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX616
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

英文の国際売買契約をもとに取引リスク分析・法務情報収集の手法に触れつつ、国際建設請負契約・国際融資契約及び企業売買契約に関する関連法規・仕組み・法的論点について参加者間にて意見交換を行い、国際企業法務において必要とされる知的好奇心を深めてもらう。法務インテリジェンス、リーガルテックなど実務上の最新動向にも触れる。

Based on international sales contracts in English, we will study methods of transaction risk analysis and legal information collection. We will also study legal issues and mechanism about international construction contracts, international financing contracts, and business acquisition contracts, exchange opinions among participants, and deepen our intellectual curiosity required as international inhouse counsel. We will also study the latest trends in practice, such as legal intelligence and legal-tech.

授業の内容 / Course Contents

導入として企業法務に従事するに際して必要となる事実確認・リスク分析・契約書作成・相手方交渉の方法・過程を確認する。アングロサクソンモデルの英文国際売買契約書をもとに、参加者に割り当てられた箇所について関係するリスク分析、適用される法律、交渉上の勘所・論点などを発表して意見交換を行う。また、契約条項が直接に触れている部分に限らず、独占禁止法、贈収賄防止関連法規、安全保障貿易・制裁関連法規などのコンプライアンスの領域にも目配りして発表して意見交換を行う。基本的な学びを応用して、国際建設請負契約・国際融資契約・企業買収契約におけるリスクの所在や適切なリスク分配方法についても検討する。

なお、発表者は、予め配布予定のポイントや参考文献などをもとに発表を準備する。他の参加者も、各発表内容に関して意見を取り交わす。互いの意見交換を通じて知的好奇心を醸成し、企業法務に関する意識・知識を体感する。

契約審査のみならず、紛争処理やコンプライアンス・危機管理といった企業法務活動についても理解を深める。英米法の最新状況に加えて、日本法・中国法・イスラム法など英米法と異なる概念で構築される法制・執行状況についてのインテリジェンスや、法務業務の効率化・高度化を支えるリーガルテックの活用状況についても理解する。また、毎回、企業法務に関する最新ニュースを題材として意見交換を行う。

As an introduction, we will study methods and processes of fact check, risk analysis, contract drafting, and negotiations with counterparty that are necessary when engaging in corporate legal affairs as inhouse counsel. Based on the Anglo-Saxon model international sales contract in English, we will present and exchange opinions on risk analysis, applicable laws and key points regarding the assignment to each participant. In addition to issues that are directly related to contract clauses, we will also pay attention to compliance areas such as antitrust laws, anti-bribery laws, security trade and sanctions laws, and make presentations and exchange opinions. Applying the basic learning, we will also examine the location of risks and appropriate risk allocation methods in international construction contracts, international financing contracts, and business acquisition contracts.

The presenter will prepare its presentation in advance based on the suggested points and other reference materials.

Other participants exchange opinions on the presentation. We will foster our own intellectual curiosity through mutual exchange of opinions, and obtain awareness and knowledge of corporate legal affairs as inhouse counsel. We will deepen understanding of corporate legal activities such as dispute resolution, compliance and risk management as well as review of contracts. In addition to the latest status of Anglo-American law, we will also study intelligence on legal systems and enforcement trends that are built on concepts that differ from Anglo-American law, such as Japanese law, Chinese law, and Islamic law. Furthermore, we will study the trend of legal tech that supports the efficiency and sophistication of services as inhouse counsel. In every session, we will discuss on the recent topics in the daily news regarding corporate legal affairs.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 企業法務総論: オリエンテーション(講義中心)
- 【2】: 契約審査実務: 事実確認・リスク分析・契約書作成・相手方交渉(講義中心)
- 【3】: 契約の相対性: 秘密保持契約を題材に(発表と意見交換)
- 【4】: 契約の相対性: 秘密保持契約の模擬交渉(発表と意見交換)
- 【5】: 国際売買契約(1): 国際売買の特色・登場人物・商務条件(発表と意見交換)
- 【6】: 国際売買契約(2): 主な契約条項①(発表と意見交換)
- 【7】: 国際売買契約(3): 主な契約条項②(発表と意見交換)
- 【8】: 国際売買契約(4): 主な契約条項③(発表と意見交換)
- 【9】: 国際売買契約(5): 主な契約条項④(発表と意見交換)
- 【10】: 国際売買契約(6): 法令遵守① 安全保障貿易・制裁(発表と意見交換)
- 【11】: 国際売買契約(7): 法令遵守② 人権・サプライチェーン(発表と意見交換)
- 【12】: 国際売買契約(8): 準拠法・紛争処理条項(発表と意見交換)
- 【13】: 紛争処理実務: 送達手続・米国及び諸外国の訴訟手続の特色(発表と意見交換)
- 【14】: 法務情報の収集: 取引リスク分析とコンプライアンス/危機管理(講義と意見交換)
- 【15】: 国際建設請負契約(1): 国際建設請負契約の特色・登場人物・関連契約(講義と意見交換)
- 【16】: 国際建設請負契約(2): リスクの洗い出し①(発表と意見交換)
- 【17】: 国際建設請負契約(3): リスクの洗い出し②(発表と意見交換)
- 【18】: 国際融資契約(1): プロジェクト・ファイナンスの特色・登場人物(講義と意見交換)
- 【19】: 国際融資契約(2): 各種条件①(発表と意見交換)
- 【20】: 国際融資契約(3): 各種条件②(発表と意見交換)
- 【21】: 国際融資契約(4): イスラム金融(発表と意見交換)
- 【22】: 企業買収契約(1): 企業買収契約の目的・取引類型(講義と意見交換)
- 【23】: 企業買収契約(2): デューデリジェンス(発表と意見交換)
- 【24】: 企業買収契約(3): 企業結合規制及び独禁法総論(発表と意見交換)
- 【25】: 企業買収契約(4): 各種条件①(発表と意見交換)
- 【26】: 企業買収契約(5): 各種条件②(発表と意見交換)
- 【27】: 法務業務の補完: 外部弁護士とリーガルテック(講義中心)
- 【28】: 全体総括: (発表と意見交換)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

「発表と意見交換」の回では、各参加者が担当箇所に関して事前に関係法令や法的論点などを検討してプレゼンテーションを行う。他の参加者も積極的に意見交換に参加できるように予習・復習する。また、「講義中心」「講義と意見交換」の回では、担当教官からの講義を中心とするが、参加者も積極的な意見交換のために予習・復習する。普段より企業法務に関するニュースにアンテナを立ててもらい、好奇心を持って検討してもらう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 発表の内容: 50% 議論への貢献度: 50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

松尾剛行 『キャリアデザインのための企業法務入門』 有斐閣 2022 9784641126374

河村寛治『契約実務と法』 第一法規 2018 9784474062528

三菱商事株式会社法務部『新・国際売買契約ハンドブック』 有斐閣 2021 9784641046894

森下哲郎・平野温郎・森口聡・山本卓『国際企業法務のエッセンス』 有斐閣 2017 9784641046795

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

企業法務の世界を題材とするため、企業活動に好奇心を持つことを前提とする。

できる限り議論の時間をとるため、相手の言い分を聴きながら、自分の分析・意見を主張する、設えと構えを取ることを求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題提出などで「Canvas LMS」を使用するとともに、授業中のネット検索を奨励するため、授業に PC を持参すること。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:20 名程度

配当年次:2 年次～4 年次

選考方法:レポート

①題目:自己紹介及び本演習の志望理由

②字数:800 字程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar

近代政治理論を読む トマス・ホッブズは国家をどのように考えたか

高橋 和則(TAKAHASHI KAZUNORI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX617
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近代政治理論の代表的理論を理解し、現代にも通ずる政治的価値がいかなるものかを把握する。

Understanding one of the modern political theory and political value.

授業の内容 / Course Contents

近代の代表的政治理論としてトマス・ホッブズ『リヴァイアサン』を精読する。本書は現代(の例えばカール・シュミット)まで大きな影響を与えたが、必ずしも理解しやすくはないので、ゼミ員との討論によって内容を明確にする必要がある。春学期は 19 章まで読み進めることにする。

Read Thomas Hobbes's Liviathan and discuss his philosophy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 本演習の内容と方法について
- 【2】: トマス・ホッブズとその時代
- 【3】: ホッブズ『リヴァイアサン』序～2 章
- 【4】: ホッブズ『リヴァイアサン』3～4 章
- 【5】: ホッブズ『リヴァイアサン』5～6 章
- 【6】: ホッブズ『リヴァイアサン』7～8 章
- 【7】: ホッブズ『リヴァイアサン』9～10 章
- 【8】: ホッブズ『リヴァイアサン』11～12 章
- 【9】: ホッブズ『リヴァイアサン』13～14 章
- 【10】: ホッブズ『リヴァイアサン』15 章
- 【11】: ホッブズ『リヴァイアサン』16～17 章
- 【12】: ホッブズ『リヴァイアサン』18 章
- 【13】: ホッブズ『リヴァイアサン』19 章
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト指定範囲を熟読しておき、報告担当者はパワーポイントを作成する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:50% 演習への貢献:50%

テキスト / Textbooks

トマス・ホップズ リヴァイアサン(1)(2) 岩波書店(文庫) 1996 4003400429

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

政治学の初心者向けの知識があること

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Approximately 10-15 students

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート(自己紹介と志望理由とを合わせて 1600 字以上で)

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

近代政治理論を読む トマス・ホッブズは国家をどのように考えたか

高橋 和則(TAKAHASHI KAZUNORI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX618
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近代政治理論の代表的理論を理解し、現代にも通ずる政治的価値がいかなるものかを把握する。

Understanding one of the modern political theory and political value.

授業の内容 / Course Contents

近代の代表的政治理論としてトマス・ホッブズ『リヴァイアサン』を精読する。本書は現代(の例えばカール・シュミット)まで大きな影響を与えたが、必ずしも理解しやすくはないので、ゼミ員との討論によって内容を明確にする必要がある。秋学期は第二部終わりまで読み進めることにする。

Read Thomas Hobbes's Liviathan and discuss his philosophy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ホッブズ『リヴァイアサン』20 章
- 【2】:ホッブズ『リヴァイアサン』21 章
- 【3】:ホッブズ『リヴァイアサン』22 章
- 【4】:ホッブズ『リヴァイアサン』23～24 章
- 【5】:ホッブズ『リヴァイアサン』25 章
- 【6】:ホッブズ『リヴァイアサン』26 章前半
- 【7】:ホッブズ『リヴァイアサン』26 章後半
- 【8】:ホッブズ『リヴァイアサン』27 章
- 【9】:ホッブズ『リヴァイアサン』28 章
- 【10】:ホッブズ『リヴァイアサン』29 章
- 【11】:ホッブズ『リヴァイアサン』30 章
- 【12】:ホッブズ『リヴァイアサン』31 章
- 【13】:ホッブズの政治理論についての論文精読
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト指定範囲を熟読しておき、報告担当者はパワーポイントを作成する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:50% 演習への貢献:50%

テキスト / Textbooks

トマス・ホップズ リヴァイアサン(1)(2) 岩波書店(文庫) 1996 4003400429

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

政治学の初心者向けの知識があること

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Approximately 10-15 students

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート(自己紹介と志望理由とを合わせて 1600 字以上で)

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

プラトンの政治哲学 —『国家』と現代デモクラシー—

面 一也 (OMOTE KAZUYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX619
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. プラトン『国家』の内容を正確に理解する。
2. プラトン『国家』の政治哲学上の意義を理解する。
3. 上記の二点を踏まえ、現代デモクラシーをめぐる諸問題を批判的に考察する力を身につける。
1. Students will understand the contents of Plato's "Republic" accurately.
2. Students will understand the significance of Plato's "Republic" in the political philosophy.
3. Students will acquire the ability to consider critically the issues concerning the contemporary democracy, based on the above-mentioned points.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、プラトンの『国家』を精読しながら、現代デモクラシーをめぐる諸問題について議論を行なう。

西洋哲学の歴史は「プラトンへの注釈」にすぎない(A・N・ホワイトヘッド)、とまで言われる。とりわけ『国家』は、プラトンの主著の中の主著として、そればかりか西洋哲学の古典の中の古典として、二千年以上の長きにわたり読み継がれてきた。その理由は、この対話篇が政治のあり方をめぐって、時代を超えて問われるべき根本的テーマを扱っているからである。

『国家』は、永遠不変の善のアイデアを把握する哲人王支配による最善国家を説くものとして知られるが、その背景には、当時の墮落したデモクラシーに対するプラトンの強い危機意識が見て取れる。近年もまた、デモクラシーの危機が指摘されている。実際に、反デモクラシー的な極右勢力やポピュリズムが、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。プラトンの議論は、現代の政治のあり方を考えるうえで、大きな示唆を与えてくれる。秋学期は、『国家』第六巻から第十巻を精読する。

In this seminar, we will discuss the issues concerning the contemporary democracy through a close reading of Plato's "Republic".

It is said that the history of Western philosophy is but "a series of footnotes to Plato" (A. N. Whitehead). The "Republic," in particular, has been read for more than 2,000 years as Plato's masterpiece among his major works and as a classic among the classics of Western philosophy. The reason is that the Dialogue deals with the fundamental themes of the nature of politics, which should be questioned throughout the ages.

The "Republic" is known as the advocating of the best state under the rule of the philosopher-king who grasps the eternal and immutable Idea of the Good, but in its background, we can see Plato's strong sense of crisis against the corrupt democracy of that time. Also in recent years, the crisis of democracy has been pointed out. In fact, anti-democratic far-right groups and populism have emerged in many parts of the world. In Japan, too, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Plato's argument offers a great deal of insight into the nature of politics today. In the fall semester, we

will closely read Books 6 through 10 of the “Republic”.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 哲学者無用論 (6 巻 1-7 章)
- 【3】: 哲人王 (6 巻 8-14 章)
- 【4】: 哲人王の教育①: 善のアイデア、太陽の比喩、線分の比喩 (6 巻 15-21 章)
- 【5】: 哲人王の教育②: 洞窟の比喩 (7 巻 1-5 章)
- 【6】: 教育＝魂の向けかえ①: 数学、天文学、音楽 (7 巻 6-12 章)
- 【7】: 教育＝魂の向けかえ②: 哲学的問答法 (ディアレクティケー) (7 巻 13-18 章)
- 【8】: 国家の墮落①: 最善国家から名誉支配制へ (8 巻 1-5 章)
- 【9】: 国家の墮落②: 寡頭制 (8 巻 6-9 章)
- 【10】: 国家の墮落③: 民主制 (8 巻 10-13 章)
- 【11】: 国家の墮落④: 僭主制 (8 巻 14-9 巻 3 章)
- 【12】: 正しい生き方 (哲学者) と不正な生き方 (僭主) (9 巻 4-13 章)
- 【13】: 詩人 (ギリシア神話: 宗教) の追放 (10 巻 1-8 章)
- 【14】: 魂の不死: 正義の報酬 (10 巻 9-16 章)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド (パワーポイント等) の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

議論を積極的に行うので、問題意識の旺盛な学生の参加を歓迎する。

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習に関しても復習に関しても、以下の三点を行なうこと。

- ・テキストの精読
- ・論点の抽出
- ・論点に関する考察

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 発表: 50% 議論への参加: 50%

テキスト / Textbooks

プラトン『国家(下)』岩波文庫 2008 年 4003360184

2008 年以降に出版された「改版」を入手すること。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

その他 / Others

採用人数 / Number of students: 10～15 名程度 / Approximately 10-15 students

配当年次 / Eligible year: 2～4 年次 / 2nd - 4th year

選考方法 / Selection method: レポート / Report

① 題目: 志望理由

② 字数: 1,000 字程度

演習論文 / Seminar papers: 実施しない

演習

Seminar

事例・判例を通じて憲法・行政法の「基礎」を学ぶ

神橋 一彦 (KANBASHI KAZUHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX620
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

憲法と行政法は、ともに国家(国や地方公共団体など)の作用・活動に関する法という点で共通している。したがって、憲法や行政法をめぐる諸問題の中には、妥当な結論を得るために、この両方の法分野からの検討を要するものが数多く存在する。すなわち、憲法の抽象的な原理や法理のみで妥当な解決に至るかどうかは疑わしく、他方で、憲法の基本原理を考慮に入れず、個別の行政法規のみで説得的な議論をすることは難しい。そのような問題が生じることがあるのである。

この演習は、(1)憲法に次いで、行政法を(本格的に、あるいはもう一度心を入れ替えて)学ぼうとする2年次・3年次生・4年次生をまず想定するが、さらには(2)行政の制度のあり方や運用について、憲法や行政法の観点からもう少し掘り下げて考えてみたいと希望する3年次・4年次生の参加も歓迎する。(報告の分担などにおいて、学年次のバランスなどは配慮するとともに、4年次生については就職活動など合理的な理由は配慮する。)

この演習のテーマである「憲法・行政法の『基礎』」の「基礎」には、憲法や行政法の初歩的な知識の習得だけではなく、そのさらにベースにある「本質」についても考えてみようというメッセージが込められている(「基礎」とは、必ずしも「初歩」とは同義ではない)。1つのテーマについても、さまざまな問題点や考察の視点があることを具体的に理解できれば、この演習のさしあたりの目標は達せられたことになる。このような学習は、特に法曹や公務員、さらには民間企業(企業法務など)を目指す学生にとっても有益である。

Administrative Law in order to reach a valid conclusion for problems concerning both of these areas. In other words, while it is doubtful that a valid solution can be reached with just the abstract principles and legal principles of the Constitution, on the other hand there are also problems where it is difficult to derive a persuasive argument with only the individual administrative laws and regulations without considering the fundamental principles of the Constitution.

In this seminar (1) Participants are expected to be second, third and fourth-year students who wish to study Administrative Law (formally or to review one more time) following Constitutional Law. (2) Third and fourth-year students who wish to dig into the state and operation of the administrative system from the perspectives of Constitutional and Administrative Law are also welcome to participate. (Consideration will be given to the balance between different class years in regard to the reporting assignments.)

The “fundamental” aspect of the “Fundamentals of Constitutional and Administrative Law”, which is the topic of this seminar, includes not only mastering a rudimentary knowledge of Constitutional and Administrative Law but also contains the message of thinking about the “essence” which forms the foundation of those areas (“fundamentals” does not necessarily mean the same thing as “rudiments”). If the students are able to concretely understand that even one topic has various problems and perspectives to examine, then the objective of this seminar has been achieved for the time being. This type of study is particularly beneficial for those students who aim to become legal professionals and civil servants or work at private companies (corporate law and other departments).

授業の内容 / Course Contents

憲法や行政法双方にかかわる具体的なテーマを取り上げ、(1)基本事項の確認、(2) 関連する判例の検討、さらに(3) 具体的な制度の運用などについて検討する。

具体的なテーマとしては、基本的人権、地方自治、環境、情報などに関する事例や判例、さらには時事的な問題などで憲法と行政法にかかわるものを取り上げるが、受講生の希望もきいて最終的に決めることにする。秋学期は少しずつ行政法固有の問題を検討することを予定している。

さらに通年開講であるため、このような取り上げたテーマに関連して、ゲストスピーカーからお話を聞いて理解を深める機会や、受講生と相談の上、文章の書き方などについても検討する機会を持つことを考えたい。

The classes will raise specific themes concerning both Constitutional Law and Administrative Law to (1) confirm basic matters, (2) examine related judicial precedents, and (3) examine the specific operation and other aspects of systems.

Specific topics will cover the cases about the fundamental human rights, the local self- government and the current topics , which concern the theory of Constitutional Law and The classes will raise specific themes concerning both Constitutional Law and Administrative Law to (1) confirm basic matters, (2) examine related judicial precedents, and (3) examine the specific operation and other aspects of systems.

Specific topics will cover the cases about the fundamental human rights, the local self- government, the environment, the management of information and otherwise the current topics , which concern the theory of Constitutional Law and Administrative Law .The instructor would like to raise these topics at the beginning to examine several arguments, but these topics will ultimately be decided according to the wishes of the students.

In addition, the instructor would also like to provide an opportunity for the students to deepen their understanding by listening to a guest speaker talk in reference to these topics, and the training for the art of writing on the legal topics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・春学期の打合せ
- 【2】: レポートの仕方・必要事項の確認
- 【3】: 憲法と行政法の全体像の概観
- 【4】: 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
- 【5】: 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
- 【6】: 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
- 【7】: 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
- 【8】: 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
- 【9】: 行政実務の実際的な事例(ゲストスピーカー)
- 【10】: 地方自治と行政法が関連する事例・判例
- 【11】: 地方自治と行政法が関連する事例・判例
- 【12】: 地方自治と行政法が関連する事例・判例
- 【13】: 地方自治と行政法が関連する事例・判例
- 【14】: まとめ
- 【15】: 統治機構・地方自治に関する事例・判例
- 【16】: 統治機構・地方自治に関する事例・判例
- 【17】: 統治機構・地方自治に関する事例・判例
- 【18】: 統治機構・地方自治に関する事例・判例
- 【19】: 時事問題に関する事例・判例
- 【20】: 時事問題に関する事例・判例
- 【21】: 時事問題に関する事例・判例
- 【22】: 裁判実務の実際的な事例(ゲスト・スピーカー)
- 【23】: 行政上の権利救済に関する事例・判例
- 【24】: 行政上の権利救済に関する事例・判例
- 【25】: 行政上の権利救済に関する事例・判例
- 【26】: 行政上の権利救済に関する事例・判例
- 【27】: 行政上の権利救済に関する事例・判例
- 【28】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

ゼミを3～4人のグループに分け、1回、1グループが1つの事件について報告をする(20～30分程度)。その後、ゼミ生3～4人のグループで15分ほど意見を出しあい、それを基に全体で報告への質問や議論を行う。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

割り当てられた報告の準備のほか、毎回、指定された文献や判例を読んでおくことが求められる。授業中は、グループで意見を集約するが、レポーター以外の参加者も、毎回原則、事前(あるいは事後)にコメントを提出すること(判例などを読むときのポイントは予め知らせる)。また、所属学年に応じて、憲法・行政法の講義系科目(憲法(1)、憲法(2)、行政法1、行政法2)を履修することが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告の内容:30% 授業中の発言・取組み:70%

テキスト / Textbooks

授業で取り上げる判例・文献は配布する。

憲法・行政法の標準的な教科書は、各自で必ず用意すること。

参考文献 / Readings

神橋一彦 行政救済法 第3版 信山社 2023 9784797280364

木下昌彦ほか(編) 精読憲法判例[人権編] 弘文堂 2018 9784335357251

木下昌彦ほか(編) 精読憲法判例[統治編] 弘文堂 2021 9784641228207

海道 俊明(著)、須田 守(著)、巽 智彦(著)、土井 翼(著)、西上 治(著)、堀澤 明生(著) 精読行政法判例 弘文堂 2023 9784335359491

神橋一彦ほか(著) 憲法と行政法の交差点 日本評論社 2025 9784535528093

笹田栄司 ほか トピックからはじめる統治制度 ― 憲法を考える 第3版 有斐閣 2025 9784641228818

棟居 快行 ほか 基本的人権の事件簿 第7版 有斐閣 2024 9784641281554

詳細は開講時に説明する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

憲法や行政法の分野に興味を持っていることが必要である。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:20名

配当年次:2・3・4年次

選考方法:レポート

①題目:演習に期待すること、憲法・行政法で興味のあるテーマ(ある程度自由)

②字数:1000字程度(字数が多くなるのは構わない。)

演習論文:実施しない

演習の内容などについて質問がある場合は、個別に相談に応ずる(メールで事前連絡すること)。

演習

Seminar

この国のかたち ―ジェンダーと政治を考える

松浦 正孝(MATSUURA MASATAKA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX621
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「大学に入ったら、好きな勉強を、思いっきりしたい!」。こんな志を持っていた学生に、初心を思い出して、合宿なども含むゼミ活動を通じて仲間を作り、「勉強した」と言える充実した大学生活を送ってもらうことが、このゼミの目標である。

このゼミでは、政治学・歴史学のアプローチにより、近現代日本政治におけるジェンダーや男性／女性をめぐる言説や現状を理解し相対化する視座を獲得し、議論を通じて自分なりの意見を形成することを目指す。また、テキストをきちんと読み報告・プレゼンしたり、自ら企画して取材・調査したり、議論したりする技術を習得する。

“When I get to university, I want to study what interests me to the best of my ability!” The objective of this seminar is to encourage students who had such aspirations to remember their original intentions, make friends through seminar activities such as a training camp, and lead a fulfilling university life in which they can say they learned a lot.

The seminar aims to have students acquire a perspective to understand and relativize the discourse and current situation surrounding gender and men/women in modern and contemporary Japanese politics based on a political science and historical approach, and to form their own opinions through discussion. Students will also acquire the skills to properly read textbooks and give reports and presentations as well as to plan and conduct interviews and research on their own and engage in discussion.

授業の内容 / Course Contents

今年度の松浦ゼミは春学期のみで短いこともあり、現状をどう変えるべきかを議論することは目標としない。現在の日本政治や日本政治史における男性中心主義について、まず現状を理解し、その原因や背景がどのように議論されているのか、それらの議論にはどのような限界があるのか。それらを知ることが目標である。

歴史的・比較的視座から現代を相対化するために、近年刊行されたテキストを中心に重要なテキストを輪読・報告し、問題意識や分析枠組みを共有した上で、メリット・デメリットを議論する。文献を読むだけでなく、「遠足」やゲスト講演といった形で現場の当事者たちの声も聞く必要があるかもしれない。議論を進めながらそうした機会も探りたい。

松浦ゼミのメイン・イベントでもある合宿では、ゼミ未到達の県を訪れる予定である。できればその地の自治体担当者のご協力を得ながら、本学期のテーマとその地に関わる学びをしつつ、学生時代の忘れ得ぬ思い出になるような体験を共有したい。合宿は、楽しいだけではなく、準備と運営とを通じて大きく成長できる機会となる。調査・計画・手配・調整・交渉・討論などのプロセスが参加者全員にミッションとして与えられ、授業時間以外の準備と積極的な参加が義務である。

この他にも、参加者が企画やテキストを提案し、積極的に運営することを歓迎する。ゼミは、君たちが作るものだから。

Due largely to the Matsuura Seminar for this academic year being a short one that will only be held in the spring semester, discussions of how the current situation should be changed will not be included in the seminar's objective. The objective of the seminar is to first form an understanding of the current state of androcentrism in today's Japanese politics and Japanese political history, then cultivate a familiarity with how its causes and background are discussed and

what limitations those discussions have.

In order to relativize the modern era from a historical and comparative perspective, students will read key textbooks, especially those published in recent years; give reports; and share their problem-awareness and analytical frameworks, after which they will discuss associated merits and demerits. In addition to reading literature, students may need to also listen to feedback from those involved in the field in the form of “field trips” and guest lectures. The seminar will also aim to have students to explore such opportunities while moving forward with discussions.

The main event of the Matsuura Seminar, a training camp, is scheduled to involve visits to prefectures that the seminar has yet to reach. With the cooperation of local government officials where possible, the seminar aims to have students share the kind of experiences that will become an unforgettable memory of their student days while learning about the themes for this semester and the local area. The training camp will be an enjoyable experience as well as an opportunity for students to grow significantly through preparation and management. The process of research, planning, arrangement, coordination, negotiation, discussion, and so forth is assigned as a mission to all participants. Preparation and active participation outside of class schedules is mandatory.

In addition to this, participants are welcome to propose plans and textbooks and actively operate the seminar. After all, the seminar is what you make it.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: テキスト輪読 1
- 【3】: テキスト輪読 2
- 【4】: テキスト輪読 3
- 【5】: テキスト輪読 4
- 【6】: テキスト輪読 5
- 【7】: テキスト輪読 6
- 【8】: ゲスト研究会ないし現地調査
- 【9】: テキスト輪読 7
- 【10】: テキスト輪読 8
- 【11】: テキスト輪読 9
- 【12】: テキスト輪読 10
- 【13】: テキスト輪読 11
- 【14】: 合宿準備会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献の輪読では、報告者が報告を準備する他、毎回コーディネーターが議論を整理する。報告者は他の文献を参照してテキストを補いつつ、テキストの要旨・論点を整理する。また、報告者とコーディネーターはゼミ当日までにサブゼミを行い、疑問を事前にできるだけ解消すると共に、当日の議論の構成を準備する。それ以外の参加者は、毎回授業日の前々日零時まで(授業は木曜なので、火曜日の終わる夜12時まで)に該当する論文を読み、コメントをCanvas LMSの掲示板に書き込む。コーディネーターはこれを編集し、当日の議論のために印刷して配布し、当日の議論をコーディネートする。参加者全員は事前にテキストや資料を読み、授業で事前に提出したコメントを踏まえて、コーディネーターの準備した論点について議論を行う。

当日は全員が積極的に議論に参加できるよう、体調を整えて参加すること。

原則として、合宿への参加を必須とする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 報告・コメントなどの内容: 50% 議論やゼミ活動に対する積極的参加: 50%

病気・就職活動などの特別な事由を除き、欠席は認めない。欠席の場合も、できるだけ早く連絡し許可を得ること。2回連続無断欠席、通算3回欠席の場合には、原則として成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

前田健太郎 『女性のいない民主主義』 岩波書店 2019 9784004317944

三浦まり『さらば、男性政治』岩波書店 2023 9784004319559

牧野百恵『ジェンダー格差 実証経済学は何を語るか』中央公論新社 2023 9784121027689

テキストは、出版社を通じて定価より若干(!)安く買える予定である。Canvas LMS などを通じて事前に金額を知らせるので、第一回の授業に代価を持参して受け取ること。

参考文献 / Readings

松浦正孝編著『「戦後日本」とは何だったのか』ミネルヴァ書房 2024 9784623097166

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スマホまたはPC またはタブレット

その他 / Others

<選考方法> レポート

採用人数: 20 名前後まで(多様性を重視する)

配当年次: 2~4 年次

選考方法: レポート

①題目: 本演習志望の理由+日本におけるジェンダーをめぐる状況や議論のあり方について自分が感じていること+私がゼミで貢献できること

②字数: 2000 字以上

演習論文: 実施しない

参加者は、ゼミ合宿、懇親会などゼミ関係の行事において、未成年飲酒・アルハラ・迷惑行為は絶対に許されないことを銘記すること。授業や行事、論文、メールなどにおけるマナーを、次第に身につけることも必要である。

演習

Seminar

社会と法律 ～民法の判例・事例を中心に、社会と法律の関わりを学ぶ～

関口 康晴(SEKIGUCHI YASUHARU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX622
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	実務家が担当		

授業の目標 / Course Objectives

民法の判例や事例の勉強を中心に、社会と法律の関わりを学ぶとともに、日々生ずる社会事象に対し法的思考ができるようになることを目標としている。また、発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。

This course aims for students to learn about the relationship between society and law, with a focus on studying Civil Law judicial precedents and cases, while becoming able to think legally about daily societal events. Furthermore, students hone their oral skills by giving presentations.

授業の内容 / Course Contents

レポーターの報告を題材に、民法の考え方や事実の把握等を丁寧に考察する。また、法律が私たちの生活にどのような影響を及ぼしているかを知るために、以下の内容を予定している。

【1】判例研究及び事例研究

ゼミ員が選択して報告する民法に関する最高裁判例の検討及び民法に関する事例研究が、ゼミの中心となる。なお、2024 年度の演習では、下記の事例を扱ったので参考にされたい。

【契約から見た民法】、【不動産取引と民法】、【賃貸借契約と民法】、【不法行為と民法】、【家庭と民法】、【担保について学ぼう】

ゼミ員の人数にもよるが、原則として、単独で判例報告及び事例研究を年1回以上、発表する。人数が多い場合、グループ発表を行う場合もある。

【2】ゲストスピーカーとの議論

弁護士等の法実務家や会社経営者に、法律が企業活動や個人の生活でどのように利用されているかについて語ってもらい、ゼミ参加者と議論してもらうことを予定している(例年、1～2 名のゲストスピーカーにお話しいただいている)

【3】裁判傍聴

実際の裁判を傍聴し、裁判手続を勉強することを予定している(例年、民事裁判及び刑事裁判を傍聴している)。

議論がゼミの中心となり、議論では「法律解釈論に誤りはない」との考えが前提となるため、積極的に発言をする学生の参加を期待する。また、ゲストスピーカーが来られたときは、質問事項やレポートを作成してもらうほか、裁判傍聴後にはレポートを作成してもらう。

単位修得は、出席・発言・報告で評価する。

なお、授業内容は、必要に応じて変更することがある。また、就職活動、教職課程など可能な範囲で配慮する。

This seminar will carefully examine the concept of civil code, understanding of facts, etc. using court reporters' reports as materials. We also plan to learn how the law impacts our lives through the following content.

(1) Precedent research and case studies

The seminar focuses on the examination of Supreme Court precedents related to civil code and on civil code case studies, which are selected and reported on by the participants. Please refer to the seminar in the 2024 academic year,

which dealt with the following cases.

"Civil Code from the Perspective of Contracts", "Real Estate Transactions and Civil Code", "Lease Contracts and Civil Code", "Torts and Civil Code", "Families and Civil Code", and "Learn about Law of Securities".

Depending on the number of seminar participants, as a general rule, each participant will individually present case reports and case studies at least once a year. Group presentations may be held if there are many participants.

(2) Discussions with guest speakers

We plan to have lawyers and other legal practitioners and corporate executives speak on how the law is used in their corporate activities and personal lives and hold discussions with seminar participants. (There are one or two guest speakers in a typical year.)

(3) Observation of trials

Participants are scheduled to study court proceedings by observing actual trials (in past years, students have observed civil and criminal trials).

We hope that students who actively express their views will participate since the discussion will be the focus of the seminar and the discussion will be premised on the idea that "there are no mistakes in the theory of legal interpretation". Participants also will be asked to prepare questions and reports when guest speakers come and to prepare reports after observing trials.

Credit will be assessed on the basis of attendance, class participation, and reports.

The content of classes may be modified as needed. In addition, consideration will be given to the extent possible with respect to job searching, Teacher Training Courses, and the like.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション・自己紹介
- 【2】: レポーターの報告に基づく議論
- 【3】: レポーターの報告に基づく議論
- 【4】: レポーターの報告に基づく議論
- 【5】: レポーターの報告に基づく議論
- 【6】: レポーターの報告に基づく議論
- 【7】: レポーターの報告に基づく議論
- 【8】: レポーターの報告に基づく議論
- 【9】: レポーターの報告に基づく議論
- 【10】: レポーターの報告に基づく議論
- 【11】: レポーターの報告に基づく議論
- 【12】: レポーターの報告に基づく議論
- 【13】: レポーターの報告に基づく議論又は裁判傍聴を行う場合は裁判手続の概要
- 【14】: レポーターの報告に基づく議論又は裁判傍聴を行う場合は裁判手続の概要

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

レポーターは、報告予定の判例や事例の選択、検討及び報告準備。

レポーター以外のゼミ参加者は、報告が予定されている判例や事例の予習。

これ以外については、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加の態度(出席及び発言の積極性など):60% 報告の内容:40%

成績評価の前提として出席を重視するため、3/4以上の出席を必要とする。また、提出物の提出期限は守られたい。

テキスト / Textbooks

山本和彦 よくわかる民事裁判[第4版] (株)有斐閣 2023

三井誠・酒巻匡 入門 刑事手続法[第8版] (株)有斐閣 2020

上記テキストは、裁判傍聴を行う場合に限り、裁判手続の概観を学ぶために使用する。

参考文献 / Readings

六法及び発表対象となる判例の分野に関する民法の教科書は、各自用意されたい。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:14 名程度

配当年次:2 年次～4 年次

選考方法:レポート

①題目:以下の内容を全て含めて作成すること

【1】自己紹介(本演習の志望動機+大学生活で真剣に取り組んでいる活動(学内外を問わず)の紹介)

【2】民法判例百選掲載の判例(但し、平成元年以降の判例)から、関心を抱いた判例の紹介及びその判例を選択した理由(選択した判例を、ゼミで発表してもらうことがある)。なお、判例を紹介するに当たっては、判例の年月日と出典を記載すること(例:最判平成 10 年 4 月 30 日・判タ 980 号 101 頁)

②字数: A4 用紙 1 枚以内(字数制限なし)

演習論文:実施しない

演習

Seminar

マイケル・サンデルの『民主政の不満』について検討する。

一ノ瀬 佳也 (ICHINOSE YOSHIYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX623
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習においては、サンデルの著書をいくつか読み、「民生政の不満」や「憲法政治」について検討していく。

In this seminar, students will read some Sandel's books , and study on ‘Democracy’s Discontents’ and ‘Constitutional Politics’

授業の内容 / Course Contents

本演習においては、サンデルの著書をいくつか読み、「民主政の不満」や「憲法政治」について検討していく。

本授業は「演習」形式で行う。学生たちがテキストについての発表やコメントを行い、その議論を通じてサンデルの理論についての理解を深めていく。

In this seminar, students will read some Ssandel's books, and study on ‘Democracy’s Discontents’ and ‘Consitutional Politics’

This lecture hold a style of “seminar”. So, students must have some presentations and comments concerning text books. Students will be able to understant Sandel's public philosoehy by the discussion with members

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 序論
- 【3】: 勝者と敗者
- 【4】: 『偉大なのは善良だから』ー能力の道徳の簡単な歴史
- 【5】: 出世のレトリック
- 【6】: 学歴偏重主義ー容認されている最後の偏見
- 【7】: 成功の倫理学
- 【8】: 選別装置
- 【9】: 労働を承認する
- 【10】: 能力と共通善
- 【11】: 現代リベラリズムの公共哲学
- 【12】: 権利と中立的国家
- 【13】: 宗教的自由と言論の自由
- 【14】: プライバシー権と家族法
- 【15】: まとめ
- 【16】: なぜ不平等を気にするのか
お金はもっと重要でなくなるべきか

- 【17】:市場の道徳的限界
グローバリゼーションとポピュリズム
- 【18】:能力主義
大学入試や議員選挙にくじ引きを取り入れるべきか
- 【19】:課税・連帯・コミュニティ
国境・移民・気候変動
- 【20】:まとめ
- 【21】:初期共和国における経済論と美德(前半)
- 【22】:初期和僑国における経済論と美德(後半)
自由労働対賃労働(前半)
- 【23】:自由労働対賃労働(後半)
共同体、自己統治、革新主義的改革(前半)
- 【24】:共同体、自己統治、革新主義的改革(後半)
リベラリズムとケインズ革命
- 【25】:手続き的共和国の勝利と苦悩(前半)
- 【26】:手続き的共和国の勝利と苦悩(後半)
- 【27】:公共哲学をもとめて
- 【28】:全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、必ずテキストを読んできてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% プレゼンテーション:40%

テキスト / Textbooks

マイケル・サンデル 『民主政の不満:公共哲学を求めるアメリカ(上)』 勁草書房 2010 9784326101962

マイケル・サンデル 『民主政の不満:公共哲学を求めるアメリカ(下)』 勁草書房 2011 9784326101979

マイケル・サンデル 『実力も運のうち:能力主義は正義か』 早川書房 2021 9784152100160

マイケル・サンデル・トマ・ピケティ、岡本麻左子、吉田徹 『平等について、いま話したいこと』 早川書房 2025 9784152104014

テキストのうち『民主政の不満:公共哲学を求めるアメリカ(下)』は絶版となっているので、中古書籍の購入等で対応すること。

参考文献 / Readings

マイケル・サンデル 『リベラリズムと正義の限界』 勁草書房 2009 9784326101887

マイケル・サンデル 『公共哲学:政治における道徳を考える』 筑摩書房 2011 9784480093875

マイケル・サンデル 『それをお金で買いますか:市場主義の限界』 早川書房 2014 9784150504199

マイケル・サンデル 『これからの正義の話をしよう:今を生き延びるための哲学』 早川書房 2011 9784150503765

小林正弥 『サンデルの政治哲学とは何か』 平凡社 2017 9784480098191

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特別に専門知識を必要とするわけではないが、授業の中で積極的に発言することを求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の連絡は Canvas LMS を用いるので、それにアクセスできることが必要である。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:20 人

配当年次:2, 3, 4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習を履修する理由とテーマへの関心について記すこと

②字数:1000 字以上

演習論文:実施しない

演習

Seminar

法学部の学修と社会を繋ぐ ～まちづくりを題材に～

薬師丸 正二郎<薬師丸 正二郎> (YAKUSHIMARU SHOJIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX624
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

法は社会規範の一つであり、「人」に対して働きかけるものである。従って、「法学部で学ぶ」ということは、人一倍、社会や人に関心を持ち、学び続けることが必要である。授業では「地域が抱える現実の問題」を素材に法学部の学修を通じて獲得する論理的な思考力、対立する利害関係を調整する力等を学び、社会や人への関心を高める。さらに、地域の抱える課題を「発見」し、観光政策を含む様々な観点から地域振興の在り方について考え、課題「解決」に導く力も養うことを目標とする。

Law is one type of social norm, and it has an effect on "people." Therefore, "studying in the College of Law and Politics" requires students to have an uncommon level of interest in society and people as well as to continue learning. In this class, students will use "real problems faced by local communities" as subject material to cultivate the ability to think logically, learn how to align opposing interests, and increase their interest in society and people through their studies in the College of Law and Politics. In addition, the objectives for this academic year are to have students "discover" issues faced by local communities, think about the state of regional development from various perspectives including tourism policy, and cultivate the ability to derive "solutions" to the issues.

授業の内容 / Course Contents

- 1 「法学部で学ぶことが社会とどのような形で繋がっているのか」について様々な角度から考える。法学部の学修を通して、論理的思考力、情報収集能力等、利害関係調整力等、社会で必要な様々な能力を獲得できる。法学部で学び、身に付けることができるこれらの能力を実戦で使いこなせるようにすることを目的とする。
- 2 演習で取り扱う素材は、現実社会で発生する問題の中でも最も複雑で、解決が困難とされている「地域が抱える現実の課題」を素材にする。「地域が抱える現実の課題」を素材とする理由は、「利害関係者(ステークホルダー)」が複数存在し、それぞれの利害が複雑に絡み合っているため、利害関係を調整し、解決に導くことが困難な事柄だからである。このように「地域が抱える現実の課題」を素材に利害関係者それぞれの主張及び取り巻く状況について分析・検討することにより、通常の講義では得ることが困難な課題発見力、分析力、課題解決力、実行力、コミュニケーション力など様々な能力を学び、身に付けていく。
- 3 授業では、まちづくりに関する基礎知識や分析に必要な視点を獲得するために、適宜、ゲストスピーカーを招く(昨年度は経済産業省、農林水産省、気象庁、埼玉県庁)。さらに外部環境に関する知識(少子・高齢化等の社会問題、第四次産業革命の技術革新、Society5.0 など)のほか、法制度(まちづくり三法等)、中心市街地活性化、観光政策、地域コミュニティの形成・活性化に関する文献を検討する。
- 4 地域の抱える問題や課題を発見し、解決案を探す上で必要な視点を得るために、地方創生・地域活性化の先行事例として紹介されている地域を対象にヒアリング調査を行う。ヒアリングは、利害関係者(行政、民間企業、観光協会、商工会議所、銀行、商店街、NPO 法人、住民(第一次産業を含む))ごとにグループを作り、実施する。
- 5 本年度は、昨年度(埼玉県志木市、川越市、小鹿野町、東京都豊島区、渋谷区など)に引き続き、新たな地域を選定

し(群馬県など現在検討中)、中心市街地活性化の現状及び活性化の構造を調査、分析すると共に、具体的に地域の人々と地域活性化に関する具体的な提言及び提言の実行を行うほか、地域や企業と連携し、PRを行うためにゼミの行事として各種イベント行事(昨年度の場合、アサヒビール㈱との連携による適正飲酒に関する普及活動カードゲーム作りなど)に参加する予定である(協力企業、対象地域等、詳細については随時ゼミの広報 Facebook 等を通じて掲載する)。

6 具体的な提案に向けて必要となる能力を養うために、演習時間外においてもサブゼミ、勉強会を別途開催する予定である。

1. Students will think from various angles about "how studying in the College of Law and Politics is connected to society." Through studying in the College of Law and Politics, students will cultivate various abilities which are required in society such as the ability to think logically, gather information, and align different interests. The objective is to become able to effectively apply these skills which can be learned in the College of Law and Politics under real-world conditions. This will enhance various abilities which were cultivated through previous studies in the College of Law and Politics.

2. The materials covered in the seminar are based on "real issues faced by local communities" which are among the most complex problems occurring in the real world and are believed to be difficult to solve. The reason why "real issues faced by local communities" are being used as material is because there are multiple "interested parties (stakeholders)," and the interests are entangled in complex ways, which naturally makes it difficult to align interests and derive a solution. Using "real issues faced by local communities" as material to analyze and examine the statements and situations surrounding each stakeholder will enable the students to learn and master various abilities which cannot be learned in the typical seminar such as the abilities to discover issues, analyze, resolve issues, take action, and communicate.

3. In order to cultivate fundamental knowledge and the perspectives required to analyze community planning, students in this class will examine the literature about legal systems (the three community planning laws, etc.), city center revitalization, tourism policy, and the formation and revitalization of regional communities in addition to acquiring knowledge about the external environment (social problems such as the low birthrate and aging society and technology innovations of the Fourth Industrial Revolution).

4. In order to develop the perspectives required to discover the problems and issues faced by local communities and search for solutions, students will conduct interview surveys of regions introduced as precedents for regional revitalization and regional development. The interviews will be conducted by breaking into six groups for each interested party (government, private companies & tourism association, Chamber of Commerce and Industry & banks, shopping district, incorporated NPOs, and residents (including primary industries)).

5. Continuing from the previous academic year, this year's seminar (the previous academic year conducted in Shiki city, Kawagoe City, Ogano town (Saitama Prefecture) and Yokosuka City (Kanagawa Prefecture)), Katsushika city (Tokyo Prefecture)) is scheduled to survey and analyze the present state of city center revitalization and the structure of revitalization as well as making and implementing specific suggestions for regional revitalization together with people from the regions (details about the cooperating companies and target regions will be posted as needed on the official seminar Facebook page).

6. In order to cultivate the abilities required to make concrete proposals, sub-seminars and study sessions will be separately convened outside of the seminar class hours.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 地域創生に関する分析手法を学ぶ

【3】: 課題解決のための考え方、分析手法を学ぶ

【4】: 課題解決のための考え方、提案・企画書の作成法を学ぶ

【5】: まちづくりに関連する法的基礎知識を学ぶ(1)

【6】: まちづくりに関連する法的基礎知識を学ぶ(2)

【7】: まちづくりに関連する法的基礎知識を学ぶ(3)

【8】: まちづくりに関する先行事例研究・報告(1)

【9】: まちづくりに関する先行事例研究・報告(2)

課題調査地域の確定

【10】: 現地調査に関する報告及び検討(1)

【11】: 現地調査に関する報告及び検討(2)

【12】: 現地調査に関する報告及び検討(3)

【13】: 中間報告会

【14】: 前期のまとめ

【15】: 現地調査に関する報告(5)

【16】: 現地調査に関する報告(6)

- 【17】:外部環境について学ぶ
- 【18】:外部環境について学ぶ
- 【19】:社会のニーズ、世の中の動向を知る
- 【20】:日本の現状を知る(少子高齢化問題等)
- 【21】:地域が抱える課題の検討&提案(1)
- 【22】:地域が抱える課題の検討&提案(2)
- 【23】:地域が抱える課題の検討&提案(3)
- 【24】:地域が抱える課題の検討&提案(4)
- 【25】:グループによる報告会(1)
- 【26】:グループによる報告会(2)
- 【27】:最終報告会
- 【28】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【授業時間外の学習】

・報告、調査はグループ毎に行うため、サブゼミ、ヒアリング等、相当の準備を要する。
 また、4限の開講科目であるが、毎回、5限まで延長するため(18:50終了予定)、時間的に余裕のない人、グループワークに積極的でない学生の受講は絶対に勧めない(事前に連絡のない遅刻、途中退室も原則として許さない)。
 ・グループ毎の調査とは別にゼミ単位での現地調査及びゼミ合宿も予定している。日程は、第一次調査(5月又は6月)と第二次調査(夏期休暇中)、第三次調査(秋休み又は2、3月)に合宿を予定。

・本ゼミでは事前の文献調査、報告のみならず、現地調査も実施する予定である。演習外でも相当な準備を必要とするため、受け身ではなく、積極的、能動的な態度を持って臨むことを要する。
 ・個人の理解度を知り、グループへの貢献度を測るため、毎回、グループ毎にメンバーを評価するシートの提出を行うとともに、各自の学修進度、理解の程度を知るためにコメントペーパーの提出を毎回義務付ける。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席点・コメントペーパー:30% 平常の授業態度:30% グループによる報告内容、グループへの貢献度:20% ヒアリング調査への参加、調査報告内容:20%

テキスト / Textbooks

今年度は、特に指定しない。講義で取り扱う書籍、文献、資料は適宜、指示する。
 その他、自身のキャリアを形成し、ステークホルダーとのコミュニケーション力を養うために、適宜、資料を配布し、スキルトレーニングも取り入れる予定。

参考文献 / Readings

バーバラ ミント 考える技術・書く技術 新版一問題解決力を伸ばすピラミッド原則 ダイアモンド社 1999
 9784478490273

池田紀行 売上の地図 日経 BP 2022 9784296112562

小地沢将之 まちづくりプロジェクトの教科書 森北出版 2020 9784532321116

上野 千鶴子 情報生産者になる 筑摩書房 2018 9784480071675

森岡毅/今西聖貴 確率思考の戦略論 どうすれば売上は増えるのか ダイアモンド社 2025 9784478115282

中村善貞 図解 新規事業を創出する方法 言視社 2018 9784865651164

池田紀行 マーケティング「つながる」思考術 翔泳社 2024 9784798182070

・内閣府「RESAS 地域経済分析システム」〈<https://resas.go.jp/#/11/11365>〉

・地方創生カレッジ eラーニング講座〈<https://chihausousei-college.jp>〉

・まちづくりの推進(METI/経済産業省) 〈http://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/town_planning/〉

・中心市街地活性化資料集・事例集一国土交通省 〈<http://www.mlit.go.jp/crd/index/case/>〉

・「観光地域づくり」(国土交通省 観光庁 HP) 〈<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/index.html>〉

・観光地域づくり事例集〈<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/ikiiki.html>〉

・地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム(成 23 年)-総務省-

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

1 本演習は、経済産業省が 2006 年に提唱した「社会人基礎力」すべてを身に着けることができるプログラムである。

- ① 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力(「主体性」「働きかけ力」「実行力」)
- ② 疑問を持ち、考え抜く力(「課題発見力」「計画力」「創造力」)
- ③ 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力(「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」)

2 もっとも、現在、上記能力を身に着けたい、あるいはさらに伸ばしたいと考えていけば、履修時には好奇心と行動力を身に着けていけば足りると考える。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出に必要な情報機器(PC、タブレットなど)

その他 / Others

＜選考方法＞

- ◇ 採用人数:30 名
- ◇ 配当年次:2～4 年次
- ◇ 選考方法:レポート及び任意面談

1) レポート

題目:①自己PR、②本演習の志望理由、③自己PRを裏付けるあるいは強化する推薦者を選び、4 名以上の推薦状を記載せよ(一人 200 字以上)。

字数:1,500 字以上(①②③合計で 1,500 字以上あれば、字数を問わない)。

2) 任意面談

本ゼミは、様々な社会人(行政、民間企業を問わず)の方々と交流します。このため、挨拶をはじめとするマナーを重視すると同時に、演習内容を理解してもらうために、初めて履修を希望する学生を対象として、「任意」面談を行います。とくにゼミの活動内容、合宿、雰囲気などについて話を聞きたい方は、メールで連絡を下さい

(yakushimaru0625@rikkyo.ac.jp)。面談の日時は、相談の上、随時実施します。

＜演習論文＞

実施しない

＜その他＞

① このゼミの目的の一つに、「自らの望む人生及びキャリアを、自らが選択して、切り拓いていける力を養い、実行できる人物を育てること。」があります。社会の変化が目まぐるしいこれからの時代において、「どのような能力や資質が必要か」について自分で考えることができるようになることを目指していますので、好奇心、冒険心の旺盛な方は、遺憾なくこれらの能力を発揮してください！

② 皆さんの生きていく社会は「正解のない社会」であり、すべてを自分で考えながら、行動していかなければならないため、フィールドワークで気づいたことを基に、主体的に行動し、各自で書籍を調べ、試行錯誤しながら行動するようにしてください。グループワークが中心となりますので、途中で無責任に自分の役割を投げ出す傾向のある人は履修を控えてください。

③ 今年度は、前半の時間では、指定テキストについてグループ報告を行うとともに、テーマへの理解を深めるための議論を行います。

後半の時間は、ディベート、グループ活動報告、その他、「企画」の立て方、キャリアデザインに関するテキストを選び、読み進める予定です。

なお、今年度の地域活性化活動は、別の講義【EX730】キャリアデザイン～インターンシップの学生(希望者)、他学部の学生と合同で行う予定である。

④ 現時点で、ゼミで調査する地域は、2024 年度の調査地域(東京都豊島区、渋谷区、埼玉県志木市、小鹿野町、川越市)のほか、新たに群馬県の温泉地活性化、福島県白河市などを検討中。そのほか希望があれば、ゼミ生の意見を取り入れながら考えていきます。これまでのゼミ活動の一部が Facebook に紹介されていますので、ご参照下さい

〈<https://www.facebook.com/rikkyolawyakushimaru/>〉。

⑤ 本ゼミの内容は、複数の行政機関及び民間企業、そして様々な方々の協力を頂きながら実施しています。大学生であっても、社会人としてのマナーを大切に守るように意識して臨んで下さい。

⑥ ゼミを通して、キャリア教育支援も行います。具体的には、各種社会人との交流会、イベント、学術会議等の企画・運営への参加をはじめ、社会人基礎力等の基本的資質・能力やコンピテンシーを分析し、演習や大学生活を通して、どのような力や能力が身に付いたかについて振り返り等も行います。

⑦ ゼミ活動は課題解決をするため、多くの人々を巻き込みながら、行う活動である。課題解決するうえで、情報発信力も重視する。特に動画作成、SNS を用いての情報発信などに関心のある人も参加して欲しい。

⑧ 3 月上旬に、地域の人々、企業や行政関係者を招き、2024 年度ゼミ活動の最終報告会を実施する予定です。開催日など詳細は決まり次第、Facebook、Twitter などの SNS を通じて告知するので、ゼミに興味のある学生は、雰囲気を掴むために参照してください。

そのほか、ゼミ活動について知りたい方は、2023 年 1 月にゼミ紹介企画で行ったゼミ生による紹介動画を参照してください〈<https://www.youtube.com/watch?v=37ukCSrxfBc>〉。過去に NHK で紹介された横須賀市でのゼミ活動については以下をご覧ください〈<https://youtu.be/2fQPenP3l2c>〉。

演習

Seminar

労働法・社会保障法

島村 暁代(SHIMAMURA AKIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX625
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

労働法と社会保障法に関する政策や裁判例を検討することを通じて、正確な知識と深い理解にもとづく議論ができるようになり、具体的な課題に対して自分なりの展望が描けるようになること。

The purpose of this course is for students to be able to engage in discussion based on accurate knowledge and deep understanding gained by examining court precedents that cover the major arguments of Labor Law and Social Security Law and their systems so that they can depict their own vision for specific issues.

授業の内容 / Course Contents

労働法と社会保障法に関する政策や裁判例の検討を通じて、労働法や社会保障法に関する理論的な枠組みを理解してもらいます。

受講生の中からゼミ長を選び、受講生中心にゼミの運営が進むことを期待します。グループ作業による学生主体の報告・討論が中心となるため、授業外の準備を含めた、相当の時間を要する見込みです。場合によっては、週末や夕刻の時間帯にかかる作業もあります。受講生の希望等に応じて、ゲストスピーカーの招へいや、合宿、施設見学等も予定しています。また、豊島区民社会福祉協議会さんのご協力のもと、地域の高齢者のお困りごとについてお手伝いする学生出前便も開催予定です。このように教室でのゼミ以外での活動も多くあり、積極的に参加することが求められます。

さらに、1 年を通じて自分の関心のあるテーマをマイテーマとして模索・設定し、研究していただきます。最後にマイテーマレポートとして総括してもらいます。

これらのことを理解して、積極的かつ主体的に参加できる人の参加を歓迎します。

なお、以下の授業計画は一例であり、受講生の関心や希望により、随時変更します。

To handle workplace issues, students must first pin down the fundamental knowledge and understand the theoretical framework of the dispute resolution system by studying politics and court precedents on Labor Law and Social Security Law.

Students elect a Seminar Organizer and Vice Organizer from among them, and they mainly manage and coordinate the course. Because the focus is on student-led reports and debates based on group work, this course is expected to require considerable time to prepare outside the classroom. In addition, the final report requires an overall summary. Depending on circumstances, work may be required on weekends or in the evening. Students who understand these requirements and can participate proactively and independently are welcome to enroll. Note: The following plan is an example and changes as necessary according to student requests and the state of progress.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ブレインストーミング
- 【3】: 基本的な知識の確認

- 【4】:裁判例の検討
- 【5】:裁判例の検討
- 【6】:裁判例の検討
- 【7】:裁判例の検討
- 【8】:裁判例の検討
- 【9】:裁判例の検討
- 【10】:裁判例の検討
- 【11】:裁判例の検討
- 【12】:施設見学
- 【13】:中間小括
- 【14】:政策の検討
- 【15】:政策の検討
- 【16】:政策の検討
- 【17】:政策の検討
- 【18】:政策の検討
- 【19】:政策の検討
- 【20】:政策の検討
- 【21】:政策の検討
- 【22】:政策の検討
- 【23】:報告と討論
- 【24】:報告と討論
- 【25】:報告と討論
- 【26】:報告と討論
- 【27】:報告と討論
- 【28】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

憲法、行政法、民法、労働法、社会保障法を履修済みか、並行して履修予定であることが望ましいです。インターンシップなど、労働現場の体験を強く推奨します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・発言内容:40% 報告内容:40% マイターマレポート:20%

無断欠席が3回以上の場合、成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

使用する裁判例等については、授業中に指示します。

参考文献 / Readings

授業中に指示します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

報告にもそれ以外のゼミ活動にも、積極的に真摯に取り組んでいただくことを求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC 等の電子端末機器

その他 / Others

選考された場合は辞退しないで下さい。また、学期中の連絡は email を使用しますので、使えるようにしておいて下さい。

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:2～4年次

選考方法:レポート

①題目:ゼミで勉強したいことと将来の展望について

②字数:1200字程度

演習論文:実施しない もっとも、マイテーマを設定し、最後にレポートを書いていただきます

演習

Seminar

知的財産法ディベートゼミ

上野 達弘 (UENO TATSUHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX626
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知的財産法をテーマにディベートを行うことにより法的思考力とプレゼンテーション能力を養う。

The purpose of this seminar is to develop the students' legal thinking and skills for presentation and discussion through debates on intellectual property law.

授業の内容 / Course Contents

著作権法に関する現実の事件をテーマとして、原告 3 人×被告 3 人のディベートを行います。残りの参加者は全員ジャッジとしてコメント付き判定を下します。こうして1年間同じチームでリーグ戦を行い、優勝チームを決定するというプログラムです。

ディベーターは準備と理論武装が求められ、他のジャッジも公平な判断が求められます。こうしてディベーターは、柔軟な思考力と説得的な論理性を鍛え、あわせてプレゼン技術を磨きます。ジャッジは、主張の正当性を適切に見極める判断力を養います。

毎回 20 分程度延長あり。他大学(昨年度は北大と早稲田)との親善試合も開催予定。

[お問い合わせ]

教員: uenot@waseda.jp

学生 Instagram: rikkyo_ueno_seminar

X: @rikkyo_uenozemi

This seminar holds debates between the plaintiff (3 persons) and the defendant (3 persons) on the topic of real case law concerning copyright law, for one year. The rest of the students give their judgements with comments.

The debaters have to prepare for the debates, while the judges are expected to be impartial. In the course of this seminar, the students can develop flexible legal thinking and skills for presentation and discussion.

There is an extension of about 20 minutes each time. It is planned to hold the friendly matches with other universities (e.g. Hokkaido University, Waseda University).

For further information, please contact:

uenot@waseda.jp

Instagram: rikkyo_ueno_seminar

X: @rikkyo_uenozemi

授業計画 / Course Schedule

【1】: Team organization

【2】: 大阪地判平成21年3月26日〔マンション読本事件〕

【3】: 大阪地判平成31年4月18日〔眠り猫事件〕

- 【4】: 東京地判平成26年10月30日〔ふわふわ四季のたより事件〕
 【5】: 知財高判平成27年6月24日〔プロ野球ドリームナイン事件〕
 【6】: 東京地判平成16年6月25日〔出る順シリーズ事件〕
 【7】: 東京地判平成27年11月30日〔全脳記憶英単語事件〕
 【8】: 東京地判平成6年2月18日〔コムライン事件〕
 【9】: 知財高判平成25年9月30日〔風にそよぐ墓標事件〕
 【10】: 知財高判平成27年10月6日〔著作権論文事件〕
 【11】: 知財高判令和3年12月8日〔タコの滑り台事件〕
 【12】: 大阪地判平成31年1月24日〔コンタクトレンズチラシ事件〕
 【13】: Test Match
 【14】: Friendly Match vs. 早稲田大学上野ゼミ
 【15】: 知財高判平成27年4月14日〔TRIPP TRAPP 事件〕
 【16】: 東京高判平成7年1月31日〔会社案内パンフレット事件〕
 【17】: 東京高判昭和62年2月19日〔当落予想表事件〕
 【18】: 東京地判平成13年7月25日〔はたらくじどうしゃ事件〕
 【19】: 知財高判平成22年10月13日〔美術鑑定証書事件〕
 【20】: 知財高判平成26年10月22日〔自炊代行業事件〕
 【21】: 最一小判令和4年10月24日〔音楽教室事件〕
 【22】: 最一小判平成23年1月20日〔ロクラクⅡ事件〕
 【23】: 東京高裁平成16年3月31日〔DEAD OR ALIVE 2 事件〕
 【24】: Friendly Match
 【25】: 大阪地決平成25年9月6日〔希望の壁事件〕
 【26】: 東京高判平成14年2月18日〔雪月花事件〕
 【27】: Retirement Match 1
 【28】: Retirement Match 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本ゼミでは、授業外にもチームでディベートの打合せを行うことが必要になります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加姿勢:50% 議論内容:50%

テキスト / Textbooks

島並良・上野達弘・横山久芳『著作権法入門(第4版)』有斐閣 2024 9784641243279

上野達弘・前田哲男『〈ケース研究〉著作物の類似性判断——ビジュアルアート編』勁草書房 2021 9784641243811

参考文献 / Readings

小泉直樹・田村善之・駒田泰士・上野達弘編『著作権判例百選(第6版)』有斐閣 2019

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特に不要ですが、ゼミに「居場所」を見つけられる方が適しているかと思います。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数: 30 名

配当年次: 2~4 年次

選考方法: レポート

①題目: 自己PRおよび志望理由

②字数: 自由

演習論文: 実施しない

※ 自主面談を希望される方は、上野(下記)宛てにご連絡ください。

<連絡先>

上野達弘

uenot@waseda.jp

※参考※

[Instagram]

rikkyo_ueno_seminar

[ゼミに関するエッセイ]

<http://www.f.waseda.jp/uenot/debateseminar.pdf>

演習

Seminar

グローバル化時代のビジネス社会と法

早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX627
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化時代の様々な新しいビジネスの展開とこれに対する法規制を考察する。

The objective of this course is to examine the development of various new businesses and the corresponding legal regulations in an era of globalization.

授業の内容 / Course Contents

この 10 年ほど世界のビジネスシーンにおいてはますますグローバル化が進んでいます。

本演習においては、その関心領域に応じて参加学生を幾つかのグループに分けた上で、そのグループごとに、文献の渉猟、企業・業界団体・官庁に対する直接の取材等を通じて、そのような新しいビジネスの詳細や新たな法規制に関して調査・研究してもらいます。その上で、全員参加の演習の場においてパワーポイントを用いた報告をしてもらい、さらに、全員による討議・検討を経るという形をとることになります。

なお、各グループの報告の内容は、ウェブサイトを通じて内外に発信される予定です。

During the past ten years or so, globalization has made further advances in the global business scene.

In this seminar, participating students will be separated into several groups according to their areas of interest to investigate and research the details of such new businesses and the new legal regulations by extensively reading the literature and directly interviewing companies, business groups, and government agencies by group. In addition, students will use PowerPoint to present reports during seminar sessions attended by all students which will be followed by further debate and discussion among all of the students.

Furthermore, please note that the content of each group's report is scheduled to be published internally and externally through a website.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: テーマ設定、グループ分け
- 【3】: 中間報告
- 【4】: 第 1 回報告①
- 【5】: 第 1 回報告②
- 【6】: 第 1 回報告③
- 【7】: 第 2 回報告①
- 【8】: 第 2 回報告②
- 【9】: 第 2 回報告③
- 【10】: 第 3 回報告①
- 【11】: 第 3 回報告②

- 【12】:第3回報告③
- 【13】:総括①
- 【14】:総括②
- 【15】:テーマ設定
- 【16】:テーマ設定、グループ分け
- 【17】:中間報告
- 【18】:第1回報告①
- 【19】:第1回報告②
- 【20】:第1回報告③
- 【21】:第2回報告①
- 【22】:第2回報告②
- 【23】:第2回報告③
- 【24】:第3回報告①
- 【25】:第3回報告②
- 【26】:第3回報告③
- 【27】:総括①
- 【28】:総括②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

グループでの報告が主となるため、授業時間以外にグループで集まり、報告内容の検討を行うことが多くなります。なお、本演習は延長するのが通常です。正規授業時間の後の時間についても、19:20 までは予定を入れないようにお願いします。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループでの報告の報告内容:100%

理由の如何を問わず3割を超えて欠席・遅刻・早退をした学生には基本的には単位を与えることができません。また、7月末に開催予定のゼミ合宿(2泊)への出席も必須となります。インターンや就職活動等で授業の欠席・遅刻・早退が多く見込まれる学生、ゼミ合宿に参加が難しい学生は、この点に注意して応募してください。

テキスト / Textbooks

演習の中で指示する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数 : 30 名程度

配当年次 : 3・4 年次(内容につき継続性が重視されるため、4 年次生については前年度に受講していた学生が選考において優先されることがあります)

選考方法 : 選考レポート

①題目 : 自己紹介、及び、グローバル化が社会に与える影響につき、自分の経験を踏まえながら、自由に記述してください。

②字数 : 自由

演習論文 : なし

理由の如何を問わず3割を超えて欠席・遅刻・早退をした学生には基本的には単位を与えることができませんので、インターンや就職活動等で欠席・遅刻・早退が多く見込まれる学生はこの点に注意して応募してください。

演習

Seminar

韓国語で国際法 (のエッセイ)を読む

許 淑娟 (HUH SOOKYEON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX628
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際法の基本知識を身につけ、韓国語と日本語能力の訓練を行うと同時に、社会における国際法の位置付けについて思考をめぐらせることを目標とする。

The primary objective of this course is to furnish students with foundational knowledge of international law while increasing their proficiency in Korean reading skill and Japanese writing skill. The course also aims to cultivate critical thinking regarding the role and significance of international law within each society.

授業の内容 / Course Contents

毎回「생활 속의 국제법 읽기」(生活の中の国際法を読む)という韓国語で書かれた国際法のエッセイ一編ずつを、翻訳アプリ等を利用して、正確な日本語に訳す(完全訳)。

隣国である韓国における国際法の位置付けや、韓国が抱える国際問題について「読」み、それを日本語で「書く」ことで、日本における国際法の位置付けや、日本が抱える国際問題について、考えを深めることにしたい。

韓国からの留学生を歓迎する。

必要に応じてハイブリッド(対面ゼミにオンラインでリアルタイムに参加)形式での開講も想定する。

使用言語は日本語である。

"Throughout the course, we will systematically translate a series of essays on international law titled '생활 속의 국제법 읽기' ('Read International Law in Your Everyday Life') from Korean to Japanese using various translation tools and applications.

By delving into the content, examining Korea's perspective on international law, and its related global challenges, we aim to stimulate reflective discussions on the position of international law within Japan and the global issues it confronts.

While prior enrollment in international law courses is not mandatory, a genuine interest in international law and global affairs is crucial for active participation.

Students from Korea are warmly encouraged to join.

Instruction throughout the course will be conducted in Japanese.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: 「世界のどこへでも国際電話をかけられる」

【3】: 「死刑執行が消えている」

【4】: 「サイや豹、虎を野生で見ることができる」

- 【5】:「外国に逃亡した犯罪人を引き渡してもらえる」
 【6】:「大海原で事故が起きても救助されると信じる」
 【7】:「外国に帰化をしても韓国人でいられるのか」
 【8】:「外交官子女の轍き逃げ事故」
 【9】:「あなたの成績証明書の効力は外国でも認められる」
 【10】:「著作権が国際的に守られる」
 【11】:「不正な薬物からアスリートを守ることができる」
 【12】:「伝染病の国際拡散を防ぐ」
 【13】:「独島有人島化の主張と排他的経済水域」
 【14】:「韓国の対外戦略」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日本や韓国、国際法に関する報道をチェックすること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表準備:50% 授業参加:50%

テキスト / Textbooks

정인섭 생활속의 국제법읽기 일조각 2012 9788933706343

テキストは該当箇所を授業時に配布するので、入手する必要はない

参考文献 / Readings

参考文献は授業時に適宜紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

求められる韓国語能力は翻訳アプリ等を利用しその翻訳文の良し悪しが評価できるレベル(ハングルが問題なく読めることと韓国語の辞書が引けること)である(読む力があればよく、聞く話す書く能力は求めない)。第二外国語で選択していない場合は、相当の努力が期待される。しかしながら、韓国語能力よりも、むしろ、正しい日本語が書ける能力が試されるゼミとなる。

国際法を履修中・履修済みであることは求めないが、国際問題に関心を持っていることが必要である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

韓国語翻訳アプリ(無料のもので構わない)をインストールされたスマートフォンやタブレット、PC など。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:20

配当年次:2-4 年次

選考方法:レポートによる

①題目:関心のある国際問題と関心のある理由

(定員超過の場合は新規の申請者を優先する。昨年度の受講者は本ゼミの改善点も記すこと)

②字数:500~1000 字程度

演習論文:なし

演習

Seminar

国際法基本専門文献講読

岩月 直樹 (IWATSUKI NAOKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX629
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際法に関する専門文献の講読を通じて、国際問題を法的に検討する思考力を養う。

The aim of this course is to develop participants' legal thinking skills through analyzing specialized literatures on international law.

授業の内容 / Course Contents

各回のテーマに応じた対象文献についての参加者による報告と質疑応答、議論を通して検討する。

対象文献は、国際法1および国際法2で学修する基本的な内容に関わりながら、専門的な観点からの考察を加えたものを取り上げる。

Designated participants prepare and submit a report on assigned literatures in advance.

The literature covered will be related to the basic content studied in International Law 1 and International Law 2, but with a specialized perspective.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション: 授業の進め方

【2】: 国際法の法源1

【3】: 国際法の法源2

【4】: 国際法の法源3

【5】: 国際法の実施1

【6】: 国際法の実施2

【7】: 国家領域1

【8】: 国家領域2

【9】: 国家管轄権1

【10】: 国家管轄権2

【11】: 国際海洋法1

【12】: 国際海洋法2

【13】: 国際海洋法3

【14】: 国際海洋法4

【15】: 条約法1

【16】: 条約法2

【17】: 国家責任法1

【18】: 国家責任法2

【19】: 国家責任法3

- 【20】: 国際裁判1
- 【21】: 国際裁判2
- 【22】: 国際裁判3
- 【23】: 国際安全保障1
- 【24】: 国際安全保障2
- 【25】: 国際安全保障3
- 【26】: 国際刑事法1
- 【27】: 国際刑事法2
- 【28】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の対象文献について、全員が熟読の上、報告者はレジュメを作成し事前に配布することが求められる。
演習では、報告書について、質疑応答を通して内容の正確な理解を深めると同時に、批判的な検討を加える。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 検討事項の積極的な提起:20% 調査に基づく情報の提供:30% 建設的な批判・意見の提示:30% 読み手を意識した適切な資料作成:20%

テキスト / Textbooks

岩沢雄司 国際法[第2版] 東京大学出版会 2023 9784130323987

*各論題に関連する基本資料は、適宜配布する。

参考文献 / Readings

森川幸一(他) 国際法で世界がわかる 岩波書店 2016 9784000229555

森肇志・岩月直樹(編) サブテキスト国際法 日本評論社 2020 9784535524729

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15名程度

配当年次:2~4年

選考方法:レポート

①題目:本演習への参加を希望する理由。どのような問題について関心を持ち、どんなことを知りたいと考えているか。

②字数:1200字以内。

演習論文:実施しない。

この演習は参加者が調査をふまえた報告書を提出し、それについてお互いに建設的な意見の交換を行うことで成立します。国際法を学びつつ、法的議論の組み立て方、法的視点に基づく文章の書き方を身につけたい学生、議論を通じて自らの理解・知識を確かなものにしたいと考える学生の参加を期待します。

演習

Seminar

地域の課題とこれからの地方創生のための公共政策論

箕浦 龍一 (MINOURA RYUICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX630
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域が直面する様々な課題と、それらの課題解決に向けて果敢に取り組む様々な地域の取組を通じて、行政の実体と地方創生を学ぶ。

In this lecture, the aim is to learn about the reality of administration and regional revitalization through various local initiatives that tackle various challenges faced by the region and work hard to solve them.

授業の内容 / Course Contents

地域が直面する様々な課題と、それらの課題解決に向けて果敢に取り組む様々な地域の取組を通じて、行政の実体と地方創生を学ぶ。

各回のゼミは、受講生からの発表をもとに学生同士の議論(グループワーク)を中心に進めることとし、各回の発表担当者(1～数名)は、初回の講義で割振りを行う。

春学期においては、各自が興味がある具体の地域を対象として、その地域において行政と地域主体などがどのような取組を行い、それが社会にどのような価値を生み出し、又は課題解決に役立っているのかを調べていく。

秋学期においては、我が国の地域が直面する問題と、制度的、環境的な要因、その問題に取り組むいくつかの地域の事例をもとに、様々な課題をテーマ別に横軸で概観する。

参加者は、春と秋のそれぞれに1つずつ割り振られるテーマについて、参考文献や Web で調べるなどを通じて準備をし、発表をしてもらう。

Learn about the reality of administration and regional revitalization through various regional initiatives that tackle various challenges faced by the region and work towards solving them.

In each session, we will focus on discussions (group work) among students based on presentations from the participants. The presenters for each session (1 to several people) will be assigned during the first lecture.

In the spring semester, each participants examines what kind of initiatives are being taken by administration and local entities in the specific region of their interest, what kind of value it creates for society, and how it contributes to problem-solving.

In the fall semester, various issues faced by regions in our country are surveyed by theme based on examples of several regions that address institutional and environmental factors and those problems.

Participants prepare by researching reference materials and the web and give presentations on the themes assigned to them in both the spring and fall semesters.

授業計画 / Course Schedule

[1]: 自己紹介とガイダンス

(報告担当者の割振りも行う)

[2]: 国・都道府県・市町村の役割

- 【3】:地域の現状と課題を調べる(1)
 【4】:地域の現状と課題を調べる(2)
 【5】:地域の現状と課題を調べる(3)
 【6】:地域の現状と課題を調べる(4)
 【7】:地域の現状と課題を調べる(5)
 【8】:地域の現状と課題を調べる(6)
 【9】:地域の現状と課題を調べる(7)
 【10】:地域の現状と課題を調べる(8)
 【11】:地域の現状と課題を調べる(9)
 【12】:地域の現状と課題を調べる(10)
 【13】:地域の現状と課題を調べる(11)
 【14】:地域の現状と課題を調べる(12)
 【15】:地方が直面している課題(1) 地方創生とは？
 【16】:地方が直面している課題(2) 人口減少
 【17】:地方が直面している課題(3) インフラ維持
 【18】:地方が直面している課題(4) 公共交通
 【19】:地方が直面している課題(5) 教育・医療
 【20】:地方が直面している課題(6) 担い手不足、後継者不足
 【21】:地方が直面している課題(7)
 【22】:地方が直面している課題(8)
 【23】:地方が直面している課題(9)
 【24】:地方が直面している課題(10)
 【25】:テクノロジーが支える DX は地方をどう変えていくか
 【26】:国と地方との関係性をどのように考えていくか
 【27】:定住人口減少の中で目指すべき地域像
 【28】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、春と秋のそれぞれに1つずつ割り振られるテーマについて、参考文献や Web で調べるなどを通じて準備をし、発表をしてもらう。準備に当たっては、随時、参考とすべき文献や資料、取材対象となる地域の事例などについて相談に乗るので、主体的に学習に取り組んでほしい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席態度:40% 担当回の発表内容:40% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

増田寛也 地方消滅 中公新書 2014 4121022823
 人口戦略会議 地方消滅2 中公新書 2024 4121028309
 秋吉貴雄 入門 公共政策学 中公新書 2017 4121024397
 藻谷浩介 里山資本主義 角川 one テーマ 21 2013 4041105129

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

通常の日本語能力と発表スライド(パワーポイントなど)作成スキルなど

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

発表資料を作成してもらうので、PC などがあることが望ましい。(発表時には講師の PC を使って投影するので、授業に PC を持参するかどうかは、各自の判断に委ねる。)

その他 / Others

採用人数/Number of students:20~30 名程度/Approximately 20-30 students

配当年次/Eligible year:2~4 年生

選考方法/Selection method:事前レポートによる選抜

①題目:なぜ本ゼミを希望するのか

②字数:1000 文字程度

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

マイケル・サンデルを通して現代社会の様々な問題について考える。

笠井 昭文(KASAI AKIFUMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX631
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. グループ・プレゼンテーションやレポート作成を通じて、学生にとって必要となる基礎的技能的向上を目指します。2. テキストの報告と議論を通じて、現代社会が抱える様々な問題についての理解を深めると共に、それらの問題をどのような方向で解決していったらよいのかについて議論していきたいと思ひます。3. 以上の目標を通じて、現代社会の諸問題について、自ら考え、自分の言葉で表現しようとする人間を育てたいと思ひます。

1) Through report writing and group presentations, this course aims to improve the fundamental skills that students need. 2) Through the presentation and discussion of the text, we hope to deepen our understanding of the various problems facing modern society and to discuss the best way to solve these problems. 3) Through the objectives described above, I would like to train people who can think on their own about the various problems in modern society and who try to express their ideas in their own words.

授業の内容 / Course Contents

この演習は、大きく二つの部分から構成されています。一つは、「法学部ラーニングガイド」や「Master of Writing/Presentation」で紹介されている学生にとって必要な技能を、グループ・プレゼンテーションやレポート作成を進めることで実践的に身に付けてもらうことです。もう一つは、ハーバード大学の政治哲学者マイケル・サンデルの授業テキストを通じて、現代社会が抱える様々な問題についての理解を深めると共に、それらの問題をどのような方向で解決していったらよいのか、皆で議論していくことです。それはまた、現代社会の諸問題を解決していく上で、正当性がある解決策とはどのような要件を満たしている必要があるのか、社会的公正や正義はどのような論拠を背景とする時、説得力を持ちうるのかという問題について考えていくことになるでしょう。ハーバード大学で行われている授業方法についても体験することになります。

演習で取り組む課題は難しいものではありませんが、授業時間とは別に、グループ・プレゼンテーションのために学生同士で議論し、各人が分担して様々な事柄を調べ、またゼミレポート集においては自分の言葉で書くことが求められる「出力」重視の演習です。得られる単位は2単位だけなので、単位取得効率の点から言えば甚だ「コスパ/タイパ」の悪い講義ですが、自らの考えを深め、それを他者に向けて表現していくことを大切にしたい人には良い機会になると思ひます。

演習はほとんど毎回時間延長しますので、演習の後にスケジュールを入れないようにして下さい。また、合宿やインターカレッジへの参加も計画していますので、積極的に参加して欲しいと思ひます。

The seminar is composed of two sections. In the first section, students will learn practical skills through group presentations and report writing, which are introduced in "the Faculty of Law Learning Guide" and "Master of Writing/Presentation". In the second section, through the texts of Michael Sandel, we will deepen our understanding of the various problems facing modern society, and discuss together the best way to solve these problems. It will also encourage us to think about what requirements must be met for a legitimate solution to resolve the various problems facing modern society, and what kind of arguments must be based on which social fairness and justice can be

persuasive.

The assignments in the seminars are not difficult, but they are focused on “output”, with students discussing with each other in preparation for group presentations outside of class time, each student dividing up the work into research topics, and students being required to write in their own words for a seminar report. Since only two credits will be received, in terms of the efficiency of acquiring credits, this course has poor “cost performance or time performance”. But I think this course will be a good opportunity for those who want to deepen their own thoughts and value expressing them to others.

We will extend the time of the seminar almost every time, so please do not schedule anything after the seminar. We also plan to participate in training camps and intercollegiate events, so we hope you will participate actively.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:アイス・ブレイキング、マイケル・サンデルについてのガイダンス
- 【2】:『これからの「正義」の話をしよう』第1章、報告と議論
- 【3】:『これからの「正義」の話をしよう』第2章、報告と議論
- 【4】:グループ・プレゼンテーションのためのブレイン・ストーミング
- 【5】:『これからの「正義」の話をしよう』第3章、報告と議論
- 【6】:『これからの「正義」の話をしよう』第4章、報告と議論
- 【7】:『これからの「正義」の話をしよう』第5章、報告と議論
- 【8】:『これからの「正義」の話をしよう』第6章、報告と議論
- 【9】:『これからの「正義」の話をしよう』第7章、報告と議論
- 【10】:『これからの「正義」の話をしよう』第8章、報告と議論
- 【11】:『これからの「正義」の話をしよう』第9章、報告と議論
- 【12】:『これからの「正義」の話をしよう』第10章、報告と議論
- 【13】:グループ・プレゼンテーションの実施
- 【14】:ゼミレポートの構想報告
- 【15】:『それをお金で買いますか』序章・第1章、報告と議論
- 【16】:『それをお金で買いますか』第2章、報告と議論
- 【17】:『それをお金で買いますか』第3章、報告と議論
- 【18】:『それをお金で買いますか』第4章、報告と議論
- 【19】:『それをお金で買いますか』第5章、報告と議論
- 【20】:『実力も運のうち』序論、第1章、報告と議論
- 【21】:『実力も運のうち』第2章、報告と議論
- 【22】:『実力も運のうち』第3章、報告と議論
- 【23】:『実力も運のうち』第4章、報告と議論
- 【24】:『実力も運のうち』第5章、報告と議論
- 【25】:『実力も運のうち』第6章、報告と議論
- 【26】:『実力も運のうち』第7章・結論、報告と議論
- 【27】:レポート講評会の実施
- 【28】:演習全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は毎回、テキストをしっかりと読んで上で参加して下さい。テキストの報告については、担当者を決め、分担して報告してもらいます。また、小レポートの執筆、小レポートの相互評価、グループ・プレゼンテーションの準備作業とプレゼンの実施、ゼミレポート集の作成、レポート講評会での書評報告といった課題を予定しています。計画的に取り組み、準備に時間をかければ、いずれも難しい課題ではありません。合宿等も計画しています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テキストの報告と議論への参加:40% プレゼンテーションの準備作業と発表:30% 小レポートおよびレポート集への原稿作成:30%

テキスト / Textbooks

マイケル・サンデル 『これからの「正義」の話をしよう』(文庫版) 早川書房 2011 9784150503765

マイケル・サンデル 『それをお金で買いますか』(文庫版) 早川書房 2014 9784150504199

マイケル・サンデル 『実力も運のうち』(文庫版) 早川書房 2023 9784150506025

参考文献 / Readings

演習の中で随時紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート執筆やグループ・プレゼンテーションでのパワーポイント作成では、パソコンが必要になります。また、課題提出はインターネットを通じて行いますので、インターネットに接続できる環境も必要です。

その他 / Others

採用人数／Number of students:20 名程度、多くても 30 名まで／Approximately 20-30 students

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート

①題目:正義、社会的公正、市場主義、能力主義、政治理論・政治哲学、マイケル・サンデル等に対するあなた自身の関心について述べた上で、この演習を志望する理由について報告して下さい。

②字数:1600 字程度(40 字×40 行、A4 用紙・縦版横書きで1枚程度)

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習計画は、履修者数や学生の関心に応じて随時組み替えていきます。楽しんで単位が取れるような演習ではありません。その点から言えば、演習テーマに関心がないし、議論や課題に積極的に取り組む気のない方が、この演習を志望することはご遠慮願います。

笠井がどのような講義を行っているのか確認したい方のために、笠井が新座キャンパスで行った正義・社会的公正をテーマとする講義を、3 月下旬より講義映像として提供します。下記アドレスの中に講義映像と配布資料が用意されています。下記アドレスにアクセスするためには、使用しているブラウザのアカウントを立教大学のアカウントへと切り替える必要があります。立教大学以外のアカウントでは、アクセスできません。

https://drive.google.com/drive/folders/19uPDbkV1_69XgaxUXxVKEloDj37mPBT?usp=sharing

演習

Seminar
交渉学 (Negotiation)

濱野 亮 (HAMANO RYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX632
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

交渉に関する基本的知識とスキルを身につける。与えられた論点に関するレポート作成能力と、口頭によるプレゼンテーションとディスカッションの能力を身につける。

The Objective of this course is to provide students with basic knowledge and skills of negotiation., and skills for writing a short essay, presentation and discussion.

授業の内容 / Course Contents

この演習は、交渉学をすでに履修済みの人たちを対象として、交渉学の重要論点に関する専門文献を精読したうえでロールプレイを行い、さらに理解を深める。

今年度は、まず春学期に、ヨーロッパの代表的な教科書『交渉のメソッド』を読む。アメリカの交渉学とは少し異なる角度から書かれた教科書で、交渉学の基本を復習することができる。卒業後も座右において参考にしてほしい

秋学期は、元 FBI の人質交渉官が執筆したテキスト(Never Sprit the Difference、日本語訳『逆転交渉術』)を精読する。ハーバード系の交渉学やスタンフォード・ノースウエスタン系の交渉学を参照しても、うまく対応できない交渉の類型がある。例えば、激しく対立してコミュニケーションがとれなくなっている当事者間の交渉である。あるいは、誘拐犯やテロリストとの交渉のように、妥協は一切許されず、決裂も許されない交渉である。主に心理学の知見と人質解放交渉の経験に基づいて、「ハーバード流交渉術」を批判するテキストであるが、むしろ、ハーバード流交渉術を活用する前提条件を作り出したり、補完する目的で用いることができる。

なお秋学期のテキストは、新品は絶版のようなので、Amazon の Kindle 版を用いるため、履修者は Kindle で対応してください(古本を購入しても結構です)。

アドバンスト・コースなので、過去に交渉学の演習・法学基礎演習(交渉学入門)の単位を取得した人に限定しますが、それでも必ず履修が認められるわけではありませんので、注意してください。途中で脱落すると、ロールプレイの運営に支障が生じますので、最後まで続ける覚悟で応募してください。

This seminar is designed for those who have already taken negotiation studies and will further deepen their understanding through role-plays based on a close reading of specialized literature on key issues in negotiation studies. This year, we will begin the spring semester by reading a leading European textbook, The First Move: A Negotiator's Companion. It is a textbook written from a slightly different angle from American negotiation studies. In the fall semester, we will read a text written by a former FBI hostage negotiator (Never Sprit the Difference). In Harvard and Stanford/Northwestern negotiation textbooks, there are certain types of negotiations that are not well handled. For example, negotiations between parties who are in violent conflict and unable to communicate with each other. Or, as in negotiations with kidnappers or terrorists, where no compromises are allowed and no breakdowns are permitted.

The book is a critique of the "Harvard Way of Negotiation," based mainly on psychological findings and experience in hostage release negotiations. It can be used to create prerequisites for using Harvard negotiation techniques or to complement them.

The textbook for the fall semester will be the Amazon Kindle edition, as the new version seems to be out of print. Students are encouraged to use their Kindle (or purchase a used book).

This is an advanced course, so it is limited to those who have previously taken the Seminar on Negotiation Studies and the Introductory Seminar on Law (Introduction to Negotiation Studies).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、自己紹介、授業計画
- 【2】: 第1章 交渉する「前に」問い直す
- 【3】: 第2章 交渉に入る「前に」準備する(1)
- 【4】: ロールプレイ
- 【5】: 第2章 交渉に入る「前に」準備する(2)
- 【6】: 第5章 話す「前に」聞く(1)
- 【7】: ロールプレイ
- 【8】: 振り返り
- 【9】: 第5章 話す「前に」聞く(2)
- 【10】: 第6章 問題解決の「前に」感情を受けとめる(1)
- 【11】: 第6章 問題解決の「前に」感情を受けとめる(2)
- 【12】: ロールプレイ
- 【13】: ふりかえり
- 【14】: ティック・ナット・ハン「矢を花に変える」
- 【15】: 交渉の新しいルール
- 【16】: アクティブ・リスニング
- 【17】: ロールプレイ
- 【18】: 振り返り
- 【19】: 戦術的共感
- 【20】: 相手に NO といわせる
- 【21】: 要約で相手を誘導する
- 【22】: 相手の現実を曲げる技術
- 【23】: ロールプレイ
- 【24】: 振り返り
- 【25】: 狙いを定めた質問
- 【26】: 中間点で妥協しない戦略
- 【27】: ブラックスワン
- 【28】: 1年間全体のふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回必ず、3つ程度の論点を教員が事前に提示し、それに対するレポートを履修者は事前に提出する。ロールプレイについては、事前に準備レポートを作成し提出する。また、終了後に振り返りを各自で行い、レポートを提出する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 事前の課題に対するレポート: 40% 担当報告の内容: 30% 平常の授業態度: 30%

テキスト / Textbooks

アラン・ランブルウ&オウレリアン__コルソン 交渉のメソッド 白桃書房 2014 9784561236283

クリス・ヴォス&タール・ラズ 逆転交渉術 早川書房 2018 9784152097712

参考文献 / Readings

マルホトラ&バーザーマン 『交渉の達人』 パンローリング 2016 9784775941638

ロジャー・フィッシャーほか『新版 ハーバード流交渉術』TBS ブリタニカ 1998 4484981017

ウィリアム・W・ベイバー&チャヴィ・C・Y・フレッチャー・チェン『世界標準のビジネス交渉』経済産業調査会 2022 9784806530732

名古屋ロイヤリング研究会編『実務ロイヤリング講義 第2版』民事法研究会 2009 9784896285086

レビスキーほか『交渉力ー最高のバイブル』日本経済新聞出版社 2011 9784532605148

ニール&リース『スタンフォード&ノースウエスタン大学教授の交渉戦略教室』講談社 2017 9784062202213

榎本修『ローヤリングの考え方』名古屋大学出版局 2022 9784815810931

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

濱野が担当した演習・基礎演習や、その他の教員が担当した演習・基礎演習などで交渉学の基礎を履修済みであるなど、交渉学の基本をすでに理解していること。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:24 人程度(前年度からの交渉学演習・基礎演習の継続者、それ以前の交渉学演習履修者などに限定します)

配当年次:2~4 年次

選考方法:レポート

①題目:このゼミを志望する理由

②字数:1600 字以上(横書)

演習論文:実施しない

演習

Seminar
歴史認識問題

庄司 潤一郎 (SHOJI JUNICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX633
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本年は戦後 80 年であるが、第二次世界大戦の歴史認識をめぐる議論が世界的に盛んになされている。そこで、本演習では、東アジアをはじめとする歴史認識問題の背景・要因・特質について、多角的に考察することを目的とする。それにより、皆さんが自身の歴史認識を身に着けると同時に、外国の方と議論し得る基盤を習得して欲しい。

This year marks the 80th anniversary of the end of World War II, and there has been much debate over historical perceptions surrounding World War II. Therefore, the purpose of this seminar is to examine the background, factors, and characteristics of historical perceptions in East Asia and elsewhere from various perspectives.

授業の内容 / Course Contents

春学期は、歴史認識問題に関する基本的文献を輪読し、各回報告を踏まえて議論を行う。秋学期は、各人が歴史認識問題に関する具体的なテーマを選定し、考察の結果を発表し、相互に議論を行う。

At Spring Semester each student in this seminar shall read the basic texts concerning historical perception issue in turns and at Autumn Semester research the selected specific topics to present and engage in discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入(演習の進め方)
- 【2】: 講義「歴史認識問題とは」
- 【3】: 歴史認識問題に関する基本的文献の輪読及び議論①
- 【4】: 同上②
- 【5】: 同上③
- 【6】: 同上④
- 【7】: 同上⑤
- 【8】: 同上⑥
- 【9】: 同上⑦
- 【10】: 同上⑧
- 【11】: 同上⑨
- 【12】: 同上⑩
- 【13】: 同上⑪
- 【14】: 同上⑫
- 【15】: 事例研究の方法について
- 【16】: 事例研究の発表及び議論①
- 【17】: 同上②
- 【18】: 同上③

- 【19】:同上④
 【20】:同上⑤
 【21】:同上⑥
 【22】:同上⑦
 【23】:同上⑧
 【24】:同上⑨
 【25】:同上⑩
 【26】:同上⑪
 【27】:同上⑫
 【28】:総合討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当した発表の内容:50% 演習に対する姿勢:20% 出席態度:30%

テキスト / Textbooks

波多野澄雄『日本の歴史問題』中央公論新社 2022 9784121027337

参考文献 / Readings

大沼保昭『「歴史認識」とは何か』中央公論新社 2015 9784121023322

庄司潤一郎ほか『決定版 大東亜戦争 下』新潮社 2021 9784106109140

その他 / Others

採用人数／Number of students:20 名以内

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート

①題目:本演習の志望理由と関心のある具体的なテーマ

②字数:1000 字以内

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

法教育実践 / 大学生生活と法－調査・発表

山口 敬介 (YAMAGUCHI KEISUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX634
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

講義では実現困難な調査・分析・報告・討論・学外での発表を通じて、民法、ひいては法への理解を深めること。

The aim of this course is to promote a deeper understanding not only of Civil Law but also law in general through researches, analysis, reporting, discussions, and presentations outside the campus.

授業の内容 / Course Contents

1. 法教育実践: 実践を通じて、各自が法学部に入ってわかった法・法学の意義・魅力を、法を学んでいない人にわかりやすく伝える能力を養います。「他人に教える」ことを通じて、日頃法学部で勉強していることの意味等を「自分たちが学び直す」ことが目標です。具体的な実践方法としては、夏休みのオープンキャンパスで模擬授業を行うこと、中学校や高校で法に関する授業を行うことを予定しています。実践場所の確保も全て自分たちで行います。過去の活動例については、下記 HP・SNS・参考文献を参照してください。

2. 大学生生活と法－調査・発表: 大学生も、その生活においてさまざまな法的問題に直面する可能性があります。そして、多くの大学生(とりわけ法学部以外の学生)はその問題に関わる法ルールの内容を、まして、その法ルールの趣旨・考え方を理解しているわけではありません。そこで、このプロジェクトでは、大学の関係部局に話をうかがうなどしながら、大学生が直面しうる法的問題としてどのようなものがあるかを調査し、その問題についての基礎知識、さらには法の考え方をゼミの外に向けて発表します。どのような形で発表するのがよいかも、受講者の皆さんに考えてもらいます(昨年度は、図書館でのポスター展示及び SNS を通じての発表をしました)。

これらの授業内容は民法全体の学習を前提とします。したがって、民法1～5もしくは民法(1)～(4)のうちで未習の科目がある方は、必要に応じて、各自で自習することが不可欠です。

参加者には、報告及び毎回の周到な予習はもちろん、ゼミ内で自分の貢献できる場所を見出し積極的な参加をすることが求められます。いずれの活動も、正規の授業時間は主にリハーサルや中間報告にあてることになり、それ以外の時間に班ごとのミーティングや個人での調査などを行うことが必要となります。これらに十分参加できる時間的余裕のある方であり、かつ、全ての活動についてやる気を持ち、それを持続できそうな方のみ応募してください。他の人に頼って楽に単位を取得しようという考えでの応募は絶対にしないでください。

※下記の授業計画は、諸般の事情により、変更することがあります。

1. Law education. The aim of this project is to develop an ability to explain significance and fascination of law and jurisprudence to people who are unfamiliar with law. It is expected that the participants will rediscover the significance of what they are studying in the College of Law and Politics. Participants will give lectures on law in junior high schools or high schools. Participants shall take the initiative in planning the lectures, including choosing subjects of lectures and finding appropriate schools.

2. University life and Law -Research and Presentation. In this project, participants should survey legal problems that students in our university are facing, and make presentations outside this seminar about basic knowledge and

fundamental concepts of those problems.

Participants are urged to prepare carefully for each class, make presentations, and participate actively in the projects. Every participant should find what he/she can do to make the projects successful.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 法教育: 先行実践例の検討
- 【3】: 法教育実践準備 1
- 【4】: 法教育実践準備 2
- 【5】: 法教育実践準備 3
- 【6】: 法教育実践準備 4
- 【7】: 大学生活と法: 問題の探索 1
- 【8】: 大学生活と法: 問題の探索 2
- 【9】: 大学生活と法: 問題の探索 3
- 【10】: 法教育実践準備 5
- 【11】: 法教育実践準備 6
- 【12】: 法教育実践準備 7
- 【13】: 法教育実践準備 8
- 【14】: 春学期の振り返り
- 【15】: 秋学期の計画
- 【16】: 法教育実践準備 9
- 【17】: 大学生活と法: 中間報告 1
- 【18】: 大学生活と法: 中間報告 2
- 【19】: 法教育実践リハーサル 1
- 【20】: 法教育実践リハーサル 2
- 【21】: 法教育実践リハーサル 3
- 【22】: 法教育実践リハーサル 4
- 【23】: 大学生活と法: 最終報告 1
- 【24】: 大学生活と法: 最終報告 2
- 【25】: 大学生活と法: 最終報告 3
- 【26】: 大学生活と法: 最終報告 4
- 【27】: 法教育実践報告・反省会
- 【28】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 報告内容: 50% 授業中の発言内容: 50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山口敬介 「法学部生による法教育実践の一例－現状の紹介と展開可能性」『法と教育』8 号所収 商事法務 2017 9784785726607

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

民法(1)～(4)を履修済み、あるいは同時期に履修することがのぞましい。
履修していない場合は、演習に必要な知識を自習して補うことが求められる。

その他 / Others

<前年度以前のゼミ生作成の HP や SNS>

HP:

<http://kyamaguchiseminar.wix.com/law-education>

Instagram:

rikkyo.law_yamaguchiseminar

<選考方法>

採用人数:15 名程度

配当年次:2～4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習の志望動機

②字数:自由

演習論文:実施しない

演習

Seminar

経済法実務演習－独禁法・競争法の基礎から最先端までを俯瞰する

高宮 雄介 (TAKAMIYA YUSUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX635
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

独禁法・競争法に関し、基礎的な考え方を確認しつつ、企業法務の現場における課題や現代社会における諸問題に独禁法・競争法がどのように絡むのかを学ぶことを通じ、独禁法・競争法に関する複合的、立体的な理解を得るとともに、独禁法・競争法分野に取り組むことの面白さを感じてもらうことを目標とする。

なお、当該目標に向けてアプローチする過程で、企業法務の仕事の魅力を伝えるとともに、リサーチ能力やプレゼンテーション能力等、実社会において必要とされる能力を習得してもらうことも目指す。

The goal of this seminar is (i) to provide participants with a comprehensive and three-dimensional understanding of antitrust and competition law, and (ii) to help the participants feel the attractiveness of the antitrust and competition law. To achieve the goal, participants would confirm fundamental concepts of antitrust and competition laws and learn how antitrust and competition law are related to issues in the field of business laws and various issues in our society. In the process of approaching this goal, the participants could also understand the attractiveness of the work of business law firm. The participants are expected to acquire skills needed in the real world, such as research and presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

本演習は、企業法務を扱う大規模法律事務所において国内外の独禁法・競争法分野を専門に執務している弁護士が開講する。本演習において扱う内容は概ね以下の通りである。

まず、演習初回にオリエンテーションを行った後、独禁法・競争法分野の全体像について講師から講義を行う。

その後、数回の演習を1 セットとして構成されるタームを設定し、各タームの初回において、初学者も想定し、当該分野に関し、講師から基本的な考え方及び実務上問題になる論点について講義を行う。その後、講義の内容に関して設例をもとに参加者とディスカッションを行う回を設けるほか、各タームのテーマに関係した課題(設例や審判決、報告書等を想定している。)に関し、受講者複数名からなる担当チームに発表してもらい、その内容に関し、講師及び他の受講者との間で質疑応答を行うことを想定している。

ターム毎に予定しているテーマは授業計画の箇所を参照されたい。受講者と相談をしつつ進めるが、各タームにおいても、基礎的な課題だけでなく、諸外国における近時の動きも適宜取り入れる。特に、演習終盤では、デジタルプラットフォームと独禁法・競争法、各種コスト高による経済への影響と独禁法・競争法、民主主義と独禁法・競争法といった現代的・先端的なトピックに関しても盛り込む予定である。

本演習にあたり、独禁法・競争法(経済法)科目を履修済みであることは求めず、各タームにおいて必要な知識は各ターム冒頭の講義においてカバーできるように配慮する。独禁法・競争法にかかる企業法務の実務に興味がある学生、上述したような独禁法・競争法の次世代の課題に興味がある学生の参加を歓迎する。

なお、演習において活発な議論が行われるよう適宜懇親会等を設けることを予定しているほか、企業法務を中心とした大規模法律事務所の執務環境に関する知見を得るための機会や他の実務家を招聘したうえでのディスカッション、懇親会

の実施も検討している。

This seminar will be taught by an attorney specializing in domestic and international antitrust and competition law at a major corporate law firm. The contents of the seminar are as follows.

First, an orientation session will be held at the beginning of the seminar. Then, the lecturer will provide the overall picture of the field of antitrust and competition law.

The seminar will consist of several terms after the orientation and introductory session.

In the first session of each term, the lecturer will give a lecture on the fundamental concepts and practical issues in the relevant field of antitrust and competition law, assuming that the participants have not learned relevant courses. After the fundamental presentations, the hypothetical cases are provided to each topic and to expected to be discussed with participants.

Following that, a team consists of several participants needs to provide presentation on issues relevant to the theme of each term (hypotheticals, court decisions, government reports, etc. are assumed). The presentation will be followed by questions and answers session with the lecturers and other participants. For the themes planned for each term, please refer to the seminar plan below.

The contents of the session will be determined in consultation with the students, and each term may include not only basic issues but also recent developments in other jurisdictions. In particular, the final part of the seminar will include contemporary and cutting-edge topics such as digital platforms and antitrust and competition law, generative AI, inflation economy and antitrust and competition law, and democracy and antitrust and competition law.

Participants are not required to have taken a course of antitrust and competition law. Participants are able to obtain sufficient knowledge for each term in the lecture at the beginning of each term. Participants interested in the legal practice of antitrust and competition law, as well as those interested in the relationship between antitrust and competition law and above-mentioned next generation topics of antitrust and competition laws, are certainly welcome. Participants would occasionally be invited to join casual receptions after the class to get to know each other.

Furthermore, it is expected that some practitioners are invited to speak at the class and casual reception with the participants.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:独禁法・競争法の基礎に関する講義
- 【3】:競争事業者間の協調行為(カルテル・談合)に関する講義
- 【4】:競争事業者間の協調行為(カルテル・談合)に関する演習
- 【5】:競争事業者間の協調行為(カルテル・談合)に関する発表
- 【6】:単独行為規制に関する講義
- 【7】:単独行為規制に関する演習
- 【8】:単独行為規制に関する発表
- 【9】:企業結合規制に関する講義
- 【10】:企業結合規制に関する演習
- 【11】:企業結合規制に関する発表
- 【12】:実務的・現代的なトピックに関する講義
- 【13】:実務的・現代的なトピックに関する演習
- 【14】:実務的・現代的なトピックに関する発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・講義の回については、できる限り事前に参考資料の関連箇所等を読んで予習をしてもらうことが求められる。
- ・演習の回については、少人数のグループによる報告(発表)を求めることを想定している。このため、担当回においては、グループのメンバー間で連絡をとったうえで、発表の準備をすることが求められる。また、担当回以外についても、事前に課題等に目を通し、質問等を用意したうえで積極的に議論に参加することが求められる。
- ・後記参考文献については、初回の演習時に説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ :100%

平常点割合 :100% 報告内容:50% 演習への参加態度・ディスカッションへの貢献度:50%

参加者の理解度の確認及び演習への参加態度の確認のためにフィードバックシートの提出を求める可能性がある。
正当な理由がない欠席が多い場合には平常点の大幅な減点を行うことがある。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

菅久修一ほか編 独占禁止法(第5版) 商事法務 2023 9784785730680

土田和博ほか 条文から学ぶ独占禁止法(第2版) 有斐閣 2019 9784641243149

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

独禁法・競争法分野への興味と演習における議論への積極的な参加が求められる。独禁法・競争法分野の講義の履修や自主学習経験は求めないが、そうした経験があるとより望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ラップトップ PC

その他 / Others

採用人数/Number of students:10～15 名程度/Approximately 10-15 students

配当年次/Eligible year:3～4 年次/3rd - 4th year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:本演習を志望する理由等(以下のいずれも含むこと)

(a) 簡単な自己紹介

(b) 本演習に参加する理由

(c) 本演習に参加した場合に特に取り組みたいこと

②字数:計 1,000 字から 1,200 字程度(多少の増減は問わない)

演習論文/Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

民法事例・判例演習

野澤 正充 (NOZAWA MASAMICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX636
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

民法の重要判例およびケース問題(司法試験の問題を含む)を検討することにより、民法の考え方を学ぶ。将来、法曹を目指す者だけでなく、公務員や企業・会社に勤務することを考えている者に有用な内容を考えている。また、秋学期には、各自の関心に基づくテーマを研究し、報告・発表していただく機会も設けたい。

Students will learn the concept of civil law by examining recent important judicial precedents. The content of the course is designed to be useful not only for those who aim to become legal professionals in the future, but also for those who are thinking of working for public officials, companies, or corporations. In the fall semester, students will also have the opportunity to research topics based on their own interests and report and present their findings.

授業の内容 / Course Contents

民法の重要判例およびケース問題の内容を検討する。具体的には、報告者が報告をし、その内容を議論したり、裁判形式で、裁判官・原告・被告の3つのグループに分かれ、事例問題を議論する。また、各自が関心のあるテーマを設定して、他の受講生に報告する。これらによって、受講生は、自らの報告および発言によって、プレゼンテーション能力を培うとともに、他人の報告を聴いて考え、議論することにより、コミュニケーション能力を養うことが可能となる。

In each session, we will read an important precedent in civil law and discuss its contents. Specifically, the presenter will give a report, and the contents will be discussed. In addition, each student will establish a topic of interest and report back to the other students. Students will be able to cultivate their presentation skills through their own reports, as well as their communication skills by listening to, thinking about, and discussing the reports of others.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 民法総則の事例・判例
- 【3】: 民法(財産法)の事例・重要判例1
- 【4】: 民法(財産法)の事例・重要判例2
- 【5】: 民法(財産法)の事例・重要判例3
- 【6】: 民法(財産法)の事例・重要判例4
- 【7】: 民法(財産法)の事例・重要判例5
- 【8】: 民法(財産法)の事例・重要判例6
- 【9】: 民法(財産法)の事例・重要判例7
- 【10】: 民法(財産法)の事例・重要判例8
- 【11】: 民法(財産法)の事例・重要判例9
- 【12】: 民法(家族法)の事例・重要判例1
- 【13】: 民法(家族法)の事例・重要判例2

- 【14】:民法(家族法)の事例・重要判例3
 【15】:民法(財産法)の事例・重要判例10
 【16】:民法(財産法)の事例・重要判例11
 【17】:民法テーマ研究1
 【18】:民法テーマ研究2
 【19】:民法テーマ研究3
 【20】:民法テーマ研究4
 【21】:民法テーマ研究5
 【22】:民法テーマ研究6
 【23】:民法テーマ研究7
 【24】:民法テーマ研究8
 【25】:民法(財産法)の事例・重要判例12
 【26】:民法(財産法)の事例・重要判例13
 【27】:民法(財産法)の事例・重要判例14
 【28】:全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用	☐	校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定	☐				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

判例の原本や複数の評釈を事前に検討する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当報告の内容:50% 授業への参加度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:20名程度

配当年次:3年次・4年次

選考方法:レポート

①題目:この演習に参加を希望する理由

②字数:1600字程度(A4用紙1枚程度)

演習論文:実施しない

演習

Seminar

金融システムと法／新たな課題を考える

信森 毅博 (NOBUMORI TAKEHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX637
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・社会人生活を送るために必要な金融システム・主体の基本的な考え方を理解する。
- ・特に、NISA や暗号資産など金融に関する新たな動きについて、議論する。
- ・特定の実定法に捉われず、関係する経済学・会計学を意識した学際的なものとする。
- ・ Understand the basic concepts of financial systems and entities necessary for working life.
- ・ Discuss new developments in finance, in particular, NISA and crypto assets.
- ・ The course will be interdisciplinary, with an awareness of related economics and accounting studies, rather than being limited to a specific set of practical methods.

授業の内容 / Course Contents

- ①金融システムにおける主体・ルールの特徴を理解する。
 - ②金融取引を規律するルールの目的と内容を議論する。
 - ③参加学生が興味を有する新たな金融システムの課題を理解する。
- 参加者は、演習中に自らの考えを積極的に発言することが求められるほか、自らが興味を有する金融に関するテーマについて2回程度、報告する必要がある。なお、テーマは講師と相談の上で決定し、内容等は指示がある。
- (1) Understand the characteristics of entities and rules in the financial system.
 - (2) Discuss the purpose and content of rules governing financial transactions.
 - (3) Understand new financial system issues of interest to the participants.
- Participants are expected to actively express their ideas during the seminar and will have two opportunities to report on financial topics in which they are interested. Themes will be decided in consultation with the lecturers and reference materials will be provided as instructed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:なぜ、NISA や IdeCo が着目されるのか。: 金融市場と金融取引主体の概要
- 【2】:なぜ、銀行は規制されるのか: 金融システムにおける銀行の位置付け
- 【3】:なぜ、お金は存在するのか: 銀行による決済サービスの提供
- 【4】:なぜ、暗号資産は着目されるのか: 決済システムの概要
- 【5】:なぜ、日本銀行は政府と別に存在するのか: 中央銀行の機能
- 【6】:なぜ、ネット保険が盛んになった: 保険会社の役割
- 【7】:なぜ、金融庁が存在するのか: 金融規制当局の役割
- 【8】:なぜ、銀行は規制されるのか: 銀行規制の全体像
- 【9】:なぜ、国際規制が大切なのか: バーゼル規制の概要

- 【10】:なぜ、クラウド・ファンディングが着目されるのか:証券会社の役割
 【11】:なぜ、企業の情報開示が大切なのか:証券規制の概要
 【12】:なぜ、銀行は取引相手を調べるのか:マネロン対策の概要
 【13】:なぜ、銀行は貸出先の環境対策に関心を持つのか:ESG 金融
 【14】:まとめ:国家と市場

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

※次回テーマの議論に関して、自分の考え方を簡単に整理しメールにて講師宛に返信することが望ましい(30-1 時間程度、授業参加態度として成績に考慮)。また、理解を深める観点からは、経済学・会計学の基礎的知識が望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:100%

テキスト / Textbooks

川西諭・山崎福寿 金融のエッセンス 有斐閣ストゥディア 2013 4641150044

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

事前の知識は不必要ではあるが、金融機関や金融業界・市場の動きに関心がある学生の方が対象。

金融機関への就職を考えている方である必要はない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10-15 名以下

配当年次:3-4 年

選考方法:レポート

①題目:①本演習の志望動機、②金融関係で興味のあるトピック、③簡単な自己紹介(金融に関係するエピソードがあると良い)。

②字数:1,500 字程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar

メディアと国際情勢 記者たちは国際報道の最前線から何を伝えたのか

日下部 正樹 (KUSAKABE MASAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX639
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目 ①対面
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

40年間、記者として現場に立ってきました。特に海外での取材が多く驚きの連続でした。そんな体験を若い学生の皆さんと共有したいと思います。ネットや AI の登場で個人の情報収集は驚くほど容易になりました。そんな中で現場に立ち五感で物事に触れることの大切さを皆さんに伝えたいと思います。授業ではディベートを重視します。違う意見にきちんと向き合うことの大切さを学びましょう。

授業の内容 / Course Contents

授業の前半は原則として、15年間キャスターを務めている TBS テレビ「報道特集」の VTR を観て頂きます。(20分ほど)それを踏まえて全員で議論を行います。どんな意見、感想でも構いません。同じ VTR を観ても様々な感想があることを実感できたらと思います。「一授業一発言」が最低のルールです。私も皆さんから刺激を得られるような授業にしたいと思っています。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:開講にあたって授業の方針説明。自己紹介などを行う。
- 【2】:台湾有事について① 台湾問題について3回にわたって考えます。
一回目は台湾とは何か。台湾の人たちはどう受け止めているのか考えます。
- 【3】:台湾有事について②
2回目は台湾の最前線の島からのレポートを中心に観て頂き、台湾内にある中国に対する姿勢が必ずしも一枚岩ではないことを検証します。
- 【4】:台湾有事について③
2024年1月の台湾総統選挙を通じて台湾の民意を探ります。
- 【5】:2019年香港で何が起きたのか①
香港で盛り上がった民主化運動と弾圧を振り返ります。
- 【6】:2019年香港で何が起きたのか②
運動の中心だった若者たちは何を考えたのか、共鳴できるところはあるのか議論します。
- 【7】:2019年香港で何が起きたのか③
香港の自由さを支えた言論の自由はどうなったのか、メディアに対する当局の弾圧の実態を紹介します。
- 【8】:北朝鮮で戦争を考える①
アジア太平洋戦争での日本の敗北によって植民地だった朝鮮には多くの民間人が取り残され亡くなりました。戦後未解決の問題を紹介します。
- 【9】:北朝鮮で戦争を考える②
北朝鮮には2万柱もの日本人遺骨が残っています。政府は国交がないことを理由に積極的に動こうとしません。それで良いのか考えます。

【10】:イスラム武装勢力に占領された街①

中近東の話ではありません。フィリピンでの出来事です。日本メディアがあまり報道しなかった出来事を観ます。

【11】:イスラム武装勢力に占領された街②

占領が終わり何が残されたのか。武装勢力による占領はなぜ起きたのかたどります。

【12】:朝鮮半島情勢①

このころには新たな韓国大統領も決まっているでしょう。戒厳令から大統領選までをたどります。

【13】:朝鮮半島情勢②

北朝鮮軍のウクライナ戦争参戦など北朝鮮の現状について紹介します。

【14】:戦争について考える。

前期最後の授業はアジア太平洋戦争が残した傷跡を考えます。BC 級戦犯についていつもより長い VTR を観て考えます。

【15】:ミャンマー問題を考える①

クーデター以降のミャンマーで何が起きているのか検証します。

【16】:ミャンマー問題を考える②

ミャンマーの若者たちはなぜ戦い続けるのか考えます。

【17】:テロ現場と報道

フランスの連続テロ事件を取り上げます。

【18】:中国の姿①

大国中国を生活する人々の視点でとらえます。

【19】:中国の姿②

少子高齢化に直面する中国の課題を取り上げます。

【20】:歴史に見る日本の姿①

日本の侵略がアジアに残したもの。

【21】:歴史の見る日本の姿②

慰安婦問題、強制連行はなぜ語られなくなったのか考えます。

【22】:歴史の見る日本の姿③

激戦地フィリピンで日本軍は何をしたのか。

【23】:カタルーニャを知っていますか。

小さな言葉に人生をささげた日本人。

【24】:世界の選挙①

台湾総統など

【25】:世界の選挙②

スコットランド住民投票

【26】:世界の選挙③

トランプのアメリカ

【27】:南北関係の行方

お隣、韓国北朝鮮はどこに向かうのか検証します。

【28】:最終授業では台湾籍日本兵のVTR観て国家とは何かを考えます。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

DVD の再生

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テレビ局訪問。報道番組収録の様子を見学。製作スタッフとの意見交換。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況および学習意欲:65% 発表、レポート:35%

最終レポート割合::0%最終テスト割

合::0%

テキスト / Textbooks

とくにありません。

参考文献 / Readings

とくにありません。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

好奇心と学ぶことに対する積極性。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。パソコン、携帯の持ち込みは可。

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Approximately 10-15 students

配当年次／Eligible year:3～4 年次／3rd - 4th year

選考方法／Selection method:定員を越えた場合は抽選にて選考します。

演習論文／Seminar papers:実施しない

※本演習に申し込む場合は、以下の更新情報を確認した上で申し込んでください。

【2025/3/19 更新】

開講学期に合わせて、以下を修正しました。

単位数:2 単位→4 単位

授業計画:15～28 回目を追加

演習

Seminar

ヤン＝ヴェルナー・ミュラー『試される民主主義――20 世紀ヨーロッパの政治思想』(下)を読む。

川崎 修(KAWASAKI OSAMU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX641
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

昨年に続いて、気鋭の政治思想史家であるヤン＝ヴェルナー・ミュラーの著作、『試される民主主義――20 世紀ヨーロッパの政治思想』(下)を半期で精読する。

Students in this seminar will conduct a careful reading of the work titled, "Contesting Democracy" by Jan-Werner Muller.

授業の内容 / Course Contents

ヤン＝ヴェルナー・ミュラーの著作『試される民主主義――20 世紀ヨーロッパの政治思想(下)』(板橋拓己・田口晃監訳、岩波書店、2019 年)を精読する。

なお、『試される民主主義』については、概ね、20 頁を目処に読み進める予定です。

Students will conduct a careful reading of Jan-Werner Muller's "Contesting Democracy" (Japanese translation, Iwanami shoten, 2019).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 『試される民主主義』(上)の概要の紹介(講義形式)
- 【3】: 『試される民主主義』(上) 日本語版に寄せて・序章 v-xiv ページ
- 【4】: 『試される民主主義』(下) 第4章「再建の思想――自己規制する民主主義と「人民民主主義」」 1-26 ページ
- 【5】: 『試される民主主義』(下) 第4章「再建の思想」 26-59 ページ
- 【6】: 『試される民主主義』(下) 第4章「再建の思想」 59-82 ページ
- 【7】: 『試される民主主義』(下) 第5章「異議申し立ての新時代――「父親なき社会」に向かって」 84-107 ページ
- 【8】: 『試される民主主義』(下) 第5章「異議申し立ての新時代」 107-124 ページ
- 【9】: 『試される民主主義』(下) 第5章「異議申し立ての新時代」 125-141 ページ
- 【10】: 『試される民主主義』(下) 第6章「反政治、そして歴史の終わり？」 144-161 ページ
- 【11】: 『試される民主主義』(下) 第6章「反政治、そして歴史の終わり？」 161-181 ページ
- 【12】: 『試される民主主義』(下) 第6章「反政治、そして歴史の終わり？」 181-208 ページ
- 【13】: 『試される民主主義』(下) 第6章「反政治、そして歴史の終わり？」 208-224 ページ
- 【14】: 『試される民主主義』(下)の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者は報告の準備をすること。

報告者以外の参加者は当該箇所を必ず事前に読んでくること。

なお、授業の進行や方法、内容の一部は、状況に応じて、変更されることがあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当報告の内容:50% 平常の授業態度:50%

テキスト / Textbooks

ヤン＝ヴェルナー・ミュラー 試される民主主義(上) 岩波書店 2019 9784000613521

参考文献 / Readings

ヤン＝ヴェルナー・ミュラー ポピュリズムとは何か 岩波書店 2017

Jan-Werner Muller Contesting Democracy Yale University Press 2011 9780300113211

ヤン＝ヴェルナー・ミュラー 試される民主主義(上) 岩波書店 2019 9784000613514

この本の書評が、日本経済新聞 2019/8/22 夕刊、朝日新聞 2019/9/7 朝刊、読売新聞 2019/9/15 朝刊、『群像』2019 年 12 月号、『週刊読書人』2020/1/10 号などに出ています。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数: 10 名程度

配当年次: 2～4 年次

選考方法: レポート

①題目: 本演習の志望理由

②字数: 1000～2000 字程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar
会社法判例演習

高橋 美加 (TAKAHASHI MIKA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX642
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

会社法の重要判例を検討することにより、基本的かつ実践的な法律解釈論を身につけることを目標とする。

The aim of this seminar is to cultivate a basic and practical legal interpretation ability through examination of the latest important judicial precedents on corporate law.

授業の内容 / Course Contents

会社法の判例は複雑な事例であることが多い。社会を騒がせた有名な事案であっても、法的な論点が何であったのかは知られていない場合もある。本演習はいわゆるケーススタディとして、比較的最近の会社法の判例・裁判例をいくつか取り上げ、紛争に至る背景を詳細に調査・解説し、何が争点となったか、解決方法として裁判所が提示した内容は妥当であったのかなどを分析する。扱う内容は多岐にわたるが、企業不祥事と内部統制システム、M&A と少数株主保護など、参加者の関心対象を調査した上で題材を相談する。参加者は法律論のみならず広く経済社会に興味を持って取り組むことが望まれる。

Case law in corporate law is often very complex. Even in famous cases that you might have heard the news, it is not always known what the legal issues were. In this seminar, we will take up some relatively recent cases, investigate and explain the background to the disputes in detail, and analyze what became the points of contention and whether what the court proposed was appropriate as a solution for the case. The topics to be covered will be diverse, but we will consult with the participants on the subjects they are interested in, such as corporate governance, mergers and acquisitions, and protection of minority shareholders. Participants are expected to be interested not only in legal theory but also in economic and social issues.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、判例・文献検索について
- 【2】: 判例の検討＜事例編＞
- 【3】: 判例の検討＜判旨編＞
- 【4】: 判例の検討＜事例編＞
- 【5】: 判例の検討＜判旨編＞
- 【6】: 判例の検討＜事例編＞
- 【7】: 判例の検討＜判旨編＞
- 【8】: 判例の検討＜事例編＞
- 【9】: 判例の検討＜判旨編＞
- 【10】: 判例の検討＜事例編＞
- 【11】: 判例の検討＜判旨編＞
- 【12】: 判例の検討＜事例編＞

【13】:判例の検討<判旨編>

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告はグループ単位で行うので、サブゼミを行うなど相当の準備を要する。

報告者以外も、事前配布された判例に目を通し、基本的な法律構成について理解しておくことが望まれる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当する報告:60% ゼミ内での発言・議論などの貢献:20% 提出物等:20%

テキスト / Textbooks

神作裕之他 会社法判例百選(第4版) 有斐閣 2021 9784641115545

参考文献 / Readings

伊藤靖史ほか リーガルクエスト会社法 有斐閣 2021 9784641179462

高橋美加ほか 会社法(第3版) 弘文堂 2020 9784335358395

開講までに新版が出た場合は新しいものを利用する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

商法(1)(2)の授業を履修済みであるか、並行して履修していることが望まれる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Google Classroom を使用する予定である。開講時に指示する。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15名~20名

配当年次:2年~4年

選考方法:レポート

①題目:簡単な自己紹介をした上で、商法・会社法に関連する報道や裁判例等で興味のある内容を一つ教えてください。

②字数:1000字程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar

近世日本の政治体制と思想

松田 宏一郎 (MATSUDA KOICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX643
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近世日本(だいたい 16 世紀末から 19 世紀半ば)の政治体制について、武士による専制、身分制度、「鎖国」(この用語には論争がある)などがイメージされるが、権力がどのように正当化されていたのか、身分制度と社会生活の実態にはどのような関係があったのか、海外とのつながりや影響関係はどのようなものだったのかについて、多くの誤解が通念化している。この演習では、一般的な誤解を覆す研究や史料を講読し、参加者相互に討論しながら、現代的視点から改めて日本の歴史を見直すきっかけをつかむことを目指す。

When we think about the political system of early modern Japan (roughly from the end of the 16th century to the middle of the 19th century), we tend to imagine the autocratic rule of the samurai, the class system, and ‘national isolation’ (a term that is controversial), but there are many common misconceptions about how political power was justified, the relationship between the class system and the reality of social life, and the nature of Japan’s connections with the outside world. In this seminar, we will read research papers and historical documents that challenge common misconceptions, and through discussion among participants, aim to gain a new perspective on Japanese history.

授業の内容 / Course Contents

近世政治体制・政治思想に関する史料や近年の研究論文を講読しながら、現在の私たちがとらわれている通念・誤解を再検討し、日本政治の歴史を冷静に分析する視座を考えていく。まず導入的な研究書の一部を読み、ある程度見通しを得たら、実際に近世に書かれた文書の読解にも挑戦する。古文・漢文などの知識は求めない。現代日本語が読めれば分かるように解説を加えながら進めていく。積極的に疑問を提起し、討論する姿勢を参加者に求める。

While reading historical documents and recent research papers on early modern political systems and political thought together with the participants, we will reconsider the common misunderstandings that we are currently trapped in, and consider a perspective from which to analyze the history of Japanese politics. We will first read part of an introductory research book, and once we have gained some perspective, we will also try reading documents written in the early modern period. Knowledge of classical Japanese or Chinese is not required. I will provide detailed explanations as we go along so that participants can understand if they can read modern Japanese. I ask participants to be proactive in raising questions and engaging in discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 演習についてのガイダンスと履修者の自己紹介
- 【2】: 課題テキスト講読と討論
- 【3】: 課題テキスト講読と討論
- 【4】: 課題テキスト講読と討論
- 【5】: 課題テキスト講読と討論
- 【6】: 課題テキスト講読と討論

- 【7】: 課題テキスト講読と討論
 【8】: 課題テキスト講読と討論
 【9】: 課題テキスト講読と討論
 【10】: 課題テキスト講読と討論
 【11】: 課題テキスト講読と討論
 【12】: 課題テキスト講読と討論
 【13】: 課題テキスト講読と討論
 【14】: 総合討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回発表者を決めてテキストの担当範囲の概略説明を求めるので、担当になったものはその準備が必要。
 毎回発表者以外の全員が、質問ペーパー(課題テキストに関する感想、疑問点、意見など)を事前にオンラインで提出する。詳細については初回に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問ペーパーの提出:30% プレゼンテーション:30% 授業中の討論:40%

参考文献に指定した、渡辺浩『日本政治思想史』に目を通しておくことが望ましい。演習で講読する文献については、履修者が決まり次第 canvas LMS を通じて指示をする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

渡辺浩 日本政治思想史[十七～十九世紀] 東京大学出版会 2010 9784130331005

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学期中に2回程度の発表が課される他、討論に参加する意欲は求められるが、特別な前提知識や資格、能力が必要とされることはない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

報告レジュメや資料はすべてオンラインで事前配布するので、ノートPC やタブレットなどを持参すること。当日紙媒体の配布はしない。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15 人程度

配当年次:2 年次以上

選考方法:レポート

①題目:自己紹介と本演習の履修を希望する理由

②字数:1000～1200 字程度

演習論文:なし

演習

Seminar

韓国×日本:比較で見える政治と社会の今とこれから

孫 齊庸 (SOHN JEYONG)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX644
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

韓国の政治と社会の特性を深く理解し、それを比較政治の視点から分析することで、日本の政治や社会に対する理解を深める。

This course aims to deepen students' understanding of the political and social characteristics of South Korea and analyze them from a comparative politics perspective. Through this approach, students will gain a broader understanding of Japanese politics and society.

授業の内容 / Course Contents

韓国は急速な経済発展を遂げる一方で、政治制度や社会構造において独自の変化を経験してきた。本授業では、韓国の政治制度、社会構造、歴史的背景を総合的に学び、日本との共通点や相違点を比較しながら、両国の政治・社会についてより深い理解を目指す。

授業の前半では、韓国の政治制度を中心に扱う。憲法の変遷、大統領制と議会制度、選挙制度、政党システム、司法制度、メディアの役割など、韓国政治の主要なトピックを取り上げる。これにより、韓国の政治体制の発展過程を学び、そのダイナミズムを理解する。

後半では、韓国社会の現状を掘り下げる。少子高齢化、貧困問題、デジタル化、教育格差、ジェンダー問題など、韓国社会が直面する課題を分析し、それらが政治や経済とどのように関係しているのかを考察する。特に、韓国の社会問題が日本の未来にどのような示唆を与えるのかについても議論を深める。

【授業の進め方】

授業は春学期と秋学期の2つのパートに分かれ、以下の文献を中心に進める。

・春学期:

浅羽祐樹著『比較のなかの韓国政治:韓国政治、そのダイナミズムの源泉は』を使用し、韓国の政治制度や政策の歴史的背景を学ぶ。特に、大統領制の特性、議会の機能、選挙制度、市民運動の役割などを詳しく検討し、韓国政治のダイナミズムを理論的に理解するとともに、日本との比較の観点から考察する。

・秋学期:

春木育美著『韓国社会の現在:超少子化、貧困・孤立化、デジタル化』を基に、韓国社会の現代的な課題を分析する。具体的には、少子化と高齢化の影響、格差の拡大、デジタル技術の進展による社会変容、教育と労働市場の関係、ジェンダー問題の変遷について議論する。これらの社会問題が政治や経済とどのように結びついているのかを考察し、日本の将来への示唆を導き出す。

受講生には、文献輪読を通じて関心を持ったテーマについて個別に事例研究を行い、その成果を授業内で報告してもらう。

さらに、本授業では、以下のような活動を予定している。

・他大学との合同ゼミ: 他大学の学生と合同でゼミを開催し、異なる視点から議論を行うことで理解を深める。夏合宿で

は、漢陽大学国際文化学部(ERICA キャンパス)の学生との国際交流を行う予定です。

・ゲストスピーカーの招聘: 韓国政治や社会に詳しい専門家を招き、特別レクチャーを実施する。

・映像資料の視聴とディスカッション: 韓国の政治や社会に関連する映像資料を視聴し、その内容についてディスカッションを行う。

South Korea has experienced rapid economic development while undergoing unique transformations in its political institutions and social structures. This course provides a comprehensive study of South Korea's political system, social structure, and historical background. By comparing these aspects with Japan, students will develop a deeper understanding of the political and social dynamics of both countries.

The first half of the course focuses on South Korea's political system. Key topics include the evolution of the constitution, the presidential system and parliamentary institutions, the electoral system, party politics, the judiciary, and the role of the media. Through this analysis, students will explore the developmental trajectory of South Korea's political system and its dynamism.

The second half of the course delves into contemporary South Korean society. Issues such as declining birth rates and aging populations, poverty, digital transformation, educational inequality, and gender issues will be analyzed. The course will examine how these societal challenges intersect with political and economic factors. Particular emphasis will be placed on the implications of South Korea's social issues for Japan's future.

【Course Format】

The course is divided into two parts: the spring semester and the fall semester. It will be structured around the following key texts:

Spring Semester:

Using *Comparative Perspectives on South Korean Politics: The Dynamics of Korean Politics* by Yuki Asaba, students will examine the historical background of South Korea's political institutions and policies. Topics include the characteristics of the presidential system, parliamentary functions, the electoral system, and the role of civic movements. The course will explore the theoretical foundations of South Korea's political dynamics while considering comparisons with Japan.

Fall Semester:

Using *Contemporary South Korean Society: Ultra-Low Birth Rate, Poverty and Social Isolation, Digitalization* by Ikumi Haruki, students will analyze modern social challenges in South Korea. Discussions will cover the impacts of declining birth rates and aging populations, widening social disparities, societal transformations driven by digital technology, the relationship between education and the labor market, and shifts in gender issues. The course will also consider how these social issues relate to political and economic structures and what insights they offer for Japan's future.

Students will conduct individual case studies on topics of interest that they identified through the reading assignments. They will present their findings during class.

【Course Features】

This course incorporates various activities to enhance learning:

・Joint Seminar with Other Universities: A joint seminar will be held with students from other universities, allowing participants to engage in discussions from diverse perspectives and deepen their understanding. During the summer trip, an international exchange program is planned with students from Hanyang University's College of International Culture (ERICA Campus).

・Guest Lectures: Experts specializing in South Korean politics and society will be invited to deliver special lectures.

・Viewing and Discussion of Video Materials: Students will watch video materials related to Korean politics and society and engage in discussions based on the content.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 文献輪読A(1)

【3】: 文献輪読A(2)

【4】: 文献輪読A(3)

【5】: 文献輪読A(4)

【6】: 文献輪読A(5)

【7】: 文献輪読A(6)

【8】: 文献輪読A(7)

【9】: 文献輪読A(8)

【10】: 文献輪読A(9)

【11】: 文献輪読A(10)

【12】: 文献輪読A(11)

- 【13】: 文献輪読A(12)
 【14】: 事例研究の構想発表
 【15】: 文献輪読A(13)
 【16】: 文献輪読A(14)
 【17】: 映像資料の視聴とディスカッション
 【18】: 映像資料の視聴とディスカッション
 【19】: 文献輪読B(1)
 【20】: 文献輪読B(2)
 【21】: 文献輪読B(3)
 【22】: 文献輪読B(4)
 【23】: 文献輪読B(5)
 【24】: 映像資料の視聴とディスカッション
 【25】: 映像資料の視聴とディスカッション
 【26】: 事例研究の発表(1)
 【27】: 事例研究の発表(2)
 【28】: 事例研究の発表(3)・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習(各回約2時間)】

次回授業に向けて、文献輪読の対象となっている教材を事前に入手し、授業開始前に必ず精読すること。教材の内容を十分に理解した上で授業に臨むこと。報告担当者は、レジュメを作成し、発表に備えること。

【復習(各回約2時間)】

授業終了後、教材と授業内容を振り返り、特に興味を持ったテーマがあれば、事例研究のテーマとして設定し、関連資料の収集・調査を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当部分の報告:40% 出席状況と議論への参加度:30% 事例研究の報告:30%

テキスト / Textbooks

浅羽祐樹『比較のなかの韓国政治:韓国政治、そのダイナミズムの源泉は』有斐閣 2024年 9784641149540

春木育美『韓国社会の現在:超少子化、貧困・孤立化、デジタル化』中央公論新社 2020年 9784121026026

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数/Number of students:20~30名程度/Approximately 20-30 students

配当年次/Eligible year:2~4年次/2nd - 4th year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:自己紹介、本演習を志望する理由、「あなたが考える韓国政治の最も興味深い特徴と、それが日本に示唆するもの」

②字数:2000字程度

演習論文/Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

これからの刑事法と刑事政策

川島 享祐(KAWASHIMA KYOSUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX645
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

刑事法と刑事政策に関する近時の展開について理解を深めるとともに、資料を集めてその内容を正確に理解し、自分の意見を明確に伝え、建設的な議論をする能力を身につけることを目標とします。

This class aims to deepen students' understanding of criminal law and criminology and acquire the skills for gathering materials, understanding their contents accurately, communicating their opinions clearly, and engaging in constructive discussions.

授業の内容 / Course Contents

少しでもニュースをみていれば、逮捕、裁判員裁判、冤罪、再審、死刑、少年非行、といった言葉を聞かない日はないでしょう。刑事司法制度に関しては、これまで多くの問題が生じ、それに対応して、法改正が繰り返されてきました。この演習では、刑事法に関する近時の法改正を振り返り、今後のあるべき刑事政策について議論します。

各回の報告者は、担当するテーマについて調査し、調査結果をまとめたレジュメを作成します。報告後には、報告内容について、履修者全員で議論します。

In this class, we will examine the recent development of criminal law. Reporters are required to research their assigned theme and prepare a resume summarizing the results of their research. After the presentation, all students discuss the topic.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・テーマ設定
- 【2】:講義:刑事法・刑事政策の基礎知識
- 【3】:報告・議論①:身柄拘束と被疑者・被告人の逃亡防止
- 【4】:報告・議論②:取調べの適正化
- 【5】:報告・議論③:裁判員制度
- 【6】:報告・議論④:冤罪の防止と再審
- 【7】:報告・議論⑤:刑事手続における被害者の保護
- 【8】:報告・議論⑥:死刑
- 【9】:報告・議論⑦:検察官の訴追裁量権の行使と再犯の防止
- 【10】:報告・議論⑧:拘禁刑と刑務所における処遇
- 【11】:報告・議論⑨:精神障害者と犯罪
- 【12】:報告・議論⑩:DV・児童虐待と刑事手続
- 【13】:報告・議論⑪:少年非行と少年法①
- 【14】:報告・議論⑫:少年非行と少年法②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教員が各回の主要参考文献を指定するので、報告者は、最低限、その内容を理解し、レジュメにまとめて 30 分程度で報告する必要があります。また、報告者は、これに加えて、報告テーマに関する参考文献を図書館で収集し、自分の意見を述べられるようにしておくのが望ましいです。参加人数によっては、グループ又はペアで報告してもらうこともあり得ます。

報告者以外の履修者も、授業での議論に積極的に参加できるよう、参考文献やレジュメに事前に目を通しておくことが期待されます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:40% 議論への積極的な参加(出席状況を含む):60%

無断の又は正当な理由のない欠席が 3 回以上となった場合には、成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

オリエンテーションの際に報告するテーマを選んでもらいますが、その際に主要検討文献などを紹介します。

参考文献 / Readings

川出敏裕＝金光旭 刑事政策(第3版) 成文堂 2023 9784792353896

オリエンテーションの際に、その他の参考文献を紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

この演習で扱う問題には、何か明確な答えがあるわけではありません。そのような問題について、自ら意欲的に調べたり、考えたり、他者の意見を尊重しつつ自らの意見を述べたりする姿勢が期待されます。

刑事法と刑事政策に関する基本的な内容は第2回の授業で説明しますので、これらの科目を事前に履修していることは必須ではありません。もっとも、分からないことについては、積極的に質問したり調べたりする姿勢が望ましいです。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Microsoft Word でレジュメを作成してもらいます。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15 名程度

配当年次:2・3・4年次

選考方法:レポート

①題目:刑事法や刑事政策に関して自分が興味のあるトピックについて、②その内容と③それに興味を持った理由を、できるだけ詳しく具体的に説明してください。

④字数:A4で1枚以上(上限なし)

演習論文:実施しない

演習

Seminar

EU とグローバルガバナンス:ヨーロッパと世界の安全保障を再定義する

明田 ゆかり(AKEDA YUKARI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX646
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地政学的対立、気候変動、民主主義の危機といったグローバルな課題に対する欧州連合(EU)の取り組みをテーマとして、情報収集と分析、討論と対話、プレゼンテーション、レポート作成から成るアカデミックリサーチの技能を向上させるとともに、今日的課題に対する問題意識と批判的視点を育成する。

The objective of the seminar is to enhance academic research skills, including information gathering and analysis, debates and discussions, presentations, and report writing, while fostering awareness and critical perspectives on contemporary issues through the study of the EU's role in global governance..

授業の内容 / Course Contents

EU はヨーロッパの価値に基づき、気候変動、デジタル経済、社会的公正、多国間主義といったグローバルな課題分野のガバナンス形成を非軍事的アプローチにより目指してきた。だがウクライナ戦争を筆頭に、地政学的対立の激化と世界の分断により、EU は軍事力の強化と安全保障戦略の再定義を迫られている。

2025 年の演習では EU についての基本知識を習得した後、気候変動、経済、人権も含む今日の多面的・複合的安全保障について検討する。ヨーロッパの描く安全な未来とはどのようなものか、その安全保障観の妥当性、実効性と限界、世界および日本への影響を考察する。

具体的には、関連文献講読と討論、グループ及び個人による調査とプレゼンテーション、レポートの執筆を行う。さらに、ゲストスピーカー(EU の外交官等)や他学部・他大学の学生や NGO との交流、ヨーロッパ関連のイベントへの参加を通じて、多様な見解・価値観・文化に触れる機会も提供していく。

The EU has aimed to shape governance in global challenge areas such as climate change, the digital economy, social justice, and multilateralism based on European values, using a non-military approach. However, with the intensification of geopolitical conflicts, notably the war in Ukraine, and the increasing global division in these areas, the EU is now compelled to strengthen its military capabilities and redefine its security strategy.

In this seminar, students will first acquire fundamental knowledge about the EU, followed by an examination of contemporary, multifaceted, and complex security issues. The seminar will explore what kind of secure future Europe envisions, evaluating its validity, effectiveness, and limitations, as well as considering the impact on the world and Japan.

Specifically, students will engage in reading and discussing relevant literature, conducting research and presenting findings both in groups and individually, and writing reports. Furthermore, opportunities to interact with guest speakers (such as EU diplomats), students from other faculties and universities, as well as participation in Europe-related events, will provide students with exposure to diverse perspectives, values, and cultures.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・自己紹介(含む関心テーマ)・EU 最新ニュースを用いたキックオフ討論
- 【2】: ヨーロッパの多様性を知ろう! バーチャルツアー・グループ編成
- 【3】: EU 最新ニュースを用いた討論(2)・バーチャルツアー・グループワーク
- 【4】: ヨーロッパの多様性を知ろう! バーチャルツアー・プレゼン大会と講評
- 【5】: ヨーロッパ・デイ関連イベント参加(フィルムフェス/コンサート等)(オンラインまたは対面)
- 【6】: ゲストスピーカー講演と意見交換(EU 外交官・EU とインド太平洋戦略)
- 【7】: 文献(テキスト)講読と討論1
- 【8】: 文献(テキスト)講読と討論2
- 【9】: 文献(テキスト)講読と討論3
- 【10】: 文献(テキスト)講読と討論4
- 【11】: EU の政策文書を読んでみよう(1)EU Global Strategy
- 【12】: EU の政策文書講読(2)EU Strategic Compass
- 【13】: EU の政策文書講読(3)EU Economic Security strategy または European Green Deal
- 【14】: 前期の総括・総合討論
- 【15】: グループ研究: 各自の関心テーマのプレゼンとグループ編成
- 【16】: グループワーク: プレゼン準備
- 【17】: グループワーク(中間発表)
- 【18】: グループ研究プレゼン大会 with United Voices
- 【19】: グループ研究プレゼン大会の講評
- 【20】: ヨーロッパ映画鑑賞
- 【21】: アカデミックレポート作成ガイダンス
- 【22】: 個人研究テーマについての第1回発表と意見交換
- 【23】: 個人研究テーマについての第1回発表と意見交換2
- 【24】: ゲストスピーカー(NGO/シンクタンク)との意見交換
- 【25】: 個人研究プレゼンテーション1
- 【26】: 個人研究プレゼンテーション2
- 【27】: レポート集編集会議
- 【28】: 全体総括: 2025 年の EU と世界

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

プレゼンテーションは Zoom の画面共有を用いて、各自が自分の PC から行う。

また海外のゲストスピーカー講演も Zoom を用いてオンラインで実施する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマに関し、情報を収集し自らの意見や疑問点をまとめておくこと。

EU やヨーロッパについての最新の動向についてアンテナを張っておくこと。

EU のウェブサイトやメディア報道等を通じて、英語に触れておくこと。(リサーチは日本語の資料が中心でも構わないが、必要に応じて英語資料も活用できればなお良い。)

グループワークは、メンバーのスケジュールを調整して時間外にも協力して行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席態度:20% プレゼンテーション:30% 討論への参加:30% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

中村民雄 EU とは何か一国家ではない未来の形 信山社 2019 9784797236279

鷺江義勝 編著 EUー欧州統合の現在 創元社 2020 9784422300801

池本太輔 他 EU 政治論一国境を超えた統治のゆくえ 有斐閣 2020 9784641150737

欧州連合公式サイト https://european-union.europa.eu/index_en

駐日欧州連合代表部公式ウェブマガジン『EUMAG』<http://eumag.jp>

受講生の関心に応じて、テキストを追加する予定である。

参考文献 / Readings

羽場久美子編著 EU を知るための 63 章 明石書店 2017 9784750339009

坂井一成編著 よくわかる EU 政治 ミネルヴァ書房 2022 9784623088249

臼井陽一郎編著 変わりゆく EU—永遠平和のプロジェクトの行方 明石書店 2020 9784750355035

その他の主要参考文献・サイトは演習中に提示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基本的な英語の文書を読む能力。(AI 活用も OK。)

英語によるゲストスピーカーの講演をある程度理解する能力。(ただし、必要に応じて担当教員が通訳する。)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

プレゼンテーションで使用するため、PC またはタブレット。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:20 名～30 名

配当年次:2～4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習の志望動機:なぜ EU(またはヨーロッパ)について学ぶのか

②字数:1200 字前後

演習論文:実施しない

<注意事項>

夏合宿、他大学や市民団体との合同セミナー等(時間外・任意参加)を開催予定。参加は任意であるが、日程が確定すれば演習時間にその準備とフォローアップを行う可能性がある。また EU 関連の事件の勃発や 他大学、ゲストスピーカーの都合などにより授業計画が前後にずれることも想定される。さらに演習後の議論の継続やグループワーク等で5限を利用する可能性がある(教室は確保・参加は任意)。

演習

Seminar

アメリカの対外関係

佐々木 卓也 (SASAKI TAKUYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX647
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ政治・外交に関する基本的知識の習得、およびプレゼンテーションと討論の能力の向上

The objectives of this seminar are to acquire a basic knowledge about American politics and diplomacy, and to improve the students' presentation and debating skills

授業の内容 / Course Contents

アメリカ政治・外交と国際関係について学ぶ。ゼミではアメリカの対外関係、とくに日米中関係、アジア・太平洋国際関係、日米関係、さらにはトランプ(第二期)政権の内政・外交に関するテキストを輪読し、毎週二名程度の報告者のレジュメをもとに出席者の議論によって進める。毎回相当の読書量を課し、ゼミへの積極的参加を求める。また学習院大庄司ゼミとの合同研究会、同志社大大矢根ゼミ・青山学院大和田ゼミ、上智大学都留ゼミとの交流会を予定している。

ゼミでの議論は、自己を表現し、他者と討論する能力を養い、向上させる良い機会になるであろう。なお英語文献も使用する予定である。今年度は秋学期に開講する。

This course is designed to introduce students to the historical and contemporary issues related to American foreign policy and international relations. Students are required to read a number of basic texts about American foreign relations with special reference to Sino-US relations, US-Japan relations and Indo-Pacific region. Based on their understanding of the book materials, the attendees are strongly encouraged to participate in class discussions. Each session will assign a considerable amount of reading. The joint workshop with Prof. Shoji's seminar of Gakushuin Univ., and the quadripartite workshop of Prof. Oyane's seminar of Doshisha Univ., Prof. Wada's seminar of Aoyama Gakuin Univ. and Professor Tsuru of Sophia Univ. are scheduled to be held.

The seminar discussions will provide students with an excellent opportunity to express themselves, cultivate and improve the ability to debate with others. Please note that the seminar is to use some English materials.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: アメリカ外交の基本テキストの輪読1
- 【3】: アメリカ外交の基本テキストの輪読2
- 【4】: アメリカ外交の基本テキストの輪読3
- 【5】: アメリカ外交の基本テキストの輪読4
- 【6】: 日米中関係のテキストの輪読1
- 【7】: 日米中関係のテキストの輪読2
- 【8】: 日米中関係のテキストの輪読3
- 【9】: 日米中関係のテキストの輪読4
- 【10】: 国際関係史の基本テキストの輪読1

- 【11】:国際関係史の基本テキストの輪読2
 【12】:国際関係史の基本テキストの輪読3
 【13】:国際関係史の基本テキストの輪読4
 【14】:まとめ・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習など十分に準備して演習に臨むこと。なお本演習の履修にあたっては、アメリカ政治論(今年度は春学期に開講)を履修済みであることが極めて望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席態度:30% クラスの議論への参加:40% レジューメ報告:30%

テキスト / Textbooks

佐々木卓也 『戦後アメリカ外交史』第三版 有斐閣 2017

佐橋亮 『米中対立』 中公新書 2021

青野利彦 『冷戦史』 中公新書 2022

渡辺靖 『アメリカとは何か』 岩波新書 2022

第一回授業時に詳しいシラバスを配布する。使用テキストについては、適宜出席者と相談する。

参考文献 / Readings

滝田賢治 国際政治史講義 有信堂 2022

佐々木卓也 冷戦 有斐閣 2011

久保文明ほか アメリカ政治 第三版 有斐閣 2017

青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編 現代アメリカ政治外交史 ミネルヴァ書房 2020

石井修 国際政治史としての二〇世紀 有信堂 2000

岡山裕 アメリカの政党政治 中公新書 2020

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:約 20 名

配当年次:2 年次以上

選考方法:レポート

①題目:演習志望の理由とアメリカ、国際関係に対する関心

②字数:2000 字以上

演習論文:実施しない

演習

Seminar

「グローバルサウス」を解体・再構築する

鈴木 絢女(SUZUKI AYAME)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX648
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 現代国際秩序の特徴と課題を把握する
 - (2) 国際関係にまつわる諸現象を、自らの言葉で説明できるようになる
 - (3) 学術論文、新聞、国連データベース等を用いて事例研究をし、口頭・文書でわかりやすく伝えることができるようになる
 - (4) グループで研究計画を立て、協同することができる
- (1) Understand the characteristics and challenges of the modern international order.
 - (2) Be able to explain various phenomena related to international relations.
 - (3) Conduct case studies using academic papers, newspapers, UN databases, and other sources, and develop the ability to communicate findings effectively
 - (4) Plan and collaborate on research projects as a group.

授業の内容 / Course Contents

この演習は、2020 年代前半から世界中で言及されるようになった「グローバルサウス」の実態を明らかにすることを目標としている。当たり前のように使われているこの語には、定まった定義がない。西欧主導の秩序に挑戦する国々のグループと定義されることもあれば、広く「途上国」という意味で使われたり、国連における G77 グループと同義とされることもある。「グローバルサウス」の一員として名指しされる国の間でさえ、この語がどのような国々を含むのかについての共通理解はない。

この演習ではまず、学術論文や報道における「グローバルサウス」の用語法に接近することで、この語に客観的な定義が欠如していることを確認する。とはいえ、この語を積極的に使用する国やリーダーがいる(増えている)のも事実である。彼らの発話に焦点を当てることで、この語がどのような目的のために用いられ、また現代国際関係のどのような姿を映しているのかを明らかにする。

履修者は、一年を通じて、自らデータを収集、分析し、報告することが求められる。最終回には、この語が引き起こす運動がどのように国際秩序を変化させるのかを議論する。また希望するグループは、研究成果を論文形式でまとめることもできる。

This course aims to shed light on the realities of the “Global South,” a term that began to be widely mentioned across the world in the early 2020s. Despite its frequent use, the term lacks a fixed definition. It is sometimes defined as a group of countries challenging the Western-led order, at other times used broadly to mean “developing countries,” or even considered synonymous with the G77 group in the United Nations. Even among the countries identified as part of the “Global South,” there is no shared understanding of which nations the term encompasses.

In this course, we will first examine the usage of the term “Global South” in academic papers and media reports to

confirm its lack of an objective definition. However, it is also a fact that some countries and leaders are actively using the term—and more and more leaders are doing so. By focusing on their statements, we will clarify for what purposes this term is employed and what aspects of contemporary international relations it reflects.

Participants in this course will be required to independently collect, analyze, and report data throughout the year. In the final session, we will discuss how the movements prompted by this term could reshape the international order.

Additionally, groups that wish to do so may compile their research findings in the form of a formal paper.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 「グローバルサウス」からみる国際秩序
- 【2】: 文献講読(1)
- 【3】: 文献講読(2)
- 【4】: 文献講読(3)
- 【5】: グループワーク(1): “Global South”とは?
- 【6】: グループワーク(2): “Global South”は何を指すのか?
- 【7】: グループワーク(3): “Global South”は何を指すのか?
- 【8】: グループワーク(4): “Global South”は何を指すのか?
- 【9】: 全体討論: 何が問題とされているのか? / グループ研究の戦略
- 【10】: グループワーク(5):
- 【11】: グループワーク(6)
- 【12】: グループワーク(7)
- 【13】: グループワーク(8)
- 【14】: 小括 / 中間レポート
- 【15】: 「グローバルサウス」の事例研究のために
- 【16】: 文献講読(4)
- 【17】: 文献講読(5)
- 【18】: グループワーク(9): 各国研究
- 【19】: グループワーク(10): 各国研究
- 【20】: グループワーク(11): 各国研究
- 【21】: グループワーク(12): ネットワークの解析
- 【22】: グループワーク(13): ネットワークの解析
- 【23】: グループワーク(14): ネットワークの解析
- 【24】: グループワーク(15): 現代国際秩序とグローバルサウス
- 【25】: グループワーク(16): 現代国際秩序とグローバルサウス
- 【26】: グループワーク(17): 現代国際秩序とグローバルサウス
- 【27】: グループワーク(18): 現代国際秩序とグローバルサウス
- 【28】: 最終レポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献の解説 / グループワークの準備

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 中間レポート: 25% 授業への貢献: 50% 最終レポート割合: 25%

テキスト / Textbooks

川島真・鈴木絢女・小泉悠・池内恵 ユーラシアの自画像 PHP 出版 2023

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数 / Number of students: 10~15 名程度 / Approximately 10-15 students

配当年次 / Eligible year: 3~4 年次 / 3rd - 4th year

選考方法 / Selection method: ①この演習の履修を希望する理由、②1,000 字以内

演習論文 / Seminar papers: 実施する

演習

Seminar

香港と台湾から見る中国政治

倉田 徹(KURATA TORU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX649
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

香港と台湾の政治動向を、様々な文献の読解により理解すること。また、その知識を踏まえて、他の受講生とも協力しながら研究報告を行い、自身の見解を発表したり、他の受講生と議論したりすることができるようになること。

To understand the political trends in Hong Kong and Taiwan through reading a range of literature. Based on this knowledge, they should also be able to work with other students to present research reports, present their own views and discuss them with other students.

授業の内容 / Course Contents

香港の政治は 2019 年以来、大きな変動を経験しました。香港の変動は、香港自身だけでなく、それを取り巻く中国・東アジア・世界の変化を反映したものとなっています。また、台湾は独自の民主主義の政治体制を確立し、育てながらも、中国政治や国際情勢の変化の影響を常に大きく受けています。したがって、香港や台湾で起きている事態は日本にとって他人事ではありません。本ゼミでは香港・台湾の事例研究から中国政治の実態を知る試みを行うとともに、東アジアや日本の将来を考えるヒントを得ます。

ゼミ全体で香港や台湾の政治についての理解を共有した上で、グループに分かれて事例研究を行います。希望者には演習論文を執筆してもらい、その内容についてもゼミで議論して行きます。

なお、本ゼミでは主に当日の授業終了後の時間を利用して、懇親会や他のゼミとの交流などの企画を行うことも計画していますので、無理のない範囲で、6 限の時間も他の授業や私用をできるだけ入れないようにして頂けるようお願いいたします。また、希望があれば国内外でのゼミ合宿や他ゼミとの交流なども行いますので、正規の開講時間以外の各種行事にも、積極的に参加することを受講者の皆さんにお願いします。

Hong Kong politics has experienced significant volatility since 2019. Hong Kong's fluctuations reflect changes not only in Hong Kong itself, but also in China, East Asia and the world around it. In addition, Taiwan, while establishing and nurturing its own democratic political system, has always been heavily influenced by changes in Chinese politics and international affairs. Therefore, the situation occurring in Hong Kong and Taiwan is no stranger to Japan. This seminar will attempt to understand the reality of Chinese politics through case studies of Hong Kong and Taiwan, and at the same time obtain hints for thinking about the future of East Asia and Japan.

After sharing an understanding of Hong Kong and Taiwanese politics with the seminar as a whole, students will be divided into groups to conduct case studies. Those who wish to do so will be asked to write a seminar paper, the contents of which will also be discussed in the seminar.

The seminar also plans to organize social gatherings and exchanges with other seminars, mainly using the time after classes on the day of the seminar. If you wish, we will also organize seminar camps and exchanges with other seminars in Japan and abroad, so we ask all students to actively participate in various events outside of regular class hours.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・自己紹介・グループ分け
 【2】: 共通文献輪読①
 【3】: 共通文献輪読②
 【4】: 共通文献輪読③
 【5】: 共通文献輪読④
 【6】: 共通文献輪読⑤
 【7】: 事例研究とグループ発表①
 【8】: 事例研究とグループ発表②
 【9】: 事例研究とグループ発表③
 【10】: 事例研究とグループ発表④
 【11】: 事例研究とグループ発表⑤
 【12】: 事例研究とグループ発表⑥
 【13】: 事例研究とグループ発表⑦
 【14】: 演習論文中間報告会
 【15】: 事例研究とグループ発表⑧
 【16】: 事例研究とグループ発表⑨
 【17】: 事例研究とグループ発表⑩
 【18】: 事例研究とグループ発表⑪
 【19】: 事例研究とグループ発表⑫
 【20】: 事例研究とグループ発表⑬
 【21】: 事例研究とグループ発表⑭
 【22】: 事例研究とグループ発表⑮
 【23】: 事例研究とグループ発表⑯
 【24】: 事例研究とグループ発表⑰
 【25】: 事例研究とグループ発表⑱
 【26】: 事例研究とグループ発表⑲
 【27】: 事例研究とグループ発表⑳
 【28】: 演習論文最終報告会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

常に香港や台湾に関する報道をチェックしておくこと。また、予告された教材の熟読や、それに関連する課題などの予習、プレゼンテーションの資料作成などが求められる(各回 3 時間)。終了後は議論を踏まえてさらなる文献収集を行い、演習論文の執筆などを行う(各回 2 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当部分の報告:50% 出席状況と議論への参加度:50%

テキスト / Textbooks

倉田徹 香港政治危機 東京大学出版会 2021 9784130331104

渡辺将人 台湾のデモクラシー 中公新書 2024 4121028031

参考文献 / Readings

吉川雅之・倉田徹編 香港を知るための 60 章 明石書店 2016 9784750342535

倉田徹・倉田明子編 香港危機の深層 東京外国語大学出版会 2019 4904575792

廣江倫子・阿古智子編著 香港 国家安全維持法のインパクト 日本評論社 2021 9784535525351

阿古智子 香港 あなたはどこへ向かうのか 出版舎ジグ 2021 9784909895042

家永真幸 台湾のアイデンティティ 文春新書 2023 4166614347

その他 / Others

<選考方法>

採用人数: 20 名

配当年次: 2-4 年次

選考方法:レポート

①題目:香港映画を一本鑑賞し、その内容の概要を説明した上で、そのストーリーと政治との関わりについて論じなさい
(ゼミ初回で受講生に自己紹介を求める際、それについて話して頂きます)。

②字数:2000 字程度

演習論文:実施する

演習

Seminar

「生」をめぐる哲学とは何か

一ノ瀬 佳也 (ICHINOSE YOSHIYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX650
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習においては、キルケゴールとニーチェに関する書籍を読み、「生きるための哲学」を検討する。

In this seminar, students will read some books concerning S. Kierkegaard and F. Nietzsche, and study on ‘Philosophy of Living’.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、キルケゴールとニーチェに関する書籍を読み、「生きるための哲学」を検討する。

本授業は「演習」形式で行う。そのため、受講生はテキストブックに関する発表やコメントを行わなければならない。また、メンバーとの議論への積極的な参加が望まれる。

In this seminar, students will read some books concerning S. Kierkegaard and F. Nietzsche, and study on ‘Philosophy of Living’.

This lecture hold a style of “seminar”. So, students must have some presentations and comments concerning text books. And students need to speak positively in discussion with members.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス: キルケゴールについて

【2】: 単独者と超越

【3】: 人格とは何か

【4】: 尊厳あるものへの関り

【5】: キルケゴールから現代へ(前半)

【6】: キルケゴールから現代へ(後半)

【7】: まとめ

【8】: 死に至る病とは絶望のことである

A 絶望が死に至る病であるということ

【9】: 死に至る病とは絶望のことである

B この病(絶望)の普遍性+この病(絶望)の諸形態

【10】: まとめ

【11】: 絶望は罪である(前)

【12】: 絶望は罪である(中)

【13】: 絶望は罪である(後)

【14】: 前期のまとめ

【15】: 後期ガイダンス: ニーチェについて

【16】: 序言

- 【17】:「善と悪」「よい(優良)とわるい(劣悪)
- 【18】:< 負い目 > < 良心の疚しさ、およびその類のことども
- 【19】:禁欲主義的な理想は何を意味するか(前半)
- 【20】:禁欲主義的な理想は何を意味するか(後半)
- 【21】:まとめ
- 【22】:哲学者の先入見について
- 【23】:自由なる精神
宗教的なもの
- 【24】:箴言と間奏曲
われわれ学者たち
- 【25】:われわれの徳
- 【26】:民族と祖国
- 【27】:高貴とは何か
- 【28】:全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、必ずテキストを読んできてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 授業への参加度:60% プレゼンテーション:40%

テキスト / Textbooks

須藤孝也 『人間になるということ——キルケゴールから現代へ』 以文社 2021 9784753103638
 キルケゴール 『死に至る病』 講談社 2017 9784062924092
 フリードリッヒ・ニーチェ 『道徳の彼岸』 講談社 2024 9784065373200
 フリードリッヒ・ニーチェ 『道徳の系譜学』 光文社 2009 9784334751852

参考文献 / Readings

鈴木祐丞 キルケゴール:生の苦悩に向き合う哲学 筑摩書房 2024 9784480075994
 山下秀智 キルケゴール『死に至る病』 晃洋書房 2011 9784771022164
 森一郎 ニーチェ 哲学的生を生きる 青土社 2024 4791776712
 ピーター・ケイル わかるニーチェ 春秋社 2023 9784393323960
 仲正 昌樹 ニーチェ入門講義 作品社 2022 9784861828935

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特別に専門知識を予め持っていることは必要としないが、キルケゴールやニーチェの思想について積極的に学ぶ姿勢を求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の連絡は、Canvas LMS を用いる。そのため、上記のシステムにアクセスできる機器を有することが必要となる

その他 / Others

< 選考方法 >
 採用人数:15 人
 配当年次:2, 3, 4 年次
 選考方法:レポート
 ①題目:本演習を履修する理由とテーマへの関心について記すこと
 ②字数:1000 字以上
 演習論文:実施しない

演習

Seminar

現代ヨーロッパのリーダーシップ

小川 有美(OGAWA ARIYOSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX651
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパのリーダーシップ研究を共に読み現代ヨーロッパの政治、国際関係、社会問題を理解する。さらにグループ・リサーチと発表のスキル、アカデミックな論文を作成するスキルを獲得する。

The aim of this seminar is to cultivate the participants' ability to understand politics, international relations and social issues in Europe, to discuss and present on the topic of leadership in a group and to write an academic report.

授業の内容 / Course Contents

国際主義とナショナリズム、福祉政策、人の移動、環境問題など、現代ヨーロッパ各国とEUはどんな課題に挑戦しているのか。その解明のために自らリサーチを企画・実施することがこの演習の目的である。2025 年度の重点トピックは、ヨーロッパ各国およびEUの(女性を含む)リーダーシップである。各回の進め方としては、最新の文献の講読と討論、グループによるリサーチと発表を行う。あわせてゲストスピーカー、可能なら他大学との合同ゼミなどを通し、広い対話の機会をつくりたい。演習論文の作成も指導するが、必須としない。

This seminar will consist of readings of the latest publications, discussions, group research and presentations, so that participants, both individually and collectively, better understand and study how European countries and the EU address issues such as internationalism and nationalism, welfare policy, migration and the environmental crisis. The main theme in 2025 will be leadership (both female and male) in European countries and the EU. We will also invite guest speakers or participants from other universities. Writing a seminar paper is encouraged but not mandatory.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(年間テーマ:ヨーロッパのリーダーシップ)
- 【2】: テーマ討論(ヨーロッパの政治報道・映像をめぐって)
- 【3】: 文献講読・討論(イギリス1)とグループ・リサーチ準備
- 【4】: 文献講読・討論(フランス1)とグループ・リサーチ準備
- 【5】: 文献講読・討論(ドイツ1)とグループ・リサーチ準備
- 【6】: 文献講読・討論(北欧)とグループ・リサーチ準備
- 【7】: グループ・リサーチ発表
- 【8】: テーマ討論(ヨーロッパの政治報道・映像をめぐって)
- 【9】: 文献講読・討論(南欧)とグループ・リサーチ準備
- 【10】: 文献講読・討論(東中欧)とグループ・リサーチ準備
- 【11】: 文献講読・討論(ファシズム)とグループ・リサーチ準備
- 【12】: 文献講読・討論(国際・EU1)とグループ・リサーチ準備
- 【13】: グループ・リサーチ発表
- 【14】: ゲスト・スピーカーの講演と討論

- 【15】: テーマ討論(ヨーロッパの政治報道・映像をめぐって)・論文ガイダンス
 【16】: 文献講読・討論(国際・EU2)とグループ・リサーチ準備
 【17】: 文献講読・討論(ポピュリズム1)とグループ・リサーチ準備
 【18】: 文献講読・討論(ポピュリズム2)とグループ・リサーチ準備
 【19】: 文献講読・討論(社会運動)とグループ・リサーチ準備
 【20】: 合同ゼミまたはゲスト・スピーカーの講演・討論
 【21】: 文献講読・討論(イギリス2)とグループ・リサーチ準備
 【22】: 文献講読・討論(フランス2)とグループ・リサーチ準備
 【23】: 文献講読・討論(ドイツ2)とグループ・リサーチ準備
 【24】: 文献講読・討論(国際・EU2)とグループ・リサーチ準備
 【25】: 文献講読・討論(ロシア等)とグループ・リサーチ準備
 【26】: テーマ討論(ヨーロッパの政治報道・映像をめぐって)・論文ガイダンス
 【27】: グループ・リサーチ発表
 【28】: まとめと論文プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全員毎回のテキストを必ず読んで来て討論に参加すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献報告:40% グループ・リサーチ発表:30% 討論への参加:30%

テキスト / Textbooks

文献講読のテキストは事前に「Canvas LMS」で配布する。グループ・リサーチ用の資料は担当教員の助言の下、各グループで自主的に探すこと。

参考文献 / Readings

立教大学法学部『ラーニング・ガイド』

立教大学大学教育開発・支援センター『Master of Writing』

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高い語学力や世界史の知識は必要ないが、英語のニュース記事程度はリサーチの際参照できることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

文献講読のテキストは「Canvas LMS」で配布する。履修登録前は以下の「Googleドライブ」から入手すること。

<https://drive.google.com/drive/folders/1vrAYGyrD0V4CSt7xJs5GNtOMsrZco3Ni?usp=sharing>

その他 / Others

<選考方法>

採用人数 : 20 名

配当年次 : 2~4年次

選考方法 : レポート

題目 : ヨーロッパの政治で関心のあるテーマ(参考にした文献を明記) : 400 字以上

演習論文 : 実施する

演習

Seminar
行政と政治

原田 久 (HARADA HISASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX652
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習の目的は、比較行政の観点から日本の政官関係の特徴を捉えることである。

The purpose of this seminar is to analyze the relationship between party politicians and career administrators in Japan from a comparative administrative perspective.

授業の内容 / Course Contents

行政学における主要なテーマの一つは政党政治家と職業行政官の関係(政官関係)をどう捉えるかである。アメリカの政治任用制度に関する優れた翻訳書であるルイス『大統領任命の政治学』(2009 年)や第二次安倍政権における政官関係に関する論文を輪読し、日本の政官関係の特徴を捉えたい。

Rewis (2009) will be used for the reading material. After reading the book, we will also read related papers on the relationship between party politicians and career bureaucrats in the second Abe administration.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 原田『行政学(第2版)』(法律文化社、2022 年)第2章の輪読
- 【3】: ルイス『大統領任命の政治学』第1章の輪読
- 【4】: ルイス『大統領任命の政治学』第2章の輪読
- 【5】: ルイス『大統領任命の政治学』第3章の輪読
- 【6】: ルイス『大統領任命の政治学』第4章の輪読
- 【7】: ルイス『大統領任命の政治学』第5章の輪読
- 【8】: ルイス『大統領任命の政治学』第6章の輪読
- 【9】: ルイス『大統領任命の政治学』第7章の輪読
- 【10】: ルイス『大統領任命の政治学』第8章の輪読
- 【11】: 芦立秀朗「幹部人事と政治介入制度」大谷基道・河合晃一編『現代日本の公務員人事』(第一法規、2019 年)の輪読
- 【12】: 軽部謙介『ドキュメント 強権の経済政策』(岩波書店、2020 年)第二章の輪読
- 【13】: 中北浩爾「官邸主導」アジア・パシフィックイニシアティブ『検証 安倍政権』(文藝春秋、2022 年)の輪読
- 【14】: ターム・ペーパー(2000 字程度)の作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

新聞等を通じて幹部公務員人事の動向について知識を得ておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

デイヴィッド・ルイス 大統領任命の政治学 ミネルヴァ書房 2009 9784623052837

参考文献 / Readings

原田久 行政学 法律文化社 2022 9784589041951

テキストは演習担当者が出版社にまとめて発注する予定である(4000 円程度)。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:12 名

配当年次:2～4 年

選考方法:レポート

①題目:岸田政権における幹部公務員人事について述べよ。

②字数:1000 字程度

演習論文:なし

演習

Seminar

刑法総論における重要論点についての検討

永井 紹裕 (NAGAI AKIHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX653
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

刑法総論で取り扱われている重要なテーマについての理解を深めるとともに、判例や基礎的な学術論文を理解できる能力を養う

Deepen your understanding of the important themes dealt with in general criminal law, and cultivate the ability to understand judicial precedents and basic academic articles.

授業の内容 / Course Contents

刑法総論は極めて抽象度が高く、苦手とする学生も多いと思われます。本演習では、総論において重要だと考えられる問題を取り上げ、判例や基礎的な学術論文の検討を通じて、刑法総論についての理解を深めることを目的とします。報告者は、自身の興味のある判例や重要論点について調査を行い、理解を深めたうえで報告を行い、参加者の議論を促すような設問を考えます。

刑法総論の成績は考慮しません。刑法は苦手だがなんとなく勉強してみたいという学生も歓迎します。

The general part of criminal law is extremely abstract, therefore, many students may have difficulty with it. This seminar aims to deepen students' understanding of general theory of criminal law through the examination of precedents and basic academic articles, focusing on issues that are considered particularly important in general theory. The presenter will conduct research on precedents and key issues of interest to him or her in general theory of criminal law, develop an understanding of the issues, and then present a report and consider questions that will stimulate discussion among the participants.

Grades in Criminal Law General and Criminal Law Specific will not be taken into consideration. I welcome students who are not good at criminal law but want to study it somehow.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 刑法総論の復習①
- 【2】: 刑法総論の復習②
- 【3】: 総論の重要論点の検討①
- 【4】: 総論の重要論点の検討②
- 【5】: 総論の重要論点の検討③
- 【6】: 総論の重要論点の検討④
- 【7】: 総論の重要論点の検討⑤
- 【8】: 総論の重要論点の検討⑥
- 【9】: 総論の重要論点の検討⑦
- 【10】: 総論の重要論点の検討⑧
- 【11】: 総論の重要論点の検討⑨

【12】:総論の重要論点の検討⑩

【13】:総論の重要論点の検討⑪

【14】:総論の重要論点の検討⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う文献は必ず熟読した上で演習に臨むこと

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加度:40% 報告の内容:60%

テキスト / Textbooks

特に指定しないが、毎回の報告についての文献は教員がその都度指示する。

参考文献 / Readings

松原芳博編 続・刑法の判例(総論) 成文堂 2022 9784792353797

佐伯仁志・橋爪隆編 刑法判例百選 総論(第8版) 有斐閣 2020 9784641115507

その他 / Others

採用人数/Number of students:10 名程度/Approximately 10 students

配当年次/Eligible year:2~4 年次/2nd - 4th year

選考方法/Selection method:レポートによる

「本演習を志望する理由について(刑法のゼミを志望する理由)」

字数は指定しない(ただし選考における考慮の対象とする)

演習論文/Seminar papers:実施しない

演習

Seminar
立法学演習

加藤 敏博(KATO TOSHIHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX654
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

いくつかの法律について、その立法事実、制定経緯、立法内容等の分析及びの課された課題の検討を通じて、法制度の設計についての知見を得るとともに、我が国のさまざまな問題を解決する手段としてどのように法制度を設計すればよいかを考えることのできる能力を身に付ける。

Through analysis of the legislative facts, enactment history, legislative content, etc., and examination of the issues imposed by the laws, students will gain knowledge about the design of the legal system and acquire the ability to consider how the legal system should be designed as a means of solving various problems and events in Japan.

授業の内容 / Course Contents

いくつかの法律について、その制定の背景、立法過程、内容等を分析するとともに、残された課題を解決するためにどのような立法が考えられるかについて検討し、企画・立案してもらいます。ただし、対象とする法律については、この間の立法の状況に応じて差し替える場合があります。

The students will analyze the background of enactment, legislative process, contents, etc. of several laws, as well as to consider, plan and draft what kind of legislation can be considered to solve the remaining issues. However, the laws to be covered may be reflected and replaced depending on the status of legislation during the period in which the course is scheduled.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 立法学概観～立法技術・立法内容・立法過程
- 【3】: 性同一性障害①
- 【4】: 性同一性障害②
- 【5】: 性同一性障害③
- 【6】: 性同一性障害④
- 【7】: 生殖補助医療①
- 【8】: 生殖補助医療②
- 【9】: 生殖補助医療③
- 【10】: 生殖補助医療④
- 【11】: ヘイトスピーチ対策①
- 【12】: ヘイトスピーチ対策②
- 【13】: ヘイトスピーチ対策③
- 【14】: ヘイトスピーチ対策④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告を担当する課題について必要な準備を行うほか、毎回の演習において発言を行うために資料を読んで考える等の必要な予習を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当報告の内容:50% 平常の授業態度:50%

テキスト / Textbooks

授業の際に必要なに応じて配布し、又は提示します。

参考文献 / Readings

大島稔彦 立法学-理論と実務 第一法規 2013 9784474028920

大島稔彦 法制執務の基礎知識 第一法規 2023 9784474092723

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

授業を理解するために憲法に関する基礎的な知識が必要です。

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～12 名程度／Approximately 10-12 students

配当年次／Eligible year:3～4 年次／3rd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート

①題目:この演習を受講したい理由

②字数:1,000～1,500 字程度

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

地球環境・日常生活・政治

尾内 隆之 (ONAI TAKAYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX655
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境・人間・社会の多面的な関わりを踏まえて、環境問題をめぐる政治を分析し、これからの方向性を構想する。

The objectives of this seminar is to analyze the environmental politics, and to design the future direction of it.

授業の内容 / Course Contents

いま対応すべき環境問題は、気候変動や生物多様性など地球規模のものが中心ですが、問題が地球規模であるだけに、日々の生活の中で実感しにくいのが現実です。問題の解決には生活のあり方のトランジション(転換・移行)が求められているにもかかわらず、問題と生活の間には残念ながら隔たりがあり、この隔たりを乗り越えるためには、私たちは問題を見て、言語化して、議論しなければなりません。そうした議論を活性化する手法のひとつとして、一般市民が温暖化対策を話し合う「気候市民会議」というものが、いま各国で広まっています。そこで今年度はまずゼミ自体を「気候市民会議」に見立て、日常生活と結びつけながらじっくり議論します。どのような個別論点を深掘りするか、ゼミ生の議論によって選ばれます。

次に、その「気候市民会議」という手法自体の課題や限界を、日本各地の会議の結果をもとに客観的に検証していきます。あわせて、国内外の「トランジション」の先進事例を学びながら、ライフスタイルや身の回りの環境との付き合い方をどう変えていくか考えます。そのためには、自然環境に実際に触れることも有用でしょう。これらの考察は、環境問題に対処するための社会の動かし方を、すなわち「環境政治」を考えることに自ずとつながります。一緒に探求しましょう。

The environmental issues we need to address today are mainly global in scale, such as climate change and biodiversity. However, because the issues are global, it is difficult to really feel them in our daily lives. Despite the fact that a transition in lifestyle is required to solve these problems, there unfortunately is a gap between the issues and our lives. In order to overcome this gap, we need to look at the issues, put them into words, and discuss them. One method of stimulating such discussion is the ‘Citizen’s Climate Assembly’, in which ordinary citizens discuss measures to tackle global warming. In this class, we firstly compare the seminar itself as a ‘Citizen’s Climate Assembly’, and discuss global environmental issues in depth, with linking them to our daily lives. The specific issues to be explored will be chosen through discussion among the students.

Next, we objectively examine the problems and limitations of the ‘Citizen’s Climate Assembly’ method itself, based on the results of conferences held in many municipalities in Japan. At the same time, we will consider how we can change our lifestyle and interact with the environment around us, while learning about advanced examples of ‘transition’ both in Japan and overseas. For this purpose, experiences in nature is also effective. These activities naturally lead to thinking about how to move society to deal with environmental issues; ‘environmental politics’.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス&アイスブレイク

【2】: 環境政治を考えるためのブレインストーミング

- 【3】:環境政治を考えるためのブレインストーミング
 【4】:環境政治を考えるためのブレインストーミング
 【5】:テキスト①の輪読とディスカッション(ゼミ生の報告と議論)
 【6】:テキスト①の輪読とディスカッション
 【7】:テキスト①の輪読とディスカッション
 【8】:テキスト①の輪読とディスカッション
 【9】:模擬「気候市民会議」
 【10】:模擬「気候市民会議」
 【11】:模擬「気候市民会議」
 【12】:模擬「気候市民会議」
 【13】:模擬「気候市民会議」
 【14】:模擬「気候市民会議」:まとめと振り返り
 【15】:グループリサーチのテーマ選定
 【16】:追加テキストの輪読とディスカッション(以下、グループリサーチを並行)
 【17】:追加テキストの輪読とディスカッション
 【18】:追加テキストの輪読とディスカッション
 【19】:追加テキストの輪読とディスカッション
 【20】:COP30 の動向調査
 【21】:COP30 の動向調査
 【22】:COP30 に関するまとめと討論
 【23】:追加テキストの輪読とディスカッション
 【24】:追加テキストの輪読とディスカッション
 【25】:グループリサーチの中間報告 (1)
 【26】:グループリサーチの中間報告 (2)
 【27】:グループリサーチの成果発表 (1)
 【28】:グループリサーチの成果発表 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

フィールドワークを含むゼミ合宿を夏季休業・秋季休業中に実施する。実習訪問先として、岩手大学附属演習林、自然エネルギー先進地域の視察などを予定している。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前の準備課題には必ず取り組み、環境問題や環境政策の動向について積極的に情報収集しながら臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当報告の内容:30% 議論への貢献度:40% リサーチの最終発表内容:30%

テキスト / Textbooks

三上直之 気候民主主義 岩波書店 2022 9784000615327

ほか追加の場合は適宜指示する。

参考文献 / Readings

開講後に随時紹介する。

その他 / Others

<HP>担当教員の情報は <http://researchmap.jp/takaonai/> を参照

<選考方法>

採用人数:25名まで

配当年次:2~4年次

選考方法:レポート

①題目:自己紹介と志望理由

②字数:1,600~2,000字

演習論文:実施しない

講義科目「環境政治」を2024年度に履修済みか、今年度に併行履修することが望ましい。

演習

Seminar

不法行為ケースディベート

原田 昌和(HARADA MASAKAZU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX656
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

不法行為に関するディベートを通じて、不法行為法の基礎知識、法的思考能力、プレゼンテーション能力を養う。法曹志望者の答案作成能力の向上も目的とする。

The aim of this course is to develop students' knowledge of tort law, their ability to think in legal terms, and their presentation skills through debates on tort law. The course also aims to improve the drafting skills of those who wish to become legal professionals.

授業の内容 / Course Contents

大人数講義では、しばしば判例についての説明が行われますが、実際の判例を読めると、講義で聞いたのとはまったく違う事件の背景を知ることがよくあります。このゼミでは、大人数講義では十分に学ぶことのできない実際の事件についてより深く勉強するために、主に百選や判例 30！シリーズに掲載されている、不法行為法に関する判例を取り上げて、原告側対被告側に分かれてディベートを行います。

進行方法としては、不法行為法に関する知識を段階的に深められるように、教員による事前学習会を経たうえで、ディベートを行い、翌週に検討会を行って知識を深めます。履修を通じて、不法行為法の基礎知識のほか、柔軟な思考力、自説を説得的に論証する能力、他人の話を理解して論理的に判断する能力を養うことを目標としています。また、立論の添削により、法曹志望者の答案作成能力を向上させることもできます。ディベート以外にも、ゼミ旅行、弁護士事務所や企業への訪問、他大学との討論会などの課外活動も行っています。演習参加希望者には、任意の面談を実施しますので、メールでアポイントをとって下さい。

Judicial precedents are often explained in lectures with large numbers of students, but in many cases, when you read the actual judicial precedent, you will become aware of case backgrounds that are completely different from what was described in the lecture. In order to provide a more in-depth study of actual cases that cannot be adequately studied in large lectures, this seminar will focus on the tort cases listed in the Top One Hundred and 30 Judicial Precedents series and will divide students into the roles of plaintiff and defendant for discussion.

The seminar will be conducted in such a way as to enable students to deepen their knowledge of tort law in a phased manner by holding study sessions led by the lecturer beforehand, holding the debates and holding a review session the following week to deepen students' knowledge. In addition to acquiring a basic knowledge of tort law, the aims of this seminar are to cultivate flexible thinking, the ability to present theories in a persuasive manner, and the ability to understand and evaluate another person's remarks in a logical manner. Correcting arguments can also help students improve their legal writing skills of future lawyers. In addition to debates, this seminar will include extra-curricular activities such as seminar trips, visits to law firms and companies, and discussions with other universities. Optional interviews will be held for students wishing to attend the seminar, so please make an appointment by email.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:情報検索講習会
- 【3】:第1回ディベート
- 【4】:シンポジウム型討論
- 【5】:第2回ディベート
- 【6】:シンポジウム型討論
- 【7】:教員による解説
- 【8】:第3回ディベート
- 【9】:シンポジウム型討論
- 【10】:早稲田大学との討論会(12月第1土曜日を予定)準備
- 【11】:第4回ディベート
- 【12】:シンポジウム型討論
- 【13】:第5回ディベート
- 【14】:シンポジウム型討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回の報告内容:40% 授業内での発言:30% コメントペーパー等平常の授業態度:30%

テキスト / Textbooks

秋山靖浩・原田昌和・田高寛貴 『リーガル・リサーチ／リポート(第2版)』 有斐閣 2019 9784641126114

参考文献 / Readings

中原太郎他 民法4 債権各論 判例30! 有斐閣 2017 9784641137790

窪田充見他 民法判例百選II(第9版) 有斐閣 2023 9784641115637

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

法学部生一般に向けた内容ですが、法曹志望者も歓迎します。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数: 25名程度

配当年次: 2～4年次

選考方法: レポート(必須)、および、任意での面談

①題目: i 自己PR(あなたの物事への取り組み姿勢を、部活動やサークル、勉強などに関する具体的なエピソードに関連付けて論じてください)、ii 志望理由(ゼミで身につけたい能力を、希望進路などに関連付けて書いてください)、iii ディベートで取り上げたい判例

②字数: 2000字程度

面談予約: mharada@rikkyo.ac.jp

演習論文: 実施しません

演習

Seminar

科学技術のリスクと法:規制と被害救済(日米比較)

秋元 奈穂子(AKIMOTO NAOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX657
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

科学技術の社会への応用は便益をもたらすとともに、その不確実性ゆえのリスクを孕む。本ゼミでは、いくつかの代表的なトピックを取り上げて、アメリカ及び日本における法が、そのようなリスクと便益をいかに衡量して規律し、リスクが現実化した際の救済をいかに行っているかについて理解することを目標とする。

The application of scientific technologies involves risks due to their inherent uncertainty. This seminar will focus on important issues and aim to help students understand how the laws in the U.S. and Japan regulate such technologies, balancing risks and benefits and provide remedies when the risk materializes as harm.

授業の内容 / Course Contents

今回のゼミでは、自動運転、医薬品開発、ゲノム情報の利用、原子力の利用、情報通信サービスという5つの分野における科学技術の利用とその法的規律について、日本及びアメリカの判例及び文献を用いて議論する(アメリカの文献については原則として英語文献となる)。

学生はグループに分かれて議論を行うとともに、ゼミ全体での議論も行う。

In this seminar, students will discuss legal issues in auto-driving, the development of pharmaceuticals, the use of genetics, the use of nuclear energy, and telecommunications through reading the U.S. and Japanese cases and articles (Reading materials on the U.S. issues are primarily in English).

Students will have group discussion as well as discussion in the whole class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 自動運転(1)
- 【3】: 自動運転(2)
- 【4】: 医薬品の開発と利用(1)
- 【5】: 医薬品の開発と利用(2)
- 【6】: 医薬品の開発と利用(3)
- 【7】: ゲノム情報の利用(1)
- 【8】: ゲノム情報の利用(2)
- 【9】: 原子力の利用(1)
- 【10】: 原子力の利用(2)
- 【11】: 原子力の利用(3)
- 【12】: 情報通信サービス(1)
- 【13】: 情報通信サービス(2)

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

学生は指定された文献を事前に購読したうえでゼミに参加する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告及び議論への参加:100%

テキスト / Textbooks

都度、文献を配布する

参考文献 / Readings**その他 / Others**

採用人数／Number of students:20～30 名程度／Approximately 20-30 students

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート(本ゼミを希望する理由(800 字以内))

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

生と死を問う法律学

土屋 裕子(TSUCHIYA YUKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX658
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人の生と死をめぐる問題を法的・倫理的側面から検討し、多角的な視点から物事を考察する力を身に付けます。

The purposes of this course are (1) to examine problems around human life and death from legal and ethical aspects and (2) to develop the ability to observe through a multifaceted perspective.

授業の内容 / Course Contents

出生前診断、代理母出産、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植など、人の生と死をめぐる問題は多岐に渡ります。これらの問題は、「生命倫理」の問題として知られていますが、この授業では、生命倫理の問題を単に倫理的な側面からだけでなく、法的な側面からも考察します。

1 年次に修得したリサーチやプレゼンテーションのスキルは活かし、生命倫理に関する問題を参加者自身で設定し、それについて自ら調べ報告を行い、クラス全員で議論を行います。なお、この授業は「正しい答え」を提供するものではありません。答えのない問題に自分なりの答えを導き、様々な価値観を持つ仲間との議論を通じて、自分の価値観や既存の倫理観を再考してみましょう。

なお、下記の授業計画はあくまでも一例であり、実際に授業で扱うテーマについては参加者の関心や希望により決定します。

A wide range of problems surround human life and death including prenatal diagnosis, surrogacy, euthanasia, death with dignity, brain death and organ transplantation. These are problems of bioethics, but this course considers them from a legal viewpoint as well.

Participants will be required to set their own bioethical issues, conduct their own research and report on their findings, and discuss them with the entire class, making use of the research and presentation skills you acquired in the first year. But the course is not intended to provide a "correct answer." All students should reconsider their values and existing ethical perspectives, then derive individual answers to problems that have no clear answers, and discuss them with others who have different values.

Note: The following course plan is only an example, and the actual topics to be covered will be determined according to the interests and wishes of the participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 【医療をめぐる生命倫理1】限られた医療資源の配分問題

【3】: 【医療をめぐる生命倫理2】新型コロナウイルス感染症と生命倫理

【4】: 【医療をめぐる生命倫理3】自己決定権とインフォームド・コンセント

- 【5】:【医療をめぐる生命倫理4】小児医療・新生児医療
 【6】:【医療をめぐる生命倫理5】生体間移植・臓器売買
 【7】:【出生をめぐる生命倫理1】出生前診断
 【8】:【出生をめぐる生命倫理2】人工妊娠中絶
 【9】:【出生をめぐる生命倫理3】生殖補助医療
 【10】:【出生をめぐる生命倫理4】代理出産
 【11】:【死をめぐる生命倫理 1】脳死・臓器移植
 【12】:【死をめぐる生命倫理 2】安楽死
 【13】:【死をめぐる生命倫理3】尊厳死
 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者は担当テーマに関する情報収集やレジュメの作成など周知な準備が求められます。また、最先端のテーマを扱いますので、日頃から新聞やニュース等で医療や科学技術に関する情報に関心を持つようにしてください。

なお、この授業では生命倫理に関する予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度:70% 報告の内容:30%

なお、正当な理由なく欠席回数が3回を超えた場合は単位を認めません。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15名程度

配当年次:2年次

選考方法:レポート

①題目:このゼミの志望理由と意気込み

②字数:1,200字程度

演習論文:実施しない

ゼミ運営の都合上、合格後は必ずゼミに参加する意思のある方のご応募をお待ちしております。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

演習

Seminar

現代の国際政治を体系的に理解するために、歴史を押さえながら現状を分析する。

清水 謙(SHIMIZU KEN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX659
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、国際政治における秩序がどのような歴史的な経路を辿って今日に至っているのかを検討して、現在の国際政治を分析する能力を修得し、これから生きていく未来を見通す視座を広げる。

In this seminar the students will follow the historical development of the world order in international politics, acquire skills for analyzing current international politics, and even widen their perspective on the future in which we will live.

授業の内容 / Course Contents

我々が生きているこの 21 世紀は冷戦後の新しい世界なのだろうか？それとも古い「帝国」の残像、あるいは「西洋の敗北」という新しい秩序の上に成り立っているのだろうか。アメリカの揺らぎ、中国の台頭、そしてロシア・ウクライナ戦争など、世界で起こっている国際問題をどのように捉えるかを主なテーマとする。これらを検討するにあたって、基本作業として文献を精読して議論を行い、それにより本演習後半に向けての前提的知識や方法論の土台を固め、その後に各自で関心のある事例について調査研究を行い、自分の分析を加えたプレゼンテーションをしてもらう。それを基にクラスで積極的な議論を行うことで現代国際政治を多角的に把握することを目指す。演習では、受講生には報告を担当してもらうテキストの章と事例を割り当て、担当者の報告のあと教員が解説を加えてから、受講生が提出する「準備メモ」(コメントカード)をもとに全体で議論をする。

なお、履修者数によっては予定した演習内容を変更する可能性もある。

Is the 21st century we live in a new post-Cold War world? Or is it built on the remnants of the old empires, or a new order called "the defeat of the West"? The main theme of this seminar is how to understand contemporary international issues occurring around the world, such as the instability of the United States, the rise of China, and the war between Russia and Ukraine. To examine these matters, the students will first strengthen the foundation of knowledge and framework by reading technical books and discussing actively. Then, the students will themselves choose an issue for research and give a presentation with their own views. In this way the students will acquire a multidirectional understanding of contemporary international politics by active discussions in our seminar.

Students will be assigned chapters in the textbook and issues to present reports. After the report has been presented, the faculty member will add an explanation followed by a discussion among all the students based on the "preparatory notes" submitted by the students.

Note: The schedule can be changed depending on the scale of the class.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 共通文献輪読(1): 「ロシアの安定」

【3】: 共通文献輪読(2): 「ウクライナの謎」

【4】: 共通文献輪読(3): 「東欧におけるポストモダンのロシア嫌い」

- 【5】: 共通文献輪読(4): 「「西欧」とは何か？」
 【6】: 共通文献輪読(5): 「自殺幫助による欧州の死」
 【7】: 共通文献輪読(6): 「「国家ゼロ」に突き進む英国ー亡びよ、ブリタニア！」
 【8】: 共通文献輪読(7): 「北欧ーフェミニズムから好戦主義へ」
 【9】: 共通文献輪読(8): 「米国の本質ー寡頭制とニヒリズム」
 【10】: 共通文献輪読(9): 「ガス抜きをして米国経済の虚飾を正す」
 【11】: 共通文献輪読(10): 「ワシントンのギャングたち」
 【12】: 共通文献輪読(11): 「その他の世界」がロシアを選んだ理由
 【13】: 共通文献輪読(12): 「米国は「ウクライナの罠」にいかにか嵌まったか」
 【14】: 春学期の議論のまとめ
 【15】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(1)
 【16】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(2)
 【17】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(3)
 【18】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(4)
 【19】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(5)
 【20】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(6)
 【21】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(7)
 【22】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(8)
 【23】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(9)
 【24】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(10)
 【25】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(11)
 【26】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(12)
 【27】: 事例研究によるリサーチ・プレゼンテーション(13)
 【28】: まとめの議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテキストの範囲を精読しておき、事例研究のテーマに関する情報を事前に収集する。コメントや疑問点、演習で議論したい論点などを整理した「準備メモ」(コメントカード)を作成して事前に必ず提出すること。また、世界情勢を把握するため、国際ニュースなどもこまめにチェックしておき、事例研究への準備を進めておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告と研究発表:60% 準備メモ(コメントカード)と議論への積極的参加度など:40%

テキスト / Textbooks

エマニュエル・トッド 『西洋の敗北: 日本と世界に何が起きるのか』 文藝春秋 2024 9784163919096

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的に議論に参加し、現代国際政治について感じたことや考えたことなどを問題提起できる力を求めたい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

演習のレジュメは Canvas LMS にアップロードして配付する。「準備メモ」(コメントカード)も Google Classroom などを活用して提出してもらうので、演習中に参照できる電子機器が必要となる。レジュメやコメントカードなどは各自で印刷出力して紙媒体で活用してもよいし、コンピューターやタブレットなどを利用してデジタルにノートテイキングをしてもよい。演習中にも電子機器の使用により資料などを閲覧したり、最新の国際情勢などを検索したりする。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:25-30 名程度

配当年次:3・4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習を志望する理由と、国際政治で関心のある具体的なテーマについて自由に論じて下さい。

②字数:1200~2000 文字程度

演習論文:実施しない

演習での議論では、自由闊達かつ柔軟な視点が重要なので、遠慮なく切り込んで議論に挑んで欲しい。

演習

Seminar

国際ビジネスにおける仲裁とネゴシエーション/ Arbitration and Negotiation

小川 和茂(OGAWA KAZUSHIGE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX660
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全部対面
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際ビジネス法を学ぶとともに、複雑な事実関係を前提に繰り広げられる論理的で説得力ある主張ができるように法的思考力や弁論術を学び、仲裁対応力や交渉力を高める。

The objectives of this seminar are to study international business law while improving the students' abilities to negotiate and think in a legal manner so as to be able to make logical and persuasive statements predicated on complex factual relationships.

授業の内容 / Course Contents

純粋に国内のみで活動する企業は少ない。多くの企業は、グローバルな市場において日々事業活動を行っている。そのような企業に法はどのように関わっているのだろうか？ また、トラブルが生じたときに、あるいは生じないようにどのようなテクニックが用いられているのだろうか？

春学期には、国際ビジネス法や国際ビジネス紛争解決の基礎理論及び交渉(ネゴシエーション)の基礎理論について、他大学の学生との模擬交渉・仲裁といった実践も交えながら学ぶことになります。

そして、秋学期には、国内外の大学が参加して 11 月中旬(2025 年度は 11 月 15 日(土)及び 16 日(日))を予定している。)に開催されるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション(インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティションについては、www.negocom.jp を参照して下さい。)の日本語の部と英語の部に参加します。

上記を通じて、国際ビジネス法の基礎的な知識を習得するとともに、法的思考力や交渉力を高めます。

There are few companies today which simply do business only in Japan. Many companies conduct business activities in global markets on a daily basis. How does the law impact such companies? Moreover, what techniques are used when trouble occurs or to prevent them from occurring?

During the spring semester, students will learn the basic theories of international business law, international business dispute resolution, and negotiation while combining practice through mock negotiations and arbitrations with students from other universities.

Furthermore, during the fall semester, students will participate in the Japanese and English sections of the Intercollegiate Negotiation Competition (for more details, see <http://www.negocom.jp/>) held in mid November together with students from other Japanese and foreign universities.

In this way, students will acquire a fundamental knowledge of international business law while improving their abilities to negotiate and think in a legal manner.

授業計画 / Course Schedule

【1】: Introduction

【2】: 国際ビジネス法の全体像

【3】: 国際契約法 1

- 【4】: 国際契約法 2
- 【5】: 国際契約法 3
- 【6】: 交渉 1 基礎編
- 【7】: 交渉 2 基礎編
- 【8】: 交渉 3 基礎編
- 【9】: 仲裁 1 基礎編
- 【10】: 仲裁 2 基礎編
- 【11】: 仲裁 3 基礎編
- 【12】: 交渉 4 ロールプレイ
- 【13】: 仲裁 4 ロールプレイ
- 【14】: まとめ
- 【15】: 仲裁 5 コンペティションに向けた準備
- 【16】: 交渉 5 コンペティションに向けた準備
- 【17】: 仲裁 6 コンペティションに向けた準備
- 【18】: 交渉 6 コンペティションに向けた準備
- 【19】: 仲裁 7 コンペティションに向けた準備
- 【20】: 交渉 7 コンペティションに向けた準備
- 【21】: 仲裁 8 コンペティションに向けた準備
- 【22】: 交渉 8 コンペティションに向けた準備
- 【23】: 仲裁 9
- 【24】: 交渉 9
- 【25】: まとめ
- 【26】: コンペティションへの参加
- 【27】: 総括 1
- 【28】: 総括 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特に秋学期は大会参加準備などで延長が有り得るため、演習後の時間帯の予定はあけておくこと。
 また、予習復習に十分な時間をかける必要があるほか、グループワーク・練習試合など演習時間以外にも演習参加者が集まって調査・議論することが必要です。
 大学対抗交渉コンペティション(11月15日(土)及び16日(日)に開催予定。)への参加は必須です。
 これら点に留意の上申込みして頂きたい。
 本演習に並行して国際私法、国際ビジネス法総合、英米法、国際経済法、国際法、法政外国語演習などの履修を推奨します。

During the autumn semester, it is advisable to keep schedules open for the period following the seminar sessions, as extensions are possible due to preparations for upcoming competitions.

Additionally, ample time should be allocated for pre-seminar preparation and post-seminar review, along with group work and practice sessions. These activities, essential for seminar participants, involve gathering for research and discussions outside the scheduled seminar times.

Participation in the Intercollegiate Negotiation competition (scheduled for Saturday 15 and Sunday 16 November) is mandatory.

Please consider these factors before applying.

Furthermore, concurrent enrollment in courses such as Private International Law, International Business Law, Anglo-American Law, International Economic Law, International Law, and Foreign Language Legal Studies is recommended alongside this seminar.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告の内容:50% 議論への参加度:50%

テキスト / Textbooks

マルホトラ=バイザーマン 交渉の達人 パンローリング 2016 4775941631

参考文献 / Readings

谷口安平＝鈴木五十三編著 国際商事仲裁の法と実務 丸善雄松堂 2016 9784841906752

早川吉尚＝森下哲朗編 国際取引法入門 有斐閣 2024 9784641046986

その他参考文献については追って指定する。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数：最大で 26 名

配当年次：2～4 年次

選考方法：レポート

①題目：①どのような国際ビジネスに興味を持つのかについて、②直近でどのような交渉をしたのかについて、③ゼミにどうやって貢献することができるのか、及び、④自己紹介

②字数：指定しない

演習論文：実施しない

2024 年度に履修した学生によれば、以下のような仲間を求めているとのことであった。

- ・積極的にゼミに参加し、自分の意見を発信できる人
- ・論理的思考力を身に付けたい人
- ・交渉術を学んで実践してみたい人
- ・チームメイトと協力するのが好きな人
- ・英語力に自信のある人(必須ではない)
- ・留学や国際交流に興味のある人

ゼミの雰囲気については、ゼミ生が instagram を運営しているので探してみてください。

演習

Seminar
憲法判例講読

守田 大悟(MORITA DAIGO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX661
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習の目的は、憲法判例を読み、対象判例に対する深い理解を獲得することにある。

By the end of the course, students will gain a deep understanding of the constitutional cases which are covered in the course.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、憲法判例を原文で読む。読む判例の数よりも、読み方の質を重視する。従って、1つの判例の研究に複数回を要することもある。また、対象判例の理解に有益と思われる文献(例えば、判例評釈、調査官解説、論文)も扱う。各回において、報告者を指名して、判例又は文献の要約を行ってもらう。報告者は、レジュメを書き、報告を行う。

In this course, we will read some constitutional cases in the original text. We regard the quality of reading as important, rather than its quantity, so it may take more than one class to study a constitutional case. We will also read some documents which may help to understand these cases, such as commentaries written by scholars or clerks (Judicial Research Officials of Supreme Court of Japan), and academic papers.

In each class, some students will be assigned to summarize a case or a document. Those students will be required to write a handout in advance and to make a presentation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス①(演習の進め方の説明等)
- 【2】: ガイダンス②(教員によるプレ報告等)
- 【3】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【4】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【5】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【6】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【7】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【8】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【9】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【10】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【11】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【12】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【13】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
- 【14】: 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は、全員、予め対象判例(原文)や指定された文献を通読しておくこと。

復習として、各自が、演習での議論を踏まえて、対象判例や指定文献を簡潔に要約してみることが望ましい(提出を求めることはしない)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回の報告とレジュメの内容:50% 出席状況と学習状況:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～20 名程度／Approximately 10-20 students

配当年次／Eligible year:2 年次／2nd year

選考方法／Selection method:レポート

①題目:この演習を志望する動機

②字数:A4 で 1 枚

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

英米法文献の読み方

鄭 燦玉 (JUNG CHANOK)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX662
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・英語で書かれた法律文献の読解力を涵養する。
- ・外国語で書かれた法律文章を正確な日本語に翻訳する能力を身につける。
- ・保険法学の基礎知識を習得する。

Improve reading comprehension of literature on jurisprudence written in English.

授業の内容 / Course Contents

人間は最小限の経済生活が保障されて初めて安定した生活を送ることができるが、こうした経済生活の安定を脅かすような不測の事故に遭遇することがしばしばある。そこで、同じ危険にさらされている多数の人々が偶然の事故に備えるために力を合わせるような方法が考案されたわけであるが、それが保険制度である。

われわれは人生を生きていくなかで何らかの保険に加入しているにもかかわらず、法学部 4 年間を通して保険に関する法的規律について詳細に学ぶ機会が多いとはいえない。

このような状況を受け、本演習では、保険法に関する代表的な英文概説書を講読し、英米法文献の読解能力を養うとともに、保険法の基本概念の理解を図る。

授業では、John Birds & Katie Richards, Birds' Modern Insurance Law (12th ed. 2022)(秋学期の初めごろに新版が出されている場合は、それをテキストとする)を講読します。第1回の授業では、テキストと参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・報告の方法の説明を行います。第2回以降は、テキストを講読します。事前に割り当てられた部分を担当者が日本語に翻訳し、予め Canvas LMS を通じて訳文を提出します。授業当日には教員と参加者全員で訳文の検討を行います。

In this seminar, the instructor will read and interpret a textbook on insurance law written in English. Students are required to translate it into Japanese and submit the translation in advance.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(1)
- 【3】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(2)
- 【4】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(3)
- 【5】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(4)
- 【6】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(5)
- 【7】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(6)
- 【8】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(7)
- 【9】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(8)
- 【10】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(9)

- 【11】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(10)
 【12】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(11)
 【13】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(12)
 【14】: 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(13)、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

「授業の内容」欄を参照のこと。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・報告者以外の参加者も、アップロードされる訳文を毎回精読し、自分ならどう翻訳したのだろうかを考えてくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告レジュメ(日本語訳の出来)と報告内容:70% 授業への参加度:30%

ただし、欠席回数が5回以上である場合、または、自分の報告日に正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。

テキスト / Textbooks

John Birds & Katie Richards Birds' Modern Insurance Law Sweet & Maxwell 9780414102743

テキストは教員が用意し提供するので、購入する必要はない。

参考文献 / Readings

竹瀨 修『保険法入門』日本経済新聞出版社 9784532111984

山下友信ほか『保険法』有斐閣 9784641221291

受講にあたり保険法に関する予備知識が必要なわけではありませんが、可能であれば夏休み期間を利用して参考文献に接してみることをお勧めします。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

・本演習の主目的は英米法文献の読解力向上にあるため、流暢な英語会話力は要しない。また、基本概念等については必要に応じて教員が説明するので、受講にあたり保険法に関する予備知識は必ずしも必要ではない。

その他 / Others

採用人数/Number of students:10名程度

配当年次/Eligible year:2年次

選考方法/Selection method:レポート

①内容:自己紹介と志望動機、その他

②字数:700字程度(例:自己紹介200字、志望動機500字)

演習論文/Seminar papers:実施しない

*本演習では、英米法文献の読み方を体得するために、少しずつでもいいので日々学習していこうという意欲をもっている学生の参加を望んでいます。

単純に単位さえ修得できればいいと思っている学生や、欠席が頻繁になりそうな学生は、本演習志望を再考してください。

演習

Seminar
民法研究

藤澤 治奈／前田 太朗 (FUJISAWA HARUNA/ MAEDA TARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX663
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ① 民法に関する基礎的な知識を修得すること
- ② 興味のあるテーマについて研究を深めること
- (1) To acquire basic knowledge of civil law
- (2) To explore topics which interest the students

授業の内容 / Course Contents

この授業では、民法の分野の中から、履修者が興味を持つテーマを選んで研究発表を行い、参加者全員でディスカッションを行います。春学期はグループで、秋学期は個人で、研究を行う予定です。なお、研究テーマについては、担当教員がいくつかのテーマを例示しますが、それ以外のものを選ぶことも可能です。

授業の予習のためには、グループで集まったり、資料を集めたり、多くの時間を必要とします。また、他大学と交流する機会を持つことも予定しています。そこで、この演習のために、十分な時間を割くことのできる履修者を募集しています。

なお、履修希望者を対象として、面接を行います。面接を希望する方は、3月18日までに申込みを行ってください。面接の申込は、メールで受け付けています(fujisawa@rikkyo.ac.jp)。

In this course, students choose a topic in civil law that interests them and present their research for discussion by all participants. Students will work in groups during the spring semester and individually during the fall semester. The instructor will provide some examples of research topics, but students may choose other topics as well. Students will need a significant amount of time to gather in groups, collect documents, etc. to prepare for class. In addition, students are also scheduled to participate in exchanges with other universities. Therefore, this seminar is open to students who are able to devote a sufficient amount of time.

Furthermore, please note that students who wish to take this seminar will be interviewed. If you wish to be interviewed, please apply by March 18th. Interview applications are being accepted by email (fujisawa@rikkyo.ac.jp).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 春学期ガイダンス
- 【2】: 研究テーマの検討(1)
- 【3】: 研究テーマの検討(2)
- 【4】: 研究テーマの検討(3)
- 【5】: 1班中間発表
- 【6】: 2班中間発表
- 【7】: 3班中間発表
- 【8】: 4班中間発表
- 【9】: 1班・2班研究発表

- 【10】:3班・4班研究発表
- 【11】:明治・法政・立教合同ゼミ準備(1)
- 【12】:明治・法政・立教合同ゼミ準備(2)
- 【13】:明治・法政・立教合同ゼミ準備(3)
- 【14】:春学期のまとめ
- 【15】:秋学期ガイダンス
- 【16】:研究テーマの検討
- 【17】:研究発表①
- 【18】:研究発表②
- 【19】:研究発表③
- 【20】:研究発表④
- 【21】:研究発表⑤
- 【22】:研究発表⑥
- 【23】:研究発表⑦
- 【24】:研究発表⑧
- 【25】:研究発表⑨
- 【26】:研究発表⑩
- 【27】:秋学期のまとめ
- 【28】:全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

7月13日に三大学合同ゼミを学内または学外にて実施予定です。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の予習として、①指定された資料および自ら集めた資料を読むこと、②グループで集まり意見交換をすること、③研究発表の準備をすることが必要です。また、講義等で未履修のテーマに取り組む場合には、各自、教科書などを読み、基本的な知識を身につけることが必要です。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究の内容:50% 授業中の発言回数・内容:50%

欠席回数が5回を超えた履修者は、この授業の単位を取得することができません。

テキスト / Textbooks

授業中に適宜指定します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指定します。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:20

配当年次:2~4年次

選考方法:レポートおよび面接

①題目:研究してみたいテーマ(それについて自分がどのような意見を持っているか)

②字数:1000字

演習論文:実施しない

演習

Seminar

気候変動を政治学する／Climate Change Politics

永野 和茂(NAGANO KAZUSHIGE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX665
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

気候変動は政治のあり方に影響を与えるか。それはどのようにしてか。気候変動によって社会は不安定化するのか。本演習では、気候変動が政治システムや社会構造に与える影響、に関する近年の研究論文を取り上げ、気候変動と政治学の接点を探る。

加えて、グローバルなレベルでの理論的な議論と、グローバル・サウスと呼ばれる地域の状況からの具体的事例を検討することで、この分野における重要な問題と課題について視野を深めたい。

It is crucial to recognize the political implications of climate change for contemporary societies. This seminar seeks to investigate the intersection of climate change and political science by critically engaging with recent research on the potential impacts and risks of climate change on political systems and social structures.

Theoretical debates at the global level, alongside case studies from regional contexts—including those from the Global South—will be examined to equip students with a comprehensive understanding of key issues and challenges in this field.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、指定された文献を輪読しながら、各テーマについて討論する。報告担当者はテキストの内容報告および論点提出を行い、それ以外の受講生は事前にコメント・ペーパー(400字程度)を提出する。

各回、コメント・ペーパーや報告者論点などからいくつかの問題提起をふまえた全体討論を行う。必要に応じて、より詳細な議論と分析を促すため、小グループに分かれて討論することもある。

授業後半では、個々の関心に応じてグループワークを行い、最終日にグループ報告を行う予定である。

In this seminar, students will engage in a rotational reading and discussion of the assigned texts. Presenters will provide a comprehensive summary of the readings, while the rest of the class is required to submit a comment paper prior to each session.

During the seminar, discussions will focus on the key issues and questions raised by the presenters and comment papers. If deemed necessary, students may be divided into smaller groups to facilitate more in-depth discussion and analysis.

In class, group work will be organized based on individual interests, and a group report will be presented on the final day.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、問題提起
- 【2】: 文献講読 1『気候安全保障——地球温暖化と自由で開かれたインド太平洋』
- 【3】: 文献講読 2
- 【4】: 文献講読 3
- 【5】: 文献講読 4

- 【6】:グループワーク
 【7】: 文献講読 5『気候変動は社会を不安定化させるか——水資源をめぐる国際政治の力学』
 【8】: 文献講読 6
 【9】: 文献講読 7
 【10】:グループワーク
 【11】: 文献講読 8
 【12】: 文献講読 9
 【13】:グループ報告
 【14】:グループ報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は毎回指定された範囲のテキストを事前に読み、演習開始前にコメント・ペーパーを提出する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・議論への貢献度:30% 担当回報告:20% コメントペーパー:20% グループワーク・レポート:30%

テキスト / Textbooks

笹川平和財団海洋政策研究所編 『気候安全保障——地球温暖化と自由で開かれたインド太平洋』 東海教育研究所 2021 9784924523258

藤原帰一ほか編著 『気候変動は社会を不安定化させるか——水資源をめぐる国際政治の力学』 日本評論社 2022 9784535540323

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を利用する。

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Approximately 10-15 students

配当年次／Eligible year:2 年次／2nd year

選考方法／Selection method:レポート(本演習テーマについての関心を 1000 字程度で)

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

東京とはどのような都市か (Tokyo: its multiple aspects as a metropolis)

宮内 悠輔 (MIYAUCHI YUUSUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX666
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、東京がいかなる都市であるかについて学問的に検討する。周知の通り、東京は世界有数のグローバル都市であるとともに、その内部にきわめて多様な自治体や住民を抱えている。そして、東京の社会政策や都市計画は、その方針や実態をめぐって数多くの論争を引き起こしている。本演習においては、ジャーナリストや研究者の手による文献を輪読しつつ、上述の論点について包括的かつ探索的に議論を進めていく。

The objective of this seminar is to discuss what Tokyo is as a metropolis.

授業の内容 / Course Contents

受講者は、予習として事前に文献を読み、Canvas LMS の公開トピックへ考察・疑問点を書き込む(文献考察)。また、報告担当者は、文献の内容を要約し、レジュメとしてまとめて提出する。授業時は、報告担当者の内容要約・論点提起をベースとして、複数グループもしくはクラス全体で議論を行う。なお、文献考察は 1 つに集約した上で教員のリプライを添え、当日配布する。また、学期末はグループごとに分かれてそれぞれ共同でプレゼンテーションを実施する。

The students will read the literature and submit a comment in advance. In the class, the student in charge of presenting will report the summary of the literature and question points. After the reporting, all the participants will discuss regarding the issues of the literature based on the report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・自己紹介・役割分担
- 【2】: 文献講読①
- 【3】: 文献講読②
- 【4】: 文献講読③
- 【5】: 文献講読④
- 【6】: 文献講読⑤
- 【7】: 文献講読の中間総括／グループ・プレゼンテーションの班分けと打ち合わせ
- 【8】: 文献講読⑥
- 【9】: 文献講読⑦
- 【10】: 文献講読⑧
- 【11】: 文献講読⑨
- 【12】: 文献講読の最終総括／グループ・プレゼンテーションの進捗報告
- 【13】: グループ・プレゼンテーションと質疑応答①
- 【14】: グループ・プレゼンテーションと質疑応答②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

- ・文献講読実施日は、事前に文献への考察を提出する。
- ・授業内で、最大3回ほどグループ・ディスカッションを実施する。
- ・学期末にはグループに分かれて自主リサーチを実施し、班ごとにプレゼンテーションと質疑応答を行ってもらう。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習: 文献の読解、および考察の提出。(課題のない日は、プレゼンテーションのための自主リサーチを行う)

復習: 履修者の提出物に対する教員のリプライに目を通す。

予習・復習いずれも、週2時間程度。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 文献考察等の提出、およびレジュメ作成・報告: 35% ディスカッションへの貢献: 30% 学期末プレゼンテーション(自班の発表・質疑応答および他班への質疑): 35% 最終レポート割合: 0% 最終テスト割合: 0%

- ・以下に該当する履修者は、本人の申告の有無にかかわらず、原則として履修放棄とみなす。

- 連続2回にわたって無断欠席した履修者
- 通算3回欠席した履修者
- レジュメ未提出者
- 学期末プレゼンテーション実施日に欠席した履修者

- ・学期末プレゼンテーションについては、複数回にわたって実施する場合、その全日程への参加(自班が発表しない回も含む)を成績評価の条件とする。

- ・本演習では、学校感染症罹患もしくは裁判員制度以外による欠席に対しては、成績評価面での配慮を一切行わない。欠席頻度が高くなりそうな見込みの学生は、本演習への応募を再考すること。

テキスト / Textbooks

吉見俊哉『東京裏返し——社会学的街歩きガイド』集英社新書 2020 9784087211337

その他、教員が適宜、演習テーマに沿った文献をコピーして配布する。

参考文献 / Readings

橋本健二『東京23区×格差と階級』中公新書ラクレ 2021 9784121507419

三浦展『ボロい東京』光文社新書 2023 9784334101725

今井悠介『体験格差』講談社現代新書 2024 9784065353639

ジグムント・バウマン『コミュニティ——安全と自由の戦場』ちくま学芸文庫 2017 9784480098252

サスキア・サッセン『グローバル・シティ——ニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む』ちくま学芸文庫 2018 9784480098429

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・全員: 毎週、80ページ程度、あるいはそれ以上の分量の文献を読み通す意欲と集中力を具えている。
- ・グローバルコース以外の学生: 1年次の「基礎文献講読」で水準以上の成績を修め、かつ同演習で求められる能力を一通り習得している。
- ・グローバルコースの学生: 昨年度の春学期に配布された『法学部ラーニングガイド2025』を改めて一読し、内容を理解しておくこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

- ・採用後は、学期末まで履修を継続していただきたい。
- ・毎回、一度に読む文献の分量がそれなりに多い(おおむね80ページ、あるいはそれ以上)。演習に振り向けなくてはならない負担の大きさを考慮した上で応募してほしい。なお、極力、演習時間の延長は行わない。

<選考方法>

採用人数: 12人

配当年次: 2年次

選考方法: レポート

①題目(テーマ): 以下の内容でまとめてください。

【必須】

- ・この演習に応募した理由
- ・通常の課程の学生は、1年次に履修した「基礎文献講読」や、過去に受講した演習系科目の内容およびそれに対する所感。グローバルコース学生は、過去に受講したことがあれば演習系授業の所感、演習を受講したことがない場合はもつ

とも印象に残っている法学部授業についての所感。(できるだけ率直に書いてください)

【任意】

- ・自己紹介
- ・読んでみて面白いと思った本や好きな映画の紹介
- ・大学・法学部のカリキュラム、各教員の授業方針や講義内容など、学修環境に対する不満
- ・大学生活における悩み

※レポート作成にあたっては、適度に段落分けをしてください。

②字数:800～2000 字

演習論文:実施しない。

演習

Seminar

東南アジア諸国 (ASEAN 諸国) の法, 政治および経済制度を考察する

荻村 慎一郎 (OGIMURA SHINICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX668
授業形態	対面 (全回対面)	授業形態 (補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○ (履修中止可 / Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

比較研究 (法学, 政治学, 経済学) の手法を用いつつ, 東南アジア諸国 (ASEAN 諸国) の社会的特徴を検討することを通じて, 世界のそれぞれの国に対してグローバル化がもたらす制度的影響について, 客観的に分析および考察する姿勢を鍛えます。

Using comparative research methods (law, politics and economics), we try to analyze social similarities and differences between ASEAN countries.

That will help us enhance penetrating insights into institutional issues in a country that result from the phenomenon of globalization.

授業の内容 / Course Contents

授業で学んでいる法学や政治学の知識を活用しながら, 東南アジア諸国について調査し, 考察を加えます。今年度は, 保護貿易主義 (戦略的貿易政策) が世界, そして東南アジア諸国に及ぼす影響について検討を行います。どのようなテーマを探究するかは, 参加者のみなさんが話し合っ, 主体的に決めて頂きます。経済学, 歴史学の成果を段階的に学んだうえで, 法学・政治学の専門的な問題に取り組みます。タイ, マレーシア, インドネシア, ベトナムは調査対象国として必ず扱う予定です。

We will conduct basic research on legal and political problems of the ASEAN countries.

This year will be devoted to having a deeper look at the impact of trade protectionism (strategic trade policy) on the World, especially on Southeast Asian countries.

This seminar will be developed in stages from the basics to application.

Students should decide what theme to explore after some discussion.

In the first half of the seminar, we will see the problems from economic and historical perspectives based on the textbook.

The second half of the seminar will deal with team-by-team themes in the fields of law and politics.

Our study will focus mainly on the following countries (Thailand, Malaysia, Indonesia, and Vietnam).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: この演習全体および春学期の展望とアプローチについて
- 【2】: 世界共通の経済的潮流を検討するための分析枠組みの基本
- 【3】: 国際経済における保護主義の手段と歴史①: 関税による国内産業の保護
- 【4】: 国際経済における保護主義の手段と歴史②: 関税以外の貿易政策による国内産業の保護
- 【5】: 国際経済における保護主義の手段と歴史③: 非関税障壁政策による国内産業の保護
- 【6】: 課題の全体像の整理と把握①
- 【7】: 先進国の戦略的貿易政策①: 米国その 1

- 【8】: 先進国の戦略的貿易政策②: 米国その 2
【9】: 先進国の戦略的貿易政策③: 欧州連合 (EU) その 1
【10】: 先進国の戦略的貿易政策④: 欧州連合 (EU) その 2
【11】: 先進国の戦略的貿易政策⑤: 日本その 1
【12】: 先進国の戦略的貿易政策⑥: 日本その 2
【13】: 課題の全体像の整理と把握②
【14】: 中間報告と中間のまとめ
【15】: 秋学期の展望とアプローチについて
【16】: 東アジアの有力新興国の戦略的貿易政策①: 台湾, 韓国
【17】: 東アジアの有力新興国の戦略的貿易政策②: 中国その 1
【18】: 東アジアの有力新興国の戦略的貿易政策③: 中国その 2
【19】: 課題の全体像の整理と把握③
【20】: 東南アジア諸国 (高所得国から後発開発途上国にわたる地域) の戦略的貿易政策①
【21】: 東南アジア諸国 (高所得国から後発開発途上国にわたる地域) の戦略的貿易政策②
【22】: 東南アジア諸国 (高所得国から後発開発途上国にわたる地域) の戦略的貿易政策③
【23】: 課題の全体像の整理と把握④
【24】: 東南アジア諸国 (高所得国から後発開発途上国にわたる地域) の戦略的貿易政策④
【25】: 東南アジア諸国 (高所得国から後発開発途上国にわたる地域) の戦略的貿易政策⑤
【26】: 東南アジア諸国 (高所得国から後発開発途上国にわたる地域) の戦略的貿易政策⑥
【27】: 最終報告とこの演習全体のまとめ①
【28】: 最終報告とこの演習全体のまとめ②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド (パワポ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

探求するテーマを決めたうえで、調査対象国 (群) 別にチームを編成し、グループ・ワークを中心に進めていきます。そして各チーム内で各自が担当する資料について、無理のない範囲で調査および報告 (発表) 等をして頂きます。したがって、毎週 1 時間程度の個人的な学修時間を確保するようにしましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 各回における各自の取組み: 50% 中間報告: 20% 最終報告: 30%

テキスト / Textbooks

Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc J. Melitz クルーグマン国際経済学 理論と政策 [原書第 10 版] ハードカバー版 丸善出版 2016 9784621300596

教科書を購入する必要はありません。必要な部分について、教員が配布します。

参考文献 / Readings

Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc J. Melitz International Economics: Theory and Policy (10th Edition) Pearson 2014 9780133423648

伊藤萬里, 田中鮎夢 現実からまなぶ国際経済学 有斐閣 2023 9784641200012

岡崎哲二 江戸の市場経済: 歴史制度分析からみた株仲間 講談社 1999 9784062581554

トラン・ヴァン・トウ, 荻込俊二 中所得国の罫と中国・ASEAN 勁草書房 2019 9784326504589

遠藤環, 伊藤亜聖, 大泉啓一郎, 後藤健太 (編) 現代アジア経済論: 「アジアの世紀」を学ぶ 有斐閣 2018 9784641184428

田中明彦, 川島真 (編) 20 世紀の東アジア史: 全 3 巻 東京大学出版会 2020

その他 / Others

< 選考方法 >

採用人数: 20 名程度

配当年次: 2 年次, 3 年次, 4 年次

選考方法: レポートによる

① 題目: 米国の保護貿易政策が日本, 中国, 東南アジア諸国に与える影響について

以下のリンク先に掲示している読売新聞の記事 (2024 年 12 月 15 日付) を読んだうえで、

米国の保護貿易政策が日本、中国、東南アジア諸国に与える影響について、このゼミで仲間と一緒に調べてみたいことを教えてください。

<https://drive.google.com/drive/folders/1UPD0AYtpIcJHeZNNn3DULjDIFoBvZFLH?usp=sharing>

(V-Campus ID の Google アカウントで利用してください)

最初に、参考にした情報源(新聞記事、ウェブ記事など)を1つ挙げ、引用元を掲げたうえで、内容を簡潔に要約してください。

次いで、その情報源に興味を持った理由とこの演習で調査および考察してみたい課題を説明してください。

最後に、志望にあたっての意気込みや個人的背景等がある場合は、それらについても教えてください。

②字数:1,200 字程度(A4 用紙で表面 1 枚を厳守してください)

演習論文:実施しない

演習

Seminar

比較憲法学入門: 主要先進諸国の統治機構を理解する

荻村 慎一郎 (OGIMURA SHINICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX669
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

比較研究(法学, 政治学)の手法を用いて, 主要先進諸国の統治機構の特徴について学びます。

それによって, 日本国憲法そのものの理解を深めることを目指します。

Using comparative research methods (law and politics), we will examine the different forms of government structures in Western countries.

That makes us understand the 1947 Constitution of Japan more deeply.

授業の内容 / Course Contents

近現代(modern age)という長期の時間軸の中で, 主要先進諸国の統治機構の変化を理解します。

そのために, 歴史学と地理学(地政学)の成果も活用します。

前半は, 歴史学と地理学(地政学)の分野が対象です。専門論文等の内容を理解する作業が中心となります。

後半は, 比較憲法学の分野が対象です。各国の統治機構について調査し, 考察を加えます。

今年度は, 英国, 米国, フランスを調査対象国とする予定です。

なお, 本演習では, 特に立法権と行政権について扱います。

また, 日本国憲法の基礎知識(憲法(2)の範囲)についても段階的に確認していきます。

We will understand the historical change and geographical diffusion of G7 countries' polities in a time span of four centuries.

In the first half of the seminar, we will see the problems from historical and geographical perspectives based on some academic papers.

The second half of the seminar will cover conventional Comparative Constitutional Law, especially polity theory.

Students will focus on legislative and executive branches of the following countries (U.K., U.S.A., and France).

This seminar also prioritizes accurate acquisition of basic knowledge of Constitutional Law (2).

授業計画 / Course Schedule

【1】:この演習全体の展望:近代民主主義が機能する歴史のおよび制度的前提

【2】:近代以前の西欧地域①:英語圏(英国, 米国)

【3】:近代以前の西欧地域②:ロマンス語圏(フランス, スペイン, イタリア)

【4】:近代以前の西欧地域③:ドイツ語圏と近代以前の西欧以外の欧州地域

【5】:中間のまとめ①:19世紀における環大西洋文明圏の統治機構の状況

【6】:中間のまとめ②:大日本帝国時代の統治機構の特徴

【7】:英国の統治機構の特徴①

【8】:英国の統治機構の特徴②

【9】:アメリカ合衆国の統治機構の特徴①

- 【10】:アメリカ合衆国の統治機構の特徴②
 【11】:フランスの統治機構の特徴①
 【12】:フランスの統治機構の特徴②
 【13】:この演習全体のまとめ①:現代日本の統治機構の特徴
 【14】:この演習全体のまとめ②:比較憲法学と比較法学の関係について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

調査対象国別にチームを編成し、グループ・ワークを中心に進めていきます。
 そして各チーム内で各自が担当する資料について、無理のない範囲で調査および報告(発表)等をして頂きます。
 したがって、毎週 1 時間程度の個人的な学修時間を確保するようにしましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回の報告(春学期中, 1 チームあたり 2 回行って頂きます):60% 毎回の授業での取り組み:40%

テキスト / Textbooks

各種文献および資料を適宜配布します。

参考文献 / Readings

新井誠, 上田健介, 大河内美紀, 山田哲史(編) 世界の憲法・日本の憲法: 比較憲法入門 有斐閣 2022
 9784641228344

長谷部恭男 憲法 第 8 版 新世社 2022 9784883843381

笹田栄司, 原田一明, 山崎友也, 遠藤美奈 トピックからはじめる統治制度:憲法を考える 第 2 版 有斐閣 2019
 9784641227804

安念潤司, 小山剛, 青井未帆, 宍戸常寿, 山本龍彦 憲法を学ぶための基礎知識 論点 日本国憲法〔第二版〕東京
 法令出版 2014 9784809063077

原田一明 議会制度:議会法学入門 信山社出版 1997 9784797250220

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:16 名程度

配当年次:2 年次

選考方法:レポートによる

①題目:コロナ禍における私権制限(外出禁止令, 行動制限令, 行動自粛要請など)のあり方について
 英国, 米国, フランスの 3 か国の中から, この演習で取り組んでみたい国を 1 つ選んで, その国の私権制限措置に関連
 する立法権または行政権の問題について, 以下の手順で論じてください。

最初に, 新聞記事を 1 つ挙げ, 新聞名, 見出し, 日付を掲げたうえで, 内容を簡潔に要約してください。

次いで, その記事に興味を持った理由とこの演習で調査および考察してみたい課題を説明してください。

最後に, 志望にあたっての意気込みや個人的背景等がある場合は, それらについても教えてください。

新聞については, 図書館で提供されているデータベース(読売, 朝日, 日経, 毎日, 東京(中日), 産経)の中から選んで
 ください。

新聞記事の検索用語としては, 「私権制限」に加えて, 以下の用語を活用されるとよいでしょう。

外出禁止令, 行動制限, 自粛要請, 緊急事態, 緊急条項

②字数:1,200 字程度(A4 用紙で表面 1 枚を厳守してください)

演習論文:実施しない

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

Learning U.S. Securities Regulation Through Movies and Novels / 映画や小説を通じて米国証券規制を学ぶ

三橋 葉子(MITSUHASHI YOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX670
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

米国の金融・資本市場は規模が大きく、イノベーションが次々に起こり、世界経済の重要な柱である。このような市場を規律する米国証券規制も又、広範囲で複雑なものとなっている。本演習では、映画や小説などを題材として、米国証券規制の全体像について知見を得るとともに、多様な経済・社会・文化との邂逅を楽しむことを目標とする。
The U.S. financial and capital markets are vast and constantly innovating, forming a crucial pillar of the global economy. The U.S. securities regulations governing them are equally wide-ranging and complex. In this seminar, by using movies and novels as materials, the goal is to gain insight into the overall picture of U.S. securities regulation and to enjoy encounters with diverse economic, social, and cultural perspectives.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、報告者が指定された教材の内容について報告し、その後に全体でのディスカッションを行う。

In this seminar, participants are expected to read and present on the specified materials that are allocated to each of them, followed by the discussions among the participants.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Wall Street and Market Misconduct (1)
"Wall Street"
- 【3】:Wall Street and Market Misconduct (2)
"Wall Street"
- 【4】:Wall Street and Market Misconduct (3)
"Wall Street"
- 【5】:Accounting Scandals and Corporate Governance (1)
"Enron"
- 【6】:Accounting Scandals and Corporate Governance (2)
"Enron"
- 【7】:Financial Crisis and Lessons Learned (1)
"Stress Test"
- 【8】:Financial Crisis and Lessons Learned (2)
"Stress Test"
- 【9】:Financial Crisis and Lessons Learned (3)
"Big Short"

【10】:Financial Crisis and Lessons Learned (4)

"Big Short"

【11】:Financial Crisis and Lessons Learned (5)

"Big Short"

【12】:Technological Development of the Market (1)

"Flash Boys"

【13】:Technological Development of the Market (2)

"Flash Boys"

【14】:Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポイント等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

The teaching methods may change depending on the number of participants and other circumstances.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

All participants are expected to read specified section of the materials before classes to facilitate discussions.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:60% Preparation and Presentation:40%

テキスト / Textbooks

Handouts will be distributed for each session.

参考文献 / Readings

Alan R. Palmiter Examples & Explanations for Securities Regulation (Examples & Explanations Series) 8th Edition

ASPEN Publishing 2021 9781543807684

山本 雅道 『アメリカ証券取引法入門—基礎から学べるアメリカのビジネス法(改訂版)』 第一法規 2019

9784474067615

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Participants are not required to have specific level of English nor background knowledge, but are expected to have strong curiosity in learning each topic.

その他 / Others

The order of course schedule may change depending on the progress of the lecture. Other themes and materials may be taken up in view of the progress of current events.

<Selection Method(選考方法)>

The maximum number of students(採用人数):Up to 20 people

Eligible year(配当年次):2nd to 4th year

Selection Method(選考方法):Report

①Theme(題目):Self-introduction and why you would like to take this course 自己紹介および志望動機

②Word count(字数):Around 150 words(日本語の場合、300字程度)

演習

Seminar

民法判例－判例を素材として民法を楽しむ－

水野 賢一 (MIZUNO KENICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX672
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	実務家が担当		

授業の目標 / Course Objectives

民法判例を素材として、事案に関連する基礎知識や問題点についての議論やディベートをすることで、民法の理解を深めることを通して法律的な思考を楽しむ。

The objectives of this seminar are to deepen the students' understanding of Civil Law and to enjoy legal thought through discussions and debates about fundamental knowledge and problems pertaining to cases using Civil Law judicial precedents as source material.

授業の内容 / Course Contents

ゼミ員が選択して報告する民法判例に基づいた事案や基礎知識の検討と議論とが、授業の中心となる。

ゼミ員は、基本的に単独で春学期と秋学期に各1回以上、各自が選択した民法判例の報告を行う。また、秋学期初めには、民法判例を素材としたディベートを行う。

議論が授業の中心であるため、「法律解釈論に誤りはない」との考えで、臆せずに積極的に発言をする学生の参加を期待する。出席・発言・判例報告(ディベート参加)で、単位修得となる。

The classes will focus on an examination and discussion of judicial precedents based on Civil Law judicial precedents selected and reported on by the seminar students.

Fundamentally, each seminar student will present a report on an individually selected Civil Law judicial precedent one or more times during the spring semester and the fall semester. In addition, a debate will be held during the beginning of the fall semester based on a Civil Law judicial precedent.

Because discussion will be the focus of the class, students are expected to participate by boldly and actively speaking up based on the idea that "there are no mistakes in legal interpretive theory."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【3】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【4】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【5】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【6】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【7】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【8】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【9】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【10】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
- 【11】: 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論

- 【12】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【13】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【14】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【15】:ディベート
 【16】:ディベート、もしくは、判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【17】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【18】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【19】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【20】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【21】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【22】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【23】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【24】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【25】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【26】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【27】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
 【28】:判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

個人発表を原則とするが、担当割の関係でグループ発表とすることもある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表の内容:40% 授業態度(発言の積極性など):60%

原則として3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数: 24名

配当年次: 2-4年次

選考方法: レポート

①題目: 選択動機。なお、選択動機の本文とは別に次のことを記載する。

- 1 報告希望民法判例を1つ(例・最判平25. 2. 28民集67-2-343 相殺適状の要件)
- 2 民法判例百選Ⅰ～Ⅲの所持の有無と所持する版数(例・Ⅰ第8版 Ⅱ第9版 Ⅲ無)

②字数: 字数制限なし(A4用紙1枚以内)

演習論文:実施しない

演習

Seminar

企業法務入門(紛争解決を中心に)

鍋島 智彦(NABESHIMA TOMOHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX673
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	実務家が担当		

授業の目標 / Course Objectives

企業の活動に伴って発生する法律問題や企業が直面する民事・商事紛争の解決方法について、基本的な知識や実務を理解することを目的とします。

To understand basic knowledge and practice in relation to legal issues and dispute resolution arising out of business operations.

授業の内容 / Course Contents

企業活動に伴いどのような法律問題が発生するのか、その法律問題を解決するためにどのような方法があるのかについて、様々な事例に基づき、実務的な観点から検討します。授業では、仮定のケースを用いた相談、交渉、主張や発表も実施することを予定しています。また、宇宙法等新たな分野についても触れたいと思っています。

議論を中心とする予定ですので、積極的な発言及び参加を期待しています。

To deal with legal issues arising out of business operations and how to resolve these issues by referring to specific cases. In this course, we will, based on sample cases, conduct mock negotiation/submissions/presentation, and students will prepare for them. This course will also deal with a new, unique field such as Space law.

The students are expected to actively participate and make comments/opinion as well.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 教員・受講生の自己紹介、授業の目標及び内容の共有
- 【2】: 企業法務の概説
- 【3】: 事例の検討と議論
- 【4】: 事例の検討と議論
- 【5】: 事例の検討と議論
- 【6】: 事例の検討と議論
- 【7】: 事例の検討と議論
- 【8】: 事例の検討と議論
- 【9】: 事例の検討と議論
- 【10】: 模擬交渉
- 【11】: 模擬交渉
- 【12】: 模擬交渉
- 【13】: 模擬交渉
- 【14】: まとめと講評
- 【15】: 紛争解決概説
- 【16】: 調停概説(国内・国際)

- 【17】:国際仲裁概説
- 【18】:国際仲裁概説
- 【19】:模擬紛争解決
- 【20】:模擬紛争解決
- 【21】:模擬紛争解決
- 【22】:模擬紛争解決
- 【23】:模擬紛争解決
- 【24】:模擬紛争解決
- 【25】:模擬紛争解決
- 【26】:模擬紛争解決
- 【27】:宇宙法概説
- 【28】:まとめと講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の準備

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加及び授業態度:50% 各授業での発表の内容:30% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

企業法務・紛争解決(訴訟以外の交渉、調停、仲裁等を含む)に興味のある方

その他 / Others

採用人数/Number of students:10~15 名程度/Approximately 10-15 students

配当年次/Eligible year:2~4 年次/2nd - 4th year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:下記の2点いずれも記載してください。

1. 自己紹介(志望動機、希望する進路等、何でも結構です。)
2. 関心のある法律問題(刑事民事問わず、簡単に理由とお考えを記載してください。)

②字数: A4 用紙 1 枚以内(字数制限なし)

演習論文/Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

国際法模擬裁判 (Japan Cup)

岩月 直樹 (IWATSUKI NAOKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX674
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際法模擬裁判へ参加し、原則及び規則の実践的な解釈適用を通じて、国際法の理解を深める。

Learning public international law through moot court competition.

授業の内容 / Course Contents

7 月に東京で開催される国際法模擬裁判 Japan Cup (日本語) への参加を希望する学生を対象に、自主的に進める書面および弁論の準備作業に関する報告と準備内容の検討を行う。

なお、参加者が5名に満たない場合には、授業内容を変更することがある。

Preparing Memorials and Oral Pleadings on behalf of the Applicant State and the Respondent States upon the in-dephth analysis and reserch of the topics delat with in the Compromis (hypothetical facts as agreed between disputing States).

If partipants are less than 5, the course contents will be changed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 国際法の基本事項の説明
- 【2】: 事実関係の検討1: 事実の整理と論点の検討
- 【3】: 事実関係の検討2: 請求内容に関連する法的争点の特定
- 【4】: 法的争点の検討1: 法的争点に関わる知識の確認
- 【5】: 法的争点の検討2: 法的争点に関わる知識の確認
- 【6】: 書面準備1: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【7】: 書面準備2: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【8】: 書面準備3: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【9】: 書面準備4: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【10】: 書面準備5: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【11】: 書面準備6: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【12】: 弁論準備1: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
- 【13】: 弁論準備2: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
- 【14】: 大会への参加

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

① 模擬裁判において争点となる法的問題についての主体的な調査、検討

② 他の参加者とのサブゼミにおける協議、検討

*参加に際しては国際法の知識を事前に有することは求められないが、授業時間外における自主的な調査・学修と教員によるアドバイスを通じて、主体的に学ぶことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 書面作成への積極的貢献:35% 準備段階での議論への建設的貢献:30% 弁論準備における積極的貢献:35%

国際法模擬裁判の概要を紹介した下記の動画を事前に視聴しておくことが望ましい。

<<http://s.rikkyo.ac.jp/a191672>>

テキスト / Textbooks

岩沢雄司 国際法[第2版] 東京大学出版会 2023 9784130323987

文献・資料は授業内で適宜指示する。

参考文献 / Readings

*書面・弁論準備の中で自ら積極的に関連文献を調査することが求められる。

*国際法模擬裁判がどのような活動かについて、まず知りたい場合には、

<<https://www.youtube.com/watch?v=dnctJOQ1PI>>を参照するか、岩月に問い合わせること(naokiwa@rikkyo.ac.jp)。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

① 定まった解答のない問題について、判例や学説を調査しながら、自分なりの考えを持てるようになりたいという知的関心と意欲をもっていること。

② 模擬裁判大会へ参加することを希望する学生による自主的な活動を前提とするため、他の参加者との連絡、協力を適切に行うことができること。他のゼミ、サークル活動と並行して参加する場合には、この点に特に注意すること。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:2~4年

選考方法:レポート

①題目:国際法模擬裁判への参加を希望する理由。

*下記の参考にあるHPの記載を参照のこと。

②字数:1,200字以内。

演習論文:実施しない。

*大学時代に集中して特定の問題について調査し研究したという実感を得たい学生、また立教大学代表としての模擬裁判大会への参加に意欲的な学生を歓迎する。

*参考:<http://www.rikkyo.ne.jp/web/naokiwa/page_folder/moot_court.html>

演習

Seminar

International Law Moot Court

岩月 直樹 (IWATSUKI NAOKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX675
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition 日本国内予選へ参加し、原則及び規則の実践的な解釈適用を通じて、国際法の理解を深める。

Learning public international law through participating in Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition.

授業の内容 / Course Contents

米国で本大会が行われる Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition の日本国内予選(英語)に参加することを希望する学生を対象に、書面および弁論の準備作業に関する報告をふまえた準備内容の検討を行う。準備作業として、争点となる問題に関する専門的な英語文献・資料の検討を行うことが中心となる。

なお、参加者が5名に満たない場合には、授業内容を変更することがある。

Preparing Memorials on behalf of the Applicant State and the Respondent States upon the in-depth analysis and research of the topics dealt with in the Compromis (hypothetical facts as agreed between the disputing States).

If participants are less than 5, the course contents will be changed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 国際法の基本事項の説明
- 【2】: 事実関係の検討1: 事実の整理と論点の検討
- 【3】: 事実関係の検討2: 請求内容に関連する法的争点の特定
- 【4】: 法的争点の検討1: 法的争点に関わる知識の確認
- 【5】: 法的争点の検討2: 法的争点に関わる知識の確認
- 【6】: 書面準備1: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【7】: 書面準備2: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【8】: 書面準備3: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【9】: 書面準備4: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【10】: 書面準備5: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【11】: 書面準備6: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
- 【12】: 弁論準備1: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
- 【13】: 弁論準備2: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

模擬裁判大会へ参加することを希望する学生による自主的な活動を前提とするため、演習時間外でのサブゼミによる調査・検討へできる限り参加すること。その他、チームとして参加するため、作業を進める上では他の参加者との連絡・協力を適切に行うことが求められる。

積極的に英語文献を読み、英文での書面作成に取り組むことのできることを。

*2月中旬に京都で行われる日本国内予選に、ゼミ合宿として参加する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 書面作成への積極的貢献:35% 準備段階での議論への建設的貢献:30% 弁論準備における積極的貢献:35%

テキスト / Textbooks

岩沢雄司 国際法[第2版] 東京大学出版会 2023 9784130323987

James Crawford Brownlie's Principles of Public International Law Oxford University Press 2019 9780198737445

文献・資料は授業内で適宜指示する。

参考文献 / Readings

* 書面・弁論準備の中で自ら積極的に関連文献を調査することが求められる。

* Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition が何かを、まず知りたい場合には、次を参照<

<https://www.youtube.com/watch?v=3bj0Oak-ku0>>。または、岩月まで問い合わせること(naokiwa@rikkyo.ac.jp)。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

① 定まった解答のない問題について、判例や学説を調査しながら、自分なりの考えを持てるようになりたいという知的関心と意欲をもっていること。

② 模擬裁判大会へ参加することを希望する学生による自主的な活動を前提とするため、他の参加者との連絡、協力を適切に行うことができること。他のゼミ、サークル活動と並行して参加する場合には、この点に特に注意すること。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:2~4年

選考方法:レポート

①題目:Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition の日本国内予選への参加を希望する理由。

* 下記参考にあるHPの記載を参照のこと。

②字数:1,200字以内。

演習論文:実施しない。

* 大学時代に集中して特定の問題について調査し研究したという実感を得たい学生の参加を歓迎する。

* 参考:<http://www.rikkyo.ne.jp/web/naokiwa/page_folder/moot_court.html>

演習

Seminar

丸山眞男「忠誠と反逆」を精読する

松田 宏一郎 (MATSUDA KOICHIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX676
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1960 年という戦後日本政治の大きな転換期に発表された、丸山眞男「忠誠と反逆」は、政治体制の脆弱性、大衆の政治参加、日本の精神的土壌についてのアイデアが凝縮された論文であり、学術的な分析と同時代的な政治的関心が複雑にからみあっている。この論文を丁寧に読み、その記述の背景を調べ、著者の意図と知的背景を検討する。

Maruyama Masao's 'Loyalty and Treason', published in 1960, a year that marked a major turning point in post-war Japanese politics, is a paper that condenses ideas about the fragility of the political system, citizens' participation in politics, and the historically formed spiritual climate of Japan, and it is a complex mixture of academic analysis and contemporary political concerns. We will carefully read this paper, investigate the background to its writing, and examine the author's intentions and intellectual background.

授業の内容 / Course Contents

丸山眞男「忠誠と反逆」を講読し、具体的にテキストの用語や引用文の典拠を踏まえながら、そこで議論されている、戦後日本の政治的課題、民主主義の思想的浸透度、人々の政治的思考の歴史的な基礎について、分析し、討論する。古文・漢文などの知識は求めない。現代日本語が読めれば分かるように解説を加えながら進めていく。積極的に疑問を提起し、討論する姿勢を参加者に求める。

We will read and discuss 'Loyalty and Treason' by Maruyama Masao, analysing and discussing the political issues of post-war Japan, the ideological penetration of democracy, and the historical foundations of people's political thinking, while specifically referring to the terminology and sources of quotations in the text. Knowledge of classical Japanese or Chinese is not required. I will provide detailed explanations as we go along so that participants can understand if they can read modern Japanese. I ask participants to be proactive in raising questions and engaging in discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 演習についてのガイダンスと履修者の自己紹介
- 【2】: 課題テキスト講読と討論
- 【3】: 課題テキスト講読と討論
- 【4】: 課題テキスト講読と討論
- 【5】: 課題テキスト講読と討論
- 【6】: 課題テキスト講読と討論
- 【7】: 課題テキスト講読と討論
- 【8】: 課題テキスト講読と討論
- 【9】: 課題テキスト講読と討論
- 【10】: 課題テキスト講読と討論
- 【11】: 課題テキスト講読と討論

【12】:課題テキスト講読と討論

【13】:課題テキスト講読と討論

【14】:総合討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回発表者を決めてテキストの担当範囲の概略説明を求めるので、担当になったものはその準備が必要。

毎回発表者以外の全員が、質問ペーパー(課題テキストに関する感想、疑問点、意見など)を事前にオンラインで提出する。詳細については初回に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質問ペーパーの提出:30% プレゼンテーション:30% 授業中の討論:40%

参考文献に指定した、丸山眞『丸山眞男』に目を通しておくことが望ましい。

テキスト / Textbooks

丸山眞男 忠誠と反逆 筑摩書房 9784480083982

参考文献 / Readings

丸山眞 丸山眞男:リベラリストの肖像 岩波新書 2006 9784004310129

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学期中に2回程度の発表が課される他、討論に参加する意欲は求められるが、特別な前提知識や資格、能力が必要とされることはない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

報告レジュメや資料はすべてオンラインで事前配布するので、ノートPC やタブレットなどを持参すること。当日紙媒体の配布はしない。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:15 人程度

配当年次:2 年次以上

選考方法:レポート

①題目:自己紹介と本演習の履修を希望する理由

②字数:1000～1200 字程度

演習論文:なし

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
Introduction to International Human Rights Law

リベイロ, D. (RIBEIRO DILTON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX677
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course provides an introduction to international human rights and addresses some of the current challenges in the field. Human rights have been described as "the last utopia," representing humanity's last universal aspiration for justice and equality. While this vision inspires hope and places trust in the potential of a universal system, it also poses challenges and can lead to frustration when expectations remain unmet. International human rights law requires constant effort and advocacy to maintain its relevance and enforceability.

The main objective of this course is to understand the international structure of the human rights system and to analyze various issues from a human rights perspective.

The course focuses on the legal aspects of the international human rights system, exploring its organization, relevant laws, and methods for analyzing them to address different viewpoints. To achieve this, the class adopts three main approaches. First, students will learn about the structure of international organizations, particularly the United Nations, to understand how the international human rights system operates. Second, the course will cover key human rights laws and instruments that are integral to the international framework. Finally, students will learn how to apply these laws to real-world cases and issues, as well as how to "think like a lawyer" in human rights matters.

This course is designed to help students understand the organization of the human rights system, teach the main international human rights laws, and develop skills for analyzing these laws. Additionally, students will learn how to effectively advocate for their own interests or those of their clients.

Additionally, this course provides introductory knowledge for anyone interested in pursuing a career in international organizations, human rights non-profit organizations (NPOs), non-governmental organizations (NGOs), or the public sector.

Everyone is welcome to enroll; there are no prerequisites for this course. Upper-year and exchange students are encouraged to participate, and students from all backgrounds can join the class.

In a nutshell, the seminar has the following objectives:

- Students will understand the structure and role of international organizations, with a focus on the United Nations, in the human rights system.
- Students will gain familiarity with key international human rights instruments and their practical significance.
- Students will develop the ability to analyze and apply human rights laws to real-world cases and challenges.
- Students will enhance their advocacy skills, preparing them for roles in international organizations, human rights NPOs/NGOs, or governmental sectors.

授業の内容 / Course Contents

The course begins with a brief overview of the history of human rights and the development of the current international

system. It then provides a simple overview of key aspects of international law, equipping students with the necessary knowledge to follow the class. Additionally, the course will explore how to analyze real-life human rights issues from a legal perspective, recognize various viewpoints, and formulate legal arguments in human rights cases.

Following this introductory phase, the course will examine in detail the United Nations bodies involved in human rights. It will cover all human rights components of the United Nations Charter—the foundational document of the U.N.—. The seminar will also focus on specific bodies such as the Security Council, the Human Rights Council, and the Human Rights Committee, among others. Students will also have the opportunity to study peacekeeping operations.

The third section of the course delves into the main human rights laws within the United Nations system, particularly the International Bill of Rights, which includes the Universal Declaration of Human Rights, the International Covenant on Civil and Political Rights, and the International Covenant on Economic, Social and Cultural Rights. Students will engage with various key human rights instruments of the United Nations.

After discussing the United Nations (if time allows), the course will shift its focus to local (regional) human rights systems in Europe and the Americas. This section will cover the Council of Europe and the European Convention on Human Rights, as well as the Organization of American States and the American Convention on Human Rights. The seminar will also discuss a potential Asian system of human rights.

Finally, the course will address how to analyze these international laws in real-life situations, providing students with the advocacy skills necessary for practical work in the field.

Class contents will include discussions of human rights violations. Please be aware sensitive topics can be discussed.

授業計画 / Course Schedule

- [1]:**Week 1: Introduction and What are Human Rights?
- [2]:**Week 2: Evolution of Human Rights & Human Rights in Practice
- [3]:**Week 3: An Introduction to International Law (Subjects of International Law)
- [4]:**Week 4: An Introduction to International Law (Sources of International Law)
- [5]:**Week 5: The United Nations Human Rights System (Part 1)
- [6]:**Week 6: The United Nations Human Rights System (Part 2)
- [7]:**Week 7: The UN's Human Rights Instruments (The Universal Declaration of Human Rights and the Human Rights Treaty System)
- [8]:**Week 8: The UN's Human Rights Instruments (The International Covenant on Civil and Political Rights & the International Covenant on Economic, Social and Cultural Rights)
- [9]:**Week 9: The European Human Rights System (The Council of Europe)
- [10]:**Week 10: The European System (The European Convention on Human Rights)
- [11]:**Week 11: The European System & Discussions
- [12]:**Week 12: Human Rights in the Americas – The Inter-American Human Rights System (Part 1)
- [13]:**Week 13: Human Rights in the Americas – The Inter-American Human Rights System (Part 2)
- [14]:**Week 14: The Asian and African Human Rights Systems & Course Wrap-Up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend about 110 minutes per week on required and optional readings, assignments, and others.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class Participation:60% Take-Home Final Report:40%

テキスト / Textbooks

All materials will be provided online (on Canvas).

参考文献 / Readings

Rhona K.M. Smith International Human Rights Law Oxford University Press 2020

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Since this is an introductory course, no prior legal knowledge is required. Upper-year and exchange students are encouraged to join. Students from the Faculty of Law, the International Business Law Program, the Global Law

Program, and other departments at Rikkyo University are all welcome.

Additionally, the instructor is committed to accommodating and supporting students who may feel unsure about their English language skills.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

採用人数／Number of students: 45 名程度／Approximately 45 students

配当年次／Eligible year: 2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method: 申請のみ／ Application Only

※Please apply according to the guidelines (ガイドラインに沿って申請してください)

※Lottery in the case of a large number of applicants

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
Comparative Law I – Legal traditions of the world

オルトラニー (ORTOLANI ANDREA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX678
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of the course is to introduce the participants to the major legal traditions of the world.

授業の内容 / Course Contents

The course will present the major legal traditions of the world in historical and comparative perspective.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to comparative law: legal families
- 【2】:The civil law model I: Bologna and the Ius Commune
- 【3】:The civil law model II: The age of codifications
- 【4】:The civil law model III: France and Germany
- 【5】:The common law model I: Birth of the common law
- 【6】:The common law model II: Modern English law
- 【7】:The common law model III: Common law in the US
- 【8】:The Western legal tradition
- 【9】:Socialist law: Historical background and basic character
- 【10】:Islamic law I: Birth and development of classic Islamic law
- 【11】:Islamic law II: Islamic law today
- 【12】:Legal formants and legal transplants
- 【13】:Mixed legal systems and legal pluralism I
- 【14】:Mixed legal systems and legal pluralism II

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Participants will have to give individual or group presentations on selected topics. At regular intervals, in-class short tests will be held.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Participants will be required to read materials in English in preparation for the lessons.

Participants will have to submit short papers at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Self-evaluation:25% Short papers:25% Short tests:30% 最終レポート割合::10%最終テスト割合::10%

テキスト / Textbooks

Patrick Glenn Legal Traditions of the World: Sustainable Diversity in Law Oxford 2014 9780199669837

Mathias Siems Comparative Law Cambridge 2022

Purchase of the textbook is not mandatory.

The instructor will provide all reading materials.

参考文献 / Readings

The instructor will provide additional reading materials.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

The students must have the ability to follow the lectures, engage in simple discussions and present on selected topics.

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

Selection Method(選考方法): 申込による ※ 多数の場合は抽選

The maximum number of students(採用人数): 30人程度

Eligible year(配当年次): 2年次以上

The use of laptops, tablets, phones and other electronic devices during the lesson, unless explicitly allowed on a case-by-case basis, is strictly prohibited.

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
Understanding Mergers & Acquisitions

アレン, A. (ALLEN ANDREW)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX679
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Mergers & acquisitions transactions are generally seen as one of the most important transactions within business and corporate law among legal practitioners. After completion of this seminar, students should have a basic understanding of the legal and business issues involved in these kind of transactions.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will learn about the transactional approach to many of the legal and business issues that arise in mergers & acquisitions. Additionally, students will be asked to present on a topic of their choice that we covered in class. Depending on availability, there may be guest lecturers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Introduction and Mergers and Asset Sales (Part 1)
- 【2】:Mergers and Asset Sales (Part 2); Appraisal Rights
- 【3】:Fiduciary Duties
- 【4】:Documentation and Negotiations (Part 1)
- 【5】:Documentation and Negotiations (Part 2)
- 【6】:Documentation and Negotiations (Part 3)
- 【7】:Conflicts of Interest between Directors, Officers and Shareholders
- 【8】:Defenses to Mergers & Acquisitions
- 【9】:Deal Management
- 【10】:M&A Deal Reading and Discussion (Part 1)
- 【11】:M&A Deal Reading and Discussion (Part 2)
- 【12】:Student Presentations (Part 1)
- 【13】:Student Presentations (Part 2)
- 【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Depending on the size of the class, presentations may be done individually or in a group.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class and come to class ready to ask questions and share their opinions. I expect students to share their ideas and debate in class. Any information in the readings may be included on the quizzes and the final test.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Homework:10% Quizzes:15% Student Presentations:35% Participation:20% Final Test:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading pack to be provided.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

Study abroad students will be considered for this seminar on a case-by-case basis.

その他 / Others

Participation: Class attendance, participation, and preparation are expected. If you are unable to attend class, please contact me by email before absences occur, or as soon as possible after class starts if you have an unexpected emergency. Unauthorized absences will be considered in calculating a student's class participation score. Please note that all students must attend at least 2/3 of the lectures in order to earn credit for this course.

Guest Lectures: If scheduled, students are strongly encouraged to attend guest lectures. Any information presented during guest lectures may be included on quizzes and/or the final test.

Student Presentation: Students will be required to make a 45-minute individual or group presentation (depending on how many students register to take this seminar) in front of the class about a topic that we covered during this seminar. After the presentation is finished, the presenter(s) will be asked questions from the other students and me. Students will be graded based on their level of preparation and presentation, as well as the quality of their written materials.

Quizzes: Students will take 4 quizzes that will cover information discussed throughout the seminars. Please note that the lowest score will automatically be dropped and the remaining scores will be averaged.

Final test: The final test will be held during the time of the final class and will cover material discussed during the entire seminar. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the quizzes, (c) attended all of the seminars, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each class, then they should be prepared for the final test.

Homework: Students are expected to submit homework in response to questions I will provide regarding the reading. Please note that homework, if assigned a certain week, will be due at least 24 hours prior to the next class. So long as a student has completed the assignment on time and in good faith, then full credit will be given. If the homework is received less than 24 hours before the next class begins, 50% credit will be given. If the homework is received after the seminar, then 25% credit will be given.

Syllabus: The syllabus represents current plans and objectives for each week, but as we go through the semester, the plans may need to be changed to maximize the class learning opportunity. Such changes, if necessary, will be clearly conveyed to the class.

<Selection Method(選考方法)>

The maximum number of students(採用人数): 15 students

Eligible year(配当年次): Second year students or above

Selection Method(選考方法): Registration (students will be selected by a lottery if the number of registered students for this seminar exceeds 15 students)

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
Corporate Governance

アシュリー (ASHLEY GREGORY M.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX680
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Enjoyable and comfortable interactive discussions and role-plays (e.g., board of director meetings); "Socratic Method" to explore real-world case studies.
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By analyzing corporate governance systems and many interesting real-world case studies - both successes and failures - from various parts of the world, we will discover the vital and growing links between corporate governance and international business. We will also develop skills helpful in identifying and thereafter remedying corporate governance weaknesses/vulnerabilities within the organizations you may join in the future.

Additionally, by considering significant trends and topics pertaining to corporate governance such as Environmental, Social, and Governance (ESG), shareholder and stakeholder activism, Diversity, Equity, and Inclusion (DEI), Corporate Social Responsibility (CSR), Corporate Socio-Political Activism (CSA), AI ethics, and privacy and data protection regulatory compliance, we will come to understand how company valuations and reputations are being shaped by corporate governance in the modern business world.

授業の内容 / Course Contents

Through interactive lectures, role plays, and small group exercises, we will explore corporate governance as it is viewed and implemented in various countries and companies around the globe - including the ongoing debate regarding shareholder primacy versus multi-stakeholder governance principles.

Numerous historic and modern case studies of corporate governance success stories and, in contrast, famous crises and scandals will provide valuable insights into best practices to pursue and red flags to be cautious of as future legal and/or business professionals.

We will consistently investigate the important links between corporate governance - a combination of business, legal, ethics, and even political and social factors - and actual business results, competitiveness, enterprise risk management (ERM) (e.g., reputation risks), share/enterprise value, and employer branding (including in terms of employee recruitment and retention).

In addition, our course will allow us to assess intriguing issues and trends related to corporate governance such as Environmental, Social, and Governance (ESG), stakeholder activism, Diversity, Equity, and Inclusion (DEI), Corporate Social Responsibility (CSR), Corporate Socio-Political Activism (CSA), AI ethics, and expectations/regulations around privacy and data protection.

[Please note that In-class Participation/Effort does not mean that students who speak the most or who always lead

discussions will be evaluated more favorably. Rather, a willingness to learn and engage in activities to the best of one's abilities - in class-wide settings, in small groups, and/or even via interactions with the lecturer himself (in person or by email) - along with improvement over the entire course will be highly regarded.]

授業計画 / Course Schedule

- [1]:**Orientation and Overview; Mini-Case Studies (e.g., Bangladesh's Rana Plaza)
[2]:Debates in Corporate Governance: Shareholder Primacy vs. Stakeholder Governance; Prioritization of Various Stakeholders (e.g., Employees, Communities, and Suppliers)
[3]:Real-World Corporate Governance Cases: Enron, Volkswagen, Dentsu; New Corporate Governance Expectations: Modern Slavery, Human Trafficking, Child Labor (e.g., in "Big Tobacco" Industry), and Supply Chain Human Rights and Environmental Issues
[4]:Japanese Corporate Governance (1): History and Current Status; Focus on Corporate Governance from Former Prime Minister Abe to Today; Rise of Shareholder Activism
[5]:Japanese Corporate Governance (2): Case Studies (Nissan/Carlos Ghosn; Toshiba, Olympus, Takata Airbags, Kobe Steel, Big Motor, Daihatsu)
[6]:US Corporate Governance (1): History and Current Status; Influence of Shareholder Activism
[7]:US Corporate Governance (2): Case Studies (Enron, X/Twitter, Theranos, Amazon, Meta)
[8]:European, Asian, Middle East, and Other Corporate Governance (1): Overview and Case Studies (Parmalat, Satyam)
[9]:European, Asian, Middle East, and Other Corporate Governance (2): Case Studies (Wirecard, BP, Airbus)
[10]:European, Asian, Middle East, and Other Corporate Governance (3): Case Studies (Luckin Coffee; SM Entertainment and the K-Pop Industry)
[11]:Trends in Corporate Governance (1): Environmental, Social, and Governance (ESG); Corporate Social Responsibility (CSR); Corporate Socio-Political Activism (CSA); Greenwashing and Social-Washing
[12]:Trends in Corporate Governance (2): Shareholder and Other Stakeholder Activism (Fujitec and 7 & i Holdings); Climate Litigation and Activism (McDonald's Animal Treatment; "Just Stop Oil"; Engine No. 1 versus Exxon)
[13]:Trends in Corporate Governance (3): AI and AI Ethics (Amazon's "Project Nessie"; Allegations of Discrimination/Bias - HireVue Case; OpenAI/ChatGPT Copyright Infringement?)
[14]:Trends in Corporate Governance (4): Privacy and Data Protection (Meta and Ethiopia's Civil War; X/Twitter, Saudi Arabia, and Government Critics' Imprisonment); plus Course Summary/Review: Corporate Governance Tomorrow

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Your professor will provide reading materials based on the progress and/or theme of each class. Students are asked to (i) read and think about the materials and (ii) prepare for class/group discussion before each session.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Exam:25% In-class Participation/Effort:20% Assessments of Corporate Governance Case Studies:20% 最終テスト割合::35%

テキスト / Textbooks

Your professor will provide copies of reading materials.

参考文献 / Readings

Various / Harvard Law School Harvard Law School Forum on Corporate Governance Harvard Law School Cornelis A. de Kluyver A Primer on Corporate Governance Business Expert Press 2013

The above are simply for reference and/or further studies should you be interested. Your professor will provide copies of short excerpts from certain reading materials.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

採用人数/Number of students: 20~35 名程度/Approximately 20-35 students

配当年次/Eligible year: 2~4 年次/2nd - 4th year

選考方法／Selection method: Via Seminar Registration (a "Lottery" if the number of applicants exceeds the maximum)

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
オーストラリアの政治/Australian politics

杉田 弘也(SUGITA HIROYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX681
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

オーストラリア政治に関する英語文献の講読を通じ、現代社会・政治について考える。

The objective of this seminar is to analyse and discuss contemporary Australian society and politics by reading literatures in English about Australian politics.

授業の内容 / Course Contents

2025 年前半には、オーストラリアの連邦総選挙が実施される。2022 年 5 月の連邦総選挙において、8 年 9 か月ぶりに政権に復帰したアンソニー・アルバニー率いるオーストラリア労働党が、再選を果たすか注目される。もう一つの注目点は、2022 年に躍進し無所属候補として当選を果たし、オーストラリアの政党制度を根本から変えたように思われる女性議員たちのパフォーマンスである。後期に設定されているこの演習は、当然選挙後に開講されるので、選挙結果の分析を通じてオーストラリアの現代社会を考察するような英語文献を読み、ともに考えていきたい。

In Australia, the general election will be held in the first half of 2025. The main focus of the election is that if the Australian Labor Party led by Anthony Albanese, which had returned to power in May 2022 for the first time since September 2013, is re-elected. Another interesting point is the performance of the group of articulate professional women who obtained seats previously held safely by the Liberal Party and appeared to cause the realignment of Australia's party system in 2022. This seminar will be held after the election so we can look into the contemporary Australian society via literatures analysing the 2025 election.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 1
- 【3】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 2
- 【4】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 3
- 【5】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 4
- 【6】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 5
- 【7】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 6
- 【8】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 7
- 【9】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 8
- 【10】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 9
- 【11】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 10
- 【12】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 11
- 【13】: オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 12
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配付された文献を読み、疑問点や自分の意見を明確にしたうえで授業に臨むこと

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への参加:30% 報告:35% 最終レポート割合::35%

テキスト / Textbooks

印刷教材をそのつど配布する

参考文献 / Readings

授業中随時紹介する

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:10 名程度

配当年次:2～4 年次

選考方法:レポート

①題目: この演習を志望する理由

②字数: 1000 字(A4 用紙 1 枚)程度

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

現代世界と宗教

澤田 初美(SAWADA HATSUMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX682
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- (1)世界の主要な宗教と、それに関連する現代のグローバルな問題について基礎知識を習得する。
 - (2)他の参加者との協働を通じて、リサーチ、ノートテイク、プレゼンテーションなどのアカデミック・スキルを向上させる。
 - (3) 英語力の向上。
- (1) To acquire a basic knowledge of the major world religions and their contemporary global implications
 - (2) To improve academic skills by cultivating research, note-taking, and presentation skills through collaboration with fellow students
 - (3) To improve English language skills

授業の内容 / Course Contents

使用言語

日本語および「簡単な」英語の二言語を使用します。ノート作成やプレゼンテーションは英語で行うことが望ましいですが、必要に応じ日本語を使ってもかまいません。ペアワークは主に英語、グループディスカッションは日本語で行います。語学に自信がない学生も歓迎しますので、安心して参加してください。

アクティブラーニング

このコースでは、学生自身の自律的な学びを支援する、いわゆるアクティブラーニング方式を採用します。講師はほとんど講義を行わず、学生自身が各自の集めた情報についてお互いに説明しあいます。授業中は、(1)個人ワーク、(2)ペアワーク、(3)グループワークが課されます。

授業中に行う課題と作業

マインドマップやリサーチノートの作成、ミニプレゼンテーションなど。いずれにおいても学生が主体となって作業します。

リサーチ資料

講師が授業中に、またはオンライン上で参考資料を提示します。あるいは、学生が自分自身で資料を用意することも可能です。

Languages:

The course will be conducted bilingually in Japanese and simple English. While you are encouraged to take notes and give presentations in English, you are free to use Japanese as needed. During pair work sessions, bilingual communication is expected, whereas group discussions will be conducted in Japanese. Regardless of your level of English proficiency, you are welcome to join us.

Active learning:

This course places a strong emphasis on student autonomy. Lectures from the instructor will be rare, as the focus is on your explaining what you have learned about your research topics. Each class will involve working independently, in pairs, and in groups.

In-class tasks and assignments:

Various student-centered tasks will be assigned, including research note-taking, mind mapping, and mini-presentations.

Research Materials:

The instructor will provide an online list of research resources. Alternatively, students may search for research materials on their own.

Languages:

The course will be conducted bilingually in Japanese and simple English. While you are encouraged to take notes and give presentations in English, you are free to use Japanese as needed. Bilingual communication is expected during pair work sessions, while group discussions will be conducted in Japanese. Regardless of your level of English proficiency, you are welcome to join us.

Active learning:

This course places a strong emphasis on student autonomy. Lectures by the instructor will be rare, as the focus will be on your explaining what you have learned about your research topics. Each class will include independent, pair, and group work.

In-class assignments:

Various student-centered tasks will be assigned, including research note-taking, mind mapping, and mini-presentations.

Research Materials:

The instructor will provide an online list of research materials. Alternatively, you may search for research resources on your own.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス／リサーチサイクル1: リサーチトピックの選択／ノートテイキング (1)

【2】: リサーチサイクル1: ノートテイキング (2)

【3】: リサーチサイクル1: ノートテイキング (3)

【4】: リサーチサイクル1: ノートテイキング (4)

【5】: リサーチサイクル1: ノートテイキング (5)

【6】: リサーチサイクル1: プレゼンテーション準備

【7】: リサーチサイクル1: プレゼンテーション

【8】: リサーチサイクル2: リサーチトピックの選択／ノートテイキング (1)

【9】: リサーチサイクル2: ノートテイキング (2)

【10】: リサーチサイクル2: ノートテイキング (3)

【11】: リサーチサイクル2: ノートテイキング (4)

【12】: リサーチサイクル2: ノートテイキング (5)

【13】: リサーチサイクル2: プレゼンテーション準備

【14】: リサーチサイクル2: プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド* (パワポ等) の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・担当するテキストの精読。
- ・授業中に与えられた課題が終わらなかった場合、翌週までに完成させておく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業への積極的参加: 30% プレゼンテーション: 40% 提出物: 30%

テキスト / Textbooks

教員が LMS などを通じて資料を適宜提示する。また、Google Drive 経由で資料を配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので、授業に PC またはスマートフォンを持参する。

その他 / Others

<履修者の選考について>

採用人数：20人まで

配当年次：2－4年

選考方法：以下の内容を A4 用紙1枚以内に記入。

(1)氏名、所属、学年、学籍番号

(2)最新の TOEIC スコア

(3)以下の3つの問いに対する回答(日本語または英語で記入)

Q1. 以下のうちあなたが最も興味を惹かれるトピックは何ですか？ (Which of the following topics are you most interested in?)

1. ユダヤ教 (Judaism)

2. キリスト教 (Christianity)

3. イスラーム (Islam)

4. 仏教 (Buddhism)

5. ヒンドゥー教 (Hinduism)

6. 上記以外 (Other than the above)

Q.2 そのトピックについてあなたが既に知っていることは何ですか？ What do you already know about the topic?

Q.3 そのトピックについて、あなたは特に何を知りたいですか？ What exactly do you want to know about the topic?

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

The Power of Music: Songs that Shape Our World

バード, B. (BYRD BRIAN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX683
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face to Face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

To explore the role of music in shaping society

To see how musicians speak across boundaries of class, background, and time to inspire personal and social, legal, and political reform

To consider how music may help bring peace, healing, unity, and hope to our fractured world.

授業の内容 / Course Contents

This class introduces music that shapes our world.

We listen to and discuss songs and their meaning for our life and society.

We experience music through videos and live music/guest musicians in class.

Students write reflections on the music and topics covered in class.

Students write a final reflection paper after the last class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Know Music, Know Life: How music has shaped our life

【2】:Rhymes, Rhythm, and the Making of Music

【3】:Amazing Grace and the Abolition of Slavery

【4】:The Dream and Songs of Martin Luther King

【5】:The Beatles' Enduring Legacy

【6】:Halloween, St. Paul, and Handel's Messiah

【7】:The Small World and Magic Kingdom of Walt Disney

【8】:The Social Context and Message of Musicals

【9】:Art and Music: Vincent van Gogh's Starry Starry Night

【10】:What is Christmas?

The roots, significance, and music of a world-wide holiday

【11】:Who is Santa?

The making of the world's best known icon

【12】:Guest musician: The work, world, and mission of the musician

【13】:Music and Friendship: Bonds that enrich our life and world

【14】:Reflections on the Power of Music (Guest Musician)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students listen to songs, fill in missing lyrics, and explore issues raised, writing comments.

Students review and preview music covered in class.

Students explore the stories and social/political context behind songs and songwriters.

Students write short reflection papers and a final reflection paper.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class reflections and worksheets:50% Class discussions and group work:20% Final reflection paper:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

<Selection Method(選考方法)>

The maximum number of students(採用人数):10 to 40

Eligible year(配当年次):2nd to 4th

Selection Method(選考方法):150 words or more answering the question, "Why do you want to take this class?"

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

What's 'the Cold War'

一ノ瀬 佳也 (ICHINOSE YOSHIYA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX684
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では英語のテキスト『冷戦』を読み、20 世紀の「国際関係」と「戦争」について検討する。

In this seminar, students will read an English textbook The cold war; a very short introductions., and study on 'International relationships' and 'war' in 20th century.

授業の内容 / Course Contents

本演習でが英語のテキスト『冷戦』を読み、20 世紀の「国際関係」と「戦争」について検討する。

本授業は「演習」形式で行う。そのため、受講生はテキストについてのいくつかの発表やコメントを行わなければならない。また、ゼミの中での議論においては、積極的に発言することが求められる。

In this seminar, students will read an English textbook The cold war; a very short introductions., and study on 'International relationships' and 'war' in 20th century.

This lecture hold a style of "seminar". So, students must have some presentations and comments concerning the text book. And students need to speak positively in discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction:History and War
- 【2】:World War II and the destruction of the old order①
- 【3】:World War II and the destruction of the old order②
- 【4】:The origins of the Cold War in Europe, 1945-50.①
- 【5】:The origins of the Cold War in Europe, 1945-50.②
- 【6】:Towards 'Hot War' in Asia, 1945-50①
- 【7】:Towards 'Hot War' in Asia, 1945-50②
- 【8】:A global Cold War, 1950-8
- 【9】:From Confrontation to detente, 1958-68①
- 【10】:From Confrontation to detente, 1958-68②
- 【11】:Cold war at home
- 【12】:The rise and fall of superpower detente, 1968-79①
- 【13】:The rise and fall of superpower detente, 1968-79②
- 【14】:The final phase 1980-90

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は指定されたテキストの範囲を毎回読んできてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加度:60 % プレゼンテーション:40 %

テキスト / Textbooks

Robert J McMahon The cold War: a very short introduction(2nd edition) Oxford University Press 2021
9780198859543

参考文献 / Readings

Robert J McMahon Limits of Empire: The United States and Southeast Asia Since World War II Columbia Univ Pr
1999 9780231108812

Robert J McMahon Colonialism and Cold War: The United States and the Struggle for Indonesian Independence, 1945-49 Cornell Univ Pr 1981 9780801413889

Richard H. Immerman and Petra Goedde The Oxford Handbook of the Cold War (reprint version) Oxford Univ Pr on Demand 2016 9780198779391

John Lewis Gaddis The Cold War: A New History Penguin Publishing Group 2006 9780143038276

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特別に必要というわけではないが、国際政治の歴史についての知識や関心があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の連絡は、基本的に Canvas LMS を用いる行う。そのため、このシステムにアクセスできる機材を有することが必要となる。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:10 名

配当年次:2.3.4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習を履修する理由とテーマについての関心を自由に記してください。

②字数:1000 字以上

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

An introduction to Japanese politics and foreign policy (I)

マリツ, D. (MALITZ DAVID MICHAEL)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX685
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face course
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This seminar aims to provide students with: (1) A foundational understanding of the Japanese political system, (2) insights into the mechanisms and dynamics of domestic politics in Japan, (3) knowledge of Japanese foreign policy and Japan's relations with key international partners, and (4) an analysis of three global trends—populism, demographic change, and the climate crisis—that impact Japanese—and global—politics. Students are expected to actively participate in in-class discussions and develop a term-length research project on a topic related to Japanese politics. This may include aspects of domestic politics (local, prefectural, or national level), or Japanese foreign policy. Students are encouraged to propose their own topics. The seminar provides an opportunity to critically engage with political phenomena while developing and practicing transferable skills in research, analysis, and making arguments within the context of Japanese politics.

授業の内容 / Course Contents

This course comprises fourteen sessions, structured into five main blocks: The course begins with an introduction to the course and (1) with an introduction to political science concepts. This will be followed by (2) a block on the Japanese political system, which will provide an overview of the Japanese political system at the local, prefectural, and national level. The course will then cover (3) Japanese foreign policy and explore Japan's relationships with key international partners. The course concludes with an analysis of (4) three global trends and their impact on Japanese politics, discussing populism, demographic change, and climate change. The curriculum combines general political science readings with materials specific to Japan, offering both foundational knowledge and case-based insights. Students will additionally (5) undertake individual research projects on topics related to Japanese domestic politics or foreign policy. These projects may focus on the local, prefectural, or national level of domestic politics, or Japan's international relations. Students will make a first presentation on their research in week 7, and a final presentation in week 14.

EX685 and EX686 are independent seminars. EX685 is focusing more on theory and EX686 is focusing more on political processes. The instructor encourages students to take both seminars, as doing so will provide a broader and more comprehensive understanding of the topics covered in these courses.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:(A) Introduction to the course (B) What is politics? READ: Atchison, Amy L., Political Science is for Everybody: An Introduction to Political Science. Toronto: University of Toronto Press; 2021, Introduction and Chapter 1.
【2】:Political institutions READ: Atchison, Political Science is for Everybody, Introduction and Chapters 3, 6.
【3】:Political parties READ: Atchison, Political Science is for Everybody, Introduction and Chapters 4 and 5.
【4】:National politics READ: Atchison, Political Science is for Everybody, Introduction and Chapters 7, 8 and 9.

- 【5】:Local politics READ; Hijino Local Politics and National Policy: Multi-Level Conflicts in Japan and Beyond (Abingdon: Routledge, 2017, Open Access), Chapter 1: Theories of Local Power and Multi-Level Conflict.
- 【6】:Prefectural politics READ; Hijino Local Politics and National Policy: Multi-Level Conflicts in Japan and Beyond, Chapter 5: Governors and Governments: Multi-Level Policy Conflicts Between Executives.
- 【7】:First presentation and discussion of individual research projects.
- 【8】:International relations theory READ: Atchison, Political Science is for Everybody, Chapters 12 and 13.
- 【9】:Japan-EU relations READ: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics (Oxford: Oxford University Press, 2021), Chapter 45: Japan-EU Relations.
- 【10】:Japan-ASEAN relations READ: Pekkanen and Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 43: The Evolution of Japan-ASEAN Relations, Core Moves for Japan's Initiatives in Asian Regionalism.
- 【11】:Populism READ: Mudde and Kaltwasser, Populism: A Very Short Introduction (Oxford University Press, 2017), Chapter 1: What is Populism?
- 【12】:Politics and demographic change READ: Goerres and Vanhuysse, Global Political Demography: The Politics of Population Change (Cham: Springer, 2021), Chapter 1 Introduction: Political Demography as an Analytical Window on Our World and Chapter 17: Epilogue, Global Political Demography—A Depressing Outlook?
- 【13】:The climate crisis READ: Kraft. Environmental Policy and Politics, 8th ed. (New York: Routledge, 2021), Chapter 1 (available online).
- 【14】:Final presentation and discussion of individual research projects

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read and engage with all the assigned chapters and articles prior to the respective sessions and come prepared to actively participate in the in-class discussions about these readings. In addition to the mandatory readings, students are strongly encouraged to stay informed about current events by following the news through a variety of sources such as newspapers, television, and social media. During the first two weeks of the course, students are required to select a topic for their individual research projects, which must focus on an issue related to Japanese domestic politics or foreign policy. The research for these projects will be conducted independently and outside of class hours. By week 7, students are expected to deliver an initial presentation on their chosen research topics. This presentation will allow them to share their progress, receive constructive feedback from their peers and the lecturer. Additionally, students should take the initiative to address any issues or concerns related to the course as early as possible to ensure they can be resolved effectively.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-class participation:40% First presentation:10% Final Presentation:10% 最終レポート
割合::20%最終テスト割合::20%

テキスト / Textbooks

Atchison, Amy L., Political science is for everybody : an introduction to political science University of Toronto Press 2021 9781487505714

Robert J. Pekkanen, Saadia Pekkanen (eds.) The Oxford Handbook of Japanese Politics Oxford University Press 2021 9780190051013

Ken V. L. Hijino Local Politics and National Policy: Multi-Level Conflicts in Japan and Beyond Routledge Open Access 2017 9781138640412

参考文献 / Readings

Michael E. Kraft Environmental Policy and Politics, 8th ed. Routledge 2021 9781003106265

Achim Goerres, Pieter Vanhuysse Global Political Demography The Politics of Population Change PalgraveMacmillan Open Access 2021 9783030730659

その他 / Others

採用人数/Number of students:10~15 名程度/Approximately 10-15 students

配当年次/Eligible year:3~4 年次/3rd - 4th year

選考方法/Selection method:

(1) Please briefly explain why you are interested in this course and what do you hope to learn about. Please also share an idea for an individual term-length research project.

(2) Word count: At least 300 words.

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

An introduction to Japanese politics and foreign policy (II)

マリツ, D. (MALITZ DAVID MICHAEL)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX686
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face class.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This seminar aims to provide students with: (1) A foundational understanding of the Japanese political system, (2) insights into the mechanisms and dynamics of domestic politics in Japan, (3) knowledge of Japanese foreign policy and Japan's relations with key international partners, and (4) an analysis of three global trends—populism, demographic change, and the climate crisis—that impact Japanese—and global—politics. Students are expected to actively participate in in-class discussions and develop a term-length research project on a topic related to Japanese politics. This may include aspects of domestic politics (local, prefectural, or national level), or Japanese foreign policy. Students are encouraged to propose their own topics. The seminar provides an opportunity to critically engage with political phenomena while developing and practicing transferable skills in research, analysis, and making arguments within the context of Japanese politics.

授業の内容 / Course Contents

This course comprises fourteen sessions, structured into five main blocks: The course begins with an introduction to the course and (1) with an introduction to political science concepts. This will be followed by (2) a block on the Japanese political system, which will provide an overview of the Japanese political system at the local, prefectural, and national level. The course will then cover (3) Japanese foreign policy and explore Japan's relationships with key international partners. The course concludes with an analysis of (4) three global trends and their impact on Japanese politics, discussing populism, demographic change, and climate change. The curriculum combines general political science readings with materials specific to Japan, offering both foundational knowledge and case-based insights. Students will additionally (5) undertake individual research projects on topics related to Japanese domestic politics or foreign policy. These projects may focus on the local, prefectural, or national level of domestic politics, or Japan's international relations. Students will make a first presentation on their research in week 7, and a final presentation in week 14.

EX685 and EX686 are independent seminars. EX685 is focusing more on theory and EX686 is focusing more on political processes. The instructor encourages students to take both seminars, as doing so will provide a broader and more comprehensive understanding of the topics covered in these courses.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction to Japanese politics

Read: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics (Oxford: Oxford University Press, 2021), Chapter 1: Japanese Politics, An Introduction, & Chapter 2, The Japanese Constitution.

【2】:The Japanese political system

Read: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 2: The

Japanese Constitution, & Chapter 3: Japanese Electoral Systems since 1947.

【3】:Political parties in Japan

Read: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 5: The Japanese Diet, Parliamentary Groups and Lawmaking, and ONE of Chapters 9–12.

【4】:National politics in Japan

READ: Read: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 13: The Policymaking Process in Japan.

A member of the lower house has expressed his willingness to join our discussion.

【5】:Local politics in Japan

READ: Hidehiro Yamamoto and Sae Okura, "Female Assembly Members and the Adoption of Women-Friendly Policies in Japanese Local Municipalities," in Asian Survey 63/1-2 (2023):1-26.

<https://doi.org/10.1525/as.2023.1820098>

DOI:10.1525/as.2023.1820098

【6】:Prefectural politics in Japan

READ: Ken L. V. Hijino, "What drives Japanese regional elections? Multilevel factors and partisan independents," Regional & Federal Studies, 31/3 (2020): 419-432.

A member of the prefectural assembly of Kanagawa has expressed his willingness to join our discussion.

<https://doi.org/10.1080/13597566.2020.1840367>

【7】:First presentation and discussion of individual research projects

【8】:An introduction to Japanese-US and Japanese-Chinese relations

READ: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 40: Japan-US Relations. The Most Important Bilateral Relationship in the World, & Chapter 41: Japan-China Relations. Politics of Great Powers and Great Power Politics

【9】:An introduction to German-Japanese relations

READ: Andreea Brinza and Andrei Lungu, Developing the EU-Japan Strategic Partnership (Bucharest: Toshiba International Foundation, 2023, Open Access), pp. 268-297, Germany-Japan relations: New challenges, new options for a strategic partnership.

A German diplomat has expressed his willingness to join our discussion – schedule still needs to be confirmed.

【10】:An introduction to Japanese-Thai relations

READ: Dalit Singh et al. (eds.), Southeast Asian Affairs 2024 (Singapore: ISEAS, 2024), pp. 325-340, Chapter on Thailand: Beyond the Comprehensive Strategic Partnership: Taking Stock of Thailand-Japan Relations (copy will be provided).

【11】:Populism in Japan

READ: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 17: Populism in Japan.

【12】:The impact of demographic change on Japanese politics – with a special focus on immigration

READ: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 24: Immigration and Democracy in Japan.

【13】:Sustainability and Japanese energy policy

READ: Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen (eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics, Chapter 19: Energy Policy in Japan. Revisiting, Radical Incrementalism.

【14】:Final presentation and discussion of individual research projects.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read and engage with all the assigned chapters and articles prior to the respective sessions and come prepared to actively participate in the in-class discussions about these readings. In addition to the mandatory readings, students are strongly encouraged to stay informed about current events by following the news through a variety of sources such as newspapers, television, and social media. During the first two weeks of the course, students are required to select a topic for their individual research projects, which must focus on an issue related to Japanese domestic politics or foreign policy. The research for these projects will be conducted independently and outside of class

hours. By week 7, students are expected to deliver an initial presentation on their chosen research topics. This presentation will allow them to share their progress, receive constructive feedback from their peers and the lecturer. Additionally, students should take the initiative to address any issues or concerns related to the course as early as possible to ensure they can be resolved effectively.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-class participation:40% First presentation:10% Final Presentation:10% 最終レポート
割合::20%最終テスト割合::20%

テキスト / Textbooks

Robert J. Pekkanen and Saadia Pekkanen The Oxford Handbook of Japanese Politics Oxford University Press 2021
9780190051013

Andreea Brinza and Andrei Lungu Developing the EU-Japan Strategic Partnership Toshiba International Foundation
(Open Access) 2023 9789730390919

参考文献 / Readings

Dalit Singh et al. (eds.) Southeast Asian Affairs 2024 ISEAS 2024 9789815203509

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students should be interested in Japanese politics and willing to participate in in-class discussions.

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Approximately 10-15 students

配当年次／Eligible year:3～4 年次／3rd - 4th year

選考方法／Selection method:

(1) Please briefly explain why you are interested in this course and what do you hope to learn about. Please also share an idea for an individual term-length research project.

(2) Word count: At least 300 words.

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

Inside International Business Law: Lessons and Perspectives from Leading Practitioners in the Field

ウィタカ, B. (WHITTAKER BRANDON M.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX687
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face (all classes face-to-face)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

To help students understand the application of legal concepts to international business
For students to explore diverse career paths available to individuals with a legal education
To highlight to students the importance of cultivating non-legal knowledge so that they can build successful careers in law-adjacent roles
To inspire students to engage in further formal and inform study such that that are prepared to compete on the international stage
To provide students an opportunity to establish relationships with leading professionals working in the field

授業の内容 / Course Contents

This course is your gateway to understanding how the legal concepts you learn in the classroom are borne out in real-life international business transactions. In this course, you will be exposed to the diverse set of roles legal professionals play in global commerce across industries and discuss current issues at the intersection of law, finance, economics, and geopolitics.

This is not just a theory class; you will learn from top legal and business professionals—all of whom have worked at some of the world’s preeminent law firms, and corporations. You will hear about what legal practitioners do and how they do it, and you will gain a greater appreciation for some of the opportunities that exist for those who are able to leverage their knowledge of the law on an international stage.

This is a unique opportunity for students to interact directly with professionals who have worked on some of the most significant business transactions in the Japan market. Whether you aspire to be legal scholar or practitioner, or if you are exploring the broader potential of your law degree, this course is designed to challenge, inspire, and help prepare you for success working across borders.

****Note that the course schedule may change in order to accommodate the schedules of the guest speakers, but the course content is not anticipated to change.****

授業計画 / Course Schedule

【1】:Course Overview and Discussion of Economics Concepts

This introductory week sets the stage for the course, focusing on basic macro- and micro- economics principles. Students will explore how these fundamental concepts underpin international business transactions and influence legal and business strategies. By the end of the session, students should understand key economic terms and their relevance to global commerce.

【2】:Financial Statements - The Language of Business

An introduction to financial statements and their role in assessing a company's health. Students will learn the basics of how to read and interpret balance sheets, income statements, and cash flow statements.

【3】:Valuation Basics - Measuring Business Worth

Students will learn how businesses are valued. Students will get exposure to discounted cash flow, comparable, and multiples-based valuation methods, among others. Students will also learn how valuation informs business decisions in M&A and other transactions.

【4】:Fundraising - Debt, Equity, and Beyond

In this class, we will explore the various ways businesses raise capital and the legal implications of these processes. Students will learn about debt and equity financing, venture capital and private equity. Discussions will highlight the role of lawyers in supporting businesses through these critical stages, with an emphasis on legal risk and compliance.

【5】:Legal Practice - In-House vs. Private Practice

Students will learn about the responsibilities and challenges facing in-house legal teams and private practice lawyers, and we will discuss how responsibilities differ based on industry.

【6】:Geopolitics and Emerging Trends in Law and Business

We will examine how global trends and geopolitical dynamics shape international business and legal practice. Topics will include the impact of national security concerns, trade wars and sanctions; ESG compliance; and AI-driven transformation. Students will discuss the role of lawyers in helping businesses navigate these complexities and how lawyers themselves might be impacted by the advent of emerging technologies.

【7】:Review and Midterm Test

We will review the topic discussed in the class this far, and students will be given a midterm test. The test will test students' understanding through a mix of short-answer and essay-style practical application questions.

【8】:Being a General Counsel - Lessons from a Leader

I expect to invite a General Counsel to discuss their experience managing legal and compliance functions in the tech industry. Further details to follow.

【9】:Being a Partner at a US Law Firm - Leadership in High-Stakes Deals

I expect to invite a Partner from a top US law firm to discuss their experience in the M&A space. Further details to follow.

【10】:Practicing Globally as a Japanese Associate

I expect to invite a Japanese associate to discuss their experiences practicing law at a top Japanese law firm. Further details to follow.

【11】:In-House and Capital Markets - A Counsel's Journey

I expect to invite a capital markets lawyer who also has experience practicing law in house in a global financial services firm. Further details to follow.

【12】:Startup Law and Innovation - The Lawyer as a Builder

I expect to invite a legal professional who has extensive experience in the startup space in Japan. Further details to follow.

【13】:Entertainment and Media Law - Legal Practice in Creative Industries

I expect to invite a legal professional who has extensive experience in the entertainment law space in Japan. Further details to follow.

【14】:Leveraged Finance and Private Equity - Insights from the Credit Practice

I expect to invite a lawyer practicing in the leveraged finance space in Japan. Further details to follow.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

This is a unique opportunity to gain access to legal professionals practicing at the highest level. I will expect students to devote significant time to prepare sufficiently to participate actively in each class.

There will be reading assignments for most classes.

Students will be assigned homework to ensure they have the level of understanding required to interact meaningfully with guest speakers.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:35% Midterm Test:25% Homework:15% 最終レポート割合::25%

In order to be adequately prepared to engage with the guest speakers, it will be essential that you have done the readings and actively participate during each class--especially during the first seven classes. Attending class will not count toward your participation score. You must actually contribute to class discussions to receive credit. If you are absent without asking for permission, you will receive 0 participation points for that class.

You will have a midterm assessment that should help you see how well prepared you are for discussions with the guest speakers. If you do not score well on it, I would advise you to revisit your notes and the course materials so that you can participate meaningfully in the classes that will follow.

Homework will be assigned during the semester. Assignments will typically be due 24 hours prior to the following week's seminar. Scores on assignments turned in late but prior to the start of the seminar will be reduced by 50 points. Scores on assignments turned in after the start of the seminar but on the same day of the seminar will be further reduced by 10 points. Scores on assignments turned in after the day of the seminar but by the end of the day of the last seminar will be further reduced by 20 points. If assignments are not received by the end of the day of the last seminar, a score of 0 points will be awarded for each assignment not submitted.

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

A reading pack will be provided separately.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

採用人数／Number of students:20～30 名程度／Approximately 20-30 students

配当年次／Eligible year:Second year and above

選考方法／Selection method:Please explain your motivations for wanting to take this class in an essay of 250 to 500 words.

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

Basic

クッション(CUSHION NICHOLAS J.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX688
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of the class is to give students an opportunity to use English in a fun and engaging way through the discussion of political issues.

Students will enhance their vocabulary, use of expressions and confidence with using English.

This class is for students who have little or no experience in expressing their opinions in English.

授業の内容 / Course Contents

The course will be a combination of topics chosen by the instructor and presentations given by students.

Topics and presentations will focus on a different political issue each week.

Students will discuss their opinions in small and large groups.

The instructor will prepare reading materials and arrange speaking activities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Class introduction
- 【2】:Current discussion topic presented by instructor
- 【3】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【4】:Current discussion topic presented by instructor
- 【5】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【6】:Current discussion topic presented by instructor
- 【7】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【8】:Current discussion topic presented by instructor
- 【9】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【10】:Current discussion topic presented by instructor
- 【11】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【12】:Current discussion topic presented by instructor
- 【13】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【14】:Current discussion topic presented by instructor

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Presenter(s) will prepare a presentation.

Students are expected to be prepared to discuss their ideas and opinions.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:70% Presentations:30%

Students must attend at least 70% of classes to be eligible for a grade

テキスト / Textbooks

Handouts will be given by the instructor.

参考文献 / Readings

その他 / Others

<Selection Method(選考方法)>

The maximum number of students(採用人数): 10-30 名

Eligible year(配当年次): 2-4 年次

Selection Method(選考方法): Report

①Theme(題目): What do you want to achieve in this class?

②Word count(字数): 250 words in English

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

Intermediate

クッション(CUSHION NICHOLAS J.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX689
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of the class is to give students an opportunity to use English in a fun and engaging way through the discussion of political issues.

Students will enhance their vocabulary, use of expressions and confidence with using English.

This class is for students who have some experience in expressing their opinions in English.

授業の内容 / Course Contents

The course will be a combination of topics chosen by the instructor and presentations given by students.

Topics and presentations will focus on a different political issue each week.

Students will discuss their opinions in small and large groups.

The instructor will prepare reading materials and arrange speaking activities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Class introduction
- 【2】:Current discussion topic presented by instructor
- 【3】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【4】:Current discussion topic presented by instructor
- 【5】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【6】:Current discussion topic presented by instructor
- 【7】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【8】:Current discussion topic presented by instructor
- 【9】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【10】:Current discussion topic presented by instructor
- 【11】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【12】:Current discussion topic presented by instructor
- 【13】:Student presentation(s) and follow-up activities
- 【14】:Current discussion topic presented by instructor

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Presenter(s) will prepare a presentation.

Students are expected to be prepared to discuss their ideas and opinions.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:70% Presentation:30%

Students must attend at least 70% of classes to be eligible for a grade

テキスト / Textbooks

Handouts will be given by the instructor

参考文献 / Readings

その他 / Others

<Selection Method(選考方法)>

The maximum number of students(採用人数): 10-30 名

Eligible year(配当年次): 2~4 年次

Selection Method(選考方法): Report

①Theme(題目): What do you want to achieve in this class?

②Word count(字数): 250 words in English

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics (English)

Intellectual Property Law and Theory: Current Topics

竹中 俊子 (TAKENAKA TOSHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX690
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face to face
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このセミナーでは、特許法、意匠法、著作権法、商標法、不正競争防止法、地理的表示法等の知的財産法の保護対象を学び、これらの保護対象の保護の日米欧の違いを理解することで、学生がグローバル市場における知的財産法曹実務家となる基礎知識を養う。各知的財産権の対象に保護を与える理由と政策目的を理解し、議論することで論理的思考を育てる。

In this seminar, students will learn about the objects of protection of intellectual property law, including patent law, design law, copyright law, trademark law, unfair competition prevention law, and geographical indication law, and by understanding the differences in the protection of these objects of protection in Japan, the US, and Europe, students will develop the basic knowledge to become intellectual property law legal practitioners in the global market. Students will develop their reasoning skills by understanding and discussing the reasons and policy objectives for providing protection for each type of intellectual property right.

授業の内容 / Course Contents

このセミナーでは、現在の知的財産制度の問題点を特定し、解決策について議論する。毎回、事前に数名の学生が選ばれ、判決や論文の内容を発表する。他の学生も判決や論文を事前に読み、問題点について議論する準備をしてくる。議論を通じて、法的問題を分析する方法を学ぶ。興味のある問題を分析し、改善策を提案し、講師やクラスメートからの質問に答えることで、分析や主張を論理的に説明できる能力を習得する。最後に、学生は知財判決を選び、判決の内容と関連する政策と産業界への影響を分析する発表を行う。

This seminar will examine the problems with the current intellectual property system and discuss possible solutions. Each time, several students are chosen in advance to present the content of cases or academic papers. Other students also read the judgement or paper in advance and prepare to discuss the issues. Through discussion, students will learn how to analyze legal issues. By analyzing issues of interest, proposing improvement measures, and answering questions from the lecturer and classmates, students will acquire the ability to explain their analysis and arguments in a logical manner. At the end of the seminar, students will choose a case dealing with IP rights and give a presentation analyzing the policy in the case and its impact on related policies and industry.

授業計画 / Course Schedule

【1】:US Common Law System

* Overview and Principles

* Court System

【2】:How to read U.S. Court Decisions

U.S. Supreme Court: CLS Bank v. Alice 573 U.S. 208 (2014)

Appeal Court: Alice v. CLS Bank

- * Structure of Court Decisions
- * Issues Presented and Holdings

【3】: Copyright Policy: Copyrightable Subject Matter

U.S. Supreme Court: Feist v. Rural

- * Minimum Originality
- * Useful Article

【4】: Copyright Policy: Infringement

U.S. Supreme Court: Nichols v. Universal Pictures Corp

- * Idea v. Expression
- * Software

【5】: Copyright Policy: Limitations on Exclusive Right

U.S. Supreme Court: Campbell v. Acuff Rose Music

- * Fair Use
- * Limitations

【6】: Generative AI and IP Systems

Court of Appeals for the Federal Circuit: Thaler v. Vidal

- * Inventorship
- * Designership
- * Authorship

【7】: Trademark Policy: Eligible Signs

U.S. Supreme Court: Wal-Mart Stores, Inc. v. Samara Brothers

- * Distinctiveness
- * Secondary meaning

【8】: Trademark Policy: Infringement

Court of Appeals for the 2nd Circuit: Lois Sportswear v. Levi Strauss

- * Likelihood of Confusion
- * Dilution

【9】: Trademark Policy: Limitations on Exclusive Right

Supreme Court: Jack Daniel's Properties, Inc. v. VIP Products

- * Fair Use
- * Nominative Use

【10】: Trade Secrets

U.S. Supreme Court: Kewanee Oil Co. v. Bicron Corp.,

- * Preemption
- * Patents v. Trade Secrets

【11】: Patents and Public Health

U.S. Supreme Court: Mayo v. Myriad

- * Patent Eligibility
- * Public Domain

【12】: Student Presentations

【13】: Student Presentations

【14】: Special Lecture – Visit to the Japan Patent Office

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read assigned articles and court decisions and be ready to discuss topics relevant to the assignment. They will give a presentation at the end of the seminar.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:60% Class discussions:40%

テキスト / Textbooks

Online case books and articles

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Approximately 10-15 students

配当年次／Eligible year:3～4 年次／3rd - 4th year

選考方法／Selection method:150-200 words report on your IP experience and reasons for attending this seminar.

法政外国語演習<フランス語>

Seminar on Law and Politics(French)

読解力アップの手引き

斎藤 かぐみ(SAITO KAGUMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX691
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

フランス語の初級文法を学んだ法学部生が、準専門的な文献の読解に挑むことにより、社会科学分野をはじめとする語彙を増やしつつ、自力で文献に当たっていくためのセンスと自信を養う。

Non-beginner law students will try to read semi-specialized literature. Through such practices, they will increase their vocabulary (of social sciences and others) and develop know-how and self-confidence for futur reading on their own initiative.

授業の内容 / Course Contents

現行憲法の冒頭部分を軸として、政教分離や両性同数制などフランス共和国の基本理念に関わる文献を読んでいく。法律条文だけでなく、公的機関のドキュメントやメディアの記事、文学作品も取り上げたい。後半から終盤のテキストは履修生の関心分野も踏まえて変更することも考えている。2 回目以降は交互に 1 人 0.5 ページ程度を分担し、授業時に教員のサポートを受けつつ発表する。

Students will read the first part of the current Constitution, and other texts related to fundamental principles of the French Republic such as “laïcité” or “parité”, including not only legal texts but also official documents, media articles and/or literary works. Last texts may be changed according to students’ interests. From the second session onwards, students shall be, by turns, in charge of about a half page which they shall report during class, with the support of the teacher.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講読 1(国土)
- 【2】: 講読 2(人権宣言と 1946 年憲法)
- 【3】: 講読 3(1958 年憲法や関連文献: 政教分離)
- 【4】: 講読 4(1958 年憲法や関連文献: ストライキ)
- 【5】: 講読 5(1958 年憲法や関連文献)
- 【6】: 講読 6(1958 年憲法や関連文献: 両性同数制)
- 【7】: 講読 7(1958 年憲法や関連文献: 国語)
- 【8】: 講読 8(1958 年憲法や関連文献: 象徴)
- 【9】: 講読 9(歴史)
- 【10】: 講読 10(文学作品)
- 【11】: 講読 11(1958 年憲法や関連文献: 大統領)
- 【12】: 講読 12(1958 年憲法や関連文献)

【13】:講読 13(履修生の関心と時間的余裕に応じて選択)

【14】:講読 14(履修生の関心と時間的余裕に応じて選択)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習 60 分程度:2回目からは発表の有無にかかわらず、単語を調べ、読解を試みる(特に語義が多岐にわたる単語は要注意、文脈に適合する語義が辞書の項目の上位で見つかるとは限らない)。当初は機械翻訳に頼らざるを得ないような人も、単語単位で照応を付け、成句を見抜き、文法知識をもとに構文を検討し、文脈も踏まえながら自力で解釈する経験を重ねていく。

復習 30 分程度:読解ができなかった部分、読み違えた箇所について、問題点(語義、比喩の解釈、構文、背景知識、等々)を自己分析する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当報告の内容:35% 授業時間外や授業参加の度合い:30% 最終レポート割合::35%

授業時間外の学習内容の提出を適宜求める可能性がある。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

初級文法をひととおり終えたレベルを想定していますが、条件法や接続法、中性代名詞など、難しいと思われる事項については適宜補足します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回持参:仏和辞典。紙または電子辞書が(収録数から)望ましいが、ネット上のアプリまたはサイトも可(ただし不足のおそれあり)。

自宅にて:Canvas LMS にアクセスするための電子端末。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:~15 名程度

配当年次:2 年次以上

選考方法:レポート

1 題目 :本演習を希望する動機

2 字数 :400 字程度

法政外国語演習＜フランス語＞

Seminar on Law and Politics(French)

フランス語の読解を通じて、映画とそれを取り巻く社会・経済・文化、および、その著作権について考える

土田 環(TSUCHIDA TAMAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX692
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	フランス語の購読を行いつつ、①文法・学習方法についての復習、②映画・文化についての解説を行う。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

フランス語の読解を通じて社会科学の基礎的な仏単語や構文を学び、レポートや卒業論文を書く際に仏語文献を参照できるよう力を身につける。また、テキストの内容を発展させながら、映画と著作権との関係について理解を深める。

The objectives of this seminar are to learn the fundamental French words and sentence syntax in the field of social sciences by reading French and to develop the ability to reference literature written in French when writing a report or a graduation thesis. In addition, while expanding on the content of the text, students will deepen their understanding of the relationship between movies and copyright.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、著作物を「精神の著作物」と規定するフランス著作権法や、著作権に関する新聞記事の読解を最終的な目的として、芸術とりわけ映画の領域で作者の権利が問題となるさまざまな事例を考察する(知的財産権、盗作と模倣の差異、国際共同製作など)。

ただし、受講者のフランス語レベルも考慮したうえで、映画に関する比較的簡単なテキストを読みながら、基本的な構文読解を行うことから始める(1年次で学ぶフランス語初級文法程度)。フランス語既習者が望ましいが、未習ないしは自信のない学生は、初級文法を積極的に自習・復習してほしい。

フランス語の復習をわかりやすく行えるように授業を進行するが、同時に、映画祭や映画館を紹介し、履修者が映画により親しむことができるようにつとめる。

This seminar will examine various cases where the rights of the creator become a problem, particularly the field of movies within the arts, with the ultimate goal of reading French Copyright Law, which stipulates that works are “mental works” and newspaper articles about copyright (including issues such as personality rights, the differences between plagiarism and imitation, joint international productions). However, after considering the students’ level of French language, students will read a comparatively simple textbook about movies while initially reading basic sentence structures (roughly equivalent to the elementary French grammar learned during the first year). The review will be conducted at a fast pace, so participants should make efforts to prepare in advance.

In addition to using visual materials as needed, the seminar plans to create many opportunities to become exposed to visual culture through movie festivals and participation in symposiums. The instructor hopes that this seminar will lead to an overall understanding of copyright which is not limited to France.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス—フランス語の学習法
 【2】: テキスト読解—映画の誕生 (1)
 【3】: テキスト読解—映画の誕生 (2)
 【4】: テキスト読解—映画と観客 (1)
 【5】: テキスト読解—映画と観客 (2)
 【6】: テキスト読解—映画とテレビ (1)
 【7】: テキスト読解—映画とテレビ (2)
 【8】: テキスト読解—映画と歴史的事象 (1)
 【9】: テキスト読解—映画と歴史的事象 (2)
 【10】: テキスト読解—映画と法 (1)
 【11】: テキスト読解—映画と法 (2)
 【12】: テキスト読解—映画と法 (3)
 【13】: テキスト読解—映画と文化政策 (1)
 【14】: テキスト読解—映画と文化政策 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

読解するテキストに関して、単語を調べ、構文読解をあらかじめ終えた状態で演習にのぞむこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当報告の内容:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

清岡智比古 ル・フランセ・クレール[三訂版] 白水社 2021 9784560061381

清岡智比古 フラ語入門、わかりやすいにもホドがある！改訂新版 白水社 2019 9784560088517

読解するテキストは、基本的にはプリント配布する。文法の参考書については、必ず購入しなければならない、というわけではないが、上記を参照して、自身の使いやすいものを用意すること。電子辞書はなるべく使用しないようにしましょう。

参考文献 / Readings

ミシェル・フーコー 『作者とは何か？』 哲学書房 1990 4886790429

宮沢博明 『著作権の誕生 フランス著作権史』 日本ユニ著作権センター 1998 4872334280

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

フランス語を既習であるか否かは問わないが、フランス語の学習について意欲的であること。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数: 15 名程度

配当年次: 2～4 年次

選考方法: 申込による(応募者多数の場合には抽選とし、仏語既修者を優先する)

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
Introduction to International Aviation Law

コラサ S. (KOLASA SOKOLOWSKA K.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX693
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The course constitutes an introduction to the public and private aviation law. The objective of the course is to examine the role of law and politics in the regulation of air transport, as well as to provide an overview of selected legal regimes governing various aspects of aviation activities. By the end of this course students should be able to synthesize and use information from all the topics discussed in the classes.

授業の内容 / Course Contents

The course covers basic remarks on fundamental rules governing the use of airspace, aviation safety, aviation security, air carrier liability, aircraft financing and passengers' rights. The course addresses also emerging issues in the area of aviation law, such as artificial intelligence or drones.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Aviation industry: factual background, current uses and participants in aviation activities.
- 【2】:The evolution of aviation law. Sources of aviation law.
- 【3】:Principal rules governing the use of airspace.
- 【4】:Aviation safety.
- 【5】:Aviation security.
- 【6】:Air carrier liability.
- 【7】:Liability for the damage on the ground.
- 【8】:Aviation insurance.
- 【9】:Aircraft leasing and financing.
- 【10】:Passengers' rights
- 【11】:Emerging issues: the use of artificial intelligence in aviation
- 【12】:Emerging issues: increasing automation and autonomy. The unmanned aircraft systems
- 【13】:Questions - answers, general discussion, wrap up
- 【14】:Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Explorative learning will be announced as needed.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Paper:40% Presentation:20% 最終テスト割合::40%

20 % will be based on 10 minute presentation, 40% will be based on a 3-5 page paper. The paper should be double spaced, 12 point font Times New Roman (10 point for footnotes), and is due on the last day of class. It can be the same topic as the presentation. 40% of the grade in this course will be based on student performance on the final test.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

- Number of students to attend 25
- Acceptable grade 2・3・4
- Selection method application only
- ※Lottery in the case of a large number of applicants

法政外国語演習＜中国語＞

Seminar on Law and Politics(Chinese)

中国における政治・経済・法律及び教育などの仕組み
(最新の新聞と動画などを通して習近平政権の中国を解明する)

王 佩民(WANG PEIMIN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX695
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

中国は現在世界一人口が多い国で中国共産党により統治されるヘゲモニー政党制である。中国が予想より5年早い2030年に米国を追い抜き、世界1位の経済大国になるだろうと、英国のシンクタンク“経済経営研究センター(CEBR)”が推測した。この講義は中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを解明して理解することを目標とする。China is the country with the world's largest population, and it is a hegemonic party system governed by the Chinese Communist Party. In 2028, the GDP of China surpassed Japan to become the number two leading economic power behind the United States. The objective of this seminar is to understand the Chinese system.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを理解するために、ドキュメンタリーや視聴覚教材を使用し、国家の統治体制、行政区分、国家機関、国民と社会、教育、宗教などを取り上げて講義する。また、現地最新情報を講義資料のほかに動画や写真及びリアルタイムで聞こえるし見える形を通して授業致します。

In order to understand the Chinese system, the seminar will have students learn the syllables and tones of the Chinese language while using documentary and audiovisual course materials and lecturing about topics such as the governing system of the state, administrative divisions, state organs, the people and society, religion and culture, etc. During classes, the students will debate the topic for each session and submit a review of about one page.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 中国基礎データ: 中華人民共和国について問題の提起
- 【2】: 中国共産党の仕組み(習近平政権の政府、全国人民代表大会、司法など)
- 【3】: 中国の最高権力機関及び立法機関の全国人民代表大会(全人代)の特徴
- 【4】: 現行憲法における「改革・開放」路線の下で言論自由・人権問題について
- 【5】: 中国の司法制度と司法機関(ここまで進んでいる裁判のオープン化)
- 【6】: 中国経済の急速な発展を振り返る(画像と写真で紹介する)
- 【7】: 日中知財教育比較(知財強国実現の為知財保護を加速)
- 【8】: 中国の宗教信仰の歴史と現状(仏教・道教・儒教・イスラム教とキリスト教)
- 【9】: チベット自治区と新疆ウイグル自治区の最新動向
- 【10】: 中国の教育の特徴はPISAで世界第1位の制度、日本との違いが何か?
- 【11】: 若者の恋愛観と現状について
- 【12】: 若者の結婚観と現状について
- 【13】: 高齢化社会の現状と課題について

【14】:総括討議(学習の振り返り)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料はざっと読んだだけでは分からないかもしれない。それでも必ず目を通し、①自分の理解が正しいか? ②理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。③配布資料には書かれていないが授業内で理解のために「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモをとる。

授業では毎回のテーマに対して討論を行い1枚程度のレビューを提出するのでその為に事前予習が必要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業後レポート提出:30% 授業への積極的な参加とプレゼンテーション:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

教科書は使用しない。講義資料は講師が用意する。Canvas LMS に掲載・配信する。

授業中にパソコンを必ず用意すること。

プリントを必要に応じて Web 上に UP する。

紙媒体で授業中に配布する場合もある。

参考文献 / Readings

授業に関する講義資料は Canvas LMS にて事前に配信します。

授業に必ずパソコンを持ってきてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン使用、必ず持参すること。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数 : 25 名

配当年次 : 2-4 年次

選考方法 : 申し込みによる(応募者多数の場合は抽選)

法政外国語演習＜中国語＞

Seminar on Law and Politics(Chinese)

2024 年習近平政権の下で多様な中国社会に重点をおいた中国政治、経済と法律などの展望と課題

王 佩民(WANG PEIMIN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX696
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(前回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

将来、真の国際人として中国語を運用するコミュニケーション能力を育成する。2025 年の米中(習近平国家主席とトランプ大統領)科学技術と貿易戦争と日中(習近平国家主席と石破総理大臣)新関係をきっかけに露呈した中国政治と経済の構造問題を取り上げて習近平政権下の中国の仕組みを考察し理解を深めることを目標とする。

The objective of this seminar is to cultivate communication skills to use Chinese as a true globally-minded person in the future. This seminar will examine the politics, economy, and social structure of China to deepen the students' understanding.

授業の内容 / Course Contents

以下の話題を取り上げて講義する。

①中国共産党の国家統治、②米中関係と日中関係、③共産党政権体制の仕組み

④小中高大学の教育問題、⑤若者達の恋愛と結婚、⑥高齢化社会、⑦宗教問題、⑧新疆ウイグル自治区とチベット自治区など

4. テーマごとに担当者を設けて、独自の観点で分析し発表してもらう。

中国に政治・経済と法制度のプラスアルファを求めていく。

学生は、クラスメートと自分の好みや経験について活発に意見を交換しながら、関心あるテーマについて理解を深めていく。毎回配った資料を理解したうえで質問や感想を書いて提出すること。

The topics covered will relate to the students' lives and interests.

1. The lectures will raise various aspects about the current situation in China (including the national governance of the Communist Party, US-China relations and Japan-China relations, the arrest of a Huawei executive).

2. Education problems, aging society, and wealth disparity

3. Love and marriage

4. A student will be put in charge of each topic to analyze the topic based on their own perspective and present a report.

This seminar will seek the interesting aspects of Chinese law as well as something extra about Chinese law as a whole. Students will actively exchange opinions with classmates about their own preferences and experiences while deepening their understanding of the topics that they are interested in.

授業計画 / Course Schedule

【1】:授業内容の紹介や各自問題担当の議論

中華人民共和国の仕組み

【2】:法源:憲法、行政法規、地方性法規、自治条例、行政規則

【3】:立法府:全国人民代表大会、全人代常務委員会

- 【4】: 司法組織: 人民法院、人民檢察院
 【5】: 40 年間の改革と開放によって急速な発展ができた全貌
 【6】: 教育制度(幼稚園から大学までの受験戦争)
 【7】: 若者の恋愛観と現状
 【8】: 若者の結婚観と現状
 【9】: 高齢化社会の現状と課題
 【10】: 多民族社会と宗教の信仰について
 【11】: 新疆ウイグル自治区の現状と課題
 【12】: チベット自治区の現状と課題
 【13】: 動画を通して北京、上海、重慶と言った大都会の変貌と四川省の大涼山の脱貧困の現状を理解しよう。
 【14】: 総括討議(学習の振り返り)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は、授業前に配布した資料を読むことが求められる。また、講義ごとに授業で用いた動画・資料に基づき予習することと復習することが望ましい。

パソコンを用意して事前に配信した資料をダウンロードして精読してください。

資料の中に分からないところがあればメモにして授業中に話してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度と積極的な発言:30% 授業後のレポート提出:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。講師が講義資料を用意する。資料を読んで議論や理解するためにパソコンを必ず持ってきてください。

Canvas LMS を利用して資料配信する。

参考文献 / Readings

授業に関する講義資料は事前に Canvas LMS に配信します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンを持参すること。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:25 名

配当年次:2-4 年次

選考方法:申し込みによる(応募者多数の場合は抽選)

法政外国語演習＜中国語＞

Seminar on Law and Politics(Chinese)

中国における政治・経済・法律及び教育などの仕組み
(最新の新聞と動画などを通して習近平政権の中国を解明する)

王 佩民(WANG PEIMIN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX697
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

中国は現在世界一人口が多い国で中国共産党により統治されるヘゲモニー政党制である。中国が予想より5年早い2030年に米国を追い抜き、世界1位の経済大国になるだろうと、英国のシンクタンク“経済経営研究センター(CEBR)”が推測した。この講義は中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを解明して理解することを目標とする。China is the country with the world's largest population, and it is a hegemonic party system governed by the Chinese Communist Party. In 2028, the GDP of China surpassed Japan to become the number two leading economic power behind the United States. The objective of this seminar is to understand the Chinese system.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを理解するために、ドキュメンタリーや視聴覚教材を使用し、国家の統治体制、行政区分、国家機関、国民と社会、教育、宗教などを取り上げて講義する。また、現地最新情報をリアルタイムで見るために中国語の基本的な構造をも教える。

In order to understand the Chinese system, the seminar will have students learn the syllables and tones of the Chinese language while using documentary and audiovisual course materials and lecturing about topics such as the governing system of the state, administrative divisions, state organs, the people and society, religion and culture, etc. During classes, the students will debate the topic for each session and submit a review of about one page.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 中国基礎データ: 中華人民共和国の仕組みについて問題の提起
- 【2】: 中国の政治体制の仕組み(習近平政権の政治制度と体制を分かりやすく解説)
- 【3】: 2025 年3月5日の中国の全国人民代表大会(全人代)と中国人民政治協商会議の開催について共産党、政府、司法などの仕組みを理解していただく。
- 【4】: 現行憲法における「改革・開放」路線の下で言論自由・人権問題について
- 【5】: 中国の司法制度と司法機関(ここまで進んでいる裁判のオープン化)
- 【6】: 中国経済の急速な発展を振り返る(画像と写真で紹介する)
- 【7】: 日中知財教育比較(知財強国実現の為知財保護を加速)
- 【8】: 中国の宗教信仰の現状(仏教・道教・儒教・イスラム教とキリスト教)
- 【9】: チベット自治区と新疆ウイグル自治区の最新動向
- 【10】: 中国の教育の特徴は PISA で世界第1位の制度、日本との違いが何か?
- 【11】: 若者の恋愛観と現状
- 【12】: 若者の結婚観と現状

【13】:高齢化社会の現状と課題(養老施設事情)

【14】:総括討議(学習の振り返り)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料はざっと読んだだけでは分からないかもしれない。それでも必ず目を通し、①自分の理解が正しいか? ②理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。③配布資料には書かれていないが授業内で理解のために「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモをとる。

授業では毎回のテーマに対して討論を行い1枚程度のレビューを提出するのでその為に事前予習が必要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業後レポート提出:30% 授業への積極的な参加とプレゼンテーション:30% 最終

レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

教科書は使用しない。講義資料は講師が用意する。Canvas LMS に掲載・配信する。

授業中にパソコンを必ず用意すること。

プリントを必要に応じて Web 上に UP する。

紙媒体で授業中に配布する場合もある。

参考文献 / Readings

授業に関する講義資料は Canvas LMS にて事前に配信します。

授業に必ずパソコンを持ってきてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン使用、必ず持参すること。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数 : 25 名

配当年次 : 2-4 年次

選考方法 : 申し込みによる(応募者多数の場合は抽選)

法政外国語演習＜朝鮮語＞

Seminar on Law and Politics(Korean)

日韓の近現代史と交流の歴史

崔 先鎬(CHOI SEONHO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX698
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日韓関係を中心とし、日韓の社会・文化・外交の現状について理解を深めることを目標とする。

Focusing on Japan-Korea relations, students will gain a deeper understanding of the current state of Japanese and Korean society, culture, and diplomacy.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、日韓と世界で扱われてきた社会と文化の体系について多様なメディアを中心に考察して行く。

日韓関係について興味のある人を対象とし、さらなる論議を深めるために日韓関係関連のテーマについてリサーチしてもらう。

This seminar will examine the social and cultural systems that have been dealt with in Japan, Korea, and the world, focusing on a variety of texts and media.

Anyone with an interest in Japan-Korea relations can take this course, and students will be expected to conduct research on topics related to Japan-Korea relations on a daily basis in order to deepen their discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

(演習の概要、参加者の自己紹介・各自の担当について話し合う)

【2】: 文献講読および関連内容について論議

【3】: 文献講読および関連内容について論議

【4】: 文献講読および関連内容について論議

【5】: 文献講読および関連内容について論議

【6】: 文献講読および関連内容について論議

【7】: 文献講読および関連内容について論議

【8】: 文献講読および関連内容について論議

【9】: 文献講読および関連内容について論議

【10】: 文献講読および関連内容について論議

【11】: 文献講読および関連内容について論議

【12】: 文献講読および関連内容について論議

【13】: 文献講読および関連内容について論議

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの中に登場する用語と文脈を「丁寧に」読むこと。

テキストを「事前に」読んで纏めること。

演習開始前にレジюмеとコメントペーパーを提出したうえ参加者全員に配布すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度・姿勢:25% 発表・論議:25% レジюме:25% 最終レポート:25%

テキスト / Textbooks

長田彰文 世界史の中の近代日韓関係 慶應義塾大学出版会 2020 9784766420586

尹亭仁 編 デイリーコンサイス韓日・日韓辞典 三省堂 2024 9784385123103

必要な場合はプリントを配布。

参考文献 / Readings

木宮正史 他著 戦後日韓関係史 有斐閣アルマ 2017 9784641220775

必要な場合はプリントを配布。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

紙の日韓・韓日辞書、黒・青の油性ボールペン・大学ノート

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:10 名程度

配当年次:2-4 年次

選考方法:レポート

①題目

自己紹介およびこの演習科目に興味をもった理由(=日韓をめぐる事柄の中で各自の関心事、例えば、日韓に於ける文化交流など)について

②字数

合計 1500 字

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
LGBTQ rights in Japan

白水 隆(SHIROUZU TAKASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX699
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This seminar is designed to give students an understanding of how LGBTQ rights are deemed by society, courts, and academia in Japan.

授業の内容 / Course Contents

This seminar will cover, but not limited to, the area of Same-Sex Marriage, gender/sex change, and the use of public washrooms by transgender people in Japan with a reference to the North American situation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:An introduction to the situation regarding LGBTQ people/rights in Japan.
- 【2】:An introduction to the situation regarding LGBTQ people/rights in North America.
- 【3】:Group presentation: Same-Sex Marriage (part 1)
- 【4】:Group presentation: Same-Sex Marriage (part 1)
- 【5】:Group presentation: Same-Sex Marriage (part 2)
- 【6】:Group presentation: Same-Sex Marriage (part 3)
- 【7】:Group presentation: Same-Sex Marriage (part 4)
- 【8】:Group presentation: Gender/Sex change by transgender people (part 1)
- 【9】:Group presentation: Gender/Sex change by transgender people (part 2)
- 【10】:Group presentation: Gender/Sex change by transgender people (part 3)
- 【11】:Group presentation: Gender/Sex change by transgender people (part 4)
- 【12】:Group presentation: Use of public washrooms by transgender people (part 1)
- 【13】:Group presentation: Use of public washrooms by transgender people (part 2)
- 【14】:wrap up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Active participation in class discussions is encouraged. All students are expected to prepare their group/individual

presentations by using powerpoint slides.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Student Presentation:70% In-Class-Performance:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

The maximum number of students(採用人数):20

Eligible year(配当年次): 3~4

Selection Method(選考方法): application only

※Lottery in the case of a large number of applicants

憲法発展演習

Progressive Seminar in Constitutional Law
憲法答案を書く

原田 一明 (HARADA KAZUAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX701
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法曹コース配当初年度は自動登録。翌年度以降はその他登録(自動登録されないの、履修希望者は選考に申込むこと)。 法曹コース生以外はその他登録。		

授業の目標 / Course Objectives

本演習は、法学部において憲法の基本的な知識を習得した学生を対象に、人権・統治両分野における発展的な知識を定着させ、またその知識を応用して問題を解決し、説得力ある文章を作成する能力を獲得することを目標とする。
This seminar is intended for students who have acquired basic knowledge of the constitution in the College of Law and Politics. The objective is to bestow upon such students advanced knowledge in the fields of both human rights and government structure, allowing them to solve problems with the application of said knowledge and gain the ability to write persuasively.

授業の内容 / Course Contents

この授業は2年次生を対象とする。主に法曹志望者を念頭に置いた授業を行うが、それに限らず、法的に説得力のある文章を書けるようになりたいという学生であれば歓迎する。

あらかじめ指定された教材に示された判例、あるいは設問等について、各自が分析し、解答し、そして文章を作成したうえで、授業に参加する。一部の回については、作成した文章を事前に提出することが求められる。また授業では、各自が予習してきた内容を発表し、授業参加者全員でこれを分析し、討論を行う。その過程において、各自の人権・統治に関する知識の応用力、そして文章作成能力を深めることとする。

This class is for second-year students. While this class is primarily aimed at aspiring legal professionals, students who want to learn to write legally persuasive documents, etc., are also welcome.

Learners are expected to prepare by analyzing precedents, answering questions from the textbook or casebook, and drafting notes. In some cases, it is required to submit essays, etc., in advance. Students will also give presentations on what information they have prepared, which will then be analyzed and discussed by all of the participants. Throughout this process, each member should work toward deepening their ability to apply their knowledge of human rights and government structure and their ability to write.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 法の下の平等
- 【3】: 新しい人権(1)
- 【4】: 新しい人権(2)
- 【5】: 表現の自由(1)

- 【6】:表現の自由(2)
- 【7】:表現の自由(3)
- 【8】:集会の自由
- 【9】:経済的自由
- 【10】:社会権(生存権と財産権)
- 【11】:公務員の人権制約(労働基本権と政治活動)
- 【12】:統治機構論を考える
- 【13】:総合演習
- 【14】:筆記テスト(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめ指定された教材の判例を読んで分析するとともに、教材に示された課題に解答し、文章としてまとめておくことが要求される(週に3時間程度の準備が必要となるだろう)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 授業内筆記テスト(1回):40% レポート:40% 授業における参加度:20%

テキスト / Textbooks

教材は、教員が毎回用意する。

参考文献 / Readings

棟居快行ほか『基本的人権の事件簿[第7版]』有斐閣 2024 9784641281554
 笹田栄司ほか『Law Practice 憲法[第2版]』商事法務 2014 9784785722296
 穴戸常寿=曾我部真裕編著『憲法演習サブノート210問』弘文堂 2021 9784335358616

その他 / Others

- <選考方法>
- 採用人数:若干名
- 配当年次:2年次
- 選考方法:自動登録となる法曹コース所属学生以外については、レポートによる。
- ①題目:人権分野においてもっとも印象に残っている判例を簡単に紹介し、その理由を説明する
- ②字数:A4 1枚以内
- ※法曹コース2年次生は自動登録科目。3年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込むこと。

民法発展演習

Progressive Seminar in Civil Law

民法の重要論点を通じて学ぶ法的文書作成法

原田 昌和／本多 基記 (HARADA MASAKAZU/ HONDA MOTONORI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX702
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法曹コース配当初年度は自動登録。翌年度以降はその他登録(自動登録されないの、履修希望者は選考に申込むこと)。 法曹コース生以外はその他登録。		

授業の目標 / Course Objectives

民法の基本知識を定着させるとともに、その理解した内容を説得的に文章で表現する力を修得する。

To firmly establish a basic knowledge of Civil law and give students the ability to convincingly express their understanding in writing.

授業の内容 / Course Contents

この授業は2年次生を対象とするものです。

民法(1), (2), (3)(財産法)の分野について、社会に起こりうる具体的な事例問題を解決する際に必要となる基本的知識(学説・判例)を確認するとともに、学んだ知識を説得的に文章で表現できるようになるためのトレーニングを行います。本講座と並行して開講される民法(2),(3)で学習する分野については授業の進行によって未修の分野を取り扱うこととなりますが、重要な事項について、先取りして学ぶことになります。演習に近い形式の授業になります。

主に法曹コースの学生を念頭に置いた授業を行います。法曹コースの学生に限らず、法的に説得力のある文書を書けるようになりたいという学生も歓迎します。1年次に法曹志望者向けの法学基礎演習を受講していることを前提に授業を行います。法学基礎演習を受講していない学生でも意欲的な学生の参加を歓迎します。

各回の授業は、以下のような形式で行います。

- 1 毎回、事前に予習問題を配布しますので、受講生は予習を行った上で授業に参加します。
- 2 授業では、その予習問題を解決するために必要な知識について、講義形式で再確認をします。基本的な知識を共有した上で、あり得る解決策について、受講生との間での議論も行います。そして、自分の考えた解決策をどのようにして文章で表現するのか、どうすれば法的な意味で説得力のある文章になるのかについても検討を行います。取り扱った分野の知識を確認するための択一式問題も取り上げ、考え方について解説します。
- 3 1学期に数回、予習問題に対する答案を提出してもらいます。それとともに、最終回に知識の定着度を確認するテストを行います。講義では実務家法曹としての活動内容も紹介しますので、将来の進路検討の1つとして、仕事内容や学習方法などの質問も待っています。

法曹を目指したい、あるいは民法をより深く勉強したいという意欲的な学生の参加を期待しています。共通の目標を持つ仲間とともに有意義な時間を過ごせる場になりたいと思っています。

This class is for second-year students. While confirming students have the basic knowledge necessary to resolve specific cases in the fields of Civil law (1), (2), and (3), they will also receive training to allow them to persuasively express the knowledge they have learned in writing. Fields studied in Civil law (2) and (3), which are held in parallel with this course, will be touched upon based on the progress of the class, and fields that will be studied in Civil law (2)

will also be discussed, so students will learn important matters in advance. The class is in a format similar to a seminar. While this class is primarily aimed at students in the legal professional course, those who want to learn to write legally persuasive documents, etc., are also welcome. This course is based on the assumption that students have taken the first year Introductory Seminar on Law for aspiring legal professionals. However, we welcome the participation of motivated students even if they have not taken the Basic Law Seminar.

Each class is conducted in the following format.

1. Preparatory questions are distributed prior to each class, so students will participate in the class after preparing as necessary.
2. In class, students reconfirm the knowledge necessary to solve the preparatory questions in a lecture format. Basic knowledge is shared and possible solutions are discussed with the students. Students then consider how to express the solutions they have come up with in writing and how to make them convincing in a legal sense. We will also discuss alternative questions to confirm knowledge of the relevant domain and explain the way of thinking.
3. Students are asked to submit their answers to the preparatory questions several times throughout the semester. In addition, a test is conducted in the final class to confirm the degree of knowledge retention. During the course, we will also introduce the content of activities as a lawyer as one of the future career studies, we expect questions such as work content and learning methods.

We look forward to the participation of motivated students who want to become legal professionals or who want to study Civil law on a deeper level. Let us make this a space where we can spend meaningful time with colleagues who share common goals.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 【総則】制限行為能力者の取消しと現存利益
- 【3】: 【総則】通謀虚偽表示 (94 条 2 項類推適用)
- 【4】: 【総則】錯誤
- 【5】: 【総則】代理 (表見代理)
- 【6】: 【物権】物権的請求権
- 【7】: 【物権】共有
- 【8】: 【物権】物権変動
- 【9】: 【債権各論】不法行為 (被害者側の過失)
- 【10】: 【契約法】契約の成立・契約準備段階の過失
- 【11】: 【契約法】移転型契約 (売買契約 (契約内容不適合など))
- 【12】: 【契約法】貸借型契約 (賃貸借契約)
- 【13】: 【契約法】役務提供型契約 (請負契約)
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド* (パワポ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

事前に予習問題を提示し、講義までに各自検討する必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業への参加態度 (予習, 発言の積極性) : 30% 課題の提出 : 30% 最終テスト割合 : 40%

テキスト / Textbooks

教材は教員が用意する。民法 (1), (2), (3) で指定された教科書も適宜参照する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

採用人数: 若干名

配当年次: 2 年次

選考方法: 法曹コース学生以外はレポートにより選考します。

①題目:自己紹介(とりわけ1年次にどのような勉強をしてきたか)と、このゼミに参加するにあたっての抱負を説明してください。

②字数:500字から1000字

※法曹コース2年次生は自動登録科目。3年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込むこと。

商法発展演習

Progressive Seminar in Commercial Law
会社法発展演習

河村 賢治 (KAWAMURA KENJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX703
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法曹コース配当初年度は自動登録。翌年度以降はその他登録(自動登録されないので、履修希望者は選考に申込むこと)。 法曹コース生以外はその他登録。		

授業の目標 / Course Objectives

法曹を目指す学生を対象として、会社法の各分野についての理解を深めるとともに、その理解をもとに文章作成能力を高めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen students' understanding of various fields of corporate law and to improve their writing skills based on this understanding.

授業の内容 / Course Contents

毎回、会社法の各分野の問題を素材として、担当者に答案を作成してもらい、その内容を全員で検討する。これによって、会社法の各分野における理解を深めるとともに、文書作成能力を養っていくこととしたい。

In each session, each member will be asked to make a document on an issue from each area of corporate law, and all members will discuss it together. Through this process, students will deepen their understanding of the subject matter and develop their writing skills in the area of corporate law.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:1 説明義務と決議の取消しの訴え(1)
2 説明義務と決議の取消しの訴え(2)
- 【3】:3 株主提案権
24 財産引受け・開業準備行為
- 【4】:4 株主の権利の行使に関する利益の供与
5 決議の取消しの訴えの利益
- 【5】:6 取締役の解任
7 取締役会の権限・決議
- 【6】:8 競業取引・従業員の引き抜き
9 利益相反取引
- 【7】:10 注意義務と任務懈怠責任
11 第三者に対する責任
- 【8】:12 株式の譲渡方法・株主名簿
13 定款による株式の譲渡制限・株式の帰属
- 【9】:14 新株発行の無効・不存在
15 募集株式の発行の差止め・有利発行

- 【10】:16 払込みの仮装
 17 新株予約権
 【11】:18 自己株式の取得
 19 会計帳簿の閲覧・謄写
 【12】:20 組織再編の差止めと無効(1)
 21 組織再編の差止めと無効(2)
 【13】:22 会社分割
 23 締め出し
 【14】:最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の課題となる問題について、担当者ごとに答案を作成してもらうため、その準備に時間を割くことが必要となる。授業で扱った内容については、テストに向けて復習をすることが望まれる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内報告:40% 授業時の発言等:30% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

伊藤靖史 ケースで探索 会社法 有斐閣 2023

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:若干名

配当年次:2年次以上

選考方法:

①題目:伊藤靖史『ケースで探索 会社法』(有斐閣、2023年)に掲げられた問題(ケース)の中から1つ選び、自分なりの答案を作成すること。

②字数:A4 2枚程度

※法曹コース2年次生は自動登録科目。3年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込みこと。

刑法発展演習

Progressive Seminar in Criminal Law
刑法全般に関する演習

小林 憲太郎 (KOBAYASHI KENTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX704
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法曹コース配当初年度は自動登録。翌年度以降はその他登録(自動登録されないの、履修希望者は選考に申込むこと)。 法曹コース生以外はその他登録。		

授業の目標 / Course Objectives

本演習は、法学部において刑法の基本的な知識を修得した学生で、法科大学院進学、ひいては法曹を目指すものを対象とするものである。当該学生に対して、刑法分野における発展的な知識を修得させ、またその知識を応用して問題を解決し、ひいては法曹として必要な文章を作成する能力を獲得させることを目標とする。

This seminar is intended for students who have acquired a basic knowledge of criminal law in the College of Law and Politics and aim to enter Law School and eventually a legal profession. The objective is to bestow upon such students advanced knowledge in regard to the field of criminal law, allowing them to solve problems with the application of said knowledge and eventually procure the ability to write as a legal professional.

授業の内容 / Course Contents

あらかじめ指定された教材に示された判例、あるいは設問等について、各自が分析し、解答し、そして文章を作成したうえで(当該文章はレポートとして提出してもらうことがある)、授業に参加する。また授業では、各自が予習してきた内容を発表し、授業参加者全員でこれを分析し、討論を行う。その過程において、各自の刑法に関する知識の応用力、そして文章作成能力を深めることとする。

Learners are expected to prepare by analyzing precedents, answering questions from the textbook or casebook, and drafting notes. They are sometimes required to submit their notes as reports. Students will also give presentations on what information they have prepared, which will then be analyzed and discussed by all of the participants. Throughout this process, each member should work toward deepening their ability to apply their knowledge of criminal law and their ability to write.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:因果関係ほか
- 【3】:不作為犯ほか
- 【4】:正当防衛ほか
- 【5】:故意と錯誤ほか
- 【6】:過失犯ほか
- 【7】:未遂犯ほか
- 【8】:共犯ほか
- 【9】:生命・身体に対する罪ほか
- 【10】:財産犯①ほか

- 【11】:財産犯②ほか
 【12】:社会的法益に対する罪ほか
 【13】:国家的法益に対する罪ほか
 【14】:総合的検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う論点に関し、教科書や判例集レベルにとどまることなく、学術論文や専門家による判例評釈まで渉猟してることが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各自が授業において発表した内容:50% 議論における積極性や発言内容の的確さ:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:若干名

配当年次:2年次

選考方法:

選考に当たっては、以下のレポートを提出する。

・レポート課題:刑法分野において最も興味をもった判例(特別法違反を含む)を簡単に紹介し、興味をもった理由を説明せよ(A4 1枚以内)。

※法曹コース2年次生は自動登録科目。3年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込みこと。

民事訴訟法発展演習

Progressive Seminar in Civil Procedure Law

民事訴訟法の試験問題(択一・論文)について、検討をして、答案を書く。

安達 栄司／牧内 靖成 (ADACHI EIJI/ MAKIUCHI YASUNARI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX705
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法曹コース配当初年度は自動登録。翌年度以降はその他登録(自動登録されないので、履修希望者は選考に申込むこと)。 法曹コース生以外はその他登録。		

授業の目標 / Course Objectives

法科大学院進学または司法試験予備試験のための民事訴訟法の実力をつける。

Acquire proficiency in civil procedure to pass the law school entrance examination or the bar examination preliminary examination.

授業の内容 / Course Contents

司法試験予備試験(択一、論文)および主要法科大学院の入学試験を素材にして、民事訴訟法の問題を検討し、答案を書き、添削される。

法曹コース生に限らず、法科大学院進学または予備試験受験を考えている学生で、民訴法の理解を深めたい人も気軽に参加できる演習にしたい。

Using the preliminary bar examination and the entrance exams of major law schools as materials, we will examine the issues of the Code of Civil Procedure.

I would like to make the class accessible to students who are thinking about going to law school or taking preliminary exams and who are not good at studying civil procedure.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 短答式問題の検討
- 【2】: 短答式問題の検討
- 【3】: 短答式問題の検討
- 【4】: 短答式問題の検討
- 【5】: 短答式問題の検討
- 【6】: 法科大学院入試問題の検討
- 【7】: 法科大学院入試問題の検討
- 【8】: 法科大学院入試問題の検討
- 【9】: 法科大学院入試問題の検討
- 【10】: 法科大学院入試問題の検討
- 【11】: 予備試験(論文)の検討
- 【12】: 予備試験(論文)の検討
- 【13】: 予備試験(論文)の検討
- 【14】: 予備試験(論文)の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

設問に対する解答、答案を準備して、演習に臨むこと。提出を求められた課題(答案)を必ず提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題提出 1:20% 課題提出 2:20% 課題提出 3:20% 課題提出 4:20% 課題提出 5:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:若干名

配当年次:3・4年次

選考方法:レポート

①題目:これまでの勉強の中で関心のある民事訴訟法の論点を取り上げて、その意義、判例および学説を簡潔に論じなさい。

②字数:800字程度

※法曹コース3年次生は自動登録科目。4年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込みこと。

刑事訴訟法発展演習

Progressive Seminar in Criminal Procedure Law

刑事訴訟法の応用的・発展的事項の知識・理解を得るとともに、事例演習を通じて法的議論の能力を培う。

笹倉 宏紀 (SASAKURA HIROKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX706
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(一部オンラインに切り替える可能性あり。具体的なことはCanvas-LMSのアナウンス機能を用いて、または対面授業時に口頭で周知する)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法曹コース配当初年度は自動登録。翌年度以降はその他登録(自動登録されない)ので、履修希望者は選考に申込むこと。 法曹コース生以外はその他登録。		

授業の目標 / Course Objectives

法曹を志望し刑事訴訟法をひととおり学んだ学生が、応用的・発展的な事項についての知識・理解を習得すること、および、具体的な事例を検討することを通じて、既得の知識・理解を深めるとともに、法的問題点を抽出して的確に法の解釈・適用を行い、その結果を文章で表現する能力を獲得すること。

授業の内容 / Course Contents

(1) 前年度の講義科目で扱わなかった事項、基本的な説明を与えるにとどめた事項等のうち、本演習の履修に必要と思われるものを取り上げて、立ち入った説明を行う。それを通じて、応用的・発展的な事項についても知識・理解を獲得することが、まずもって本科目の内容である。

(2) (1)を前提としつつ、受講者には、あらかじめ配布する予習課題について解答を作成し、Canvas-LMSの課題提出機能を用いて事前に提出することを求める。提出された解答のうち事前に指定された者数名の解答を受講者全員で共有し、演習における議論の対象とする。

具体的には、検討対象の解答を作成した学生に、予習課題の何に着眼し、どのような趣旨で文章を書いたのかを説明してもらい、次いで、他の学生がそれに対する批評を自由に述べる。その上で、作成者である学生には、その場でパソコンを用いて、自らの解答の改善を図ってもらう。

この作業を通じて、前年度に刑事訴訟法の講義で得た知識・理解を的確に文章化し、説得的な文章を起案するためにはどうすればよいかを、実践を通じて学ぶことも、本授業の内容となる。

※ 受講生は、授業で共有される解答を自己の学習目的のみに用いるものとし、受講者以外の者にその全部または一部を提供してはならないものとする。また、共有される解答は、優れている場合には褒められることになるが、問題がある場合には、当然、ネガティブな批評を受けることになるので、そのことを了解できる者のみが履修されたい。

(1)と(2)の配分比率は、履修者の知識・理解の水準や需要に応じて柔軟に決定する。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:捜査法①
- 【3】:捜査法②
- 【4】:捜査法③

- 【5】: 捜査法④
- 【6】: 捜査法⑤
- 【7】: 中間テスト
- 【8】: 証拠法①
- 【9】: 証拠法②
- 【10】: 証拠法③
- 【11】: 証拠法④
- 【12】: 公判法①
- 【13】: 公判法②
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容 (1) (2)を通じて、毎回の授業に先立ち、「刑事訴訟法」の授業で扱った内容を復習することを要する。
 また、授業内容 (2)については、あらかじめ指定された課題に解答し、文章としてまとめておく必要がある(週に 3 時間程度の準備が必要となろう)。発表の指示を受けていない学生も、本科目の学習効果を享受するためには、発表担当者と同様に起案を行い、あるいは少なくとも、その構成・内容を考えておく必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 中間テスト:30% 授業態度(予習の程度を含む):40% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

池田公博＝笹倉宏紀 刑事訴訟法 有斐閣 2022 年 9784641150911
 大澤裕＝川出敏裕(編) 刑事訴訟法判例百選〔第 11 版〕 有斐閣 2024 年 9784641115675
 上記以外の教材を用いる場合は、進行に応じて、適宜、データベース等での入手を指示し、あるいは、印刷・配布する。(それらの他の教材を各自が購入する必要はない。)

参考文献 / Readings

授業の進行に応じて、適宜、紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本科目は、その目標・内容に照らして、講義科目「刑事訴訟法」の単位を取得していない者の履修には適さない。

その他 / Others

<単位認定要件>
 次の事由が通算で 3 回に達した場合は、その時点で単位不認定とし、履修の継続を許さない。
 (1)無断のまたは正当な理由のない欠席
 (2)無断のまたは正当な理由のない 30 分以上の遅刻
 (3)無断のまたは正当な理由のない予習課題の不履行または未提出もしくは提出遅延
 授業前日午後 5 時までには連絡のない場合を「無断」とする。ただし、その後に生じた合理的に予期し得ない事態に起因する場合(例＝授業当日朝に風邪様症状を発症し発熱したとき、公共交通機関で大学に向かう途中に豪雨による運転見合わせに遭遇したとき等)は、当該事態が生じた後、可能な限度で速やかに連絡すれば「無断」とはしない。なお、「正当な理由」に当たるか否かは大学の規則・規程および社会通念に照らして判断するが、就職活動、部活動・サークル活動、アルバイトが「正当な理由」に当たるとされることはない。
 <選考方法>
 採用人数:若干名
 配当年次:3・4 年次
 選考方法:レポート
 ①題目:「刑事訴訟法」の講義を受講した際に興味を持った判例の内容を簡単に説明し、興味を持った理由を説明する。本科目を履修する適性・能力を有するか否かを判定するための課題であるので、文学的・社会的あるいはジャーナリスティックな観点からではなく、あくまでも、法的観点からの記述を期待する。
 ②字数:A4 判用紙 1～2 枚程度。手書き不可。フォントサイズ 10.5 ポイントないし 11 ポイント, 38 字～40 字／行×35 行／頁の様式で記載すること。
 ※法曹コース 3 年次生は自動登録科目。4 年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込みこと。

行政法発展演習

Progressive Seminar in Administrative Law
行政法に関する具体的事例の検討

松戸 浩 (MATSUDO HIROSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX707
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	備考参照		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	法曹コース配当初年度は自動登録。翌年度以降はその他登録(自動登録されないので、履修希望者は選考に申込むこと)。 法曹コース生以外はその他登録。		

授業の目標 / Course Objectives

行政法は学部段階では抽象的な形で論じられるのが主であるが、本授業は、行政法 1,2 を履修した者を対象に、これらの授業で学んだ行政法の様々な解釈論を具体的な事例に即した形で修得することをその目的とする。

As for the administrative law, in main, but what is discussed in an abstract form acquiring a various interpretation theory of the administrative law that this class learned by these classes targeting at the people who studied administrative law 1,2 in the form that accorded with a concrete example at the department stage; is intended.

授業の内容 / Course Contents

本授業では配布するレジュメを元に、より発展的な行政法の内容を扱う。具体的には下記に挙げる授業計画に挙げられた諸項目に関する基本的な学説判例を学び、これにより行政法の法的枠組を理解することに努める。

We treat contents of a more progressive administrative law for the cause in resume to distribute by this class.

Specifically, we learn the basic theory precedent about the items which class plans to give as follows included and act in in this way understanding a legal frame of administrative law.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・行政法の概要
- 【2】: 法律による行政の原理・法の一般原則
- 【3】: 行政行為
- 【4】: 行政裁量
- 【5】: 行政立法・行政指導
- 【6】: 行政手続
- 【7】: 行政上の義務の強制手段
- 【8】: 行政訴訟概説・取消訴訟(1)
- 【9】: 取消訴訟(2)
- 【10】: 原告適格(1)
- 【11】: 原告適格(2)・いわゆる狭義の訴えの利益
- 【12】: その他の抗告訴訟・当事者訴訟
- 【13】: 国家賠償
- 【14】: まとめと講評(最終テスト実施)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に対象範囲の教科書及びシラバスを読んでおくこと。またシラバス内で逐次挙げられる判例・裁判例に就いては『ケースブック行政法』でその内容を把握しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の予習の程度・授業に対する積極的姿勢等:60%

最終テスト割合::40%

最終テストは授業最終日に実施する。

テキスト / Textbooks

稲葉・下井・中原・野呂 ケースブック行政法第7版 弘文堂 2022 9784335305207

参考文献 / Readings

宇賀・交告・山本 行政判例百選Ⅰ第8版 有斐閣 2022 9784641115606

宇賀・交告・山本 行政判例百選Ⅱ第8版 有斐閣 2022 9784641115613

櫻井敬子・橋本博之 行政法第6版 弘文堂 2019 9784641179554

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

行政法1,2で学ぶ内容を理解していることが前提となる。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:5名程度(法曹コース生を除く)

配当年次:3~4年

選考方法:

①題目:行政法1,2で扱ったテーマのうち関心を持ったものに就いて論ぜよ。

②字数:制限なし

※法曹コース3年次生は自動登録科目。4年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込みこと。

公務実践演習

Seminar on Administrative Praxis

国・地方の行政の実態と今後の課題を考える

箕浦 龍一 (MINOURA RYUICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX708
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講座は、日本の中央政府の政策形成過程、政治と行政の関係、首相官邸と各府省の関係などについて、実態を踏まえながら、政府部内で起きている現実の事象を想像しつつ、日ごろ報道などで見聞きするような政治事象の背景、日本政府が直面する制度的な課題等について理解を深めることを目的とする。

併せて、地方行政についても、国との関係などを中心に概観する。

The purpose of this course is to deepen the understanding of the institutional challenges that the Japanese government faces, such as the process of policy formation in the central government of Japan, the relationship between politics and administration, the relationship between the Prime Minister's Office and each ministry, and to imagine the actual events taking place within the government while understanding the reality.

In addition, an overview of local administration will be provided, focusing on its relationship with the country.

授業の内容 / Course Contents

本講座では、日本の中央政府の政策形成過程、政治と行政の関係、首相官邸と各府省の関係などについて、実体を踏まえながら、政府部内で起きている現実の事象を想像しつつ、日ごろ報道などで見聞きするような政治事象の背景、日本政府が直面する制度的な課題等について理解を深めることを目的とする。

併せて、地方行政についても、国との関係などを中心に概観する。

輪読形式で進めることを基本とするため、教科書は用意いただく必要があり、各自あらかじめ割り振られた章節を読み、かつ関連する事実関係などについて他の文献や Web など理解を深めて発表してもらう。

担当者以外の学生においても、事前に教科書の該当章節は一読して授業の臨むこと。

The purpose of this course is to deepen the understanding of the institutional challenges faced by the Japanese government, the background of political events that are often reported in the media, and the actual events that are taking place within the government, while imagining the reality of the policy-making process of the central government of Japan, the relationship between politics and administration, and the relationship between the Cabinet Secretariat and each ministry and agency, based on the reality.

In addition, we will provide an overview of local government, focusing on its relationship with the national government.

You need to prepare a textbook, read the chapter assigned to you in advance, and deepen your understanding of the relevant facts and other literature or websites before presenting them. Even for students other than the person in charge, it is necessary to read the relevant chapter of the textbook in advance and attend the class.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 自己紹介と概論

【2】: 行政組織論(1)

【3】: 行政組織論(2)

- 【4】:公務員制度論(1)
- 【5】:公務員制度論(2)
- 【6】:財政論
- 【7】:政官関係論
- 【8】:政策立案の実態(第9章・第10章)
- 【9】:政策の実施と評価(第11章・第12章)
- 【10】:政策形成の記録・保存と情報開示
- 【11】:地方政府の構造／地方行政のマネジメント
- 【12】:地方自治の沿革と課題
- 【13】:地方政府と中央政府をめぐる課題
- 【14】:国と地方、これからの課題と可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回ごとに予定されている内容について各自あらかじめ読んでおくとともに、Webを活用して記事や文献など、自身の興味や関心に基づく学習を深めること。

ゼミでは、予め割り振られた章節について、担当者から発表してもらうとともに、それに基づく議論を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当セクションに関する報告内容:40% 出席態度、議論への主体的参画:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

原田久 行政学 法律文化社 2022 4589041952

曾我 謙悟 日本の地方政府 中公新書 2019 4121025377

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

通常の日本語能力、パワーポイントなどの発表資料の作成スキル程度

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パワーポイントその他の方法により各自の担当回の発表資料(スライド)を作成していただくので、PCなどは各自用意しておくことが望ましい。

その他 / Others

採用人数／Number of students:20～30名程度／Approximately 20-30 students

配当年次／Eligible year:3～4年次／3rd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート提出

①題目:このゼミを志望する理由

②字数:800字程度

公務実践演習

Seminar on Administrative Praxis
公務の魅力を探る

三橋 葉子 (MITSUHASHI YOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX709
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、日本の行政の仕組みや国家公務員の業務を理解し、公務員として働くことのイメージを持つことを目標とする。また、社会や経済の問題に対する課題発見・対応能力を高めることを目指す。

This seminar aims to deepen the participants' understanding of Japanese public administration and provide an opportunity to develop well-thought image of a public service. In addition, the course aims to enhance participants' practical skills in identifying and responding to social and economic issues.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、日本の行政の理論や制度、国家公務員の制度や実務について、関連する資料や文献を基に、学生による報告及びそれを踏まえた議論を行う。ゲスト講師の招聘も検討しており、ゲスト講師との対話によって公務に関する理解を更に深める。

In this seminar, theories and systems of Japanese public administration, as well as the systems and practices of central government officials, will be explored. Participants are expected to prepare and present on the specified materials that are allocated to each of them, followed by the discussions among the participants. Guest lecturers may be invited to the seminar so that the participants can gain insights through engagement with them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 行政の理論と制度 (1)
- 【3】: 行政の理論と制度 (2)
- 【4】: 行政の理論と制度 (3)
- 【5】: ゲストスピーカー (仮)
- 【6】: 国家公務員の制度と実務 (『官僚たちの夏』とその後) (1)
- 【7】: 国家公務員の制度と実務 (『官僚たちの夏』とその後) (2)
- 【8】: 国家公務員の制度と実務 (『官僚たちの夏』とその後) (3)
- 【9】: ゲストスピーカー (仮)
- 【10】: 『若手行政官への推薦図書』を読む (1)
- 【11】: 『若手行政官への推薦図書』を読む (2)
- 【12】: 『若手行政官への推薦図書』を読む (3)
- 【13】: ゲストスピーカー (仮)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワーポ等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

履修人数等に応じて、授業方法を変更することがあり得る。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたっては、事前に配布される資料を読んで予習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加及び発言:60% 演習における報告:40%

テキスト / Textbooks

毎回、講義で取り扱うテーマごとに資料を配付する。

参考文献 / Readings

原田久『行政学[第2版]』法律文化社 2022 9784589041951

嶋田博子『職業としての官僚』岩波書店 2022 9784004319276

その他 / Others

授業計画は上記のテーマを予定しているが、履修人数や時事の進展等を鑑みてテーマを変更することがあり得る。

<選考方法>

採用人数:20名以内

配当年次:3年生以上

選考方法:レポート

①題目:自己紹介および志望動機

②字数:1000字(A4用紙1枚)程度

公務基礎演習

Introductory Seminar on Public Administration
地方自治を読む・聞く・語る

山田 健(YAMADA KEN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX710
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習の目標は、履修者の皆さんが地方自治を中心に日本の行政に対する理解を深めることです。また、皆さんが充実した大学生活を過ごすための基礎的能力を涵養することも併せて目標とします。

Main objective of this course is students challenge to study about local governance. In addition, the instructor hopes students will develop your basic skills.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、戦後日本の地方自治について、多角的に捉えることで理解を深めることを目指します。具体的には、①地方自治に関する文献の輪読・②実務経験者への聞き取り調査・③得られた知見をもとにした議論の提示とそれぞれの関心に応じた資料調査とその報告といった「読む・聞く・語る」活動をバランスよく行うことで、様々な角度から地方自治の世界に光を当て、その諸相にふれることを試みます。また、「読む・聞く・語る」活動の手がかりとなる情報について担当教員が講じる時間もとるものの、その時間でも担当教員が話すばかりではなく折にふれて履修者へコメントを求めます。演習の醍醐味は、皆で意見を交わしながら議論を深めていくことです。その観点から、本演習はグループディスカッションの機会を積極的に取り入れる予定です。

In this course, students will reading, listening, and speaking about local governance with your classmates.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 演習案内
- 【2】: 議論: 「推し」の地域論
- 【3】: 特別講義: 旅する地方自治論
- 【4】: 文献輪読: 「新たな価値の創造・共創」の時代の実務家公務員の技術力』
- 【5】: 文献輪読: 『県庁おもてなし課』1-2 章
- 【6】: 文献輪読: 『県庁おもてなし課』3-4 章
- 【7】: 文献輪読: 『県庁おもてなし課』5-6 章
- 【8】: 聞き取り調査: 地方自治体職員
- 【9】: 特別講義: まちづくり事例研究
- 【10】: 聞き取り調査: 地方自治体元職員
- 【11】: 個人報告①
- 【12】: 個人報告②
- 【13】: 個人報告③
- 【14】: 過年度履修者との意見交換

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献輪読に際しては、履修者の皆さんには、司会・報告・コメントの役割を分担していただきます。それぞれの役割に応じて、課題文献や関連文献を予習・復習することが求められます。また、一連の活動においては、ご自身なりのポイント(読みどころ・聞きどころ・語りどころ)を発見し、そのポイントをもとに考えることやその考えを伝えるために工夫することも期待されます。文献輪読以外の授業回でも、その経験を活かして履修者全員が積極的に参加することを心がけてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献輪読への主体的な参加:30% 聞き取り調査への主体的な参加:30% 個人報告への主体的な参加:30% 講義のコメントペーパー:10%

テキスト / Textbooks

有川浩 県庁おもてなし課(文庫) 角川書店 2013 9784041007846

文献輪読では、上記テキストのほか、担当教員による書評を使用致します

(<https://researchmap.jp/kenyamada/misc/46259517>)。

参考文献 / Readings

原田久 行政学(第2版) 法律文化社 2022 9784589041951

北山俊哉・稲継裕昭 テキストブック地方自治(第3版) 東洋経済新報社 2021 9784492212486

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

行政学や地方自治に対して関心や学習意欲を有していることが求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、タブレット、スマートフォンのいずれかをご用意ください。また、Microsoft Word および Microsoft Power Point を利用することが望ましいです。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:1年次

選考方法:レポート

①題目:好きな地域とその理由

②字数:1000字程度

なお、本演習は、対面形式で実施致しますが、本務校での業務や家族の介護などの理由により、複数回休講する可能性がございます。その場合、日を改めての対面形式あるいはオンライン形式にて補講を実施致します。

公務基礎演習

Introductory Seminar on Public Administration
公務員の仕事と中央省庁・自治体の役割を考える

若林 悠(WAKABAYASHI YU)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX711
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代社会は、自然災害の頻発、科学技術の高度化に伴う事故の深刻化、財政赤字、人口減少社会の進展といった様々な難題に直面している。日本の行政は、こうした政策的課題をいかに解決しようとしてきたのだろうか。また、皆さんが公務員を目指すなら、一人の公務員として何ができるのだろうか。本演習を通じて、日本の行政に関する理解を深め、公務員の仕事を自分事として考えるきっかけにして欲しい。

Contemporary society is facing various problems such as the frequent occurrence of natural disasters, the exacerbation of accidents due to the advancement of science and technology, financial deficits, and the progress of population decline. In response to these policy issues, how did the Japanese government attempt to solve these? And what can you do as a public servant? I hope that by participating in this seminar, students will deepen your understanding of Japanese public administration, and give you an opportunity to think about public service.

授業の内容 / Course Contents

本演習は、日本の行政に関する基礎的な文献を輪読し、皆で議論していく。授業では、公務とは何かを中心に考えながら、各テーマの問題関心や分析概念への理解を深める。進め方は、毎回担当者が課題文献の内容報告を行い、その論点について全体で議論をしながら授業を進める。

In this seminar, students will read in turn the foundational literature relating to Japanese public administrations, and discuss the issues. During the class, students will deepen their understanding of the important problems and the analytical concepts while focusing on what public service is. Each class will be conducted by having the student in charge of the assigned literature report on the contents, followed by a discussion of the issues with all of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション及び報告担当者の決定
- 【2】: 村木厚子『公務員という仕事』はじめに、第1章
- 【3】: 村木厚子『公務員という仕事』第2章
- 【4】: 村木厚子『公務員という仕事』第3章
- 【5】: 村木厚子『公務員という仕事』第4章
- 【6】: 村木厚子『公務員という仕事』第5章
- 【7】: 佐藤直子『女性公務員のリアル』第1章、第2章
- 【8】: 佐藤直子『女性公務員のリアル』第3章
- 【9】: 佐藤直子『女性公務員のリアル』第4章
- 【10】: 佐藤直子『女性公務員のリアル』第5章
- 【11】: 佐藤直子『女性公務員のリアル』第6章、おわりに
- 【12】: 嶋田博子『職業としての官僚』はじめに、第1章

- 【13】: 嶋田博子『職業としての官僚』第2章、第3章
【14】: 嶋田博子『職業としての官僚』第4章、結び

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は、担当報告の時以外にも事前に課題文献の該当箇所を読み、疑問点や感想をメモしたペーパーを準備して出席することが求められます。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 担当箇所の報告:60% 授業での出席態度と議論への参加:40%

テキスト / Textbooks

村木厚子『公務員という仕事』筑摩書房 2020 9784480683762
佐藤直子『女性公務員のリアルーなぜ彼女は「昇進」できないのか』学陽書房 2023 9784313151383
嶋田博子『職業としての官僚』岩波書店 2022 9784004319276

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ＜選考方法＞
採用人数:10 名程度
配当年次:1年次
選考方法:レポート
①題目:本演習を志望する理由と日本の行政で重要と考えるテーマについて自由に書いてください。
②字数:1000 字程度

公務実践演習

Seminar on Administrative Praxis
国家公務員として働くイメージを持とう

渡邊 恵子(WATANABE KEIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX712
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国家公務員を卒業後の進路の一つとして検討している学生が、実際の行政のあり方や活動を学んで理解を深め、国の行政機関、特に「霞が関」と呼ばれる本府省で働く具体的なイメージを持てるようになること。

The target of this seminar is students who are considering working as a national civil servant as one of their career options after university.

The goal is for students to learn about and deepen their understanding of the realities of public administration so that they can have a concrete image of working in a national government agency.

授業の内容 / Course Contents

行政組織と公務員について基礎的な知識を学んだ後、国家公務員経験者が書いた書籍を輪読したり、公務員の採用パンフレットを調べて読み解いたりして、国家公務員の仕事の内容や職場について理解を深める。霞が関のフィールドワークや現職の国家公務員(複数名)を招いて話を聞くことも予定している。国家公務員、特に霞が関で働く公務員に焦点を当てるが、国家公務員との違いを理解するために地方公務員についても学ぶので、地方公務員と国家公務員の違いを理解して進路を考えたい学生の参加も歓迎する。

After learning basic knowledge about administrative organisations and civil servants, participants deepen their understanding of the work and workplace of civil servants by reading information on civil service recruitment and books written by people with experience as national civil servant. Fieldwork in Kasumigaseki and inviting current civil servant(s) to talk to the participants are also planned. The focus will be on national civil servants, particularly those working in Kasumigaseki, but students will also learn about local civil servants in order to understand the differences between them and national civil servants, so students who want to understand the differences between the work of national and local civil servants and consider their career paths are welcome to attend.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 行政の組織と公務員①
- 【3】: 行政の組織と公務員②
- 【4】: 村木厚子『公務員という仕事』(ちくまプリマー新書)はじめに～第2章の輪読
- 【5】: 村木厚子『公務員という仕事』(ちくまプリマー新書)第3章の輪読
- 【6】: 村木厚子『公務員という仕事』(ちくまプリマー新書)第4章～おわりにの輪読
- 【7】: 国家公務員の採用パンフレットを読み解く
- 【8】: 地方公務員の採用パンフレットを読み解く
- 【9】: フィールドワーク
- 【10】: 公務の実際①(国や地方自治体に勤務する現職公務員をゲストスピーカーとして招き、これまでの仕事内容や公

務員として働く意義などを中心にご講話いただき、公務員として働く魅力や公務の特徴について考察する予定)

【11】:公務の実際②

【12】:公務の実際③

【13】:公務の実際④

【14】:講義のまとめ(現職公務員の講話を踏まえての意見交換)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業計画はおよその目安なので、受講生の人数や関心、理解の進展等によって内容の変更もありうる。

ほぼ毎回、学生間の質疑応答やディスカッションを行う予定なので、積極的な受講態度を期待する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で学ぶ書籍を事前に読み、自分なりに理解をしてから授業に参加する(第2～3回及び第4～6回の予習)

輪読で報告を担当する書籍の担当章を読み、その概要やそれに対する自身の疑問点や意見をまとめる(担当回予習)

公務員の採用情報を調べ、その概要をまとめる(第7回及び第8回予習)

ゲストスピーカーの講話によって理解を深めた内容について1,000字程度にまとめる(第14回予習)

毎回の授業後には、授業の内容を振り返り、内容に対する理解を深める。

その他、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:60% 議論への参加と貢献度:40%

「議論への参加と貢献度」については、毎回の授業における質問や意見、ゲストスピーカーの講話への質問の内容・回数に特に重視する。

テキスト / Textbooks

村木厚子 公務員という仕事 筑摩書房 2020 9784480683762

参考文献 / Readings

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔 はじめての行政学[新版] 有斐閣 2022 9784641150997

金井利之 行政学概説 放送大学教育振興会 2020 9784595322051

岡田淳志 公務員が人事異動に悩んだら読む本 学陽書房 2022 9784313151376

林誠 どんな部署でも必ず役立つ 公務員の読み書きそろばん 学陽書房 2020 9784313151062

NHK 取材班 霞が関のリアル 岩波書店 2021 9784000614726

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

国家公務員を卒業後の進路の一つとして検討していること

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料の配付や報告資料の共有などに「Canvas LMS」を使用するので、授業にPCを持参すること。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:15人

配当年次:3, 4年次

選考方法:レポート

①題目:国家公務員として働くことに興味を持った理由

②字数:1,000～1,500字程度

公務実践演習

Seminar on Administrative Praxis
「公務員」という仕事とジレンマ

松島 悠史 (MATSUSHIMA YUJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX713
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公務員という仕事の建前と現実、理念と実際の事例の分析を通じて、行政の理論と現実を把握し、公務員という機能の多角的・立体的な理解を得る

Acquire a multifaceted and three-dimensional understanding of structures of administration through observation of ideals and realities that occur in actual administrative settings

授業の内容 / Course Contents

当初計画のとおりにはいかない行政施策や、表にでることではない行政実務の現状等、公務員がその政策形成およびその実施にあたって”ジレンマ”を感じた事例の検証を通じ、行政のメカニズムを研究する。

We will study the administrative structure by examining actual cases of “dilemmas” that civil servants faced in formulating and implementing policies, such as administrative measures that did not go as originally planned and the current state of administrative practice that does not appear on the surface.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーションー担当教官の紹介、コースの目的、内容、課題の説明などー
- 【2】:行政の仕事の基本構造1
- 【3】:行政の仕事の基本構造2
- 【4】:行政の仕事の基本構造3
- 【5】:公務員の仕事とジレンマ1 ※国家・地方自治体に勤務する現役公務員を中心に、実際に行政に携わる者を招き、自身のこれまでの仕事やそこで直面したジレンマを共有してもらい議論する。政官の予定により日程を調整するため、具体的に招く公務員は授業開始時に紹介。
- 【6】:公務員の仕事とジレンマ2
- 【7】:公務員の仕事とジレンマ3
- 【8】:公務員の仕事とジレンマ4
- 【9】:中間の振り返り
- 【10】:公務員の仕事とジレンマ5
- 【11】:公務員の仕事とジレンマ6
- 【12】:公務員の仕事とジレンマ7
- 【13】:最終レポート報告・プレゼンテーション1
- 【14】:最終レポート報告・プレゼンテーション2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパー5回

公務員の仕事の研究のために自身で事例の収集・取材・分析

最終レポート

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ :100%

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 授業参加点:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

行政に対する興味関心(必ずしも自身が公務員志望である必要はない。)

働くということへの興味関心

その他 / Others

採用人数／Number of students:20～30 名程度／Approximately 20-30 students

配当年次／Eligible year:3～4 年次／3rd - 4th year

選考方法／Selection method:

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)

To examine the society from a legal point of view and train your independent research, logical thinking, and presentation skills

田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX714
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This seminar is designed to train students' logical thinking and presentation skills, while examining the society from the legal, sociological, cultural and political points of view.

Through examining modern social issues from a legal point of view, students can also gain insights into the modern society in Japan.

授業の内容 / Course Contents

The area of law addressed in the seminar will be mainly Japanese civil law. However, since social issues are commonly related to not only Japanese civil law but also various kinds of laws, such related laws will also be covered.

The seminar will be inclined more toward learning civil-law related social issues from legal, sociological, cultural, historical and political points of view, rather than delving into doctrinal aspects of legal studies.

Each week covers one academic paper. Students are expected to read the paper for the session and ready for discussing matters addressed in the paper.

Depending on the number of students reading the course, the second half of the semester may be spared for training students' independent research skills, as well. In the case of an independent research, students will be asked to find the topics to research on and present the research in class. Students may choose any topic involving social issues related to the Japanese law or other countries'. However, since the research materials may be limited depending on the topics, consultation with the instructor will be required before starting the research. Students will also be required to write a short research paper on the topics that they selected.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction to the seminar

Logical thinking and presentation skills (1) The topics will be provided by the instructor.

【2】:Logical thinking and presentation skills (2)The topics will be provided by the instructor.

【3】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【4】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【5】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【6】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【7】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【8】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【9】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

【10】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

- 【11】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
 【12】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
 【13】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
 【14】:Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Each session covers one academic paper. The list of the papers will be presented at the first session. Students may also select papers they wish to read (insofar as the papers are related to law, sociology, economics, law and society, or law and economics). Students must read the paper for each week before coming to the session.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation and participation in class:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

the maximum number of students: 15

the targeted grades: from second year and above

the way of selection: through seminar registration (a ballot in the case where the applicants exceed the maximum number)

法政外国語演習＜英語＞

Seminar on Law and Politics(English)
Equality Rights in Japan

白水 隆(SHIROUZU TAKASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX716
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This seminar is designed to give students an understanding of how Equality rights are deemed by society, courts, and academia in Japan.

授業の内容 / Course Contents

This seminar will focus on issues such as racial, gender, and other forms of discrimination in Japan, with reference to the situation in North America.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:An introduction to the situation regarding Equality rights in Japan.
- 【2】:An introduction to the situation regarding Equality rights in North America.
- 【3】:Group presentation: racial discrimination (part 1)
- 【4】:Group presentation: racial discrimination (part 2)
- 【5】:Group presentation: racial discrimination (part 3)
- 【6】:Group presentation: gender discrimination (part 1)
- 【7】:Group presentation: gender discrimination (part 2)
- 【8】:Group presentation: gender discrimination (part 3)
- 【9】:Group presentation: other forms of discrimination (part 1)
- 【10】:Group presentation: other forms of discrimination (part 2)
- 【11】:Individual presentation
- 【12】:Individual presentation
- 【13】:Individual presentation
- 【14】:Wrap up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Active participation in class discussions is encouraged. All students are expected to prepare their group/individual

presentations by using powerpoint slides.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Student Presentation:70% In-Class-Performance:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

その他 / Others

The maximum number of students(採用人数):20

Eligible year(配当年次): 3~4

Selection Method(選考方法): application only

※Lottery in the case of a large number of applicants

法政外国語演習<ドイツ語>

Seminar on Law and Politics(German)

ドイツ語法律文献講読

神橋 一彦(KANBASHI KAZUHIKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX717
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	ND164「法学政治学特別リサーチ」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

ドイツの憲法や政治に関する文献を講読し、ドイツ語の基本的読解力を養成するとともに、法治主義、民主主義、国民主権や歴史も含めた日独の違いについても考える。

By reading literature on the German constitution and politics, students develop basic reading comprehension skills in German, while also thinking about the differences between Japan and Germany, including the rule of law, democracy, sovereignty of the people, and the history.

授業の内容 / Course Contents

各自、テキストを事前に読んできてもらい、予め決められた受講生が分担部分について訳す。内容や文法について授業担当者が解説するとともに、参加者全員で内容について議論を行う。読む分量は、毎回1～2 頁と多くはないが、初級文法をベースに文章を正確に理解する能力の養成を目指す。

This course requires each student to read the text in advance, and a predetermined student translates the assignment. The instructor explains the contents and grammar, and all participants discuss the contents. The readings are not long, 1-2 pages each, but the aim is to develop the ability to understand sentences accurately based on elementary grammar.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: ドイツ語文献講読
- 【3】: ドイツ語文献講読
- 【4】: ドイツ語文献講読
- 【5】: ドイツ語文献講読
- 【6】: ドイツ語文献講読
- 【7】: ドイツ語文献講読
- 【8】: ドイツ語文献講読
- 【9】: ドイツ語文献講読
- 【10】: ドイツ語文献講読
- 【11】: ドイツ語文献講読
- 【12】: ドイツ語文献講読
- 【13】: ドイツ語文献講読
- 【14】: ドイツ語文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回扱う部分について、文法の知識を踏まえ、必ず事前に訳してくる。ドイツ憲法に関する背景的知識については、参考文献所掲の『ドイツ憲法集〔第8版〕』『(ガイドブック)ドイツの憲法判例』の説明が有益であるので、一読することが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と授業への参加:100%

テキスト / Textbooks

テキストは比較的平易なものを予定している。

最終的には受講生の希望も勘案して決定する。

参考文献 / Readings

高田 敏ほか(編集, 翻訳) ドイツ憲法集〔第8版〕 信山社 2020 9784797223705

初宿 正典 (著, 翻訳) ドイツ連邦共和国基本法(第2版) 信山社 2024 9784797228762

初宿 正典ほか(編) 新解説 世界憲法集 第5版 三省堂 2020 9784385313115

鈴木 秀美 ほか(著, 編集) 〈ガイドブック〉ドイツの憲法判例 信山社 2020 9784560088074

ボード・ピエロートほか (著) 現代ドイツ基本権〔第2版〕 法律文化社 2019 9784589039859

村上 淳一ほか (著) ドイツ法入門 改訂第9版 有斐閣 2018 9784641048225

中山 豊 中級ドイツ文法(新装版) 白水社 2018 9784560088074

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ドイツ語の初級文法を学習していること。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:10人

配当年次:2年、3年、4年

選考方法:レポート

①題目:志望動機と今までのドイツ語学習歴(本学でドイツ語を履修していた場合は、そのことについても記載すること)について

②字数:A4 1枚

履修に当たっては、ドイツ語の初級文法について一通り学習していることを要する。なお、内容等について質問があるときは、授業担当者まで問い合わせること(メールで事前連絡すること。連絡先は R Guide の「オフィスアワー」で確認できる)。

公務基礎演習

Introductory Seminar on Public Administration
国と地方の行政の基本を学ぶ

箕浦 龍一 (MINOURA RYUICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX718
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講座は、法学部で法律や行政の仕組みなどを学び始めた学生を対象に、国と地方のそれぞれの行政の枠組みなどについての基礎的な理解を得てもらうことを目的とする。

The purpose of this course is to provide students who have just started learning about law and administrative systems in the Faculty of Law with a basic understanding of the administrative framework of both the national and local governments.

授業の内容 / Course Contents

本講座では、二冊の図書をベースとしながら、その輪読を通じて、日本の中央政府の政策形成過程、政治と行政の関係、首相官邸と各府省の関係、また地方公共団体の実態などについて、基本的な事項を中心に概観し、理解を深めることを目的とする。

輪読形式で進めるため、教科書は用意いただく必要がある。

第1回目の講義で、受講者それぞれの分担を決める。各自あらかじめ割り振られた章節を読み、かつ関連する事実関係などについて他の文献やWebなどで理解を深めて発表してもらう。

担当者以外の学生においても、事前に教科書の該当章節は一読して授業に臨むこと。

将来、公務員を志望するかどうかにかかわらず、社会人としての基礎的な素養、教養としての行政に対する理解と知見を得ることを期待する。

This course aims to provide a basic understanding of the administrative framework of both the national and local governments, including the policy formation process of the central government of Japan, the relationship between politics and administration, the relationship between the Prime Minister's Office and each ministry, and the reality of local public bodies, through a reading circle based on two books.

The textbooks must be prepared because the course is conducted in a reading circle format. Each student reads the assigned chapter in advance, deepens their understanding of related facts and other literature or websites, and presents it. Even for students other than the instructor, it is necessary to read the relevant chapter of the textbook in advance. Regardless of whether you aspire to be a public servant in the future, we expect you to gain a basic understanding and knowledge of administration as a social person, as well as a fundamental quality and education.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己紹介とガイダンス
- 【2】: 行政組織論
- 【3】: 行政組織論
- 【4】: 公務員制度論
- 【5】: 公務員制度論

- 【6】:財政論
- 【7】:政官関係論
- 【8】:政策立案の実態
- 【9】:政策の実施と評価
- 【10】:地方政府の構造
- 【11】:地方行政のマネジメント
- 【12】:地方自治の沿革と課題
- 【13】:地方政府間の関係
- 【14】:地方政府と中央政府をめぐる課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回ごとに予定されている内容について各自あらかじめ読んでおくとともに、Web を活用して記事や文献など、自身の興味や関心に基づく学習を深めること。

ゼミでは、予め割り振られた章節について、担当者から発表してもらうとともに、それに基づく議論を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席態度と議論への主体的な参加:40% 担当回の報告内容:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

原田久 行政学 法律文化社 2022 4589041952

曾我謙悟 日本の地方政府 中央公論社 2019 4121025377

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

通常の日本語能力、パワーポイントなどのスライド作成スキル程度

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

指定なし

その他 / Others

採用人数／Number of students:20～30 名程度／Probability of 20 to 30 people

配当年次／Designated year:1 年次／1st year

選考方法／Selection method:レポートによる選考

①題目:このゼミを志望する理由

②字数:800 字程度

キャリアデザイン—インターンシップを通じた学修

Internship Study

キャリアデザイン—自律型人材を目指すための大学での学びを考える

箕浦 龍一 (MINOURA RYUICHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX729
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

キャリアデザインとは、単なる新卒時の就職先を考えるにとどまらず、自分自身の人生を通じた成長と心の豊かさ、ウェルビーイングを実現するための基礎である。

講義では、社会の中で自分という人間が在る意味を考え、大学での学びの価値を考え、社会性に対する理解や他者との協働・共創の知見・経験を培うため、講師からの座学だけでなく、学生同士の学び合いを重視しながら、様々な社会・他者とのつながりの主体的な開拓やインターンシップへの参加などの取組を促し、その振り返りを行う。

民間企業、公務員志望を問わず、両者に対応するよう配慮する。

ge and experience of social skills and collaboration/co-creation with others. To achieve this, we emphasize not only lectures from instructors but also peer learning among students. Moreover, we encourage activities such as actively building connections with various societies and individuals and participating in internships. Reflecting on these experiences is also essential.

We make sure to cater to both those aspiring for private-sector jobs and those aiming for public service careers.

授業の内容 / Course Contents

○いかなる時代においても、企業や組織が必要とする人材は、自律的に考え、判断しうる能力と見識を持った人材である、同時に、社会の中で、他者との適切な関係性を構築する力(他者理解、自己表現、コミュニケーション)が重要である。このことは、これから迎えるべき就職活動のステージにとどまらず、あらゆる場面で必要である。講義では、学生同士の意見交換も行うことによって、自分を見つめなおし、自分の考えを表明し、同時に他者の考えや意見を的確に理解する経験を通じて、自己理解とコミュニケーション力を培う。

○また、インターンシップへの参加に限らず、学外で行われている様々なイベントやセミナーにも各自が興味を持って参加し、体験するなどによって、社会との様々なつながりや社会人とのコミュニケーション、社会活動を経験することを推奨する。

○インターンシップは、各自、自分の興味、関心のある業界、企業、自治体などを探し出し、各自でエントリーすることを原則とする。

In any era, the individuals sought by companies and organizations are those with the ability and insight to think and make decisions autonomously. Equally important is the capability to build appropriate relationships with others in society, which includes understanding others, self-expression, and communication. These skills are necessary not only for the upcoming job-hunting stage but in various situations throughout life.

In this lecture, students will engage in discussions with their peers to reflect on themselves, express their thoughts, and accurately understand others' opinions. Through this experience, they will develop self-awareness and communication skills.

Additionally, students are encouraged to participate not only in internships but also in various external events and

seminars of their interest. These activities will help them build connections with society, communicate with professionals, and gain experience in social activities.
For internships, it is recommended that each student find and apply to industries, companies, or local governments that align with their interests and passions independently.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己紹介とガイダンス
- 【2】: 大学での学びは、社会人となるためにどのような意味があるのか
- 【3】: 仕事(ビジネス)の基本を考える
- 【4】: 自分という存在を適切に見つめ直す
- 【5】: 「自分」をどのようにアピールするか(名刺交換&GW)
- 【6】: 人とのつながりを広げる意味を考える(人脈形成論)
- 【7】: 公務という選択肢を考える(公務員としてのキャリアを紹介する)
- 【8】: ワンキャリアではない時代を考える(「雇用流動化」時代をどう生きるか)
- 【9】: 世の中を見るヒント(ビジネスに生きる感度と見識の育て方)
- 【10】: コミュニケーション力・プレゼン力
- 【11】: 時事問題をどう捉えるか(トピック的な社会事象についての社会人としての見識)
- 【12】: 激変の時代に、社会とどのように関わっていくか〜日本型組織(JTC)との付き合い方
- 【13】: セルフ・マネジメント(時間管理、健康管理、モチベーションマネジメント)
- 【14】: 最終報告会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義の中で課す課題やグループワークのテーマについては、巧拙は問わないので、自分で考えて対応すること。官公庁も企業も同様であるが、社会に出てからは、皆さんが思う以上に、「文書」「文章」を作成したり、それらを用いて人前で自分の意見を表明する機会は多いし、それがビジネススキルとして評価される重要なポイントでもあるので、学生時代から意識的にそのような力を育むよう心掛けてもらいたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・リアクションペーパー:30% 課題提出物:20% 出席態度・発言:20% 最終レポート:30%

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

通常の日本語能力のみ。

その他 / Others

① 採用人数は、30名程度、配当学年は2年次、3年次。履修申込の際、提出するレポートにより選考する。

(1) 自己紹介と、本講座に参加を希望する理由

(2) 将来の就きたい職業(公務員、民間企業、その他、未定)について、現時点での考えを、理由を付して述べよ。

字数:合計 1,000 字程度。Word 形式とする。

② 講義外でも、適宜、社会学習や社会経験、社会人との交流が得られるような機会の紹介を行うので、積極的に参加してほしい。

注意事項(検索結果画面)

成績評価は合格・不合格のみとする。

キャリアデザイン－インターンシップを通じた学修

Internship Study

予測困難な時代において自分の人生を考える

薬師丸 正二郎<薬師丸 正二郎> (YAKUSHIMARU SHOJIRO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX730
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

不確実な時代において、自らのキャリアを自分自身で考える機会を与え、大学生活を目的をもって過ごす力を養う。講義では学修教材を通して、自分のキャリア形成および自己理解を深めるとともに、法学部の学修と社会の繋がりを考えるために、インターンシップへの参加、その後の振り返りを行う。民間企業志望、公務員志望を問わず、両者に対応できるように配慮する。

This course provides students with opportunities to think about their own careers in uncertain times, and cultivates the ability to spend university life with purpose. In the lectures, students will use learning materials to deepen their career development and self-understanding, as well as participate in internships and reflect on their experiences in order to consider the connection between their Faculty of Law education and society. Consideration will be given so that students who wish to work in both the private and public sectors can do so.

授業の内容 / Course Contents

○ 社会で生きていくうえで、他者とのかかわり合いは不可欠であること、コロナ禍において、対面での交流が減り、オンライン上でのコミュニケーションが増えたこと。これらの時代(ポスト コロナ)で求められるコミュニケーションとは何かについてもワークシートの作成などを通して考える。

○ インターンシップは、各自、自分の興味・関心のある業界、企業などを探し出し、公募でエントリーすることを原則とする。

In the Corona disaster, face-to-face interaction has decreased and online communication has increased. We will also consider what kind of communication is required in these times (post-Corona).

As a general rule, each student is expected to find an industry or company of his/her own interest and enter the internship through an open competition.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: (4月16日) ガイダンス
- 【2】: (4月30日) 自己理解
- 【3】: (5月14日) 他者理解
- 【4】: (5月28日) インターンシップ編 ① ～準備編～
- 【5】: (6月11日) 「働くこと」の意味について考える
- 【6】: (6月25日) インターンシップ編 ② ～目標設定・課題の共有～
- 【7】: (7月9日) 春学期のまとめ
- 【8】: (9月24日) インターンシップ編 ③ ～報告～
- 【9】: (10月8日) コミュニケーションについて考える
- 【10】: (10月22日) 「傾聴力」について考える

【11】:(11月12日)「話すこと」について考える

【12】:(12月3日)今後の学生生活の戦略を立てる

【13】:(12月17日)インターンシップ編 ④ ～ 成果報告会事前準備 ～

【14】:(1月7日)まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

○ 講義では、テキストのほか、プリントを配布し、各自でワークシートを完成し、提出するため、課題や復習について必ず行うこと。

○ 適宜、個人面談を行う予定である。

○ 希望者を対象に、授業日以外の日程で、キャリア形成に有益と思われる書籍(マーケティング、完訳 7つの習慣等)の勉強会を実施する予定。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・リアクションペーパー:15% 課題提出物:30% 出席態度・発言:25% 最終レポート割合::30%

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト / Textbooks

水國照充他 楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学(改訂版) 北樹出版 2024 9784779307201

参考文献 / Readings

ビル・バーネット他 スタンフォード式人生デザイン講座 早川書房 2019 9784150505462

小塩 真司 非認知能力 - 概念・測定と教育の可能性 北大路書房 2021 9784762831645

スティーブン・R・コヴィー 完訳 7つの習慣 キングベア出版 2013 9784863940246

山内雅恵 監修 人間関係づくりとコミュニケーション 金子書房 2019 9784760830398

橘玲 幸福の「資本」論 ダイヤモンド社 2017 9784478102480

森岡毅 苦しかったときの話をしようか ダイヤモンド社 2019 9784478107829

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

好奇心、行動力、論理的思考力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出に必要な情報機器(PC、タブレットなど)

その他 / Others

① 採用人数は、50名程度、配当学年は2年次、3年次。履修申込の際、提出するレポートにより選考する。

(1) 「キャリアデザインーインターンシップを通じた学修(Internship Study)」に参加を希望する理由

(2) 自己PR

(3) 将来の就きたい職業(公務員、民間企業、その他、未定)について、現時点での考えを、理由を付して述べよ。

字数:(1)600字程度、(2)600字程度、(3)400字以上。Word形式とする。

やむを得ない理由で履修を辞退する場合は、履修要項を確認の上、必要な手続きを取ること。

② 講義期間は、通年を通して行う。講義の開催は、2単位のため、隔週開催を原則とするが、受講生の成果報告会(12月開催予定)、各自のふりかえりを伴う回、ゲストスピーカーによる講演会を実施する際は、昼休みの時間を用いたり、翌週の講義回ではない週も続けて開催するので覚悟して欲しい(事前に連絡をする)。

③ インターンシップへの参加も講義の内容となっているが、公募から漏れ、参加できなかったとしても、同様の効果を得る機会を設ける(本講座受講生向けのインターンシップ案内、各種対外的活動)ので安心して参加して欲しい。

具体的には、社会の現実の課題を解決する体験として、自治体あるいは、企業とのコラボにより実施するプログラムを複数設け、実施する(昨年度の実施例:イ)東京観光財団からの受託事業「あきしまの水×食」を活かしたブランディング構築「ロ」アサヒビール(株)、SDGs 研究所との連携による適正飲酒の普及活動「カードゲーム作り」

(<https://www.asahigroup-holdings.com/pressroom/2022/1020.html>)。

○ 2025年度は、上記プログラムの他、各種自治体、NPO 法人等と共同で実施する地域活性化活動への参加機会を設ける予定(来年度の予定:群馬県の温泉地活性化に関する調査研究活動、福島県白河市の地域活性化活動、その他の地域創生活動、その他【EX624】演習で実施するまちづくり活動)。

④ 人間関係づくりのコミュニケーションについても学び(自己理解、他者理解、相互理解など)、今後のキャリア形成につ

いて考える契機となるので、意欲のある人は、積極的に参加して欲しい。

⑤ 民間企業志望、公務員志望双方の学生についても公募型によるインターンシップに参加することを前提とする。本講座対象者向けに、民間企業からインターンシップ案内が来た際は、その都度、知らせる。

⑥ 講義では、適宜、社会人(インターンシップ学修会及び本ゼミ元受講生)と交流する場を設けることから、積極的に参加し、自己理解、自身のキャリア形成に役立ててほしい。

⑦ その他

本講義の講義内容、インターンシップや対外的活動に関する疑問、質問など詳細を確認したい学生向けに随時、質問を受け付けています。2025年2月26日～3月18日まで受け付けるので、メールにて申し込みを行って下さい(yakushimaru0625@rikkyo.ac.jp)。

注意事項(検索結果画面)

成績評価は合格・不合格のみとする。

自治体長期インターンシップ

Internship

地方自治体での就業体験による学びの再確認と今後のキャリア目標の設定

原田 久 (HARADA HISASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX731
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3950
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、地方自治体での就業体験を通じて自らのキャリア目標を設定できるようになることです。

We aim to help students set their own career goals through work experience in local government.

授業の内容 / Course Contents

地方自治体におけるインターンシップの目的、心構え及びビジネス・マナーを事前学習した上で、毎週1回(水曜:15:35～17:15)、豊島区役所(住所:豊島区南池袋 2-45-1)に派遣します。派遣先では実際の業務補助に携わります。

After learning about the purpose of internships, participation mindset, and manners in local government, students will participate in a 100-minute internship each week at the Toshima Ward Office.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 事前学習(インターンシップの目的・目標の確認、実習先の研究及びビジネスマナーの習得)
- 【2】: 派遣先での事前研修(豊島区役所)
- 【3】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【4】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【5】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【6】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【7】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【8】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【9】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【10】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【11】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【12】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【13】: インターンシップ実習(豊島区役所)
- 【14】: インターンシップ報告会(豊島区役所)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

豊島区役所の各種施策について学習を深めておいてください。特に、豊島区基本構想審議会で審議された新しい総合計画を参照してください。また、地方自治の教科書を事前に読んでおいてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の実習後のレポート:50% 報告会におけるプレゼンテーション:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

【履修定員】:1 名

【履修対象者】:3～4 年生

◆オンライン・ガイダンスについて◆

【実施日時】 2025 年 3 月 5 日(火) 10:30～11:00

Zoom リンク:<https://rikkyo-ac-jp.zoom.us/j/84912187847?pwd=nnArefinbF3D4MAb1fevN3g9ah9akI.1>

ミーティング ID: 849 1218 7847

パスコード: 621653

※履修を検討している学生はできる限り参加してください。詳細は法学部公式 twitter 等でご案内します。

◆レポート及び面接による選抜について◆

本科目履修にあたってはレポート及び面接によって受講者を決定します。

【レポートのテーマ】:「自治体長期インターンシップを履修する目的について」(word/1,000 字程度)

【提出期間】:法学部掲示板、シラバス・時間割検索システムのトップページ、R Guide に掲載されている申込要領を確認してください。

【提出先】:Canvas LMS を通じて提出してください。

【レポート合格者の発表】: R Guide で発表します。レポート合格者に対して教員による面接を行います。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

合同講義(オックスフォード・サマー)

Law Faculty Joint Lecture(Oxford Summer Program)

イギリス法学・西洋古典・自主研究

小川 和茂／高橋 美加(OGAWA KAZUSHIGE/ TAKAHASHI MIKA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX761
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Note for the Global Course Students: Enrollment Guidance and preparatory classes will be mainly conducted in Japanese. However, those who speak only English Language are also welcome. For such students, additional assignments in English may replace preparatory classes. For more information, please consult the Instructor.
校地	池袋	学期	通年他
単位	6	科目ナンバリング	LPX2933
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

夏期 4 週間(8 月 2 日～9 月 1 日)をイギリスのオックスフォードなどで過ごし、西洋古典とイングランド法の基礎を学ぶこと。

The objective of this seminar is to have students spend four weeks during the summer term (August 2 to September 1) in Oxford, England to learn the fundamentals of Western classics and English law.

授業の内容 / Course Contents

授業の中核は、オックスフォード大学で 4 週間にわたり、東京大学と青山学院大学と合同で行うサマー・プログラムにある。プログラム前半の 2 週間では、オックスフォード大学の若手教員らにより、契約法・不法行為法など法学基本科目の少人数講義と、ホメロスなどを扱った西洋古典学や西洋文学の少人数講義が行われる。イングランドの法律家の基本的な思考様式を学ぶとともに、イギリスを含めた西洋社会の伝統に接することで、強烈な異文化体験をするとともに、是非はともあれ今日国際的に影響力のある西欧的思考とどのように対峙できるか、自ら考えてもらう。プログラム後半の 2 週間では、イギリスの裁判所等を見学するとともに、自ら課題を設定して個別研究を行う。最後に研究成果のプレゼンテーション及びレポートが求められる。

なお、春学期に 4～5 回の事前学習、秋学期に 1 回の総括の授業を行う。

＊2025 年 3 月 24 日(月)17:00～18:30 に実施される履修手続ガイダンスに出席のこと。

＊費用(渡航費・宿泊費・プログラム費用等)は 90 から 100 万円程度を想定するが、為替相場により変動する。

＊本合同講義は単年度開講である。2014 年度・2015 年度・2016 年度・2017 年度・2018 年度・2019 年度・2021 年度・2022 年度・2023 年度・2024 年度の合同講義を履修した者は、本年度の合同講義を履修することはできない。

＊オックスフォード大学の正規プログラムではないため、同大学による単位認定や修了証明書発行等はなされない。

The core of the class will spend four weeks at Oxford University as part of a joint summer program with The University

of Tokyo and Aoyama Gakuin University. During the first two weeks of the program, young faculty members from Oxford University will lecture to small groups of students about fundamental legal disciplines including contract law and tort law as well as Western Classics including the works of Homer and Western literature. In addition to studying the fundamental ways of thinking of English lawyers, students will engage in an intense intercultural experience by coming into contact with the traditions of Western society including England while thinking on their own about how they can confront Western European thought, which by all means is internationally influential today. During the latter two weeks of the program, students will take field trips to an English court and other locations while selecting their own topic to conduct individual research. Finally, students will be required to present their research results and submit a report. Furthermore, please note that four to five advance learning sessions will be held during the spring semester, and one general class will be held during the fall semester.

* Students are required to attend a course guidance session held between 5.00pm and 6.30pm on 24 March.

* The cost (travel, lodging, program, and other fees) is expected to be from 900,000 yen to 1,000,000 yen, but it may fluctuate due to exchange rates and etc.

* This joint lecture is only held during a single academic year. Students who took the joint lecture during the 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2021, 2022, 2023 or 2024 academic years cannot take the joint lecture during this academic year.

* Because this is not an official Oxford University program, there will be no credit approval or completion certificates issued by Oxford university.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション[4月11日(金)6限(予定)]
- 【2】: 事前研究①: イギリスの教育制度 4月19日(土)(予定)
- 【3】: 事前研究②: 西洋古典の基礎 5月24日(土)(予定)
- 【4】: 事前研究③: イギリス法の基礎 6月21日(土)(予定)
- 【5】: コモンロー契約法①
- 【6】: コモンロー契約法②
- 【7】: コモンロー契約法③
- 【8】: コモンロー契約法④
- 【9】: コモンロー契約法⑤
- 【10】: コモンロー不法行為①
- 【11】: コモンロー不法行為②
- 【12】: コモンロー不法行為③
- 【13】: コモンロー不法行為④
- 【14】: コモンロー不法行為⑤
- 【15】: ホメロス『イリアス』①
- 【16】: ホメロス『イリアス』②
- 【17】: ホメロス『イリアス』③
- 【18】: ホメロス『イリアス』④
- 【19】: ホメロス『イリアス』⑤
- 【20】: 西洋文学①
- 【21】: 西洋文学②
- 【22】: 西洋文学③
- 【23】: 西洋文学④
- 【24】: 西洋文学⑤
- 【25】: 自主研究①
- 【26】: 自主研究②
- 【27】: 自主研究報告スピーチ
- 【28】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回準備課題を指定する。また、上記に示された各回の講義内容は便宜上記入したものである。

詳細については履修ガイダンスに参加すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 自主研究報告スピーチ:40% 参加態度:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

John Cartwright "An Introduction to the English Law of Contract for the Civil Lawyer (4th ed.)" Hart Publishing 2023 9781509902910

Alastair Mullis and Ken Oliphant "Torts (4th ed.)" Palgrave Macmillan 2011 9780230576759

葛西＝カツアート編 古典の挑戦 知泉書館 2021 9784862853363

ベイカー＝葛西編 コモン・ロー入門 東京大学出版会 2025 9784130312134

その他適宜案内します。Other textbooks shall be advised as required.

参考文献 / Readings

池田潔『自由と規律——イギリスの学校生活』岩波新書 1949 9784004121411

藤原正彦『遙かなるケンブリッジ——一数学者のイギリス』新潮文庫 1994 9784101248042

ホメロス・松平千秋訳『イリアス』(上)(下) 岩波文庫 1992 9784003210222

ホメロス・松平千秋訳『オデュッセイア』(上)(下) 岩波文庫 1994 9784003210246

その他 / Others

募集条件

履修対象学生: 本学2～4年次生。

募集人数: 10 名程度

選考方法: 3月24日(月)17:00～18:30 くらいまでに開催される本授業の履修手続ガイダンスに出席した上で、レポートにより選考する。

履修が許可された場合には、それ以降の履修取消は原則として認めない。

英語力による選抜は行わない。ただし、英語で知的にタフな内容を議論することに意味があることを理解して参加されたい。

* 本科目は、登録後取り消すことはできない。

Contemporary Culture in Japan

Contemporary Culture in Japan

Tracing critical issues in Japanese media/pop culture creations

ヨ, イェジ(YEO YEZI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX801
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	The final four sessions will be taught online to accommodate guest speakers and presentation activities.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) 法学部国際ビジネス法学科グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

In this course students will explore concepts and subjects concerning media, gender, and cultural studies in contemporary Japan. Students will examine media discourses and representations with conceptual tools to better understand social, historical, and political contexts and critical issues arising from gender, race, and class dynamics in contemporary Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

This is an intensive discussion-oriented course, in which students are expected to read academic texts before coming to each class, analyze media/pop culture products, conduct independent research and present individually/in groups, collaborate for classwork, answer quizzes and writing prompts, and actively discuss theoretical concepts, observations, and opinions every week.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course
- 【2】:Televising masculinities 1
- 【3】:Televising masculinities 2
- 【4】:Visualizing dis/obedient femininities 1
- 【5】:Visualizing dis/obedient femininities 2
- 【6】:Screening subversive bodies 1
- 【7】:Screening subversive bodies 2
- 【8】:Queering gender roles 1
- 【9】:Queering gender roles 2
- 【10】:Animating cuteness / Presentation prep
- 【11】:Final presentations and discussions 1
- 【12】:Final presentations and discussions 2
- 【13】:Final presentations and discussions 3

【14】:Guest speaker

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to come to class having done weekly reading assignments, independently prepare for presentations, and watch assigned media material.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance: Active discussion:30% Assignments: In-class quizzes/writings:30% Presentations: Weekly/final:40%

テキスト / Textbooks

Additional materials will be provided by the instructor.

参考文献 / Readings

Alisa Freedman Introducing Japanese Popular Culture (2nd edition) Routledge 2023 9781032298092

Additional materials will be provided by the instructor.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students are expected to read, comprehend, apply, and discuss academic literature in English. Thus, advanced or close to advanced English reading, writing, listening, and speaking abilities are required for this course.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring a laptop/tablet with keyboard and writing tools to each class unless otherwise specified.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC L&R 700, or TOEIC L&R IP 700.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Religion and Society in Asia

Religion and Society in Asia

ムスリン, I (MUSULIN ILJA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX803
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

The main goal of this course is acquiring basic knowledge of religions in Asia, with a focus on Japan and East Asia. The course also aims to help students develop the ability to think of social and cultural issues pertaining to religion from different angles, and to encourage them to foster an attitude of understanding and respect for different worldviews and value systems.

授業の内容 / Course Contents

In this course, through a study of different religious worldviews and values, students will explore the role of religious thought and practice in various social issues and the formation of culture. The course will focus on Shinto, Taoism, Buddhism and Confucianism in East Asia, but will also touch on other religions and on India.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Course introduction; Religions in Asia

The main objectives, the content of the course, as well as the requirements for students and grading criteria will be introduced.

We shall take a broad look at the Asian continent and religions present on it, with a focus on those religions that have had a significant cultural and social influence on Japan and East Asia.

【2】:Shamanism in East Siberia, Korea and Japan

During this class we shall talk about shamanistic practices in East Asia, the powers shamans are believed to possess and their spiritual and social role.

【3】:Shinto and Japanese Society and Culture I

Here we shall take a broad look at Shinto: examine what kind of a religion it is, how it could be classified, and what its main characteristics are in terms of faith, ritual and values. We shall also consider how its worldview has influenced Japanese culture.

【4】:Shinto and Japanese Society and Culture II

We shall take up the topic of polytheistic beliefs in the Japanese Archipelago in ancient times and explore the early influence of Taoism and Buddhism on Shinto. We shall particularly focus on the fusion of Shinto and Buddhism (shinbutsu shuugou).

【5】:Shinto and Japanese Society and Culture III

Here we shall trace the development of Shinto doctrine in Medieval and Premodern times in relation to Buddhism and

Confucianism, examine the National Learning (kokugaku) teachings and the shift towards the so-called “state Shinto” in the Meiji era. We shall also discuss the issue of whether there is one, single Shinto, or whether “Shinto” is a construct consisting of several different traditions.

【6】:Taoism I: its cosmology and worldview

This lesson will be dedicated to the Taoist thought and practices in China: the concept of Tao, the theory of yin-yang and the theory of five phases (elements).

【7】:Taoism II: various religious practices

In this class we will learn about Taoist divination methods and techniques for improving health, achieving longevity and immortality

【8】:Guidelines for writing the term-end paper.

During this class students will be given concrete and detailed advice on how to write a well-structured, objective and logically consistent paper, how to select and use literature and argue in a persuasive way.

【9】:Religions in India

Here, we shall talk about religions in India, with a focus on pre-Buddhist religious thought and the birth of Buddhism.

【10】:Buddhism in East Asia I

Here we shall take up topics such as the spread of Buddhism through Asia, the differences between Theravada and Mahayana Buddhism and consider how Buddhism has influenced the culture and society of Southeast and East Asia.

【11】:Buddhism in East Asia II

We shall learn about the doctrines of main strands of Buddhism present in East Asia and their influence on the worldview and customs. of East Asian people.

【12】:Confucianism in China and Japan I

Here we shall introduce the main tenets of classical Confucianism and examine the influence of Confucianism on the family, interpersonal relationships, social status of men and women, and attitudes toward learning, work and the state in East Asia.

【13】:Confucianism in China and Japan II

We shall learn about Neoconfucianism and debate the role Confucianism has played in East Asian societies in terms of education, politics and modernization.

【14】:Christianity in East Asia; Religions and Religiosity in East Asia

We shall examine the history of Christianity in East Asia, how the religion has been perceived and treated and what cultural, organizational and political challenges it has encountered in East Asia.

In closing the course, we shall examine some overall characteristics of religion in East Asia, such as rich diversity, pervasive syncretism and adaptability, as well as current attitudes of East Asians toward religion.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students will be required to read one or more books so that they can write their term-end paper.

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% Attitude in class:20%

テキスト / Textbooks

Handouts will be distributed in each lesson.

参考文献 / Readings

Eliade, Mircea (ed.) The Encyclopedia of Religions Macmillan 1987

Hawkins, Bradley .K. Introduction to Asian Religions Longman 2003

Kasahara, Kazuo A History of Japanese Religions Kosei 2002

Other reading material will be introduced in the class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Since the course abounds in difficult philosophical terms, a very high level of English ability is required.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above
TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC L&R 700, or TOEIC L&R IP 700.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Japan in Asia

Japan in Asia

Japan in Asia, With Emphasis on Japan-Korea Relations

カプリオ, M. (CAPRIO MARK E.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX804
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	face-to-face course
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

To research Japan's relation with Asia, particularly the Korean Peninsula but it will touch on China in the beginning of the class and southeast Asian countries toward the end.

To learn how to research questions involving these relations.

To debate these questions with fellow classmates.

To challenge the accepted historical versions of various problems.

授業の内容 / Course Contents

The class will combine lecture and discussion with the former occupying the majority of our time together.

Students will write 3 reports giving their personal views on issues discussed in class. These will be presented in class and be used for class discussion.

Students will then be given the chance to upgrade their papers.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Intro. to Class/Lecture: Problems in Northeast Asian Relations

【2】:Traditional Roots

【3】:Problems of Modernization: Accidents of History

【4】:Japan as Small/Large Country

【5】:First Short Paper: Reports/Discussion

【6】:Northeast Asian Wars and Colonization

【7】:Japanese Colonial Practices

【8】:Pacific War and Korean War: Connections

【9】:Second Short Paper: Reports/Discussion

【10】:Japan and the Korean War

【11】:“Third-country People”: Why did they Remain after the War?

【12】:Colonial Memory and Responsibility?

【13】:A “Second Cold War?”

【14】:Third Short Paper: Reports/Discussion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Required readings. Every week about 30–40 pages

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Assigned readings must be read before coming to class. The lectures will not review the readings but will incorporate their contents.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% First report / discussion:20% Second report / discussion:25% In-class quizzes on readings:15% Final report:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Motivation to learn

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC L&R 700, or TOEIC L&R IP 700.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Ethnicity and Globalization in Japan

Ethnicity and Globalization in Japan

ティンティン (TIN TIN HTUN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX805
授業形態	対面 (全回対面)	授業形態 (補足事項)	Face to Face
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○ (履修中止可 / Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目 (親科目: 異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This class will help you to

- ・ critically analyze race and racism in Japan from historical, economic, legal, and political perspectives
- ・ explore and understand social inequality experienced by various mariginalized groups in Japan
- ・ construct your own arguments, using data/evidence appropriately

授業の内容 / Course Contents

In this course, we will critically analyze issues of race and racism in Japan, as well as discuss various problems facing ethnic minorities and how globalization impacts ethnic issues in Japan. The course focuses on discrimination against Ainu, Buraku, Zainichi Koreans, Okinawans, and foreign migrant workers. We will examine how race and ethnicity are conceptualized in Japan, and how the ideology of racial and cultural homogeneity has an impact on institutional, legal, and social discrimination against various ethnic groups.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction: Overview of the course
- 【2】: Core Concepts: Ethnicity and Globalization
- 【3】: Defining Race and Ethnicity in Japan
- 【4】: Hafu
- 【5】: Ainu
- 【6】: Buraku
- 【7】: Okinawans
- 【8】: Zainichi Koreans
- 【9】: Foreign Migrant Workers
- 【10】: Fieldwork Topic Proposal Planning
- 【11】: Fieldwork Topic Proposal Presentation
- 【12】: Fieldwork Interviews
- 【13】: Fieldwork Interviews Presentations
- 【14】: Reflection and Feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワポ等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

You will need to dedicate one to two hours each week to prepare for this class. Please prepare the assigned readings for discussion before attending class

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reading and posting on discussion board:15% Participation in discussion:15% Discussion Leader:15% Lecture/after-class reflection:15% Fieldwork & Presentation:35% Fieldwork Reflection:5%

テキスト / Textbooks

No textbook required.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students should have a strong interest in the content we cover in the course and actively participate in class discussion.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

The use of devices is not allowed during the lecture. Students should bring notebooks/papers and pen/pencils to submit in-class reflections/assignments.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC L&R 700, or TOEIC L&R IP 700.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Multiculturalism in Japan

Multiculturalism in Japan

Cultures, Identities and Challenges in Diversifying Japan

レー, P. (LE PHUONG ANH)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX806
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/ Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

- 1) To critically examine the concept and practice of multiculturalism in Japan, focusing on historical and contemporary contexts.
- 2) To explore the intersections of race, ethnicity, gender, class, and nationality in shaping identity and societal structures.
- 3) To investigate the lived experiences of diverse minority groups, emphasizing intra-group diversity and the multiplicity of social identities.
- 4) To analyze policies, human rights debates, and identity politics to understand their impact on integration and equity in Japanese society.
- 5) To foster skills in engaging with complex societal issues, emphasizing empathy and informed advocacy.

授業の内容 / Course Contents

The course will consist of lectures and guided discussions, as well as various forms of multimedia. Preparation before class and active participation in class discussions are required. The class will be very interactive, including group project, discussions and presentation. Through critical engagement, the course will challenge preconceived notions of minority groups, focusing on intra-group diversity and the multiplicity of social identities. Group projects and presentations will provide practical opportunities to address real-world issues related to multiculturalism. Together, we will critically examine societal structures, explore the legitimacy of various representations, and develop strategies for integrating cultural and social differences within the evolving landscape of contemporary Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Week 1: Course Introduction, Multiculturalism and Co-existence
- 【2】:Week 2: Nihonjinron and the myth of homogenous Japan
- 【3】:Week 3: The “Half” Japanese and returnee children
- 【4】:Week 4: Burakumin: The “Untouchables”
- 【5】:Week 5: Ainu: Indigenous people of Japan
- 【6】:Week 6: Okinawa, ambivalence, identity, and Japan
- 【7】:Week 7: Citizenship and identity among ‘oldcomer’ migrants: Zainichi Ethnic Koreans

- 【8】:Week 8: Nikkeijin: Returnees to the homeland of their ancestry
 【9】:Week 9: Demographic crisis, the ‘new immigrants’ and their economic practices
 【10】:Week 10: Refugees and detainees
 【11】:Week 11: Course Review, Groupwork and Consultation
 【12】:Week 12: Student Presentations I
 【13】:Week 13: Student Presentations II
 【14】:Week 14: Student Presentation III

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to do reading assignments and leave comments on online discussion threads before every class. This preparation for class is evaluated as active class participation. Students will also need to work with teammates to prepare for the final group presentation, and have to work on their final term paper individually.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:30% Group Presentation:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

All readings will be distributed digitally.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students are expected to have strong English reading ability to fulfill the reading assignments every week.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC L&R 700, or TOEIC L&R IP 700.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Social Movements and Social Change

Social Movements and Social Change

アコスタ, A. (ACOSTA ARIEL K.)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX807
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will be able to:

- 1) Have a sense of the role of social movements in Japan's modern history and connect them with contemporary society and politics
- 2) Gain exposure to different primary and secondary texts in Japanese history (in English translation)
- 3) Learn research and writing skills
- 4) Hone media literacy skills

授業の内容 / Course Contents

This course investigates the role of social movements in enacting social, cultural, and political change in modern Japanese society. We will bring an awareness of contemporary movements when studying historical protests, and an understanding of deep historical roots when examining the social movements of today. This course will ask, among many other questions- Who gets to be defined as 'Japanese' and what does it mean to be a 'kokumin' (citizen)? Why is Japanese society often described as 'low-conflict'? How do social movements and protests function as agents of cultural/political/social change? What role does the media play in social movements? How are social movements linked across the globe? Students will also gain a familiarity with the major events of modern Japanese history, from the Meiji Restoration to the present day, through the lens of protest, social movements, and social change.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course/ Conflict and Uprising in Japanese History Confronting the Image of 'Harmonious Japan'
- 【2】:Re-thinking the Meiji Restoration and the Formation of Modern Japan- Freedom and People's Rights Movement
- 【3】:The Turbulent Early 20th Century
- 【4】:Interwar Radicalism: Anarchists, Marxists, Thought Police
- 【5】:Interwar Radicalism: Rightwing Coups Against a Rightwing State
- 【6】:Citizenship and Ethnicity in a Time of Imperial War
- 【7】:Midterm Presentations and Discussion
- 【8】:Against a Nuclear Japan: Anti-Nuclear and Environmental Movements from Hiroshima to Fukushima
- 【9】:The LDP Postwar Order and its Discontents
- 【10】:Student Movements from ANPO to Today

- 【11】:Okinawa and Anti-base Struggles
 【12】:Gender and Media in the 21st Century
 【13】:Contemporary LGBTQ Movements and their Roots
 【14】:Final presentations and final discussions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be expected to read approximately one academic article per week. Articles will vary in length, but students should set aside at least 90–120 minutes per week for reading and writing responses in the class discussion board.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:40% Midterm Report:20% Discussion Board Postings:10% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

All readings will be provided in pdf form by the professor. Hard copies of readings are also available upon request.

参考文献 / Readings

All readings will be provided in pdf form by the professor. Hard copies of readings are also available upon request.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC L&R 700, or TOEIC IP 700.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Tourism Study 1 (Business)

Tourism Study 1 (Business)

Understanding businesses in tourism

韓 志昊 (HAN JIHO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX808
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Tourism) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

関連する様々な資料を使用して、ツーリズム・ビジネスを理解する。

This course aims to provide students with the understanding of businesses in tourism by reading various references on tourism business.

授業の内容 / Course Contents

ツーリズム・ビジネスに関連する多様な英語の情報源を使用しながら、英語でツーリズム・ビジネスに関するリサーチができるように学習する。

Through reading various information sources regarding tourism business, students will become able to understand how to do research on tourism business in English.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Definitions of terms and basic concepts of business in tourism
- 【3】:Travel business
- 【4】:Accommodation
- 【5】:Food and Beverage
- 【6】:Meetings Industry
- 【7】:Transportation
- 【8】:How to use online databases to search references on tourism businesses in English
- 【9】:Reading newspaper articles on tourism business
- 【10】:Reading magazine articles on tourism business
- 【11】:Reading reports on tourism business by various organizations
- 【12】:Reading textbooks on tourism business
- 【13】:Reading journal articles on tourism business
- 【14】:Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	○

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for a quiz every class.

It is preferable to have completed "Introduction to Tourism 1" before taking this class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz (5点×10回):50% 授業内参加(Participation):20% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

Information resources will be introduced during the course.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Tourism Study 2 (Society)

Tourism Study 2 (Society)
Tourism and (Local) Community

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX809
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	Online classes using Zoom. 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Tourism) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students with an understanding of different aspects of the concepts of local community and sustainability, and the relationships between them, in relation to tourism development. At the end of the course, students will be able to engage analytically in the discussions about the impacts of tourism on local communities around the world and relate their own community to this broader picture, as well as identify ways to translate such knowledge to solve current issues related to the development of tourism.

授業の内容 / Course Contents

The course introduces students with different perspectives and cases of tourism and local community research in various national and international contexts. Students will explore the impacts of tourism on local communities and vice versa, from a variety of perspectives including sociology, by asking in what ways tourism can coexist with local communities and contribute to the sustainable community development.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation: nature and scope of the course
- 【2】:Tourism resources, local community and sustainability 1
- 【3】:Tourism resources, local community and sustainability 2
- 【4】:Short film screening & guidance for reflection papers
- 【5】:Tourism and community development: community-based tourism 1
- 【6】:Tourism and community development: community-based tourism 2
- 【7】:Farming community and tourism 1

- 【8】:Farming community and tourism 2
 【9】:Mountain community and tourism 1
 【10】:Mountain community and tourism 2
 【11】:Coastal community and tourism
 【12】:Urban community and tourism; guidance for final presentation
 【13】:Students' presentation session 1
 【14】:Students' presentation session 2; summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussions, reflection papers and presentation.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework:40%
 Individual reflection papers (2 times):30% Individual/group presentation:30%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook for this course.

参考文献 / Readings

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 / Others

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Tourism Study 3 (Destination)

Tourism Study 3 (Destination)

ファム, H. (PHAM HONG LONG)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX810
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Tourism) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This course provides:

- theoretical framework with regard to destination management with a comprehensive approach that focuses on planning, marketing and management of a destination.
- selected examples of tourism from destinations throughout the country and the world

The aim of the course is to provide:

- an understanding of the dynamics of destination development;
- a combination of theory and practice on destination planning and management;
- approaches and issues on marketing application for destination management.

On completion of this course, the students are able to:

- characterize different types of tourism destinations as well as identify the importance and objectives of destination management;
- be aware of the process of tourism development and the possible associated impacts in tourism destinations;
- identify the roles and responsibilities of various stakeholders and organizations in the processes of destination planning and marketing;
- identify and assess the main components of a destination development plan as well as the main methods of monitoring the performance of a destination;
- critically assess the principles and practice of destination marketing and their applications to the strategic management of a destination;
- study the roles and functions of destination tourism organizations;
- synthesize good practice in destination planning and management in a variety of case-studies;
- develop tourism development proposals of selected destination from a social, cultural and environmental perspective.

授業の内容 / Course Contents

1. An introduction to destination management

- Defining tourist destination and its related theories
 - Defining destination management
 - Sustainable development of tourism destination
2. Tourism destination planning
- Destination analysis
 - Setting visions and goal for the destination
 - Developing a tourism action plan
3. Destination marketing management
- Destination positioning
 - Destination branding
 - Destination marketing Mix
4. Organizing for destination management
- Destination governance and leadership
 - Design of organizational structures
 - Destination community and stakeholders relations
 - Destination partnership and strategic cooperation Conflict management
 - Destination quality control – Benchmarking

Each contents follow with examples of destination management in many countries. Possibly case-studies in UK, Spain, Italy, Ireland, Belgium, Croatia, Canada, Mexico, Japan, Australia, China, Vietnam etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】**:Introduction to the course
An introduction to destination management (1)
- 【2】**:Topics related to Lectures & Assignment 1
- 【3】**:An introduction to destination management (2)
- 【4】**:Topics related to Lectures & Assignment 2
- 【5】**:Tourism destination planning (1)
- 【6】**:Topics related to Lectures & Assignment 3
- 【7】**:Tourism destination planning (2)
- 【8】**:Topics related to Lectures & Assignment 4
- 【9】**:Destination marketing management (1)
- 【10】**:Topics related to Lectures & Assignment 5
- 【11】**:Destination marketing management (2)
- 【12】**:Topics related to Lectures & Assignment 6
- 【13】**:Organizing for destination management
- 【14】**:Topics related to Lectures & Assignment 7

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read PPT slides and other materials before the class. After each class, seminar topic (assignment) will be provided, and students are required to work on it.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:20% Assignments:40% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Books, newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

UNWTO A Practical Guide to Tourism Destination Management World Tourism Organization. 2007

The World Bank Group Destination Management Handbook The World Bank Group 2022

Jennifer Stange, David Brown, Solimar International Tourism Destination Management: ACHIEVING SUSTAINABLE AND COMPETITIVE RESULTS USAID 2007

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Tourism Study 4 (Culture)

Tourism Study 4 (Culture)

河上 夏織 (KAWAKAMI KAORI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX811
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face to face (All classes are face to face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Tourism) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

The objective of the course is to provide students with an understanding of the relationships between tourism and culture as a tourism resource. At the end of the course, students are expected to have a good understanding of the balance between the promotion of tourism and the protection of culture, and to be able to express their opinions.

授業の内容 / Course Contents

This course will examine the relationships between tourism and culture including tangible heritage, intangible heritage, movable heritage and cultural industry. In particular, it will draw a number of cases of World Heritage sites for two reasons. Firstly, it is one of the most important, popular, and resourceful resources for tourism and sustainable development all around the world. Secondly, the World Heritage Convention, which has over 50 years of history, has a well-established system for the protection and promotion of cultural resources, which have many insights and lessons learnt for the utilization of other types of culture for the promotion of tourism. Therefore, by examining cases of World Heritage sites, the course will allow students to think about the challenges of the utilisation and protection of cultural resources and tourism promotion that many types of culture share.

While this course will shed light on World Heritage, it will also refer to other types of culture. It will also examine cases from not only Japan and Europe, but also Asia and the Pacific, the Middle East, Africa and Latin America, so as to expose students to different cultures and regions. By so doing, students are expected to think of how to achieve sustainable tourism in developing countries as well. Students are also encouraged to ask questions and express their views during discussions. The submission of reaction papers is necessary at the end of each session in order to train writing skills.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation: Objectives and scope of the course, key concepts and issues
- 【2】:Cultural tourism: Overview of cultural tourism and its impacts
- 【3】:History of cultural heritage protection: Frameworks and systems
- 【4】:What is World Heritage: Understanding World Heritage Convention, Outstanding Universal Value, authenticity and integrity
- 【5】:Tourism and World Heritage: Cases from Japan and the world
- 【6】:World Heritage protection and development: Exploring the balance between World Heritage protection and

development for communities and tourists

【7】:Tourism and cultural resources: Authenticity and invention of tradition

【8】:Tourism, culture and interaction with society: Relationships between tourism, local communities and society

【9】:World Heritage and natural disasters: Understanding the relationships between disasters, tourism, and culture protection

【10】:World Heritage, conflicts and destructions, peace and intercultural understanding: Exploring the relationships between culture protection, conflicts, intercultural understanding and reconciliation

【11】:Cultural tourism and developing countries: Tourism promotion for development in developing countries

【12】:Tourism and education: Educating the public and ourselves for the promotion of sustainable tourism

【13】:Tourism and cultural resources: Cultural protection or utilisation?

【14】:In-class final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to revise what was covered in the class every week, double check their understanding of key concepts, organise their thoughts about issues that were covered in the class, and write down questions, if any, which should be asked in the next class. When an assignment is given, students are expected to come to the next class, fully prepared.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in the class and discussions:30% Reaction papers:30% In-class final test:40%

テキスト / Textbooks

There are no required textbooks for this class.

参考文献 / Readings

UNESCO Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage UNESCO 1972

UNESCO Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention UNESCO 2023

Kaori Kawakami, Kai Weise, Paul Dingwall Understanding World Heritage in Asia and the Pacific: The Second Cycle of Periodic Reporting 2010–2012, World Heritage Paper Series no.35 UNESCO 2012

Suggestions for further reading will be provided during the class as needed.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students are expected to be able to communicate in English to follow the course. Most importantly, they are expected to be willing to express their opinions in discussions.

注意事項(検索結果画面)

Only for students of the Global Program

Japanese Economy1

Japanese Economy1

西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX812
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10 (Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済を学びます。関連知識の習得、批判的分析力の獲得と討論スキル習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events and the characteristics of the Japanese economy, relevant theories, and keywords.

[Critical Thinking Skills] Students will develop critical thinking skills through a project topic of their choice, class discussions, and writing.

[Discussion Skills] Students will improve their ability to engage in constructive debate.

授業の内容 / Course Contents

授業は英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、プロジェクト(小論文またはプレゼンテーション)、グループワーク、小課題です。

The content includes lectures, discussions, group activities, a project (essay or presentation), and short assignments. Japanese Economy 1 covers trends in growth and stagnation, characteristics of Japanese firms and industrial structure, government economic policy, and financial markets. Japanese Economy 2 focuses on savings, demographics, the labor market, and international trade and finance. The order of topics can be adjusted to maximize the learning experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction (Chapter 1 of The Japanese Economy, Second Edition)
- 【2】:Economic Growth 1: Postwar Economic Growth (Chapter 3)
- 【3】:Economic Growth 2: Oil Shocks and the Bubble Economy (Chapter 3)
- 【4】:Basics of Academic Writing and Presentation
- 【5】:The Japanese Economy and Business Cycles (Chapter 4)
- 【6】:Financial Markets and Supervision 1: Supporting the Growth (Chapter 5)
- 【7】:Financial Markets and Supervision 2: Deregulation, Banking Crises and New Financial Systems (Chapter 5)
- 【8】:Monetary Policy (Chapter 6)
- 【9】:Monetary Policy (Chapter 6) and Current Topics
- 【10】:Public Finance: The Tax System and the Government Debt (Chapter 7)
- 【11】:Industrial Structure (Chapter 9)

A Case Study: The Toyota Production System

【12】:Revision

【13】:Final Test (in-class)

【14】:Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete the assigned readings before each class meeting. Please spend at least 2 hours per week to participate in class discussions. 毎週、授業前に指定の教材を読んで出席し、積極的に発言してください。予習・復習に週 2 時間は確保してください。時間をかけて学ぶことで、本学生も英語で発言し、成績上位を達成しています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Project:38% Short assignments/participation in class discussion:24% 最終テスト割合::38%

Students must attend more than 2/3 of class meetings to receive credit. [Academic Honesty] Students must submit original work. Plagiarism and submission of AI-generated work will be subject to severe penalties. Submitting identical work for different courses is also considered an academic offense. If a student retakes a course, s/he may not turn in the same work submitted in previous semesters. A paper with a high Turnitin AI and similarity scores will not be accepted. 単位取得には、2/3 以上の出席が必要です。提出物は、必ず自分で作成したものを提出してください。剽窃や AI の不適切な利用は、罰則対象となります。また、他の授業に提出した課題の再提出は認めません。本科目を再履修する場合、過去に提出した課題を再度提出することはできません。Turnitin の AI スコアや類似性判定スコアが高い場合、原則として提出を受理しません。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020 9780262538244

Takatoshi Ito The Japanese Economy The MIT Press 1991 9780262090292

N・グレゴリー・マンキュー(足立 英之, 石川 城太, 小川 英治, 地主 敏樹訳)『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社 2019 9784492315217

伊藤隆敏、星岳雄『日本経済論』東洋経済新報社 2023 9784492396742

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Before the semester, please review the reading materials and decide if the content suits your interests and English proficiency. Students should be familiar with the basics of academic essay writing, including referencing techniques. Examinations will be in essay format. A strong sense of academic honesty is also required. 学期前に教材を確認し、内容が自分の興味や英語力に合っているかどうかを判断してください。小論文の書き方は、一年次の基礎ゼミ等の内容を熟知しておくこと。試験は、小論文形式で行います。また学問的誠実さを求め、剽窃、AI の不適切利用には厳正に対処します。

その他 / Others

The Economist: <https://www.economist.com/>

The Financial Times: <https://www.ft.com/> (Please create an account via the Rikkyo Library Website).

The Wall Street Journal: <https://www.wsj.com/>

Japanese Economy2

Japanese Economy2

西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX813
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10(Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済を学びます。関連知識の習得、批判的分析力の獲得と討論スキル習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events and the characteristics of the Japanese economy, relevant theories, and keywords.

[Critical Thinking Skills] Students will develop critical thinking skills through a project topic of their choice, class discussions, and writing.

[Discussion Skills] Students will improve their ability to engage in constructive debate.

授業の内容 / Course Contents

授業は英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、プロジェクト(小論文またはプレゼンテーション)、グループワーク、小課題です。

Content includes lectures, discussions, group activities, a project (essay or presentation), and short assignments.

Japanese Economy 1 covers trends in growth and stagnation, characteristics of Japanese firms and industrial structure, government economic policy, and financial markets. "Japanese Economy 2 focuses on savings, demographics, the labor market, and international trade and finance. The order of topics can be adjusted to maximize the learning experience.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction: Japan in the 21st century. Summary of Japanese Economy 1 contents.

【2】:Industrial Structure and Policies (Chapter 9)

【3】:Basics of academic writing and presentation

【4】:Saving, Demography, and Social Security 1: Saving Rate and Consumption (Chapter 8)

【5】:The Labor Market 1: Basic Statistics and Stylized Facts (Chapter 10)

【6】:The Labor Market 2: Recent Changes (Chapter 10)

【7】:International Trade 1: Balance of Payments, Comparative Advantage, and the Pattern of Trade (Chapter 11)

【8】:International Trade 2: Trade Policies and the International System (Chapter 11)

【9】:International Finance 1: Balance of Payments, Exchange Rates, Capital Flows and Controls (Chapter 12)

【10】:International Finance 2 (Chapter 12)

【11】:The Lost Two Decades and Abenomics (Chapter 14)

- 【12】:Revision
 【13】:Final Test (In-Class)
 【14】:Conclusion: Predicting and Designing a Future

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete the assigned readings before each class meeting. Please spend at least 2 hours per week to participate in class discussions. 毎週、授業前に指定の教材を読んで出席し、積極的に発言してください。予習・復習に週 2 時間は確保してください。時間をかけて学ぶことで、本学生も英語で発言し、成績上位を達成しています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Project (essay or presentation):38% Short assignments/participation in class discussion:24%
 最終テスト割合::38%

Students must attend more than 2/3 of class meetings to receive credit. [Academic Honesty] Students must submit original work. Plagiarism and submission of AI-generated work will be subject to severe penalties. Submitting identical work for different courses is also considered an academic offense. If a student retakes a course, s/he may not turn in the same work submitted in previous semesters. A paper with a high Turnitin AI and similarity scores will not be accepted. 単位取得には、2/3 以上の出席が必要です。提出物は、必ず自分で作成したものを提出してください。剽窃や AI の不適切な利用は、罰則対象となります。また、他の授業に提出した課題の再提出は認めません。本科目を再履修する場合、過去に提出した課題を再度提出することはできません。Turnitin の AI スコアや類似性判定スコアが高い場合、原則として提出を受理しません。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020 9780262538244
 Takatoshi Ito The Japanese Economy The MIT Press 1991 9780262090292
 N・グレゴリー・マンキュー(足立 英之, 石川 城太, 小川 英治, 地主 敏樹訳)『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社 2019 9784492315217
 伊藤隆敏、星岳雄『日本経済論』東洋経済新報社 2023 9784492396742

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Before the semester, please review the reading materials and decide if the content suits your interests and English proficiency. Students should be familiar with the basics of academic essay writing, including referencing techniques. Examinations will be in essay format. A strong sense of academic honesty is also required. 学期前に教材を確認し、内容が自分の興味や英語力に合っているかを判断してください。小論文の書き方は、一年次の基礎ゼミ等の内容を熟知しておくこと。試験は、小論文形式で行います。また学問的誠実さを求め、剽窃、AI の不適切利用には厳正に対処します。

その他 / Others

The Economist: <https://www.economist.com/>
 The Financial Times: <https://www.ft.com/> (Please create an account via the Rikkyo Library Website).
 The Wall Street Journal: <https://www.wsj.com/>

Japanese Economic History1

Japanese Economic History1

西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX814
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10(Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得と討論スキル習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its characteristics and features shared with other economies, and the influence of history on contemporary Japan.

[Critical Thinking Skills] Students will develop critical thinking skills through the analysis of historical cases.

[Discussion Skills] Students will improve their ability to engage in constructive debate.

授業の内容 / Course Contents

授業は英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。

Content includes lectures, discussions, group activities, and short assignments. "Japanese Economic History 1 covers the Edo and Meiji periods, and Japanese Economic History 2 covers the Taisho and Showa periods through the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction: Overview of Japanese Economic History from the 16th to the 21st Century
- 【2】:The Edo Period: Overview and Institution
- 【3】:The Edo Period: The Osaka Rice Market
- 【4】:The Edo Period: The Transformation of Industries
- 【5】:The Edo Period: Finance of the Tokugawa Shogunate
- 【6】:The Edo Period: Living Standards and People's Lives/The Economy Before the Meiji Restoration
- 【7】:Mid-term exam (in-class)
- 【8】:The Meiji Period: The Meiji Restoration, An Overview
- 【9】:The Meiji Period: Financial Foundations and Social Changes
- 【10】:The Meiji Period: Technology, Labor, and Infrastructure
- 【11】:The Meiji Period: Trade, Foreign Relations, and Wars
- 【12】:Revision: The Pre-WWI Summary
- 【13】:Test (in-class)
- 【14】:Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポイント等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete the assigned readings before each class meeting. Please spend at least 2 hours per week to participate in class discussions. 毎週、授業前に指定の教材を読んで出席し、積極的に発言してください。予習・復習に週 2 時間は確保してください。時間をかけて学ぶことで、本学生も英語で発言し、成績上位を達成しています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term exam:38% Other assignments/participation in discussion:24% 最終テスト割合 :38%

Students must attend more than 2/3 of class meetings to receive credit. [Academic Honesty] Students must submit original work. Plagiarism and submission of AI-generated work will be subject to severe penalties. Submitting identical work for different courses is also considered an academic offense. If a student retakes a course, s/he may not turn in the same work submitted in previous semesters. A paper with a high Turnitin AI and similarity scores will not be accepted. 単位取得には、2/3 以上の出席が必要です。提出物は、必ず自分で作成したものを提出してください。剽窃や AI の不適切な利用は、罰則対象となります。また、他の授業に提出した課題の再提出は認めません。本科目を再履修する場合、過去に提出した課題を再度提出することはできません。Turnitin の AI スコアや類似性判定スコアが高い場合、原則として提出を受理しません。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600–1859 Oxford University Press 2004 9780198289050

Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074

Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344

Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Before the semester, please review the reading materials and decide if the content suits your interests and English proficiency. Students should be familiar with the basics of academic essay writing, including referencing techniques. Examinations will be in essay format. A strong sense of academic honesty is also required. 学期前に教材を確認し、内容が自分の興味や英語力に合っているかどうかを判断してください。小論文の書き方は、経済学部基礎ゼミ等の内容を熟知しておくこと。試験は、小論文形式で行います。また学問的誠実さを求め、剽窃、AI の不適切利用には厳正に対処します。

その他 / Others

[Resource] MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

Japanese Economic History2

Japanese Economic History2

西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX815
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10 (Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得と討論スキル習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its characteristics and features shared with other economies, and the influence of history on contemporary Japan.

[Critical Thinking Skills] Students will develop critical thinking skills through the analysis of historical cases.

[Discussion Skills] Students will improve their ability to engage in constructive debate.

授業の内容 / Course Contents

授業は英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。

Content includes lectures, discussions, group activities, and short assignments. "Japanese Economic History 1 covers the Edo and Meiji periods, and Japanese Economic History 2 covers the Taisho and Showa periods through the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction & Overview of Japanese Economic History
- 【2】:Japan in World War I
- 【3】:Economy and Society
- 【4】:Economic Effects of the Spanish Flu Pandemic and the Great Kanto Earthquake
- 【5】:Economic Crises and Responses in the 1920s and 1930s -1-
- 【6】:Economic Crises and Responses in the 1920s and 1930s -2-
- 【7】:Mid-Term Exam (in-class)
- 【8】:Foreign Relations and Colonial Management
- 【9】:Japan in Wartime 1
- 【10】:Japan in Wartime 2
- 【11】:Postwar Reconstruction
- 【12】:Revision
- 【13】:Test (in-class)
- 【14】:Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(ハワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete the assigned readings before each class meeting. Please spend at least 2 hours per week to participate in class discussions. 毎週、授業前に指定の教材を読んで出席し、積極的に発言してください。予習・復習に週 2 時間は確保してください。時間をかけて学ぶことで、本学生も英語で発言し、成績上位を達成しています。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Other assignments/participation in discussion:24% Mid-term exam:38% 最終テスト割合::38%

Students must attend more than 2/3 of class meetings to receive credit. [Academic Honesty] Students must submit original work. Plagiarism and submission of AI-generated work will be subject to severe penalties. Submitting identical work for different courses is also considered an academic offense. If a student retakes a course, s/he may not turn in the same work submitted in previous semesters. A paper with a high Turnitin AI and similarity scores will not be accepted. 単位取得には、2/3 以上の出席が必要です。提出物は、必ず自分で作成したものを提出してください。剽窃や AI の不適切な利用は、罰則対象となります。また、他の授業に提出した課題の再提出は認めません。本科目を再履修する場合、過去に提出した課題を再度提出することはできません。Turnitin の AI スコアや類似性判定スコアが高い場合、原則として提出を受理しません。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600–1859 Oxford University Press 2004 9780198289050

Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074

Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344

Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555

John Dower Embracing Defeat: Japan in the Wake of World War II W.W. Norton & Co. 2000 9780393320275
MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Before the semester, please review the reading materials and decide if the content suits your interests and English proficiency. Students should be familiar with the basics of academic essay writing, including referencing techniques. Examinations will be in essay format. A strong sense of academic honesty is also required. 学期前に教材を確認し、内容が自分の興味や英語力に合っているかどうかを判断してください。小論文の書き方は、一年次の基礎ゼミ等の内容を熟知しておくこと。試験は、小論文形式で行います。また学問的誠実さを求め、剽窃、AI の不適切利用には厳正に対処します。

Marketing Management in Japan

Marketing Management in Japan

キャロライン (CAROLINE TAN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX816
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経営学部) 定員 10 名 グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Business) Capacity : 10 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

The Marketing Management course will provide the basic concepts, theories and methods; the necessary building blocks in understanding marketing. This course has three main objectives. The first is to help students understand how organizations in Japan create value in their practice of marketing. Primary emphasis is placed on marketing management in Japan with emphasis on branding, consumer behavior, segmentation and positioning, the marketing mix variables, distribution and communications. We will also be looking at different case examples ranging from Japanese corporations to Multinationals in Japan. Students will develop an understanding of marketing practice through extensive readings and class lectures. The second objective is to develop students' ability to think analytically and strategically in addressing marketing problems. Finally, students will acquire the skills in analyzing and applying decision tools and the know-how of analyzing business situations and developing marketing plans as well as perform marketing research.

授業の内容 / Course Contents

This course is focusing on marketing management in Japan with emphasis on branding, consumer behavior, segmentation and positioning, the marketing mix variables, distribution and communications. We will also be looking at different case examples ranging from Japanese corporations to Multinationals in Japan.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction to the course, expectations and grading.

Situational Analysis and Value Creation

【2】:Micro environment Analysis

【3】:Macro environment Analysis

【4】:Segmentation, Target and Positioning

【5】:B2C

【6】:Mid term test

【7】:B2B

【8】:Pricing

【9】:Branding

【10】:Marcom

【11】:Social Marketing and Cause Marketing

【12】:Sustainable & Green Marketing

【13】:Final Presentation

【14】:Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Reading assignments will be advised during class (and also announced on Canvas LMS) and students are expected to read before coming to class.

Discussions will also be held and students are expected to formulate and debate their ideas (per the reading assignments and assigned classes).

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:20% Midterm Test:40% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided over Canvas LMS respectively.

参考文献 / Readings

Materials will be provided over Canvas LMS respectively.

その他 / Others

This is a tentative schedule and subject to change. Changes will be communicated in class accordingly.

注意事項

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

Business and Society

Business and Society

Trends and Issues in "Business and Society" today

廣瀬 文乃(HIROSE AYANO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX817
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面 (In-person)
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経営学部) 定員 10 名 グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Business) Capacity : 10 Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

In the 21st century, the relationship between business and society has changed drastically. Sustainability, resilience and social innovation (including CSR, CSV and SDGs) are the most important and crucial issues for businesses to address.

Learning outcomes for this course, upon successful completion, include:

- a) understand current trends and issues in the relationship between business and society, and
- b) be able to think and act as 'good' business leaders.

授業の内容 / Course Contents

This course will consist of three sections: a) the relationship between business and society, b) ethical shift, and c) social innovation. Each session will consist of lecture, case discussion and group dialogue. In order to enhance the learning effect, there will be a pre-assignment before the session and a reaction paper after the session.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Introduction: Changing relationships?
- 【2】:Business and Society: Leave no one behind
- 【3】:Business and Society: Sustainability and New Capitalism
- 【4】:Guest Speaker
- 【5】:Ethical shift: Doing the right things
- 【6】:Ethical shift: Becoming ethical consumer
- 【7】:Ethical shift: Becoming ethical producer
- 【8】:Guest Speaker
- 【9】:Social Innovation: Diversity and inclusion
- 【10】:Social Innovation: Collaboration and co-creation
- 【11】:Social Innovation: Community of Practice
- 【12】:Guest Speaker
- 【13】:Wrap-Up
- 【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are requested to read material or watch videos and do the pre-assignments before coming to the class, and do the reactions after the class. Details to be advised in class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Contributions in class dialogue and discussions:20% Pre-assignment:20% Reaction paper:20%
最終テスト割合::40%

If the score for the final test is 0 point, course grade will be automatically "D" regardless of the other in-class points.

If you are an exchange student, or will be going to an exchange, and need some arrangements, please consult the lecturer in advance.

テキスト / Textbooks

To be advised in class

参考文献 / Readings

To be advised in class

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Be able to actively engage in and enjoy group work and class discussions.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Notebook PC or Tablet PC

注意事項

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

Accounting(Introductory)1

Accounting(Introductory)1

Accounting for Investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX818
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10 (Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting from the perspective of an investor. Students will learn how to find and use accounting information by reading financial statements of actual companies.

授業の内容 / Course Contents

Students will learn how to search for company information and documents, interpret company earnings announcements & financial results, and conduct cashflow, solvency and liquidity analysis. Students will also conduct a comparative analysis of the company against other companies in its industry and to apply different methodologies to value the company. Students will also learn about the limitations of accounting information and the importance of non-accounting information in analysing a company. Students will apply their knowledge by role-playing an investment analyst and writing a investment report on a company of their choice.

We will illustrate these concepts by deconstructing the financial statements of Tesla and Softbank, and other companies.

After the class, students should have the tools to independently find relevant information, and analyse the financial statements of a company.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Financial accounting and environment
- 【3】:Accounting information and earnings announcements
- 【4】:Income statement and profitability
- 【5】:Cashflow statement: operating and free cashflow
- 【6】:Other comprehensive income and unrealised gains/losses
- 【7】:Balance sheet and solvency
- 【8】:Balance sheet and liquidity
- 【9】:Liquidity and bank runs

- 【10】:Non-financial information
 【11】:Peer Comparison
 【12】:Valuation
 【13】:Analyst research reports
 【14】:Investment thesis and stock recommendation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentation:10% Assignment 1:20% Assignment 2:30% 最終レポート割合::40%

There are no textbooks for this course.

The study material will be freely available internet resources or articles and company announcements and financial statements from their investor relations webpages or official regulatory sources.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the Workshop.

その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture. The second part will be group discussions, with a view to presenting the results of their discussion.

Accounting(Introductory)2

Accounting(Introductory)2

Accounting for managers

ウォン, リオン (WONG LEON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX819
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10 (Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting and accounting information from the perspective of a manager or business owner.

授業の内容 / Course Contents

This course will cover the 3 basic stages faced by a business owner in the use of accounting information: setting up a business, implementing an accounting information system, and using the information generated from that accounting information system to make business decisions in costing, pricing, breakeven points, make-or-buy, and the benefits of decentralisation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Setting up your business
- 【3】:Your start-up idea
- 【4】:Business plan and presentation
- 【5】:Accounting information systems: Build, Buy or Rent
- 【6】:AIS: Data and security
- 【7】:AIS: internal controls
- 【8】:Management accounting and costs
- 【9】:Product costing
- 【10】:Cost analysis
- 【11】:Costs for decision-making
- 【12】:Relevant revenues and costs
- 【13】:Decentralisation
- 【14】:Summary and conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentation:10% Assignment 1:25% Assignment 2:25% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

The study material for this course are freely available from the internet. This includes textbooks available under the Creative Commons license.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture. The second part will be group discussions, with a view to presenting the results of their discussion.

Finance(Introductory)1

Finance(Introductory)1
Stockmarkets for investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX820
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10 (Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to stockmarkets for investors. The stockmarkets of Singapore and Australia are introduced. Singapore in particular is a good benchmark because it is the leading financial centre in the Asia-Pacific, and ranked fourth globally, according to the 2024 Global Financial Centre Index (<https://www.longfinance.net/programmes/financial-centre-futures/global-financial-centres-index/gfci-36-explore-the-data/gfci-36-rank/>).

授業の内容 / Course Contents

The first part of the course covers the trading and settlement of stocks, and trading offenses such as insider trading and market manipulation.

The second part covers company action, such as initial public offerings, secondary offerings, earnings announcements and takeovers.

The third part covers disclosure investor protection and corporate governance.

The class is organized as a lecture in the first half, with a Workshop (from 11:25) in the second half, where students conduct group research and present the equivalent characteristics of their home stock market.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Trading and settlement
- 【3】:Trading and settlement
- 【4】:Trading market features
- 【5】:Securities market trading related offenses
- 【6】:Corporate announcements and filings
- 【7】:Interpreting company announcements and financial results
- 【8】:Initial Public Offerings
- 【9】:How to read an IPO prospectus

【10】:Secondary offerings: placements, rights issues

【11】:Takeovers

【12】:Disclosure investor protection

【13】:Corporate governance

【14】:Summary and conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentation:20% Assignment 1:20% Assignment 2:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study material for this course will be freely available internet resources or articles. They will be web resources from stock exchanges and regulatory authorities, news articles or opinion pieces from online sources such as newspapers, blogs or other social media.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the group discussions.

その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture. The second part will be group discussions, with a view to presenting the results of their discussion.

Finance(Introductory)2

Finance(Introductory)2

Markets: theory and reality

ウォン, リオン(WONG LEON)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX821
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Economics) Capacity : 10 (Total with College of Intercultural Communication) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to a few signature theories in corporate finance, i.e. efficient markets hypothesis, option pricing model, portfolio theory, and asset pricing. A brief introduction to prospect theory and behavioural finance generally is also presented as a contrast to conventional finance theories.

授業の内容 / Course Contents

This course explores the application of these theories in the real world. As part of this exploration, we consider the role of governments in distorting the workings of financial markets, the impact of derivatives, and the unintended consequences of passive investing, hedge funds, and the increased role of quantitative trading. We concluded with some advice on job opportunities are for those interested in a career in finance.

After the class, students should have a basic understanding of corporate finance theory and how they work (or not work) in the real world.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Market efficiency
- 【3】:Informational efficiency
- 【4】:Central banks have distorted markets
- 【5】:Active government intervention
- 【6】:Derivatives: option pricing model
- 【7】:Derivatives: tail wags dog
- 【8】:Portfolio Theory
- 【9】:Passive investing and Exchange Traded Funds
- 【10】:Asset pricing
- 【11】:Fundamentals or factors
- 【12】:Hedge funds and hedged portfolios

【13】:The risk free rate and other topics

【14】:Summary and conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentation:20% Assignment 1:20% Assignment 2:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study material for this course will be freely available internet resources or articles. They will be web resources from stock exchanges and regulatory authorities, news articles or opinion pieces from online sources such as newspapers, blogs or other social media.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the group discussions.

その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture. The second part will be group discussions, with a view to presenting the results of their discussion.

Financial Statement Analysis

Financial Statement Analysis
Basic Financial Statement Analysis

岡本 紀明 (OKAMOTO NORIAKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX822
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経営学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Business) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

Students will be able to demonstrate the use of some fundamental financial statement analysis techniques.

授業の内容 / Course Contents

In this course students learn various methods to read and analyze corporate financial statements. Real examples (actual corporate financial numbers) are used for comparing and analyzing corporate financial performances.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction (The outline of financial statements)
- 【2】:Review of financial statements
- 【3】:Learn how to use financial statements for short-term analysis①
- 【4】:Learn how to use financial statements for short-term analysis②
- 【5】:Learn how to use financial statements for short-term analysis③
- 【6】:Learn how to use financial statements for long-term analysis①
- 【7】:Learn how to use financial statements for long-term analysis②
- 【8】:Learn how to use financial statements for long-term analysis③
- 【9】:Analysis of cash flows
- 【10】:DuPont Analysis
- 【11】:Review test
- 【12】:Group/individual presentation and discussion or case study (valuation)
- 【13】:Group/individual presentation and discussion
- 【14】:Group/individual presentation and discussion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to review handouts and worksheets used in each class session. Preparation for the review test and the final (individual/group) presentation is also necessary.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Presentation:30% Review Test:30% Class Participation:20% Assignments:20%

At my discretion, I may give some assignments (e.g., quizzes or case studies) to be completed during and outside the class. Therefore, students are expected to attend the class every week.

テキスト / Textbooks

Wayne A. Label Accounting for Non-Accountants 3rd ed. Sourcebooks 2013 9781402273049

参考文献 / Readings

Wayne A. Label and Cheryl K. Henderson Study Guide and Workbook for Accounting for Non-Accountants Solana Dreams Publishing Company 2015 0986099821

Jae K. Shim, Joel G. Siegel, Nick Dauber, Anique A. Qureshi Dictionary of Accounting Terms 6th ed. Barrons Educational Series 2014 1438002750

Ciaran Walsh and Stuart Warner 25 Need-to-Know Financial Ratios Pearson Education Limited 2015 1292016399

Elaine Henry, Thomas R. Robinson et al. International Financial Statement Analysis (CFA Institute Investment Series) 4th ed. Wiley 2020 9781119628057

その他 / Others

Course materials are uploaded on the Canvas LMS course website during the course.

注意事項

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

Modern Consumer Culture and Society

Modern Consumer Culture and Society
Consumer Behavior

ザン, C. (CHANG CHIAO YUN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX823
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経営学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Business) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to provide an overview of consumer behavior and highlight the convergence and divergence in different culture and societies.

授業の内容 / Course Contents

This course reviews a wide range of consumer behavioural theories from the various social sciences and explores the environmental influences on consumer behaviour. It also examines the importance of global consumer culture and its impact on the societies. Classes involves a blend of lectures, cases, class discussions and group presentations.

After completing the class, students should be able to:

1. Learn key theories and research from the behavioural science that help us to understand consumer behaviour.
2. Understand the process used when individuals, group or organisations make consumption decisions.
3. Apply these concepts and theories in developing and evaluating marketing strategies, understanding their value and limitations.

To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expect to work independently, undertaken any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction and overview of the course
- 【2】:Buying, Having and Being: An Introduction to Consumer Behavior
- 【3】:Decision Making and Consumer Behavior
- 【4】:Consumer and Social Well-Being
- 【5】:Perception
- 【6】:Learning and Memory
- 【7】:Test 1 (Group Presentation)
- 【8】:Motivation and Affect
- 【9】:The Self: Mind, Gender, and Body
- 【10】:Personality, Lifestyles, and Values
- 【11】:Attitudes and Persuasive Communications

【12】:Group Influences and Social Media

【13】:Income and Social Class

【14】:Test 2 (Final Test)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

A list of cases and articles will be provided via the e-learning system. Articles are from leading consumer research journals as well as some popular business magazines. It is highly recommended that students should check their email box regularly in order not to miss any notice from the lecturer.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term Group Presentation:30% Case Study (X2):20% Class contribution:20% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

Michael R. Solomon Consumer Behavior: Buying, Having and Being Pearson 2023 9781292452340

Textbooks will be explained in the first class.

参考文献 / Readings

Frank R. Kardes; Maria L. Cronley; Thomas W. Cline Consumer Behavior Cengage Learning 2014 9781133587675

Lianne Yu Consumption in China Polity 2014 9780745669717

Antony Palackal Globalization, Consumer Culture and Identity Rawat Publications 2011 9788131603963

Jean Baudrillard The Consumer Society Sage 2016 9781473982383

Joel Stillerman The Sociology of Consumption Polity 2015 9780745661285

Catherine V Jansson-Boyd Consumer Psychology McGraw-Hill 2010 9780335229284

Richard P. Bagozzi; Zeynep Gurhan-Canli; Joseph R. Priester The Social Psychology of Consumer Behavior Open University Press 2002 9780335207220

その他 / Others

The above course schedule is tentative and is subject to change.

Please bring your device to the class.

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

Contact with Professor

If you have any questions about the course, contact me by e-mail 5553906@rikkyo.ac.jp

注意事項

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

Modern Consumer Culture and Society

Modern Consumer Culture and Society
International Marketing

ザン, C. (CHANG CHIAO YUN)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX824
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX3901
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	※併置科目(親科目:経営学部) グローバルコースの学生のみ *Concurrent course (Parent course: College of Business) Only for students of College of Law and Politics Global Program of the Department of International Business Law		

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of this International Marketing module, students will be able to:

- ・Understand how the basic principles of marketing are applied in a variety of diverse cultural, political, legal and economic environments.
- ・Be able to analyse foreign markets to determine their overall export potential.
- ・Be able to explain the various methods of entering foreign markets, the degree of commitment required and the associated levels of risk.
- ・Understand the concepts of product life cycle and the classification of goods and their importance for foreign market acceptance, product adaptation and overall marketing strategy decision making.
- ・Apply basic and advanced marketing concepts to develop integrated marketing plans in global markets.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to explore key issues and current debates in the field of International Marketing. The main purpose of the module is to reflect both the theory and the application of the subject studied through the use of textbooks, case studies and journal articles. The module is structured as follows:

- Theoretical concepts in the discipline of international marketing and the importance of how to think globally in business will be discussed.
 - The impact of political, legal, economic and cultural factors on marketing activities across countries will be investigated.
 - Students will learn to analyse marketing plans and consumer product strategy at the global level via case studies.
- To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertake any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction and overview of the course
- 【2】:Globalization Imperative
- 【3】:Global Cultural Environment and Buying Behaviour
- 【4】:Marketing Research

- 【5】:Segmentation and Positioning
- 【6】:Marketing Strategies
- 【7】:Test 1 (Group Presentation)
- 【8】:Global Market Entry Modes
- 【9】:Product and Market Development
- 【10】:Communication Strategies
- 【11】:Global Logistics
- 【12】:Market in Emerging Markets
- 【13】:Global Marketing the Internet
- 【14】:Test 2 (Group Presentation)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

A list of cases and articles will be provided via the e-learning system. Articles are from leading international marketing journals as well as some popular business magazines. It is highly recommended that students should check their email box regularly in order not to miss any notice from the lecturer.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class contribution:20% Group Presentation×2:40% Case Study×2:20% Quiz×2:20%

テキスト / Textbooks

Masaaki Kotabe; Kristiaan Helsen Global Marketing Management Wiley 2020 9781119563112

Students are able to access and download the ebook at Rikkyo library.

参考文献 / Readings

Marye Tharp Transcultural Marketing: Building Customer Relationships in Multicultural America Routledge 2014 9780765643001

Stan Paliwoda; Tim Andrews; Jungsong Chen Marketing Management in Asia Routledge 2015 9781138959781

Masaaki Kotabe Global Sourcing Strategy Quorum 1992 9780899306674

Ilan Oshri; Julia Kotlarsky; Leslie P. Willcocks The Handbook of Outsourcing and Offshoring Palgrave Macmillan 2015 9781137437426

Gerald Albaun; Edwin Duerr International Marketing and Export Management Prentice Hall 2008 9780273713876

Ilan Alon; Eugene Jaffe; Christiane Prange; Donata Vianelli Global Marketing Routledge 2017 9781138807884

その他 / Others

The above course schedule is tentative and is subject to change.

Please bring your own device to the class.

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

Contact with Professor

If you have any questions about the course, contact me by e-mail 5553906@rikkyo.ac.jp

注意事項

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

演習

Seminar
比較法の基礎理論

貝瀬 幸雄 (KAISE YUKIO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX850
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

比較法の基礎理論を学ぶ。比較法の方法を中心に『現代アメリカ比較法学の行方』および若干の日本語論文を精読する。

We will study the basic theory of comparative law. We will read New Directions of Contemporary American Comparative Law and some articles on the method of comparative law.

授業の内容 / Course Contents

私の著書『現代アメリカ比較法学の行方』を精読し、その内容について参加者に報告・議論してもらう。比較法の方法についても詳しい論文を読む。

We will read New Directions of Contemporary American Comparative Law extensively and discuss about it.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:現代アメリカ比較法学の行方(1)
- 【2】:現代アメリカ比較法学の行方(2)
- 【3】:現代アメリカ比較法学の行方(3)
- 【4】:現代アメリカ比較法学の行方(4)
- 【5】:現代アメリカ比較法学の行方(5)
- 【6】:現代アメリカ比較法学の行方(6)
- 【7】:現代アメリカ比較法学の行方(7)
- 【8】:現代アメリカ比較法学の行方(8)
- 【9】:現代アメリカ比較法学の行方(9)
- 【10】:現代アメリカ比較法学の行方(10)
- 【11】:比較法方法論(1)
- 【12】:比較法方法論(2)
- 【13】:比較法方法論(3)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを精読し、レジュメを作成しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当報告の内容:60% 平常の授業態度:40%

テキスト / Textbooks

貝瀬幸雄 現代アメリカ比較法学の行方 日本評論社 2022

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:2・3・4年次生

選考方法:レポート

①題目:この演習に参加を希望する理由

②字数:1000字程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar

近時の最高裁判例の分析

松戸 浩 (MATSUDO HIROSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX851
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

行政法は他の法分野と比べ、授業では抽象的な理論が展開される傾向が強いが、本演習では近時の最高裁判例を素材として、具体的な事案に対する行政法の適用を学び、以て現実社会に妥当する行政法の在り方を理解することを目標とする。

Compared to other legal fields, administrative law tends to develop abstract theories in the lecture. In this seminar, we will study the application of administrative law to specific cases using recent Supreme Court precedents, with the aim of understanding the nature of administrative law as it applies to the real world.

授業の内容 / Course Contents

注目される近時の最高裁判例を受講者に割り当て、報告してもらう。その上で議論を行ない、解決できなかった論点につき、報告者が次週の回でその検討結果を報告する。従って報告は連続する2週で同一の受講者が担当することになる。I will assign recent Supreme Court cases of interest to each student and ask them to report on them. We will then discuss the cases, and the presenters will report the study results of the unresolved issues in the next week's session. Therefore, the same student will be in charge of reporting for two consecutive weeks.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・打ち合わせ
- 【2】: レポートの仕方・必要事項の確認
- 【3】: 判例報告
- 【4】: 前週の議論を受けた再報告
- 【5】: 判例報告
- 【6】: 前週の議論を受けた再報告
- 【7】: 判例報告
- 【8】: 前週の議論を受けた再報告
- 【9】: 判例報告
- 【10】: 前週の議論を受けた再報告
- 【11】: 判例報告
- 【12】: 前週の議論を受けた再報告
- 【13】: 判例報告
- 【14】: 前週の議論を受けた再報告
- 【15】: 判例報告
- 【16】: 前週の議論を受けた再報告
- 【17】: 判例報告

【18】:前週の議論を受けた再報告
 【19】:判例報告
 【20】:前週の議論を受けた再報告
 【21】:判例報告
 【22】:前週の議論を受けた再報告
 【23】:判例報告
 【24】:前週の議論を受けた再報告
 【25】:判例報告
 【26】:前週の議論を受けた再報告
 【27】:判例報告
 【28】:前週の議論を受けた再報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者は、割り当てられた報告を、文献などに当たった上で準備すること。ここでいう文献は担当判例に関する全ての判例評釈が含まれるが、それにとどまらず、関係する内容を論ずる文献・論文を渉猟すること。
 文献調査につき分からない点が生じた場合には適宜相談に応じる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告の内容:50% 議論への積極的参加:50%

テキスト / Textbooks

行政法1・2の講義で用いた教科書及び判例集を毎回使用する。その他参考文献は適宜指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

行政法1及び行政法2の授業で扱われる内容を理解していることが本演習の前提となる。そのため、行政法1,2を履修済若しくは並行して履修することが求められる。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:12名

配当年次:3,4年次

選考方法:レポート

①題目:演習に期待すること及び行政法で興味のあるテーマ

②字数:A4一枚程度

演習論文:実施しない

行政法1,2をいずれも履修済又は演習開講中に履修すること(単位修得の有無は問わない)

演習

Seminar

習近平と中国政治

馬 嘉嘉(MA JIAJIA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX852
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習では習近平というキーパーソンから中国政治を考える。本演習は留学生の受講を歓迎しており、異なるバックグラウンドを持つ履修者同士が文献学習やディスカッションを通じて、自分たちの住む地域についての理解を深めていく。また、グループワークを通じて文献調査やプレゼンテーションのスキルを磨くことも目指す。

In this seminar, we will consider Chinese politics through the key figure of Xi Jinping.. The seminar welcomes international students, encouraging participants with diverse backgrounds to deepen their understanding of the regions they live in through literature study and discussions. Additionally, through group work, participants will aim to enhance their skills in literature research and presentations.

授業の内容 / Course Contents

2012 年に中国共産党の総書記に選出されて以来、習近平は権力を集中させることで、中国政治における重要性を強めてきた。本来は国務院が主に担当すべき経済発展の問題さえも、党中央の指導をますます受けるようになっていく。このような背景の中で、中国政治を観察するには、このキーパーソンの成長、思想、スタイル、そしてビジョンを観察することが欠かせない。この演習では、文献学習やグループワークを通じて、中国政治に対する理解を深める。

なお、履修者の人数や関心によって文献報告の回数、毎回の報告者の数を決めるので、授業計画はその目安と考えてください。中国の資料・ニュース・背景事情を説明する時には中国語を使う場合がある。

Since being elected General Secretary of the Chinese Communist Party in 2012, Xi Jinping has increasingly strengthened his importance in Chinese politics by centralizing power. Even issues such as economic development, which should primarily be handled by the State Council, have come under the growing direction of the Party Central Committee. Against this backdrop, observing Chinese politics requires examining the growth, ideology, style, and vision of this key figure. In this exercise, we will deepen our understanding of Chinese politics through literature study and group work.

Please note that the number of literature reports and the number of presenters each time will be determined by the number of participants and their interests, so please consider the class plan as a guide.Chinese may also be used when explaining Chinese materials, news, and background information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: テキストの輪読(1)
- 【3】: テキストの輪読(2)
- 【4】: テキストの輪読(3)
- 【5】: テキストの輪読(4)
- 【6】: テキストの輪読(5)

- 【7】: テキストの輪読 (6)
- 【8】: テキストの輪読 (7)
- 【9】: テキストの輪読 (8)
- 【10】: テキストの輪読 (9)
- 【11】: グループワーク (1)
- 【12】: グループワーク (2)
- 【13】: グループワーク (3)
- 【14】: 最終報告&総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用	☐	校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定	☐				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンスとグループワークを除いてテキストの輪読を行う。報告者が指定の時間までに担当する内容の主旨・論点を要約し、自分のコメント・疑問点を加えて提出すること。他の履修者は指定の時間までにコメント・疑問点をまとめて提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 担当内容の報告:40% コメントペーパー:30% 議論への貢献:30%

テキスト / Textbooks

鈴木隆 習近平研究―支配体制と指導者の実像 東京大学出版会 2025 9784130301947

参考文献 / Readings

その他 / Others

- <選考方法>
- 採用人数:12～16 名
- 配当年次:2～4 年次
- 選考方法:レポート
- ①題目:本演習を履修する動機と、中国および中国政治に対する関心を自由に書いてください。
- ②字数:1000 字程度
- 演習論文:実施しない

演習

Seminar

メディア・文化・政治/Media, Culture, and Politics

安藤 有史 (ANDO YUJI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX853
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習ではメディアと文化、政治の関係について理論的・哲学的な観点から議論します。ただし、マスコミやジャーナリズム、時事報道の研究を扱うわけではありません。メディアとは文字通り、媒介性を意味します。物事を直接提示するのではなく、再現前＝表象するとき、どのような権力や自由、抵抗が生じるのかを、社会思想の観点から議論します。

In this seminar, the students will theoretically and philosophically discuss the relationship between media and politics. However, mass communication, journalism, and current coverage are matters of no concern to this seminar. Media means a medium of things. From the perspective of social thought, we will discuss what kind of power, freedom, or protests exist when things and matters are represented rather than directly presented.

授業の内容 / Course Contents

授業前半ではメディアについて、理論的・思想的側面から解説した入門テキストを読みます。フランクフルト学派、複製技術論、マクルーハン、ニューメディア、プラットフォーム資本主義といったことについて基礎的に学びます。後半ではそうした知識を前提に、具体的なメディアコンテンツを事例として扱った批評的テキストを読みます。今回扱うのは、ディズニーと動物についてです。一見すると単なる娯楽文化に思えるディズニーですが、資本主義、20 世紀、アメリカ、消費社会、ジェンダー、著作権など多岐にわたる人文社会学的テーマが関連します。また動物は、現代思想や政治哲学でたびたびキーワードとなる重要概念です。

For the first half of the seminar, we will read a basic book introducing theoretical and intellectual aspects of media to learn about Frankfurt School, Mechanical Reproduction, McLuhan, New Media, Platform Capitalism, and so forth. For the second half of the seminar, we will read criticism of some media content. In this seminar, we will focus on Disney and animals. Though Disney seems to be mere entertainment, it involves tremendous arguments of capitalism, the twentieth century, the United States, consumer society, gender, copyright, and so forth. The concept of Animals is frequently discussed in contemporary and political philosophy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: メディア論の入門テキストを読む
- 【3】: メディア論の入門テキストを読む
- 【4】: メディア論の入門テキストを読む
- 【5】: 『ディズニーと動物』を読む
- 【6】: 『ディズニーと動物』を読む
- 【7】: 『ディズニーと動物』を読む
- 【8】: 『ディズニーと動物』を読む
- 【9】: 『ディズニーと動物』を読む

- 【10】:『ディズニーと動物』を読む
 【11】:『ディズニーと動物』を読む
 【12】:『ディズニーと動物』を読む
 【13】:『ディズニーと動物』を読む
 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全受講者は毎回必ず、文献の指定範囲を読んだ状態で出席する必要があります。
 各回の報告担当者は内容要約のレジュメを準備します。
 報告者以外は Canvas LMS を通じて簡潔なコメントを授業前に提出する必要があります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、授業内の議論への参加:40% 報告担当時の発表内容:30% 事前コメントの提出・内容:30%

テキスト / Textbooks

門林岳史・増田展大編 『クリティカル・ワード メディア論:理論と歴史から(いま)が学べる』 フィルムアート社 2021 9784845920068

清水知子 『ディズニーと動物:王国の魔法をとく』 筑摩書房 2021 9784480017222

門林・増田『クリティカル・ワード メディア論』は、一部のみコピー配布して用いるため、購入する必要はありません。

参考文献 / Readings

佐藤卓己 『メディア論の名著 30』 筑摩書房 2020 9784480073525

廣野由美子 『批評理論入門:『フランケンシュタイン』解剖講義』 中央公論新社 2005 9784121017901

伊藤守編 『メディア論の冒険者たち』 東京大学出版会 2023 9784130502092

小森真樹 『楽しい政治:「つくられた歴史」と「つくる現場」から現代を知る』 講談社 2024 9784065374115

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・基礎文献講読で学習した、文献の精読、要約の作成・発表、資料の調査方法(図書館の利用法、データベースの使い方等)が身につけていること。
- ・上記、「授業時間外の学修」の水準を満たせること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ラップトップ、タブレット端末など、授業中にインターネットと接続可能な機器(知らないことはその場で調べることができる状態にすること)。

その他 / Others

採用人数/Number of students:20 名程度/Approximately 20 students

配当年次/Eligible year:2 年次/2nd year

選考方法/Selection method:レポート

①題目:この演習で扱うテーマのどこに関心があるかを自由に書いてください。

参考文献をつけるかどうかは任意ですが、応募過多の場合、参考文献が適切に明記されているレポート、質の高い資料が用いられているレポートを優先的に評価します。

②字数:800 字以上、1200 字以内。

演習論文/Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

留学生と学ぶ東アジア比較民法

山口 敬介 (YAMAGUCHI KEISUKE)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX855
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	ND114「民法特論 B」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

民法の諸テーマについて、日本法と東アジア(主に韓国、他に中国、台湾など)法を比較し、双方の法と社会について理解を深めること

The aim of this course is to promote better understanding of civil law and society in Japan and east Asia

授業の内容 / Course Contents

19 世紀末にヨーロッパの民法典などを参考にしながらつくられた日本の民法典は、その後、判例・学説・立法などによりさまざまな変化を経て、現在に至っています。このようにヨーロッパ由来の民法典を参考に自国の民法典をつくり、それを展開させていくことで自国における私人間の法関係を規律している国は、日本だけではありません。近隣の国を例にとると、韓国も、台湾も、中国も同じようなプロセスを経ています。そして、これらの国の法ルールやそれにより規律される社会のあり方は、同じ東アジアの中でも様々に異なっています。この演習では、民法のいくつかの具体的なテーマを取り上げ、日本と東アジアの民法を比較しながら、近隣のこれらの国の何が同じで何が違うのかを探求することを通じ、これらの国の法と社会について理解を深めることを目標とします。このゼミでは、留学生の参加を歓迎しており、ゼミを通じて学生間の交流を深めることも目標の一つです。

具体的テーマは受講生と検討の上で決定する予定ですが、不動産の賃貸借(韓国、中国)、離婚後の親子関係(韓国、台湾)、同性婚(台湾)、約款にもとづく取引(中国)、相続人間の法律関係(韓国)などのテーマを考えています。

講義の具体的なテーマは第 1 回目の授業の際に決定するので、受講者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。

なお、この授業は大学院との合併で行われる授業です。予習についてもしっかりと行うことを要件としますので、やる気のある学部学生のみ参加してください。

In this course, we will try to compare civil law and society in east Asia.

The specific topic of the lecture will be decided during the first lecture, so students should make sure to attend the first lecture.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 受講者との打ち合わせ

【2】: 報告 1

【3】: 報告 2

【4】: 報告 3

【5】: 報告 4

【6】: 報告 5

【7】: 報告 6

【8】: 報告 7

- 【9】: 報告 8
 【10】: 報告 9
 【11】: 報告 10
 【12】: 報告 11
 【13】: 報告 12
 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で研究対象を決定します。毎回の報告では、担当者がレジュメの他、関連文献を用意し、その他の受講者はそれらを熟読して議論の準備をして授業に臨みます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:50% 授業での発言内容:50%

テキスト / Textbooks

第1回の授業で相談の上、決定します。

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数／Number of students:10 名程度／Approximately 10 students

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート

①題目:本演習の志望動機

②字数:自由

演習論文／Seminar papers:実施しない

演習

Seminar

登記等の実務から学ぶ民法・会社法
～不動産取引、金融取引、会社経営、相続～

近藤 誠(KONDO MAKOTO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX856
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	ND161「法学政治学特別リサーチ」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、民法・会社法という私たちの生活やビジネスに密接に関連する基本法を深く理解することを目標とします。不動産取引、金融取引、会社経営、相続といった実務分野における具体的な課題や諸問題を検討しながら、法的知識を体系的に習得するとともに、実務への応用力を養います。

This course offers an in-depth exploration of Civil Law and Corporate Law, fundamental legal frameworks that underpin both everyday life and business activities. Through the examination of practical issues in areas such as real estate transactions, financial dealings, corporate management, and inheritance, students will systematically acquire legal knowledge and develop the skills needed to apply it effectively in real-world contexts.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、不動産取引、金融取引、相続、会社等を専門に取り扱う司法書士が講師を務めます。また、必要に応じて、テーマに精通した実務家をゲストスピーカー(弁護士、税理士を予定)として呼ぶことも予定しています。

第2回目以降の授業について、受講生のうち1名(報告担当者)を割り当て、以下のとおり各回の授業を進めることにします。なお、報告者の希望等によってテーマを変更する場合があります。

- ①報告担当者において、当該項目に関する報告書を作成(授業前に配信)
- ②報告担当者において、授業で報告
- ③受講生間において質疑・意見交換
- ④講師において実務資料の提供と報告に対するフォローアップ

This course is taught by a judicial scrivener who specializes in real estate and financial transactions, inheritance, and corporate management. Additionally, guest speakers who are practitioners with expertise in relevant topics may be invited as needed.

Starting from the second session, one student will be assigned as the presenter for each class, and the sessions will proceed as follows. Topics may be adjusted based on the preferences of the presenter:

- ①The presenter prepares a report on the assigned topic and distributes it to the class in advance.
- ②The presenter delivers the report during the class session.
- ③Students participate in a Q&A session and engage in discussions based on the presentation.
- ④The lecturer provides practical materials and offers follow-up commentary on the presentation.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

講師から本授業の目的や進め方について説明する。

第2回目以降の報告担当者を決定する。

【2】: 成年後見制度の実務

【3】: 法人の設立と運営

【4】: 不動産登記の役割

【5】: 抵当権・根抵当権の実務

【6】: 動産・譲渡担保の仕組みと実務

【7】: 売買契約の実務

【8】: 株式の仕組みと実務

【9】: 株主総会の運営

【10】: 役員の役割と責任

【11】: 企業の資金調達

【12】: 遺産分割の実務

【13】: 遺言の活用と実務

【14】: 家族信託と財産管理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・報告担当者は、報告書の作成(授業の3日前までに配信)と授業での報告の準備
- ・報告担当者以外は、配信された報告書の検討

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告の内容:60% 授業への参加態度・貢献度:40%

授業に2/3以上の出席がない場合には、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

潮見佳男 民法 有斐閣 2022年 4641138850

伊藤靖史 会社法 有斐閣 2021年 4641179468

鈴木龍介 登記法入門:実務の道しるべ 商事法務 2021年 9784785728694

近藤誠 新米司法書士はるかの事件ファイル 自由国民社 2016年 4426121787

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・民法・会社法の基礎知識を有していること
- ・法律実務家を職業とすることに関心があることが望ましい(必須ではない)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や報告書提出に必要な情報機器(PC、タブレット等)

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:10名以内

配当年次:3、4年次

選考方法:レポート「本授業を志望する理由」(1000字程度、以下のいずれも含むこと)

- ・自己紹介
- ・本授業で報告を希望するテーマと希望する理由

演習論文:実施しない

演習

Seminar

基礎から中国政治を考える

馬 嘉嘉(MA JIAJIA)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX857
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	ND262「法学政治学特別リサーチ」と合同授業		

授業の目標 / Course Objectives

この演習では、基礎から中国政治を考える。本演習は留学生の受講を歓迎しており、異なるバックグラウンドを持つ履修者同士が文献学習やディスカッションを通じて、自分たちの住む地域についての理解を深めていく。また、グループワークを通じて文献調査やプレゼンテーションのスキルを磨くことも目指す。

This seminar approaches Chinese politics from the basics. The seminar welcomes international students, encouraging participants with diverse backgrounds to deepen their understanding of the regions they live in through literature study and discussions. Additionally, through group work, participants will aim to enhance their skills in literature research and presentations.

授業の内容 / Course Contents

中国政治の学習と研究には、段階的なプロセスが必要である。最初の段階では、やはり中国社会や中国政治について基本的な理解を持つことが重要である。本演習では、好評を得ている 2 冊の入門書を選び、文献学習やグループワークを通じてこの目的を達成することを目指す。

なお、履修者の人数や関心によって文献報告の回数、毎回の報告者の数を決めるので、授業計画はその目安と考えてください。中国の資料・ニュース・背景事情を説明する時には中国語を使う場合がある。

The study and research of Chinese politics require a step-by-step process. In the initial stage, it is crucial to gain a fundamental understanding of Chinese society and politics. This seminar aims to achieve this goal by using two well-regarded introductory books, through literature study and group work.

Please note that the number of literature reports and the number of presenters each time will be determined by the number of participants and their interests, so please consider the class plan as a guide. Chinese may also be used when explaining Chinese materials, news, and background information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: テキストの輪読 (1)
- 【3】: テキストの輪読 (2)
- 【4】: テキストの輪読 (3)
- 【5】: テキストの輪読 (4)
- 【6】: テキストの輪読 (5)
- 【7】: テキストの輪読 (6)
- 【8】: テキストの輪読 (7)
- 【9】: テキストの輪読 (8)
- 【10】: テキストの輪読 (9)

- 【11】:グループワーク(1)
 【12】:グループワーク(2)
 【13】:グループワーク(3)
 【14】:最終報告&総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用	☐	校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定	☐				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンスとグループワークを除いてテキストの輪読を行う。報告者が指定の時間までに担当する内容の主旨・論点を整理し、自分のコメント・疑問点を加えて提出すること。他の履修者は指定の時間までにコメント・疑問点のみをまとめて提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当内容の報告:40% コメントペーパー:30% 議論への貢献:30%

テキスト / Textbooks

ジェニファー・ルドルフ等 中国の何が問題か?ハーバードの眼でみると 藤原書店 2021 9784865782967

毛里和子 現代中国—内政と外交 名古屋大学出版会 2021 9784815810351

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数:12~16 名

配当年次:2~4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習を履修する動機と、中国および中国政治に対する関心を自由に書いてください。

②字数:1000 字程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar

日本語演習 会計・開示不正事例を読み解く

三橋 葉子 (MITSUHASHI YOKO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX858
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習は、①金融・資本市場の仕組みや金融商品取引法等の関連する法制度、市場を巡る近時の環境変化等について理解すること、及び②具体的な会計・開示不正事例について学び、不正の原因や改善策等について論じることで、理論の実務への応用や課題への対応能力を高めることを目指している。

The goals for the participants is (1) to be able to understand basic functioning and the relevant legal framework of the financial and capital markets as well as recent market topics, and (2) to enhance ability to apply the knowledge to practical cases and the ability to explore solution in a difficult situation by discussing causes of and responses to the specific accounting and disclosure violation cases.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、まず、金融商品取引法の基本的枠組みやコーポレートガバナンス改革、会計・監査の仕組み等について関連資料を用いて理解する。さらに、これらの観点を踏まえて、実際の企業開示不正事例について、学生による報告及びそれを踏まえた議論を行う。また、校外実習等の実施も検討している。

This seminar starts with learning the basics of the Financial Instruments and Exchange Act ("FIEA"), corporate governance requirements and accounting and auditing requirements. Then participants are expected to present on actual accounting and disclosure violation cases, followed by the discussions among the participants. Field trip may be conducted in part of the seminar.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 金融商品取引法総論
- 【3】: 金融商品取引法の開示規制
- 【4】: 金融商品取引法のエンフォースメント
- 【5】: コーポレートガバナンス改革
- 【6】: 会計・監査の仕組み
- 【7】: 事例研究
- 【8】: 事例研究
- 【9】: 事例研究
- 【10】: 事例研究
- 【11】: 事例研究
- 【12】: 事例研究
- 【13】: 事例研究
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

履修人数に応じて、授業方法を変更することがあり得る。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたっては、事前に配布される資料を読んで予習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加及び発言:60% 演習における報告:40%

テキスト / Textbooks

毎回、講義で取り扱うテーマごとに資料を配付する。

参考文献 / Readings

川口恭弘『金融商品取引法への誘い』有斐閣 2018 9784641137974

八田進二『開示不正:その実態と防止策』白桃書房 2017 9784561461807

その他 / Others

授業計画は上記のテーマを予定しているが、履修人数や時事の進展等を鑑みてテーマを変更することがあり得る。

<選考方法>

採用人数:20名以内

配当年次:2年次以上

選考方法:レポート

①題目:自己紹介および志望動機

②字数:1000字(A4用紙1枚)程度

演習論文:実施しない

演習

Seminar

民事訴訟法的、実務的視点を踏まえた民法

牧内 靖成 (MAKIUCHI YASUNARI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX859
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習は、民事訴訟法的視点や弁護士から見た実務的視点等も踏まえつつ、民法全体(総則、物権、債権、親族、相続)における基本事項を確認し、理解を深めることを目的とする。

The purpose of this exercise is to confirm and deepen understanding of basic matters in the Civil Code as a whole (general provisions, property rights, claims, relatives, and inheritance), while also taking into account civil litigation legal perspectives and practical viewpoints from the perspective of an attorney.

授業の内容 / Course Contents

事前課題を検討の上、担当者を中心に質疑応答、協議検討を行う。主な課題内容は、民法の基本事項や重要判例の確認整理を予定している。法曹志望者はもちろん、民法を改めて学習し直したい学生や復習したい学生にとって有益な演習としたい。なお、ゲストスピーカー(弁護士等)を招いた演習等も予定している。

After reviewing the preliminary assignments, a question and answer session and discussion review will be held with the person in charge. The main content of the assignment will be to confirm and organize the basics of civil law and important judicial precedents. We hope that this seminar will be useful not only for those who wish to become legal professionals, but also for students who wish to relearn or review civil law. We also plan to invite guest speakers (lawyers, etc.) for exercises, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己紹介・イントロダクション
- 【2】: 質疑応答、協議検討
- 【3】: 質疑応答、協議検討
- 【4】: 質疑応答、協議検討
- 【5】: 質疑応答、協議検討
- 【6】: 質疑応答、協議検討
- 【7】: 質疑応答、協議検討
- 【8】: 質疑応答、協議検討
- 【9】: 質疑応答、協議検討
- 【10】: 質疑応答、協議検討
- 【11】: 質疑応答、協議検討
- 【12】: 質疑応答、協議検討
- 【13】: 質疑応答、協議検討
- 【14】: 質疑応答、協議検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は、事前課題(民法の基本事項や重要判例の確認整理等)を検討の上、演習に参加する。
上記以外については別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加態度:60% 発言内容:40%

2/3以上の出席をしていない場合は単位取得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数:15名程度

配当年次:2年次～4年次

選考方法:レポート

①題目:この演習に参加を希望する理由

②字数:1600字程度(A4用紙1枚程度)

演習論文:実施しない

演習

Seminar

民事訴訟法と民法の架橋

内海 博俊 (UCHIUMI HIROTOSHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX860
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

民事訴訟における利用のされ方に即した形で民法を(再)学習し、民法の適用による具体的な紛争解決を行う場としての民事訴訟(法)のあり方を(再)学習すること。

to (re-) learn Civil Code focusing on its use in litigation cases; to (re-)learn how Civil Procedure works as where specific disputes resolved in accordance with Civil Code.

授業の内容 / Course Contents

私人間の紛争は、民事訴訟法により規律される民事訴訟を通じて、民法の定めに従って解決される。したがって、民法と民事訴訟法はセットで理解されて然るべきものであるが、学部のカリキュラム上、両者は別々の科目となっており、また、それぞれの科目を受講したとしても、両者がどのように協働ないし交錯しているのかを体感することは難しい。本演習では、法曹となる過程で触れることになるいわゆる「要件事実論」における議論を素材として、学部生のうちに、現実の紛争解決過程で民法と民事訴訟法がどのように交わるのかについてのイメージをつかむ機会を提供するとともに、民法・民事訴訟法のより深くかつ実用的な理解につなげたい。

演習の具体的な進め方は、参加人数・レベル・希望に応じて柔軟に調整するが、現時点では、春学期には、教材の講読を通じて「要件事実論」としてどのようなことが議論されているのかについて、民法・民事訴訟法の知識を確認しながら学習していき、その後、具体的な事例の分析に挑戦する。秋学期は、参加者ごとに担当する問題を決め、春学期の学習成果に基づいてそれぞれ分析し、その成果をプレゼンテーションし、最終的にはレポートとしてまとめる、というイメージをしている。

Civil disputes are resolved through litigations regulated by Code of Civil Procedure, in accordance with Civil Code. It likely suggests students should study these two as an unified package, though, the fact in most undergraduate programs is they are taught as independent subjects or classes, none of which tells you how their interplay in real litigations be like. This seminar, picking up so-called "YOKEN-JIJITSU-RON" as materials, which you must learn before becoming a Japanese professional lawyer, offers you an opportunity to have a rough picture of the mutual relationship of the two areas of law in a real dispute resolution process, as well as to learn each area of law more deeply and in more practical sense.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読: 要件事実論の基礎1
- 【3】: 文献講読: 要件事実論の基礎2
- 【4】: 文献講読: 要件事実論の基礎3
- 【5】: 文献講読: 要件事実論の基礎4

- 【6】: 文献講読: 要件事実論の基礎5
- 【7】: 文献講読: 要件事実論の基礎6
- 【8】: 文献講読: 要件事実論の基礎7
- 【9】: 文献講読: 要件事実論の基礎8
- 【10】: 文献講読: 要件事実論の基礎9
- 【11】: みんなで実践: 問題の分析1
- 【12】: みんなで実践: 問題の分析2
- 【13】: みんなで実践: 問題の分析3
- 【14】: 中間総括
- 【15】: 後期オリエンテーション
- 【16】: 個別プレゼン: 問題の分析4
- 【17】: 個別プレゼン: 問題の分析5
- 【18】: 個別プレゼン: 問題の分析6
- 【19】: 個別プレゼン: 問題の分析7
- 【20】: 個別プレゼン: 問題の分析8
- 【21】: 個別プレゼン: 問題の分析9
- 【22】: 個別プレゼン: 問題の分析10
- 【23】: 個別プレゼン: 問題の分析11
- 【24】: 個別プレゼン: 問題の分析12
- 【25】: 個別プレゼン: 問題の分析13
- 【26】: レポートにまとめよう1
- 【27】: レポートにまとめよう2
- 【28】: 総括・総評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本演習で扱う「要件事実論」をこなすには、民法と民事訴訟法の知識(少なくとも学習意欲)が欠かせない。演習開始前の学習経験について必須の要求をするものではないが、教材等に登場する民法・民事訴訟法上の諸制度・概念について授業内で逐一解説する余裕はないので、学習経験が不足している者が参加する場合は、自習によってキャッチ・アップをしてもらう必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告(準備を含む)・提出物など自身のアウトプットに対する評価:60% 自身の報告回以外における議論への貢献:40%

テキスト / Textbooks

演習開講時に指示するが、基本的には一律での購入は求めない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:15名程度

配当年次:2・3・4年

選考方法:下記の課題によるが、応募者多数の場合は成績を加味して選抜する。

①題目:ゼミの志望理由と自己紹介(民法・民事訴訟法をどこでどれだけ勉強しているかを含む)。法曹志望者であるかは差し支えなければ記載してもらいたい、法曹志望者以外の参加はもちろん歓迎である。

②字数:特に指定しない。

演習論文:実施しない

演習

Seminar

具体的な問いから現代正義論に接近する

米村 幸太郎 (YONEMURA KOTARO)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX862
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「正義とは何か」を問う現代正義論の分野は、法哲学の中でもとくに研究が盛んな分野ですが、概して議論が抽象的なもので、その意義やポイントがわかりづらいのは否めません。この演習では、ギャンブル、喫煙規制、薬物による犯罪者の改善、臓器売買、女性への議席クォータ制、差別的発言の是非 etc.、哲学的議論を具体的問題に応用することを目指したテキストを素材にしながら、現代正義論をより深く理解すると同時に、そこで取り上げられるさまざまな規範的問題についても深く考えることを目指します。また、それを通じて、哲学文献を批判的に理解する能力を涵養することも目的としています。

Although theories of justice have flourished in legal philosophy, being highly abstract, it is not easy to comprehend the theoretical points and significances. Therefore, in this seminar, I will select philosophical papers and books that directly address practical issues. I believe that these texts will help you understand theories of justice and, at the same time, contemplate important normative problems in today's world. Additionally, I expect students to develop their skills in critically understanding philosophical texts.

授業の内容 / Course Contents

通常のゼミでは、毎回、担当者を決めて、文献の対象部分の内容を報告してもらいます。他の参加者も文献は読んでくださいます。その上で、全員で議論する形でゼミを進めます。以下の「授業計画」に挙げているテーマ・文献はあくまで例示で、実際にはみなさんの希望や状況を見て調整するつもりです。

またゼミの最後の数回を使って、ひとり 10 分程度の個人発表を行なってもらおうつもりです。通常回とは別に学習院大学(若松ゼミ)との合同ゼミを実施します(日程はゼミ開始後に調整したいと思います、夏になる見込みです)。

In each class, presenters need to make a presentation about an assigned chapter or section. Other students also have to read those texts in advance. After the presentation, we discuss about the reading assignment and the presentation. Also, we will have a joint-seminar with Gakushuin University on Summer.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(*以下、取り上げるトピック・文献と順番については、参加者の関心・前提知識次第で順番の入れ替え、トピックの取捨選択がありえる点に注意してください)
- 【2】: 言葉はどこまで自由か? (J.S. ミル『自由論』第2章)
- 【3】: 言葉はどこまで自由か? (成原隼「フェイク・ニュースを規制すべきか?」)
- 【4】: 言葉はどこまで自由か? (松尾陽「ヘイトスピーチを規制すべきか?」)
- 【5】: 言葉はどこまで自由か? (グレッグ・ルキアノフ+ジョナサン・ハイト『傷つきやすいアメリカの大学生たち: 大学と若者をダメにする「善意」と「誤った信念」の正体』)
- 【6】: 差別なのか区別なのか? (デボラ・ヘルマン『差別はいつ悪質になるのか』)
- 【7】: 差別なのか区別なのか? (デボラ・ヘルマン『差別はいつ悪質になるのか』)

- 【8】:差別なのか区別なのか？(ロナルド・ドゥウォーキン「積極的差別是正措置は成功しているか」in『平等とは何か』)
【9】:差別なのか区別なのか？(ロナルド・ドゥウォーキン「積極的差別是正措置は公正か」in『平等とは何か』)
【10】:男女平等(池田弘乃「男性の育児休業取得を義務化すべきか？」in『もっと問いかける法哲学』)
【11】:男女平等(「女性議席を設けるべきか？」in 瀧川裕英編『問いかける法哲学』)
【12】:男女平等(児玉聡「死刑は廃止すべきか」in『実践倫理学』)
【13】:男女平等(エリザベス・ブレイク『最小の結婚』)
【14】:男女平等(エリザベス・ブレイク『最小の結婚』)
【15】:「特別なひとたち」の権利？(井上達夫「天皇制を問う視角」in『現代の貧困』)
【16】:「特別なひとたち」の権利？(井上達夫「天皇制を問う視角」in『現代の貧困』)
【17】:「特別なひとたち」の権利？(浦山聖子「移民を自由化すべきか？」in『もっと問いかける法哲学』)
【18】:「特別なひとたち」の権利？(坂上香(2023)『根っからの悪人っているの？:被害と加害のあいだ』、創元社)
【19】:「特別なひとたち」の権利？(坂上香『根っからの悪人っているの？:被害と加害のあいだ』)
【20】:「特別なひとたち」の権利？(瀧川裕英「子どもに選挙権を認めるべきか？」)
【21】:もっと強く、美しく？(平井光貴「人間の遺伝子を操作してよいのか？」in『もっと問いかける法哲学』)
【22】:もっと強く、美しく？(佐藤岳詩「心とからだの倫理学--エンハンスメントから考える」in『もっと問いかける法哲学』)
【23】:もっと賢く判断するには？(ミル『代議制統治論』)
【24】:もっと賢く判断するには？(ジョセフ・ヒース『啓蒙思想 2.0』)
【25】:もっと賢く判断するには？(ジョセフ・ヒース『啓蒙思想 2.0』)
【26】:個人発表
【27】:個人発表
【28】:個人発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、報告担当者を決めて文献の内容について報告をしてもらいます。報告者は内容をまとめたレジュメを準備する必要があります。担当となっていない皆さんも事前にきちんと文献を読んでくることが前提になります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習中の議論への貢献度:50% 担当報告回の内容:50%

無断欠席又は正当な理由のない欠席が3回以上の場合、成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

瀧川裕英 問いかける法哲学 法律文化社 2016 9784589037886

ジョナサン・ウルフ 「正しい政策」が無ければどうすべきか 勁草書房 2016 9784326154401

瀧川裕英 もっと問いかける法哲学 法律文化社 2024 4589043408

テキストとして使う可能性のある文献だが、全てを扱うわけではないし、現時点で購入を求めることはない。実際にどの文献のどの章を扱うかについては、ゼミ中に相談の上確定させる。

参考文献 / Readings

参考文献は授業中に指示する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

法哲学を事前に履修している必要はありませんが、毎回一定の分量のテキストを読むことになります。

その他 / Others

<選考方法>

採用人数:最大15名程度

配当年次:2~4年次

選考方法:レポート

①題目:この演習を志望する理由について

②字数:1000字程度(これより多くても構いません)

演習論文:なし

演習

Seminar
国際租税法

浅妻 章如 (ASATSUMA AKIYUKI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX863
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際租税法について、英文雑誌掲載の論文・判決等を素材としてプレゼン・討論をし、演習論文を書くことが目標です。

しばしば「大学で教わることは社会で役に立たない」と言われますが、租税法は確実に役に立ちます。更に、英文論文・判決を読み切ったという自信を持って卒業することが就職後に活けると考えています。

The objectives of this seminar are to give presentations, debate, and write seminar papers about international tax law using materials of English-language articles and decisions.

It is often said that, "what is taught at university is not useful in society," but tax law is certainly useful. In addition, it is also believed that building confidence by thoroughly reading English-language articles and decisions before graduating will prove useful after students find employment.

授業の内容 / Course Contents

最初の2回で国際租税法概説講義をします。

参加人数次第で方法が変わる可能性もありますが以下の内容を予定しています。

前半は、ゼミ参加者を班分けし、報告担当の班に英文資料に関する報告をしてもらい、プレゼン・議論の技術を磨くことを目指します。

後半は英文資料を参照しながら各自演習論文の作成を目指します。中間報告、最終報告で他のゼミ生からアドバイスを受けます。演習論文のテーマは各自が決めます。判決を題材とすることをお勧めしますが、判決でないものを題材とした例も過去にはあります。

The first two lectures will introduce international tax law.

The approach may change depending on the number of participating students, but the seminar is scheduled to cover the following content.

During the first half, seminar participants will be separated into groups with each group in charge of presenting a report on the English-language materials with the goal of improving techniques of presentation and discussion.

The goal of the second half is to have the students write a seminar paper while referring to the English-language materials. For the interim and final presentations, students will receive advice from other seminar participants. The topic of the seminar paper will be decided by each student. It is recommended that students select a decision as the subject of their paper, but there have been examples in the past of papers which were not based on a decision.

授業計画 / Course Schedule

【1】:うちあわせ&国際租税法概説講義

【2】:国際租税法概説講義

【3】:班報告&議論

- 【4】:班報告&議論
- 【5】:班報告&議論
- 【6】:班報告&議論
- 【7】:班報告&議論
- 【8】:班報告&議論
- 【9】:班報告&議論
- 【10】:班報告&議論
- 【11】:班報告&議論
- 【12】:班報告&議論
- 【13】:班報告&議論
- 【14】:班報告&議論
- 【15】:演習論文素材決定報告
- 【16】:演習論文素材決定報告
- 【17】:演習論文素材決定報告
- 【18】:演習論文中間報告
- 【19】:演習論文中間報告
- 【20】:演習論文中間報告
- 【21】:演習論文中間報告
- 【22】:演習論文中間報告
- 【23】:演習論文最終報告
- 【24】:演習論文最終報告
- 【25】:演習論文最終報告
- 【26】:演習論文最終報告
- 【27】:演習論文最終報告
- 【28】:国際租税法クイズ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

この授業では復習より予習に時間を割いてください。

初回と第2回は国際租税法の講義を駆け足で行います。授業を受ける前に中里実『租税法概説4版』(有斐閣、2021年)で国際租税法の部分の予習してください。増井良啓・宮崎裕子『国際租税法4版』(東京大学出版会、2019年)でも結構です。

第3回以降の授業に関しては前の週に教材を指定します。

秋学期の中盤あたりから演習論文作成に向けて報告者を指定します。演習論文の題材選定、題材(主に判決を念頭に置いています)説明、演習論文の目次作成、演習論文の草稿の作成、といったことを指示していきます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンの内容:50% 議論における発言の頻度とその内容:50%

煙草のにおいを教室に持ち込まないようにしてください。煙草のにおいが消えるまで45分を要すると一般的には言われているようです。

テキスト / Textbooks

中里実他『租税法概説4版』有斐閣 2021 9784641228191

演習で使う英文素材は教員の方で準備します。Lexis advance で読むことのできる資料の citation だけ示すこともありますので、前述の通り Lexis advance を使えるように準備して下さい。

参考文献 / Readings

増井良啓・宮崎裕子『国際租税法4版』東京大学出版会 2019 9784130323932

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

民法商法行政法といった七法科目及び租税法1・租税法2を履修済みか並行して履修していることが望ましいです。英文読解が本演習の中心ですが、英語の得意不得意はあまり気にせず(国際)租税法への興味の有無で本演習を選ぶか否か決めた方がよいです。過去、英語が不得意と言っていた学生でも法学部の勉強をきちんとこなしてきた学生は租税

法の英文読解がそれなりにできていましたし、逆に英語が得意と言っていた学生でも法学部の勉強が不十分であったためか租税法の英文読解があまりよくなかった学生もいます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

租税法の条文はポケット六法等に載っていないので PC を持参することが望ましいです。PC メールアドレスを準備して下さい。Lexis plus の使い方(図書館でパスワードを尋ねて下さい)を各自事前に覚えて下さい。

その他 / Others

＜選考方法＞

採用人数: 10～15 名

配当年次: 2～4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 租税法または国際取引について(両方でもOK) 興味がある事

② 字数: 1,000～2,000 字程度(ワープロが望ましい)

演習論文: 実施する

演習

Seminar

国際経済法上の諸問題

東條 吉純(TOJO YOSHIZUMI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX867
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面実施
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際経済法の現代的な諸課題についての理解を深めるとともに、個別産業分野の経済活動が主要国の公的規制によってどのような影響を受けるかについて学習する。また自律的な学習者として各種情報を調査して発表する能力の涵養を目指す。

This course aims to deepen students' understanding of contemporary issues in international economic law, as well as to learn how trans-border economic activities in individual sectors are affected by public regulations in major countries. It also aims to cultivate the ability to research and present various information as an independent learner.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、国境を越える経済活動に対する国家規制についての現代的課題について、各履修者の関心分野に応じて調査・発表することを内容とする。授業の前半は、国境を越える経済活動に影響を及ぼす各国の通商規制やそれを規律する国際ルールについて、報告担当者による発表をベースに全員で学習する。授業の後半は、各履修者が関心をもつ個別産業を取り上げ、当該産業分野の国際的な市場構造・性質を踏まえ、そのビジネスがどのような国家規制によって影響を受けるかについて、より深く学び、研究報告を行う。

The content of this course is to research and present contemporary issues regarding national regulation of cross-border economic activities in accordance with each student's area of interest. In the first half of the course, all students will learn about the trade regulations of each country that affect cross-border economic activity and the international rules that govern them. In the second half of it, students will select an individual sector that interests them and learn more about how that business is affected by public regulations, taking into account the international market structure and nature of that industry, and will make a presentation based on their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 国際経済法の基本的知識①(関税)
- 【3】: 国際経済法の基本的知識②(内国税その他の内国規制)
- 【4】: 国際経済法の基本的理解③(環境関連規制)
- 【5】: 国際経済法の基本的理解④(サービス貿易)
- 【6】: 国際経済法の基本的理解⑤(サービス貿易)
- 【7】: 国際経済法の基本的理解⑥(デジタル貿易)
- 【8】: ゲストスピーカー(予定)
- 【9】: 個別分野研究①
- 【10】: 個別分野研究②
- 【11】: 個別分野研究③

【12】:個別分野研究④

【13】:個別分野研究⑤

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回のテーマに関わる予習, 報告準備, その他。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 個別報告:50% 授業への参加(発言・コメント等):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

採用人数／Number of students:10～15 名程度／Approximately 10-15 students

配当年次／Eligible year:2～4 年次／2nd - 4th year

選考方法／Selection method:レポート「国際経済法上の関心事項について」(1,000 字)

演習論文／Seminar papers:実施しない／not applied

演習

Seminar

Competition Law and Policy in Digital Age

東條 吉純(TOJO YOSHIKUNI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX868
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	In person
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX4911
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The main objective of this course is to provide students with an opportunity to gain a basic understanding of competition policy oriented regulations in digital age, especially focusing on global big tech companies like Google, Amazon or Apple. By the end of the course, students are expected to understand typical business models and strategies of big techs, various competition related problems, and how governments try to tackle with them to protect effective competition, keeping in mind that over-regulation might restrain innovation.

授業の内容 / Course Contents

Coursework will be consisted of individual reading materials, presentation, and discussion at each session. Each student (or a group of students) will make a presentation about a topic on competition related problem in the digital age, followed by discussion in the classroom and/or to provide supplementary information regarding the topic of each session.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Basics of Competition law and policy (1)
- 【3】:Basics of Competition law and policy (2)
- 【4】:Basics of Competition law and policy (3)
- 【5】:Features of Digital Platforms and their strategic behaviours (1)
- 【6】:Features of Digital Platforms and their strategic behaviours (2)
- 【7】:Leveraging (Self-preferencing)
- 【8】:Leveraging (Tie-in)
- 【9】:Data aggregation and ecosystem(1)
- 【10】:Data aggregation and ecosystem(1)
- 【11】:EU Digital Market Act: fairness and contestability
- 【12】:EU Digital Market Act: fairness and contestability
- 【13】:Japan Smartphone Act
- 【14】:Japan Smartphone Act

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor will share reading materials with students via Canvas LMS. Students are expected to review these materials as needed.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Individual/Group presentation:30% preparation work (submission of comment):30% Attendance & Participation:40%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided in the classroom.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 72, IELTS 5.5, or TOEIC 700.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students are expected to bring note/tablet PC with a large monitor above 10 inches.

その他 / Others

<Selection Method>

Recruits: Up to 15 people

Dividend Year: 3rd and 4th year

Selection Method: Self-introduction (400-500 words)

Seminar Papers: Not implemented

情報処理入門

Information Processing Methods

情報リテラシー

佐藤 尚 (SATOU HISASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX901
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

PC を利用したレポート等の作成、情報発信、データの分析などに関する基礎的なスキルを習得する。また、情報システムの基本的な事項を理解する。

The objective of this course is to acquire the fundamental skills to use a PC to create reports and other documents, disseminate information, and analyze data. Students will also understand the fundamental aspects of information systems.

授業の内容 / Course Contents

Windows の操作から始め、Word によるレポート作成、Excel によるデータ分析の基本、PowerPoint によるプレゼンテーションなどについて実習形式で授業を進める。また、大規模言語モデル、情報倫理やセキュリティといった情報化社会に生活するものとしての基本的な知識についても解説する。

We will conduct practical classes on topics such as starting with Windows operations, report creation using Word, basics of data analysis using Excel, and making presentations with PowerPoint. Additionally, we will explain basic knowledge necessary for living in an information society, including large-scale language models, information ethics, and security.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・インターネットの仕組みとマナー
- 【2】: Windows の基本操作および大規模言語モデル
- 【3】: プレゼンテーションその 1: PowerPoint を利用したプレゼンテーションの基礎
- 【4】: プレゼンテーションその 2: PowerPoint を利用した少し高度なプレゼンテーション
- 【5】: プレゼンテーションその 3: PowerPoint を利用した少し高度なプレゼンテーション
- 【6】: レポートの作成その 1: Word を利用した文書作成の基本
- 【7】: レポートの作成その 2: Word が持っている便利な機能
- 【8】: データの分析その 1: Excel を利用した表作成
- 【9】: データの分析その 2: Excel を利用した基本的なデータ処理
- 【10】: データの分析その 3: Excel を利用したグラフ作成
- 【11】: データの分析その 4: データベースとしての Excel その 1
- 【12】: データの分析その 5: データベースとしての Excel その 2
- 【13】: Excel, Word 等の落ち葉拾い
- 【14】: プログラミング体験

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に準備学習用資料を配付するので、そこに記載された課題を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 毎回の授業時に指定された課題:25% 項目まとめ課題(3回):15% プログラミング関連課題:15%

テキスト / Textbooks

必要に応じて参考資料等を Canvas LMS を利用して配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

毎回の授業に関連資料等を配布する。

情報処理入門

Information Processing Methods
情報リテラシー

佐藤 尚 (SATOU HISASHI)

科目設置学部	法学部		
開講年度	2025	科目コード等	EX902
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	LPX2900
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

PC を利用したレポート等の作成、情報発信、データの分析などに関する基礎的なスキルを習得する。また、情報システムの基本的な事項を理解する。

The objective of this course is to acquire the fundamental skills to use a PC to create reports and other documents, disseminate information, and analyze data. Students will also understand the fundamental aspects of information systems.

授業の内容 / Course Contents

Windows の操作から始め、Word によるレポート作成、Excel によるデータ分析の基本、PowerPoint によるプレゼンテーションなどについて実習形式で授業を進める。また、大規模言語モデル、情報倫理やセキュリティといった情報化社会に生活するものとしての基本的な知識についても解説する。

We will conduct practical classes on topics such as starting with Windows operations, report creation using Word, basics of data analysis using Excel, and making presentations with PowerPoint. Additionally, we will explain basic knowledge necessary for living in an information society, including large-scale language models, information ethics, and security.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・インターネットの仕組みとマナー
- 【2】: Windows の基本操作および大規模言語モデル
- 【3】: プレゼンテーションその 1: PowerPoint を利用したプレゼンテーションの基礎
- 【4】: プレゼンテーションその 2: PowerPoint を利用した少し高度なプレゼンテーション
- 【5】: プレゼンテーションその 3: PowerPoint を利用した少し高度なプレゼンテーション
- 【6】: レポートの作成その 1: Word を利用した文書作成の基本
- 【7】: レポートの作成その 2: Word が持っている便利な機能
- 【8】: データの分析その 1: Excel を利用した表作成
- 【9】: データの分析その 2: Excel を利用した基本的なデータ処理
- 【10】: データの分析その 3: Excel を利用したグラフ作成
- 【11】: データの分析その 4: データベースとしての Excel その 1
- 【12】: データの分析その 5: データベースとしての Excel その 2
- 【13】: Excel, Word 等の落ち葉拾い
- 【14】: プログラミング体験

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に準備学習用資料を配付するので、そこに記載された課題を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 毎回の授業時に指定された課題:25% 項目まとめ課題(3回):15% プログラミング関連課題:15%

テキスト / Textbooks

必要に応じて参考資料等を Canvas LMS を利用して配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

毎回の授業に関連資料等を配布する。